

堺 市  
高齡者等実態調査報告書

令和2年3月

堺 市



# 目 次

<b>I. 調査の概要</b> .....	1
1. 調査の目的 .....	1
2. 調査方法 .....	1
3. 回収状況 .....	2
4. 報告書の留意点・見方 .....	2
<b>II. 調査結果の概要</b> .....	3
1. 一般高齢者・要支援認定者調査 .....	3
2. 在宅介護実態調査 .....	14
3. 介護事業者調査 .....	23
<b>III. 一般高齢者・要支援認定者調査 調査結果</b> .....	29
1. 回答者の属性 .....	29
2. 家族や生活状況について .....	32
3. 住まいについて .....	42
4. からだを動かすことについて .....	51
5. 食べることについて .....	65
6. 毎日の生活について .....	78
7. 地域での活動について .....	99
8. たすけあいについて .....	114
9. 健康について .....	136
10. 認知症にかかる相談窓口の把握について .....	158
11. 仕事について .....	165
12. 介護について .....	168
13. 住み慣れた地域で暮らし続けることについて .....	184
14. リスク判定 .....	190
<b>IV. 在宅介護実態調査 調査結果</b> .....	222
1. 調査対象者の属性 .....	222
2. 調査対象者について .....	223
3. 生活状況や健康について .....	232
4. ケアマネジャーについて .....	235
5. サービスの利用状況について .....	245
6. 住み慣れた地域で暮らし続けることについて .....	269
7. 主な介護者の方について .....	275

<b>V. 介護事業者調査 調査結果</b> .....	320
1. 法人や実施事業について .....	320
2. 災害時の対策について .....	348
3. 介護者支援について .....	358
4. 居宅介護支援事業所 .....	359
5. 施設サービス .....	366
<b>VI. 調査票</b> .....	368
1. 一般高齢者・要支援認定者調査 .....	368
2. 在宅介護実態調査 .....	387
3. 介護事業者調査 .....	403
<b>VII. 母集団に関する推定</b> .....	422
1. 母集団に関する推定について .....	422
2. 母集団の推定方法 .....	422
3. 一般高齢者・要支援認定者調査 母集団に関する推定値 .....	423

# I. 調査の概要

## 1. 調査の目的

本調査は、高齢者の生活状況や保健・福祉に関するニーズを把握し、今後の高齢者保健福祉行政のより一層の計画的かつ効果的な推進と、令和3～5年度を計画期間とする次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定の基礎資料とするため、実施するものです。

## 2. 調査方法

### (1) 一般高齢者・要支援認定者調査（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）

- ①調査地域：堺市全域
- ②調査対象：令和元年10月末日現在で下記のいずれかに該当する方9,400人
  - ・要介護認定を受けていない65歳以上の方
  - ・要支援認定（要支援1、2）を受けている65歳以上の方
- ③抽出方法：層化無作為抽出
- ④調査方法：郵送による調査票の配付・回収（お礼状兼督促状を1回送付）
- ⑤調査期間：令和元年12月6日～令和元年12月27日

### (2) 在宅介護実態調査

- ①調査地域：堺市全域
- ②調査対象：令和元年10月末日現在で下記のいずれかに該当する方2,000人
  - ・要支援認定（要支援1、2）を受けている在宅の65歳以上の方
  - ・要介護認定（要介護1～5）を受けている在宅の65歳以上の方
- ③抽出方法：無作為抽出
- ④調査方法：郵送による調査票の配付・回収（お礼状兼督促状を1回送付）
- ⑤調査期間：令和元年12月13日～令和2年1月6日

### (3) 介護事業者調査

- ①調査地域：堺市全域
- ②調査対象：令和元年11月1日現在で、堺市の指定を受けた介護保険事業所を市内に保有している全法人1,384件
- ③調査方法：郵送による調査票の配付・回収（お礼状兼督促状を1回送付）
- ④調査期間：令和2年1月24日～令和2年2月14日

### 3. 回収状況

図表 1-3-1 一般高齢者・要支援認定者調査 回収状況

区別	年齢区分	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
堺区	前期高齢者	684 通	—	433 通	63.3%
	後期高齢者	689 通	—	450 通	65.3%
中区	前期高齢者	673 通	—	419 通	62.3%
	後期高齢者	673 通	—	421 通	62.6%
東区	前期高齢者	657 通	—	422 通	64.2%
	後期高齢者	662 通	—	454 通	68.6%
西区	前期高齢者	677 通	—	434 通	64.1%
	後期高齢者	681 通	—	457 通	67.1%
南区	前期高齢者	700 通	—	458 通	65.4%
	後期高齢者	700 通	—	471 通	67.3%
北区	前期高齢者	680 通	—	433 通	63.7%
	後期高齢者	689 通	—	470 通	68.2%
美原区	前期高齢者	619 通	—	433 通	70.0%
	後期高齢者	616 通	—	426 通	69.2%
合計		9,400 通	6,391 通	6,181 通	65.8%

図表 1-3-2 在宅介護実態調査 回収状況

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
2,000 通	1,109 通	1,054 通	52.7%

図表 1-3-3 一般高齢者・要支援認定者調査 回収状況

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
1,384 通	600 通	582 通	42.1%

### 4. 報告書の留意点・見方

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方をしているため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・「IV. 在宅介護実態調査」において、平成28年度に実施した調査結果を記載していますが、今回の調査と対象者が異なるため、比較等については本文中で触れていません。

## Ⅱ. 調査結果の概要

### 1. 一般高齢者・要支援認定者調査

#### (1) 回答者の属性

##### ①性別

○性別については、「男性」が43.7%、「女性」が56.3%となっています（図表3-1-2）。

##### ②年齢

○年齢については、年齢については、「75～79歳」が27.4%で最も高く、次いで「70～74歳」が27.0%、「65～69歳」が22.0%と続いており、前期高齢者が49.0%、後期高齢者が50.9%となっています（図表3-1-3）。

##### ③居住地

○居住地については、「南区」が15.0%で最も高く、次いで「北区」が14.6%、「西区」が14.4%と続いています（図表3-1-4）。

##### ④認定状況

○認定状況については、「一般」が90.0%で最も高く、次いで「要支援1」が6.1%、「要支援2」が3.9%となっており、要支援認定者は10.0%となっています（図表3-1-6）。

#### (2) 家族や生活状況について

##### ①家族構成

○家族構成については、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が44.4%で最も高く、次いで「1人暮らし」が20.2%、「その他」が15.7%と続いています（図表3-2-1）。

○認定状況別でみると、要支援認定者では「1人暮らし」が38.6%となっています（図表3-2-2）。

○性別でみると、「1人暮らし」では、女性が25.2%で、男性（13.7%）よりも11.5ポイント高くなっています（図表3-2-3）。

○年齢別でみると、84歳以下では「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が最も高く、85歳以上では「1人暮らし」の割合が最も高くなっています（図表3-2-4）。

○区域別でみると、「1人暮らし」では、堺区が27.6%で最も高くなっています（図表3-2-5）。

##### ②普段の生活で介護・介助が必要か

○普段の生活で介護・介助が必要かについては、「介護・介助は必要ない」が82.1%で最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が8.9%、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が7.0%となっています（図表3-2-6）。

### ③かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいるか

○かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいるかについては、「かかりつけ医師」が83.8%で最も高く、次いで「かかりつけ歯科医師」が57.8%、「かかりつけ薬局（薬剤師）」が32.4%で、かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師がいずれもない人は8.9%となっています（図表3-2-11）。

### ④現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているか

○現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているかについては、「ふつう」が56.9%で最も高く、次いで「やや苦しい」が26.8%、「大変苦しい」が8.1%と続いており、苦しいと感じている人の割合は34.9%となっています（図表3-2-13）。

## （3）住まいについて

### ①現在の住まい

○現在の住まいについては、「持ち家（一戸建て）」が66.1%で最も高く、次いで「借家（マンション・アパートなど）」が15.3%、「持ち家（マンションなど）」が11.3%と続いています（図表3-3-1）。

○区域別でみると、『持ち家』（「持ち家（一戸建て）」と「持ち家（マンションなど）」の合計）では、美原区が89.8%で最も高く、『借家』（「借家（一戸建て）」と「借家（マンション・アパートなど）」の合計）では、北区が25.5%で最も高くなっています（図表3-3-5）。

### ②将来どのような住宅（施設）で暮らしたいか

○将来どのような住宅（施設）で暮らしたいかについては、「現在の住宅に住み続けたい」が73.2%で最も高く、次いで「軽費老人ホーム（ケアハウス）や養護老人ホームなど、低所得者向けの老人福祉施設に入所したい」が9.0%、「高齢者に配慮された有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に住みたい」が4.7%と続いています（図表3-3-6）。

### ③高齢者住宅に住み替えたり施設に入所した場合の希望する場所

○高齢者住宅に住み替えたり施設に入所した場合の希望する場所については、「自宅の近く」が50.1%で最も高く、次いで「場所は問わない」が15.3%、「各区内（堺区、中区など）」が9.9%と続いています（図表3-3-12）。

## （4）からだを動かすことについて

### ①運動器機能の低下

○運動器機能の低下している高齢者の割合は、全体で15.4%となっています。

性別・年齢別でみると、すべての年齢で女性の割合が男性より高く、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上（男性33.3%、女性62.3%）の割合が最も高くなっています（図表3-14-2）。



## ②転倒リスク

○転倒リスクのある高齢者の割合は、全体で 30.7%となっています。

性別・年齢別で見ると、男性では 89 歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、85～89 歳が 51.6%で最も高く、女性では年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90 歳以上が 49.3%で最も高くなっています（図表 3-14-6）。

## ③閉じこもり傾向

○閉じこもり傾向の高齢者の割合は、全体で 15.2%となっています。

性別・年齢別で見ると、79 歳以下では男性の割合が女性より高く、80 歳以上では女性の割合が男性よりも高くなっており、90 歳以上では、女性が 53.6%で、男性（30.8%）よりも 22.8 ポイント高く、最も差が大きい年齢となっています（図表 3-14-10）。

## ④昨年と比べて外出の回数が減っているか

○昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、『減っている』（「とても減っている」と「減っている」の合計）は 26.6%、『減っていない』（「あまり減っていない」と「減っていない」の合計）は 72.3%となっています（図表 3-4-25）。

○年齢別で見ると、『減っている』では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90 歳以上が 57.4%で最も高くなっています（図表 3-4-28）。

## （5）食べることについて

### ①BMI（身長・体重より算出）

○BMIについては、「普通体重（18.5 以上 25 未満）」が 67.4%で最も高く、次いで「肥満（25 以上）」が 21.3%、「低体重（やせ）（18.5 未満）」が 7.8%となっています（図表 3-5-1）。

### ②低栄養の傾向

○低栄養が疑われる高齢者の割合は、全体で 7.8%となっています。

性別・年齢別で見ると、男性・女性いずれも 70 歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90 歳以上（男性 23.1%、女性 18.8%）の割合が最も高く、89 歳以下で女性の割合が男性よりも高くなっています（図表 3-14-14）。

### ③咀嚼機能の低下

○咀嚼機能の低下が疑われる高齢者の割合は、全体で 33.5%となっています。

性別・年齢別で見ると、男性・女性いずれも年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90 歳以上（男性 64.1%、女性 56.5%）の割合が最も高くなっています（図表 3-14-18）。

#### ④歯の数と入れ歯の利用状況

○歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が39.6%で最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が30.7%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が15.5%と続いており、20本以上の自分の歯を有する者の割合は46.2%となっています（図表3-5-9）。

#### ⑤誰かと食事をともにする機会はあるか

○誰かと食事をともにする機会はあるかについては、「毎日ある」が54.9%で最も高く、次いで「月に何度かある」が16.3%、「年に何度かある」が10.9%と続いており、ほとんどない人は7.4%となっています（図表3-5-13）。

○家族構成別でみると、「1人暮らし」では、ほとんどない人が17.9%となっています（図表3-5-17）。

#### ⑥主食・主菜・副菜をそろえて毎日食べているか

○主食・主菜・副菜をそろえて毎日食べているかについては、「ほぼ毎日3食そろえている」が39.4%で最も高く、次いで「ほぼ毎日2食はそろえている」が35.1%、「ほぼ毎日1食はそろえている」が16.2%と続いており、ほぼ毎日2食以上食べている人の割合は74.5%となっています（図表3-5-18）。

#### ⑦口や顔の体操に取り組んでいるか

○口や顔の体操に取り組んでいるかについては、「ほとんど取り組んでいない」が69.8%で最も高く、次いで「ほぼ毎日1回は取り組んでいる」が13.0%、「週の半分ぐらいは取り組んでいる」が6.5%と続いており、取り組んでいる人の割合は27.1%となっています（図表3-5-23）。

### （6）毎日の生活について

#### ①認知機能の低下

○認知機能の低下がみられる高齢者の割合は、全体で44.1%となっています。

性別・年齢別でみると、男性では89歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、85～89歳が59.4%で最も高く、女性では年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が62.3%で最も高くなっています（図表3-14-22）。

#### ②IADL（手段的自立度）の低下

○IADLが低下している高齢者の割合は、全体で13.5%となっています。

性別・年齢別でみると、男性・女性いずれも年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上（男性35.9%、女性47.8%）の割合が最も高くなっています（図表3-14-26）。

### ③年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けるか

- 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けるかについては、「はい」が 89.5%、「いいえ」が 9.5%となっています（図表 3-6-25）。
- 年齢別でみると、「いいえ」では、年齢が上がるにつれて概ね割合が高くなっており、90 歳以上が 32.4%で最も高くなっています（図表 3-6-27）。

### ④ほかの人より物忘れが多いと思うか

- ほかの人より物忘れが多いと思うかについては、「はい」が 17.7%、「いいえ」が 76.9%となっています（図表 3-6-28）。
- 年齢別でみると、「はい」では、89 歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、85～89 歳が 26.0%で最も高くなっています（図表 3-6-30）。

### ⑤日常生活に関する情報をどこから得ているか

- 日常生活に関する情報をどこから得ているかについては、「テレビ」が 89.9%で最も高く、次いで「新聞（タウン紙を含む）」が 70.0%、「家族」が 49.9%と続いており、「インターネット・携帯電話」（39.0%）では、平成 28 年度調査（27.3%）よりも 11.7 ポイント高く、最も増加した項目となっています（図表 3-6-31）。

### ⑥今後免許を返納する気持ちはあるか

- 今後、免許を返納する気持ちはあるかについては、「将来的には自主返納するつもり」が 35.2%で最も高く、次いで「もともと運転免許を持っていない」が 34.2%、「既に自主返納した」が 14.0%と続いています（図表 3-6-33）。
- 性別でみると、男性では「将来的には自主返納するつもり」が 52.6%で最も高く、女性では「もともと運転免許を持っていない」が 52.6%で最も高くなっています（図表 3-6-34）。
- 年齢別でみると、「既に自主返納した」では、89 歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、85～89 歳が 22.6%で最も高くなっています（図表 3-6-35）。

### ⑦免許を返納しようと思わない理由

- 免許を返納しようと思わない理由については、「車などを運転する楽しみが失われるから」が 49.7%で最も高く、次いで「その他」が 28.7%、「公共交通機関（鉄道、バス）が使いにくい地域に住んでいるから」が 23.5%と続いています（図表 3-6-36）。
- 区域別でみると、「公共交通機関（鉄道、バス）が使いにくい地域に住んでいるから」では、美原区が 53.1%で最も高くなっています（図表 3-6-37）。

## (7) 地域での活動について

### ①地域での活動の参加頻度

○地域での活動について、参加している割合は、「趣味関係のグループ」が26.9%で最も高く、次いで「スポーツ関係のグループやクラブ」「町内会・自治会」がいずれも22.3%と続いており、「いきいきサロンや体操など介護予防のための通いの場」は8.8%となっています（図表3-7-1）。

### ②地域活動の参加状況

○地域活動の参加状況については、「何らかの地域活動に参加している」が61.9%、「参加していない」が24.7%となっています（図表3-7-10）。

○年齢別でみると、「何らかの地域活動に参加している」では、年齢が上がるにつれて割合が低くなっており、65～69歳が67.5%で最も高くなっています（図表3-7-12）。

### ③地域住民のグループ活動による地域づくりに、参加者として参加したいか

○地域住民のグループ活動による地域づくりに、参加者として参加したいかについては、「参加してもよい」が49.6%で最も高く、次いで「参加したくない」が33.0%、「是非参加したい」が6.3%と続いており、参加意欲のある人は61.2%となっています（図表3-7-14）。

### ④地域住民のグループ活動による地域づくりに、企画・運営として参加したいか

○地域住民のグループ活動による地域づくりに、企画・運営として参加したいかについては、「参加したくない」が56.0%で最も高く、次いで「参加してもよい」が31.1%、「既に参加している」が3.5%と続いており、参加意欲のある人は36.7%となっています（図表3-7-19）。

## (8) たすけあいについて

### ①心配事や愚痴を聞いてくれる人

○心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が55.3%で最も高く、次いで「友人」が46.7%、「別居の子ども」が38.7%と続いており、「そのような人はいない」は4.0%となっています（図表3-8-1）。

○性別でみると、男性では「配偶者」が72.2%で最も高く、女性では「友人」が56.4%で最も高くなっています（図表3-8-2）。

### ②心配事や愚痴を聞いてあげる人

○心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が52.9%で最も高く、次いで「友人」が46.8%、「別居の子ども」が34.4%と続いており、「そのような人はいない」は5.6%となっています（図表3-8-3）。

○性別でみると、男性では「配偶者」が70.8%で最も高く、女性では「友人」が56.3%で最も高くなっています（図表3-8-4）。

### ③病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人

- 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が60.0%で最も高く、次いで「別居の子ども」が35.3%、「同居の子ども」が23.4%と続いており、「そのような人はいない」は6.6%となっています（図表3-8-5）。
- 性別でみると、「配偶者」「そのような人はいない」以外の項目で女性の割合が男性よりも高くなっています（図表3-8-6）。

### ④看病や世話をしてあげる人

- 看病や世話をしてあげる人については、「配偶者」が62.2%で最も高く、次いで「別居の子ども」が28.5%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が22.8%と続いており、「そのような人はいない」は10.5%となっています（図表3-8-7）。
- 性別でみると、「配偶者」「そのような人はいない」以外の項目で女性の割合が男性よりも高くなっています（図表3-8-8）。

### ⑤よく会う友人・知人はどんな関係の人か

- よく会う友人・知人はどんな関係の人かについては、「近所・同じ地域の人」が49.2%で最も高く、次いで「趣味・関心が同じ友人」が36.2%、「仕事での同僚・元同僚」が32.0%と続いており、「いない」は9.8%となっています（図表3-8-9）。
- 性別でみると、男性では「仕事での同僚・元同僚」が40.5%で最も高く、女性では「近所・同じ地域の人」が57.6%で最も高くなっており、年齢別でみると、「いない」では、90歳以上が29.6%で最も高くなっています（図表3-8-10）。

### ⑥近所の人とのつきあいの程度

- 近所の人とのつきあいの程度については、「あいさつをする程度」が44.2%で最も高く、次いで「あいさつ以外にも多少のつきあいがある（相手の名前や家族構成を知っていたり、物の貸し借りや趣味を共有しているなど）」が30.6%、「親しくつきあっている」が19.1%と続いており、「つきあいはほとんどない」は4.7%となっています（図表3-8-11）。

### ⑦孤立死を身近な問題とを感じるか

- 孤立死を身近な問題と感じるかについては、『感じる』（「とても感じる」と「まあ感じる」の合計）は42.3%、『感じない』（「あまり感じない」と「まったく感じない」の合計）は45.6%となっています（図表3-8-15）。
- 年齢別でみると、『感じる』では、89歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、85～89歳が48.6%で最も高くなっています（図表3-8-17）。
- 家族構成別でみると、『感じる』では、「1人暮らし」が68.6%で最も高くなっています（図表3-8-18）。

## ⑧災害発生時に近所の人と声をかけ合って避難できるか

○災害発生時に近所の人と声をかけ合って避難できるかについては、「できる」が74.1%で最も高く、次いで「わからない」が12.2%、「普段から近所づきあいがあまりないため、できない」が9.7%と続いており、『できない』（「普段から近所づきあいがあまりないため、できない」と「近所の人を全く知らないため、できない」の合計）は11.5%となっています（図表3-8-19）。

○現在の住まい別でみると、『できない』では、「借家（マンション・アパートなど）」が21.2%で最も高くなっています（図表3-8-23）。

## ⑨避難行動要支援者の一覧表を作成し地域と行政とで共有する地域における自助・共助の仕組みについて知っているか

○避難行動要支援者の一覧表を作成し地域と行政とで共有する地域における自助・共助の仕組みについて知っているかについては、「知っている」が31.1%、「知らない」が62.0%となっています（図表3-8-24）。

## ⑩災害発生時に近くの避難行動要支援者の避難を支援することができるか

○災害発生時に近くの避難行動要支援者の避難を支援することができるかについては、『できる』（「安否確認や声かけならできる」と「近所の人などと協力して避難所に行くまでの手助けができる」の合計）は60.1%、『できない』（「自分や家族の避難で精いっぱいのため、できない」と「近所づきあいがいないため、できない」の合計）は24.3%となっています（図表3-8-28）。

# （9）健康について

## ①現在の健康状態はどうか

○現在の健康状態はどうかについては、「まあよい」が67.8%で最も高く、次いで「あまりよくない」が18.2%、「とてもよい」が9.4%と続いており、『よい』（「とてもよい」と「まあよい」の合計）は77.2%、『よくない』（「あまりよくない」と「よくない」の合計）は21.3%となっています（図表3-9-1）。

○年齢別でみると、『よくない』では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が35.2%で最も高くなっています（図表3-9-4）。

## ②介護予防のための健康維持・増進の意識について

○介護予防のための健康維持・増進の意識については、「意識している」が65.3%で最も高く、次いで「強く意識している」が19.8%、「あまり意識していない」が10.8%と続いており、『意識している』（「強く意識している」と「意識している」の合計）は85.1%、『意識していない』（「あまり意識していない」と「ほとんど意識していない」の合計）は13.0%となっています（図表3-9-5）。

### ③現在どの程度幸せか

○現在どの程度幸せかについては、「8点」が23.2%で最も高く、次いで「5点」が17.4%、「7点」が15.7%と続いており、平均点は7.16点となっています（図表3-9-8）。

### ④うつ傾向

○うつ傾向の高齢者の割合は、全体で38.1%となっています。

性別・年齢別でみると、すべての年齢で女性の割合が男性より高く、男性では70歳以上で、女性では65歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上（男性48.7%、女性58.0%）の割合が最も高くなっています（図表3-14-30）。

### ⑤うつの可能性

○うつの可能性がある高齢者の割合は、全体で28.2%となっています。

性別・年齢別でみると、男性では70歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が46.2%で最も高く、女性では89歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、85～89歳が53.5%で最も高くなっています（図表3-14-34）。

### ⑥タバコは吸っているか

○タバコは吸っているかについては、「もともと吸っていない」が58.0%で最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が30.2%、「ほぼ毎日吸っている」が8.9%と続いており、『吸っている』（「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」の合計）は10.4%となっています（図表3-9-35）。

○性別でみると、『吸っている』では、男性が17.2%、女性が5.3%となっています（図表3-9-37）。

### ⑦現在治療中または後遺症のある病気はあるか

○現在治療中または後遺症のある病気はあるかについては、「高血圧」が41.9%で最も高く、次いで「目の病気」が18.8%、「ない」が15.9%と続いています（図表3-9-39）。

## (10) 認知症にかかる相談窓口の把握について

### ①認知症の症状があるか／家族に認知症の症状がある人がいるか

○認知症の症状があるか／家族に認知症の症状がある人がいるかについては、「はい」が8.1%、「いいえ」が87.4%となっています（図表3-10-1）。

### ②あなたや家族が認知症になったとしたら不安に思うことはあるか

○あなたや家族が認知症になったとしたら不安に思うことはあるかについては、「精神的に疲れる」が45.9%で最も高く、次いで「火の不始末や徘徊（はいかい）などの行動が心配」が44.8%、「どのような介護サービスを受けられるのかわからない」が43.5%と続いています（図表3-10-4）。

○年齢別でみると、74歳以下では「精神的に疲れる」の割合が最も高く、75～79歳では「火の不始末や徘徊（はいかい）などの行動が心配」の割合が最も高く、80歳以上では「どのような介護サービスを受けられるのかわからない」の割合が最も高くなっています（図表 3-10-5）。

### ③認知症に関する相談窓口を知っているか

○認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「はい」が 22.7%、「いいえ」が 73.5% となっています（図表 3-10-6）。

## (11) 仕事について

### ①これから働き始めようとする（働き続ける）場合仕事に一番求めるものは何か

○これから働き始めようとする（働き続ける）場合仕事に一番求めるものは何かについては、「働くつもりはない」が 43.0%で最も高く、次いで「収入を得ること」が 16.2%、「健康の維持」が 14.3%と続いています（図表 3-11-1）。

○性別でみると、「働くつもりはない」では、女性が 47.9%で、男性（36.6%）よりも 11.3 ポイント高くなっています（図表 3-11-4）。

## (12) 介護について

### ①介護が必要になった場合どのような介護を受けたいか

○介護が必要になった場合どのような介護を受けたいかについては、「介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護を受けたい」が 36.9%で最も高く、次いで「なるべく家族のみで、自宅で介護を受けたい」「わからない」がいずれも 16.8%と続いており、『自宅で介護を受けたい』（「なるべく家族のみで、自宅で介護を受けたい」と「介護保険サービスや保健福祉サービスを使いながら自宅で介護を受けたい」の合計）は 53.7%となっています（図表 3-12-1）。

○性別でみると、『自宅で介護を受けたい』では、男性が 58.1%で、女性（50.3%）よりも 7.8 ポイント高くなっています（図表 3-12-3）。

### ②家族に介護が必要になったらどのように介護したいか

○家族に介護が必要になったらどのように介護したいかについては、「介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護したい」が 37.1%で最も高く、次いで「わからない」が 13.2%、「なるべく家族のみで、自宅で介護したい」が 12.7%と続いており、『自宅で介護したい』（「なるべく家族のみで、自宅で介護したい」と「介護保険サービスや保健福祉サービスを使いながら自宅で介護したい」の合計）は 49.8%となっています（図表 3-12-6）。

○性別でみると、『自宅で介護したい』では、男性が 55.6%で、女性（45.2%）よりも 10.4 ポイント高くなっています（図表 3-12-9）。



### ③人生の最期をどこで迎えたいか

○人生の最期をどこで迎えたいかについては、「自宅」が 43.7%で最も高く、次いで「わからない」が 24.7%、「病院」が 18.5%と続いています（図表 3-12-12）。

○性別でみると、「自宅」では、男性が 51.4%で、女性（37.8%）よりも 13.6 ポイント高くなっています（図表 3-12-14）。

### ④人生の最終段階における医療・療養について話し合っているか

○人生の最終段階における医療・療養について話し合っているかについては、『話し合った』（「詳しく話し合っている」「一応話し合っている」「話し合ったことはある」の合計）は 43.8%となっています（図表 3-12-17）。

### ⑤堺市の今後の介護保険料について近い考えはどれか

○堺市の今後の介護保険料について近い考えはどれかについては、「介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない」が 35.4%で最も高く、次いで「わからない」が 25.2%、「現状以上に介護保険料が上昇するのは避けるべきであり、そのためには介護保険サービスが必要な人であっても、ある程度介護保険サービスの利用が制限されても仕方がない」が 20.7%と続いています（図表 3-12-20）。

### ⑥介護する人の介護疲れやストレスケアのためには何が必要か

○介護する人の介護疲れやストレスケアのためには何が必要かについては、「周りの人の理解や協力」が 53.8%で最も高く、次いで「ショートステイなどの介護保険サービスの活用」が 50.9%、「介護生活に必要な情報の提供」が 32.9%と続いています。

平成 28 年度調査と比較すると、「介護生活に必要な情報の提供」（32.9%）では、平成 28 年度調査（25.7%）よりも 7.2 ポイント高く、最も増加した項目となっています（図表 3-12-24）。

## (13) 住み慣れた地域で暮らし続けることについて

### ①住み慣れた地域で暮らし続けるためにどのようなことが必要か

○住み慣れた地域で暮らし続けるためにどのようなことが必要かについては、「気軽に相談できるかかりつけ医を持つこと」が 65.4%で最も高く、次いで「入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること」が 50.0%、「普段介護している人が介護できない時などに利用できる介護サービス」が 49.0%と続いています。

平成 28 年度調査と比較すると、「日頃から健康づくりや生活習慣病予防に取り組むこと」（40.9%）では、平成 28 年度調査（34.3%）より 6.6 ポイント高く、最も増加した項目となっています（図表 3-13-1）。

## ②地域包括支援センターの役割を知っているか

○地域包括支援センターの役割を知っているかについては、「名前は聞いたことがあるが、役割までは知らない」が36.3%で最も高く、次いで「地域包括支援センターの存在を知らない」が34.1%、「知っている」が22.4%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「知っている」(22.4%)では、平成28年度調査(16.5%)よりも5.9ポイント高くなっています(図表3-13-3)。

## 2. 在宅介護実態調査

### (1) 調査対象者の属性

#### ①性別

○性別については、「男性」が32.5%、「女性」が67.5%となっています(図表4-1-1)。

#### ②年齢

○年齢については、「80～84歳」が25.7%で最も高く、次いで「85～89歳」が24.1%、「75～79歳」が19.3%と続いており、前期高齢者が15.5%、後期高齢者が84.6%となっています(図表4-1-2)。

#### ③居住地

○居住地については、「南区」が19.5%で最も高く、次いで「堺区」が18.7%、「西区」が18.2%と続いています(図表4-1-3)。

#### ④認定状況

○認定状況については、「要支援1」が28.1%で最も高く、次いで「要支援2」が18.9%、「要介護1」が16.3%と続いています(図表4-1-4)。

### (2) 調査対象者について

#### ①世帯類型

○世帯類型については、「夫婦のみ世帯(配偶者65歳以上)」が33.4%で最も高く、次いで「単身世帯」が32.9%、「その他」が29.3%と続いています(図表4-2-2)。

#### ②日中に一人になることがあるか

○単身世帯以外の方が日中に一人になることがあるかについては、「ほとんどない」が50.0%で最も高く、次いで「週に2～3日」が13.9%、「ほとんど毎日」が12.9%と続いています(図表4-2-4)。

### ③現在の住まい

- 現在の住まいについては、「持ち家（一戸建て）」が53.4%で最も高く、次いで「借家（マンション・アパートなど）」が18.3%、「持ち家（マンションなど）」が9.9%と続いています（図表4-2-6）。
- 区域別でみると、「持ち家（一戸建て）」では、美原区が77.8%で最も高く、「借家（マンション・アパートなど）」では、北区が26.0%で最も高くなっています（図表4-2-8）。

### ④初めての認定申請の際、誰から申請を勧められたか

- 初めての認定申請の際、誰から申請を勧められたかについては、「家族や親族」が33.5%で最も高く、次いで「医療機関」が20.5%、「介護サービス事業者」が11.9%と続いています（図表4-2-9）。

### ⑤初めて要介護認定が必要になった主な原因

- 初めて要介護認定が必要になった主な原因について、性別でみると、男性では「脳卒中(脳出血・脳こうそく等)」が19.8%で最も高く、女性では「骨折・転倒」が15.8%で最も高くなっています（図表4-2-10）。

### ⑥現在抱えている疾病

- 現在抱えている疾病について、性別でみると、男性では「脳卒中(脳出血・脳こうそく等)」「泌尿器の病気(膀胱炎、前立腺肥大症等)」がいずれも23.9%で最も高く、女性では「関節の病気(リウマチ、変形性膝関節症等)」が26.0%で最も高くなっています（図表4-2-11）。

## (3) 生活状況や健康について

### ①普段どのような食事をとっているか

- 普段どのような食事をとっているかについては、「自宅で本人または家族が調理した食事」が70.2%で最も高く、次いで「店で売っている弁当、調理済食品」が22.7%と続いています（図表4-3-1）。

### ②かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいるか

- かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいるかについては、「かかりつけ医師」が95.1%で最も高く、次いで「かかりつけ歯科医師」が38.6%、「かかりつけ薬局(薬剤師)」が36.1%と続いており、かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師がいずれもない人は2.4%となっています（図表4-3-3）。

#### (4) ケアマネジャーについて

##### ①担当のケアマネジャーの事業所を知ったきっかけ

○担当のケアマネジャーの事業所を知ったきっかけについては、「紹介された」が 64.5%で最も高く、次いで「自分または家族がさがして見つけた」が 13.9%、「以前から知っていた」が 11.2%と続いています（図表 4-4-1）。

##### ②担当のケアマネジャーをだれに紹介されたか

○担当のケアマネジャーをだれに紹介されたかについては、「地域包括支援センター」が 35.7%で最も高く、次いで「介護サービス事業者」が 21.8%、「医療機関」が 19.7%と続いています（図表 4-4-3）。

##### ③担当のケアマネジャーの事業所を選んだ理由

○担当のケアマネジャーの事業所を選んだ理由については、「紹介されたから」が 43.2%で最も高く、次いで「地元（近所）の事業所だから」が 22.1%、「受けたい介護サービスを提供している事業所だから」が 12.1%と続いています（図表 4-4-5）。

##### ④担当のケアマネジャーの満足度

○担当のケアマネジャーの満足度について、『満足している』（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）では、「態度やマナー（時間を守るなど）」が 78.0%で最も高く、次いで「介護や医療などの幅広い知識があり、ケアプラン作成のときに、専門的なアドバイスをしてくれるか」が 71.2%、「ケアプランの説明のわかりやすさ」が 70.2%と続いています（図表 4-4-7）。

#### (5) サービスの利用状況について

##### ①介護保険サービスの利用状況

○介護保険サービスの利用状況については、「利用した」が 54.2%、「利用していない」が 39.0%となっています（図表 4-5-1）。

○認定状況別でみると、「利用した」では、要介護 4 以下で要介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護 4 が 71.0%で最も高くなっています（図表 4-5-2）。

○世帯類型別でみると、「利用した」では、夫婦のみ世帯（配偶者 64 歳以下）が 76.9%で最も高く、「利用していない」では、夫婦のみ世帯（配偶者 65 歳以上）が 46.3%で最も高くなっています（図表 4-5-3）。

##### ②介護保険サービスを利用していない理由

○介護保険サービスを利用していない理由については、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 44.8%で最も高く、次いで「その他」が 15.6%、「本人にサービス利用の希望がない」が 14.4%と続いています（図表 4-5-4）。

○世帯類型別でみると、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」では、単身世帯が 47.7%で最も高くなっています（図表 4-5-5）。

### ③介護保険サービスの認知度と利用意向

- 小規模多機能型居宅介護の認知度については、「知っている」が53.9%、「知らない」が24.0%で、利用意向については、「利用したい」が27.9%、「利用したくない」が31.8%となっています（図表4-5-6）。
- 看護小規模多機能型居宅介護（複合型サービス）の認知度については、「知っている」が45.4%、「知らない」が29.7%で、利用意向については、「利用したい」が25.5%、「利用したくない」が32.1%となっています（図表4-5-8）。
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の認知度については、「知っている」が38.2%、「知らない」が36.5%で、利用意向については、「利用したい」が26.5%、「利用したくない」が30.6%となっています（図表4-5-10）。

### ④現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス

- 現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービスについては、「利用していない」が40.9%で最も高く、次いで「掃除・洗濯」が18.3%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が10.1%と続いています（図表4-5-12）。
- 世帯類型別でみると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「宿泊サービス（お泊りデイサービス）」「その他」「利用していない」以外のすべての項目で単身世帯の割合が最も高くなっています（図表4-5-14）。

### ⑤今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

- 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が28.2%で最も高く、次いで「掃除・洗濯」が22.6%、「外出同行（通院、買い物など）」が21.6%と続いています（図表4-5-15）。
- 世帯類型別でみると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「宿泊サービス（お泊りデイサービス）」「その他」「特になし」以外のすべての項目で単身世帯の割合が最も高くなっています（図表4-5-17）。

### ⑥訪問診療の利用状況

- 訪問診療の利用状況については、「利用している」が18.0%、「利用していない」が75.3%となっています（図表4-5-18）。
- 認定状況別でみると、「利用している」では、介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護5が44.4%で最も高くなっています（図表4-5-19）。

### ⑦堺市の今後の介護保険料について近い考えはどれか

- 堺市の今後の介護保険料について、近い考えはどれかについては、「介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない」が29.6%で最も高く、次いで「わからない」が28.8%、「現状以上に介護保険料が上昇するのは避けるべきであり、そのためには介護保険サービスが必要な人であっても、ある程度、介護保険サービスの利用が制限されても仕方がない」が17.2%と続いています（図表4-5-21）。

## ⑧今後、どのような介護を望んでいるか

○今後、どのような介護を望んでいるかについては、「介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護を受けたい」が41.2%で最も高く、次いで「なるべく家族のみで、自宅で介護を受けたい」が17.2%、「わからない」が13.5%と続いています（図表4-5-23）。

## ⑨施設等への入所・入居の検討状況

○施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が70.7%で最も高く、次いで「入所・入居を検討している」が11.8%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が9.4%となっています（図表4-5-26）。

## ⑩人生の最期をどこで迎えたいか

○人生の最期をどこで迎えたいかについては、「自宅」が44.1%で最も高く、次いで「わからない」が28.3%、「病院」が17.2%と続いています（図表4-5-28）。

## ⑪人生の最終段階における医療・療養について、自身の希望を家族等と話し合っているか

○人生の最終段階における医療・療養について、自身の希望を家族等と話し合っているかについては、「話し合ったことはない」が38.3%で最も高く、次いで「一応話し合っている」が28.3%、「話し合ったことはある」が22.5%と続いており、『話し合った』（「詳しく話し合っている」「一応話し合っている」「話し合ったことはある」の合計）は55.1%となっています（図表4-5-31）。

## （6）住み慣れた地域で暮らし続けることについて

### ①住み慣れた地域で暮らし続けるために、どのようなことが必要か

○住み慣れた地域で暮らし続けるために、どのようなことが必要かについては、「気軽に相談できるかかりつけ医を持つこと」が69.3%で最も高く、次いで「入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること」が54.6%、「普段介護している人が介護できない時などに利用できる介護サービス」が47.0%と続いています（図表4-6-1）。

### ②災害発生時に、誰かの助けを借りながら避難できるよう、ふだんから話し合っているか

○災害発生時に、誰かの助けを借りながら避難できるよう、ふだんから話し合っているかについては、「話し合ったことはない」が40.9%で最も高く、次いで「一応話し合っている」が26.3%、「関係する話をしたことはある」が24.6%と続いており、『話し合った』（「詳しく話し合っている」「一応話し合っている」「関係する話をしたことはある」の合計）は53.7%となっています（図表4-6-3）。

### ③家族や親族からの介護は週にどのくらいあるか

- 家族や親族からの介護は週にどのくらいあるかについては、「ない」が 32.9%で最も高く、次いで「ほぼ毎日ある」が 32.3%、「週に1～2日ある」が 10.9%と続いています（図表 4-6-6）。
- 認定状況別でみると、「ない」では、要支援1が 48.6%で最も高く、「ほぼ毎日ある」では、要介護4が 60.9%で最も高くなっています（図表 4-6-7）。
- 世帯類型別でみると、「ない」では、単身世帯が 44.7%で最も高く、「ほぼ毎日ある」では、その他が 55.7%で最も高くなっています（図表 4-6-8）。

## （7）主な介護者の方について

### ①家族や親族で、本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた人はいるか

- 家族や親族で、本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた人はいるかについては、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 62.6%で最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が 8.5%と続いています（図表 4-7-1）。
- 認定状況別でみると、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」では、要支援2以上で介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護5が 18.5%で最も高くなっています（図表 4-7-2）。

### ②主な介護者は誰か

- 主な介護者は誰かについては、「子」が 46.5%で最も高く、次いで「配偶者」が 35.4%、「子の配偶者」が 8.1%と続いています（図表 4-7-3）。
- 年齢別でみると、「配偶者」では、介護度の重度化に伴い割合が低くなっており、65～69歳が 77.3%で最も高く、「子」では、介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、90歳以上が 63.1%で最も高くなっています（図表 4-7-4）。

### ③主な介護者の性別

- 主な介護者の性別については、「男性」が 32.2%、「女性」が 65.4%となっています（図表 4-7-5）。

### ④主な介護者の年齢

- 主な介護者の年齢について、年齢別でみると、65～69歳、90歳以上では「60代」の割合が最も高く、70歳から79歳では「70代」の割合が最も高く、80歳から89歳では「50代」の割合が最も高くなっています（図表 4-7-7）。

### ⑤要介護者との同居状況

- 要介護者との同居状況については、「同居している」が 67.3%で最も高く、次いで「別居しており、行き来に15分以上かかる」が 16.4%、「別居しているが、15分以内で行き来できる範囲である」が 13.8%となっています（図表 4-7-8）。

## ⑥現在行っている介護

- 現在行っている介護について、認定状況別でみると、「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の介助（食べる時）」「入浴・洗身」「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」「衣服の着脱」「屋内の移乗・移動」では、要介護1以上で介護度の重度化に伴い概ね割合が高くなっており、要介護5の割合が最も高くなっています（図表4-7-11）。
- 就労継続見込み別でみると、「日中の排泄」「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」「その他」で、就労を続けていくのが難しいという考えが強くなるにつれて割合が高くなっています（図表4-7-12）。

## ⑦介護の日数・1日あたりの介護の時間

- 介護の日数について、認定状況別でみると、「ほぼ毎日」では、要支援2から要介護4で介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護4が86.3%で最も高くなっています（図表4-7-14）。
- 1日あたりの介護の時間について、認定状況別でみると、「ほぼ1日中」では、要支援2以上で介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護5が55.6%で最も高くなっています（図表4-7-18）。

## ⑧介護期間

- 介護期間については、「3年～5年未満」が22.6%で最も高く、次いで「5年～10年未満」が22.3%、「1年～2年未満」が13.0%と続いています（図表4-7-21）。
- 就労状況別でみると、『5年以上』では、「働いていない」が42.8%で最も高くなっています（図表4-7-23）。

## ⑨主な介護者の育児状況

- 主な介護者の育児状況については、「育児をしている」が7.5%、「育児はしていない」が77.1%となっています（図表4-7-25）。

## ⑩主な介護者の勤務形態

- 主な介護者の勤務形態については、「働いていない」が50.8%で最も高く、次いで「パートタイムで働いている」が20.3%、「フルタイムで働いている」が17.3%と続いています（図表4-7-31）。

## ⑪介護をするにあたって働き方の調整等をしているか

- 介護をするにあたって働き方の調整等をしているかについては、「特に行っていない」が38.9%で最も高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が29.2%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が14.2%と続いています（図表4-7-34）。



○認定状況別でみると、要支援1から要介護2では「特に行っていない」の割合が最も高く、要介護3、要介護4では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が最も高く、要介護5では「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」の割合が最も高くなっています（図表4-7-35）。

#### ⑫勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うか

○勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うかについては、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が26.1%で最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が23.9%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が23.5%と続いています（図表4-7-36）。

○就労状況別でみると、「フルタイムで働いている」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が31.7%で最も高く、「パートタイムで働いている」では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」の割合が26.2%で最も高くなっています（図表4-7-38）。

#### ⑬今後も働きながら介護を続けていけそうか

○今後も働きながら介護を続けていけそうかについては、「問題はあるが、何とか続けていける」が52.2%で最も高く、次いで「問題なく、続けていける」が23.9%、「続けていくのは、やや難しい」が8.4%と続いており、『続けていける』（「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」の合計）は76.1%、『難しい』（「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」の合計）は12.8%となっています（図表4-7-39）。

#### ⑭介護に対して負担に感じることは何か

○介護に対して負担に感じることは何かについては、「いつまで介護が続くかわからない」が58.8%で最も高く、次いで「体力的な負担」が49.5%、「自由な時間が減る」が39.0%と続いています（図表4-7-42）。

○就労状況別でみると、「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」「働いていない」いずれも「いつまで介護が続くかわからない」の割合が最も高く、「フルタイムで働いている」では次いで「仕事と両立することの負担」の割合が高く、「パートタイムで働いている」では次いで「自由な時間が減る」の割合が高く、「働いていない」では次いで「体力的な負担」の割合が高くなっています（図表4-7-45）。

#### ⑮現在の生活を継続するにあたり介護者が不安に感じる介護

○現在の生活を継続するにあたり介護者が不安に感じる介護について、認定状況別でみると、要支援1、要支援2では「外出の付き添い、送迎等」の割合が最も高く、要介護1から要介護3では「認知症状への対応」の割合が最も高く、要介護4では「日中の排泄」「認知症状への対応」が同率で最も高く、要介護5では「夜間の排泄」の割合が最も高くなっています（図表4-7-47）。

○就労状況別でみると、「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」「働いていない」いずれも「認知症状への対応」の割合が最も高くなっています（図表4-7-48）。

#### ⑩介護に困ったとき誰に相談しているか

- 介護に困ったとき誰に相談しているかについては、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」が 65.6%で最も高く、次いで「家族・親類」が 57.8%、「かかりつけ医・かかりつけ歯科医」が 27.9%と続いています（図表 4-7-49）。
- 就労状況別でみると、「フルタイムで働いている」では「家族・親類」の割合が最も高く、「パートタイムで働いている」「働いていない」では「ケアマネジャー（介護支援専門員）」の割合がいずれも最も高くなっています（図表 4-7-51）。

#### ⑪今後どのように介護したいか

- 今後どのように介護したいかについては、「介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護したい」が 48.0%で最も高く、次いで「なるべく家族のみで、自宅で介護したい」が 13.0%、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などに入所させたい」が 9.1%と続いています（図表 4-7-52）。

#### ⑫地域包括支援センターの役割を知っているか

- 地域包括支援センターの役割を知っているかについては、「知っている」が 42.2%で最も高く、次いで「名前は聞いたことがあるが、役割までは知らない」が 37.0%、「地域包括支援センターの存在を知らない」が 12.0%となっています（図表 4-7-56）。

#### ⑬介護する人の介護疲れやストレスケアのためには、何が必要か

- 介護する人の介護疲れやストレスケアのためには、何が必要かについて、認定状況別でみると、要支援 1、要支援 2、要介護 2 では「周りの人の理解や協力」の割合が最も高く、要介護 1、要介護 3 以上では「ショートステイなどの介護保険サービスの活用」の割合が最も高くなっています（図表 4-7-60）。
- 就労継続見込み別でみると、「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」ではいずれも「周りの人の理解や協力」の割合が最も高く、「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」ではいずれも「ショートステイなどの介護保険サービスの活用」の割合が最も高くなっています（図表 4-7-61）。

### 3. 介護事業者調査

#### (1) 法人や実施事業について

##### ①法人の種類

○法人の種類については、「営利法人」が 69.9%で最も高く、次いで「医療法人」が 15.6%、「社会福祉法人」が 5.0%と続いています（図表 5-1-1）。

##### ②現在堺市内で運営している事業所

○現在堺市内で運営している事業所については、「訪問介護」が 232 法人で最も多く、次いで「居宅介護支援」が 203 法人、「訪問看護」が 67 法人と続いています（図表 5-1-2）。

##### ③過去に堺市内で運営していた事業所

○過去に堺市内で運営していた事業所については、「訪問介護」が 43 法人で最も多く、次いで「居宅介護支援」が 38 法人、「訪問看護」「通所介護」「福祉用具貸与」がいずれも 10 法人と続いています（図表 5-1-3）。

##### ④今後堺市で事業運営を行いたいサービス

○今後堺市で事業運営を行いたいサービスについては、「訪問介護」が 16 法人で最も多く、次いで「居宅介護支援」が 10 法人、「訪問看護」が 6 法人と続いています（図表 5-1-5）。

##### ⑤現在は事業運営しているが、今後廃止を予定しているサービス

○現在は事業運営しているが、今後廃止を予定しているサービスについては、「訪問介護」が 12 法人で最も多く、次いで「居宅介護支援」が 9 法人、「地域密着型通所介護」が 4 法人と続いています（図表 5-1-7）。

##### ⑥職員状況

○前年度採用者数（正規職員／非正規職員）については、「正規職員」が 44.5%、「非正規職員」が 55.5%となっています（図表 5-1-8）。

○前年度退職者数（正規職員／非正規職員）については、「正規職員」が 41.8%、「非正規職員」が 58.2%となっています（図表 5-1-9）。

○勤続年数別職員数（正規職員）については、「1年以上5年未満」が 43.0%で最も高く、次いで「5年以上」が 40.3%、「1年未満」が 16.7%となっています（図表 5-1-10）。

○勤続年数別職員数（非正規職員）については、「1年以上5年未満」が 45.0%で最も高く、次いで「5年以上」が 35.7%、「1年未満」が 19.3%となっています（図表 5-1-11）。

○年齢別職員数（正規職員）については、「40歳～49歳」が 29.9%で最も高く、次いで「50歳～59歳」が 23.6%、「30歳～39歳」が 21.5%と続いています（図表 5-1-12）。

○年齢別職員数（非正規職員）については、「60歳以上」が 31.3%で最も高く、次いで「50歳～59歳」が 26.5%、「40歳～49歳」が 25.7%と続いています。

平成 28 年度調査と比較すると、『50歳以上』（57.8%）では、平成 28 年度調査（51.6%）より 6.2 ポイント高くなっています（図表 5-1-13）。

- 週勤務時間別職員数（非正規職員）については、「32時間以上」が23.3%で最も高く、次いで「16～24時間未満」が22.8%、「8～16時間未満」が22.2%と続いています（図表5-1-14）。
- 資格別職員数（正規職員）については、「介護福祉士」が3,629人で最も多く、次いで「ヘルパー2級」が1,640人、「介護支援専門員」が1,004人と続いています（図表5-1-15）。
- 資格別職員数（非正規職員）については、「ヘルパー2級」が2,828人で最も多く、次いで「介護福祉士」が1,921人、「看護師・准看護師」が991人と続いています（図表5-1-16）。

#### ⑦事業運営している中で最も不安に感じていること

- 事業運営している中で最も不安に感じていることについては、「人手不足」が51.7%で最も高く、次いで「財政状況」が15.6%、「特になし」が9.5%と続いています（図表5-1-17）。

#### ⑧サービス提供状況からみて職員数の過不足はあるか

- サービス提供状況からみて職員数の過不足はあるかについては、『不足している』（「非常に不足している」と「やや不足している」の合計）は55.3%、『多い』（「やや多い」と「非常に多い」の合計）は2.2%となっています（図表5-1-18）。

#### ⑨職員が不足している理由

- 職員が不足している理由については、「新規雇用の際、思った程の人材を確保できなかったため」が55.3%で最も高くなっています（図表5-1-19）。

#### ⑩職員の定着率をどう感じているか

- 職員の定着率をどう感じているかについては、「どちらかという而定着率が良い」が55.2%で最も高く、次いで「非常に定着率が良い」が25.4%、「どちらかという而定着率が悪い」が11.5%と続いており、『定着率が良い』（「非常に定着率が良い」と「どちらかという而定着率が良い」の合計）は80.6%となっています（図表5-1-21）。

#### ⑪職員の定着率が良い理由・悪い理由

- 職員の定着率が良い理由については、「職員がやりがいを感じているため」が43.7%で最も高く、次いで「職場に対する相談体制を確保しているため」が33.7%、「経営理念・方針を職員と共有できているため」が31.3%と続いています（図表5-1-22）。
- 職員の定着率が悪い理由については、「職員にとって身体的・精神的な負担が大きいため」が54.7%で最も高く、次いで「給与が低い」が32.0%、「職員がやりがいを感じられていないため」が29.3%と続いています（図表5-1-23）。

#### ⑫職員に対する社内・社外研修の状況

- 職員に対する社内・社外研修の状況については、「内部研修を実施しており、外部研修にも参加させている」が54.6%で最も高く、次いで「内部研修は実施しているが、外部研修には参加させていない」が17.4%、「内部研修は実施していないが、外部研修には参加させている」が15.5%と続いています（図表5-1-24）。

### ⑬研修等を実施していない理由

○研修等を実施していない理由については、「時間的余裕がないため」が72.2%で最も高く、次いで「必要がないため」が27.8%、「内部研修をする指導者がいないため」が16.7%と続いています（図表5-1-25）。

### ⑭介護の仕事に携わる外国人労働者を受け入れているか

○介護の仕事に携わる外国人労働者を受け入れているかについては、「受け入れている」が6.2%、「受け入っていない」が87.5%となっています（図表5-1-26）。

### ⑮どの制度に基づいて外国人労働者を受け入れたか

○どの制度に基づいて外国人労働者を受け入れたかについては、「その他」が33.3%で最も高く、次いで「技能実習制度を活用した外国人の受け入れ」が30.6%、「在留資格「介護」をもつ外国人の受け入れ」が22.2%と続いています（図表5-1-27）。

### ⑯今後の外国人労働者の活用予定

○今後の外国人労働者の活用予定については、「活用する予定はある」が17.9%、「活用する予定はない」が69.9%となっています（図表5-1-28）。

### ⑰今後、外国人労働者を活用するうえでの課題

○今後、外国人労働者を活用するうえでの課題については、「利用者との会話などにおいて、意思疎通に支障がある」が52.6%で最も高く、次いで「日本語の読解力や文章力の不足などにより、介護記録の作成に支障がある」が33.0%、「生活習慣の違いなどにより、日常的な業務に支障がある」が32.3%と続いています（図表5-1-29）。

### ⑱職員自身の家族の介護と仕事の両立支援の取組

○職員自身の家族の介護と仕事の両立支援の取組については、「短時間勤務ができる制度」が45.9%で最も高く、次いで「介護休暇」が28.2%、「残業時間の制限」が27.1%と続いています（図表5-1-30）。

### ⑲子育てと仕事の両立支援の取組

○子育てと仕事の両立支援の取組については、「短時間勤務ができる制度」が50.3%で最も高く、次いで「育児休暇」が29.4%、「残業時間の制限」が29.0%と続いています（図表5-1-31）。

### ⑳職員の確保や質の向上のために、今後どのような視点を重視すべきか

○職員の確保や質の向上のために、今後どのような視点を重視すべきかについては、「基本的な技術や実践的知識の向上」が40.2%で最も高く、次いで「職員の報酬や手当等の充実」が33.0%、「利用者への対応の仕方などマナーやコミュニケーション技術の向上」が32.5%と続いています（図表5-1-32）。

## ②①介護事業収支の状況

- 介護事業収支の状況については、『黒字である』（「大幅な黒字である」と「やや黒字である」の合計）は 18.2%、『赤字である』（「やや赤字である」と「大幅な赤字である」の合計）は 30.2%となっています（図表 5-1-33）。
- 黒字の主な理由については、「一定以上の利用者数を確保できたため」が 74.5%で最も高く、次いで「人件費・事務費・事業費などの経費の支出を低く抑えることができたため」が 27.4%、「利用者 1 人当たりについて、一定以上のサービス量を確保できたため」が 19.8%と続いています（図表 5-1-34）。
- 赤字の主な理由については、「人件費・事務費・事業費などの経費が予想より大きかったため」が 56.8%で最も高く、次いで「当初見込んだ利用者数を確保できなかったため」が 38.6%、「介護報酬が改定されたため」が 27.3%と続いています（図表 5-1-35）。

## ②②堺市では以前と比べて、多職種での連携が進んでいると感じるか

- 堺市では以前と比べて、多職種での連携が進んでいると感じるかについては、『進んでいると感じる』（「とても進んでいると感じる」と「まあ進んでいると感じる」の合計）は 45.9%、『進んでいないと感じる』（「あまり進んでいないと感じる」と「まったく進んでいないと感じる」の合計）は 28.3%となっています（図表 5-1-36）。

## ②③多職種での連携において、業務上困っていること

- 多職種での連携において、業務上困っていることについては、「困っていることはない」が 32.5%で最も高く、次いで「多職種での情報共有がうまくいかない」が 26.1%、「他の職種の業務内容（対応できる範囲）がわからない」が 14.8%と続いています（図表 5-1-37）。

## （2）災害時の対策について

### ①災害時の対策について

- 地震・津波対策では、「災害時の具体的な対応マニュアルの作成・職員への周知」が 43.3%で最も高く、次いで「避難計画の策定」が 33.7%、「食料等の備蓄」が 28.4%と続いています。

風水害対策では、「災害時の具体的な対応マニュアルの作成・職員への周知」が 36.4%で最も高く、次いで「避難計画の策定」が 26.8%、「食料等の備蓄」が 23.0%と続いています。火災対策では、「災害時の具体的な対応マニュアルの作成・職員への周知」が 46.7%で最も高く、次いで「自動火災報知機等の消防設備の設置」が 42.5%、「消防署立会による避難訓練の実施」が 41.8%と続いています。

土砂災害対策では、「土砂災害危険区域でない。（土砂災害対策のみ選択可能。）」が 28.0%で最も高く、次いで「災害時の具体的な対応マニュアルの作成・職員への周知」が 16.1%、「避難計画の策定」が 12.6%と続いています（図表 5-2-1）。

### (3) 介護者支援について

#### ①介護者支援について取り組んでいるか

○介護者支援について取り組んでいるかについては、「取り組んでいる」が 33.2%、「取り組んでいない」が 38.8%となっています（図表 5-3-1）。

#### ②介護者支援の取組状況

○介護者支援の取組状況について、「介護生活に必要な情報の提供」では、「利用者の家族限定」が 48.2%で最も高く、「介護者同士が気兼ねなく話し合いや相談ができるイベント・交流会などの開催」では、「この取り組みはしていない」が 51.8%で最も高く、「専門職員による相談窓口」では、「利用者の家族以外も利用・参加可能」が 33.2%で最も高く、「介護技術などの講習会」では、「この取り組みはしていない」が 54.4%で最も高くなっています（図表 5-3-2）。

### (4) 居宅介護支援事業所

#### ①堺市の要介護者にとって不足していると感じるサービス

○堺市の要介護者にとって不足していると感じるサービスについては、「訪問介護」が 35.6%で最も高く、次いで「夜間対応型訪問介護」が 31.3%、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が 26.4%と続いています。

平成 28 年度調査と比較すると、「訪問介護」（35.6%）では、平成 28 年度調査（16.9%）より 18.7 ポイント高く、最も増加した項目となっています（図表 5-4-1）。

#### ②外部の諸機関との連携状況

○外部の諸機関との連携状況について、『連携はとれている』（「大変うまく連携がとれている」と「おおむね連携はとれている」の合計）では、「地域包括支援センター」が 77.9%で最も高く、次いで「他の居宅サービス提供事業者」が 79.8%、「他の居宅介護支援事業者」が 62.0%と続いており、『連携はとれていない』（「あまり連携はとれていない」と「まったく連携がとれていない」の合計）では、「介護保険以外のサービス提供機関（ボランティア・NPO含む）」が 41.9%で最も高くなっています（図表 5-4-2）。

#### ③困難ケース等で地域包括支援センターへ相談したことはあるか

○困難ケース等で地域包括支援センターへ相談したことはあるかについては、「ある」が 74.0%、「ない」が 12.0%となっています（図表 5-4-4）。

#### ④地域包括支援センターに相談した内容

○地域包括支援センターに相談した内容については、「虐待について（セルフネグレクトを含む）」が 50.6%で最も高く、次いで「本人や家族に精神障害や知的障害があることについて」が 39.6%、「在宅の意思が強いが、独居等で在宅に限界があることについて」が 36.4%と続いています（図表 5-4-5）。

## ⑤居宅介護支援事業所の利用者に対し、他のサービスに引き継いだ事例

○居宅介護支援事業所の利用者に対し、他のサービスに引き継いだ事例については、「病院」が42.8%で最も高く、次いで「介護老人保健施設」が37.0%、「介護老人福祉施設」が32.9%と続いています（図表 5-4-6）。

## ⑥定期巡回・随時対応型訪問介護看護が最も有効な人はどのような人か

○定期巡回・随時対応型訪問介護看護が最も有効な人はどのような人かについては、「独居高齢者」が26.0%で最も高く、次いで「不定期の訪問介護や訪問看護のニーズがある高齢者」が21.6%、「病院への入退院を繰り返す高齢者」が16.3%と続いています（図表 5-4-7）。

## ⑦居宅介護支援事業所の担当件数のうち、有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅に入居されている人の割合

○居宅介護支援事業所の担当件数のうち、有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅に入居されている人の割合は、12.4%となっています（図表 5-4-8）。

## ⑧有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅への入居にあたり、自事業所のサービス提供地域内にも関わらず、他の居宅介護支援事業所に引き継いだ事例がある事業所の割合

○有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅への入居にあたり、自事業所のサービス提供地域内にも関わらず、他の居宅介護支援事業所に引き継いだ事例がある事業所の割合は、32.7%となっています（図表 5-4-9）。

## （5）施設サービス

### ①入所待機者はいるか

○入所待機者はいるかについては、「入所待機者がいる」が68.0%、「入所待機者はいない」が8.0%となっています（図表 5-5-1）。

### ②入所待機者がいる状況の主な要因

○入所待機者がいる状況の主な要因については、「在宅介護より施設介護を望む人が増えたため」が47.1%で最も高く、次いで「現在のところ入所の必要はないが、将来を見込んで事前に申し込む人が多いため」が35.3%、「全体的に施設数が足りないため」「入所手続きに手間がかかるため」がいずれも5.9%となっています（図表 5-5-2）。

### ③入所決定にあたり、入所判定委員会等で重点をおいていること

○入所決定にあたり、入所判定委員会等で重点をおいていることについては、「要介護度が4・5の重度で、在宅で待機している」「本人または家族(ケアマネ等含む)と面談した結果、在宅で介護が難しいと判断されている」がいずれも64.0%で最も高く、次いで「虐待等が疑われるなど緊急性がある」が52.0%と続いています（図表 5-5-3）。



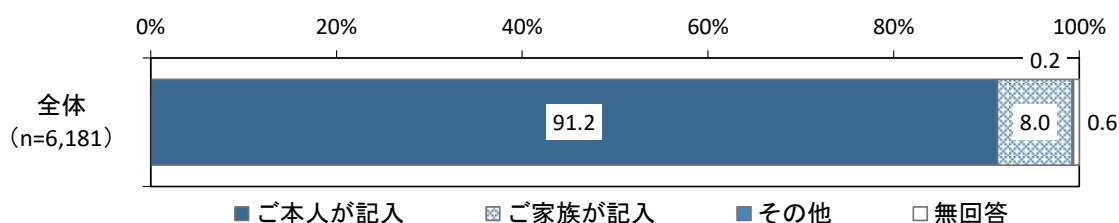
### Ⅲ. 一般高齢者・要支援認定者調査 調査結果

#### 1. 回答者の属性

調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

調査票の記入者については、「ご本人が記入」が91.2%で最も高く、次いで「ご家族が記入」が8.0%、「その他」が0.2%となっています。

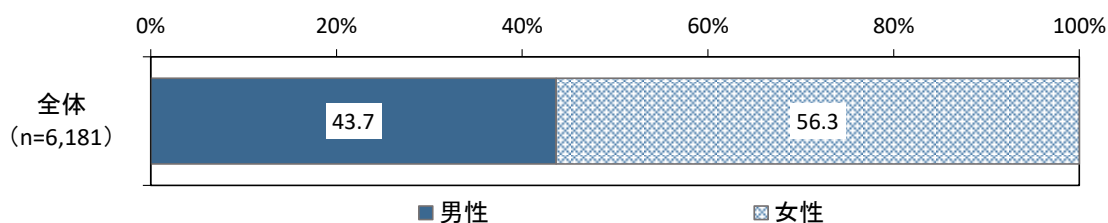
図表 3-1-1 調査票記入者



性別

性別については、「男性」が43.7%、「女性」が56.3%となっています。

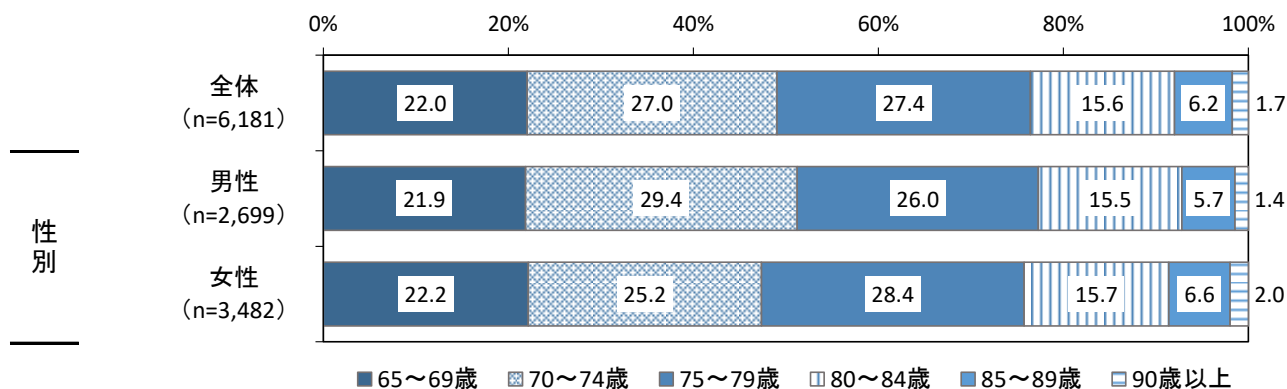
図表 3-1-2 性別



年齢

年齢については、「75～79歳」が27.4%で最も高く、次いで「70～74歳」が27.0%、「65～69歳」が22.0%と続いています。

図表 3-1-3 年齢

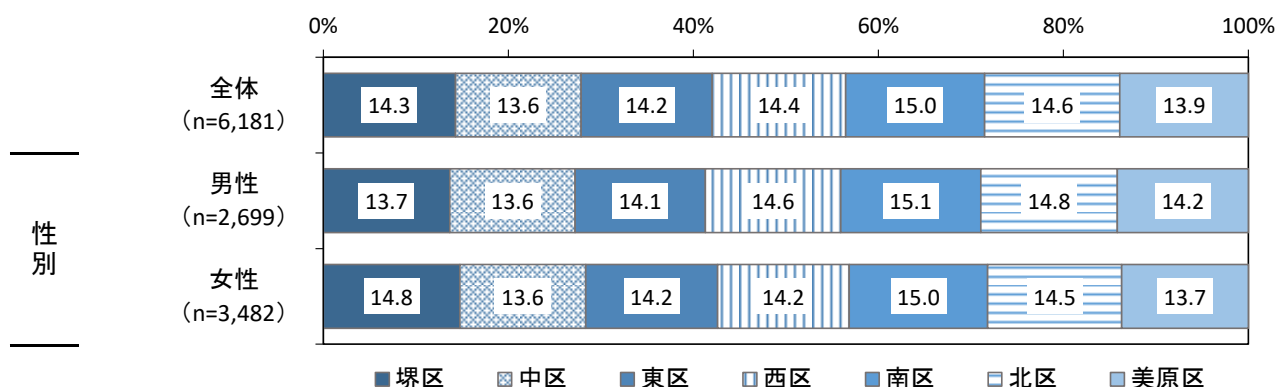


居住地

居住地については、「南区」が15.0%で最も高く、次いで「北区」が14.6%、「西区」が14.4%と続いています。

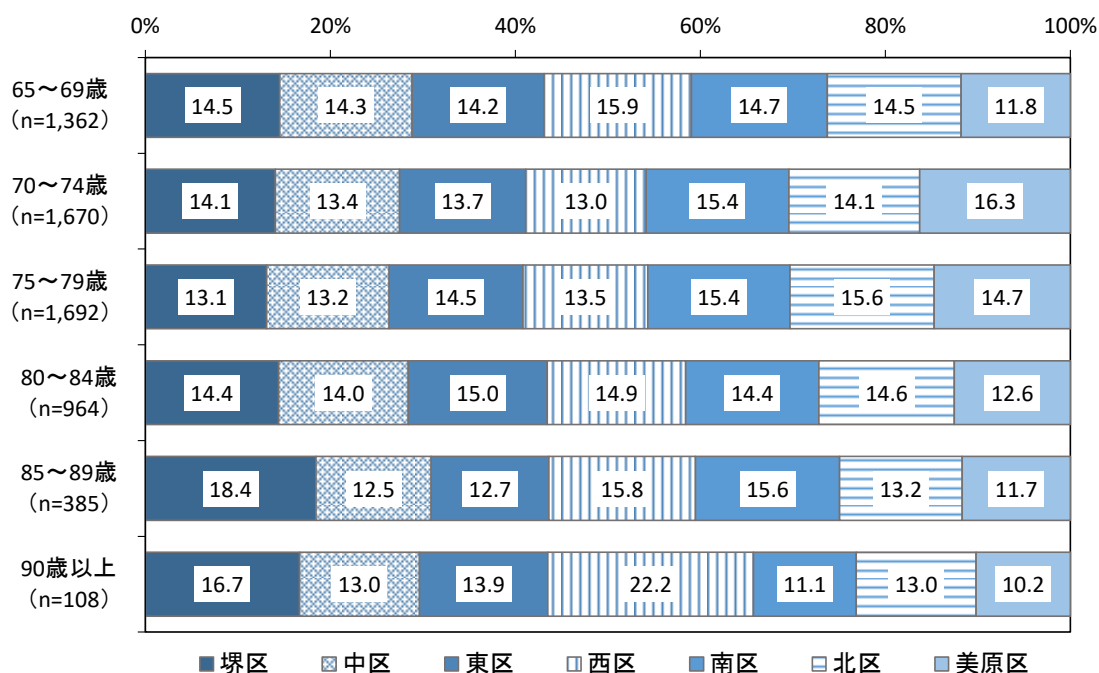
性別でみると、男性・女性いずれも「南区」(男性15.1%、女性15.0%)の割合が最も高くなっています。

図表 3-1-4 居住地



年齢別でみると、65～69歳では「西区」が15.9%で最も高く、70～74歳では「美原区」が16.3%で最も高く、75～79歳では「北区」が15.6%で最も高く、80～84歳では「東区」が15.0%で最も高く、85～89歳では「堺区」が18.4%で最も高く、90歳以上では「西区」が22.2%で最も高くなっています。

図表 3-1-5 居住地 年齢別

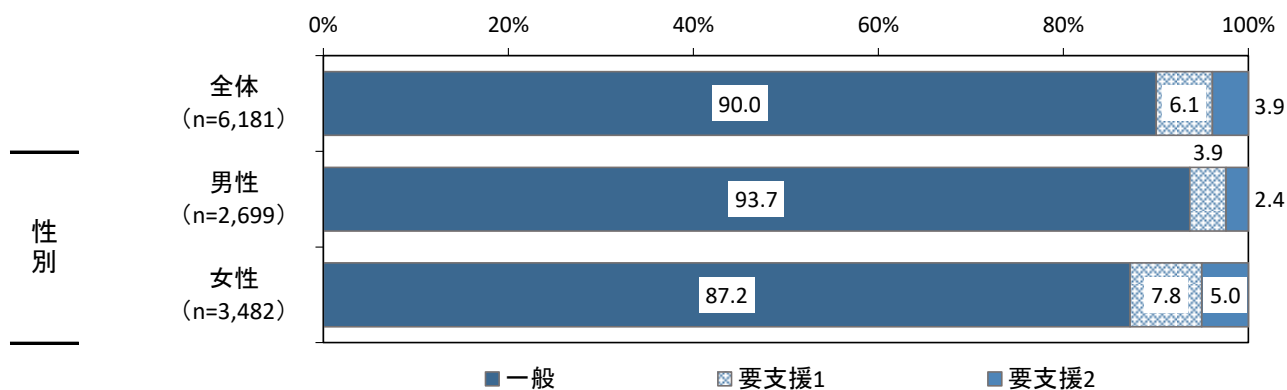


認定状況

認定状況については、「一般」が90.0%で最も高く、次いで「要支援1」が6.1%、「要支援2」が3.9%となっています。

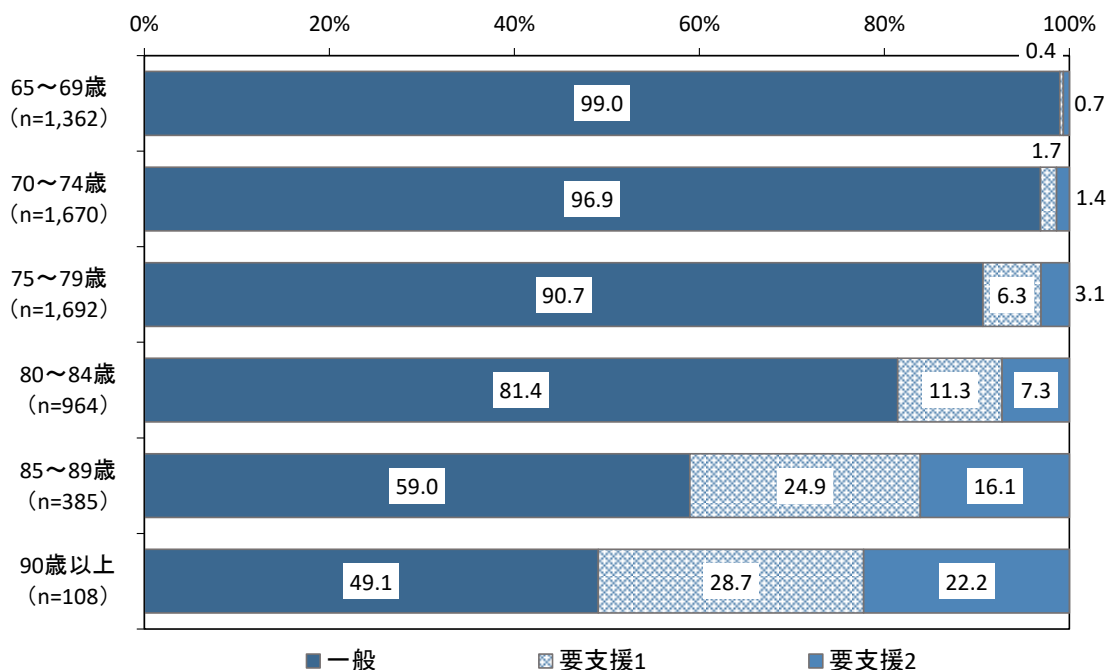
性別でみると、『要支援認定者』（「要支援1」と「要支援2」の合計）では、男性が6.3%、女性が12.8%となっています。

図表 3-1-6 認定状況



年齢別でみると、『要支援認定者』では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が50.9%で最も高くなっています。

図表 3-1-7 認定状況 年齢別

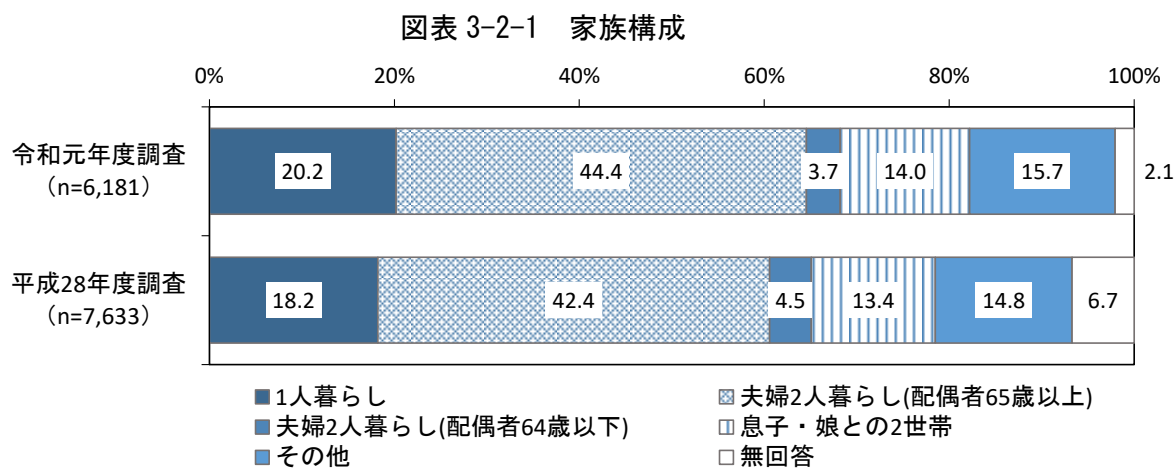


## 2. 家族や生活状況について

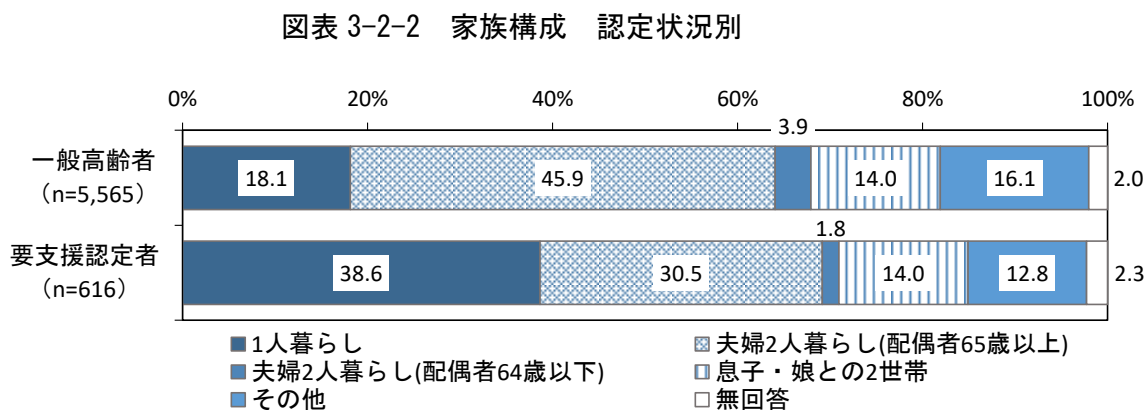
### 問 1 (1) 家族構成をお教えてください (〇はひとつ)

家族構成については、「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 44.4%で最も高く、次いで「1 人暮らし」が 20.2%、「その他」が 15.7%と続いています。

平成 28 年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

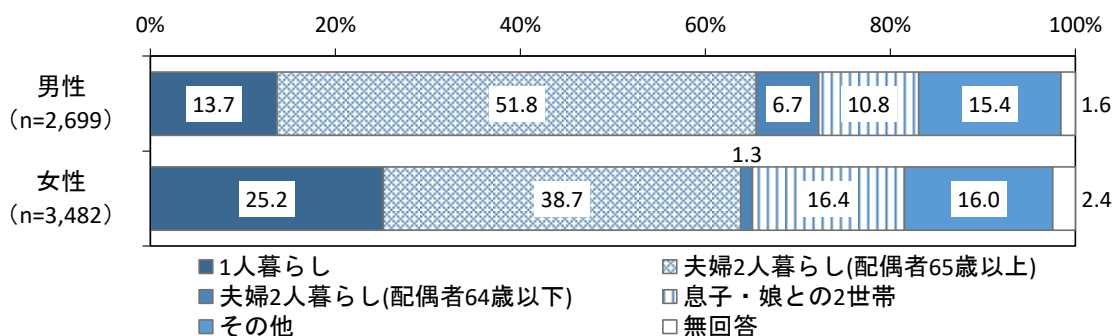


認定状況別でみると、一般高齢者では「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 45.9%で最も高く、要支援認定者では「1 人暮らし」が 38.6%で最も高くなっています。



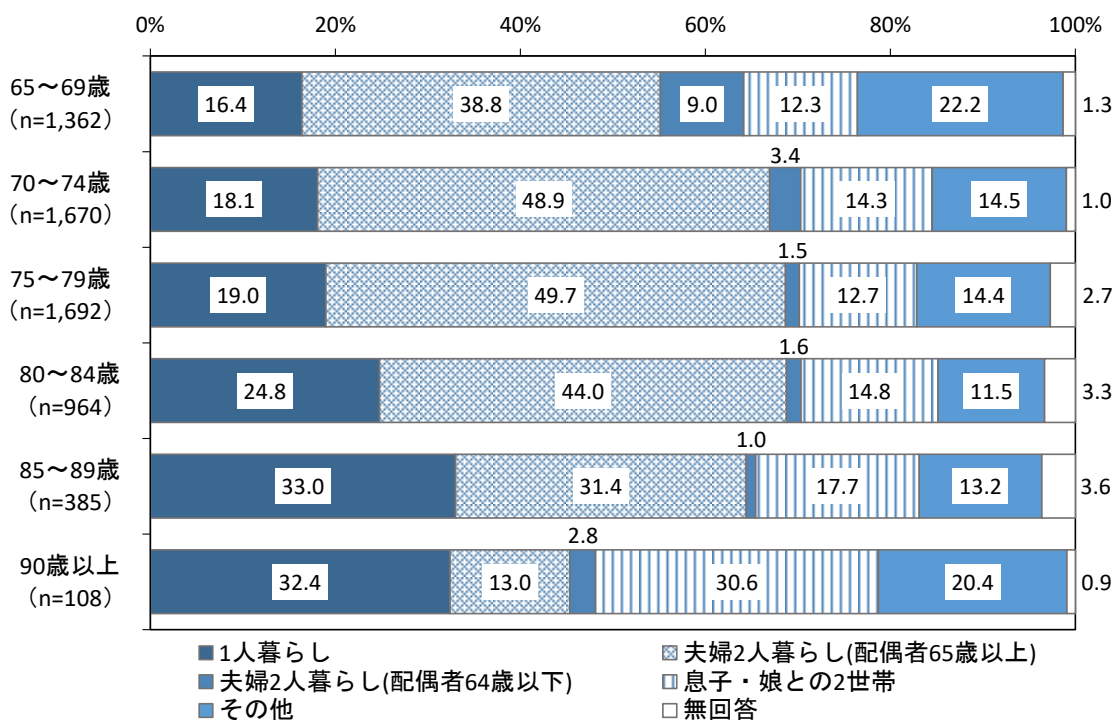
性別でみると、男性・女性いずれも「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(男性51.8%、女性38.7%)の割合が最も高く、「1人暮らし」では、女性が25.2%で、男性(13.7%)よりも11.5ポイント高くなっています。

図表 3-2-3 家族構成 性別



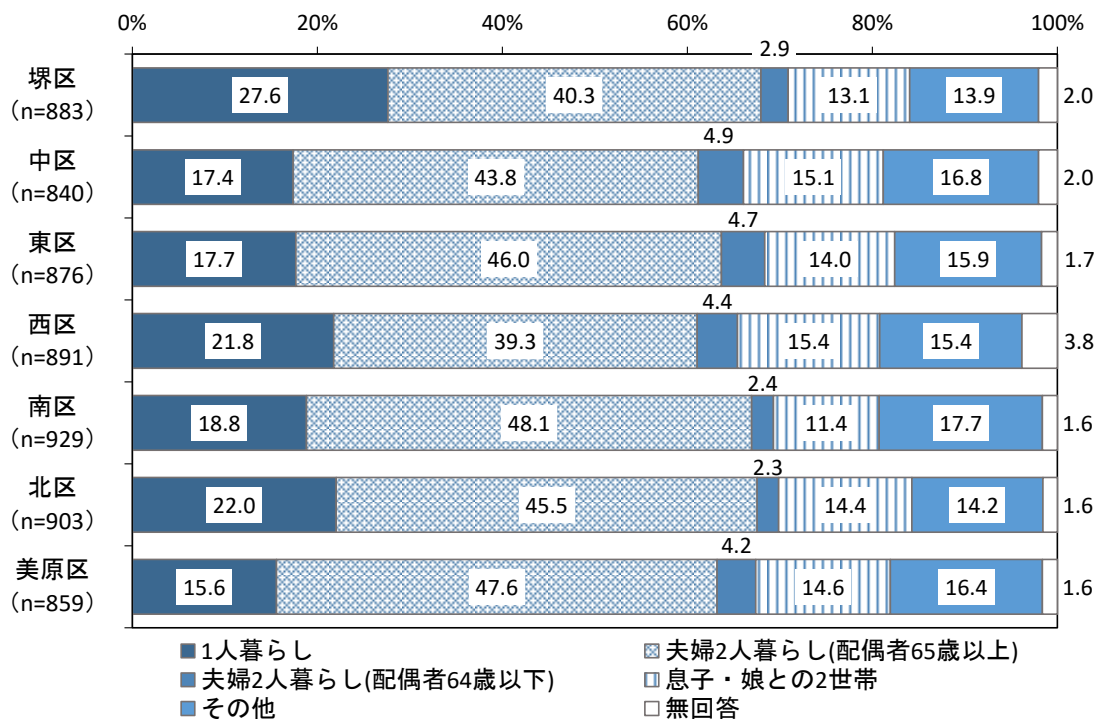
年齢別でみると、84歳以下では「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が最も高く、85歳以上では「1人暮らし」の割合が最も高くなっています。

図表 3-2-4 家族構成 年齢別



区域別でみると、すべての区域で「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が最も高く、「1人暮らし」では、堺区が27.6%で最も高くなっています。

図表 3-2-5 家族構成 区域別

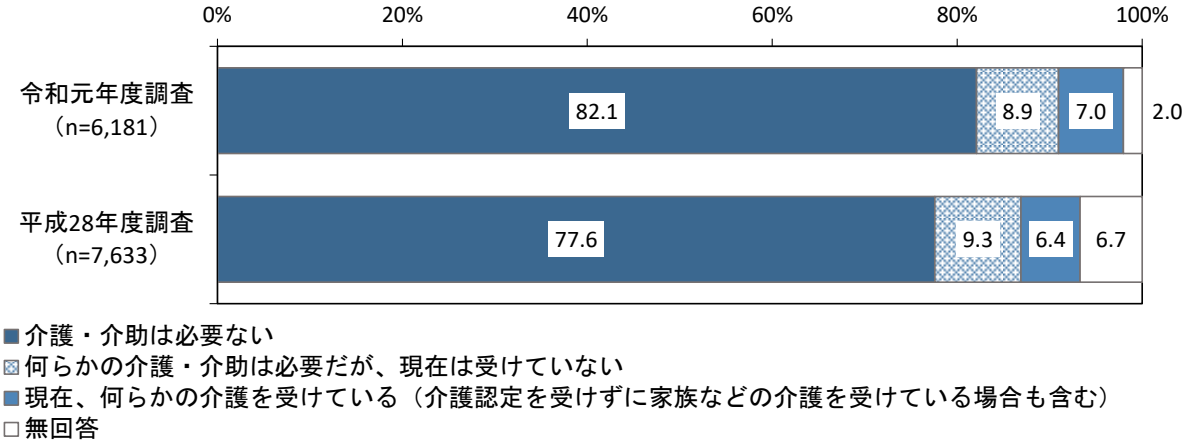


問 1 (2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか（〇はひとつ）

普段の生活で介護・介助が必要かについては、「介護・介助は必要ない」が 82.1%で最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 8.9%、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が 7.0%となっています。

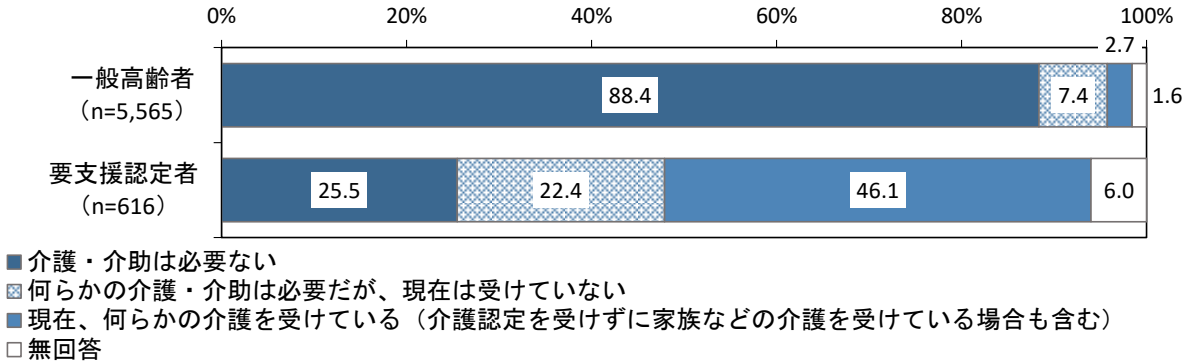
平成 28 年度調査と比較すると、「介護・介助は必要ない」（82.1%）では、平成 28 年度調査（77.6%）より 4.5 ポイント高くなっています。

図表 3-2-6 普段の生活で介護・介助が必要か



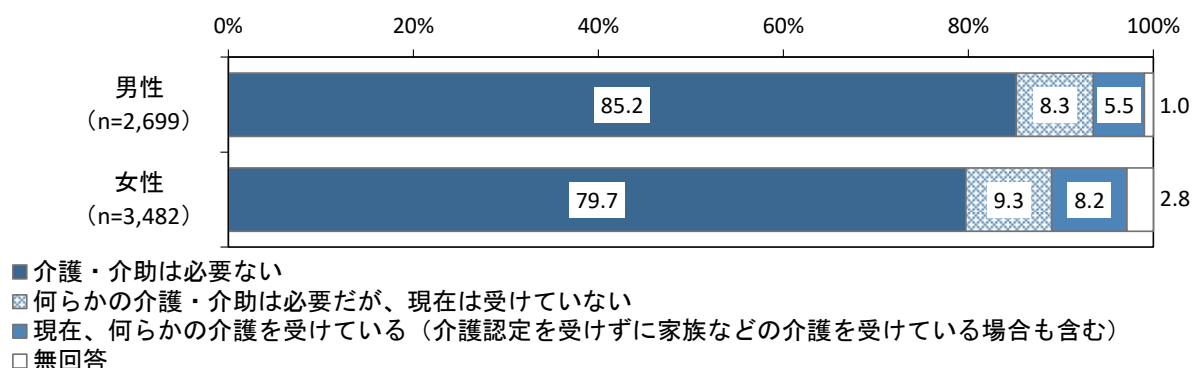
認定状況別でみると、一般高齢者では「介護・介助は必要ない」が 88.4%で最も高く、要支援認定者では「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が 46.1%で最も高くなっています。

図表 3-2-7 普段の生活で介護・介助が必要か 認定状況別



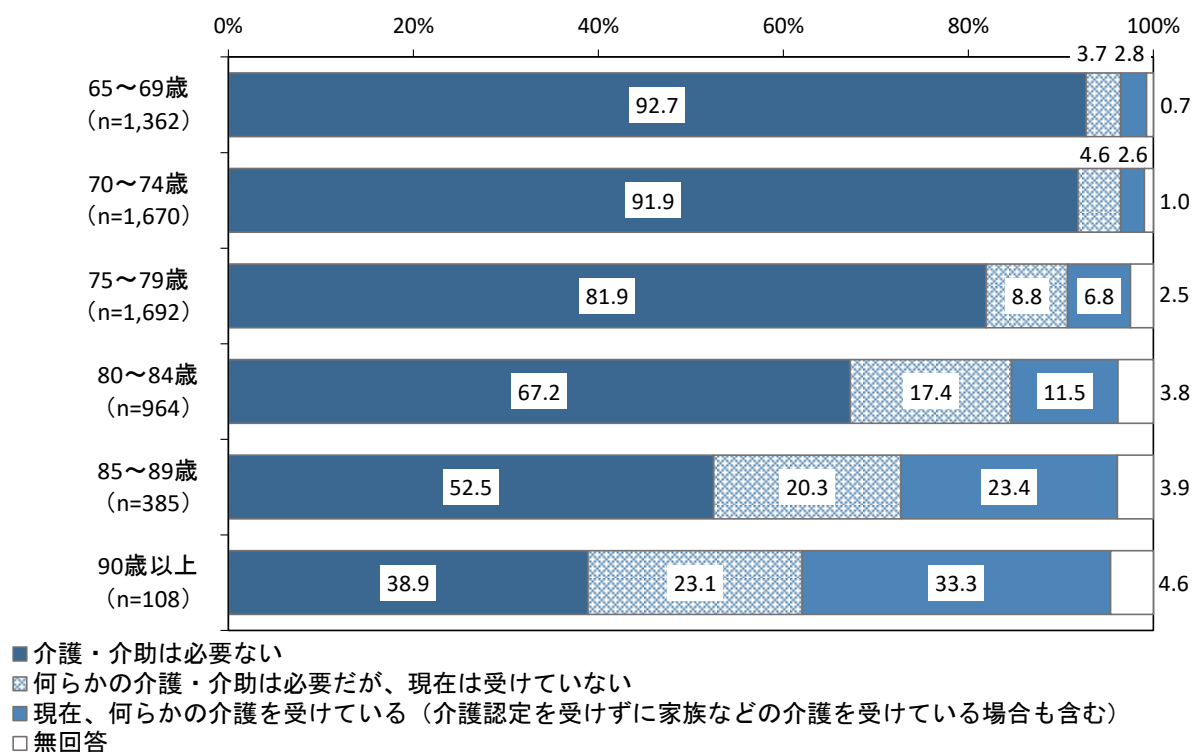
性別でみると、「介護・介助は必要ない」では、男性が85.2%で、女性（79.7%）よりも5.5ポイント高くなっています。

図表 3-2-8 普段の生活で介護・介助が必要か 性別



年齢別でみると、「介護・介助は必要ない」では、年齢が上がるにつれて割合が低くなっており、65～69歳が92.7%で最も高く、90歳以上が38.9%で最も低くなっています。

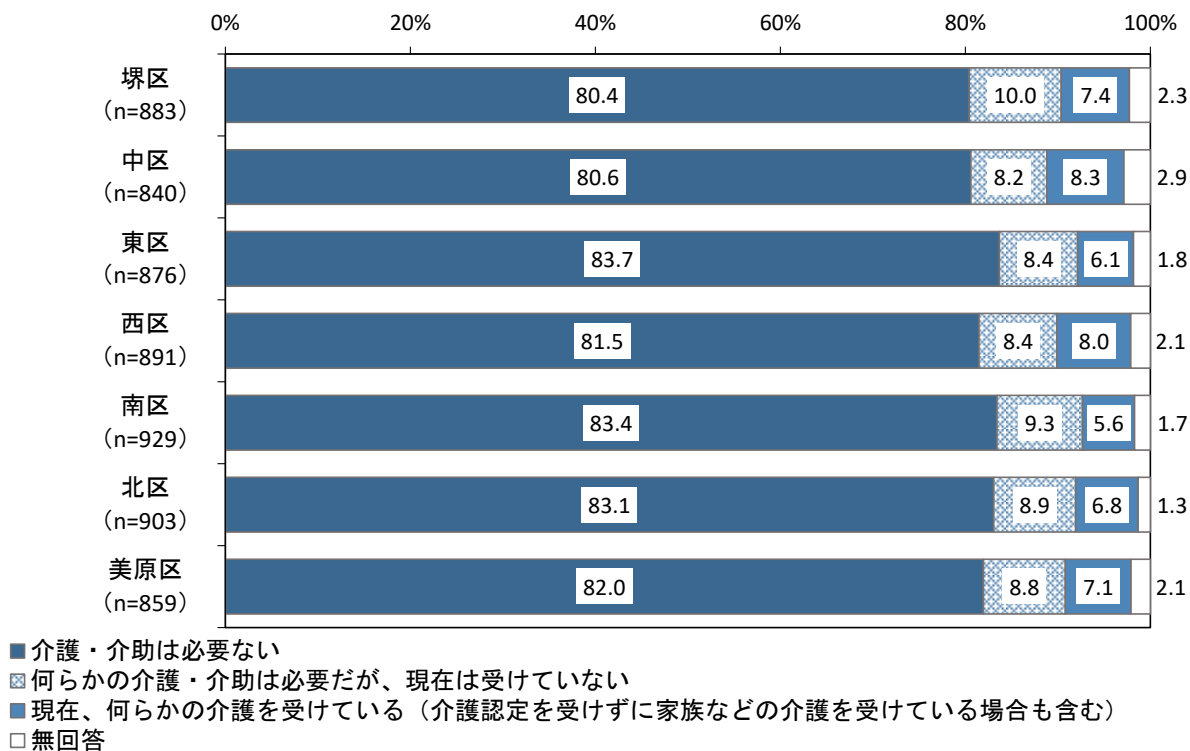
図表 3-2-9 普段の生活で介護・介助が必要か 年齢別





区域別でみると、大きな差はみられません。

図表 3-2-10 普段の生活で介護・介助が必要か 区域別

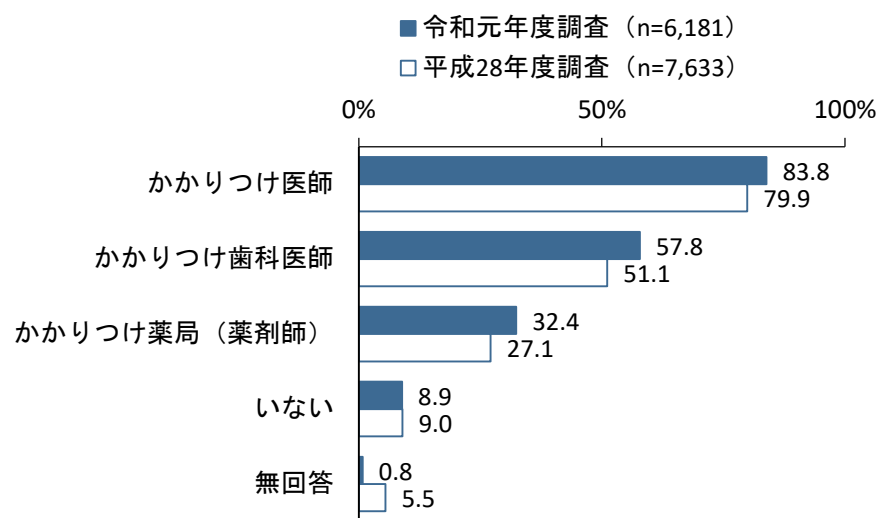


問 1 (3)	日頃から診療や相談ができるかかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいますか (〇はいくつでも)
---------	--

かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいるかについては、「かかりつけ医師」が 83.8%で最も高く、次いで「かかりつけ歯科医師」が 57.8%、「かかりつけ薬局（薬剤師）」が 32.4%と続いています。

平成 28 年度調査と比較すると、「かかりつけ医師」「かかりつけ歯科医師」「かかりつけ薬局（薬剤師）」いずれも平成 28 年度調査よりも割合が増加しています。

図表 3-2-11 かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいるか



認定状況別でみると、「いない」では、一般高齢者が 9.6%で、要支援認定者（2.8%）よりも 6.8 ポイント高くなっています。

性別でみると、「いない」では、男性が 11.3%で、女性（7.1%）よりも 4.2 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「いない」では、65 歳以上 89 歳以下で年齢が上がるにつれて割合が低くなっており、65～69 歳が 15.9%で最も高く、85～89 歳が 4.2%で最も低くなっています。

区域別でみると、「いない」では、美原区が 10.4%で最も高くなっています。

図表 3-2-12 かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいるか 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	かかりつけ 医師	かかりつけ 歯科医師	かかりつけ 薬局（薬剤師）	いない	無回答
全体		6,181	83.8	57.8	32.4	8.9	0.8
別 認定	一般高齢者	5,565	82.6	58.3	31.1	9.6	0.8
	要支援認定者	616	94.8	53.7	44.2	2.8	1.1
性別	男性	2,699	82.7	51.0	28.3	11.3	0.6
	女性	3,482	84.8	63.1	35.5	7.1	0.9
年齢別	65～69歳	1,362	73.2	51.2	23.3	15.9	0.2
	70～74歳	1,670	82.9	58.3	30.4	9.2	0.8
	75～79歳	1,692	87.6	63.7	37.4	6.1	0.8
	80～84歳	964	89.5	60.4	37.0	5.5	1.5
	85～89歳	385	93.0	51.7	37.9	4.2	1.3
	90歳以上	108	90.7	40.7	36.1	7.4	0.9
区域別	堺区	883	82.9	57.4	33.4	9.5	1.4
	中区	840	85.6	58.3	33.1	7.6	0.5
	東区	876	81.6	58.2	25.5	9.1	0.6
	西区	891	84.0	60.2	36.0	8.0	0.9
	南区	929	85.0	55.5	28.3	8.7	0.5
	北区	903	83.8	58.4	37.7	9.0	1.2
	美原区	859	83.9	56.7	32.6	10.4	0.5

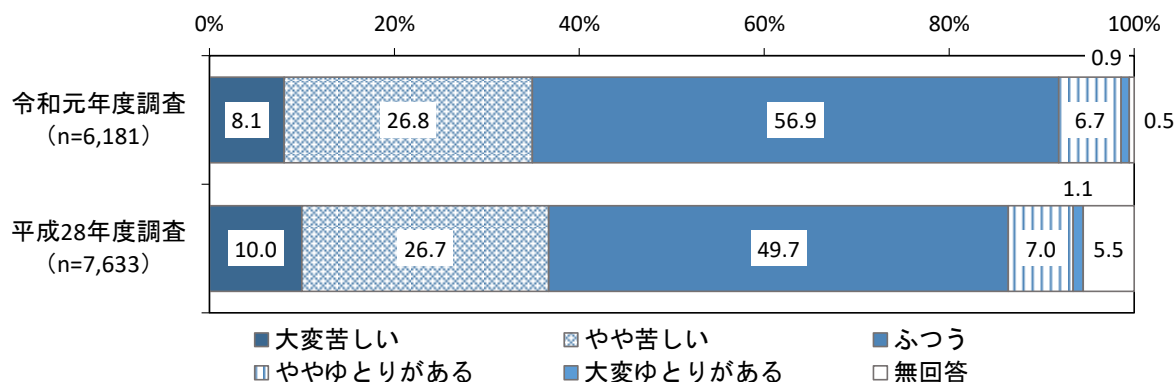
※網掛け■は最も割合が高いもの

問 1 (4) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (〇はひとつ)

現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているかについては、「ふつう」が 56.9%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 26.8%、「大変苦しい」が 8.1%と続いています。

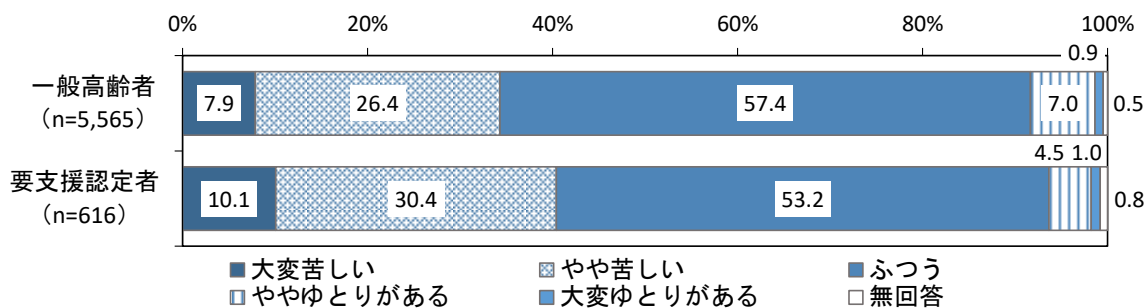
平成 28 年度調査と比較すると、「ふつう」(56.9%) では、平成 28 年度調査 (49.7%) よりも 7.2 ポイント高くなっています。

図表 3-2-13 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているか



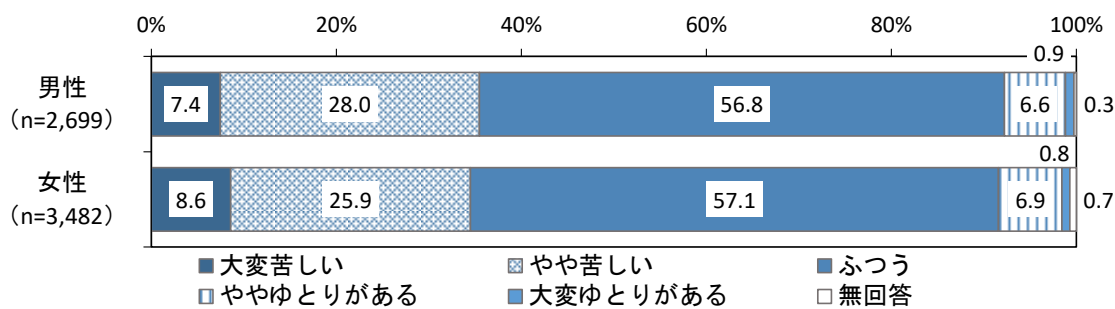
認定状況別でみると、『苦しい』（「大変苦しい」と「やや苦しい」の合計）では、要支援認定者が40.5%で、一般高齢者（34.3%）よりも6.2ポイント高くなっています。

図表 3-2-14 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているか 認定状況別



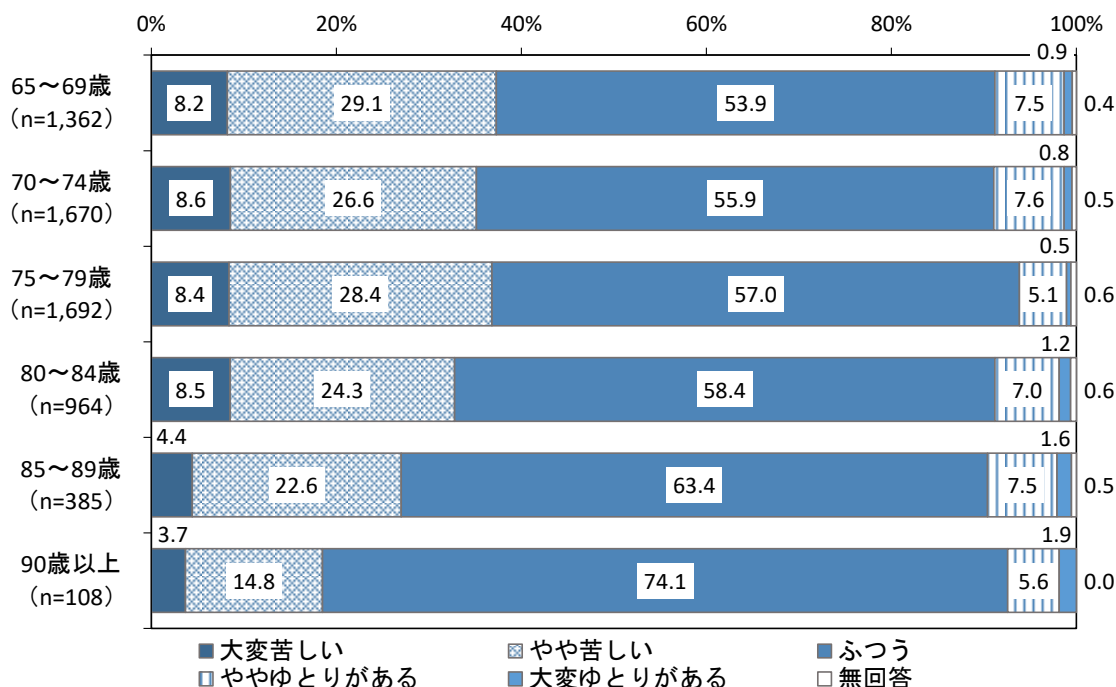
性別でみると、大きな差はみられません。

図表 3-2-15 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているか 性別



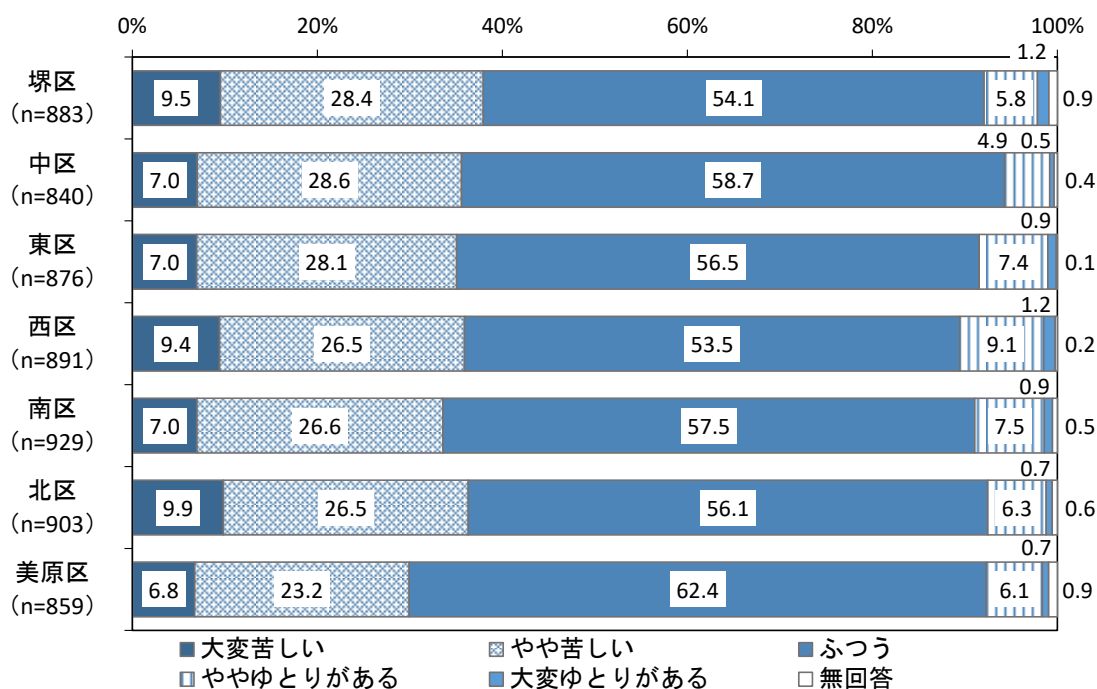
年齢別でみると、「ふつう」では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が74.1%で最も高くなっています。

図表 3-2-16 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているか 年齢別



区域別でみると、『ゆとりがある』（「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」の合計）では西区が10.3%で最も高く、『苦しい』（「やや苦しい」と「大変苦しい」の合計）では、堺区が37.9%で最も高くなっています。

図表 3-2-17 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているか 区域別



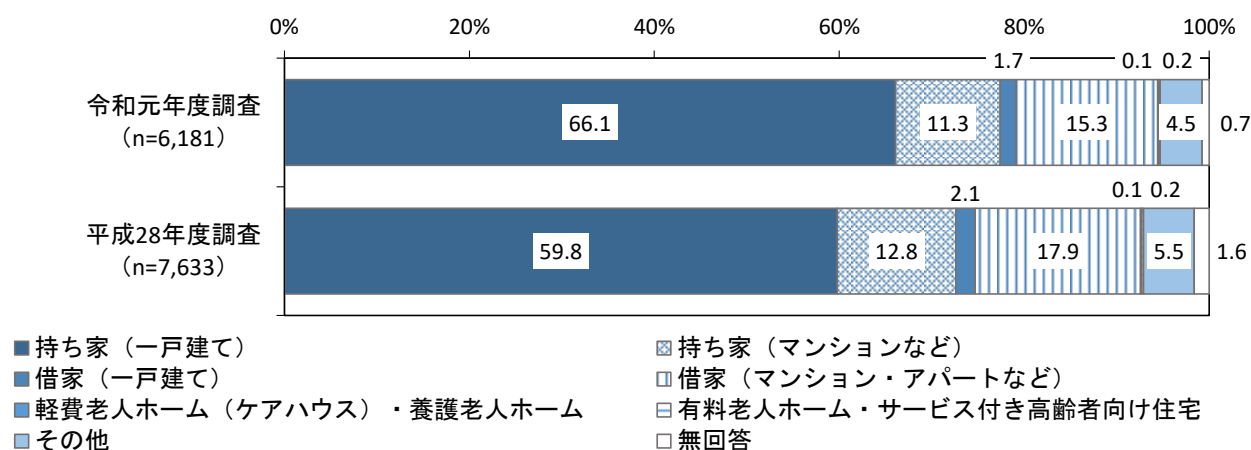
### 3. 住まいについて

問 2 (1) 現在のお住まいをお教えてください (〇はひとつ)

現在の住まいについては、「持ち家 (一戸建て)」が 66.1% で最も高く、次いで「借家 (マンション・アパートなど)」が 15.3%、「持ち家 (マンションなど)」が 11.3% と続いています。

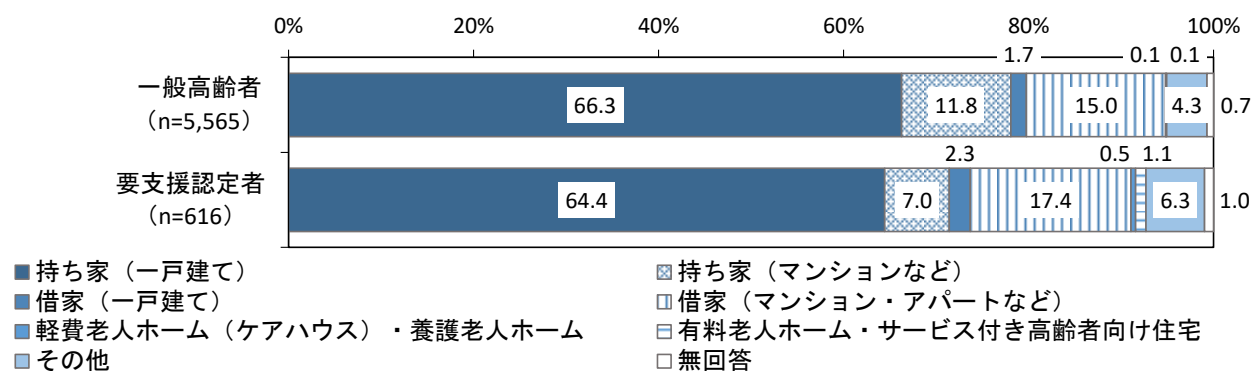
平成 28 年度調査と比較すると、「持ち家 (一戸建て)」(66.1%) が平成 28 年度調査 (59.8%) より 6.3 ポイント高くなっています。

図表 3-3-1 現在の住まい



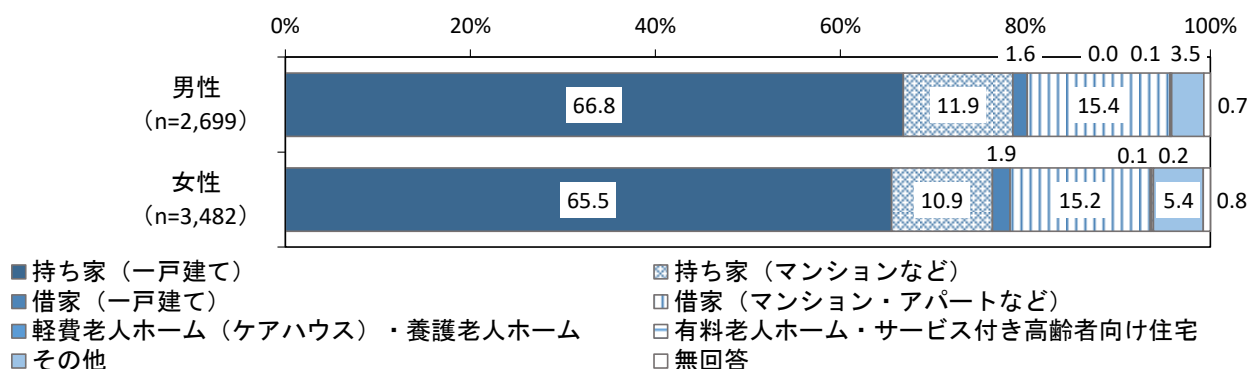
認定状況別でみると、『持ち家』(「持ち家 (一戸建て)」と「持ち家 (マンションなど)」の合計) では、一般高齢者が 78.1% で、要支援認定者 (71.4%) よりも 6.7 ポイント高くなっています。

図表 3-3-2 現在の住まい 認定状況別



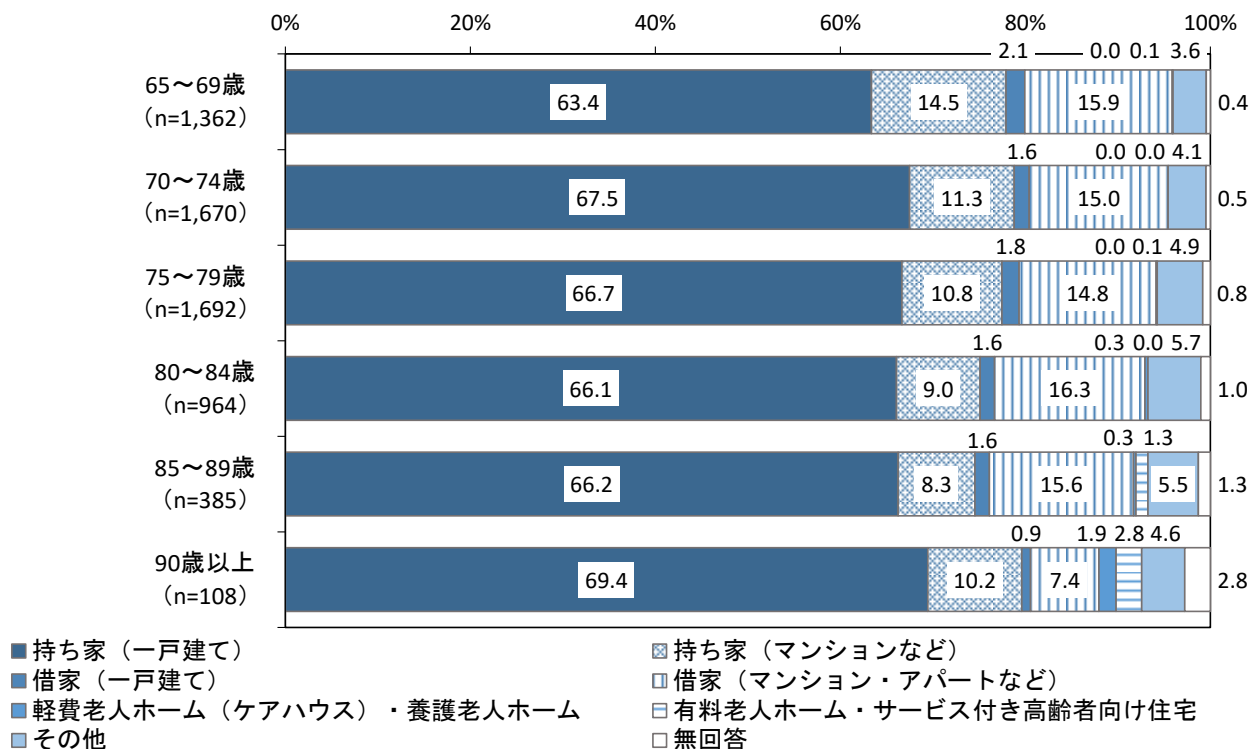
性別でみると、大きな差はみられません。

図表 3-3-3 現在の住まい 性別



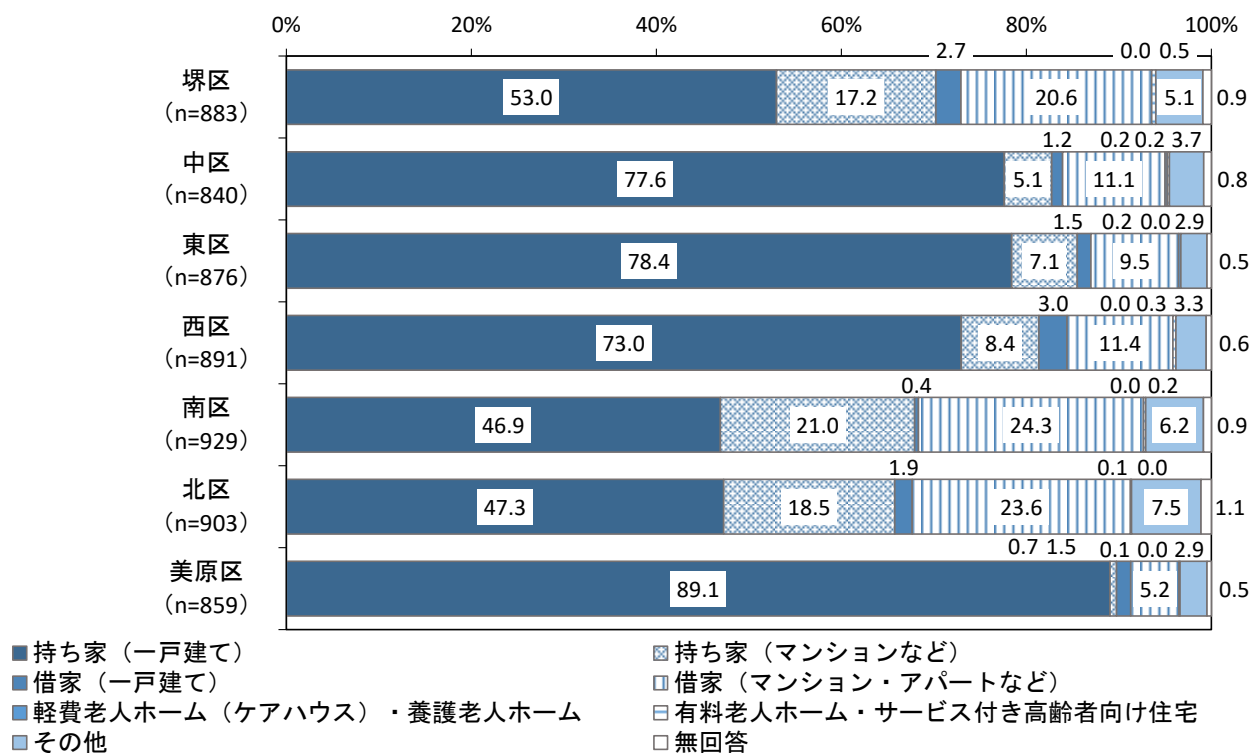
年齢別でみると、『持ち家』では、90歳以上が79.6%で最も高く、『借家』（「借家（一戸建て）」と「借家（マンション・アパートなど）」の合計）では、65～69歳が18.0%で最も高くなっています。

図表 3-3-4 現在の住まい 年齢別



区域別でみると、『持ち家』では、美原区が89.8%で最も高く、『借家』では、北区が25.5%で最も高くなっています。

図表 3-3-5 現在の住まい 区域別



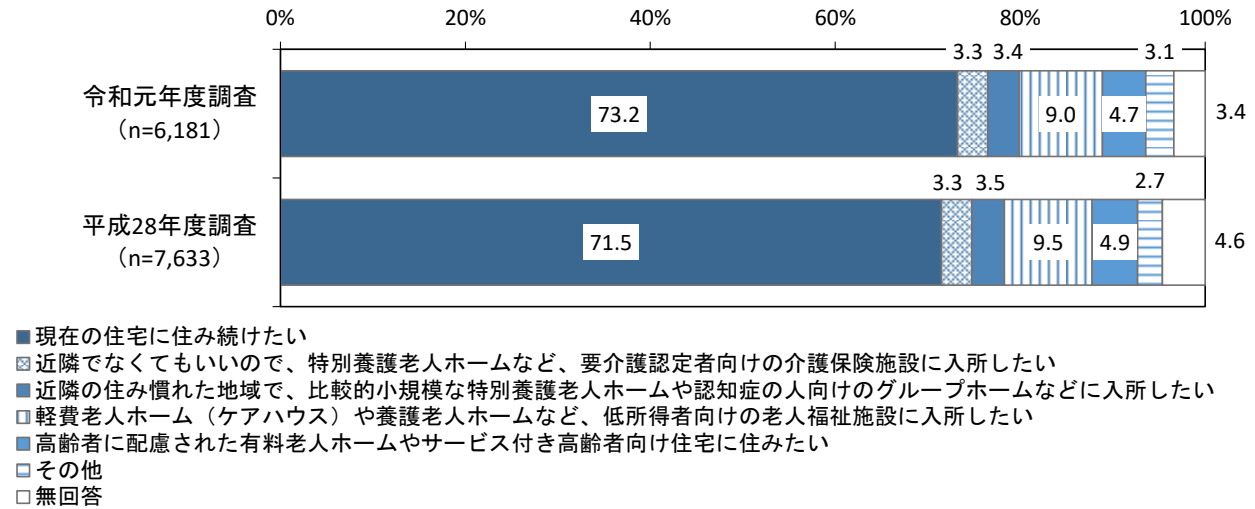


問2(2) 将来どのような住宅(施設)で暮らしたいですか(〇はひとつ)

将来どのような住宅(施設)で暮らしたいかについては、「現在の住宅に住み続けたい」が73.2%で最も高く、次いで「軽費老人ホーム(ケアハウス)や養護老人ホームなど、低所得者向けの老人福祉施設に入所したい」が9.0%、「高齢者に配慮された有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に住みたい」が4.7%と続いています。

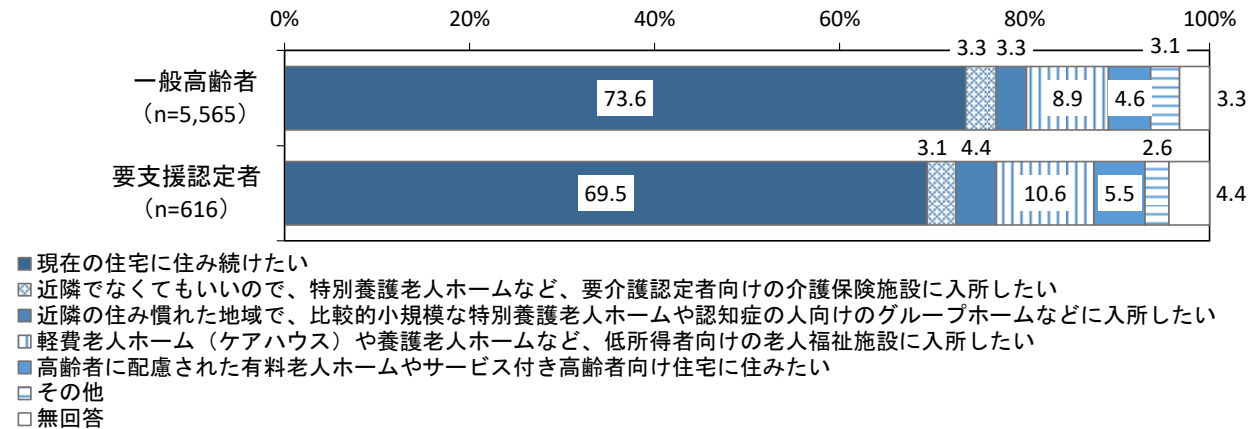
平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-3-6 将来どのような住宅(施設)で暮らしたいか



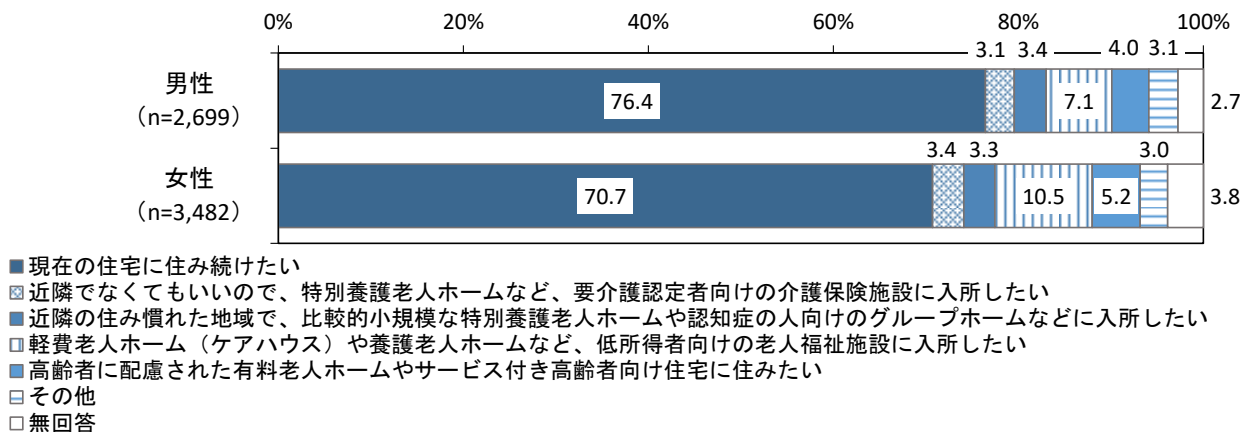
認定状況別でみると、「現在の住宅に住み続けたい」では、一般高齢者が73.6%で、要支援認定者(69.5%)よりも4.1ポイント高くなっています。

図表 3-3-7 将来どのような住宅(施設)で暮らしたいか 認定状況別



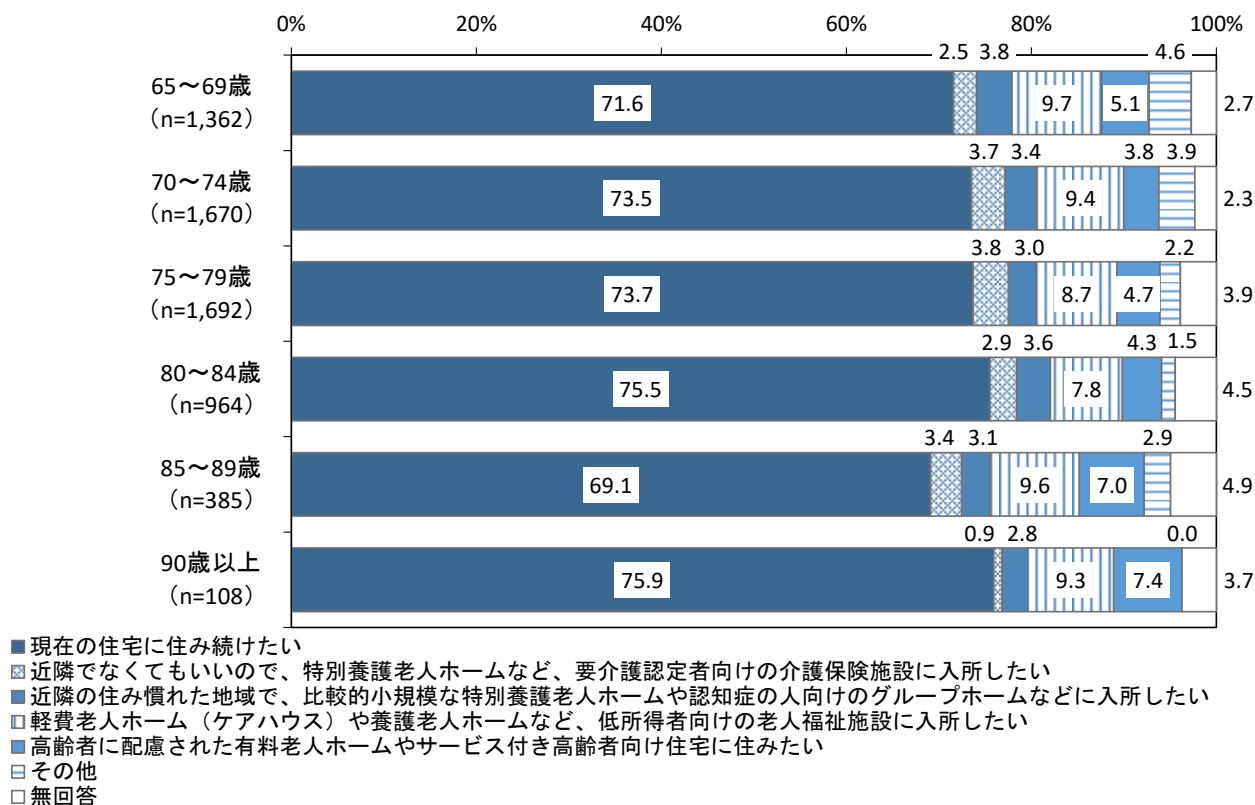
性別でみると、「現在の住宅に住み続けたい」では、男性が76.4%で、女性（70.7%）よりも5.7ポイント高くなっています。

図表 3-3-8 将来どのような住宅（施設）で暮らしたいか 性別



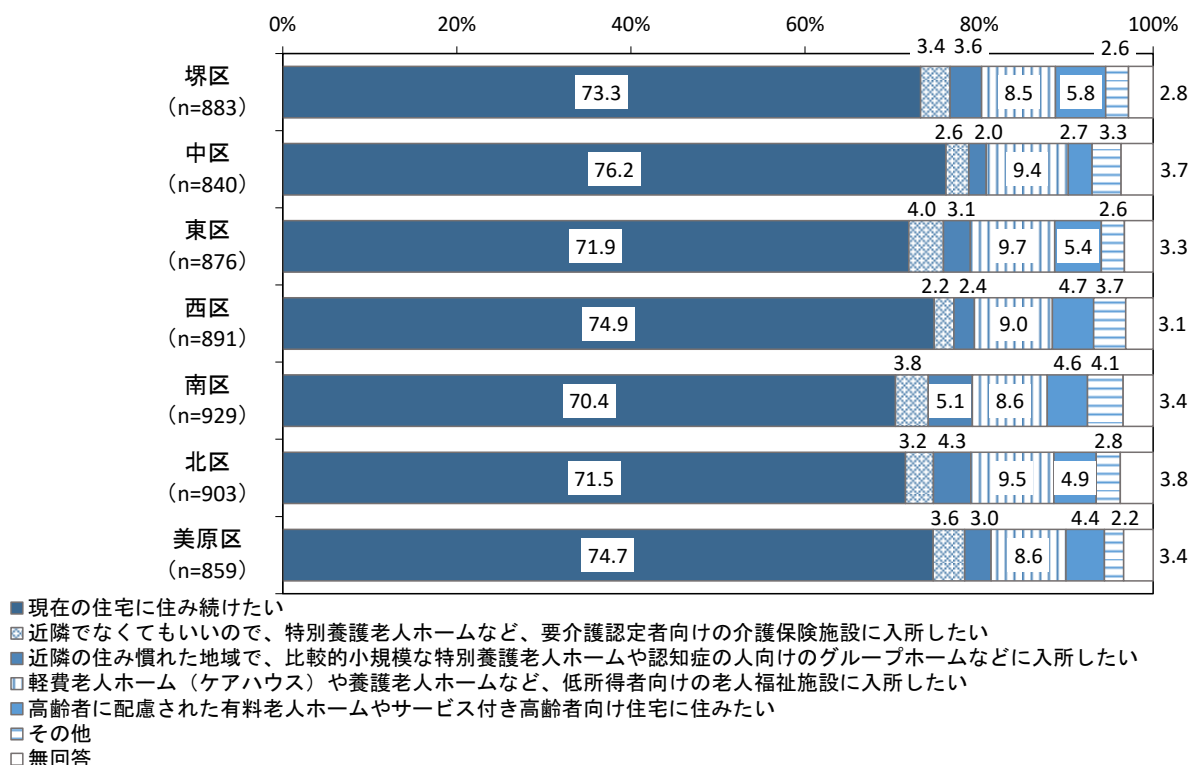
年齢別でみると、「現在の住宅に住み続けたい」では、90歳以上が75.9%で最も高くなっています。

図表 3-3-9 将来どのような住宅（施設）で暮らしたいか 年齢別



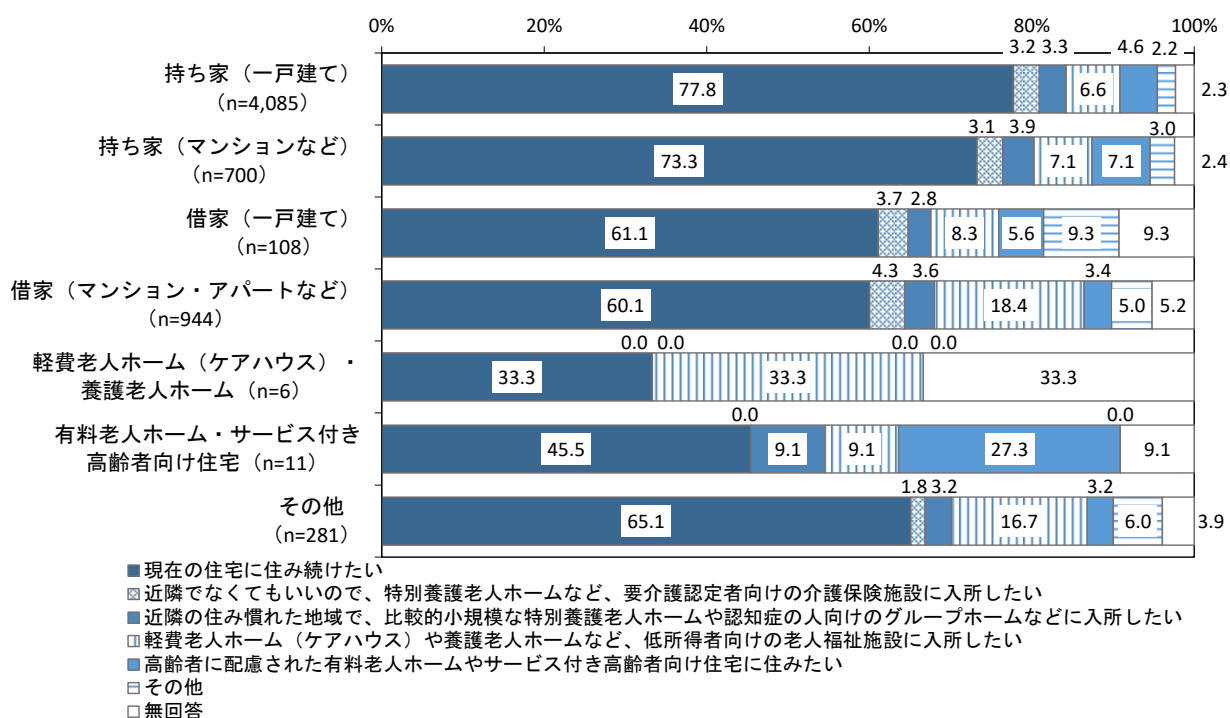
区域別でみると、「現在の住宅に住み続けたい」では、中区が76.2%で最も高くなっています。

図表 3-3-10 将来どのような住宅（施設）で暮らしたいか 区域別



現在の住まい別でみると、「現在の住宅に住み続けたい」では、持ち家（一戸建て）が77.8%で最も高くなっています。

図表 3-3-11 将来どのような住宅（施設）で暮らしたいか 現在の住まい別

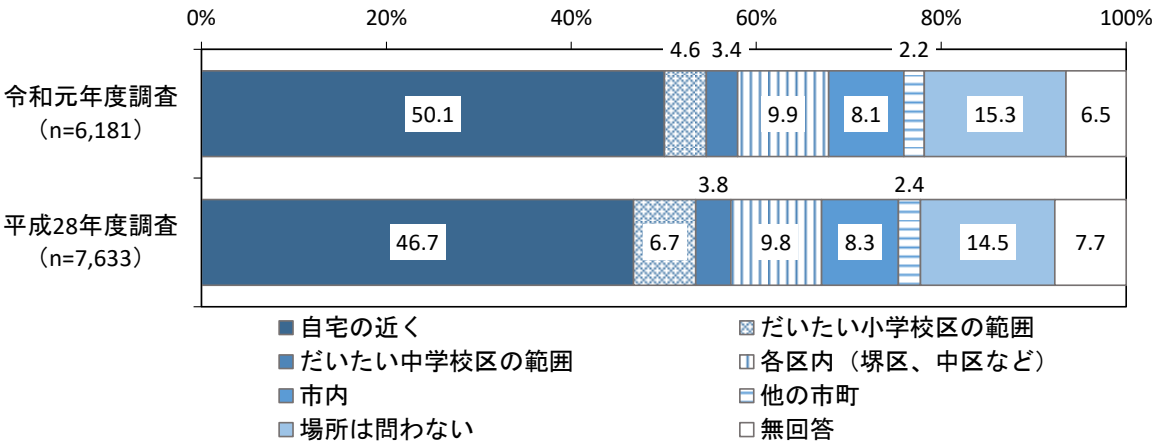


問 2 (3) 高齢者向けの住宅などに住み替えたり、介護保険施設に入所することになったら、希望する場所はどこですか (〇はひとつ)

高齢者住宅に住み替えたり施設に入所した場合の希望する場所については、「自宅の近く」が50.1%で最も高く、次いで「場所は問わない」が15.3%、「各区内 (堺区、中区など)」が9.9%と続いています。

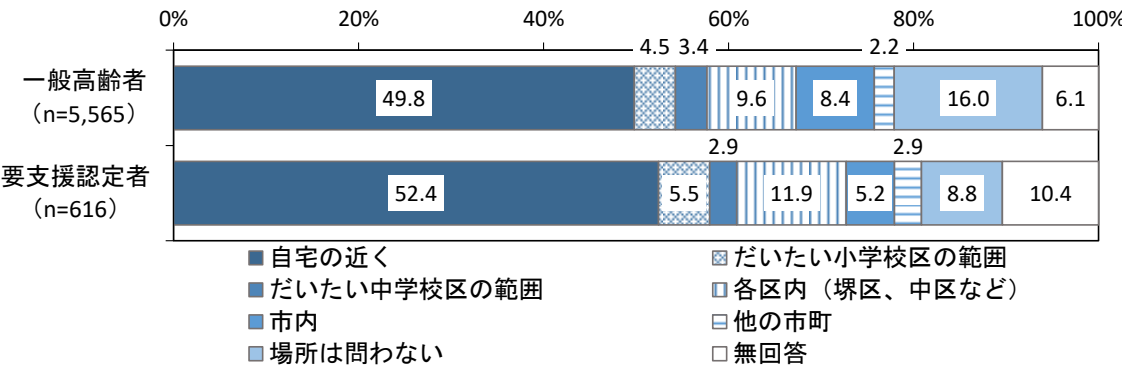
平成28年度調査と比較すると、「自宅の近く」(50.1%)では、平成28年度調査(46.7%)よりも3.4ポイント高くなっています。

図表 3-3-12 高齢者住宅に住み替えたり施設に入所した場合の希望する場所



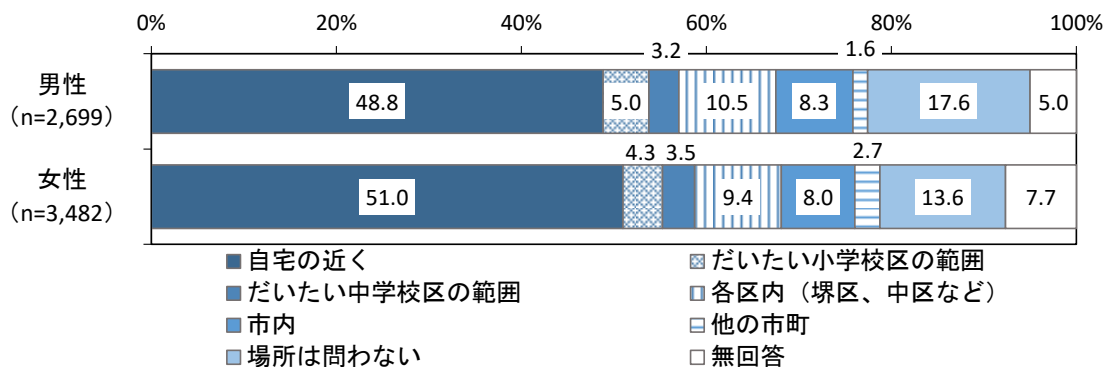
認定状況別でみると、「場所は問わない」では、一般高齢者が16.0%で、要支援認定者(8.8%)よりも7.2ポイント高くなっています。

図表 3-3-13 高齢者住宅に住み替えたり施設に入所した場合の希望する場所 認定状況別



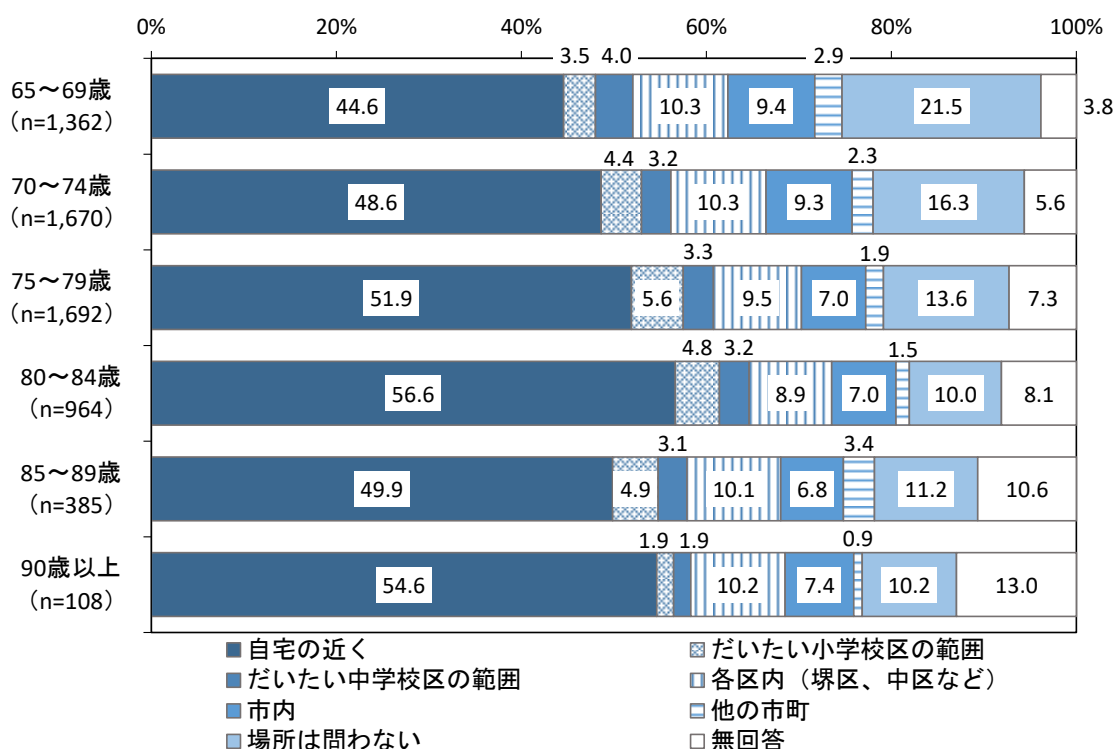
性別でみると、「場所は問わない」では、男性が17.6%で、女性（13.6%）よりも4.0ポイント高くなっています。

図表 3-3-14 高齢者住宅に住み替えたり施設に入所した場合の希望する場所 性別



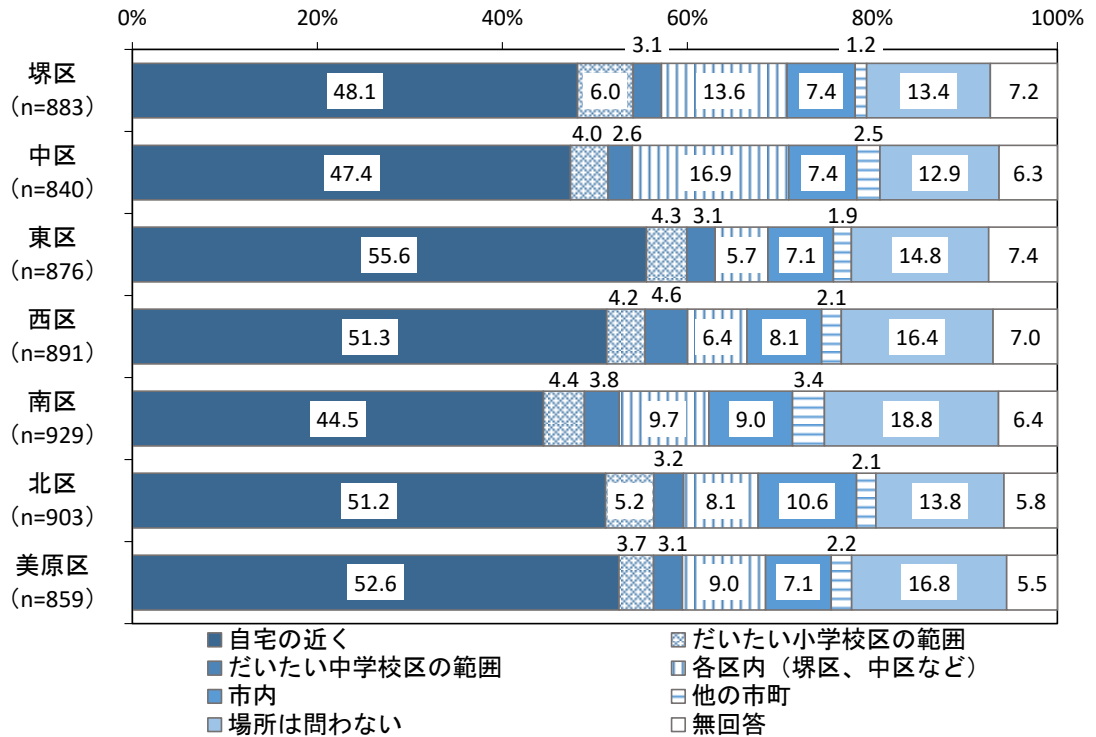
年齢別でみると、「自宅の近く」では、80～84歳が56.6%で最も高く、「場所は問わない」では、65～69歳が21.5%で最も高くなっています。

図表 3-3-15 高齢者住宅に住み替えたり施設に入所した場合の希望する場所 年齢別



区域別でみると、「自宅の近く」では、東区が55.6%で最も高く、「各区内（堺区、中区など）」では、中区が16.9%で最も高くなっています。

図表 3-3-16 高齢者住宅に住み替えたり施設に入所した場合の希望する場所 区域別



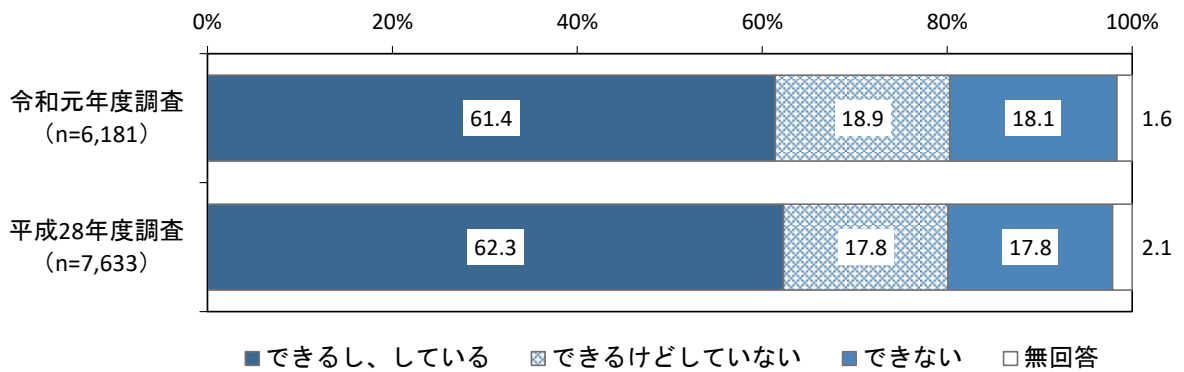
#### 4. からだを動かすことについて

問3(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか(〇はひとつ)

階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについては、「できるし、している」が61.4%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が18.9%、「できない」が18.1%となっています。

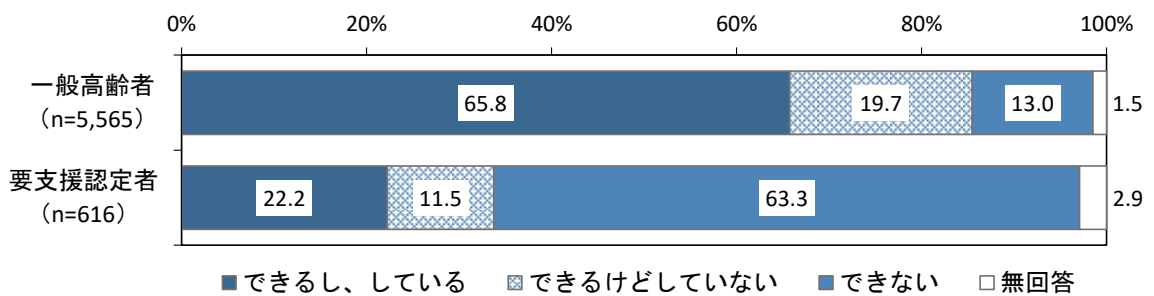
平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-4-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか



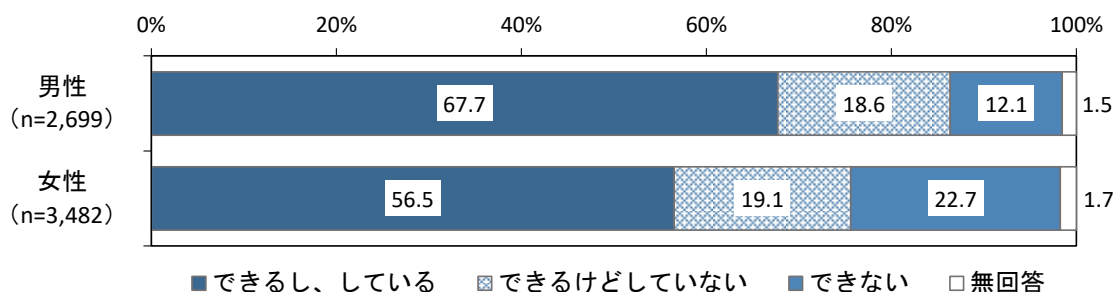
認定状況別でみると、一般高齢者では「できるし、している」が65.8%で最も高く、要支援認定者では「できない」が63.3%で最も高くなっています。

図表 3-4-2 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか 認定状況別



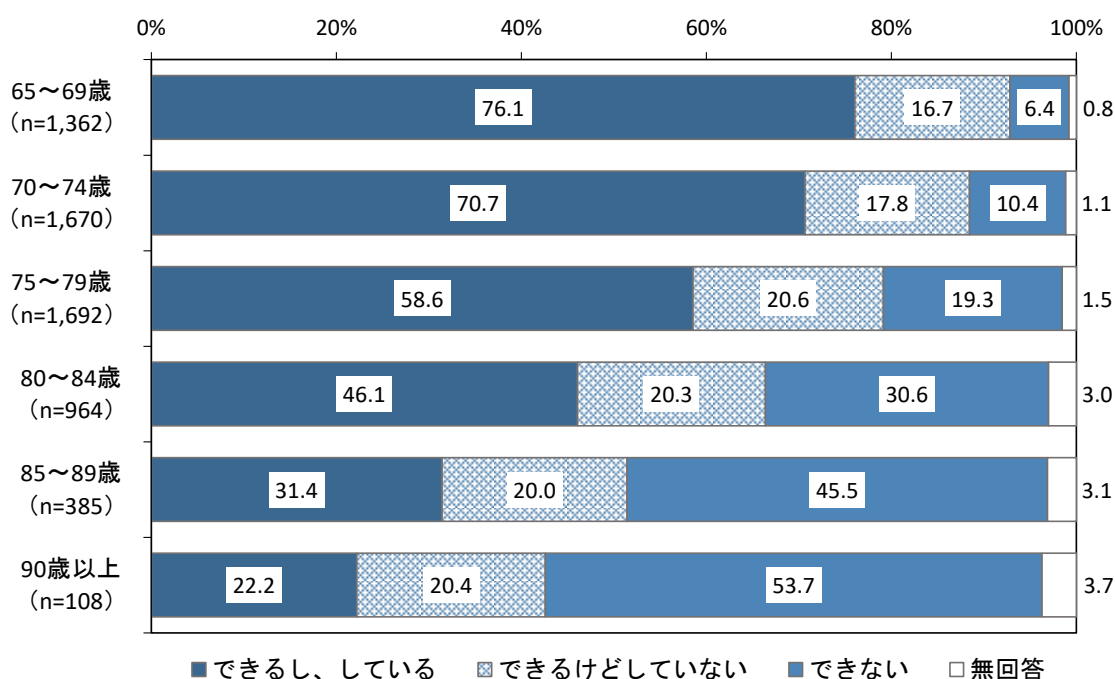
性別でみると、「できるし、している」では、男性が67.7%で、女性（56.5%）よりも11.2ポイント高くなっています。

図表 3-4-3 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか 性別



年齢別でみると、「できない」では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が53.7%で最も高くなっています。

図表 3-4-4 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか 年齢別



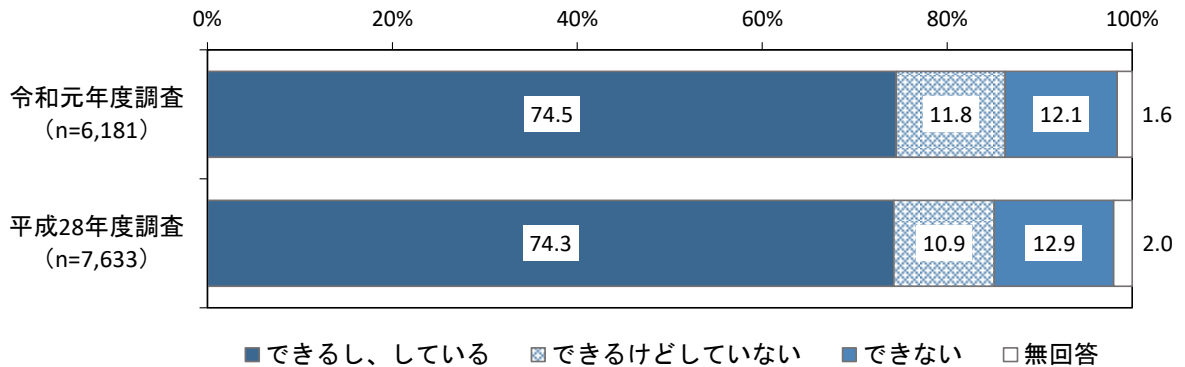


問3(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか(〇はひとつ)

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、「できるし、している」が74.5%で最も高く、次いで「できない」が12.1%、「できるけどしていない」が11.8%となっています。

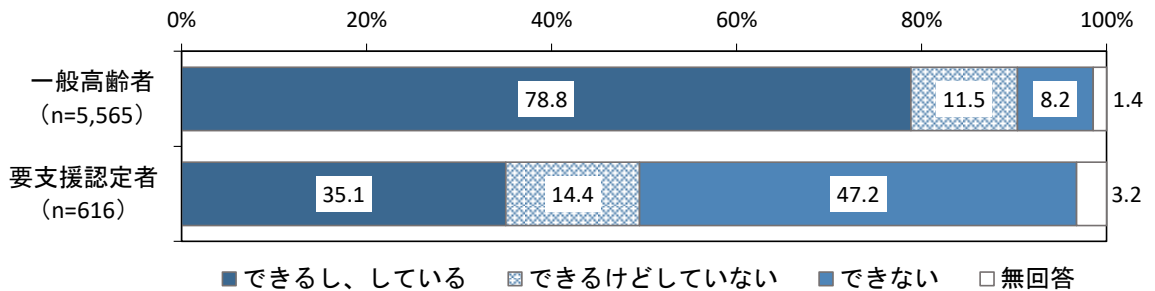
平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-4-5 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか



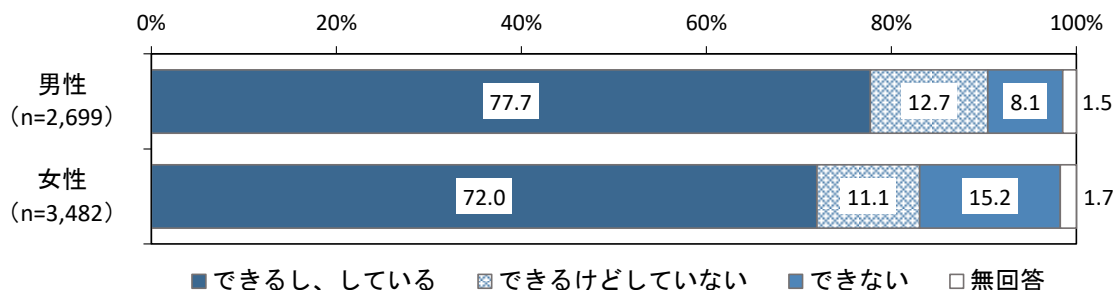
認定状況別でみると、一般高齢者では「できるし、している」が78.8%で最も高く、要支援認定者では「できない」が47.2%で最も高くなっています。

図表 3-4-6 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか 認定状況別



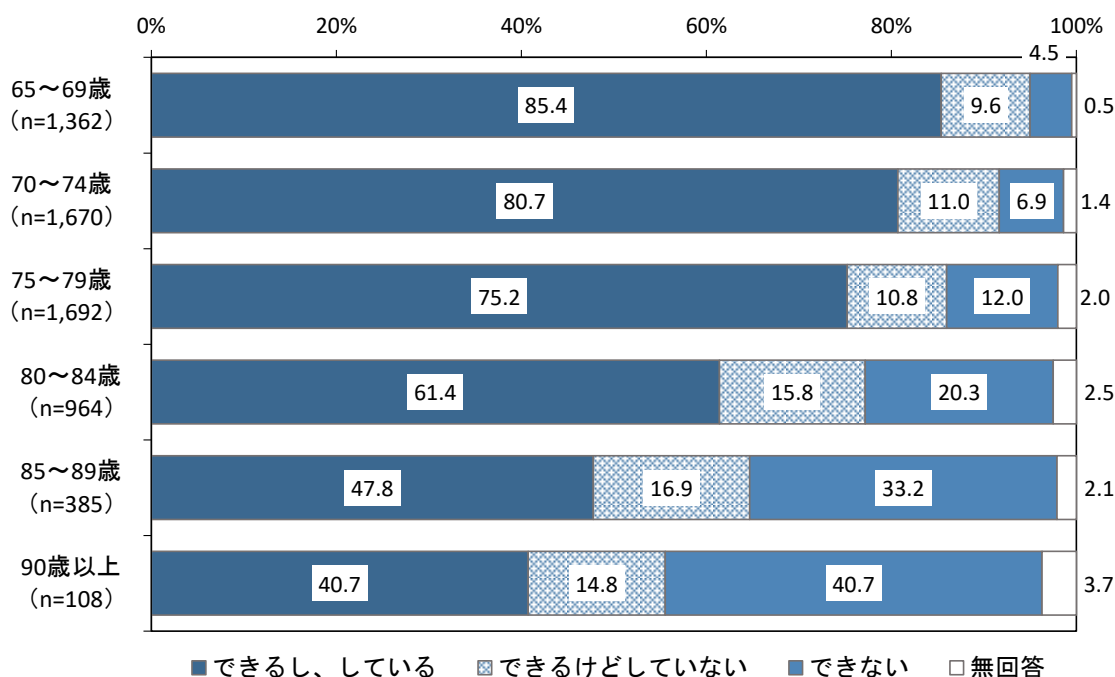
性別でみると、「できるし、している」では、男性が77.7%で、女性（72.0%）よりも5.7ポイント高くなっています。

図表 3-4-7 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか 性別



年齢別でみると、「できない」では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が40.7%で最も高くなっています。

図表 3-4-8 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか 年齢別

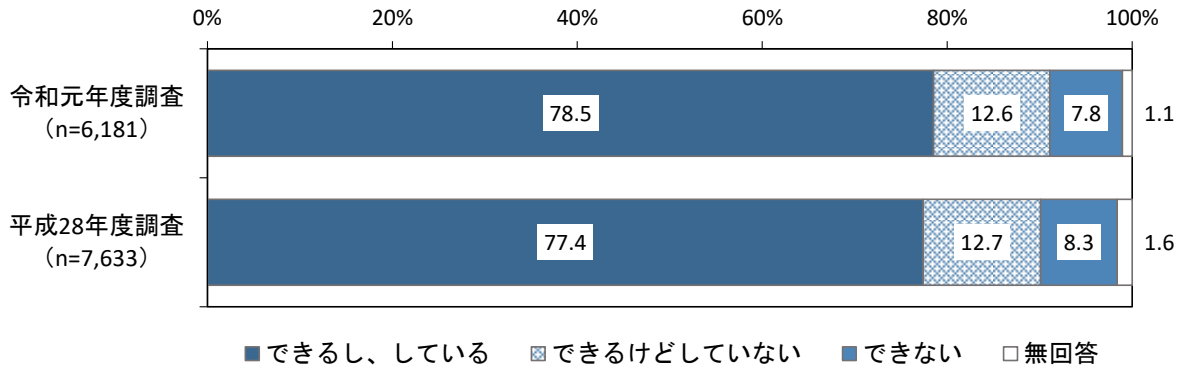


問3 (3) 15分位続けて歩いていますか (〇はひとつ)

15分位続けて歩いているかについては、「できるし、している」が78.5%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が12.6%、「できない」が7.8%となっています。

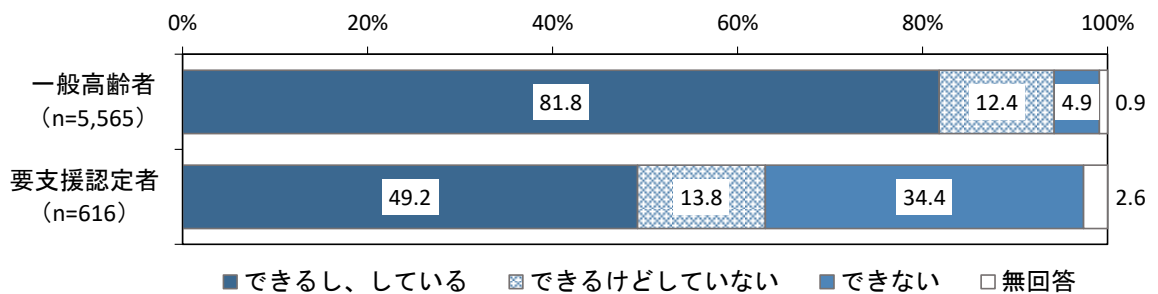
平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-4-9 15分位続けて歩いているか



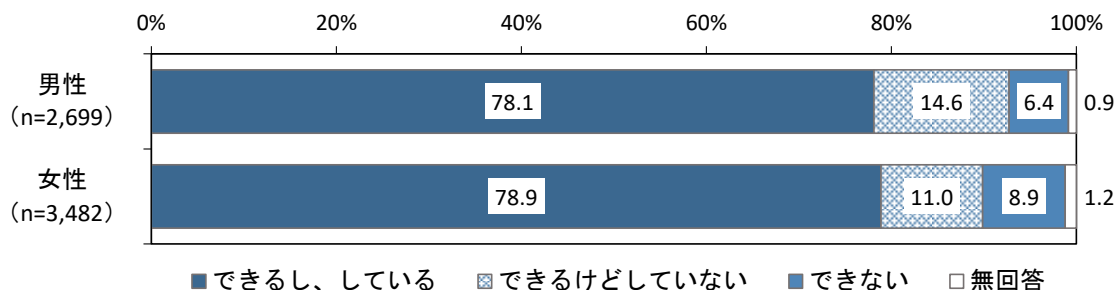
認定状況別でみると、一般高齢者・要支援認定者いずれも「できるし、している」(一般高齢者81.8%、要支援認定者49.2%)の割合が最も高くなっています。

図表 3-4-10 15分位続けて歩いているか 認定状況別



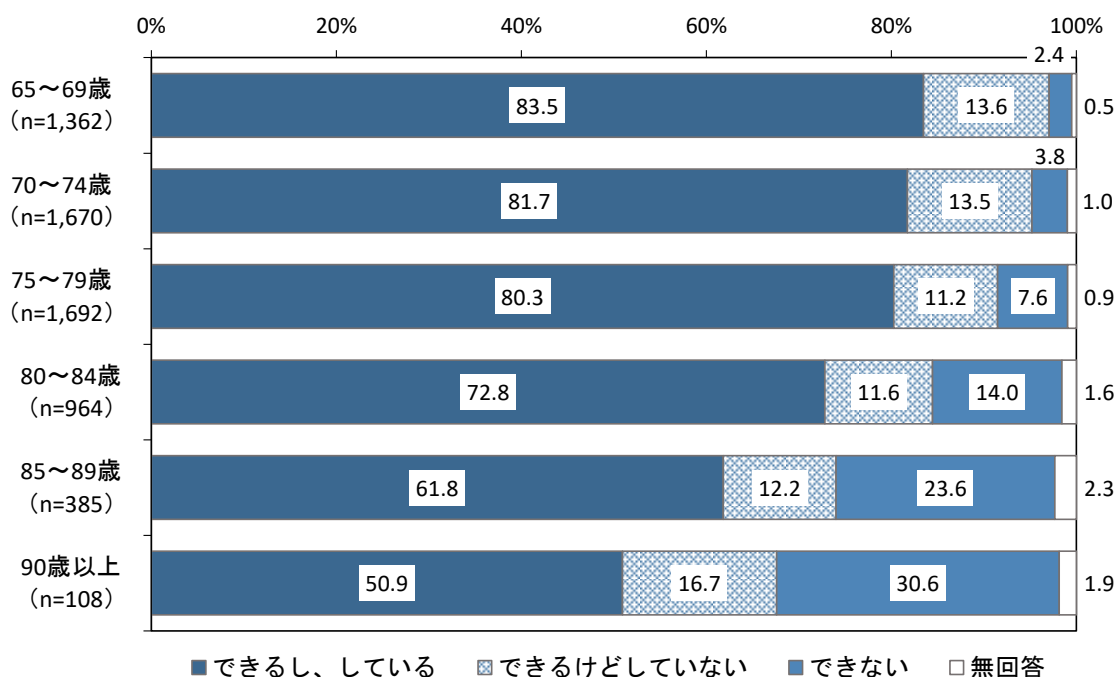
性別でみると、「できるけどしていない」では、男性が14.6%で、女性（11.0%）よりも3.6ポイント高くなっています。

図表 3-4-11 15分位続けて歩いているか 性別



年齢別でみると、「できない」では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が30.6%で最も高くなっています。

図表 3-4-12 15分位続けて歩いているか 年齢別

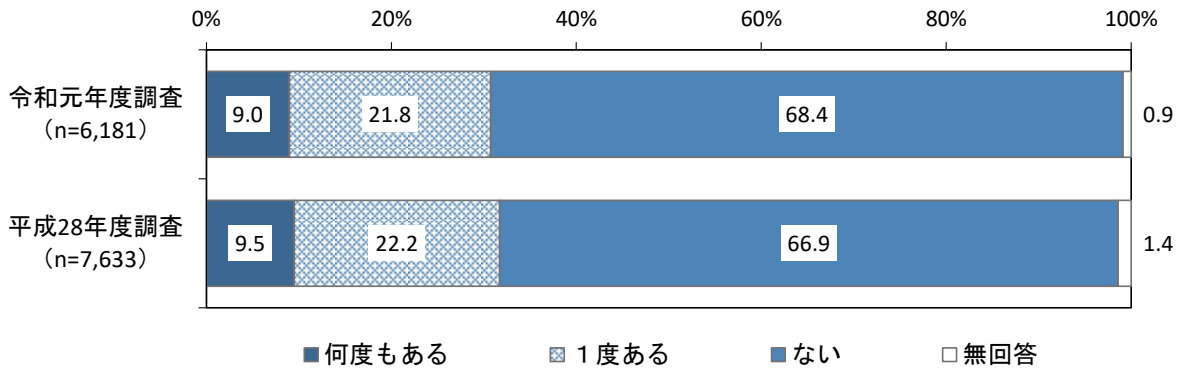


問3(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか(〇はひとつ)

過去1年間に転んだ経験があるかについては、「ない」が68.4%で最も高く、次いで「1度ある」が21.8%、「何でもある」が9.0%となっており、『ある』(「何でもある」と「1度ある」の合計)は30.8%となっています。

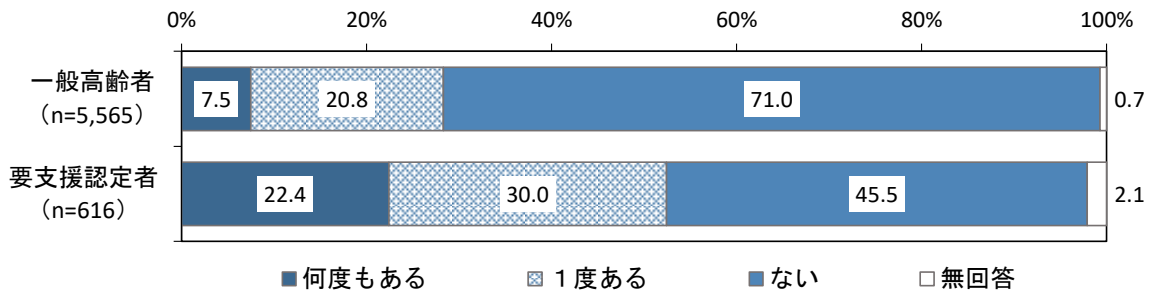
平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-4-13 過去1年間に転んだ経験があるか



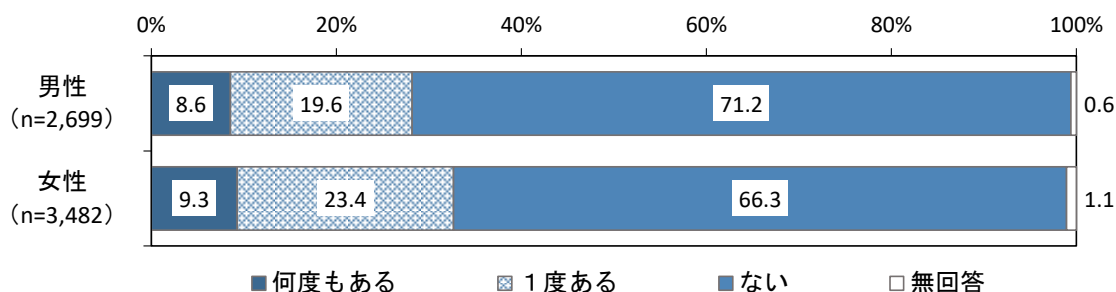
認定状況別でみると、『ある』では、要支援認定者が52.4%で、一般高齢者(28.3%)よりも24.1ポイント高くなっています。

図表 3-4-14 過去1年間に転んだ経験があるか 認定状況別



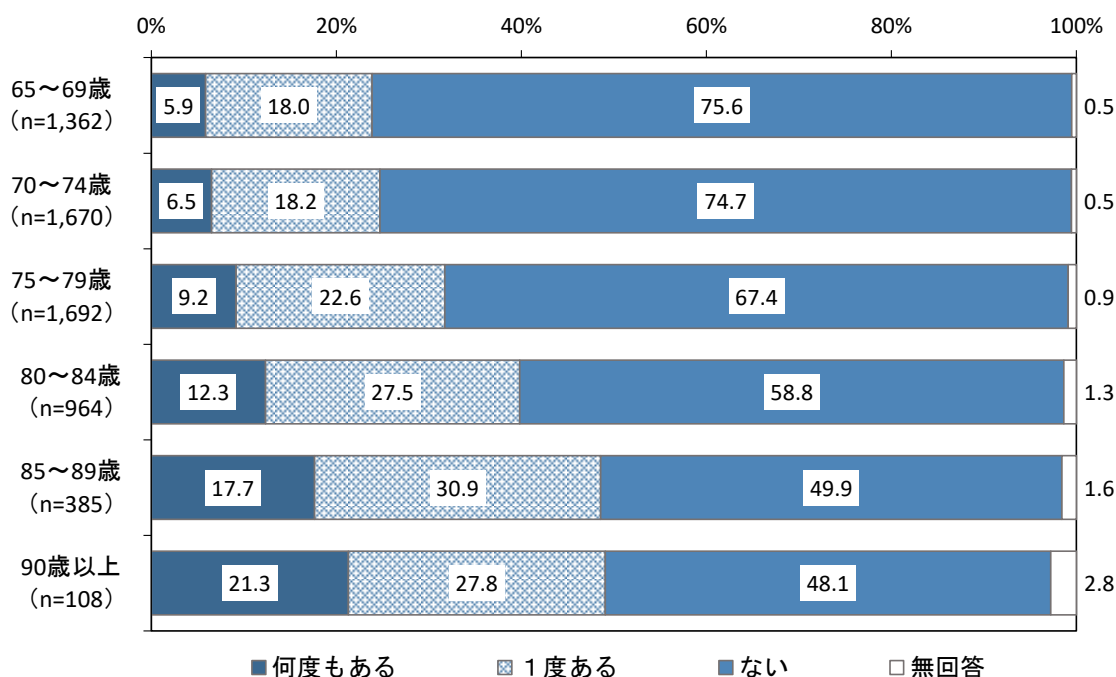
性別でみると、『ある』では、女性が32.7%で、男性（28.2%）よりも4.5ポイント高くなっています。

図表 3-4-15 過去1年間に転んだ経験があるか 性別



年齢別でみると、『ある』では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が49.1%で最も高くなっています。

図表 3-4-16 過去1年間に転んだ経験があるか 年齢別

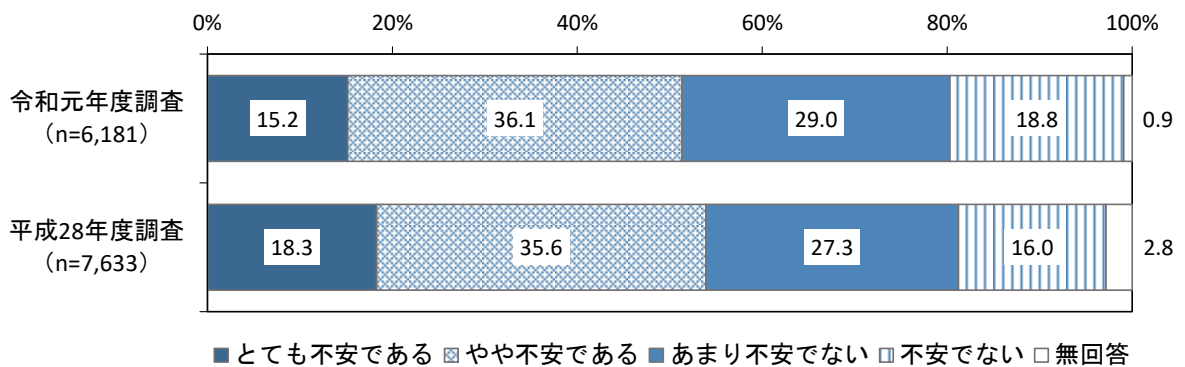


問3 (5) 転倒に対する不安は大きいですか (〇はひとつ)

転倒に対する不安は大きいかについては、「やや不安である」が36.1%で最も高く、次いで「あまり不安でない」が29.0%、「不安でない」が18.8%と続いており、『不安である』(「とても不安である」と「やや不安である」の合計)は51.3%、『不安でない』(「あまり不安でない」と「不安でない」の合計)は47.8%となっています。

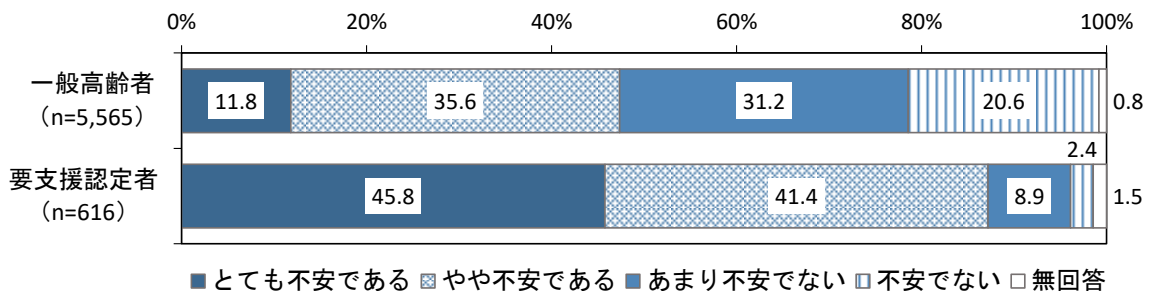
平成28年度調査と比較すると、『不安でない』(47.8%)では、平成28年度調査(43.3%)よりも4.5ポイント高くなっています。

図表 3-4-17 転倒に対する不安は大きいか



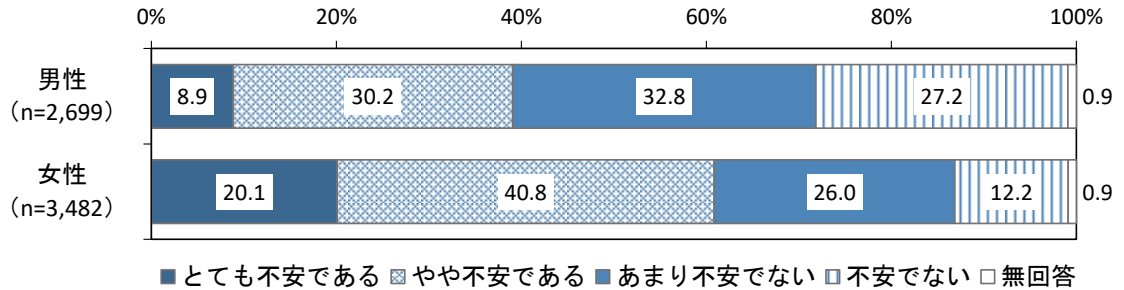
認定状況別でみると、『不安である』では、要支援認定者が87.2%で、一般高齢者(47.4%)よりも39.8ポイント高くなっています。

図表 3-4-18 転倒に対する不安は大きいか 認定状況別



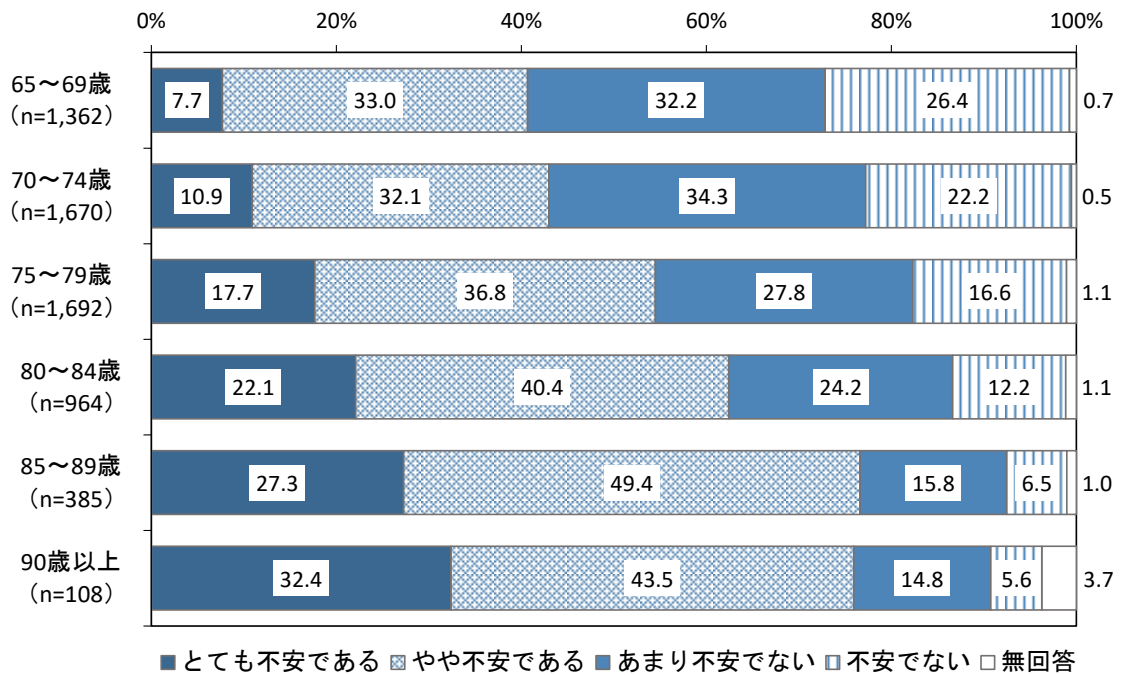
性別でみると、『不安である』では、女性が60.9%で、男性（39.1%）よりも21.8ポイント高くなっています。

図表 3-4-19 転倒に対する不安は大きいか 性別



年齢別でみると、『不安である』では、年齢が上がるにつれて概ね割合が高くなっており、85～89歳が76.7%で最も高くなっています。

図表 3-4-20 転倒に対する不安は大きいか 年齢別



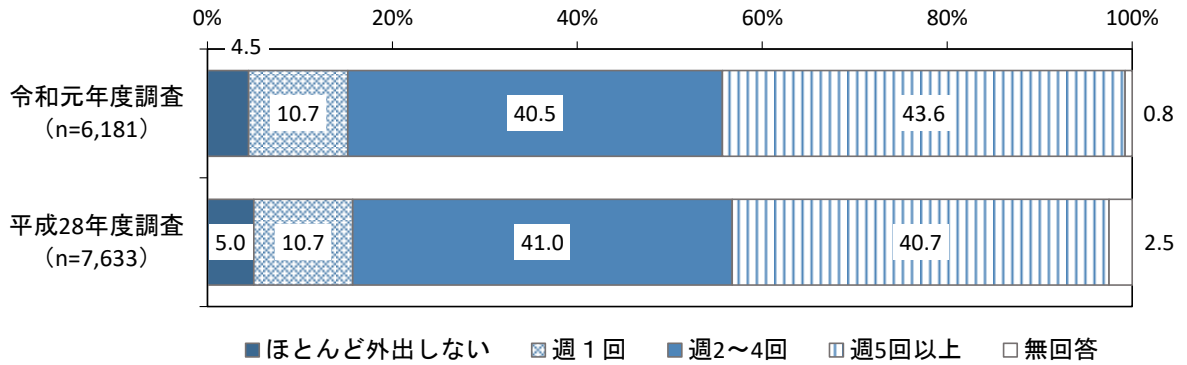


問3(6) 週に1回以上は外出していますか(〇はひとつ)

週に1回以上は外出しているかについては、「週5回以上」が43.6%で最も高く、次いで「週2~4回」が40.5%、「週1回」が10.7%と続いています。

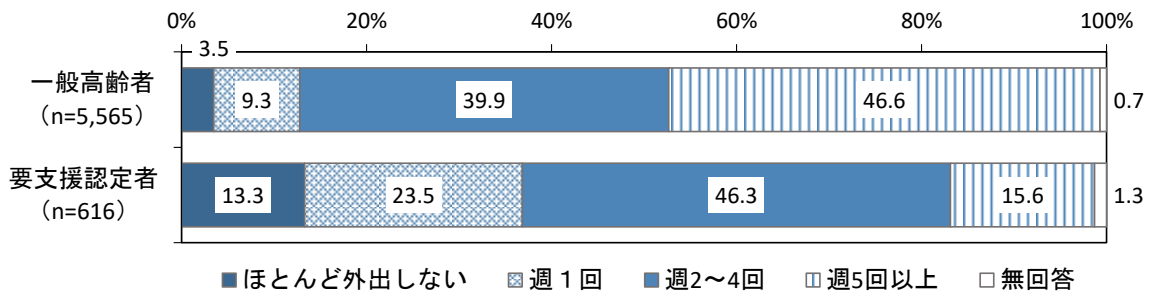
平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-4-21 週に1回以上は外出しているか



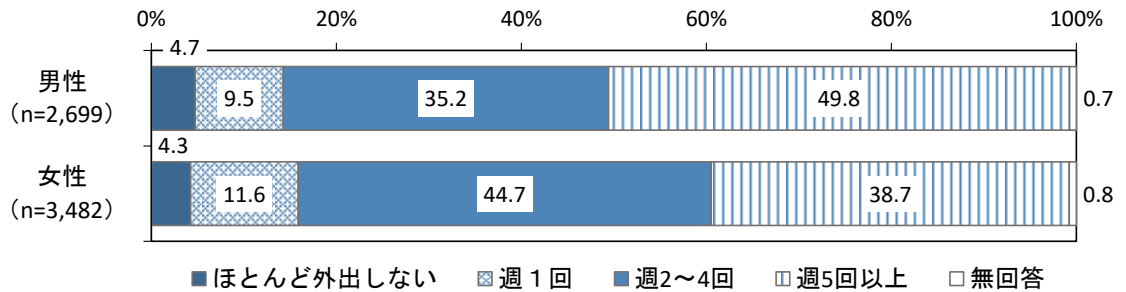
認定状況別でみると、『週1回以下』(「ほとんど外出しない」と「週1回」の合計)では、要支援認定者が36.8%で、一般高齢者(12.8%)よりも24.0ポイント高くなっています。

図表 3-4-22 週に1回以上は外出しているか 認定状況別



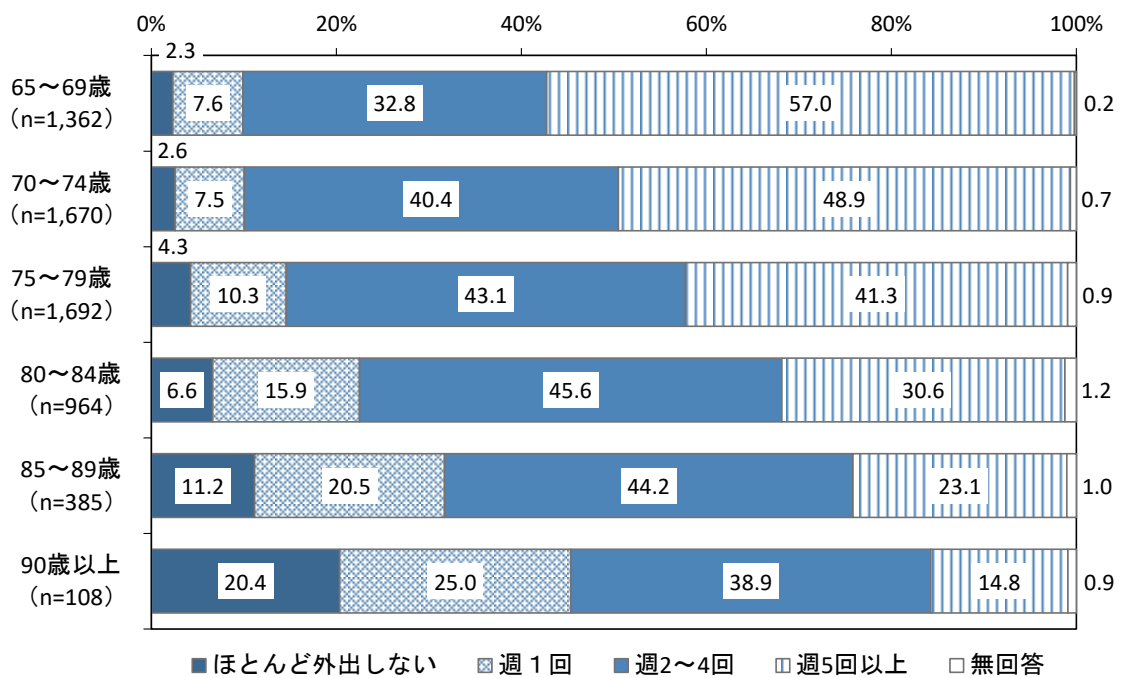
性別でみると、男性では「週5回以上」が49.8%で最も高く、女性では「週2～4回」が44.7%で最も高くなっています。

図表 3-4-23 週に1回以上は外出しているか 性別



年齢別でみると、『週1回以下』では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が45.4%で最も高くなっています。

図表 3-4-24 週に1回以上は外出しているか 年齢別

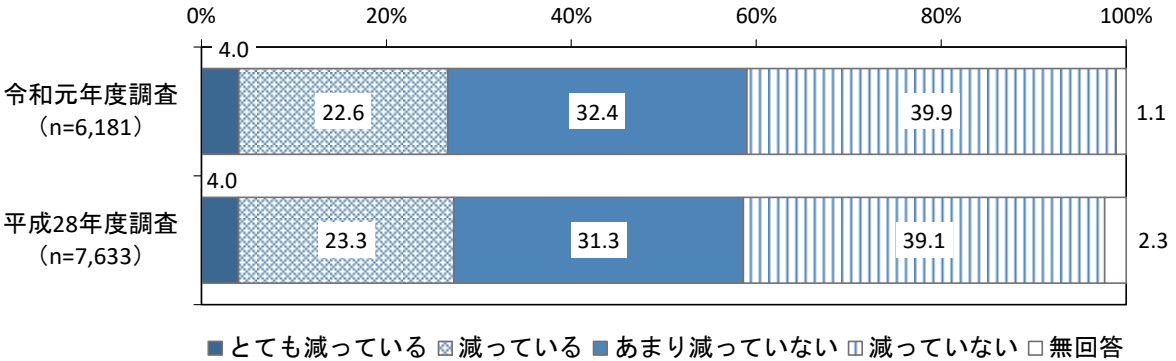


問3(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか(〇はひとつ)

昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、「減っていない」が39.9%で最も高く、次いで「あまり減っていない」が32.4%、「減っている」が22.6%と続いており、『減っている』(「とても減っている」と「減っている」の合計)は26.6%、『減っていない』(「あまり減っていない」と「減っていない」の合計)は72.3%となっています。

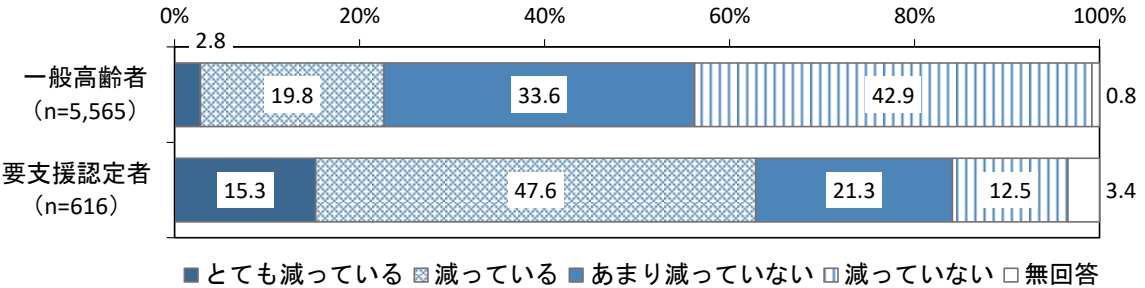
平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-4-25 昨年と比べて外出の回数が減っているか



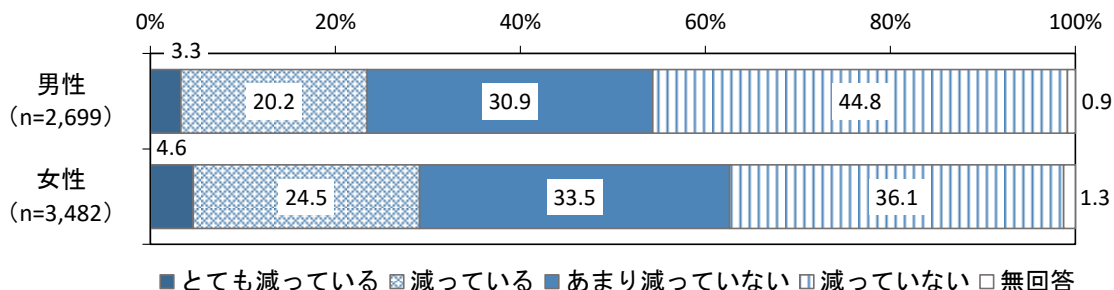
認定状況別でみると、『減っている』では、要支援認定者が62.9%で、一般高齢者(22.6%)よりも40.3ポイント高くなっています。

図表 3-4-26 昨年と比べて外出の回数が減っているか 認定状況別



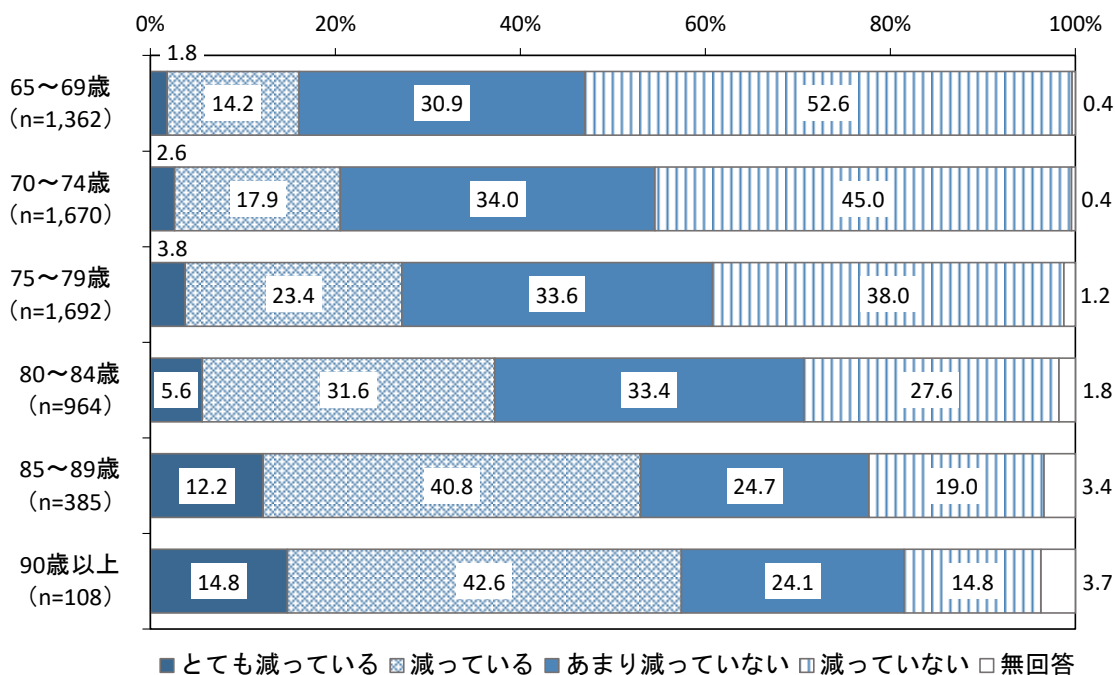
性別でみると、『減っている』では、女性が29.1%で、男性(23.5%)よりも5.6ポイント高くなっています。

図表 3-4-27 昨年と比べて外出の回数が減っているか 性別



年齢別でみると、『減っている』では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が57.4%で最も高くなっています。

図表 3-4-28 昨年と比べて外出の回数が減っているか 年齢別



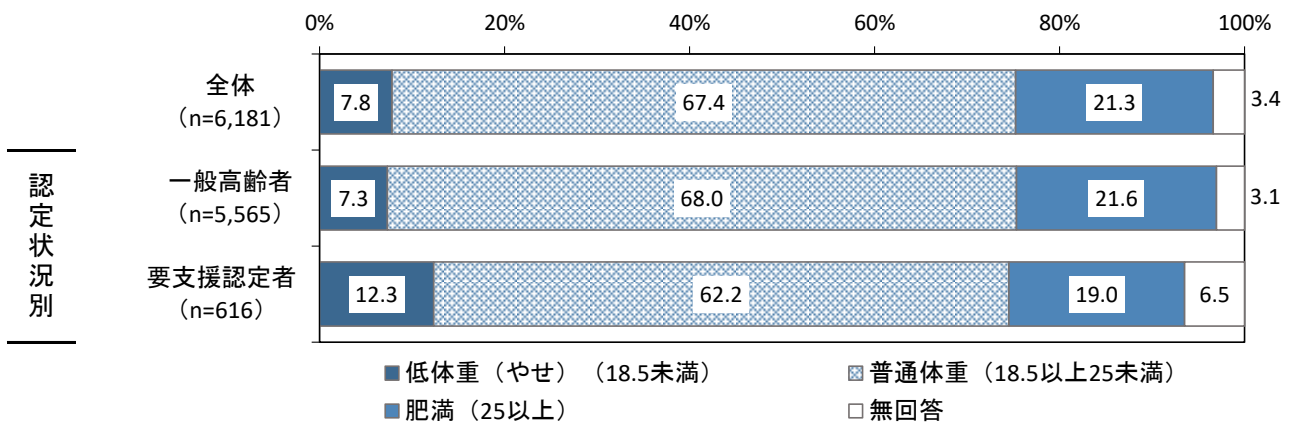
## 5. 食べることについて

問 4 (1)	身長・体重（数字を記入）
---------	--------------

BMIについては、「普通体重（18.5以上25未満）」が67.4%で最も高く、次いで「肥満（25以上）」が21.3%、「低体重（やせ）（18.5未満）」が7.8%となっています。

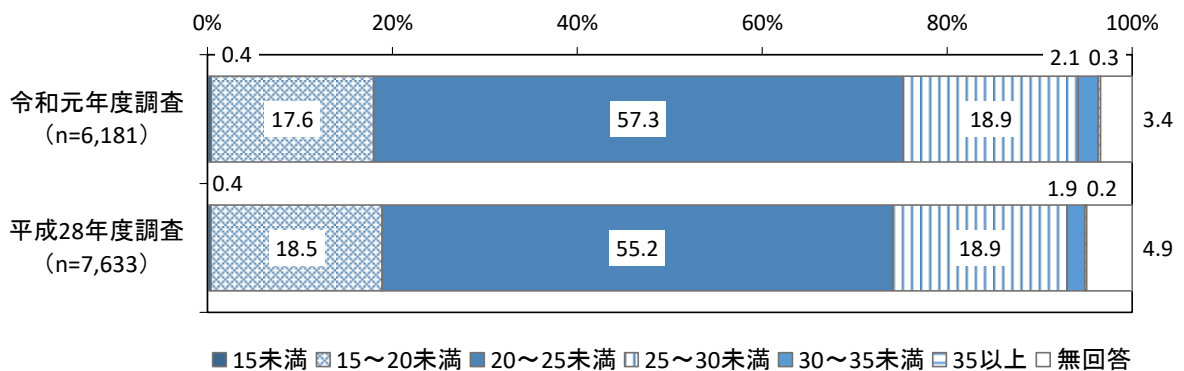
認定状況別でみると、「低体重（やせ）（18.5未満）」では、要支援認定者が12.3%で、一般高齢者（7.3%）よりも5.0ポイント高くなっています。

図表 3-5-1 BMI（身長・体重より算出）



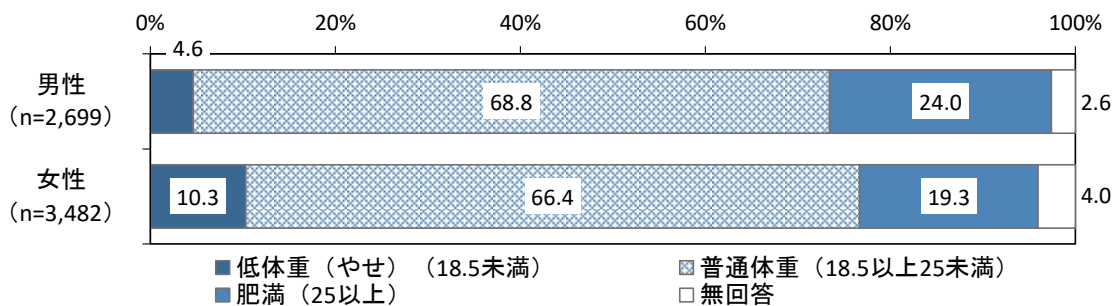
平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-5-2 BMI（身長・体重より算出） 平成28年度調査との比較



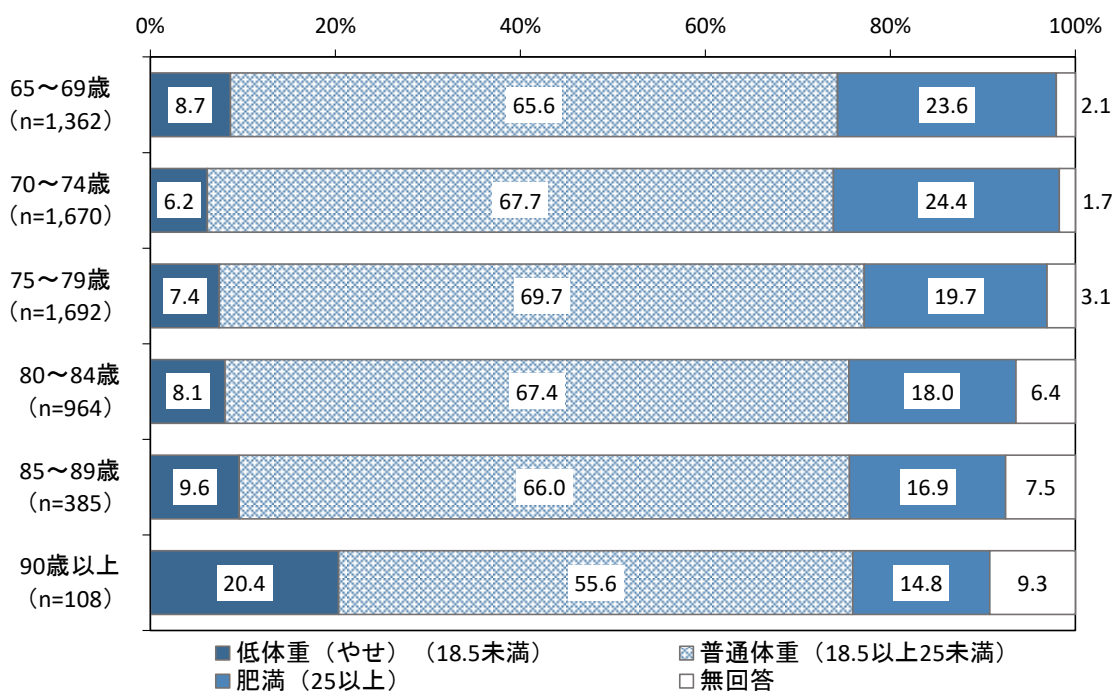
性別でみると、「低体重（やせ）（18.5未満）」では、女性が10.3%で、一般高齢者（4.6%）よりも5.7ポイント高くなっています。

図表 3-5-3 BMI（身長・体重より算出） 性別



年齢別でみると、「低体重（やせ）（18.5未満）」では、70歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が20.4%で最も高くなっています。

図表 3-5-4 BMI（身長・体重より算出） 年齢別

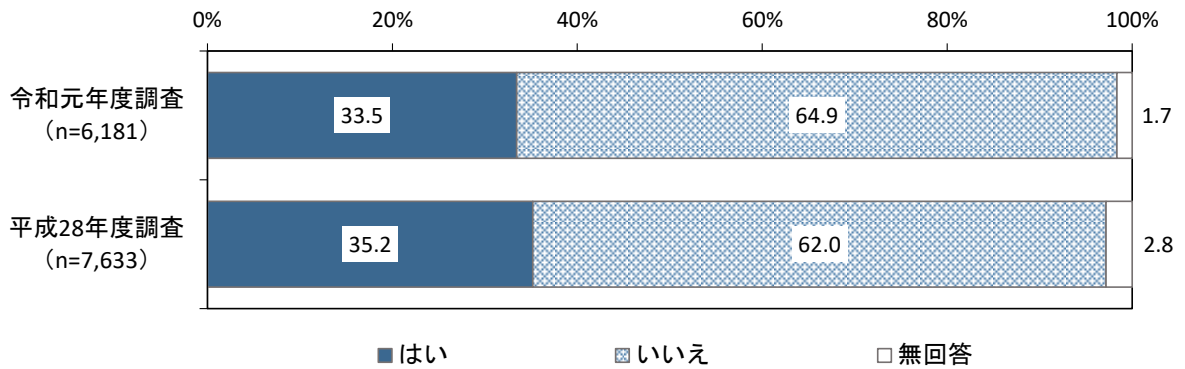


問 4 (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (〇はひとつ)

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについては、「はい」が 33.5%、「いいえ」が 64.9%となっています。

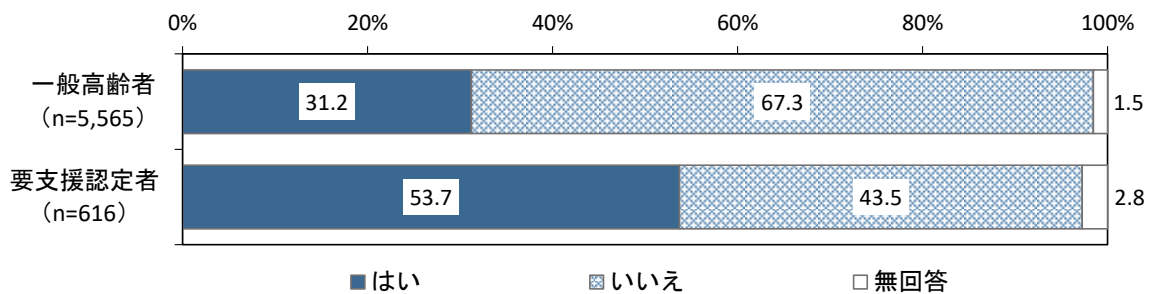
平成 28 年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-5-5 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか



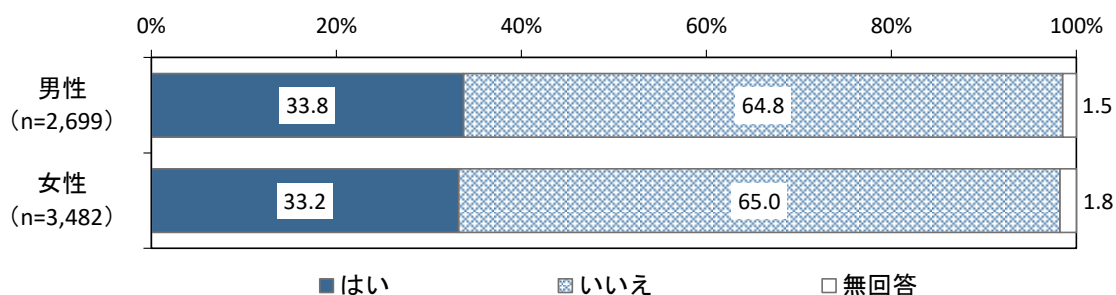
認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が 53.7%で、一般高齢者 (31.2%) よりも 22.5 ポイント高くなっています。

図表 3-5-6 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか 認定状況別



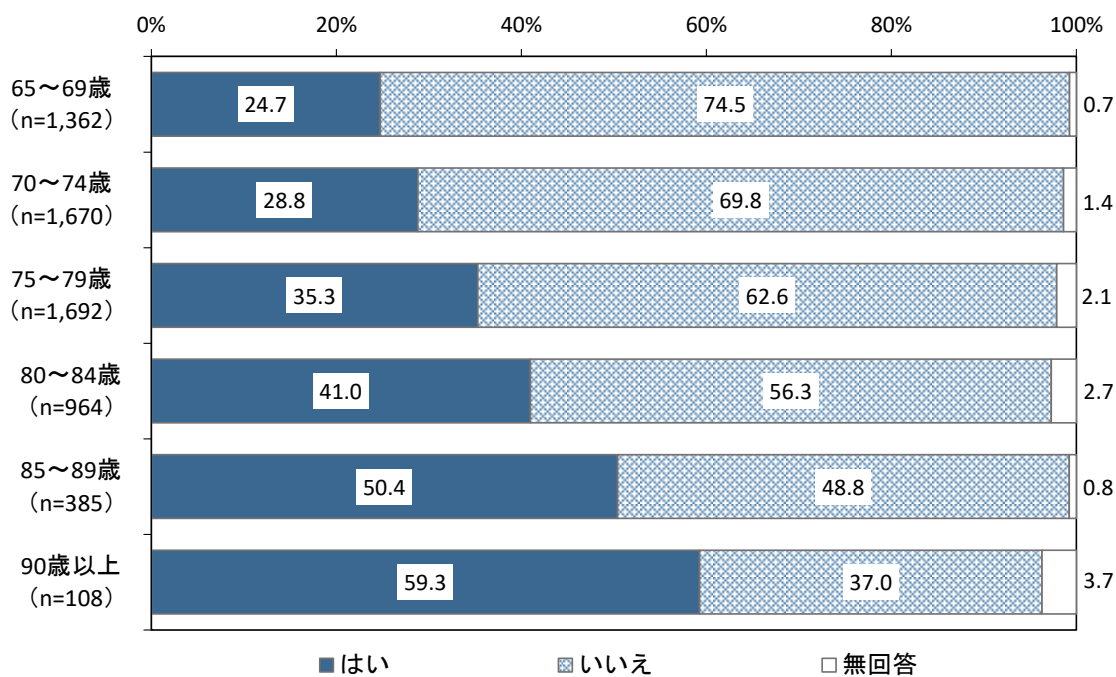
性別でみると、大きな差はみられません。

図表 3-5-7 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか 性別



年齢別でみると、「はい」では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が59.3%で最も高くなっています。

図表 3-5-8 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか 年齢別



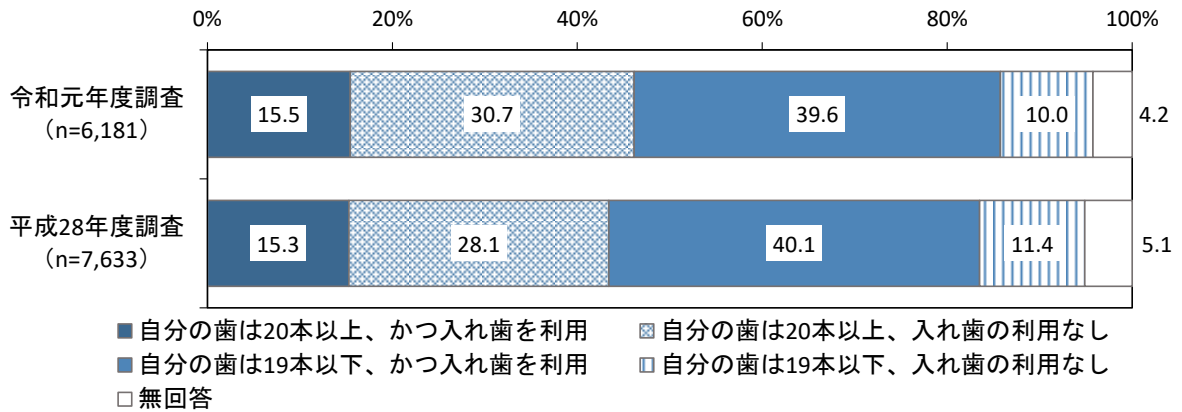


問 4 (3) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください (〇はひとつ)

歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 39.6%で最も高く、次いで「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 30.7%、「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」が 15.5%と続いています。

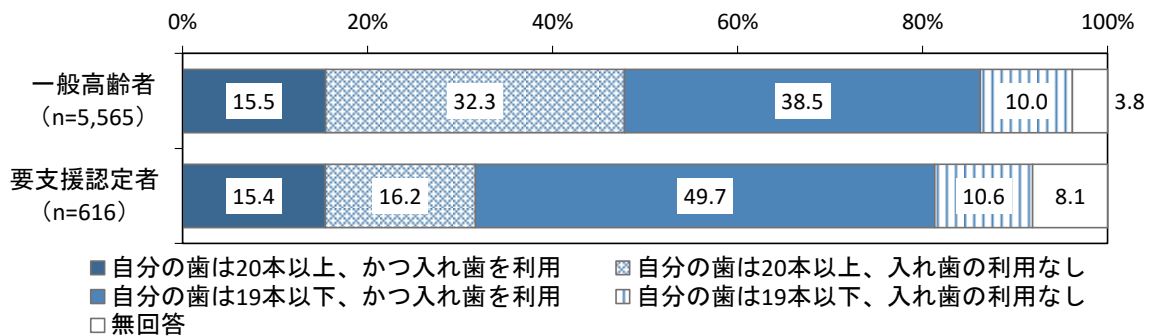
平成 28 年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-5-9 歯の数と入れ歯の利用状況



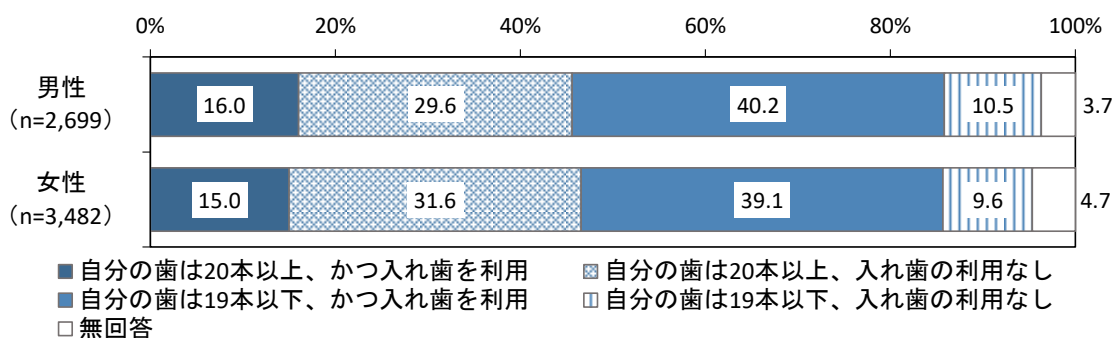
認定状況別でみると、『19 本以下』（「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし」の合計）では、要支援認定者が 60.3%で、一般高齢者（48.5%）よりも 11.8 ポイント高くなっています。

図表 3-5-10 歯の数と入れ歯の利用状況 認定状況別



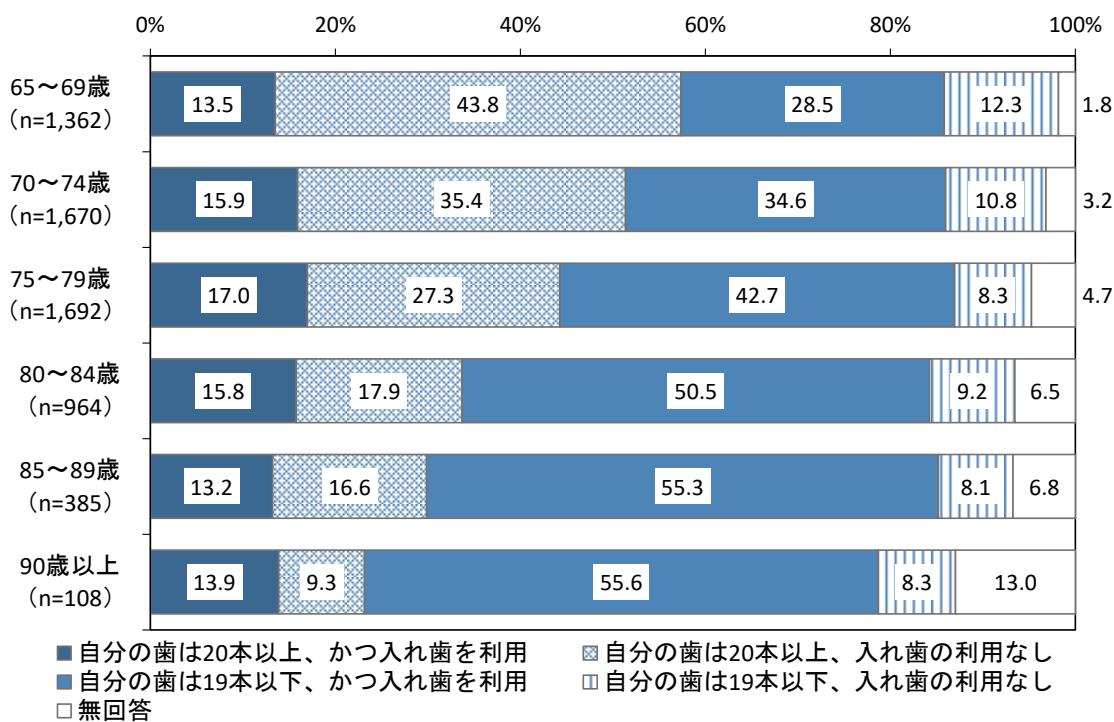
性別でみると、大きな差はみられません。

図表 3-5-11 歯の数と入れ歯の利用状況 性別



年齢別でみると、『19本以下』では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が63.9%で最も高くなっています。

図表 3-5-12 歯の数と入れ歯の利用状況 年齢別

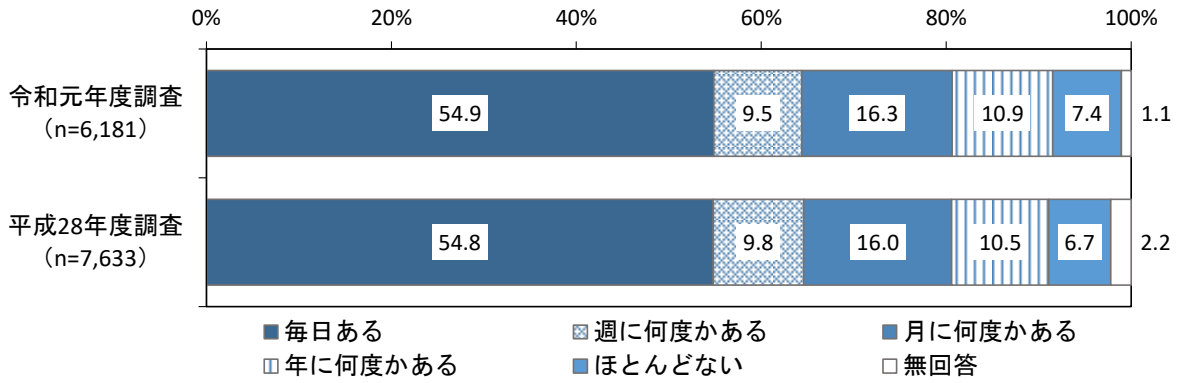


問 4 (4) どなたかと食事をとにもする機会がありますか (〇はひとつ)

誰かと食事をとにもする機会はあるかについては、「毎日ある」が 54.9%で最も高く、次いで「月に何度かある」が 16.3%、「年に何度かある」が 10.9%と続いています。

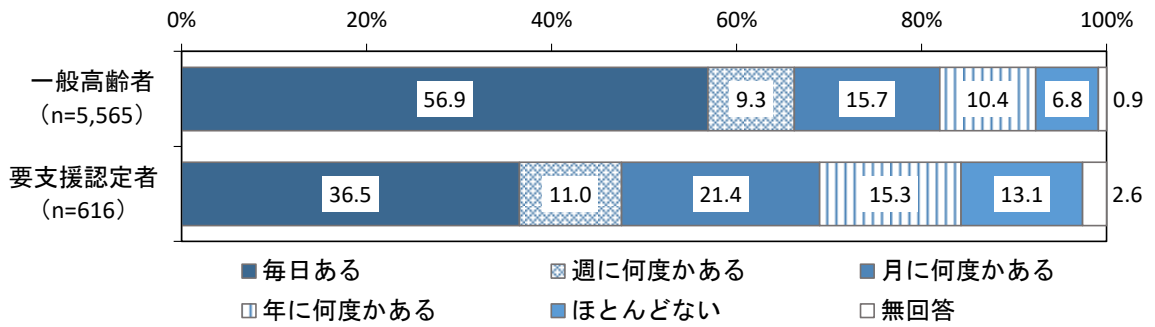
平成 28 年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-5-13 誰かと食事をとにもする機会はあるか



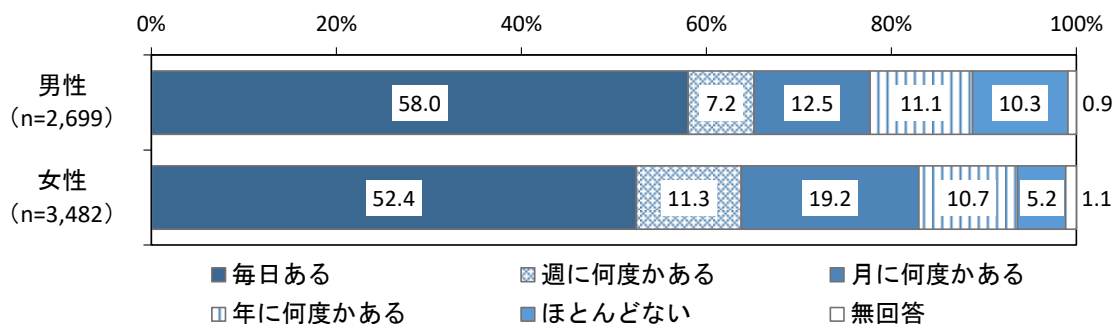
認定状況別でみると、「毎日ある」では、一般高齢者が 56.9%で、要支援認定者 (36.5%) よりも 20.4 ポイント高くなっています。

図表 3-5-14 誰かと食事をとにもする機会はあるか 認定状況別



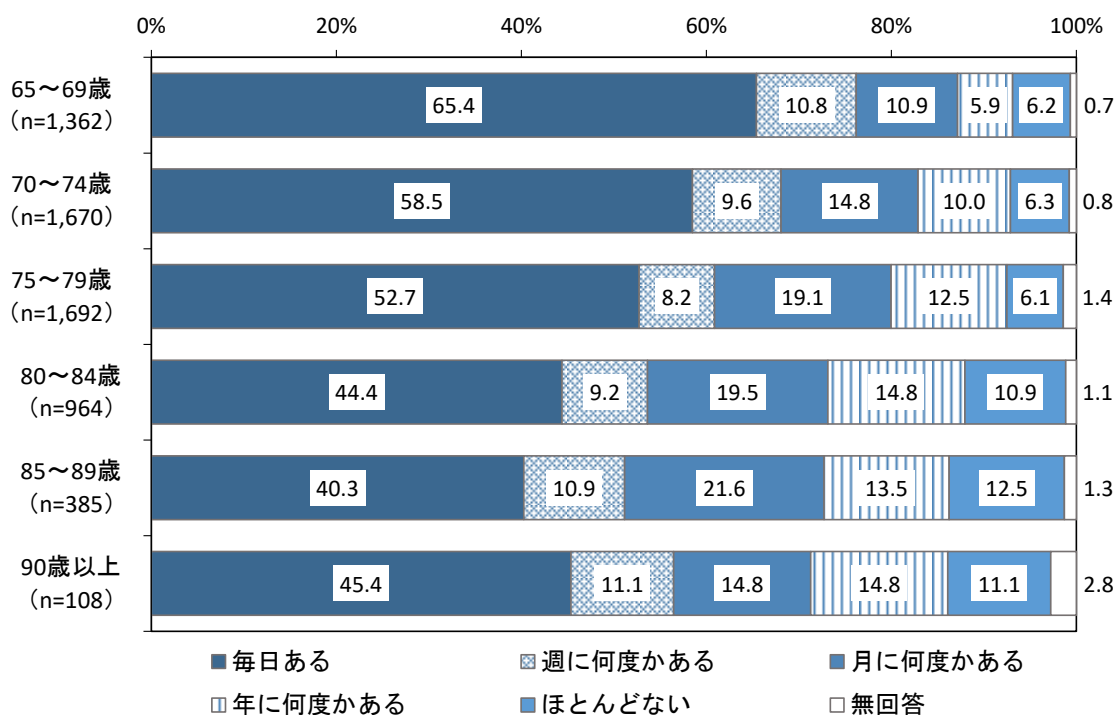
性別でみると、「毎日ある」では、男性が 58.0%で、女性（52.4%）よりも 5.6 ポイント高くなっています。

図表 3-5-15 誰かと食事をとる機会はあるか 性別



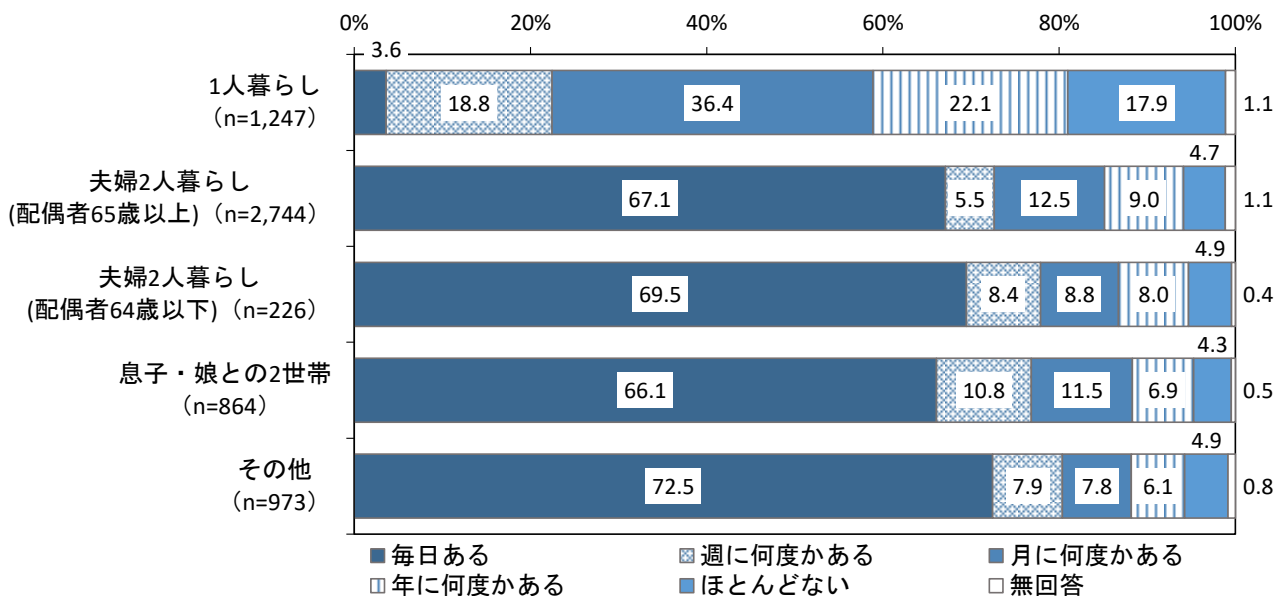
年齢別でみると、「毎日ある」では、89歳以下で年齢が上がるにつれて割合が低くなっており、85～89歳が 40.3%で最も低くなっています。

図表 3-5-16 誰かと食事をとる機会はあるか 年齢別



家族構成別でみると、「1人暮らし」では「月に何度かある」が36.4%で最も高く、「ほとんどない」が17.9%となっています。

図表 3-5-17 誰かと食事をとにもする機会はあるか 家族構成別

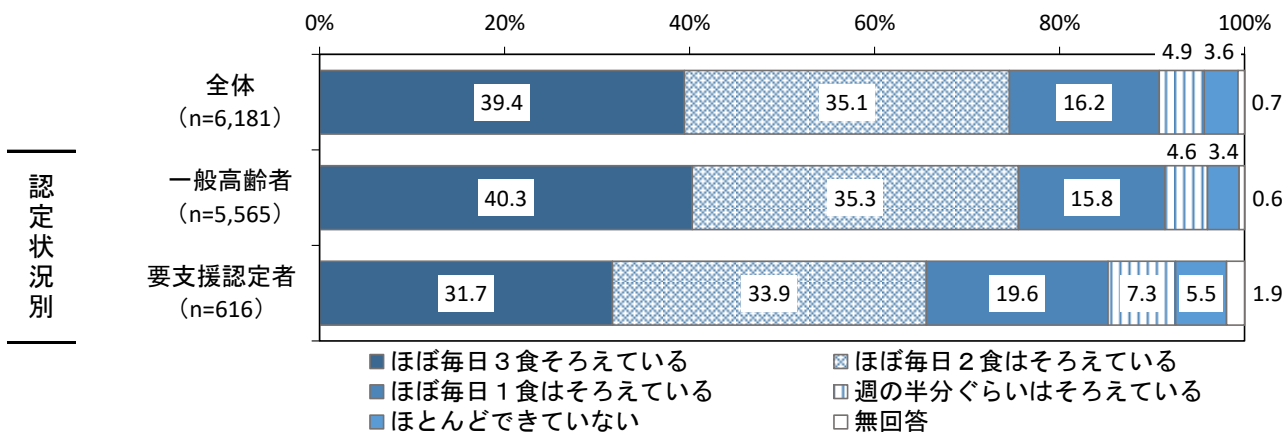


問 4 (5) 主食・主菜・副菜をそろえた食事を毎日していますか (〇はひとつ)

主食・主菜・副菜をそろえて毎日食べているかについては、「ほぼ毎日3食そろえている」が39.4%で最も高く、次いで「ほぼ毎日2食はそろえている」が35.1%、「ほぼ毎日1食はそろえている」が16.2%と続いており、『ほぼ毎日2食以上』（「ほぼ毎日3食そろえている」と「ほぼ毎日2食はそろえている」の合計）は74.5%となっています。

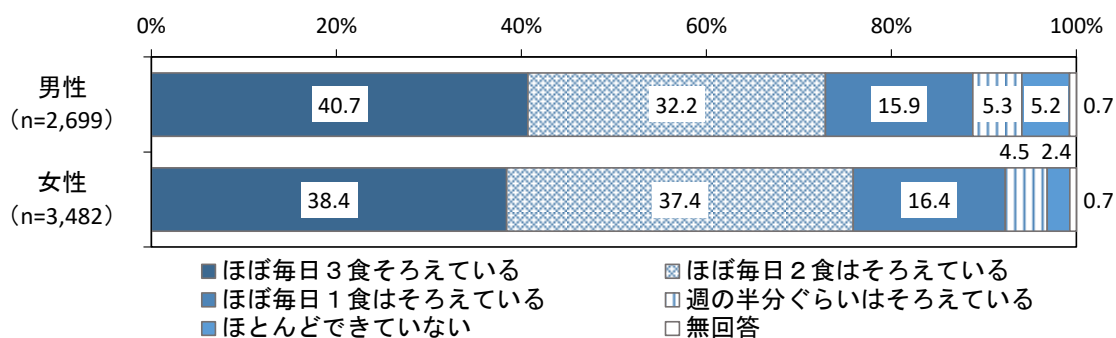
認定状況別でみると、『ほぼ毎日2食以上』では、一般高齢者が75.6%で、要支援認定者(65.6%)よりも10.0ポイント高くなっています。

図表 3-5-18 主食・主菜・副菜をそろえて毎日食べているか



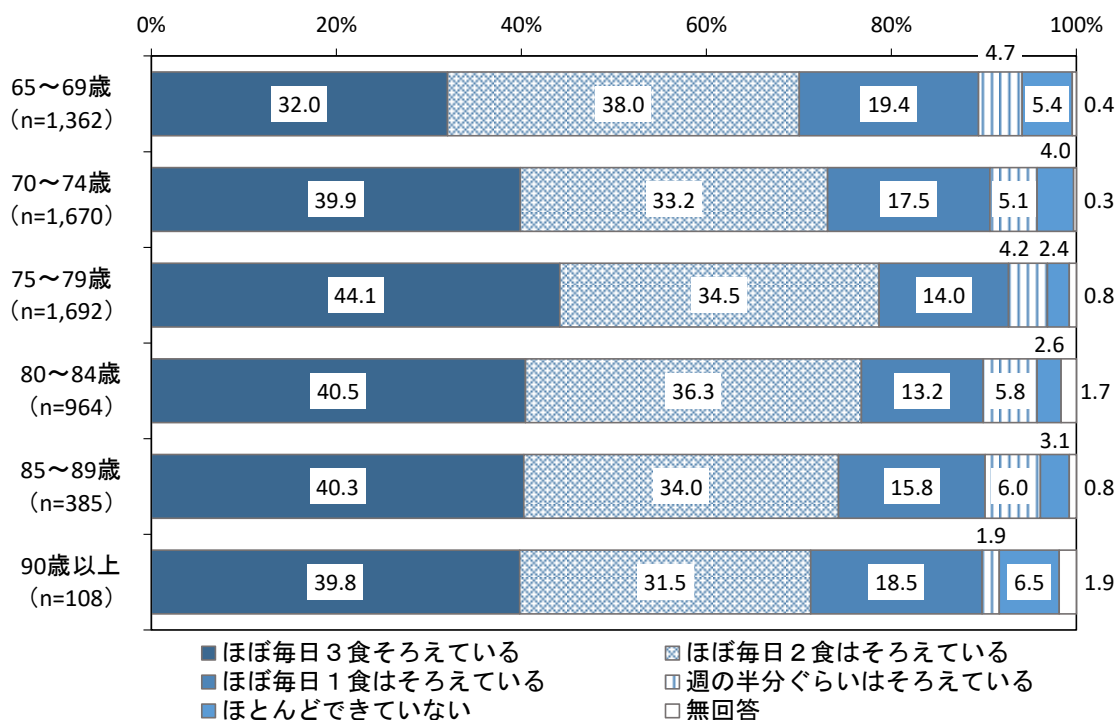
性別でみると、『ほぼ毎日2食以上』では、男性が72.9%、女性が75.8%となっています。

図表 3-5-19 主食・主菜・副菜をそろえて毎日食べているか 性別



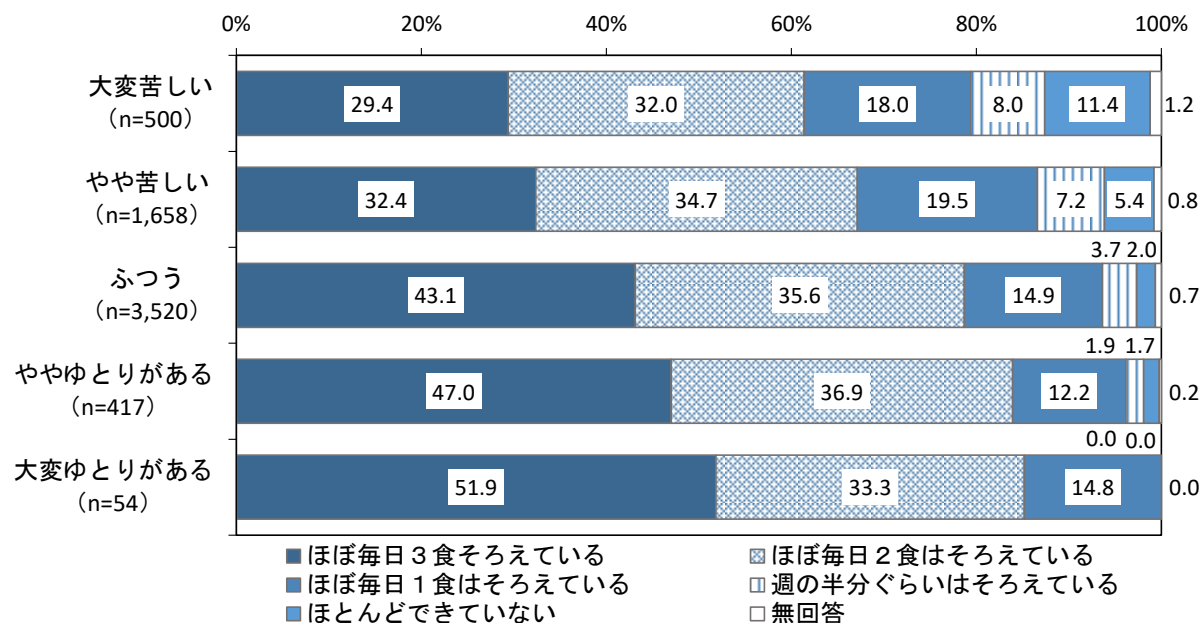
年齢別でみると、『ほぼ毎日2食以上』では、75～79歳が78.6%で最も高く、65～69歳が70.0%で最も低くなっています。

図表 3-5-20 主食・主菜・副菜をそろえて毎日食べているか 年齢別



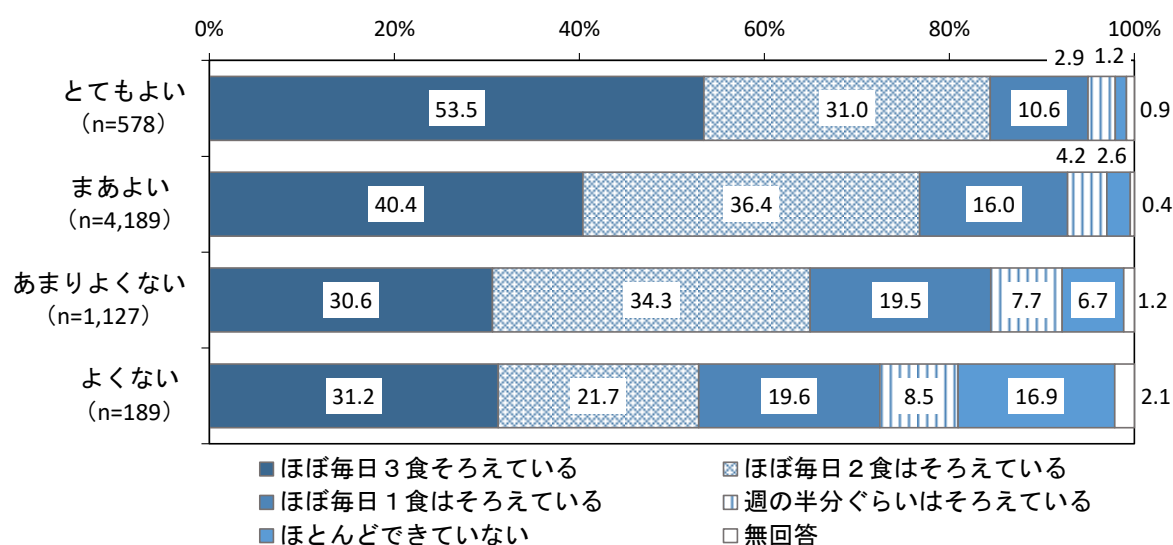
主観的な経済状態別でみると、『ほぼ毎日2食以上』では、経済的に余裕があると感じる度合いが強くなるにつれて割合が高くなっており、「大変ゆとりがある」が85.2%で最も高くなっています。

図表 3-5-21 主食・主菜・副菜をそろえて毎日食べているか 主観的な経済状態別



主観的健康感別でみると、『ほぼ毎日2食以上』では、健康であると感じる度合いが強くなるにつれて割合が高くなっており、「とてもよい」が84.5%で最も高くなっています。

図表 3-5-22 主食・主菜・副菜をそろえて毎日食べているか 主観的健康感別

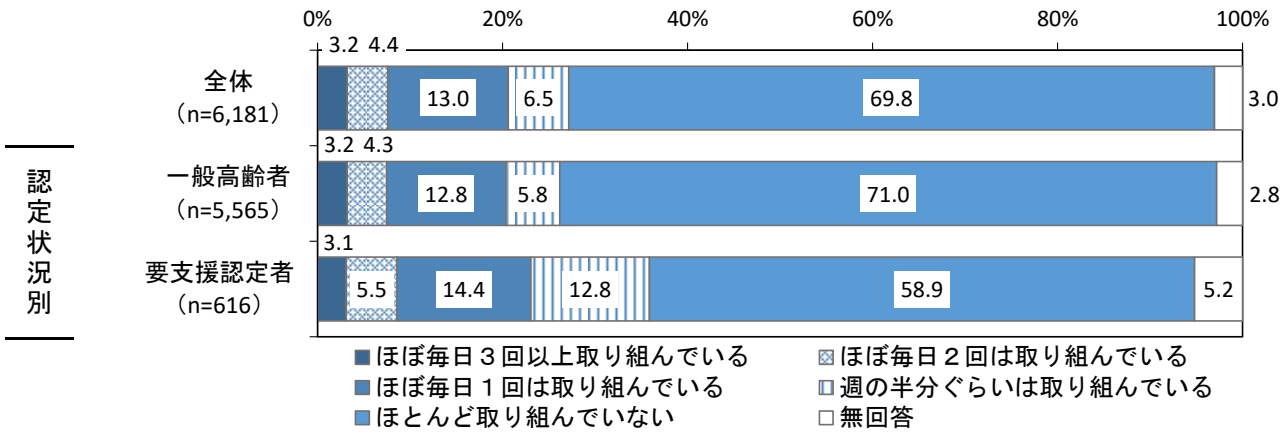


問 4 (6) □や顔の体操に毎日取り組んでいますか (○はひとつ)

□や顔の体操に取り組んでいるかについては、「ほとんど取り組んでいない」が 69.8%で最も高く、次いで「ほぼ毎日 1 回は取り組んでいる」が 13.0%、「週の半分ぐらいは取り組んでいる」が 6.5%と続いています。

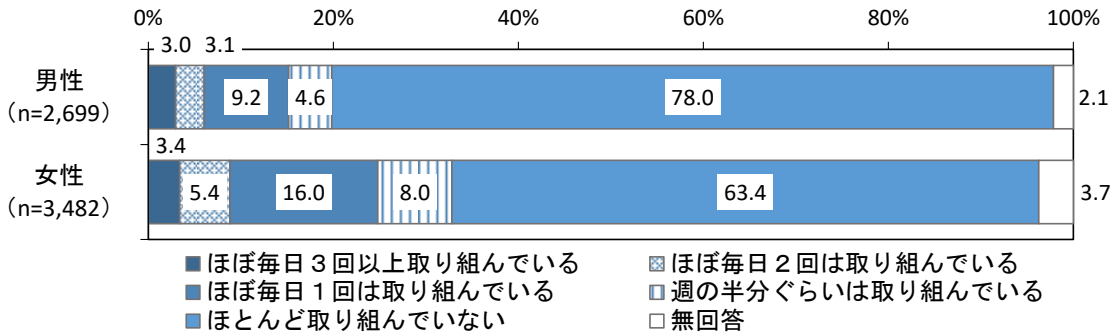
認定状況別でみると、『取り組んでいる』（「ほぼ毎日 3 回以上取り組んでいる」「ほぼ毎日 2 回は取り組んでいる」「ほぼ毎日 1 回は取り組んでいる」「週の半分ぐらいは取り組んでいる」の合計）では、要支援認定者が 35.8%で、一般高齢者（26.1%）よりも 9.7 ポイント高くなっています。

図表 3-5-23 □や顔の体操に取り組んでいるか



性別でみると、『取り組んでいる』では、女性が 32.8%で、男性（19.9%）よりも 12.9 ポイント高くなっています。

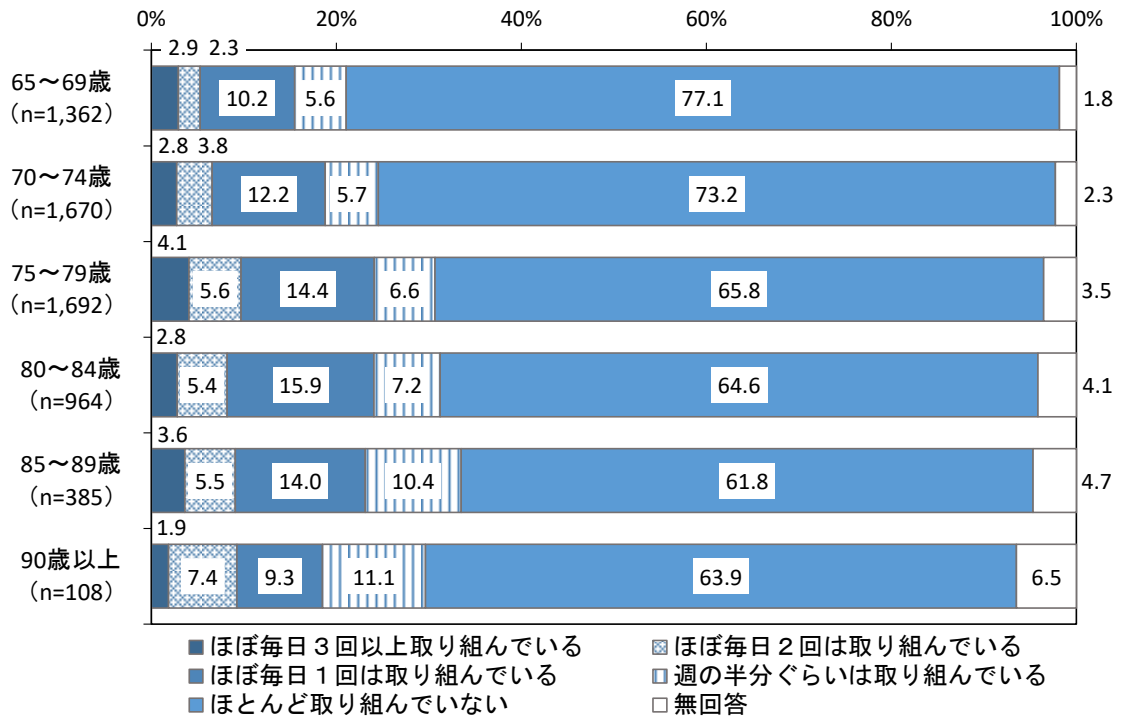
図表 3-5-24 □や顔の体操に取り組んでいるか 性別





年齢別でみると、『取り組んでいる』では、89歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、85～89歳が33.5%で最も高くなっています。

図表 3-5-25 口や顔の体操に取り組んでいるか 年齢別

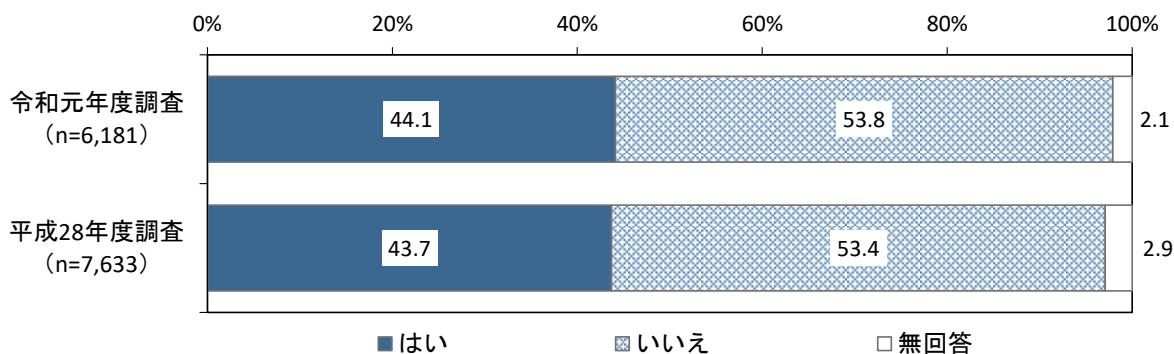


## 6. 毎日の生活について

### 問5(1) 物忘れが多いと感じますか(〇はひとつ)

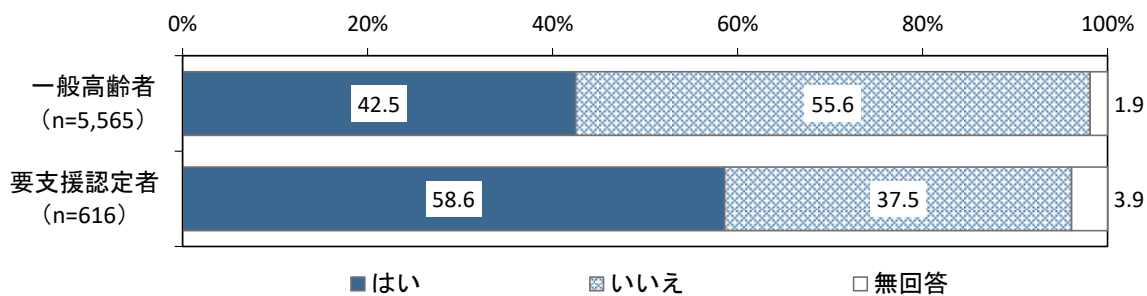
物忘れが多いと感じるかについては、「はい」が44.1%、「いいえ」が53.8%となっています。  
平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-6-1 物忘れが多いと感じるか



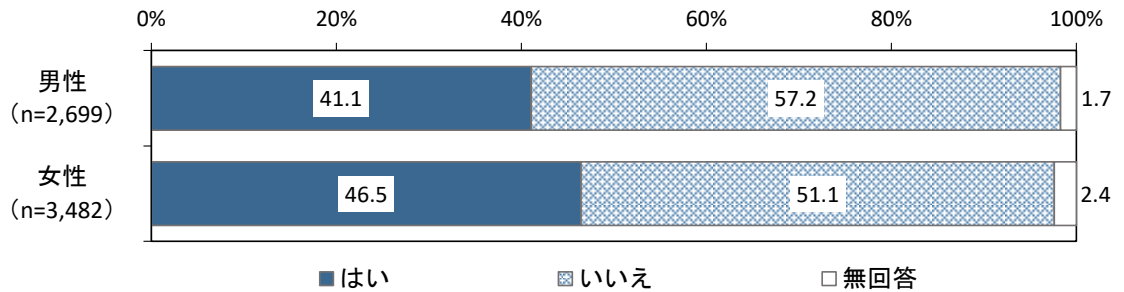
認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が58.6%で、一般高齢者(42.5%)よりも16.1ポイント高くなっています。

図表 3-6-2 物忘れが多いと感じるか 認定状況別



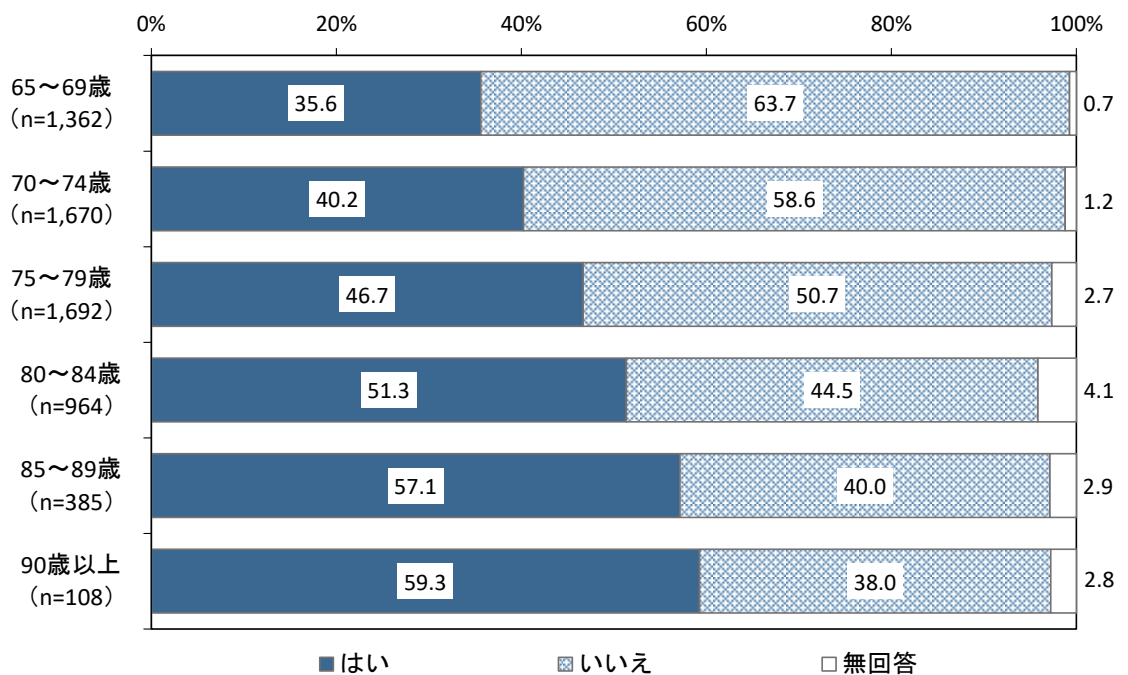
性別でみると、「はい」では、女性が46.5%で、男性（41.1%）よりも5.4ポイント高くなっています。

図表 3-6-3 物忘れが多いと感じるか 性別



年齢別でみると、「はい」では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が59.3%で最も高くなっています。

図表 3-6-4 物忘れが多いと感じるか 年齢別

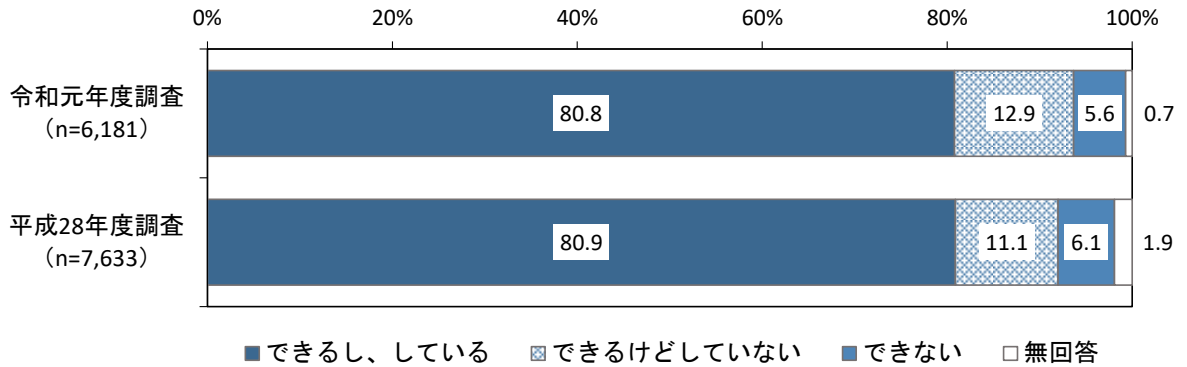


問5(2) バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)(〇はひとつ)

バスや電車を使って1人で外出しているかについては、「できるし、している」が80.8%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が12.9%、「できない」が5.6%となっています。

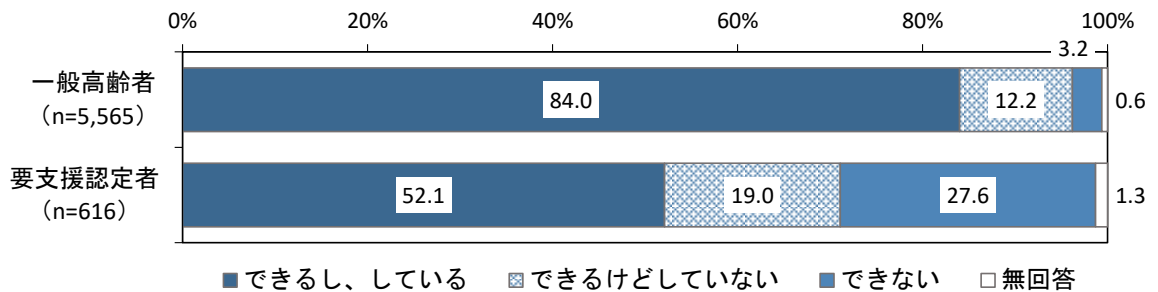
平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-6-5 バスや電車を使って1人で外出しているか



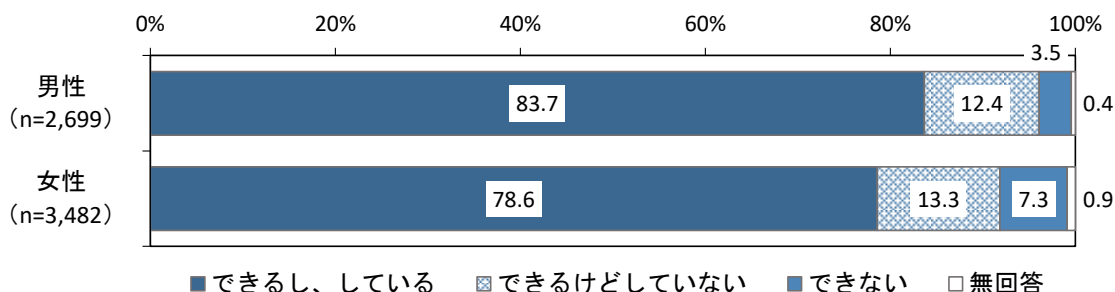
認定状況別でみると、「できるし、している」では、一般高齢者が84.0%、要支援認定者が52.1%となっています。

図表 3-6-6 バスや電車を使って1人で外出しているか 認定状況別



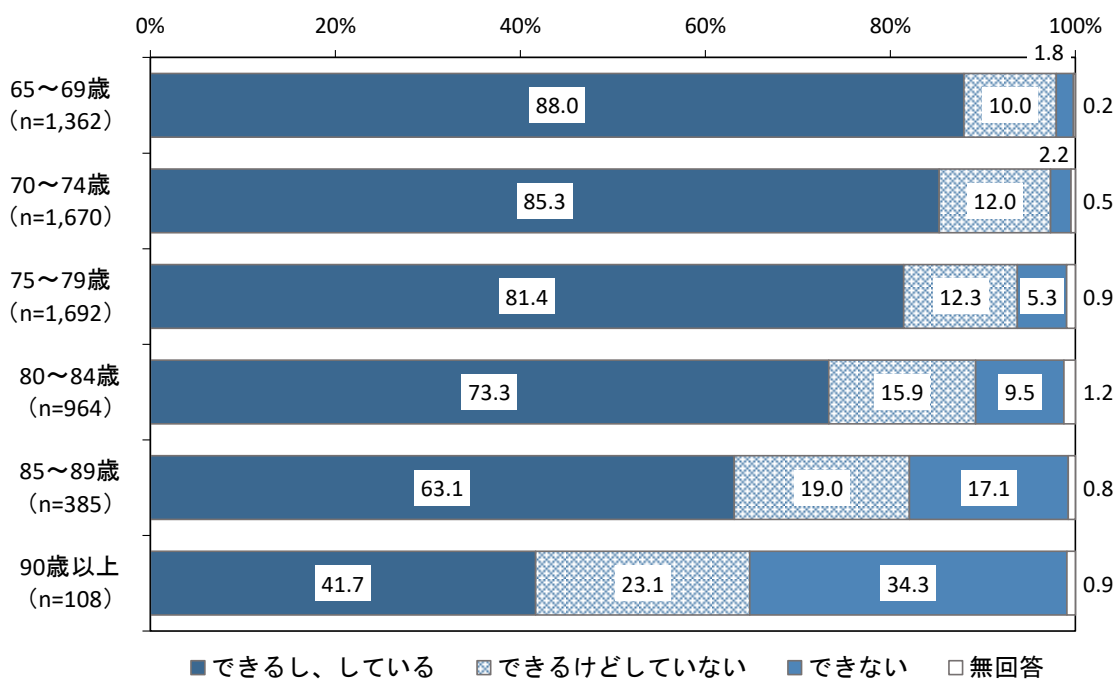
性別でみると、「できるし、している」では、男性が83.7%で、女性（78.6%）よりも5.1ポイント高くなっています。

図表 3-6-7 バスや電車を使って1人で外出しているか 性別



年齢別でみると、「できない」では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が34.3%で最も高くなっています。

図表 3-6-8 バスや電車を使って1人で外出しているか 年齢別

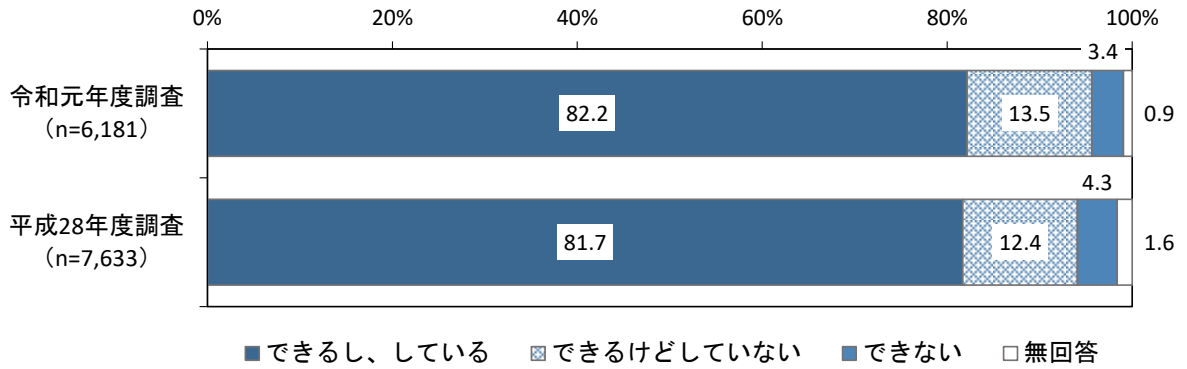


問5(3) 自分で食品・日用品の買物をしていますか(〇はひとつ)

自分で食品・日用品の買物をしているかについては、「できるし、している」が82.2%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が13.5%、「できない」が3.4%となっています。

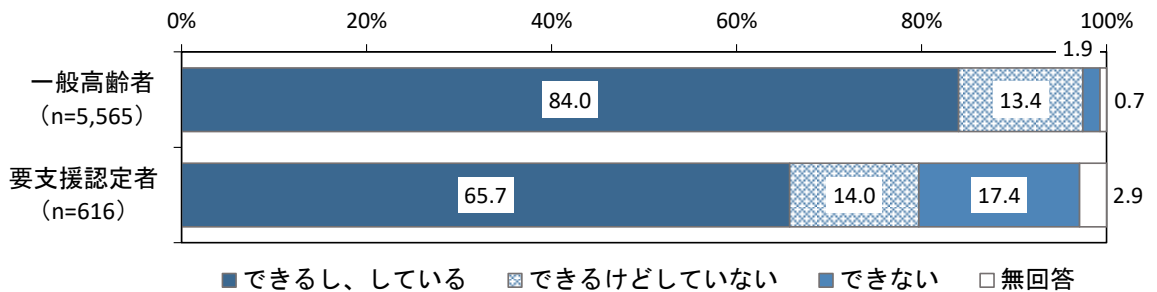
平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-6-9 自分で食品・日用品の買物をしているか



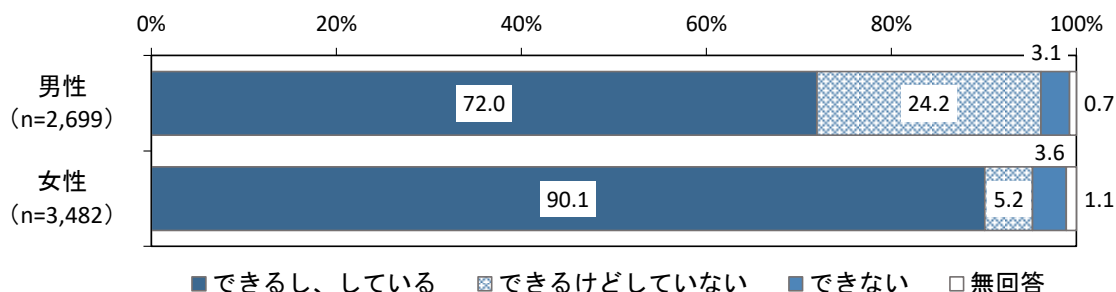
認定状況別でみると、「できるし、している」では、一般高齢者が84.0%、要支援認定者が65.7%となっています。

図表 3-6-10 自分で食品・日用品の買物をしているか 認定状況別



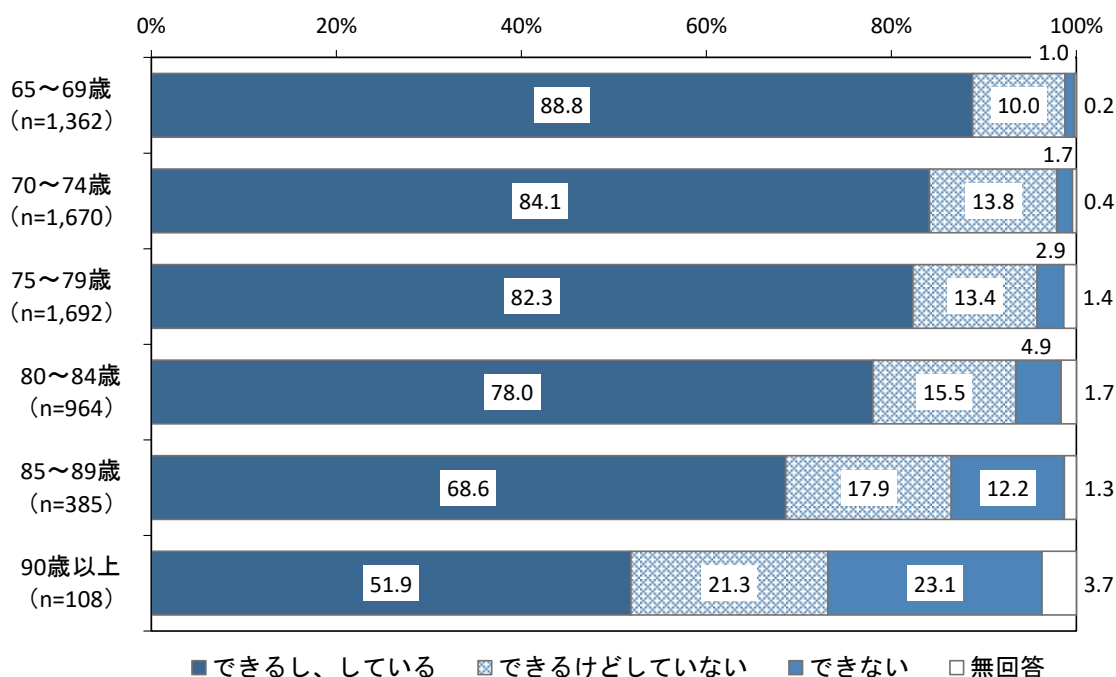
性別でみると、「できるし、している」では、女性が90.1%で、男性（72.0%）よりも18.1ポイント高くなっています。

図表 3-6-11 自分で食品・日用品の買物をしているか 性別



年齢別でみると、「できない」では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が23.1%で最も高くなっています。

図表 3-6-12 自分で食品・日用品の買物をしているか 年齢別

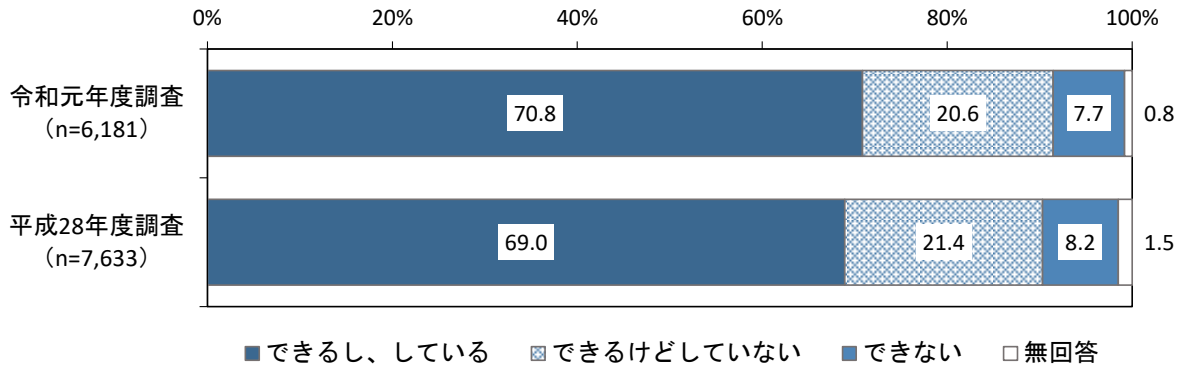


問5(4) 自分で食事の用意をしていますか(〇はひとつ)

自分で食事の用意をしているかについては、「できるし、している」が70.8%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が20.6%、「できない」が7.7%となっています。

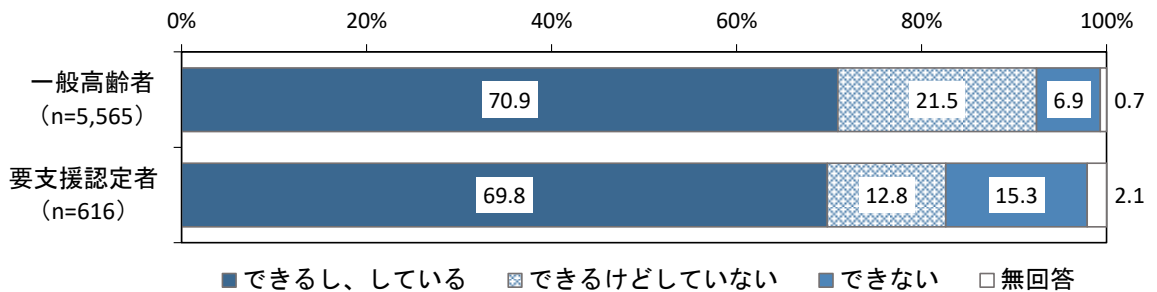
平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-6-13 自分で食事の用意をしているか



認定状況別でみると、「できるし、している」では、一般高齢者が70.9%、要支援認定者が69.8%となっています。

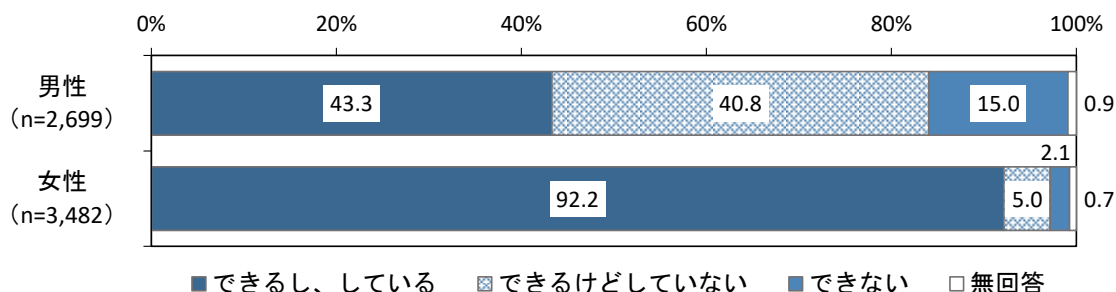
図表 3-6-14 自分で食事の用意をしているか 認定状況別





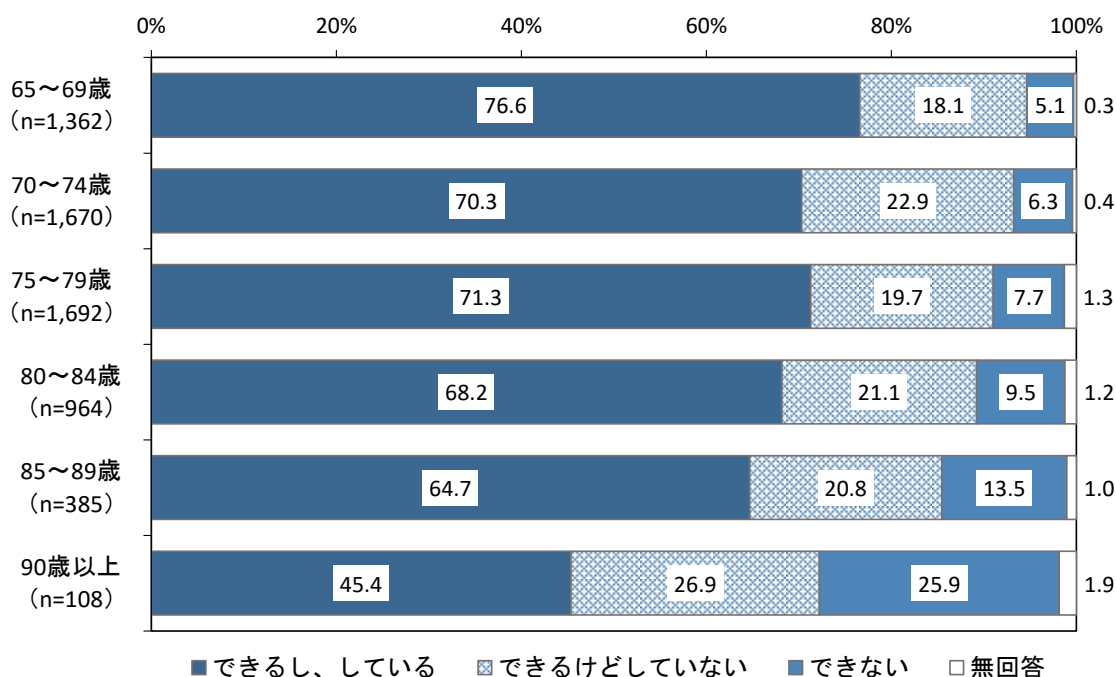
性別でみると、「できるし、している」では、女性が92.2%で、男性（43.3%）よりも48.9ポイント高くなっています。

図表 3-6-15 自分で食事の用意をしているか 性別



年齢別でみると、「できない」では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が25.9%で最も高くなっています。

図表 3-6-16 自分で食事の用意をしているか 年齢別

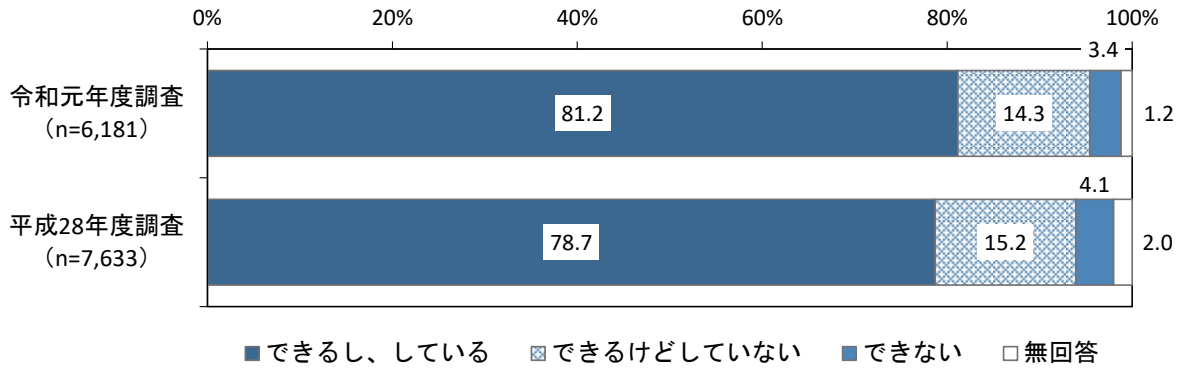


問5 (5) 自分で請求書の支払いをしていますか (〇はひとつ)

自分で請求書の支払いをしているかについては、「できるし、している」が81.2%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が14.3%、「できない」が3.4%となっています。

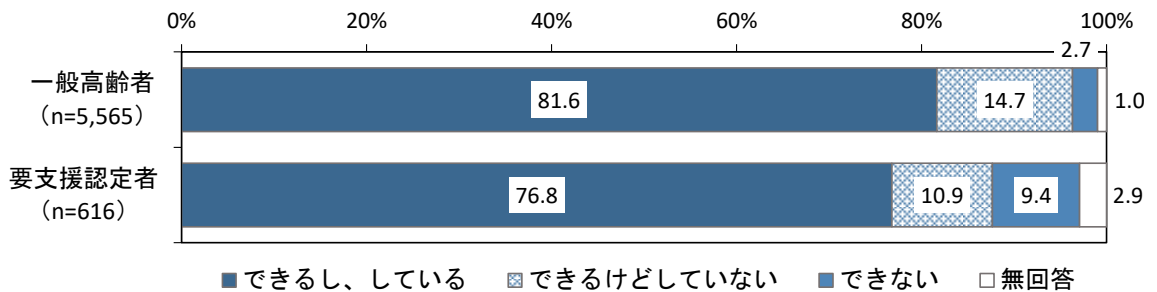
平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-6-17 自分で請求書の支払いをしているか



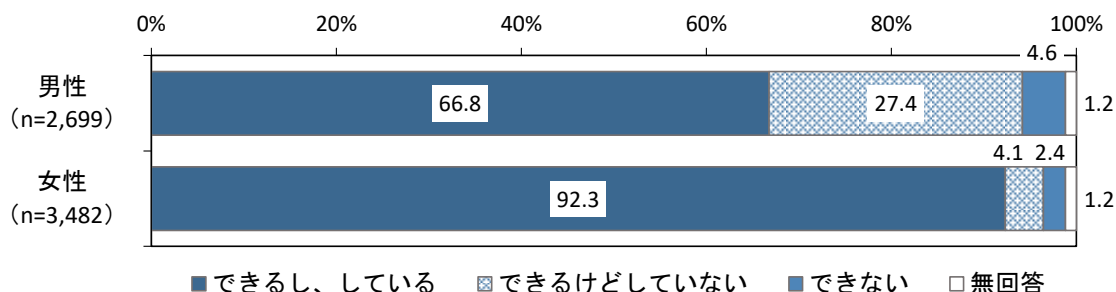
認定状況別でみると、「できるし、している」では、一般高齢者が81.6%、要支援認定者が76.8%となっています。

図表 3-6-18 自分で請求書の支払いをしているか 認定状況別



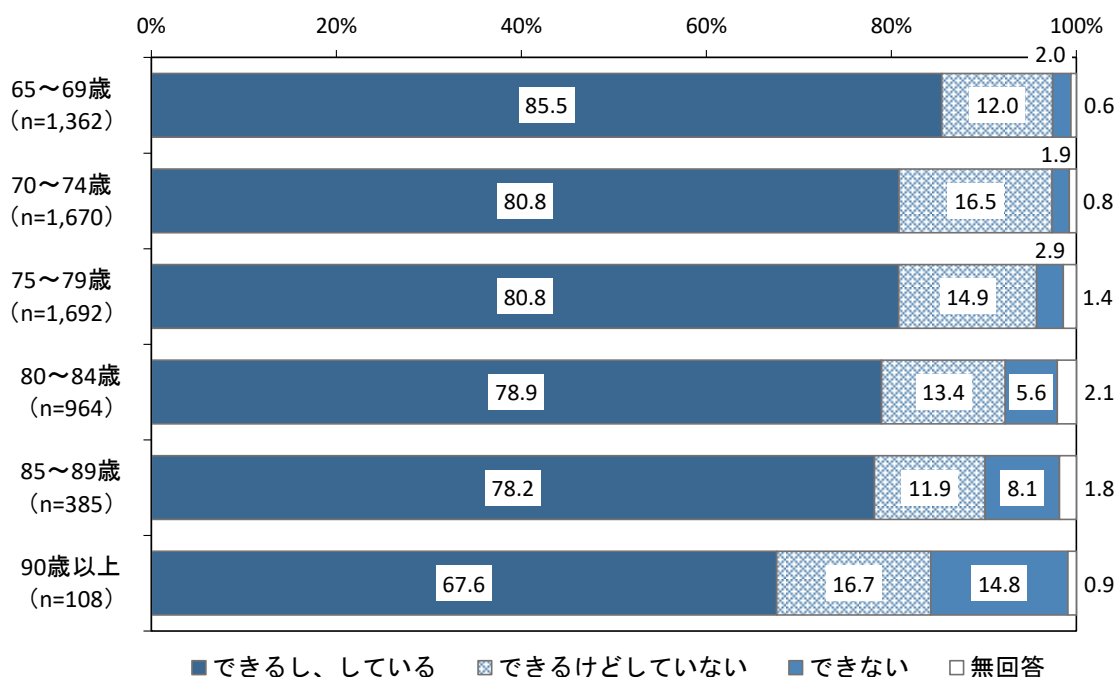
性別でみると、「できるし、している」では、女性が92.3%で、男性（66.8%）よりも25.5ポイント高くなっています。

図表 3-6-19 自分で請求書の支払いをしているか 性別



年齢別でみると、「できない」では、年齢が上がるにつれて概ね割合が高くなっており、90歳以上が14.8%で最も高くなっています。

図表 3-6-20 自分で請求書の支払いをしているか 年齢別

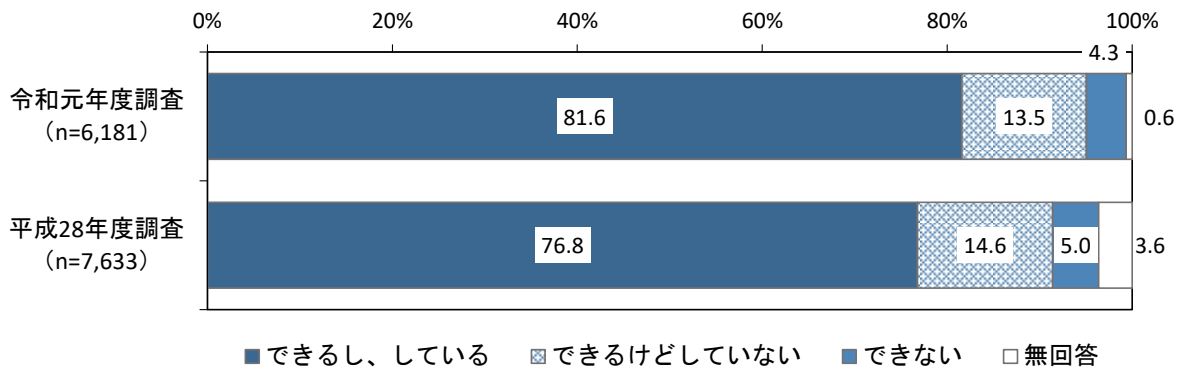


問5(6) 自分で預貯金の出し入れをしていますか(〇はひとつ)

自分で預貯金の出し入れをしているかについては、「できるし、している」が81.6%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が13.5%、「できない」が4.3%となっています。

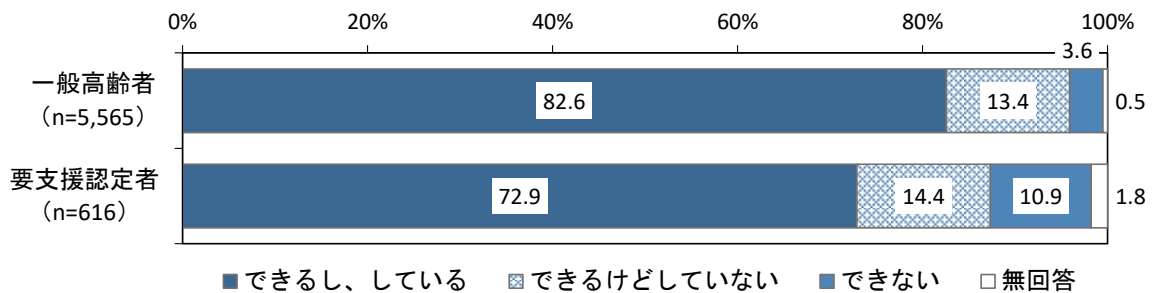
平成28年度調査と比較すると、「できるし、している」(81.6%)では、平成28年度調査(76.8%)より4.8ポイント高くなっています。

図表 3-6-21 自分で預貯金の出し入れをしているか



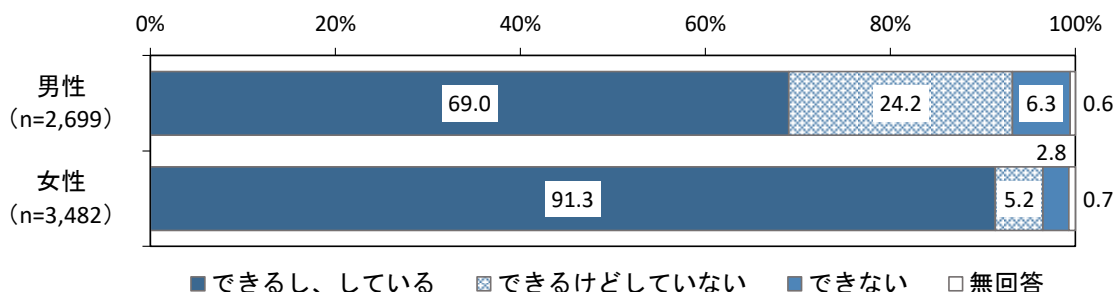
認定状況別でみると、「できるし、している」では、一般高齢者が82.6%、要支援認定者が72.9%となっています。

図表 3-6-22 自分で預貯金の出し入れをしているか 認定状況別



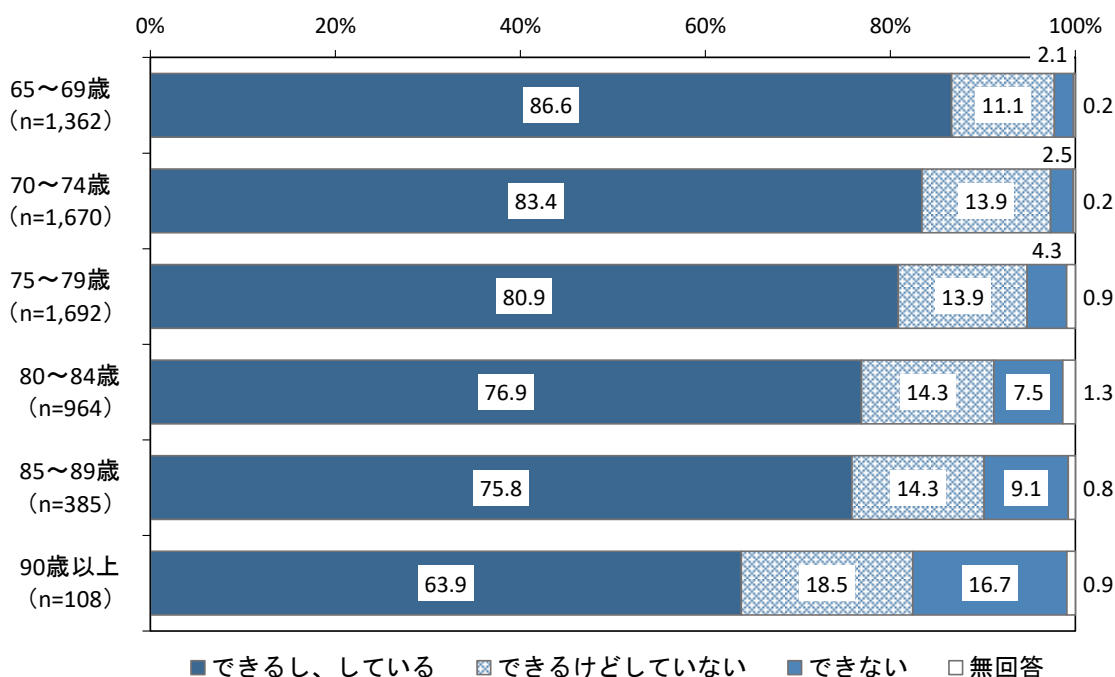
性別でみると、「できるし、している」では、女性が91.3%で、男性（69.0%）よりも22.3ポイント高くなっています。

図表 3-6-23 自分で預貯金の出し入れをしているか 性別



年齢別でみると、「できない」では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が16.7%で最も高くなっています。

図表 3-6-24 自分で預貯金の出し入れをしているか 年齢別

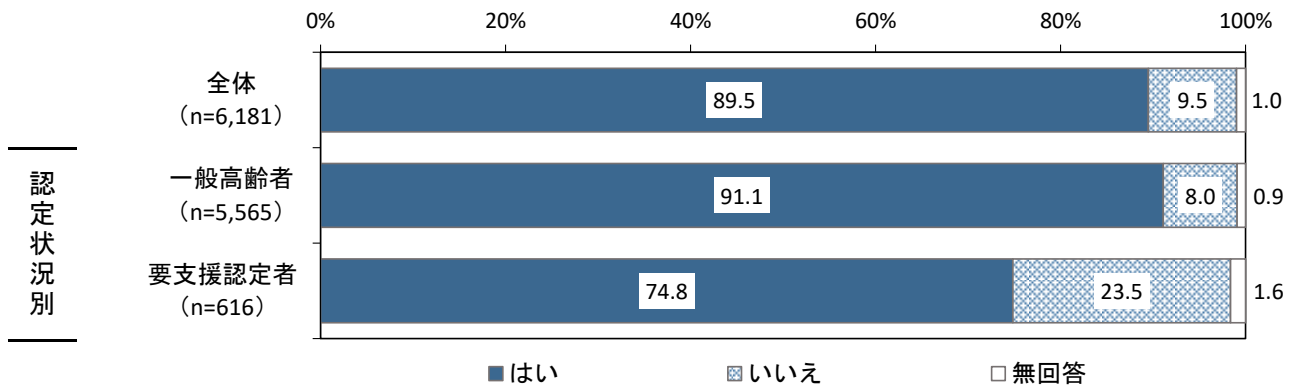


問5(7) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか（〇はひとつ）

年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けるかについては、「はい」が89.5%、「いいえ」が9.5%となっています。

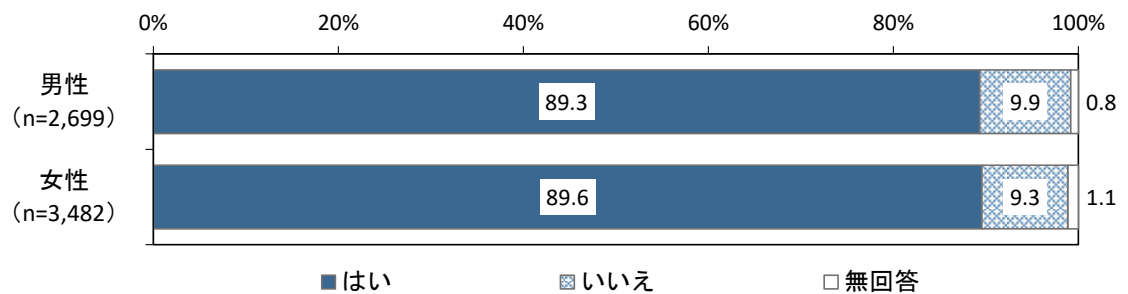
認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が91.1%、要支援認定者が74.8%となっています。

図表 3-6-25 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けるか



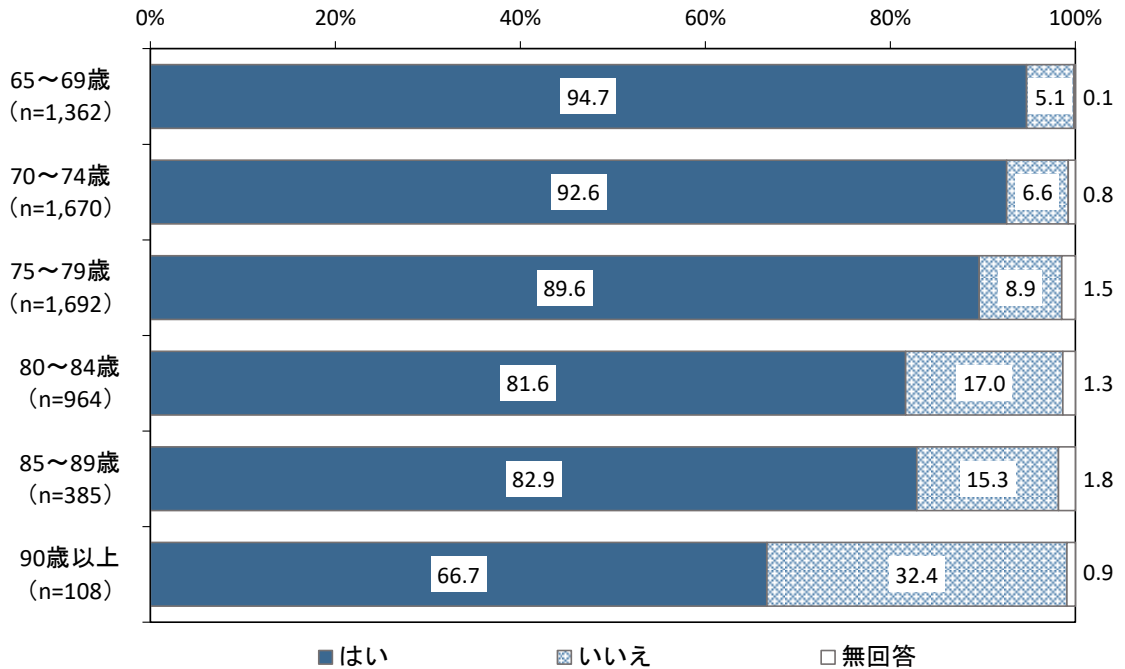
性別でみると、大きな差はみられません。

図表 3-6-26 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けるか 性別



年齢別でみると、「いいえ」では、年齢が上がるにつれて概ね割合が高くなっており、90歳以上が32.4%で最も高くなっています。

図表 3-6-27 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けるか 年齢別

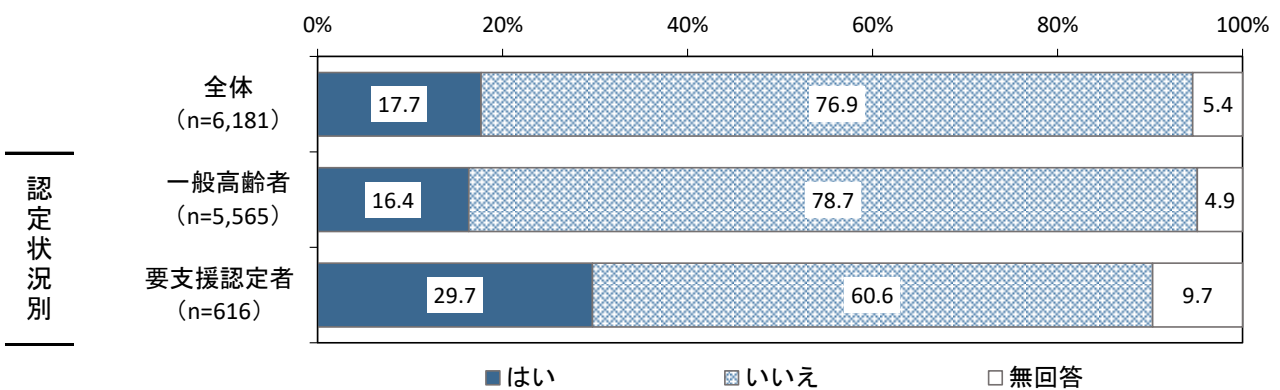


問 5 (8) ほかに人より物忘れが多いと思いますか (○はひとつ)

ほかに人より物忘れが多いと思うかについては、「はい」が17.7%、「いいえ」が76.9%となっています。

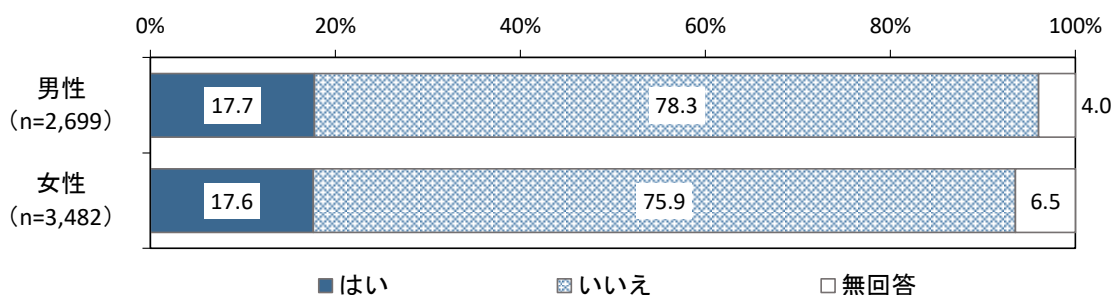
認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が29.7%で、一般高齢者(16.4%)よりも13.3ポイント高くなっています。

図表 3-6-28 ほかに人より物忘れが多いと思うか



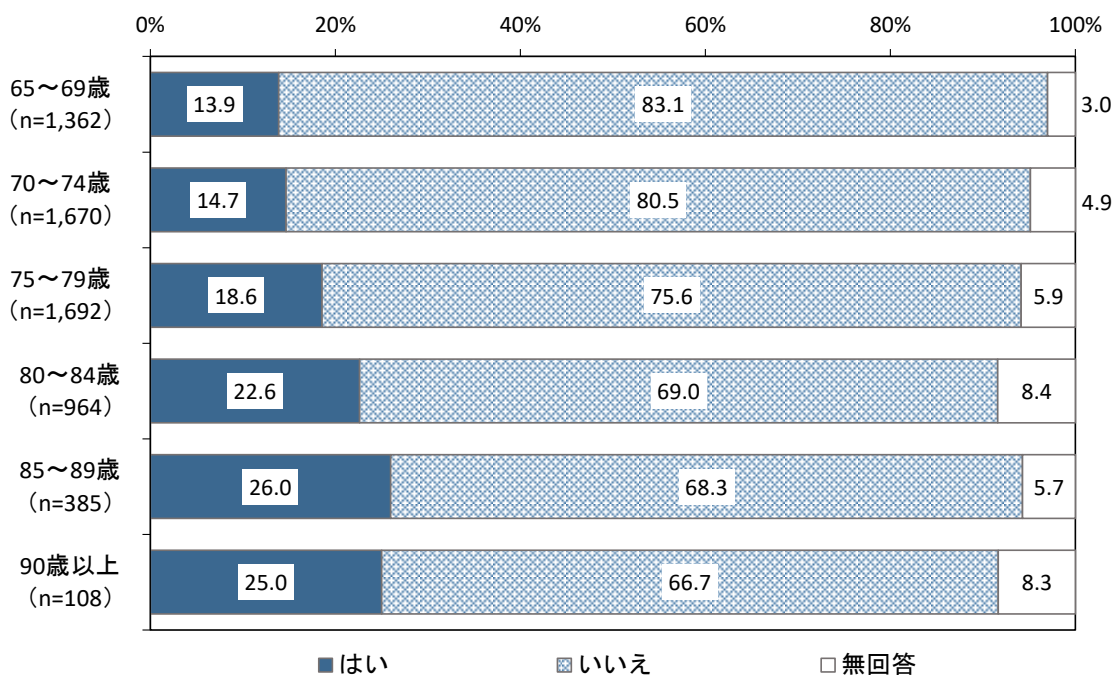
性別でみると、大きな差はみられません。

図表 3-6-29 ほかに人より物忘れが多いと思うか 性別



年齢別でみると、「はい」では、89歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、85～89歳が26.0%で最も高くなっています。

図表 3-6-30 ほかに人より物忘れが多いと思うか 年齢別



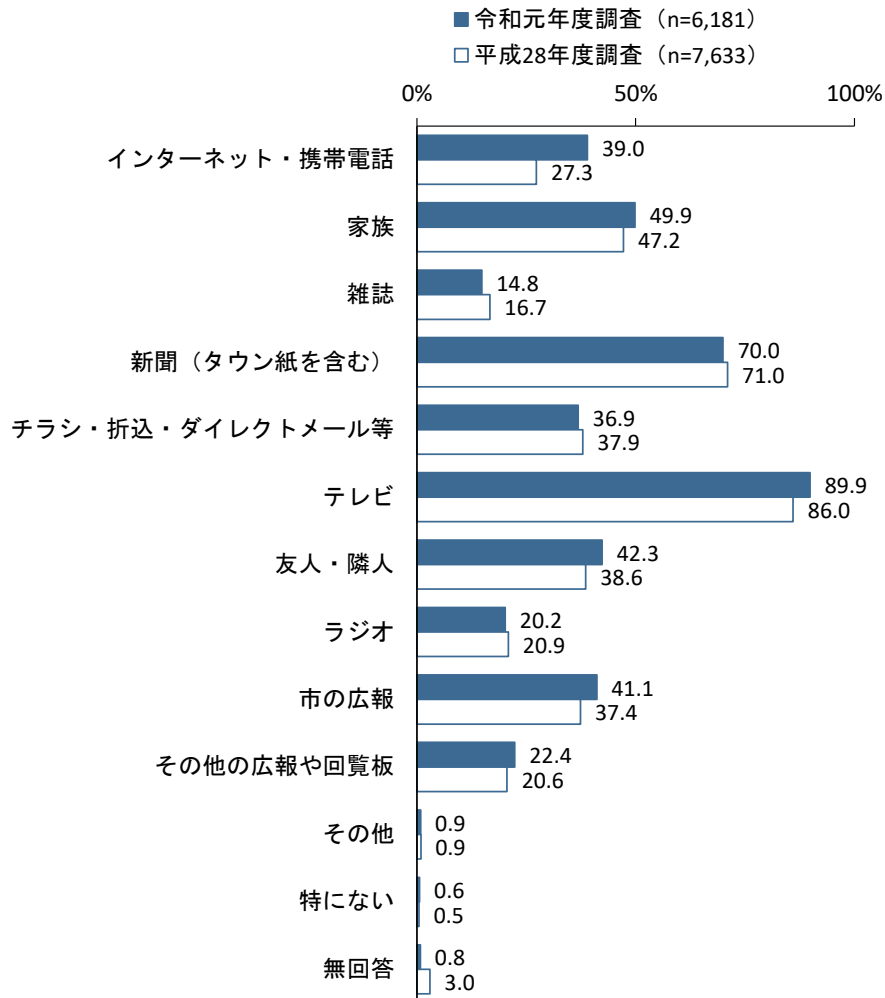


問5(9) 日常生活に関する情報をどこから得ていますか(〇はいくつでも)

日常生活に関する情報をどこから得ているかについては、「テレビ」が89.9%で最も高く、次いで「新聞(タウン紙を含む)」が70.0%、「家族」が49.9%と続いています。

平成28年度調査と比較すると、「インターネット・携帯電話」(39.0%)では、平成28年度調査(27.3%)よりも11.7ポイント高く、最も増加した項目となっています。

図表 3-6-31 日常生活に関する情報をどこから得ているか



認定状況別でみると、「その他」以外のすべての項目で一般高齢者の割合が要支援認定者よりも高くなっています。

性別でみると、女性・男性いずれも「テレビ」の割合が最も高く、次いで「新聞(タウン紙を含む)」の割合が高く、男性では続いて「インターネット・携帯電話」の割合が高く、女性では続いて「家族」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、「インターネット・携帯電話」では年齢が上がるにつれて割合が低くなっており、65~69歳が62.8%で最も高くなっています。

区域別でみると、「市の広報」では、東区が42.6%で最も高く、「その他の広報や回覧板」では、美原区が26.2%で最も高くなっています。

図表 3-6-32 日常生活に関する情報をどこから得ているか 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	インターネット・携帯電話	家族	雑誌	新聞（タウン紙を含む）	チラシ・折込・ダイレクトメール等	テレビ	友人・隣人	ラジオ	市の広報	その他の広報や回覧板
全体		6,181	39.0	49.9	14.8	70.0	36.9	89.9	42.3	20.2	41.1	22.4
別認定	一般高齢者	5,565	41.7	51.2	15.4	70.9	37.6	90.5	43.1	20.3	41.7	22.5
	要支援認定者	616	14.1	38.0	9.9	61.4	30.5	84.1	35.1	19.3	35.9	21.6
性別	男性	2,699	47.0	46.5	13.4	74.4	30.7	89.1	30.2	19.8	33.8	18.4
	女性	3,482	32.7	52.5	15.9	66.5	41.6	90.5	51.7	20.5	46.8	25.4
年齢別	65～69歳	1,362	62.8	53.4	15.4	65.6	38.8	90.4	42.0	18.9	39.4	18.6
	70～74歳	1,670	46.4	53.5	15.9	69.8	38.8	91.6	45.1	21.0	40.5	22.6
	75～79歳	1,692	30.3	48.8	14.9	73.0	37.7	90.6	45.3	20.6	43.9	24.8
	80～84歳	964	19.7	45.5	13.0	69.9	32.8	86.6	38.6	20.7	42.4	21.8
	85～89歳	385	17.4	39.0	13.5	71.7	32.7	86.0	32.2	19.5	38.2	26.2
	90歳以上	108	8.3	44.4	11.1	74.1	21.3	88.0	25.0	16.7	28.7	19.4
区域別	堺区	883	35.8	45.5	15.3	66.1	36.5	90.6	41.3	19.1	40.3	20.4
	中区	840	36.2	51.9	12.5	70.2	36.7	89.6	41.2	17.4	41.4	20.2
	東区	876	37.7	47.4	13.8	70.5	35.2	89.2	40.3	19.3	42.6	20.4
	西区	891	38.9	49.5	14.8	71.6	36.5	89.1	42.4	20.5	40.5	25.4
	南区	929	47.3	54.0	17.8	75.3	38.6	91.4	46.8	22.4	42.3	24.0
	北区	903	37.0	48.6	15.6	66.8	37.9	90.1	40.1	22.4	40.5	19.9
	美原区	859	39.5	52.0	13.6	68.8	36.7	88.9	43.9	20.0	40.2	26.2
		合計	その他	特にない	無回答							
全体		6,181	0.9	0.6	0.8							
別認定	一般高齢者	5,565	0.7	0.8	0.9							
	要支援認定者	616	1.0	0.5	0.7							
性別	男性	2,699	0.8	0.5	0.7							
	女性	3,482	1.3	1.5	1.5							
年齢別	65～69歳	1,362	0.9	0.7	0.5							
	70～74歳	1,670	0.4	0.5	0.7							
	75～79歳	1,692	0.9	0.4	0.7							
	80～84歳	964	1.2	0.6	1.5							
	85～89歳	385	1.3	1.0	1.0							
	90歳以上	108	1.9	2.8	0.9							
区域別	堺区	883	0.9	0.8	1.4							
	中区	840	0.8	0.6	1.0							
	東区	876	0.7	0.8	0.9							
	西区	891	1.1	0.3	0.7							
	南区	929	0.9	0.5	0.4							
	北区	903	0.7	0.4	0.6							
	美原区	859	1.0	0.8	0.6							

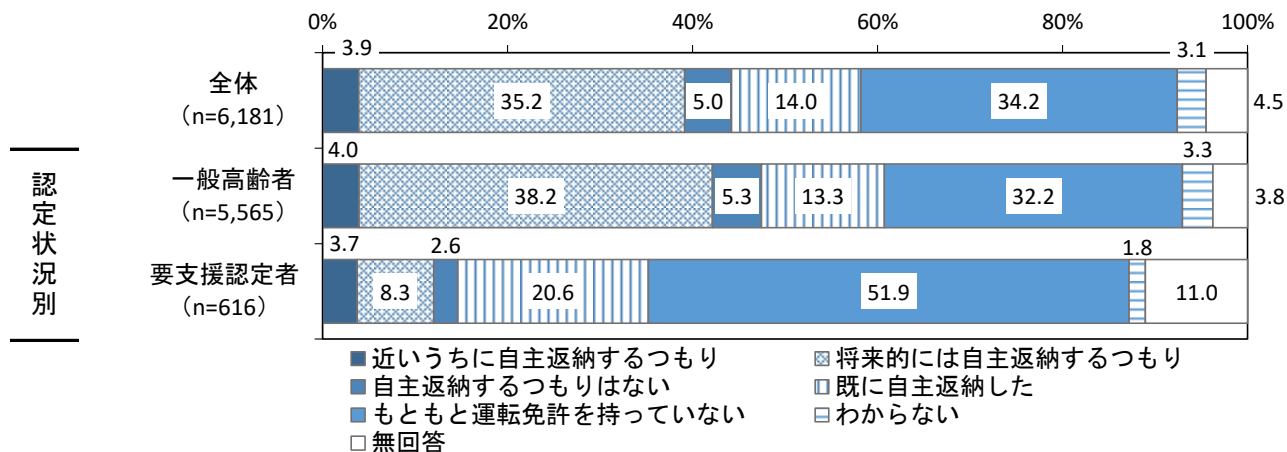
※網掛け■は最も割合が高いもの

問5(10) 将来、自動車などの運転免許を自主返納するつもりはありますか(〇はひとつ)

今後、免許を返納する気持ちはあるかについては、「将来的には自主返納するつもり」が35.2%で最も高く、次いで「もともと運転免許を持っていない」が34.2%、「既に自主返納した」が14.0%と続いています。

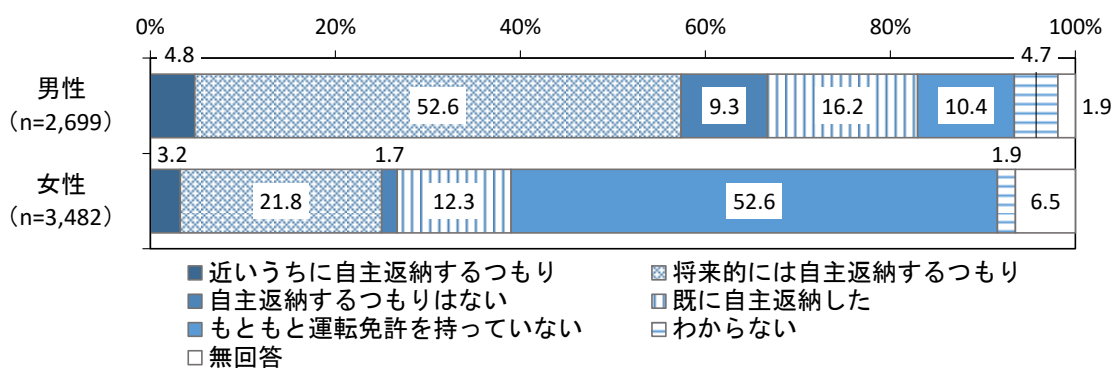
認定状況別でみると、「既に自主返納した」では、一般高齢者が13.3%、要支援認定者が20.6%となっています。

図表 3-6-33 今後免許を返納する気持ちはあるか



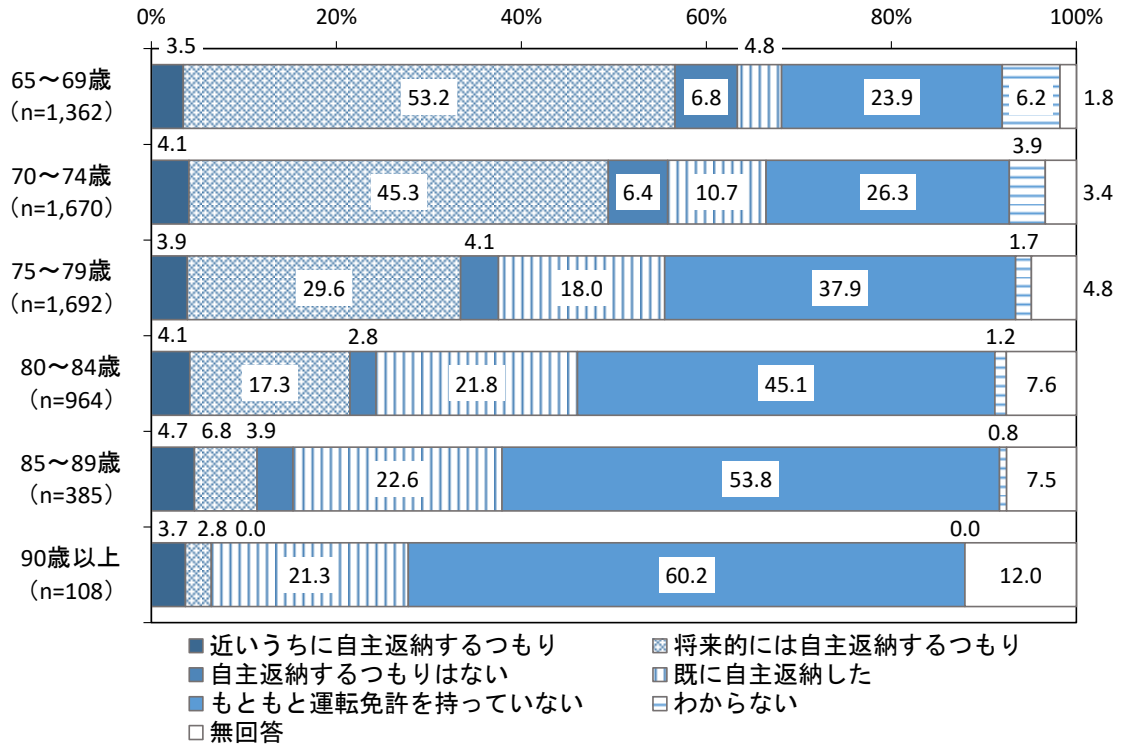
性別でみると、男性では「将来的には自主返納するつもり」が52.6%で最も高く、女性では「もともと運転免許を持っていない」が52.6%で最も高くなっています。

図表 3-6-34 今後免許を返納する気持ちはあるか 性別



年齢別でみると、「既に自主返納した」では、89歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、85～89歳が22.6%で最も高くなっています。

図表 3-6-35 今後免許を返納する気持ちはあるか 年齢別

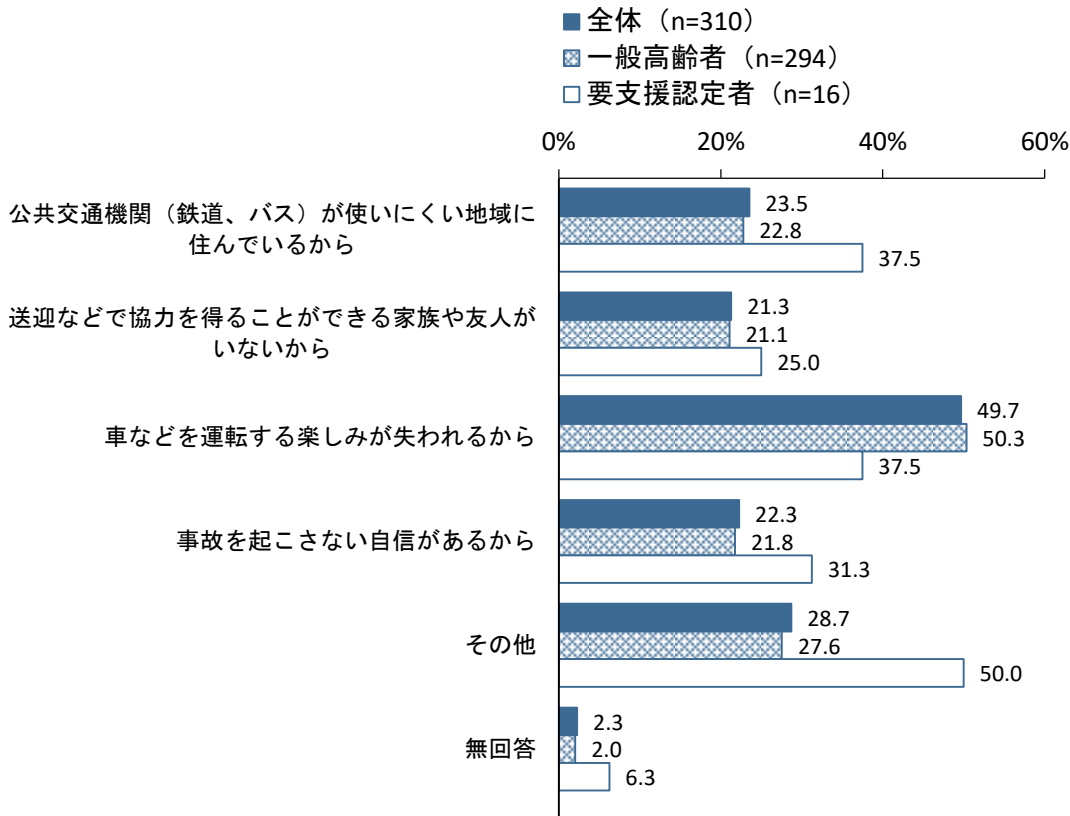


問5(11)	【問5(10)で「自主返納するつもりはない」を回答した方】 自主返納しようとは思わない理由は何ですか（〇はいくつでも）
--------	--

免許を返納しようと思わない理由については、「車などを運転する楽しみが失われるから」が49.7%で最も高く、次いで「その他」が28.7%、「公共交通機関（鉄道、バス）が使いにくい地域に住んでいるから」が23.5%と続いています。

認定状況別でみると、「車などを運転する楽しみが失われるから」以外のすべての項目で要支援認定者の割合が一般高齢者よりも高くなっています。

図表 3-6-36 免許を返納しようと思わない理由



性別でみると、男性では「車などを運転する楽しみが失われるから」が52.4%で最も高く、女性では「車などを運転する楽しみが失われるから」「その他」がいずれも37.9%で最も高くなっています。

年齢別でみると、90歳以上を除くすべての年齢層で「車などを運転する楽しみが失われるから」の割合が高くなっています。

区域別でみると、「公共交通機関（鉄道、バス）が使いにくい地域に住んでいるから」では、美原区が53.1%で最も高くなっています。

図表 3-6-37 免許を返納しようと思わない理由は何か 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	公共交通機関（バス）が使いやすいから	公共機関（鉄道、バス）が利用できるから	送迎などで家族や友人が送迎してくれるから	失われるから	車などを運転する楽しみがあるから	事故を起こさない自信があるから	その他	無回答
全体		310	23.5	21.3	49.7	22.3	28.7	2.3		
別認定	一般高齢者	294	22.8	21.1	50.3	21.8	27.6	2.0		
	要支援認定者	16	37.5	25.0	37.5	31.3	50.0	6.3		
性別	男性	252	21.4	21.8	52.4	24.2	26.6	2.0		
	女性	58	32.8	19.0	37.9	13.8	37.9	3.4		
年齢別	65～69歳	92	19.6	18.5	51.1	19.6	30.4	1.1		
	70～74歳	107	21.5	14.0	52.3	20.6	22.4	3.7		
	75～79歳	69	27.5	29.0	44.9	26.1	29.0	1.4		
	80～84歳	27	37.0	40.7	48.1	25.9	40.7	0.0		
	85～89歳	15	20.0	20.0	46.7	26.7	40.0	6.7		
	90歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
区域別	堺区	37	2.7	13.5	56.8	32.4	32.4	2.7		
	中区	36	25.0	27.8	44.4	19.4	22.2	2.8		
	東区	37	10.8	27.0	54.1	18.9	27.0	2.7		
	西区	40	17.5	20.0	52.5	15.0	42.5	2.5		
	南区	63	22.2	19.0	41.3	23.8	31.7	3.2		
	北区	33	12.1	15.2	51.5	33.3	27.3	0.0		
	美原区	64	53.1	25.0	51.6	17.2	20.3	1.6		

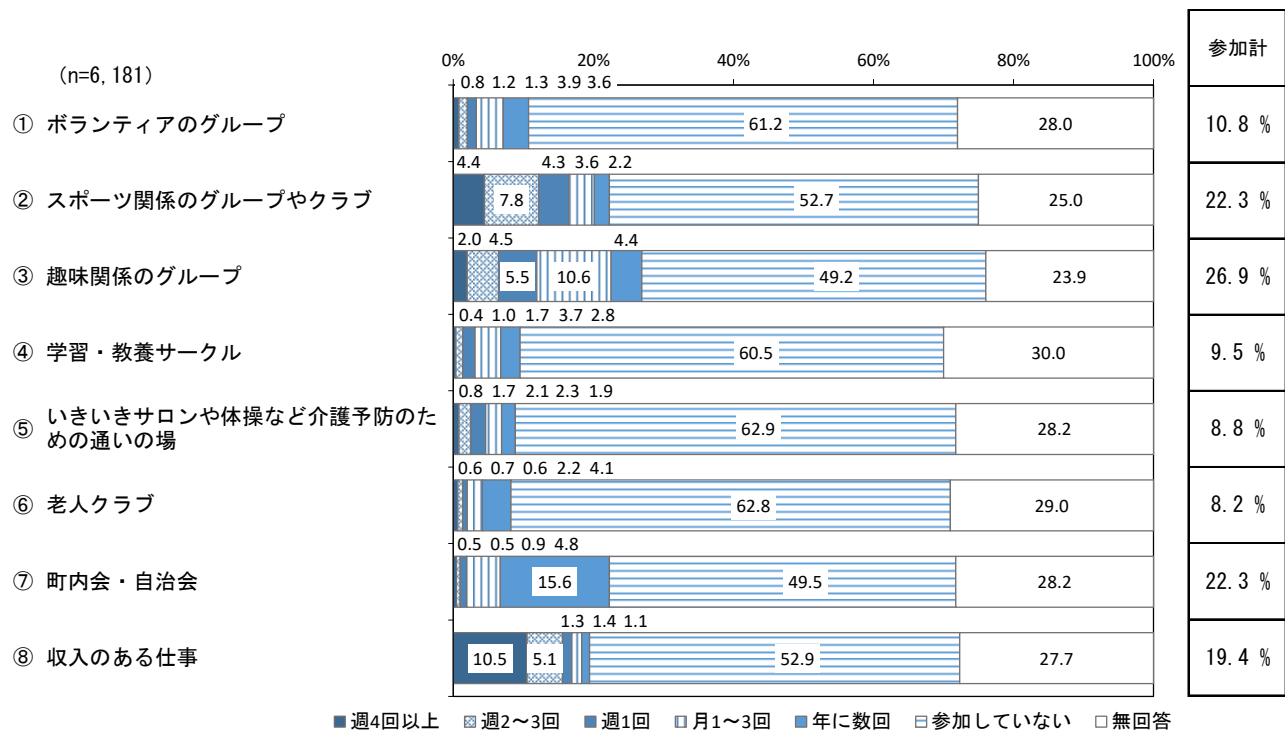
※網掛け■は最も割合が高いもの

## 7. 地域での活動について

問6 (1)	以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか（老人クラブ・町内会・自治会の活動をのぞきます）（〇はそれぞれひとつずつ）
--------	--

地域での活動について、『参加している』（「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」の合計）では、「③趣味関係のグループ」が26.9%で最も高く、次いで「②スポーツ関係のグループやクラブ」「⑦町内会・自治会」がいずれも22.3%と続いています。

図表 3-7-1 地域での活動の参加頻度



## (1) ボランティアのグループ

ボランティアのグループの参加頻度については、『参加している』が10.8%、「参加していない」が61.2%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「参加していない」(61.2%)では、平成28年度調査(56.8%)よりも4.4ポイント高くなっています。

認定状況別でみると、『参加している』では、一般高齢者が11.4%、要支援認定者が5.2%となっています。

性別でみると、『参加している』では、男性が9.7%、女性が11.6%となっています。

年齢別でみると、『参加している』では、75～79歳が12.9%で最も高くなっています。

区域別でみると、『参加している』では、南区が12.5%で最も高くなっています。

図表 3-7-2 ボランティアのグループの参加頻度

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
令和元年度調査	6,181	0.8	1.2	1.3	3.9	3.6	10.8	61.2	28.0	
平成28年度調査	7,633	1.0	1.8	1.3	4.0	3.6	11.7	56.8	31.6	
認定別	一般高齢者	5,565	0.8	1.3	1.3	4.1	3.9	11.4	61.9	26.7
	要支援認定者	616	0.8	0.8	0.6	1.9	1.0	5.2	54.9	39.9
性別	男性	2,699	0.8	1.0	1.3	3.0	3.6	9.7	67.8	22.5
	女性	3,482	0.8	1.4	1.3	4.5	3.6	11.6	56.1	32.3
年齢別	65～69歳	1,362	0.4	1.4	0.8	3.5	4.6	10.7	73.6	15.7
	70～74歳	1,670	0.6	1.7	1.2	4.3	3.8	11.5	66.2	22.3
	75～79歳	1,692	1.4	1.2	1.9	4.3	4.2	12.9	54.5	32.6
	80～84歳	964	1.0	0.7	0.9	3.5	2.1	8.3	51.7	40.0
	85～89歳	385	0.3	0.3	1.6	2.6	2.1	6.8	51.9	41.3
	90歳以上	108	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	2.8	53.7	43.5
区域別	堺区	883	1.1	1.7	1.2	3.5	3.6	11.2	61.9	26.8
	中区	840	0.4	1.0	1.2	3.8	3.1	9.4	60.2	30.4
	東区	876	1.3	1.4	0.9	4.0	3.3	10.8	60.8	28.3
	西区	891	0.8	0.6	1.8	3.6	3.6	10.3	59.8	29.9
	南区	929	1.2	1.2	1.6	4.1	4.4	12.5	63.9	23.6
	北区	903	0.2	1.6	1.2	3.1	3.7	9.7	63.0	27.2
	美原区	859	0.7	1.2	0.8	4.9	3.6	11.2	58.6	30.3

※網掛け■は最も割合が高いもの



## (2) スポーツ関係のグループやクラブ

スポーツ関係のグループやクラブの参加頻度については、『参加している』が22.3%、「参加していない」が52.7%となっています。

平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

認定状況別でみると、『参加している』では、一般高齢者が23.6%、要支援認定者が10.6%となっています。

性別でみると、「参加していない」では、男性が58.7%で、女性(48.1%)よりも10.6ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『参加している』では、70～74歳が25.2%で最も高くなっています。

区域別でみると、『参加している』では、南区が26.2%で最も高くなっています。

図表 3-7-3 スポーツ関係のグループやクラブの参加頻度

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
令和元年度調査	6,181	4.4	7.8	4.3	3.6	2.2	22.3	52.7	25.0	
平成28年度調査	7,633	3.7	6.6	4.3	4.2	2.3	21.1	50.8	28.0	
認定別	一般高齢者	5,565	4.8	8.2	4.4	4.0	2.2	23.6	52.8	23.6
	要支援認定者	616	1.5	4.2	2.8	0.6	1.5	10.6	51.9	37.5
性別	男性	2,699	3.8	6.0	3.0	4.9	3.3	21.2	58.7	20.2
	女性	3,482	4.9	9.1	5.2	2.6	1.2	23.1	48.1	28.8
年齢別	65～69歳	1,362	4.0	8.1	4.4	5.0	2.3	23.8	62.4	13.8
	70～74歳	1,670	4.7	9.2	4.7	4.3	2.3	25.2	55.1	19.7
	75～79歳	1,692	5.1	7.7	4.3	3.5	2.1	22.8	48.2	29.0
	80～84歳	964	4.7	6.8	4.1	2.1	2.4	20.1	43.9	36.0
	85～89歳	385	1.6	4.9	2.9	1.3	1.0	11.7	50.4	37.9
	90歳以上	108	2.8	2.8	0.9	0.0	0.0	6.5	51.9	41.7
区域別	堺区	883	2.9	6.6	3.7	3.3	2.2	18.7	56.2	25.1
	中区	840	4.9	8.0	2.6	3.7	2.4	21.5	51.9	26.5
	東区	876	3.9	8.2	4.2	3.4	1.7	21.5	54.0	24.5
	西区	891	4.9	7.1	5.2	3.7	1.8	22.7	50.7	26.6
	南区	929	6.2	7.9	5.6	4.1	2.4	26.2	53.3	20.6
	北区	903	4.5	8.4	3.5	3.9	2.7	23.0	51.8	25.1
	美原区	859	3.5	8.4	4.9	3.4	2.0	22.1	51.0	26.9

※網掛け■は最も割合が高いもの

### (3) 趣味関係のグループ

趣味関係のグループの参加頻度については、『参加している』が26.9%、「参加していない」が49.2%となっています。

平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

認定状況別でみると、『参加している』では、一般高齢者が27.8%、要支援認定者が18.5%となっています。

性別でみると、「参加していない」では、男性が55.0%で、女性(44.6%)よりも10.4ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『参加している』では、75～79歳が30.0%で最も高くなっています。

区域別でみると、『参加している』では、南区が31.0%で最も高くなっています。

図表 3-7-4 趣味関係のグループの参加頻度

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
令和元年度調査	6,181	2.0	4.5	5.5	10.6	4.4	26.9	49.2	23.9	
平成28年度調査	7,633	2.1	4.8	5.5	11.4	4.5	28.3	46.1	25.5	
認定別	一般高齢者	5,565	2.0	4.6	5.7	11.0	4.5	27.8	49.4	22.7
	要支援認定者	616	1.5	3.2	3.1	7.5	3.2	18.5	46.8	34.7
性別	男性	2,699	2.1	4.0	4.3	8.5	6.2	25.1	55.0	19.9
	女性	3,482	1.9	4.9	6.3	12.2	3.0	28.3	44.6	27.1
年齢別	65～69歳	1,362	1.2	2.9	5.1	9.6	5.6	24.4	60.7	14.8
	70～74歳	1,670	2.2	4.6	5.4	12.0	4.1	28.3	52.0	19.7
	75～79歳	1,692	1.8	5.1	5.9	12.2	5.0	30.0	43.0	27.0
	80～84歳	964	2.9	5.1	6.7	8.5	2.9	26.1	39.9	33.9
	85～89歳	385	2.3	5.5	3.4	7.8	3.4	22.3	45.7	31.9
	90歳以上	108	1.9	2.8	0.9	5.6	0.0	11.1	49.1	39.8
区域別	堺区	883	1.4	3.3	3.6	10.2	3.6	22.1	51.8	26.2
	中区	840	1.7	3.5	5.4	9.6	5.0	25.1	49.2	25.7
	東区	876	2.3	4.7	5.3	10.4	5.4	28.0	48.7	23.3
	西区	891	1.8	5.4	5.6	11.0	4.6	28.4	47.3	24.4
	南区	929	1.6	5.3	7.4	12.9	3.8	31.0	49.6	19.4
	北区	903	2.4	4.2	5.0	10.0	4.1	25.7	50.8	23.5
	美原区	859	2.7	5.0	5.9	10.0	4.2	27.8	46.6	25.6

※網掛け■は最も割合が高いもの

#### (4) 学習・教養サークル

学習・教養サークルの参加頻度については、『参加している』が9.5%、「参加していない」が60.5%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「参加していない」(60.5%)では、平成28年度調査(55.5%)よりも5.0ポイント高くなっています。

認定状況別でみると、『参加している』では、一般高齢者が10.0%、要支援認定者が5.7%となっています。

性別でみると、『参加している』では、女性が11.8%で、男性(6.6%)よりも5.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『参加している』では、70～74歳が10.9%で最も高くなっています。

区域別でみると、『参加している』では、南区が11.5%で最も高くなっています。

図表 3-7-5 学習・教養サークルの参加頻度

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回			
令和元年度調査	6,181	0.4	1.0	1.7	3.7	2.8	9.5	60.5	30.0
平成28年度調査	7,633	0.5	1.2	1.9	3.9	3.0	10.5	55.5	34.0
認定別									
一般高齢者	5,565	0.4	1.0	1.8	3.9	2.9	10.0	61.4	28.7
要支援認定者	616	0.2	0.8	1.5	1.5	1.8	5.7	52.4	41.9
性別									
男性	2,699	0.1	0.7	1.2	2.2	2.4	6.6	68.8	24.5
女性	3,482	0.5	1.3	2.1	4.8	3.1	11.8	54.0	34.2
年齢別									
65～69歳	1,362	0.4	1.0	1.9	3.9	2.9	10.1	73.6	16.4
70～74歳	1,670	0.4	1.3	1.7	4.3	3.2	10.9	65.1	24.0
75～79歳	1,692	0.5	0.9	1.9	3.8	3.1	10.2	54.0	35.8
80～84歳	964	0.2	0.7	2.0	3.2	1.8	7.9	49.7	42.4
85～89歳	385	0.0	1.0	0.3	1.3	1.8	4.4	51.7	43.9
90歳以上	108	0.0	1.9	0.0	0.9	0.9	3.7	53.7	42.6
区域別									
堺区	883	0.2	1.5	2.3	4.0	2.3	10.2	59.5	30.4
中区	840	0.4	0.7	1.2	2.6	2.1	7.0	60.7	32.3
東区	876	0.5	0.7	1.6	3.0	2.2	7.9	61.9	30.3
西区	891	0.4	1.3	1.6	4.0	2.7	10.1	58.7	31.2
南区	929	0.5	1.2	2.5	4.6	2.7	11.5	62.0	26.5
北区	903	0.1	0.9	1.6	3.7	2.7	8.9	61.8	29.3
美原区	859	0.3	0.7	1.4	3.7	4.8	10.9	58.8	30.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

## (5) いきいきサロンや体操など介護予防のための通いの場

いきいきサロンや体操など介護予防のための通いの場の参加頻度については、『参加している』が8.8%、「参加していない」が62.9%となっています。

認定状況別でみると、『参加している』では、一般高齢者が7.2%、要支援認定者が23.9%となっています。

性別でみると、『参加している』では、女性が12.4%で、男性(4.3%)よりも8.1ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『参加している』では、85～89歳が15.8%で最も高くなっています。

区域別でみると、『参加している』では、美原区が13.3%で最も高くなっています。

図表 3-7-6 いきいきサロンや体操など介護予防のための通いの場の参加頻度

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	6,181	0.8	1.7	2.1	2.3	1.9	8.8	62.9	28.2	
別認定	一般高齢者	5,565	0.7	1.1	1.6	2.0	1.8	7.2	65.0	27.9
	要支援認定者	616	1.9	7.5	6.8	4.4	3.2	23.9	44.3	31.8
性別	男性	2,699	0.7	0.8	1.0	1.0	0.8	4.3	71.7	24.1
	女性	3,482	0.9	2.4	3.0	3.3	2.8	12.4	56.1	31.5
年齢別	65～69歳	1,362	0.4	0.7	0.9	1.5	1.2	4.7	79.0	16.3
	70～74歳	1,670	0.3	1.7	0.9	1.9	1.8	6.6	69.5	24.0
	75～79歳	1,692	1.2	1.8	2.8	2.8	2.1	10.8	56.1	33.1
	80～84歳	964	0.9	1.9	3.3	2.7	2.9	11.7	48.7	39.6
	85～89歳	385	2.1	3.6	4.4	2.9	2.9	15.8	47.8	36.4
	90歳以上	108	1.9	3.7	5.6	3.7	0.0	14.8	46.3	38.9
区域別	堺区	883	0.3	1.8	2.4	3.1	1.9	9.5	63.0	27.5
	中区	840	1.1	2.0	1.5	1.3	1.1	7.0	61.8	31.2
	東区	876	1.0	1.6	2.3	1.7	2.4	9.0	63.2	27.7
	西区	891	1.2	1.5	1.5	1.8	2.0	8.0	61.3	30.8
	南区	929	0.6	2.0	1.6	2.3	1.3	7.9	67.0	25.2
	北区	903	0.7	1.8	1.8	2.3	0.8	7.3	63.8	28.9
	美原区	859	0.7	1.2	3.7	3.5	4.2	13.3	60.1	26.7

※網掛け■は最も割合が高いもの

## (6) 老人クラブ

老人クラブの参加頻度については、『参加している』が8.2%、「参加していない」が62.8%となっています。

認定状況別でみると、『参加している』では、一般高齢者が7.8%、要支援認定者が11.9%となっています。

性別でみると、「参加していない」では、男性が69.0%で、女性(57.9%)よりも11.1ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『参加している』では、80～84歳が14.3%で最も高くなっています。

区域別でみると、『参加している』では、美原区が11.1%で最も高くなっています。

図表 3-7-7 老人クラブの参加頻度

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	6,181	0.6	0.7	0.6	2.2	4.1	8.2	62.8	29.0	
別認定	一般高齢者	5,565	0.6	0.7	0.6	2.1	3.9	7.8	64.3	27.9
	要支援認定者	616	1.0	1.1	1.1	2.9	5.7	11.9	48.7	39.4
性別	男性	2,699	0.8	0.8	0.3	1.7	3.6	7.3	69.0	23.7
	女性	3,482	0.5	0.7	0.8	2.5	4.4	8.9	57.9	33.1
年齢別	65～69歳	1,362	0.0	0.2	0.1	1.0	1.4	2.6	80.3	17.0
	70～74歳	1,670	0.2	0.5	0.4	1.7	3.0	5.7	69.5	24.7
	75～79歳	1,692	1.1	0.9	0.7	2.7	5.4	10.8	54.8	34.4
	80～84歳	964	1.6	1.2	1.3	3.5	6.6	14.3	47.6	38.1
	85～89歳	385	0.8	1.3	1.3	2.3	6.2	11.9	48.3	39.7
	90歳以上	108	0.0	0.9	0.0	4.6	3.7	9.3	48.1	42.6
区域別	堺区	883	0.3	0.2	0.0	2.3	3.1	5.9	64.4	29.7
	中区	840	1.3	1.2	0.8	2.0	4.9	10.2	58.9	30.8
	東区	876	0.3	0.3	0.1	1.9	3.8	6.5	64.4	29.1
	西区	891	1.1	1.1	0.8	1.1	4.3	8.4	60.8	30.8
	南区	929	0.6	0.5	1.0	2.6	3.0	7.8	66.8	25.4
	北区	903	0.4	0.6	0.6	2.7	3.7	7.9	63.1	29.0
	美原区	859	0.2	1.2	1.0	2.6	6.1	11.1	60.4	28.5

※網掛け■は最も割合が高いもの

## (7) 町内会・自治会

町内会・自治会の参加頻度については、『参加している』が22.3%、「参加していない」が49.5%となっています。

認定状況別でみると、『参加している』では、一般高齢者が23.3%、要支援認定者が13.3%となっています。

性別でみると、「参加していない」では、男性が54.0%で、女性（46.0%）よりも8.0ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『参加している』では、70～74歳が25.9%で最も高くなっています。

区域別でみると、『参加している』では、南区が26.5%で最も高くなっています。

図表 3-7-8 町内会・自治会の参加頻度

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	6,181	0.5	0.5	0.9	4.8	15.6	22.3	49.5	28.2	
別認定	一般高齢者	5,565	0.4	0.6	0.9	5.0	16.3	23.3	49.8	26.9
	要支援認定者	616	0.5	0.0	0.5	2.9	9.4	13.3	46.4	40.3
性別	男性	2,699	0.6	0.6	1.1	5.6	15.6	23.6	54.0	22.4
	女性	3,482	0.3	0.5	0.7	4.2	15.6	21.3	46.0	32.7
年齢別	65～69歳	1,362	0.1	0.5	0.7	4.8	16.9	23.0	61.0	16.0
	70～74歳	1,670	0.2	0.5	1.0	5.6	18.6	25.9	51.0	23.1
	75～79歳	1,692	0.7	0.8	0.9	5.5	14.3	22.1	44.1	33.8
	80～84歳	964	1.0	0.5	0.7	3.8	14.3	20.4	42.1	37.4
	85～89歳	385	0.3	0.0	1.8	2.6	9.1	13.8	44.2	42.1
	90歳以上	108	0.0	0.0	0.0	0.9	7.4	8.3	49.1	42.6
区域別	堺区	883	0.6	0.6	0.7	4.0	13.0	18.8	52.8	28.4
	中区	840	0.4	0.8	2.5	4.5	18.2	26.4	45.0	28.6
	東区	876	0.5	0.5	0.5	4.0	12.7	18.0	52.7	29.2
	西区	891	0.6	0.2	0.8	4.4	12.5	18.4	51.0	30.6
	南区	929	0.4	0.4	1.0	6.4	18.3	26.5	49.0	24.5
	北区	903	0.2	0.4	0.4	5.9	15.6	22.6	49.7	27.7
	美原区	859	0.6	0.8	0.5	4.7	18.9	25.4	45.9	28.8

※網掛け■は最も割合が高いもの

## (8) 収入のある仕事

収入のある仕事の参加頻度については、『参加している』が19.4%、「参加していない」が52.9%となっています。

認定状況別でみると、『参加している』では、一般高齢者が21.5%、要支援認定者が1.1%となっています。

性別でみると、『参加している』では、男性が26.0%で、女性(14.4%)よりも11.6ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『参加している』では、65～69歳が37.4%で最も高くなっています。

区域別でみると、『参加している』では、西区が21.0%で最も高くなっています。

図表 3-7-9 収入のある仕事の参加頻度

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	6,181	10.5	5.1	1.3	1.4	1.1	19.4	52.9	27.7	
別認定	一般高齢者	5,565	11.6	5.7	1.4	1.5	1.2	21.5	52.5	26.1
	要支援認定者	616	0.3	0.0	0.3	0.3	0.2	1.1	56.7	42.2
性別	男性	2,699	14.8	6.5	1.4	1.8	1.5	26.0	52.5	21.5
	女性	3,482	7.2	4.0	1.3	1.1	0.8	14.4	53.2	32.5
年齢別	65～69歳	1,362	23.3	9.5	1.2	1.8	1.5	37.4	50.4	12.2
	70～74歳	1,670	12.8	6.4	2.1	1.7	1.3	24.3	54.1	21.7
	75～79歳	1,692	5.2	3.4	1.1	1.4	1.2	12.4	53.6	34.0
	80～84歳	964	2.5	1.8	0.8	0.8	0.3	6.2	53.3	40.5
	85～89歳	385	1.6	0.8	0.3	0.8	0.8	4.2	51.7	44.2
	90歳以上	108	0.0	0.0	0.9	0.0	0.9	1.9	54.6	43.5
区域別	堺区	883	11.6	4.3	1.2	1.4	0.7	19.1	53.2	27.6
	中区	840	10.4	4.4	1.0	1.5	1.0	18.2	51.5	30.2
	東区	876	10.6	5.1	0.9	1.4	1.8	19.9	52.6	27.5
	西区	891	9.9	7.0	1.6	1.6	1.0	21.0	50.5	28.5
	南区	929	10.3	4.8	1.3	1.2	1.1	18.7	57.4	23.9
	北区	903	10.6	4.7	1.2	1.7	1.2	19.4	52.0	28.6
	美原区	859	10.2	5.4	2.0	1.2	1.0	19.8	52.6	27.6

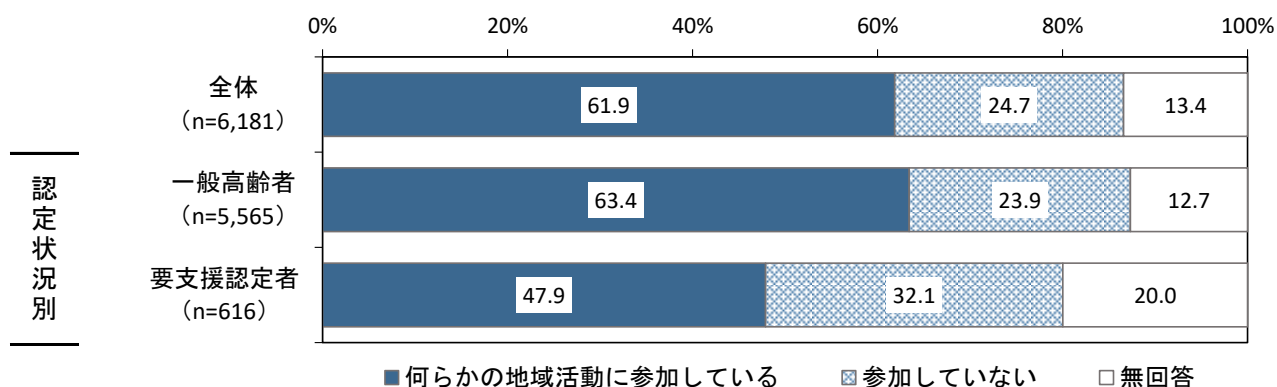
※網掛け■は最も割合が高いもの

## (9) 地域活動の参加状況

地域活動の参加状況については、「何らかの地域活動に参加している」が61.9%、「参加していない」が24.7%となっています。

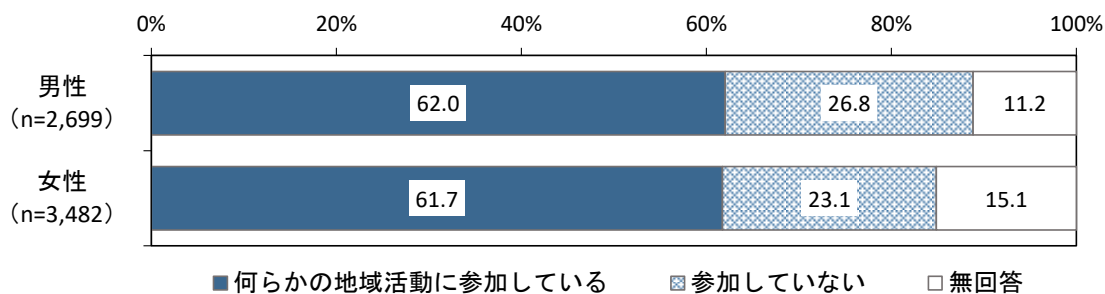
認定状況別でみると、「何らかの地域活動に参加している」では、一般高齢者が63.4%、要支援認定者が47.9%となっています。

図表 3-7-10 地域活動の参加状況



性別でみると、「参加していない」では、男性が26.8%で、女性（23.1%）よりも3.7ポイント高くなっています。

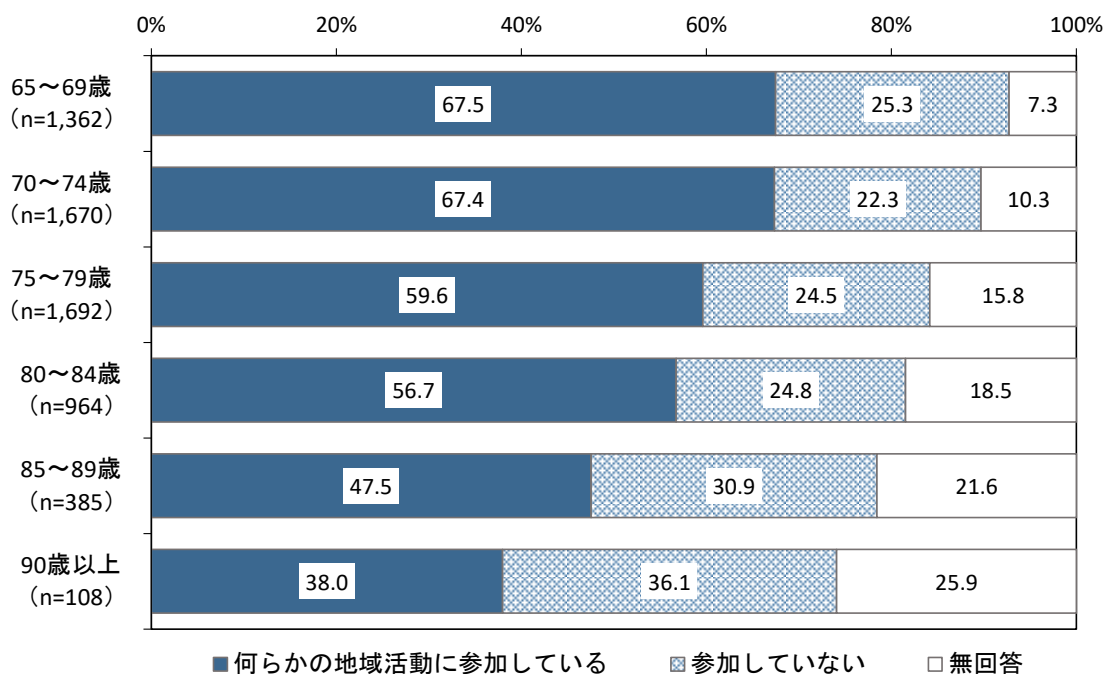
図表 3-7-11 地域活動の参加状況 性別





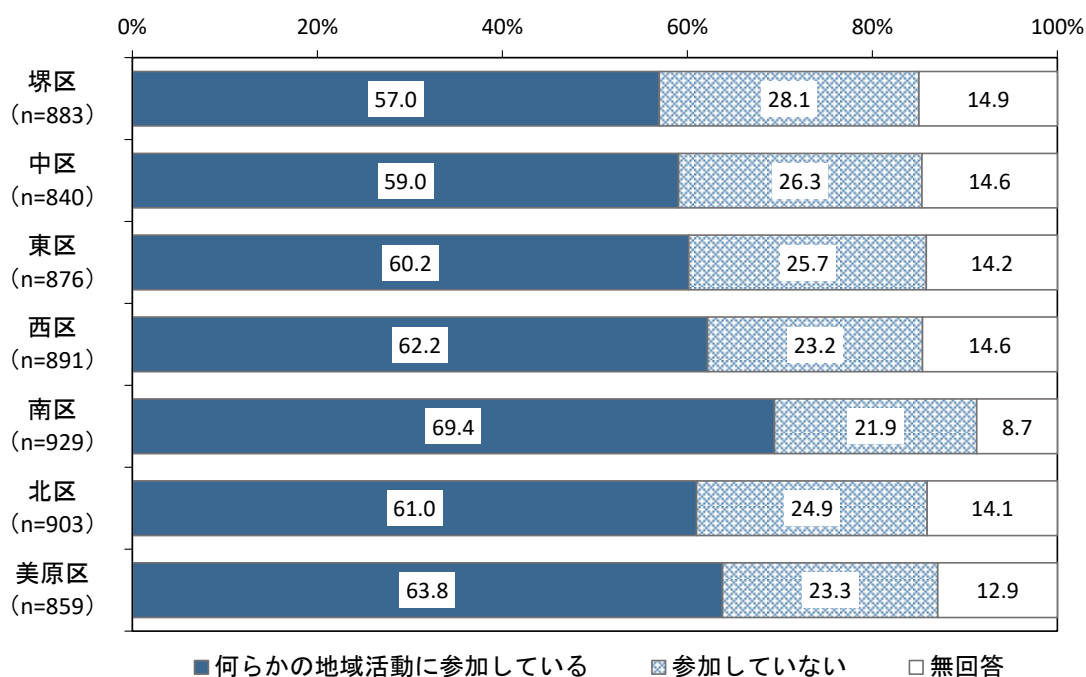
年齢別でみると、「何らかの地域活動に参加している」では、年齢が上がるにつれて割合が低くなっており、65～69歳が67.5%で最も高くなっています。

図表 3-7-12 地域活動の参加状況 年齢別



区域別でみると、「何らかの地域活動に参加している」では、南区が69.4%で最も高くなっています。

図表 3-7-13 地域活動の参加状況 区域別

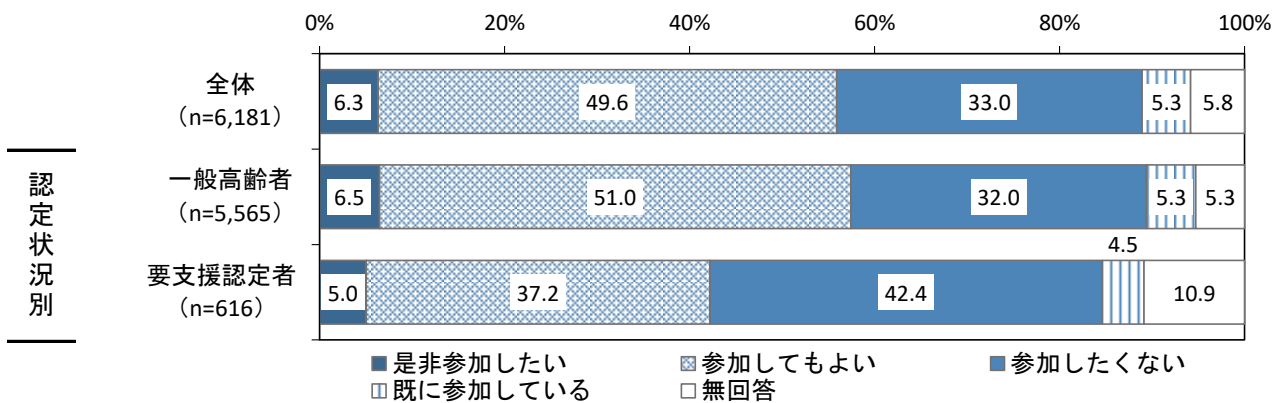


問6 (2)	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか (〇はひとつ)
--------	---

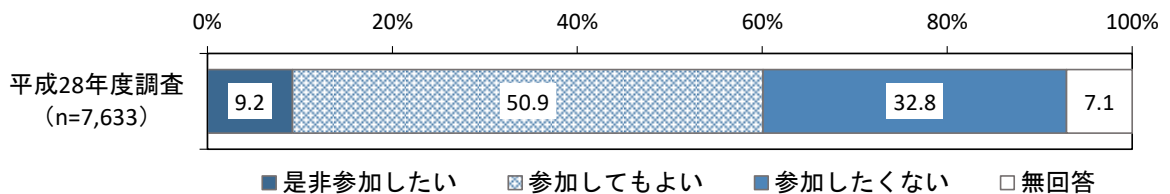
地域住民のグループ活動による地域づくりに、参加者として参加したいかについては、「参加してもよい」が49.6%で最も高く、次いで「参加したくない」が33.0%、「是非参加したい」が6.3%と続いています。

認定状況別でみると、「参加したくない」では、要支援認定者が42.4%で、一般高齢者(32.0%)よりも10.4ポイント高くなっています。

図表 3-7-14 地域住民のグループ活動による地域づくりに、参加者として参加したいか

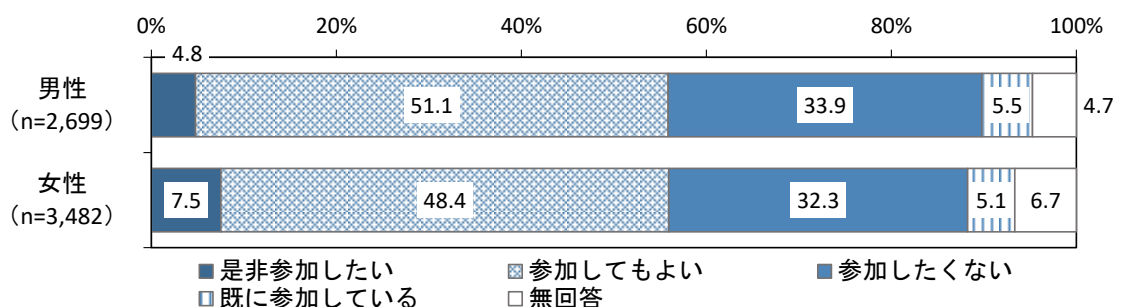


図表 3-7-15 地域住民のグループ活動による地域づくりに、参加者として参加したいか  
平成28年度調査



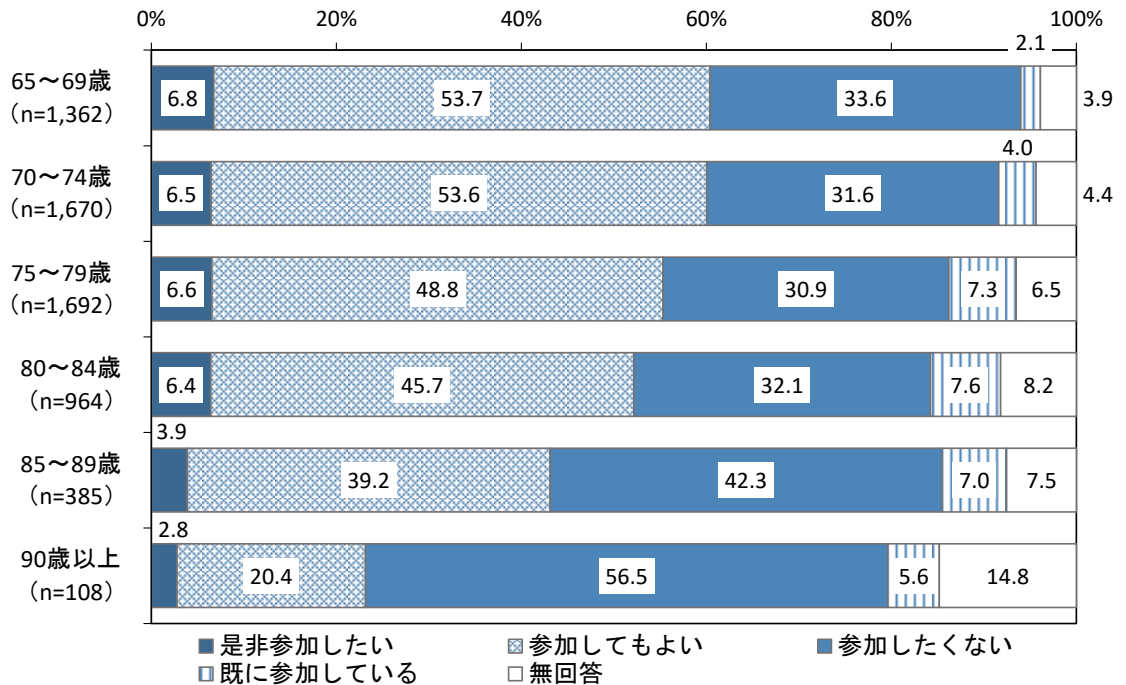
性別でみると、大きな差はみられません。

図表 3-7-16 地域住民のグループ活動による地域づくりに、参加者として参加したいか 性別



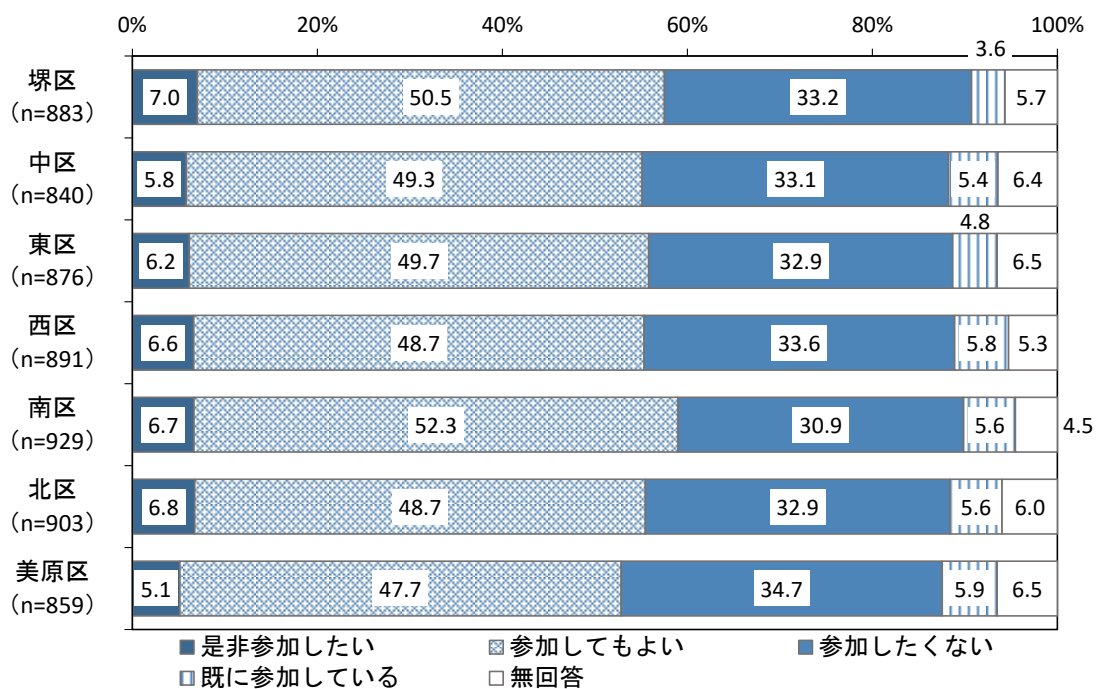
年齢別でみると、「参加したくない」では、75歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が56.5%で最も高くなっています。

図表 3-7-17 地域住民のグループ活動による地域づくりに、参加者として参加したいか 年齢別



区域別でみると、「既に参加している」では、美原区が5.9%で最も高くなっています。

図表 3-7-18 地域住民のグループ活動による地域づくりに、参加者として参加したいか 区域別

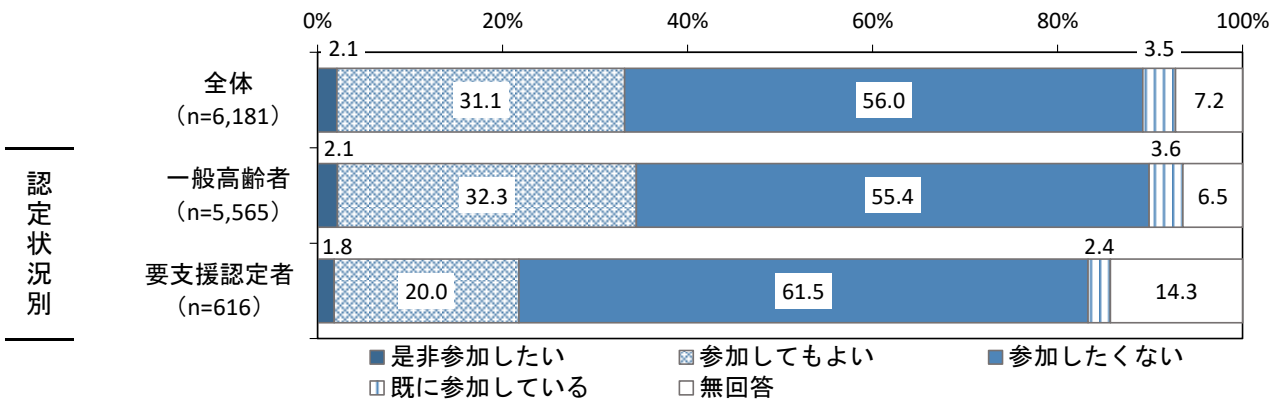


問6 (3)	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（〇はひとつ）
--------	--

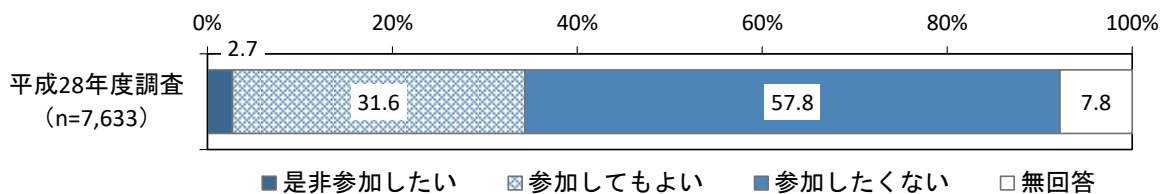
地域住民のグループ活動による地域づくりに、企画・運営として参加したいかについては、「参加したくない」が56.0%で最も高く、次いで「参加してもよい」が31.1%、「既に参加している」が3.5%と続いています。

認定状況別でみると、「参加したくない」では、要支援認定者が61.5%で、一般高齢者（55.4%）よりも6.1ポイント高くなっています。

図表 3-7-19 地域住民のグループ活動による地域づくりに、企画・運営として参加したいか

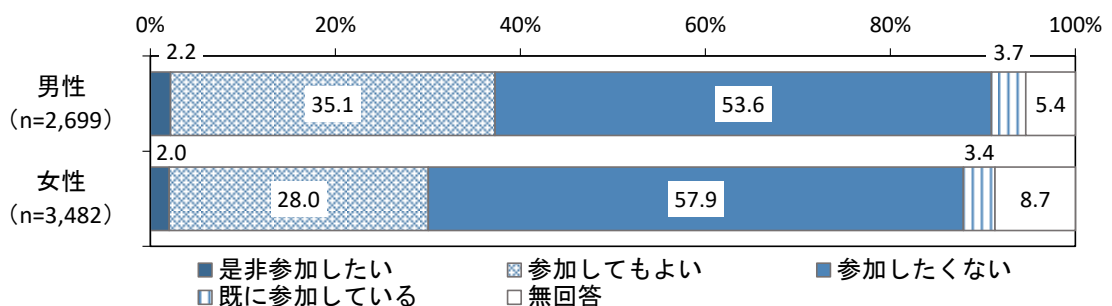


図表 3-7-20 地域住民のグループ活動による地域づくりに、企画・運営として参加したいか  
平成28年度調査



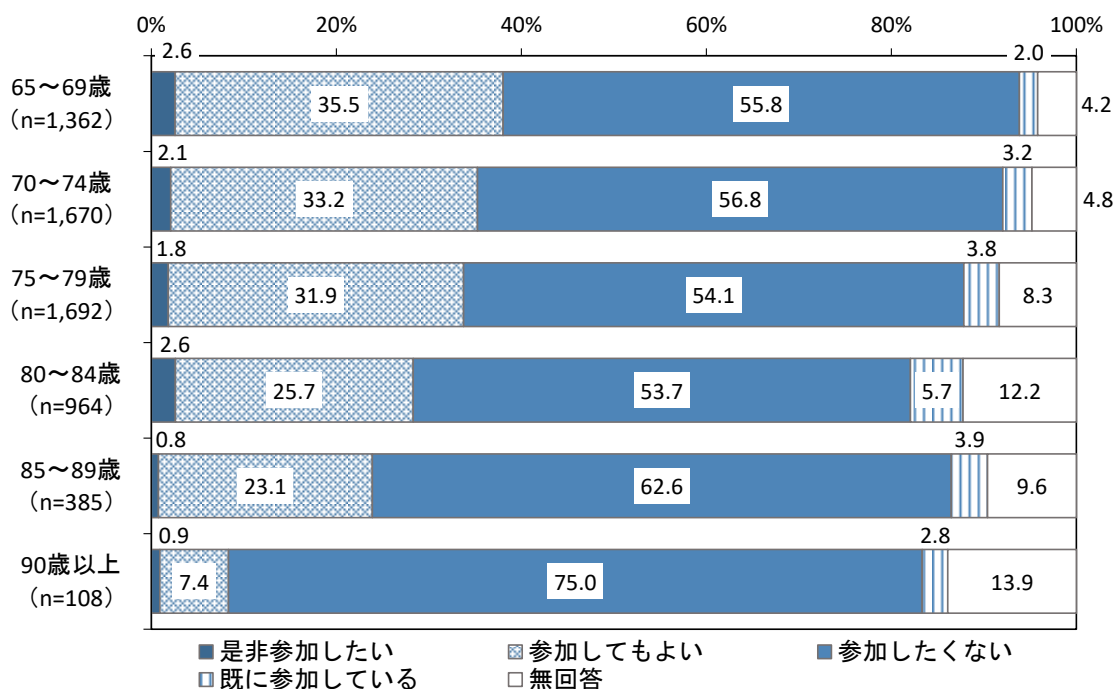
性別でみると、「参加してもよい」では、男性が35.1%で、女性（28.0%）よりも7.1ポイント高くなっています。

図表 3-7-21 地域住民のグループ活動による地域づくりに、企画・運営として参加したいか 性別



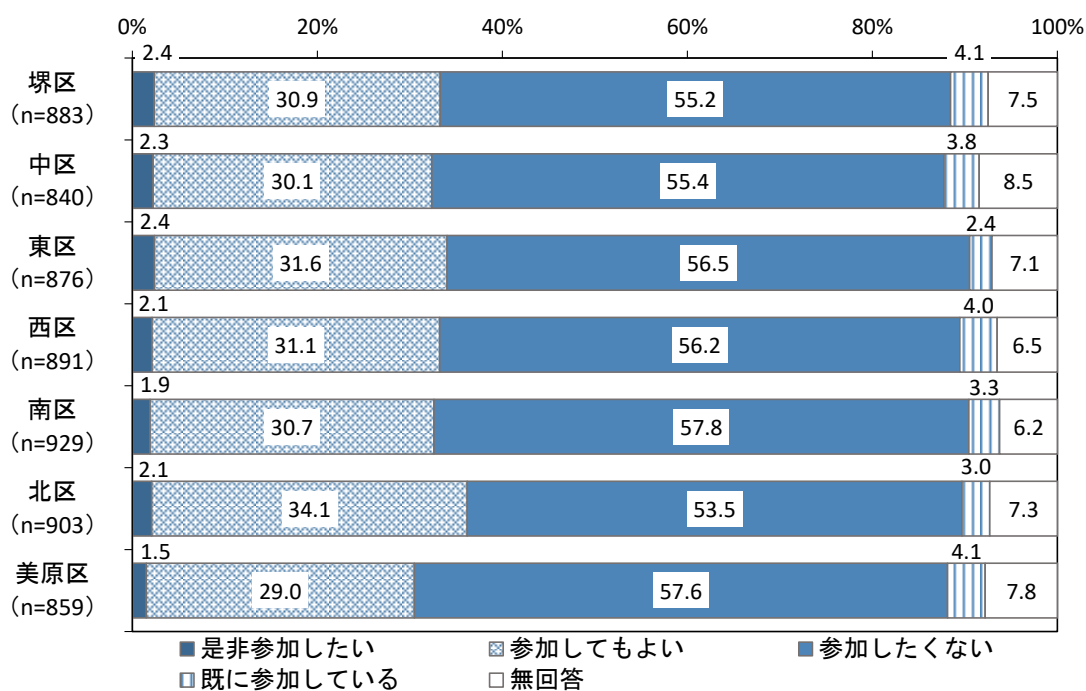
年齢別でみると、「参加してもよい」では、年齢が上がるにつれて割合が低くなっており、65～69歳が35.5%で最も高くなっています。

図表 3-7-22 地域住民のグループ活動による地域づくりに、企画・運営として参加したいか  
年齢別



区域別でみると、「参加してもよい」では、北区が34.1%で最も高くなっています。

図表 3-7-23 地域住民のグループ活動による地域づくりに、企画・運営として参加したいか  
区域別



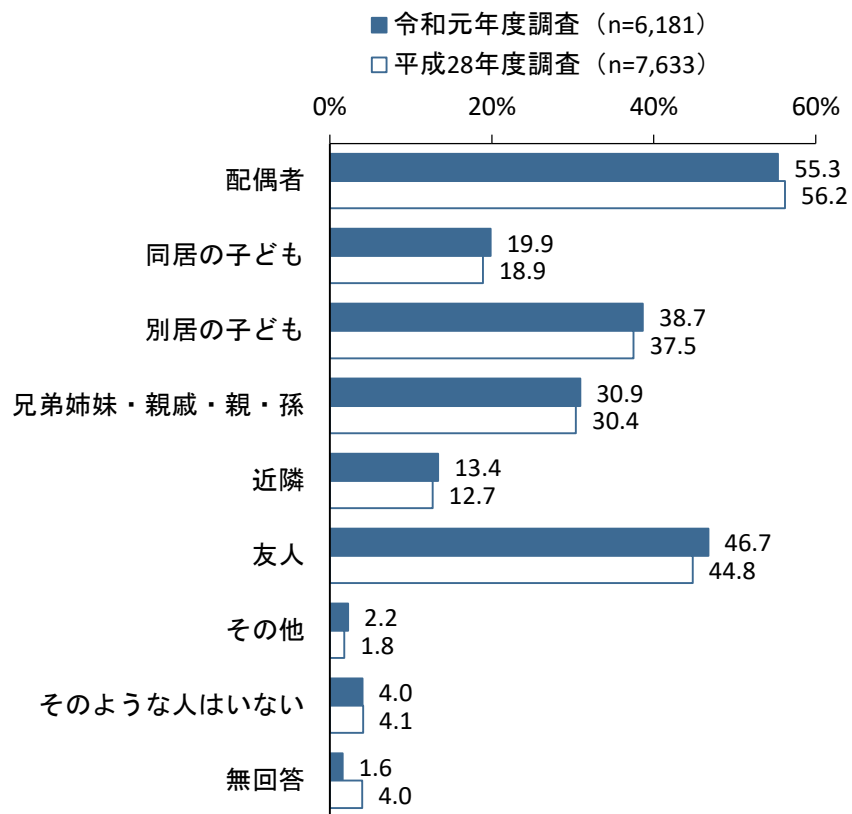
## 8. たすけあいについて

問7(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(〇はいくつでも)

心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が55.3%で最も高く、次いで「友人」が46.7%、「別居の子ども」が38.7%と続いています。

平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-8-1 心配事や愚痴を聞いてくれる人



認定状況別で見ると、一般高齢者では「配偶者」が57.9%で最も高く、要支援認定者では「別居の子ども」が39.4%で最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「配偶者」が72.2%で最も高く、女性では「友人」が56.4%で最も高くなっています。

年齢別で見ると、84歳以下では「配偶者」の割合が最も高く、85歳以上では「別居の子ども」の割合が最も高くなっています。

区域別で見ると、「そのような人はいない」では、堺区が5.4%で最も高くなっています。

図表 3-8-2 心配事や愚痴を聞いてくれる人 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		6,181	55.3	19.9	38.7	30.9	13.4	46.7	2.2	4.0	1.6
別認定	一般高齢者	5,565	57.9	19.9	38.6	31.3	13.3	47.8	2.1	3.9	1.4
	要支援認定者	616	32.3	19.8	39.4	27.6	14.4	37.0	3.6	5.2	2.9
性別	男性	2,699	72.2	13.6	29.8	21.1	6.7	34.2	2.0	6.5	1.7
	女性	3,482	42.2	24.7	45.5	38.5	18.5	56.4	2.5	2.2	1.5
年齢別	65～69歳	1,362	62.5	20.7	36.3	32.5	11.1	53.2	3.0	4.8	1.0
	70～74歳	1,670	61.3	17.7	38.4	31.4	13.1	52.7	2.2	4.1	0.7
	75～79歳	1,692	55.1	18.9	38.8	32.1	15.9	47.4	1.4	3.3	2.1
	80～84歳	964	47.4	20.4	40.4	27.5	14.5	35.6	1.9	4.1	2.4
	85～89歳	385	35.1	24.9	43.6	27.8	9.6	31.4	3.6	4.4	2.6
	90歳以上	108	20.4	33.3	37.0	27.8	10.2	17.6	5.6	2.8	4.6
区域別	堺区	883	46.7	18.5	35.8	31.4	12.1	43.0	2.7	5.4	3.1
	中区	840	57.7	21.8	38.3	31.8	16.3	47.5	2.1	3.5	1.2
	東区	876	56.8	20.4	35.7	31.4	11.5	46.5	2.1	4.3	1.7
	西区	891	54.4	21.7	37.8	30.1	12.5	48.3	2.2	4.3	1.5
	南区	929	59.2	16.5	42.6	30.0	13.2	48.8	3.1	3.8	1.0
	北区	903	52.5	19.5	38.0	30.5	13.3	48.0	2.2	4.1	1.2
	美原区	859	60.2	21.0	42.3	31.4	14.9	45.1	1.2	2.9	1.4

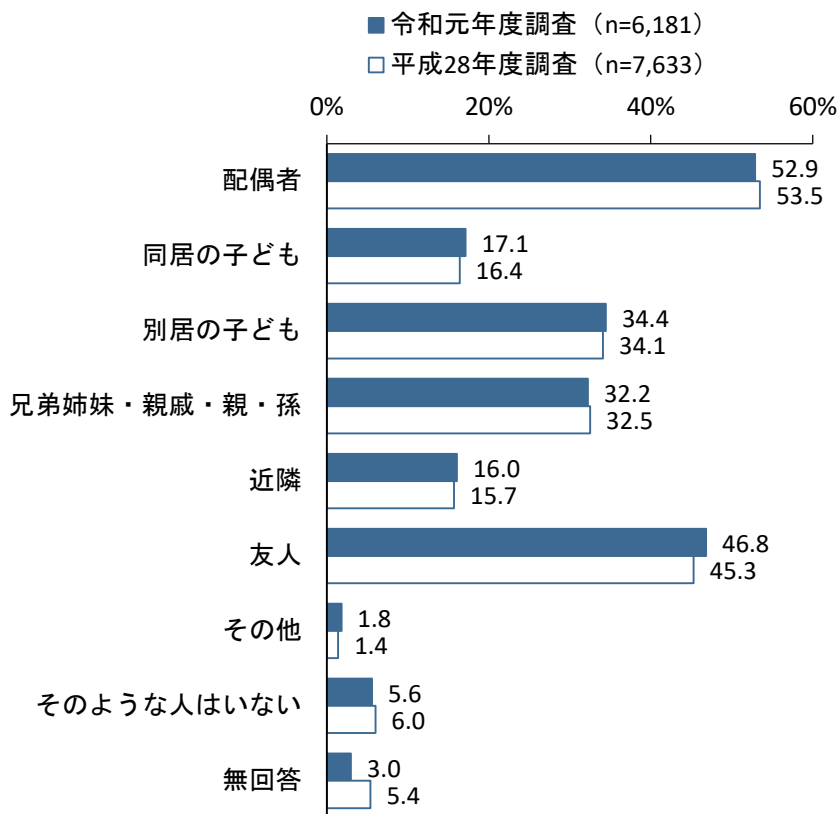
※網掛け■は最も割合が高いもの

問7(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(〇はいくつでも)

心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が52.9%で最も高く、次いで「友人」が46.8%、「別居の子ども」が34.4%と続いています。

平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-8-3 心配事や愚痴を聞いてあげる人





認定状況別でみると、一般高齢者では「配偶者」が55.5%で最も高く、要支援認定者では「友人」が37.8%で最も高くなっています。

性別でみると、男性では「配偶者」が70.8%で最も高く、女性では「友人」が56.3%で最も高くなっています。

年齢別でみると、89歳以下では「配偶者」の割合が最も高く、90歳以上では「同居の子ども」の割合が最も高くなっています。

区域別でみると、「そのような人はいない」では、堺区が7.9%で最も高くなっています。

図表 3-8-4 心配事や愚痴を聞いてあげる人 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		6,181	52.9	17.1	34.4	32.2	16.0	46.8	1.8	5.6	3.0
別認定	一般高齢者	5,565	55.5	17.5	35.2	33.4	16.3	47.8	1.7	5.0	2.4
	要支援認定者	616	29.5	13.6	27.3	21.9	13.8	37.8	2.6	10.9	8.0
性別	男性	2,699	70.8	13.7	29.5	24.3	8.5	34.6	1.6	7.1	2.9
	女性	3,482	39.0	19.8	38.3	38.4	21.9	56.3	2.0	4.4	3.1
年齢別	65～69歳	1,362	61.2	20.6	36.2	34.9	12.8	53.2	2.5	4.8	1.2
	70～74歳	1,670	58.1	16.1	37.4	35.1	17.2	53.0	1.9	4.6	1.6
	75～79歳	1,692	51.9	16.0	33.3	33.0	19.1	47.1	1.4	4.2	3.1
	80～84歳	964	45.0	15.5	31.3	26.9	16.7	36.1	1.5	7.4	5.2
	85～89歳	385	34.8	16.6	32.5	23.9	9.4	31.2	1.3	12.2	6.0
	90歳以上	108	17.6	23.1	19.4	19.4	8.3	17.6	3.7	12.0	13.9
区域別	堺区	883	44.3	15.6	30.7	32.2	14.8	43.6	2.4	7.9	4.4
	中区	840	54.4	19.0	36.4	32.1	18.9	48.3	1.5	4.3	3.9
	東区	876	54.6	16.9	31.1	31.8	16.6	47.3	1.4	5.9	2.5
	西区	891	51.2	18.5	35.1	30.1	14.1	47.7	1.2	6.3	3.0
	南区	929	57.3	14.9	38.3	31.3	14.2	47.9	2.4	5.2	2.0
	北区	903	51.1	16.9	33.4	34.7	16.3	47.6	2.1	5.2	2.1
	美原区	859	57.5	18.2	36.0	33.4	17.7	45.3	1.6	4.1	2.9

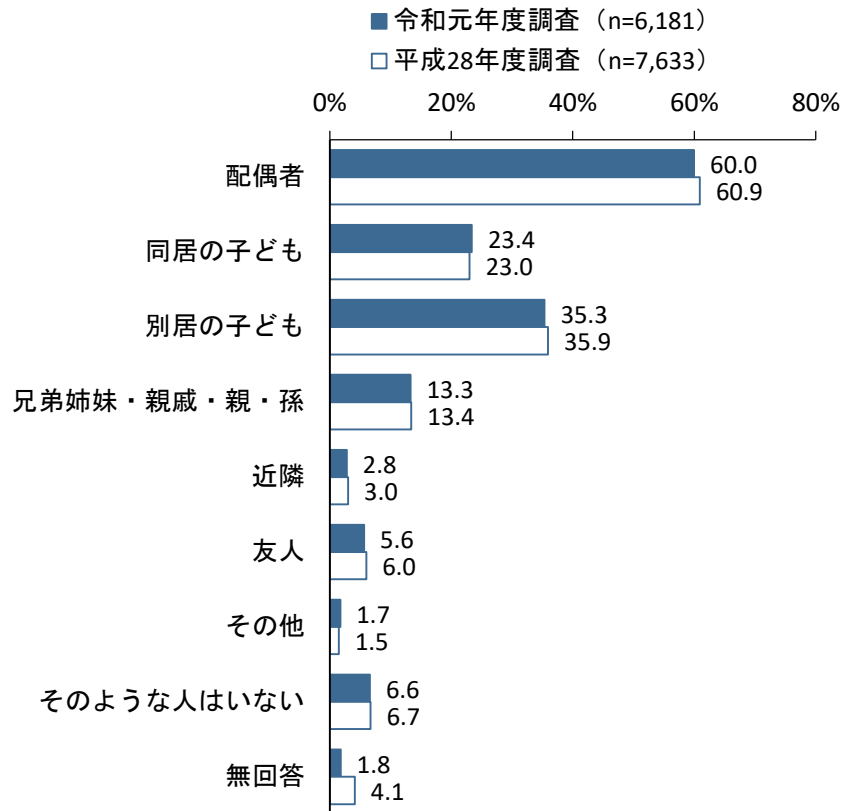
※網掛け■は最も割合が高いもの

問 7 (3)	あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (〇はいくつでも)
---------	---

病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が 60.0%で最も高く、次いで「別居の子ども」が 35.3%、「同居の子ども」が 23.4%と続いています。

平成 28 年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-8-5 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人



認定状況別でみると、一般高齢者では「配偶者」が62.9%で最も高く、要支援認定者では「別居の子ども」が40.4%で最も高くなっています。

性別でみると、「配偶者」「そのような人はいない」以外の項目で女性の割合が男性よりも高くなっています。

年齢別でみると、84歳以下では「配偶者」の割合が最も高く、85～89歳では「別居の子ども」の割合が最も高く、90歳以上では「同居の子ども」の割合が最も高くなっています。

区域別でみると、「そのような人はいない」では、堺区が9.6%で最も高くなっています。

図表 3-8-6 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		6,181	60.0	23.4	35.3	13.3	2.8	5.6	1.7	6.6	1.8
別認定	一般高齢者	5,565	62.9	23.3	34.8	13.1	2.7	5.6	1.5	6.2	1.6
	要支援認定者	616	33.6	23.9	40.4	14.8	3.9	6.0	4.1	9.7	3.6
性別	男性	2,699	77.0	16.9	28.4	10.1	1.3	3.0	1.1	6.7	1.4
	女性	3,482	46.8	28.4	40.7	15.8	3.9	7.7	2.2	6.5	2.1
年齢別	65～69歳	1,362	68.9	22.9	29.2	14.3	1.1	5.5	1.0	7.9	1.0
	70～74歳	1,670	66.9	21.1	34.3	12.5	2.9	7.1	1.3	6.6	1.1
	75～79歳	1,692	59.6	22.9	37.7	13.1	3.4	6.0	1.7	5.6	2.1
	80～84歳	964	50.1	24.7	40.0	12.9	4.1	3.8	2.1	6.3	2.5
	85～89歳	385	35.1	29.6	41.0	14.3	2.1	3.6	3.1	8.1	3.4
	90歳以上	108	20.4	38.9	28.7	15.7	2.8	2.8	12.0	2.8	5.6
区域別	堺区	883	50.8	21.1	33.9	14.9	2.0	5.9	3.2	9.6	2.5
	中区	840	61.7	25.8	37.5	12.3	2.6	4.3	1.5	5.2	2.1
	東区	876	61.5	23.5	33.9	14.2	2.6	6.5	1.1	5.8	1.8
	西区	891	58.8	25.7	33.8	13.0	2.9	6.3	1.7	6.5	1.6
	南区	929	63.6	20.8	34.3	10.4	2.3	5.1	1.5	6.0	1.6
	北区	903	57.4	22.8	35.5	14.1	3.1	5.4	2.1	8.2	1.6
	美原区	859	66.0	24.3	38.6	14.2	4.0	5.9	0.9	4.5	1.4

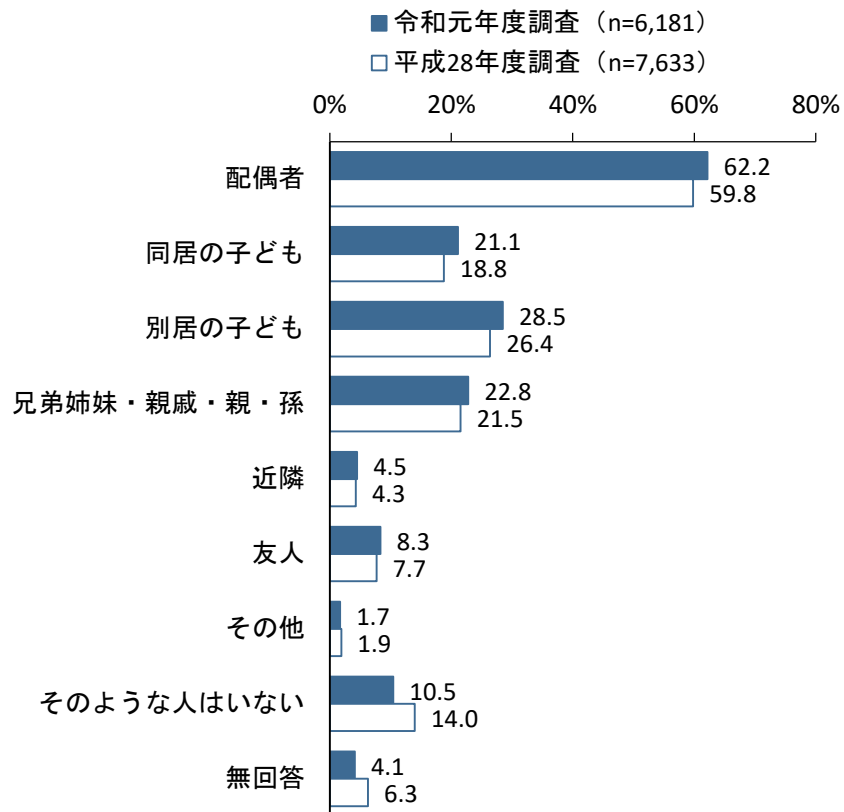
※網掛け■は最も割合が高いもの

問7(4) 反対に、看病や世話をしあける人(〇はいくつでも)

看病や世話をしあける人については、「配偶者」が62.2%で最も高く、次いで「別居の子ども」が28.5%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が22.8%と続いています。

平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-8-7 看病や世話をしあける人



認定状況別でみると、「そのような人はいない」では、要支援認定者が 24.5%で、一般高齢者(8.9%) よりも 15.6 ポイント高くなっています。

性別でみると、「配偶者」「そのような人はいない」以外の項目で女性の割合が男性よりも高くなっています。

年齢別でみると、89歳以下では「配偶者」の割合が最も高く、90歳以上では「そのような人はいない」の割合が最も高くなっています。

区域別でみると、「そのような人はいない」では、堺区が 12.2%で最も高くなっています。

図表 3-8-8 看病や世話をしあける人 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		6,181	62.2	21.1	28.5	22.8	4.5	8.3	1.7	10.5	4.1
別認定	一般高齢者	5,565	65.0	21.7	30.1	24.0	4.6	8.4	1.4	8.9	3.5
	要支援認定者	616	36.7	15.6	14.3	11.2	3.6	8.1	4.5	24.5	10.1
性別	男性	2,699	76.0	16.6	21.7	16.4	2.0	4.1	1.1	10.7	3.0
	女性	3,482	51.5	24.6	33.7	27.7	6.5	11.6	2.2	10.3	5.0
年齢別	65～69歳	1,362	69.2	24.6	33.2	32.2	2.9	8.4	1.2	9.4	1.5
	70～74歳	1,670	69.0	21.0	32.3	24.6	5.0	10.1	1.0	8.3	2.0
	75～79歳	1,692	62.8	20.1	28.9	20.4	5.8	9.0	1.8	8.1	5.2
	80～84歳	964	52.7	19.0	21.4	15.8	4.7	6.0	2.6	13.5	6.2
	85～89歳	385	40.5	19.2	17.9	13.0	3.1	5.5	2.9	20.3	9.4
	90歳以上	108	21.3	20.4	5.6	10.2	1.9	1.9	4.6	32.4	14.8
区域別	堺区	883	53.7	18.6	27.2	25.1	5.3	8.7	1.5	12.2	5.1
	中区	840	64.3	24.0	29.2	22.4	4.5	7.7	1.7	9.0	4.4
	東区	876	63.0	21.9	26.8	22.1	3.8	7.9	1.7	11.3	4.5
	西区	891	60.7	22.4	27.7	23.8	4.4	8.5	1.5	10.8	4.0
	南区	929	66.5	18.9	28.8	21.7	4.2	8.4	1.6	9.9	3.2
	北区	903	59.8	21.4	29.0	22.0	4.2	7.8	2.0	11.4	3.7
	美原区	859	67.4	20.6	30.7	22.1	5.2	9.4	2.1	8.4	4.1

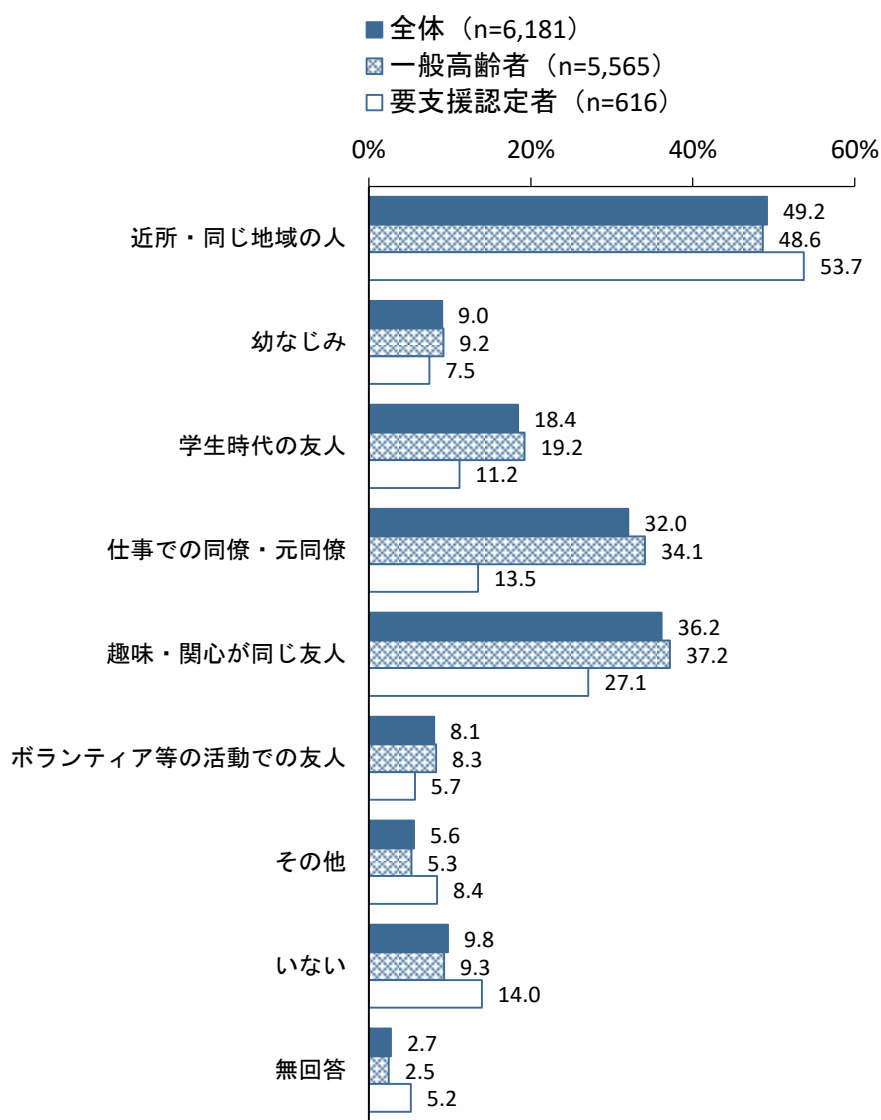
※網掛け■は最も割合が高いもの

問7(5) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか (〇はいくつでも)

よく会う友人・知人はどんな関係の人かについては、「近所・同じ地域の人」が49.2%で最も高く、次いで「趣味・関心が同じ友人」が36.2%、「仕事での同僚・元同僚」が32.0%と続いています。

認定状況別でみると、一般高齢者・要支援者いずれも「近所・同じ地域の人」(一般高齢者48.6%、要支援認定者53.7%)の割合が最も高く、次いで「趣味・関心が同じ友人」(一般高齢者37.2%、要支援認定者27.1%)が高くなっており、一般高齢者では続いて「仕事での同僚・元同僚」(34.1%)が高く、要支援認定者では続いて「いない」(14.0%)が高くなっています。

図表 3-8-9 よく会う友人・知人はどんな関係の人か



性別でみると、男性では「仕事での同僚・元同僚」が40.5%で最も高く、女性では「近所・同じ地域の人」が57.6%で最も高くなっています。

年齢別でみると、「いない」では、90歳以上が29.6%で最も高くなっています。

区域別でみると、「いない」では、堺区が13.7%で最も高くなっています。

図表 3-8-10 よく会う友人・知人はどんな関係の人か 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	近所・同じ地域の人	幼なじみ	学生時代の友人	仕事での同僚・元同僚	趣味・関心が同じ友人	ボランティア等の活動での友人	その他	いない	無回答
全体		6,181	49.2	9.0	18.4	32.0	36.2	8.1	5.6	9.8	2.7
別認定	一般高齢者	5,565	48.6	9.2	19.2	34.1	37.2	8.3	5.3	9.3	2.5
	要支援認定者	616	53.7	7.5	11.2	13.5	27.1	5.7	8.4	14.0	5.2
性別	男性	2,699	38.2	8.3	18.7	40.5	32.0	6.9	4.7	13.3	2.5
	女性	3,482	57.6	9.6	18.2	25.5	39.4	9.0	6.3	7.0	2.9
年齢別	65～69歳	1,362	40.7	7.7	23.6	46.3	32.7	7.0	6.2	8.9	1.4
	70～74歳	1,670	49.1	9.8	19.5	36.7	38.0	8.6	4.9	8.5	2.0
	75～79歳	1,692	52.3	10.6	17.1	28.4	39.8	10.2	5.8	9.6	3.0
	80～84歳	964	55.3	7.8	15.1	20.1	35.6	6.1	5.9	9.5	3.7
	85～89歳	385	52.5	7.8	11.9	14.0	28.8	6.2	4.9	14.3	6.5
	90歳以上	108	40.7	4.6	8.3	8.3	25.9	2.8	4.6	29.6	4.6
区域別	堺区	883	44.5	7.5	16.5	28.7	31.9	8.0	5.9	13.7	3.7
	中区	840	54.9	9.9	17.3	30.6	31.9	7.4	5.4	10.4	2.1
	東区	876	48.7	10.3	18.5	34.4	35.6	8.1	5.6	9.4	2.9
	西区	891	46.4	10.3	18.9	32.8	38.9	7.7	5.8	7.6	2.8
	南区	929	46.6	7.9	21.2	33.4	42.5	8.1	5.0	9.0	2.4
	北区	903	47.1	8.5	18.8	34.4	34.3	7.9	5.6	10.6	2.8
	美原区	859	56.6	9.1	17.6	29.9	37.5	9.2	5.8	7.7	2.4

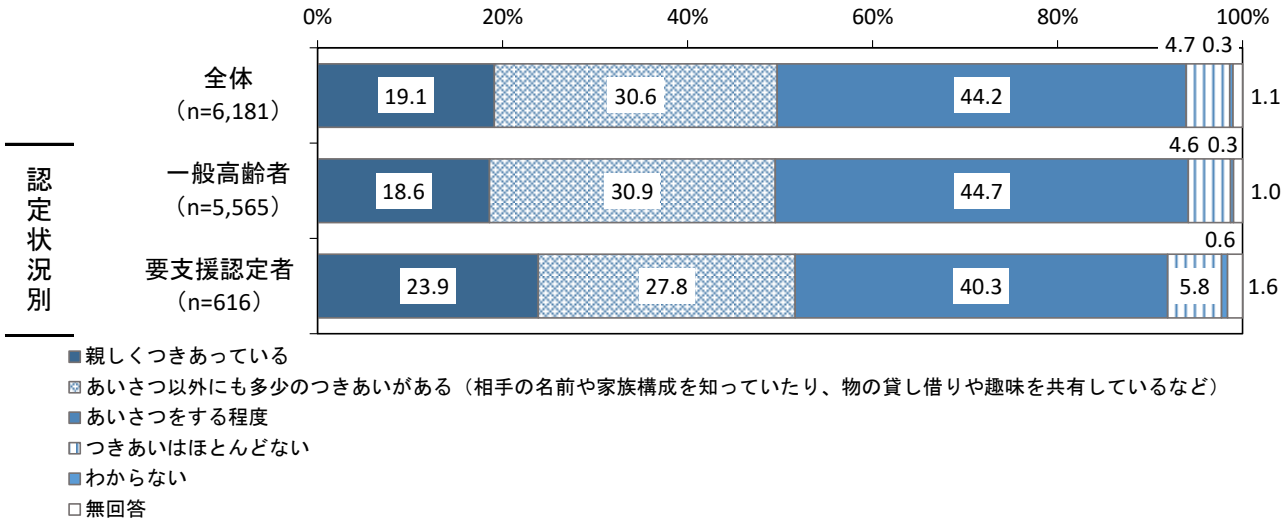
※網掛け■は最も割合が高いもの

問7(6) ふだん、近所の人とどの程度のつきあいをしていますか(〇はひとつ)

近所の人とのつきあいの程度については、「あいさつをする程度」が44.2%で最も高く、次いで「あいさつ以外にも多少のつきあいがある(相手の名前や家族構成を知っていたり、物の貸し借りや趣味を共有しているなど)」が30.6%、「親しくつきあっている」が19.1%と続いています。

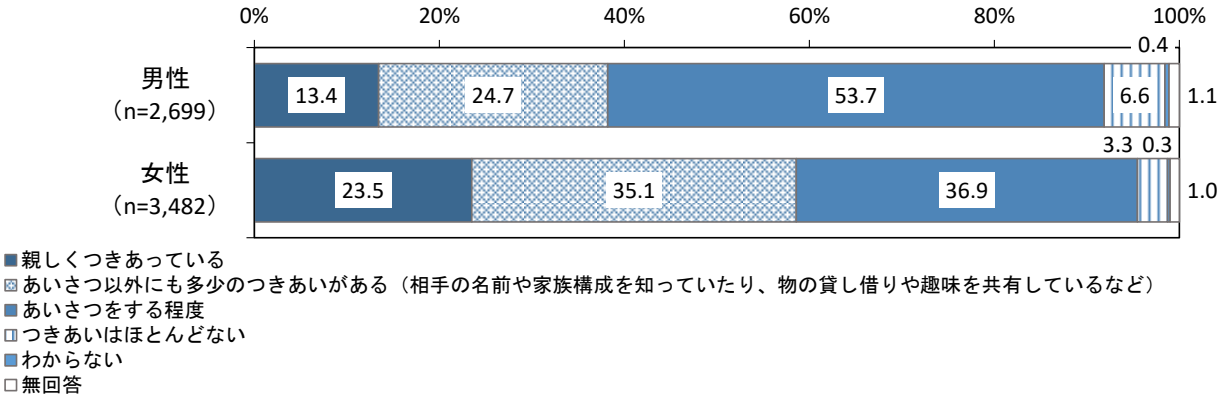
認定状況別でみると、「親しくつきあっている」では、要支援認定者が23.9%で、一般高齢者(18.6%)よりも5.3ポイント高くなっています。

図表 3-8-11 近所の人とのつきあいの程度



性別でみると、「親しくつきあっている」では、女性が23.5%で、男性(13.4%)よりも10.1ポイント高くなっています。

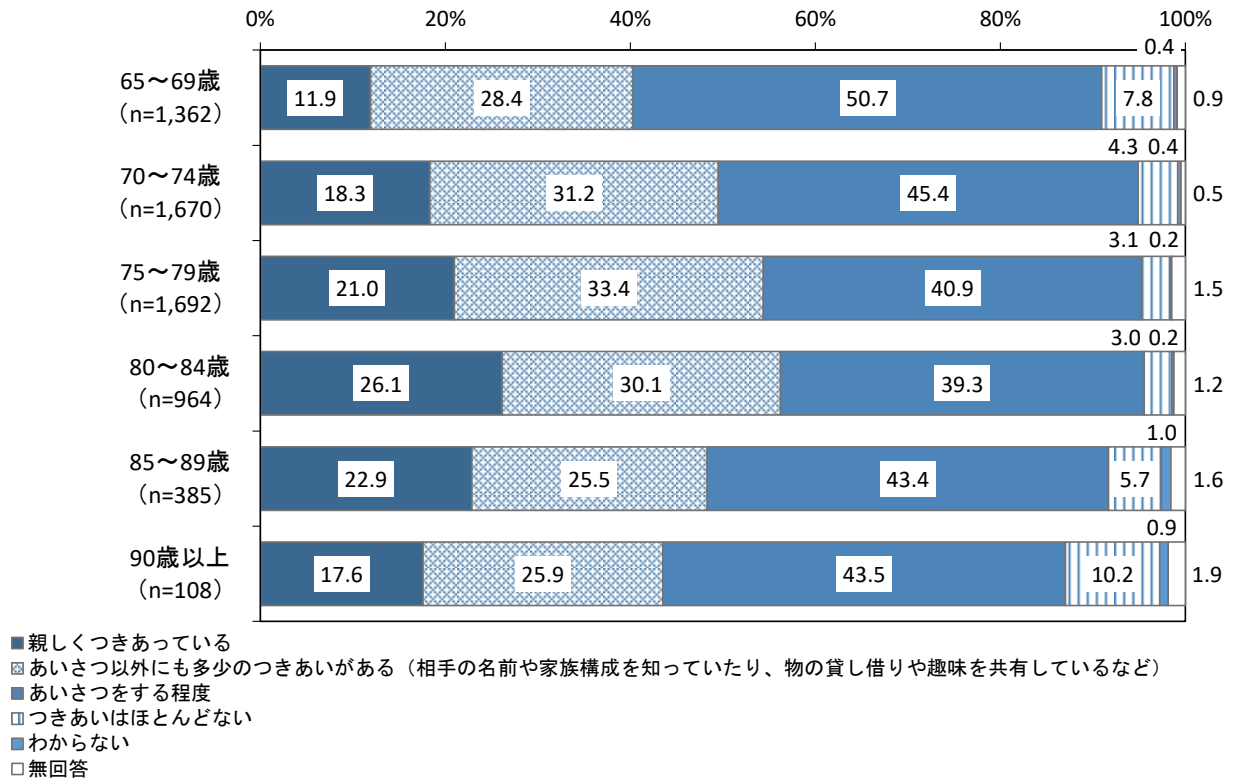
図表 3-8-12 近所の人とのつきあいの程度 性別





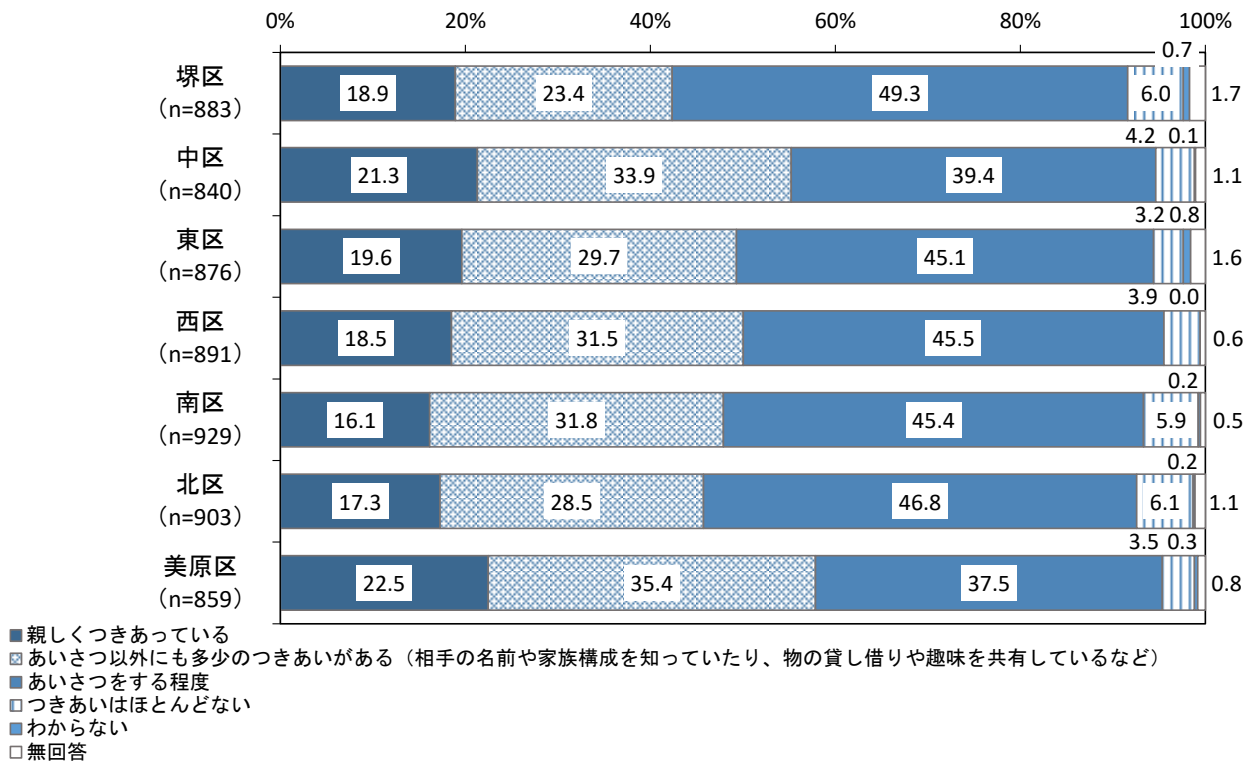
年齢別でみると、「親しくつきあっている」では、80～84歳が26.1%で最も高くなっています。

図表 3-8-13 近所の人とのつきあいの程度 年齢別



区域別でみると、「親しくつきあっている」では、美原区が22.5%で最も高くなっています。

図表 3-8-14 近所の人とのつきあいの程度 区域別

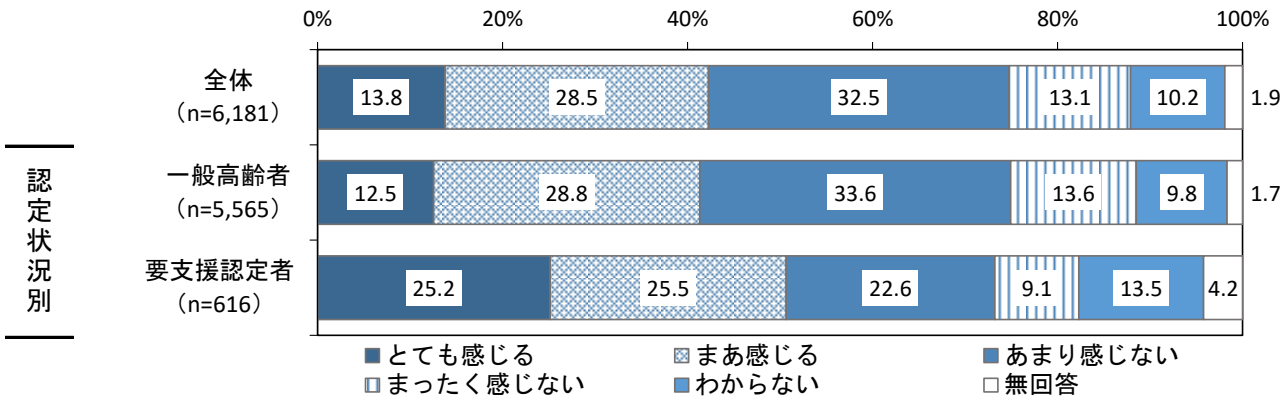


問7(7) 孤立死（誰にも看取られることなく、亡くなった後に発見される死）について、身近に感じますか（〇はひとつ）

孤立死を身近な問題と感じるかについては、「あまり感じない」が32.5%で最も高く、次いで「まあ感じる」が28.5%、「とても感じる」が13.8%と続いており、『感じる』（「とても感じる」と「まあ感じる」の合計）は42.3%、『感じない』（「あまり感じない」と「まったく感じない」の合計）は45.6%となっています。

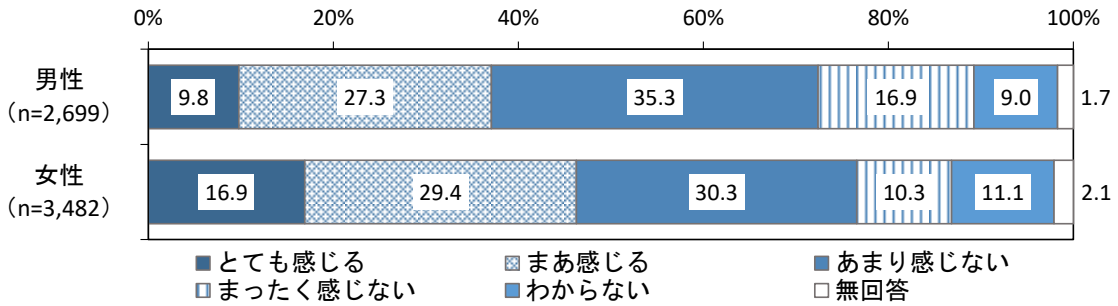
認定状況別でみると、『感じる』では、要支援認定者が50.7%で、一般高齢者（41.3%）よりも9.4ポイント高くなっています。

図表 3-8-15 孤立死を身近な問題と感じるか



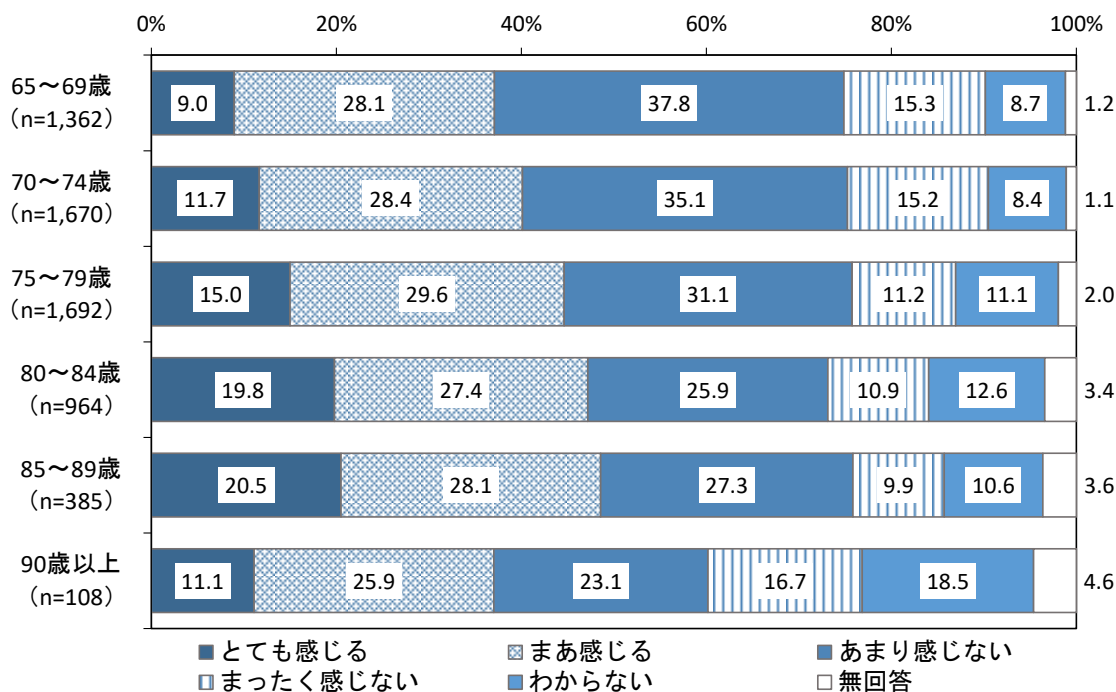
性別でみると、『感じる』では、女性が46.3%で、男性（37.1%）よりも9.2ポイント高くなっています。

図表 3-8-16 孤立死を身近な問題と感じるか 性別



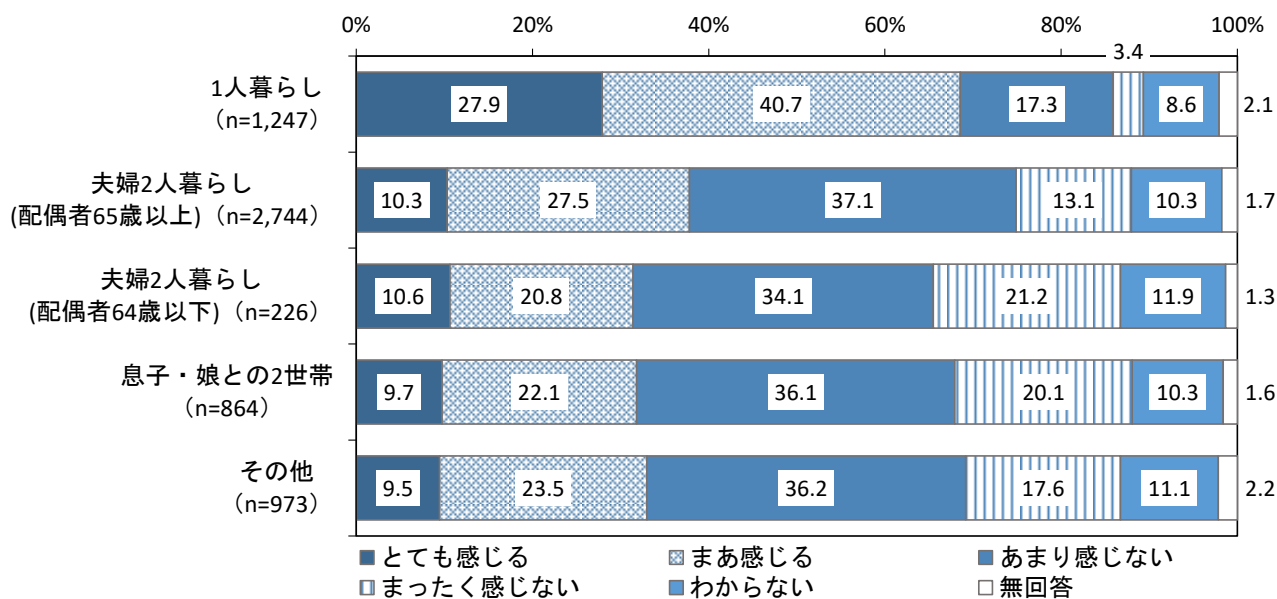
年齢別でみると、『感じる』では、89歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、85～89歳が48.6%で最も高くなっています。

図表 3-8-17 孤立死を身近な問題とを感じるか 年齢別



家族構成別でみると、『感じる』では、「1人暮らし」が68.6%で最も高くなっています。

図表 3-8-18 孤立死を身近な問題とを感じるか 家族構成別

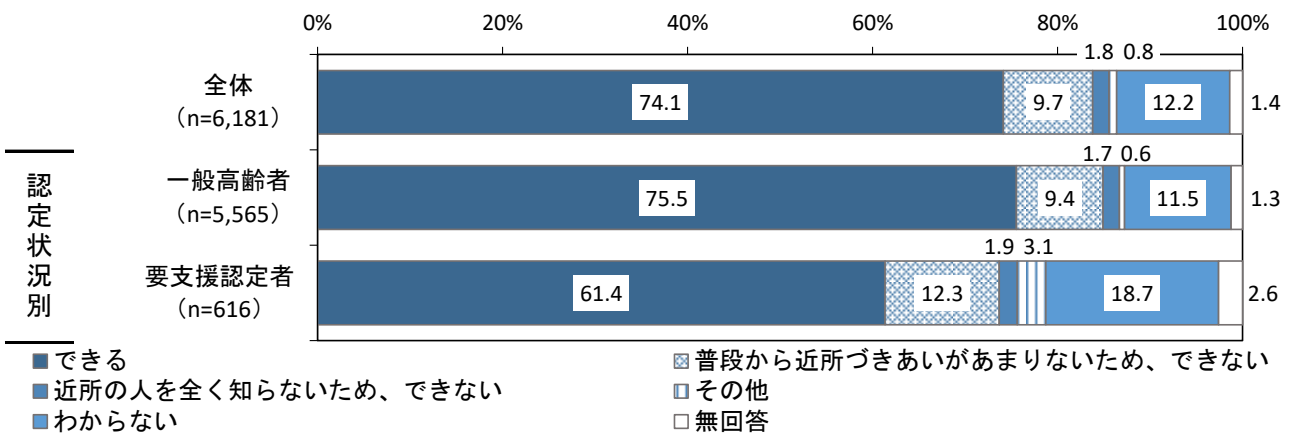


問 7 (8)	災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができますか (〇はひとつ)
---------	--

災害発生時に近所の人と声をかけ合って避難できるかについては、「できる」が74.1%で最も高く、次いで「わからない」が12.2%、「普段から近所づきあいがあまりないため、できない」が9.7%と続いており、『できない』（「普段から近所づきあいがあまりないため、できない」と「近所の人を全く知らないため、できない」の合計）は11.5%となっています。

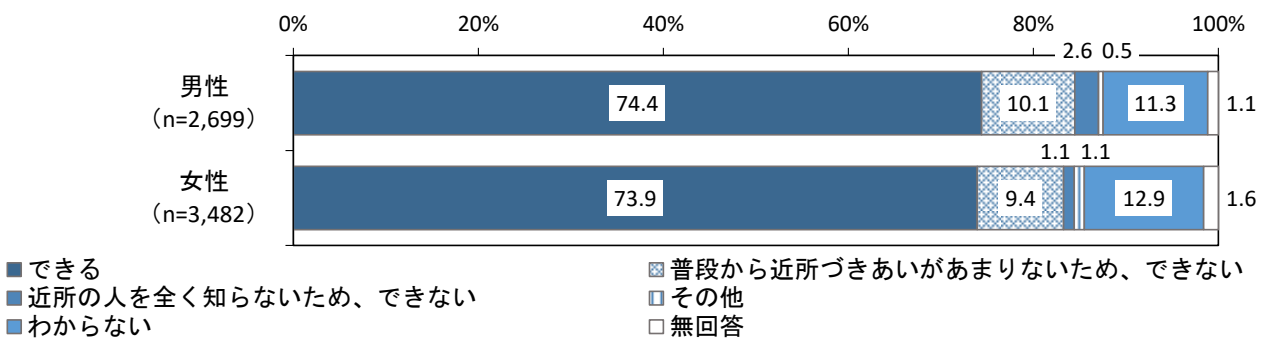
認定状況別でみると、「できる」では、一般高齢者が75.5%、要支援認定者が61.4%となっています。

図表 3-8-19 災害発生時に近所の人と声をかけ合って避難できるか



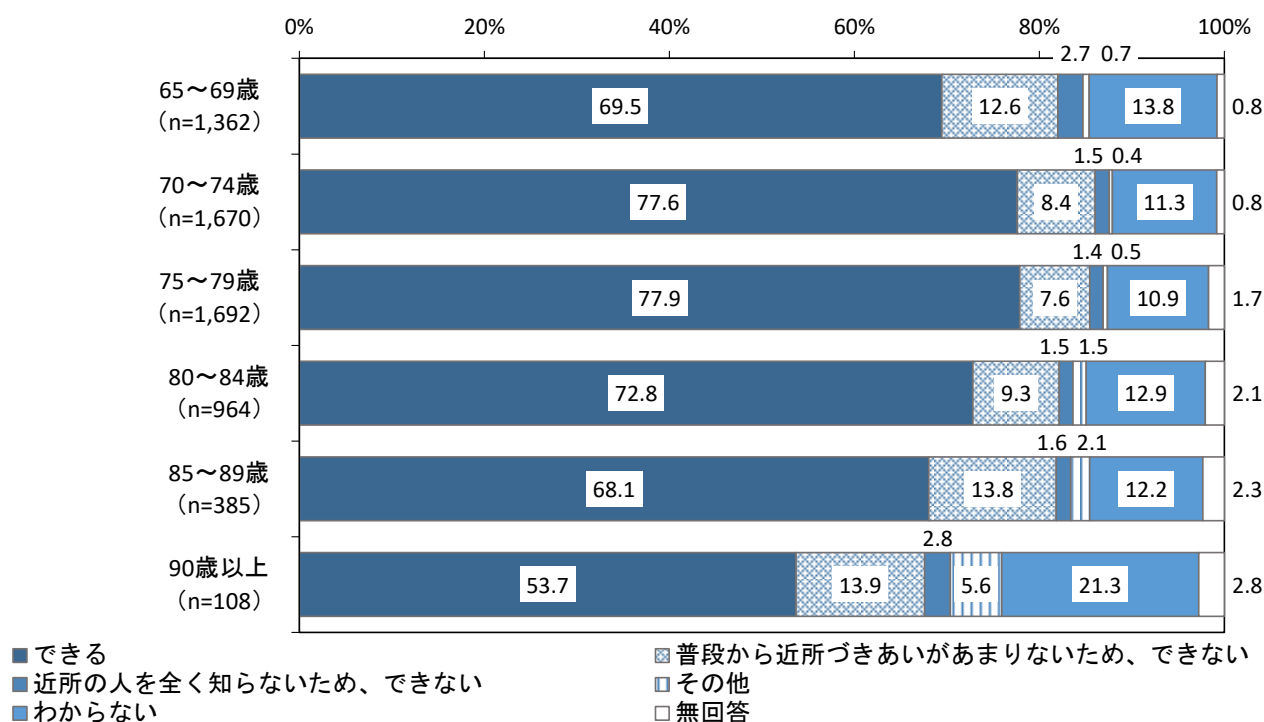
性別でみると、大きな差はみられません。

図表 3-8-20 災害発生時に近所の人と声をかけ合って避難できるか 性別



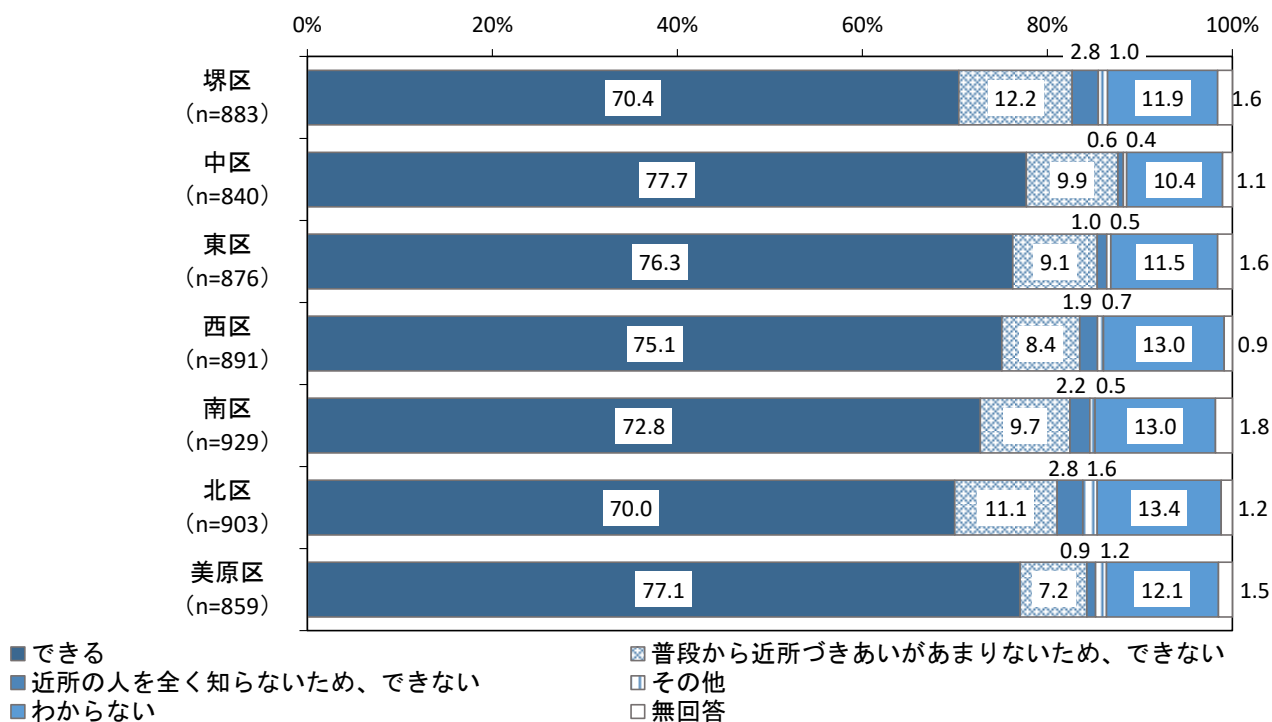
年齢別でみると、「できる」では、75歳以上で年齢が上がるにつれて割合が低くなっており、75～79歳が77.9%で最も高くなっています。

図表 3-8-21 災害発生時に近所の人と声をかけ合って避難できるか 年齢別



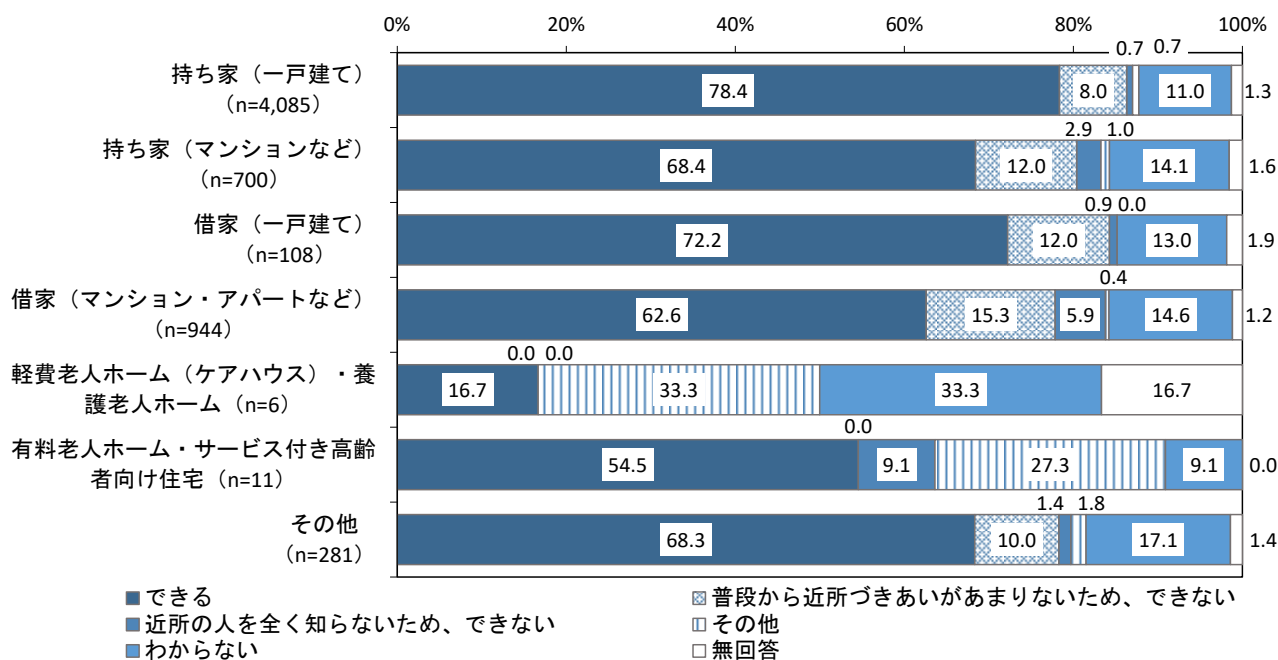
区域別でみると、「できる」では、中区が77.7%で最も高く、『できない』では、堺区が15.0%で最も高くなっています。

図表 3-8-22 災害発生時に近所の人と声をかけ合って避難できるか 区域別



現在の住まい別でみると、「できる」では、「持ち家（一戸建て）」が78.4%で最も高く、『できない』では、「借家（マンション・アパートなど）」が21.2%で最も高くなっています。

図表 3-8-23 災害発生時に近所の人と声をかけ合って避難できるか 現在の住まい別

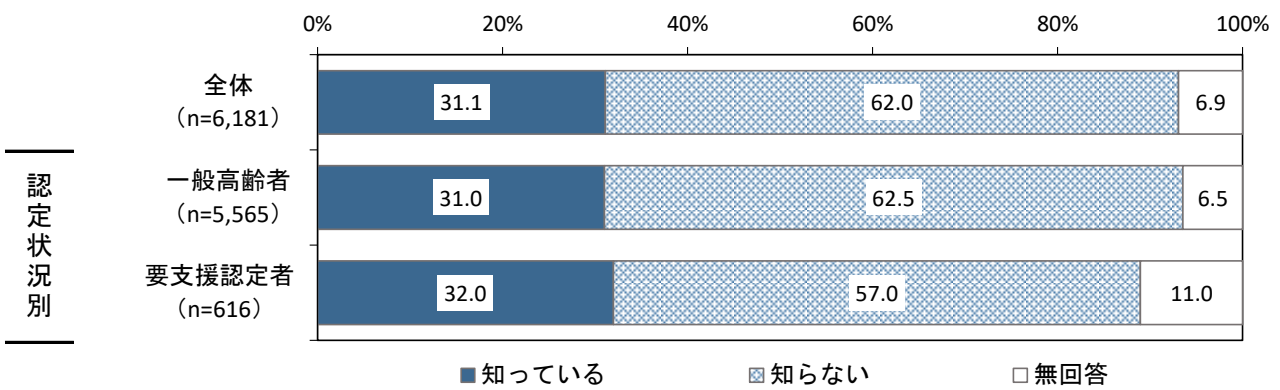


問 7 (9)	避難行動要支援者の一覧表を地域の支援者と行政とで情報共有し、災害発生時に助け合って避難を支援する、地域における助け合いの仕組みについて、知っていますか (○はひとつ)
---------	---

避難行動要支援者の一覧表を作成し地域と行政とで共有する地域における自助・共助の仕組みについて知っているかについては、「知っている」が 31.1%、「知らない」が 62.0%となっています。

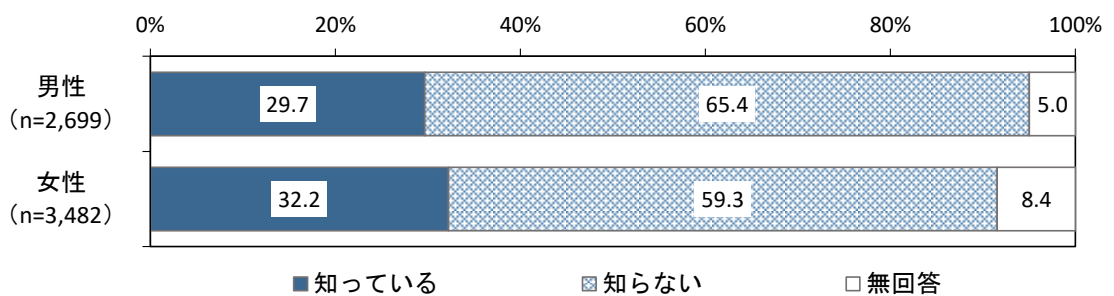
認定状況別でみると、「知っている」では、一般高齢者が 31.0%、要支援認定者が 32.0%となっています。

図表 3-8-24 避難行動要支援者の一覧表を作成し地域と行政とで共有する地域における自助・共助の仕組みについて知っているか



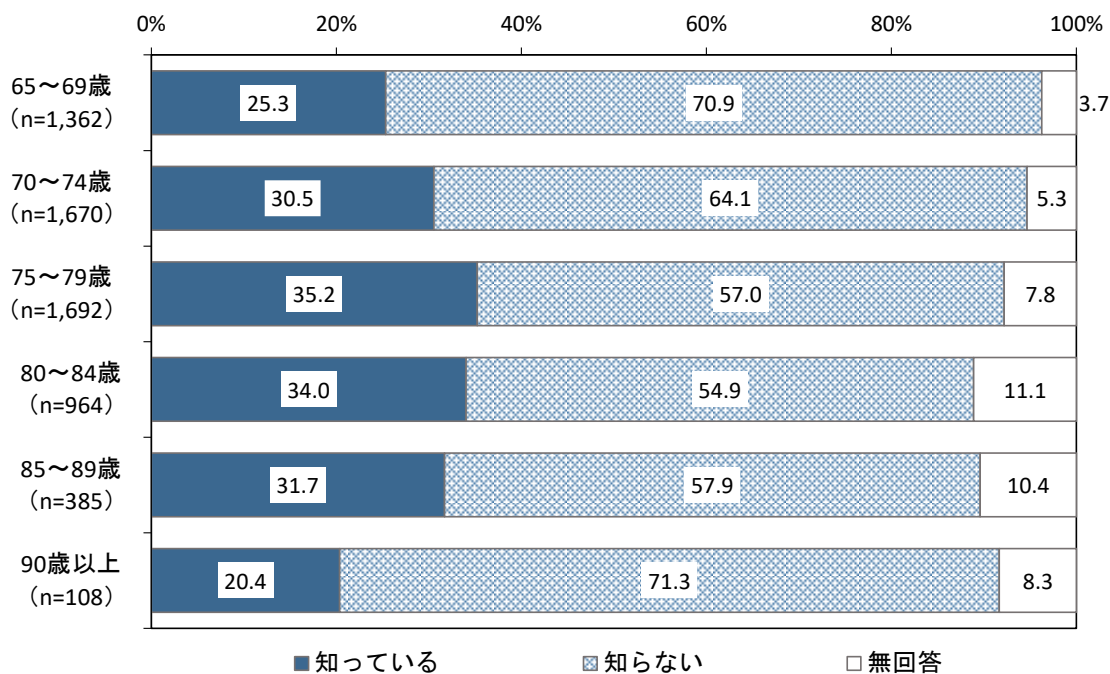
性別でみると、「知らない」では、男性が 65.4%で、女性 (59.3%) よりも 6.1 ポイント高くなっています。

図表 3-8-25 避難行動要支援者の一覧表を作成し地域と行政とで共有する地域における自助・共助の仕組みについて知っているか 性別



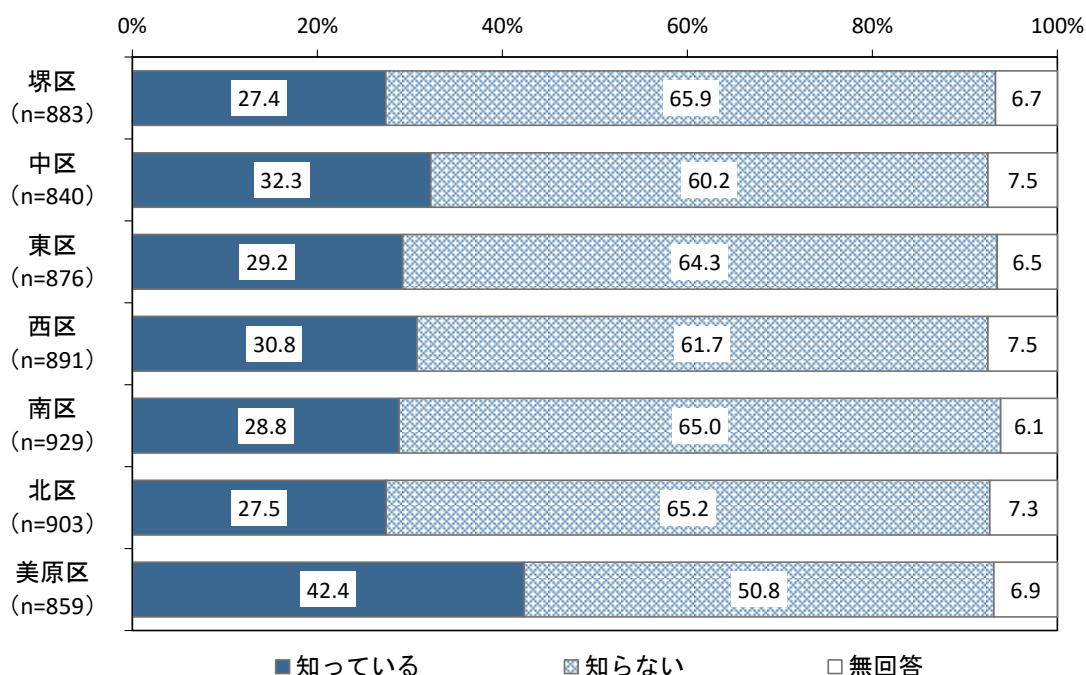
年齢別でみると、「知っている」では、75～79歳が35.2%で最も高く、「知らない」では、90歳以上が71.3%で最も高くなっています。

図表 3-8-26 避難行動要支援者の一覧表を作成し地域と行政とで共有する地域における  
自助・共助の仕組みについて知っているか 年齢別



区域別でみると、「知っている」では、美原区が42.4%で最も高く、「知らない」では、堺区が65.9%で最も高くなっています。

図表 3-8-27 避難行動要支援者の一覧表を作成し地域と行政とで共有する地域における  
自助・共助の仕組みについて知っているか 区域別



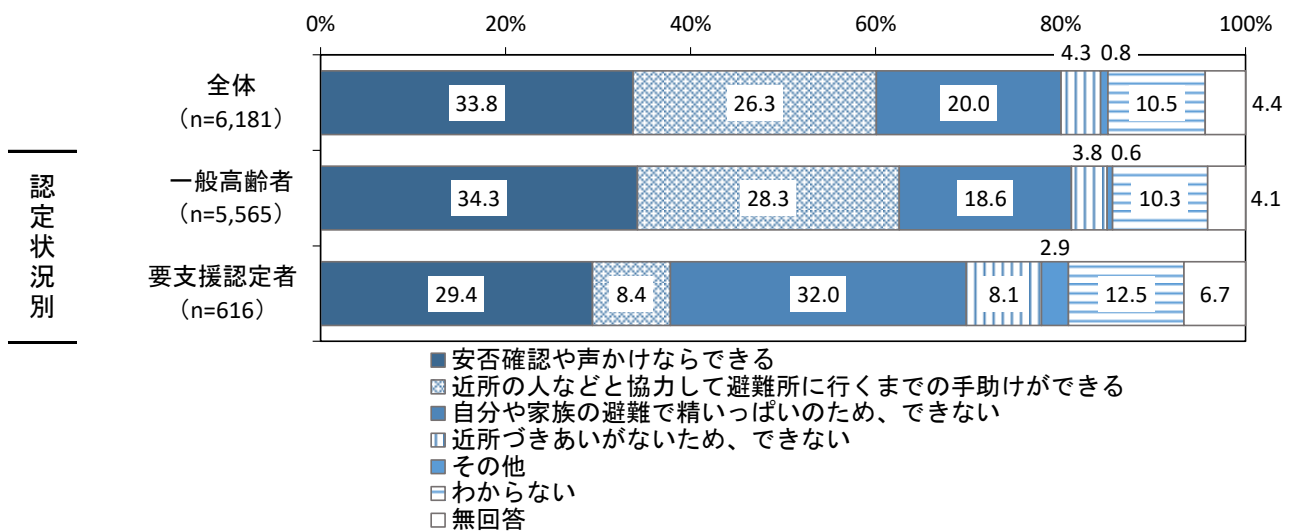


問 7 (10)	災害発生時に、近くの避難行動要支援者の避難を支援することができますか (〇はひとつ)
----------	---

災害発生時に近くの避難行動要支援者の避難を支援することができるかについては、「安否確認や声かけならできる」が 33.8%で最も高く、次いで「近所の人などと協力して避難所に行くまでの手助けができる」が 26.3%、「自分や家族の避難で精いっぱいのため、できない」が 20.0%と続いており、『できる』（「安否確認や声かけならできる」と「近所の人などと協力して避難所に行くまでの手助けができる」の合計）は 60.1%、『できない』（「自分や家族の避難で精いっぱいのため、できない」と「近所づきあいがいないため、できない」の合計）は 24.3%となっています。

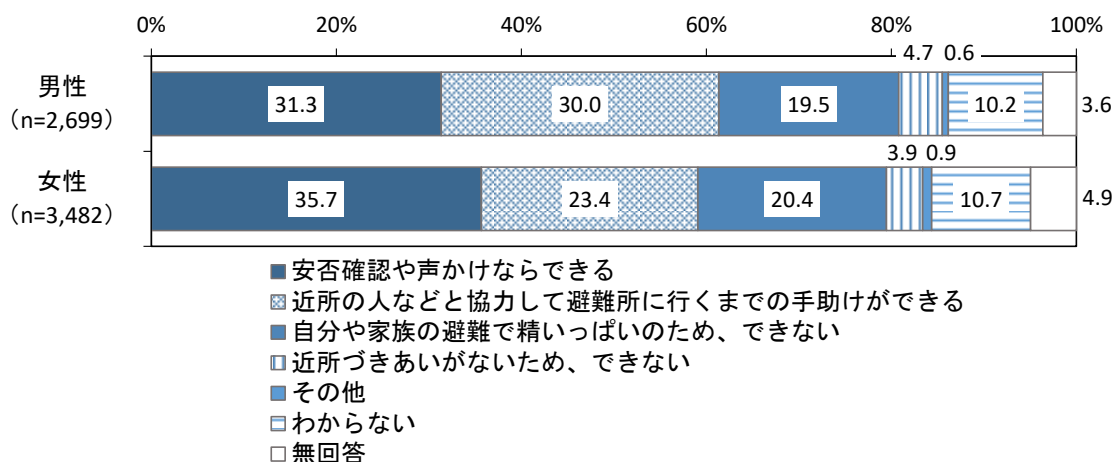
認定状況別でみると、一般高齢者では「安否確認や声かけならできる」が 34.3%で最も高く、要支援認定者では「自分や家族の避難で精いっぱいのため、できない」が 32.0%で最も高くなっています。

図表 3-8-28 災害発生時に近くの避難行動要支援者の避難を支援することができるか



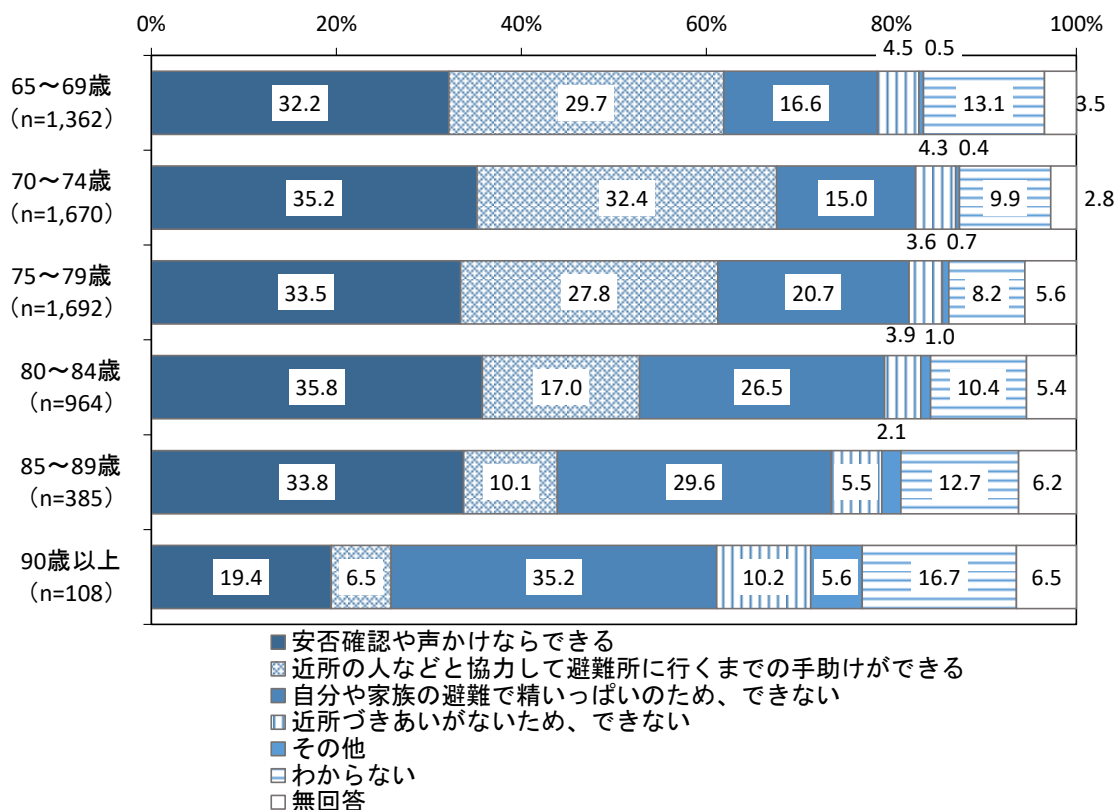
性別でみると、「安否確認や声かけならできる」では、女性が35.7%で、男性（31.3%）よりも4.4ポイント高く、「近所の人などと協力して避難所に行くまでの手助けができる」では、男性が30.0%で、女性（23.4%）よりも6.6ポイント高くなっています。

図表 3-8-29 災害発生時に近くの避難行動要支援者の避難を支援することができるか 性別



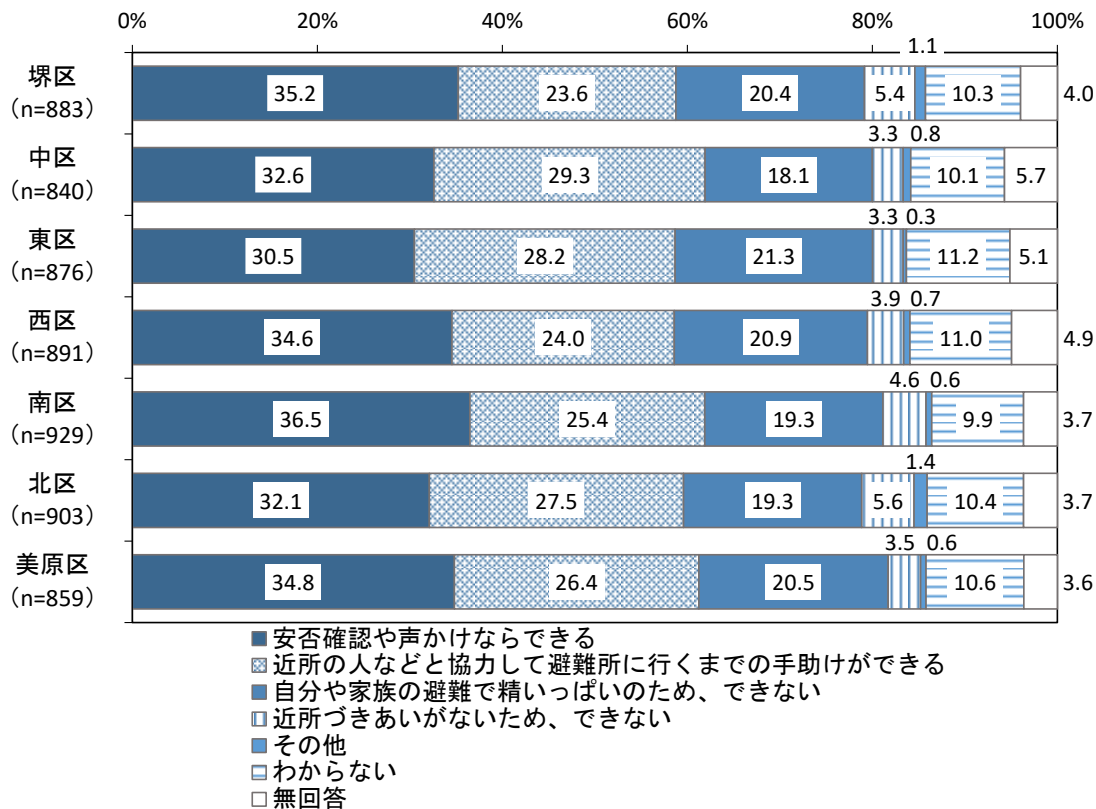
年齢別でみると、『できる』では、70～74歳が67.6%で最も高く、『できない』では、90歳以上が45.4%で最も高くなっています。

図表 3-8-30 災害発生時に近くの避難行動要支援者の避難を支援することができるか 年齢別



区域別でみると、『できる』では、中区、南区がいずれも 61.9%で最も高く、『できない』では、堺区が 25.8%で最も高くなっています。

図表 3-8-31 災害発生時に近くの避難行動要支援者の避難を支援することができるか 区域別



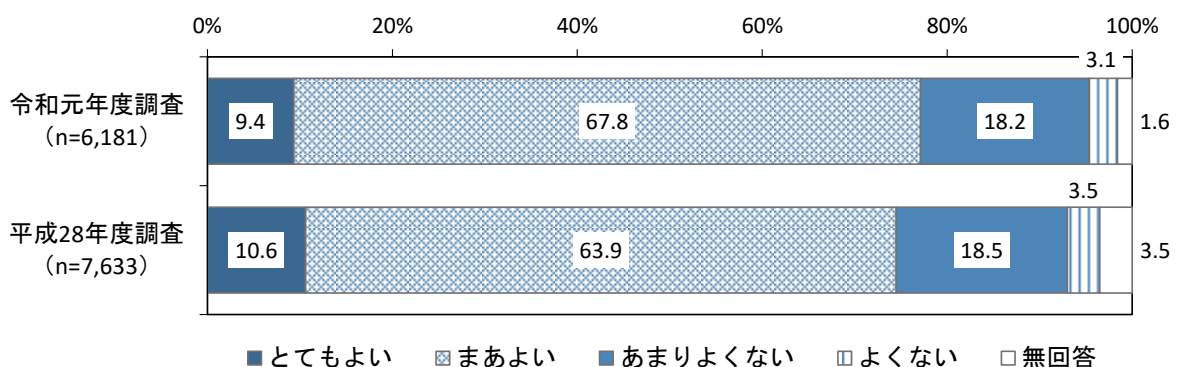
## 9. 健康について

### 問8(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか（〇はひとつ）

現在の健康状態はどうかについては、「まあよい」が67.8%で最も高く、次いで「あまりよくない」が18.2%、「とてもよい」が9.4%と続いており、『よい』（「とてもよい」と「まあよい」の合計）は77.2%、『よくない』（「あまりよくない」と「よくない」の合計）は21.3%となっています。

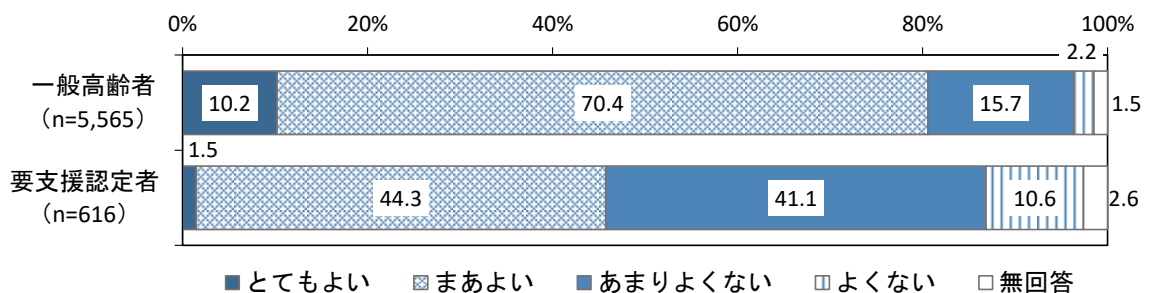
平成28年度調査と比較すると、「まあよい」（67.8%）では、平成28年度調査（63.9%）よりも3.9ポイント高くなっています。

図表 3-9-1 現在の健康状態はどうか



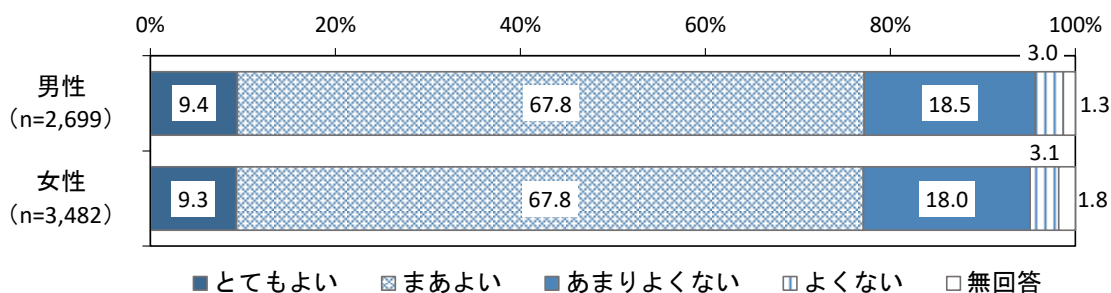
認定状況別でみると、一般高齢者では『よい』が80.6%、『よくない』が17.9%で、要支援認定者では『よい』が45.8%、『よくない』が51.7%となっています。

図表 3-9-2 現在の健康状態はどうか 認定状況別



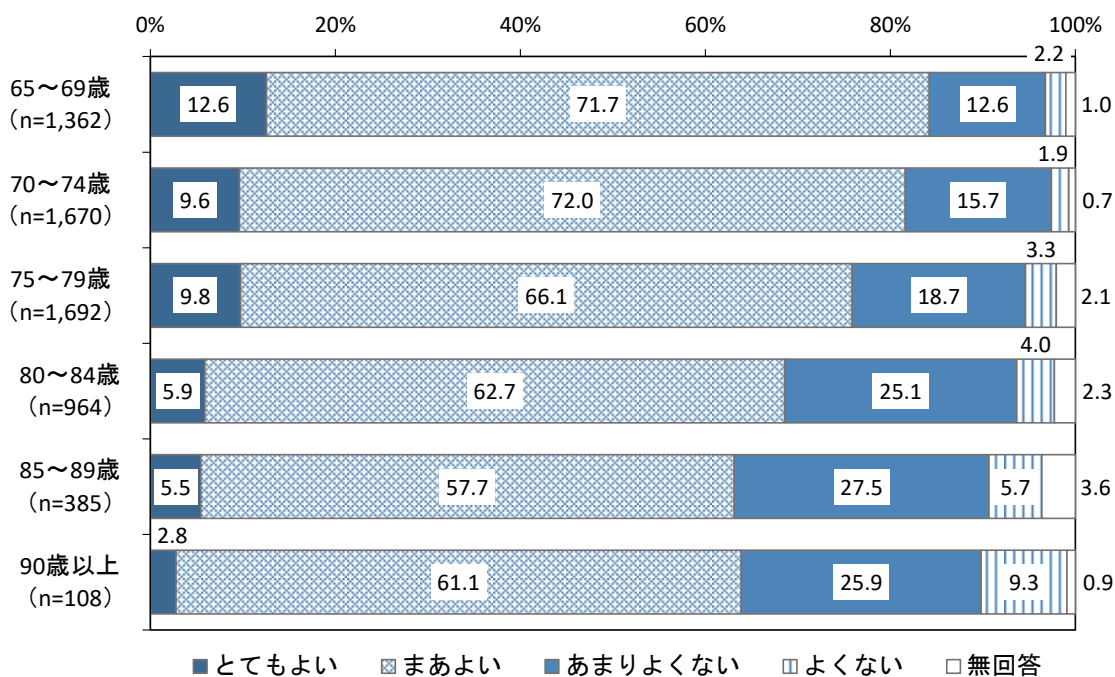
性別でみると、大きな差はみられません。

図表 3-9-3 現在の健康状態はどうか 性別



年齢別でみると、『よくない』では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が35.2%で最も高くなっています。

図表 3-9-4 現在の健康状態はどうか 年齢別

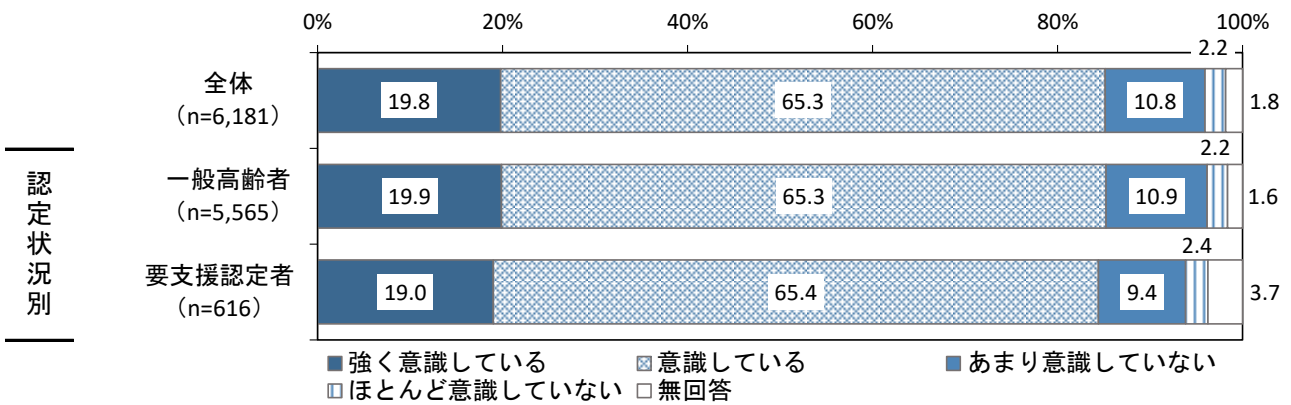


問8(2)	ふだんから介護予防のために、自分の健康の維持・増進を意識していますか (〇はひとつ)
-------	---

介護予防のための健康維持・増進の意識については、「意識している」が65.3%で最も高く、次いで「強く意識している」が19.8%、「あまり意識していない」が10.8%と続いており、『意識している』（「強く意識している」と「意識している」の合計）は85.1%、『意識していない』（「あまり意識していない」と「ほとんど意識していない」の合計）は13.0%となっています。

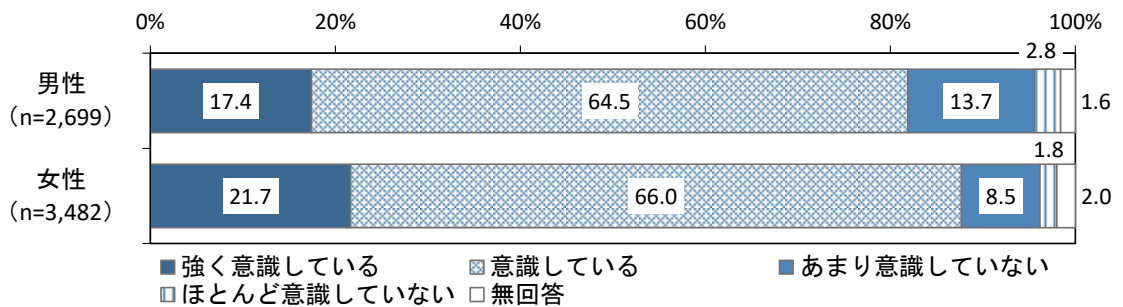
認定状況別でみると、大きな差はみられません。

図表 3-9-5 介護予防のための健康維持・増進の意識について



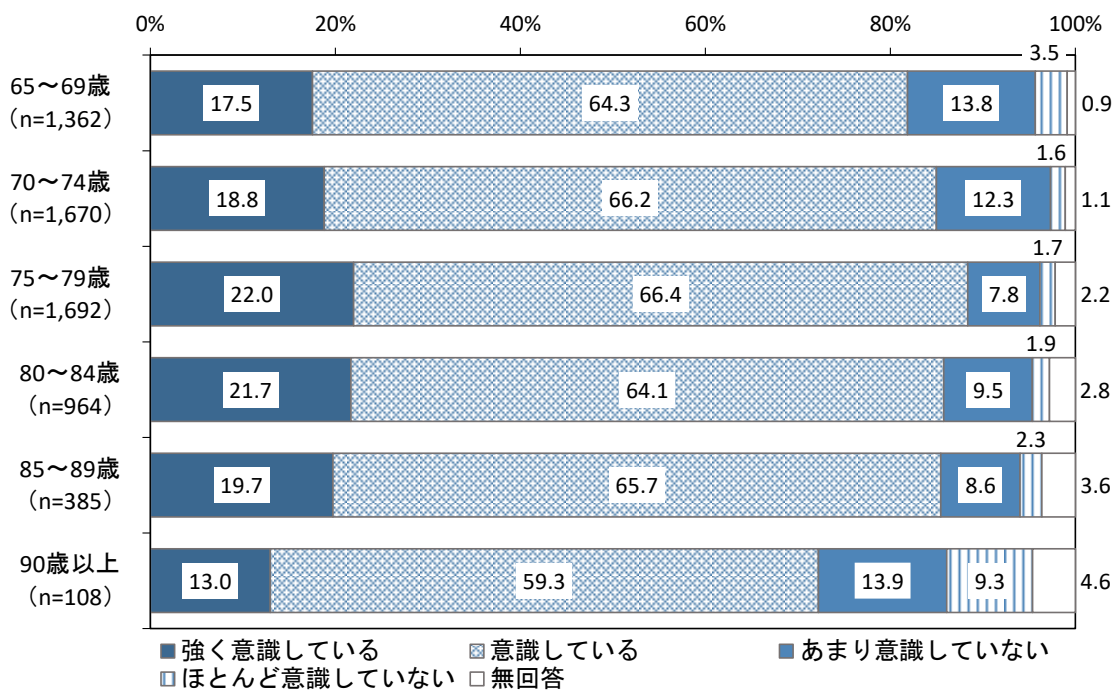
性別でみると、『意識している』では、女性が87.7%で、男性（81.9%）よりも5.8ポイント高くなっています。

図表 3-9-6 介護予防のための健康維持・増進の意識について 性別



年齢別でみると、『意識している』では、75～79歳が88.4%で最も高く、『意識していない』では、90歳以上が23.2%で最も高くなっています。

図表 3-9-7 介護予防のための健康維持・増進の意識について 年齢別

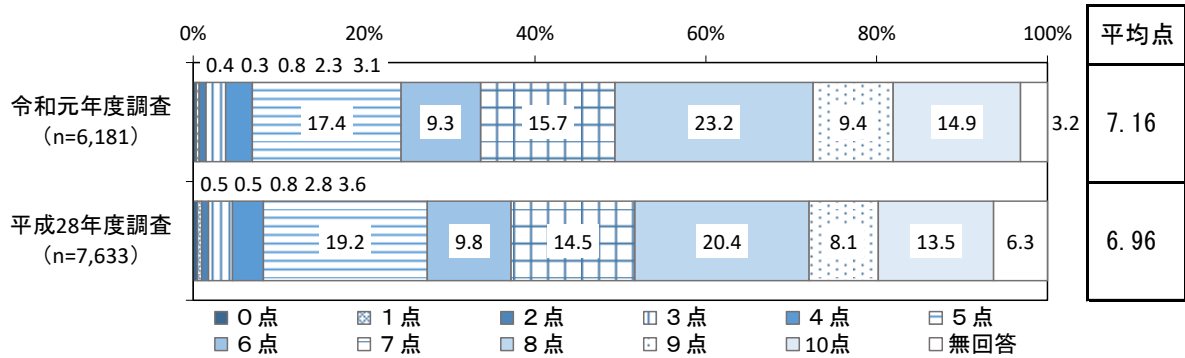


問 8 (3) あなたは、現在どの程度幸せですか  
 (「とても不幸」を 0 点、「とても幸せ」を 10 点として、ご記入ください)

現在どの程度幸せかについては、「8 点」が 23.2%で最も高く、次いで「5 点」が 17.4%、「7 点」が 15.7%と続いており、平均点は 7.16 点となっています。

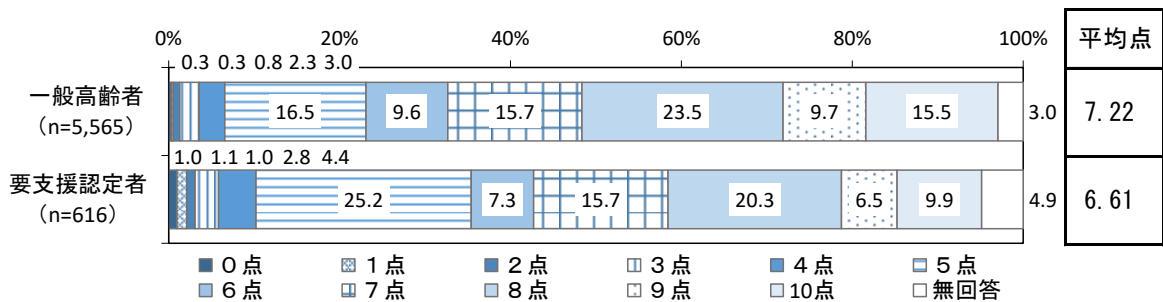
平成 28 年度調査と比較すると、平均点 (7.16 点) では、平成 28 年度調査 (6.96 点) よりも 0.20 点高くなっています。

図表 3-9-8 現在どの程度幸せか



認定状況別でみると、一般高齢者の平均点は 7.22 点で、要支援認定者の平均点は 6.61 点となっています。

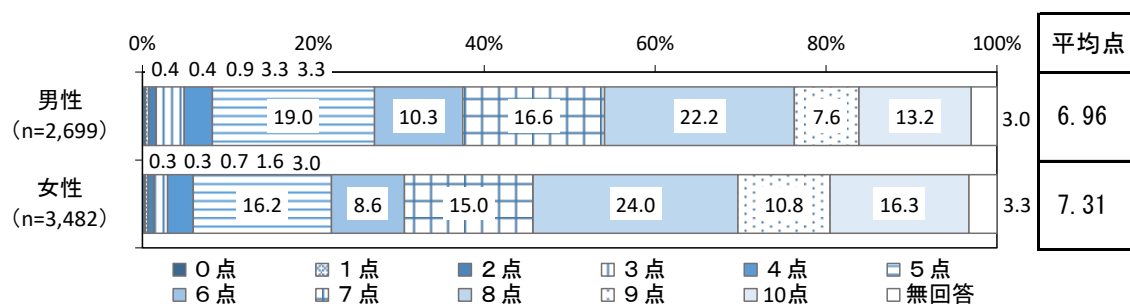
図表 3-9-9 現在どの程度幸せか 認定状況別





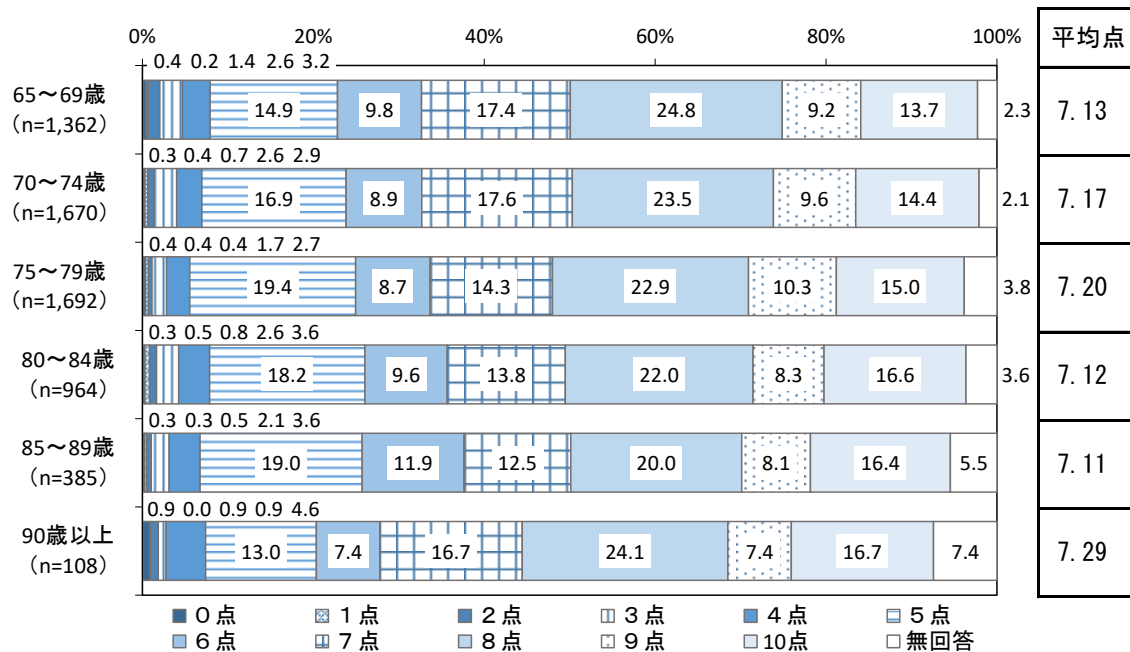
性別でみると、女性の平均点は7.31点で、男性（6.96点）よりも0.35点高くなっています。

図表 3-9-10 現在どの程度幸せか 性別



年齢別で平均点をみると、90歳以上が7.29点で最も高く、85～89歳が7.11点で最も低くなっています。

図表 3-9-11 現在どの程度幸せか 年齢別

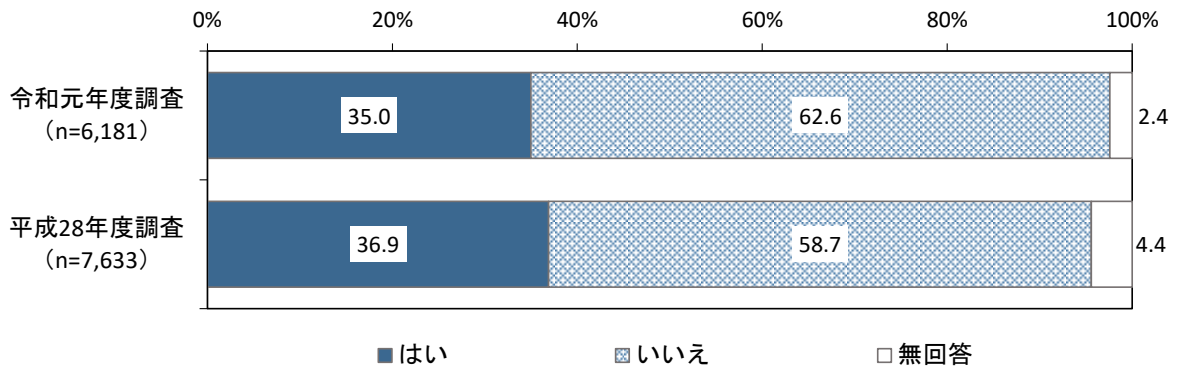


問8(4)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか(〇はひとつ)
-------	--

この1か月間気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったかについては、「はい」が35.0%、「いいえ」が62.6%となっています。

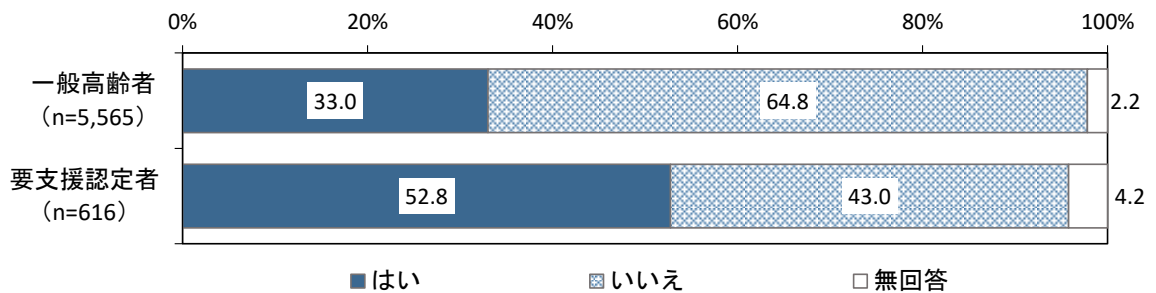
平成28年度調査と比較すると、「いいえ」(62.6%)では、平成28年度調査(58.7%)よりも3.9ポイント高くなっています。

図表 3-9-12 この1か月間気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったか



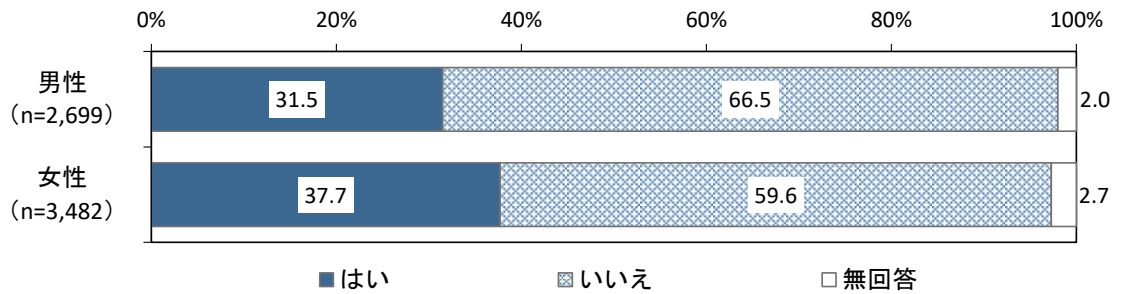
認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が52.8%で、一般高齢者(33.0%)よりも19.8ポイント高くなっています。

図表 3-9-13 この1か月間気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったか  
認定状況別



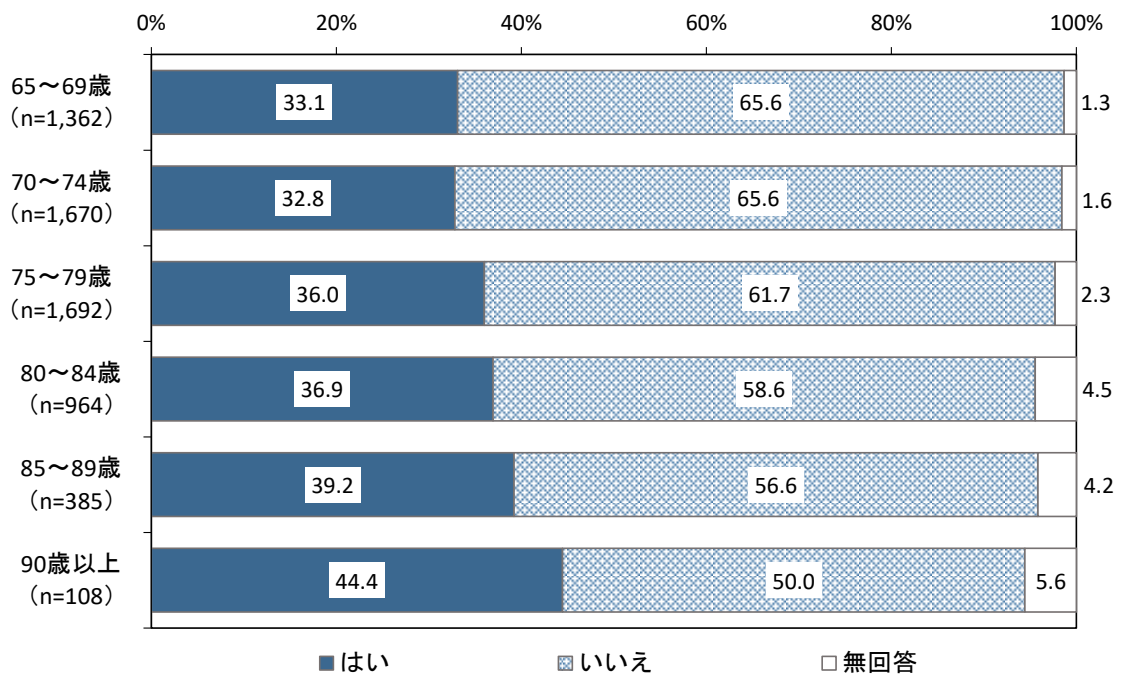
性別でみると、「はい」では、女性が37.7%で、男性（31.5%）よりも6.2ポイント高くなっています。

図表 3-9-14 この1か月間気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったか  
性別



年齢別でみると、「はい」では、70歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が44.4%で最も高くなっています。

図表 3-9-15 この1か月間気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったか  
年齢別

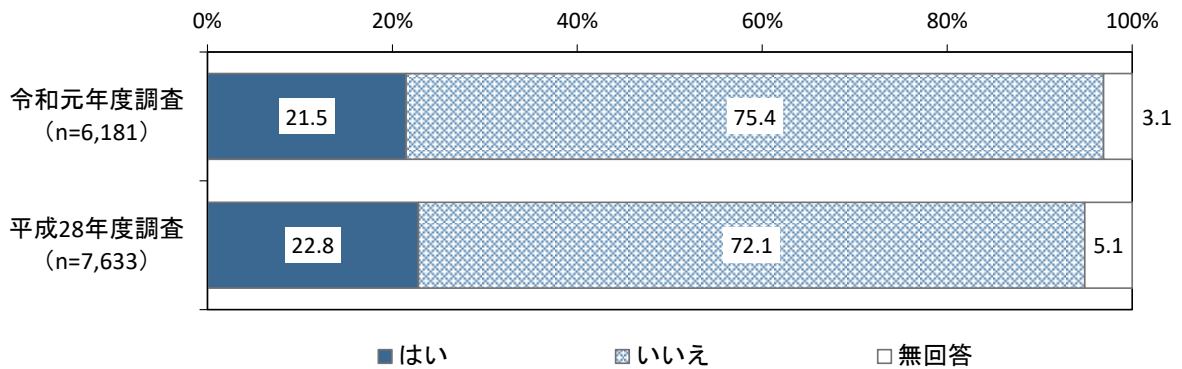


問 8 (5)	この 1 か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか (〇はひとつ)
---------	--

この 1 か月間物事に興味がわからない心から楽しめない感じがよくあったかについては、「はい」が 21.5%、「いいえ」が 75.4%となっています。

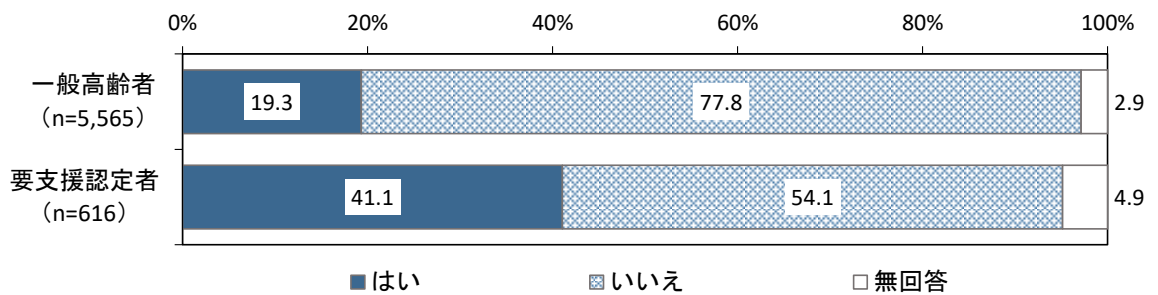
平成 28 年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-9-16 この 1 か月間物事に興味がわからない心から楽しめない感じがよくあったか



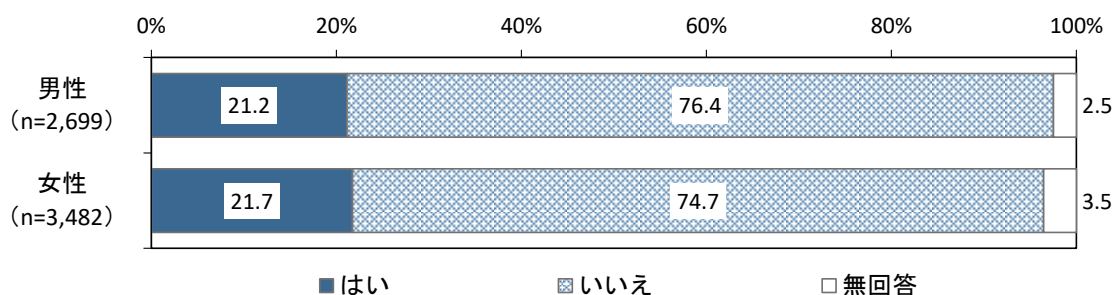
認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が 41.1%で、一般高齢者 (19.3%) よりも 21.8 ポイント高くなっています。

図表 3-9-17 この 1 か月間物事に興味がわからない心から楽しめない感じがよくあったか  
認定状況別



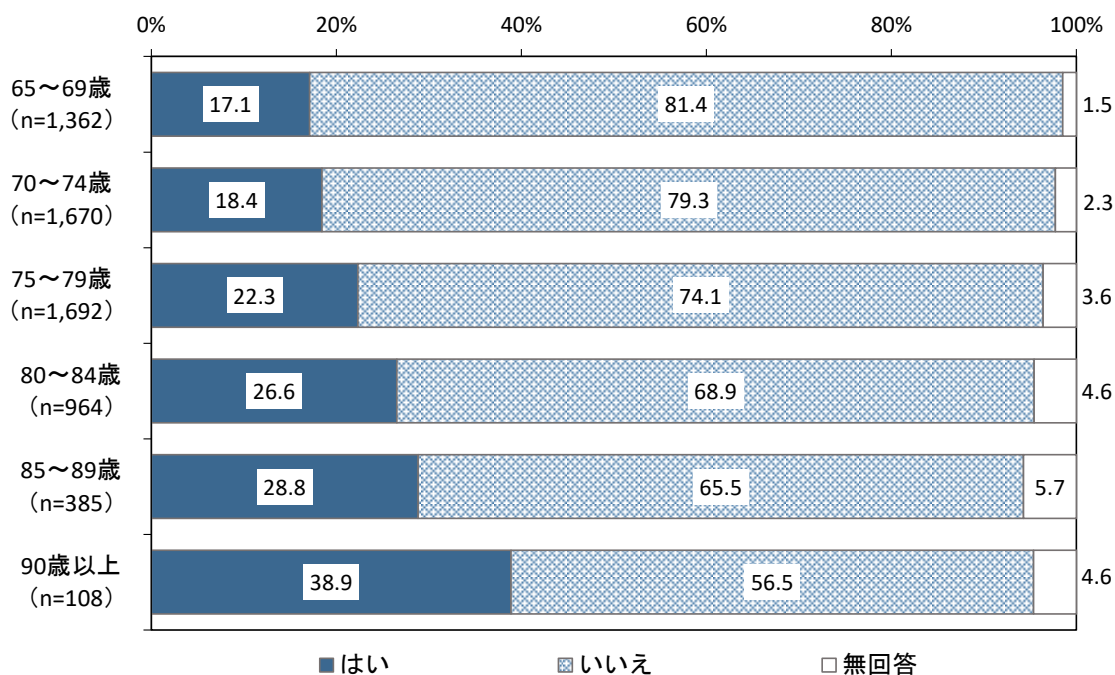
性別でみると、大きな差はみられません。

図表 3-9-18 この1か月間物事に興味がわかない心から楽しめない感じがよくあったか 性別



年齢別でみると、「はい」では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が38.9%で最も高くなっています。

図表 3-9-19 この1か月間物事に興味がわかない心から楽しめない感じがよくあったか 年齢別

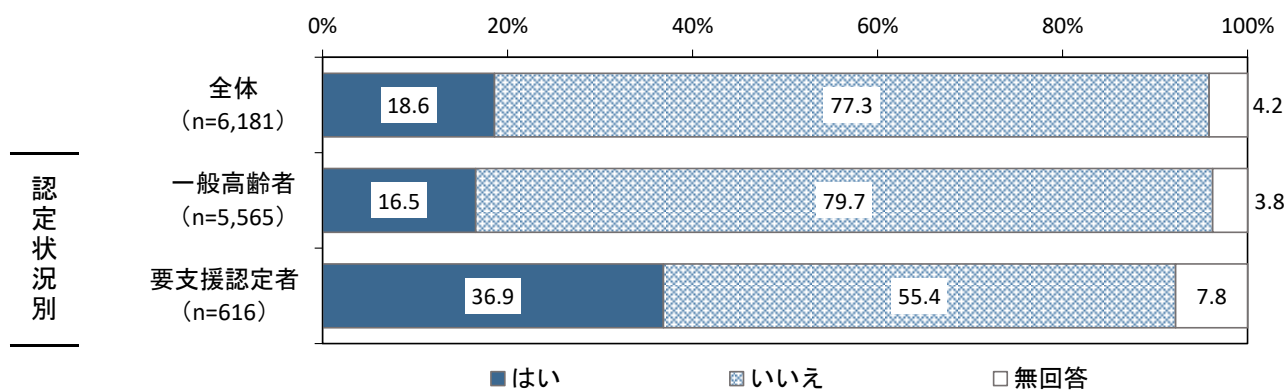


問 8 (6) (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない (〇はひとつ)

(ここ2週間) 毎日の生活に充実感がないについては、「はい」が18.6%、「いいえ」が77.3%となっています。

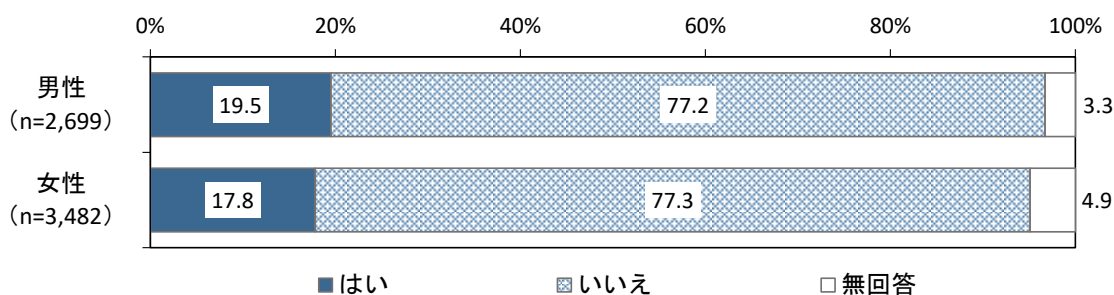
認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が36.9%で、一般高齢者(16.5%)よりも20.4ポイント高くなっています。

図表 3-9-20 (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない



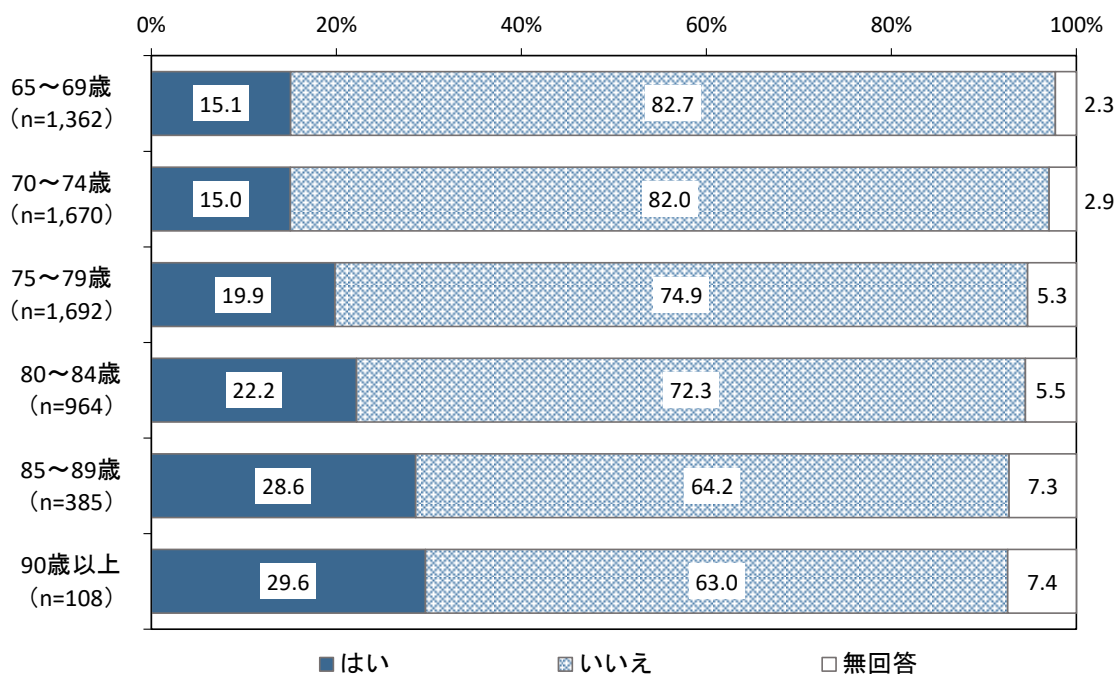
性別でみると、大きな差はみられません。

図表 3-9-21 (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない 性別



年齢別でみると、「はい」では、70歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が29.6%で最も高くなっています。

図表 3-9-22 (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない 年齢別

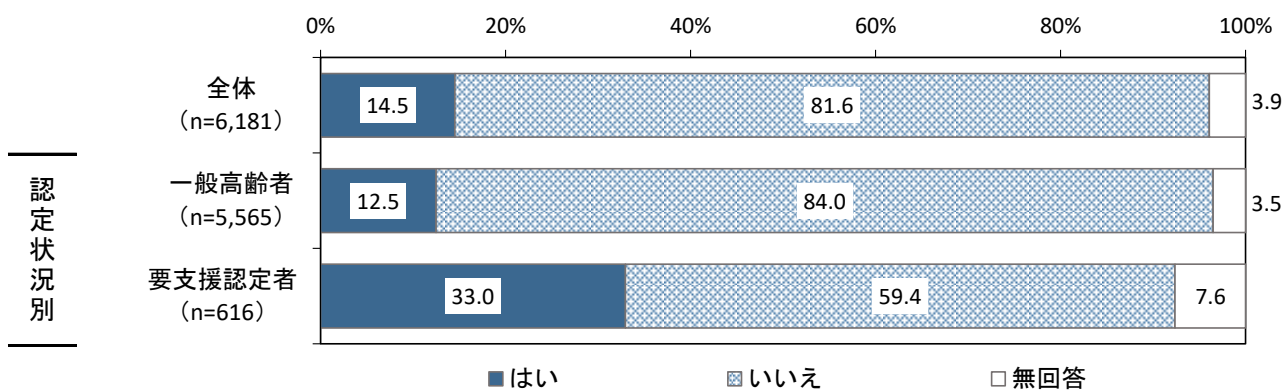


問 8 (7)	(ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった (〇はひとつ)
---------	--

(ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなったについては、「はい」が14.5%、「いいえ」が81.6%となっています。

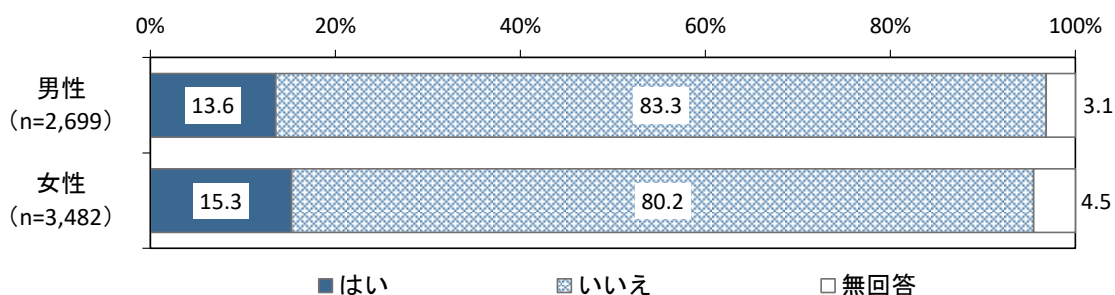
認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が33.0%で、一般高齢者(12.5%)よりも20.5ポイント高くなっています。

図表 3-9-23 (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった



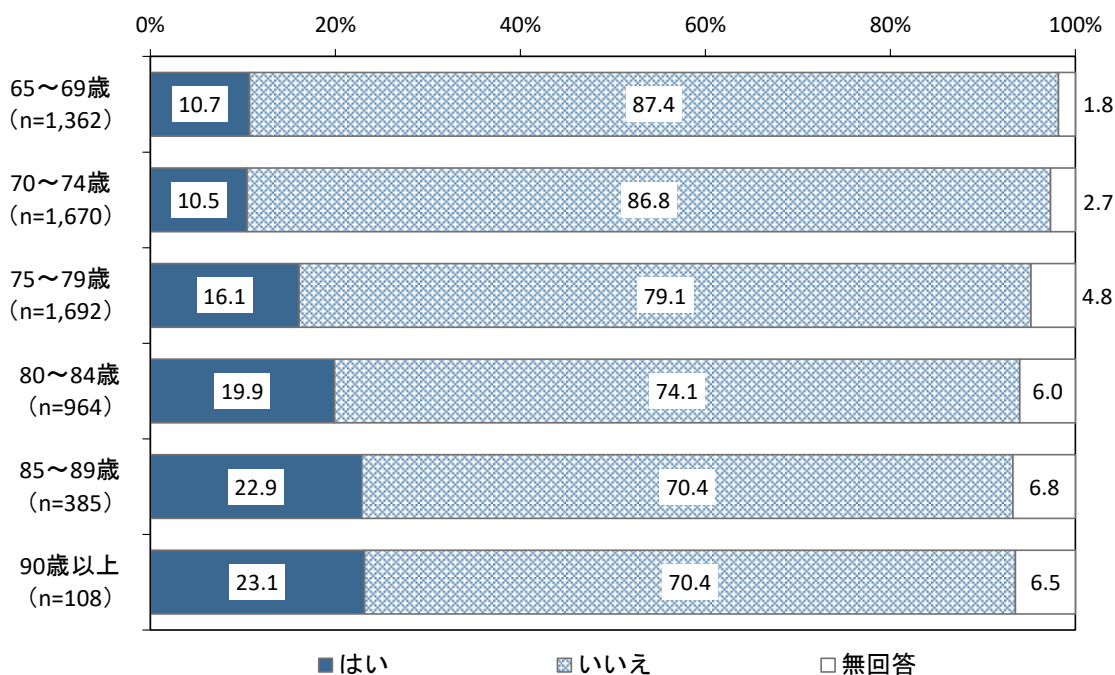
性別でみると、大きな差はみられません。

図表 3-9-24 (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった 性別



年齢別でみると、「はい」では、70歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が23.1%で最も高くなっています。

図表 3-9-25 (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった 年齢別



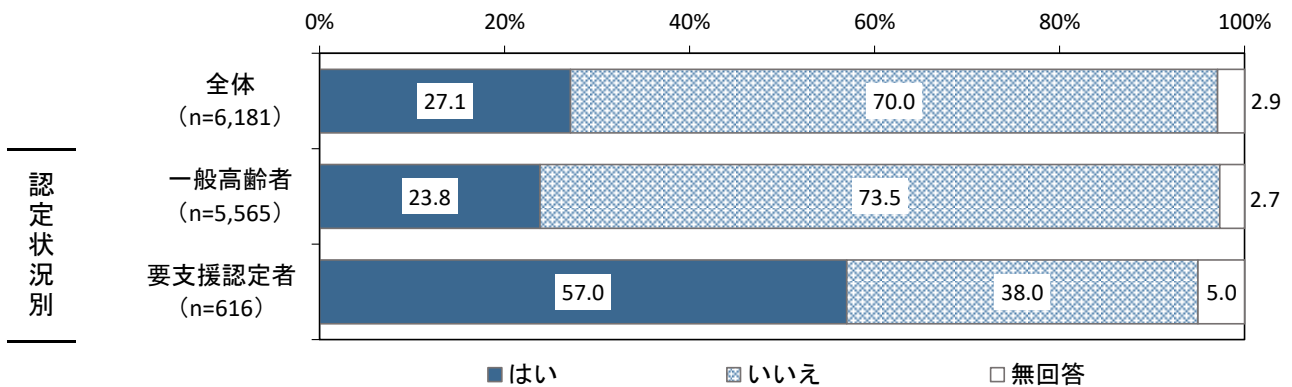


問 8 (8)	(ここ 2 週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる (〇はひとつ)
---------	---

(ここ 2 週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられるについては、「はい」が 27.1%、「いいえ」が 70.0%となっています。

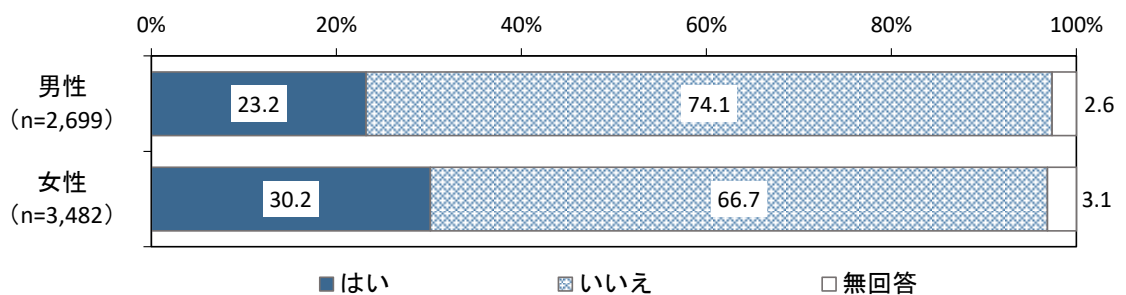
認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が 57.0%で、一般高齢者 (23.8%) よりも 33.2 ポイント高くなっています。

図表 3-9-26 (ここ 2 週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる



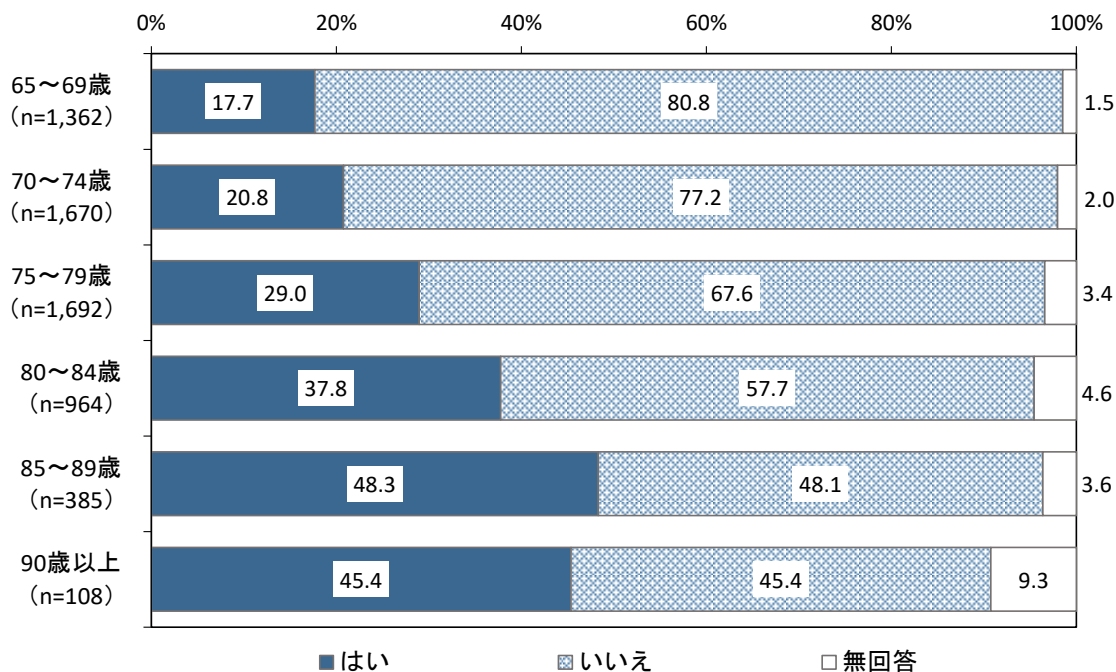
性別でみると、「はい」では、女性が 30.2%で、男性 (23.2%) よりも 7.0 ポイント高くなっています。

図表 3-9-27 (ここ 2 週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる 性別



年齢別でみると、「はい」では、89歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、85～89歳が48.3%で最も高くなっています。

図表 3-9-28 (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる 年齢別

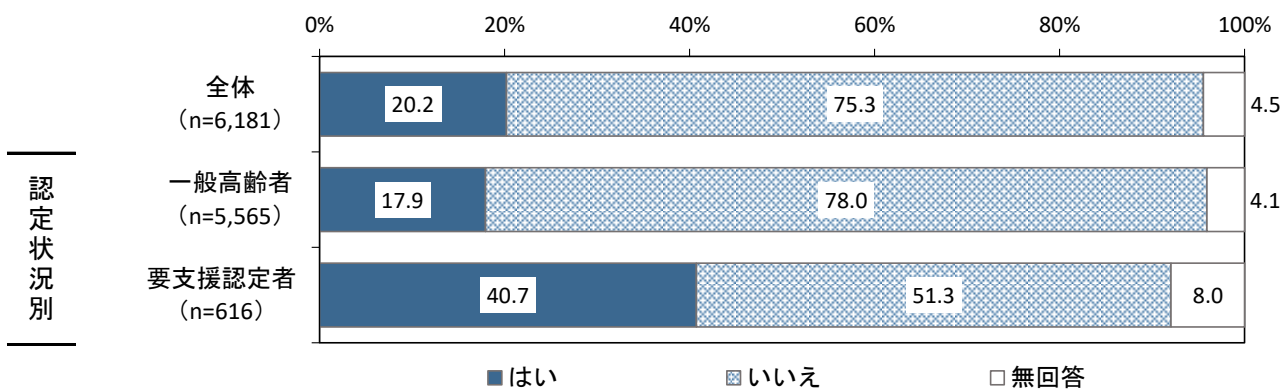


問 8 (9) (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない (〇はひとつ)

(ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えないについては、「はい」が20.2%、「いいえ」が75.3%となっています。

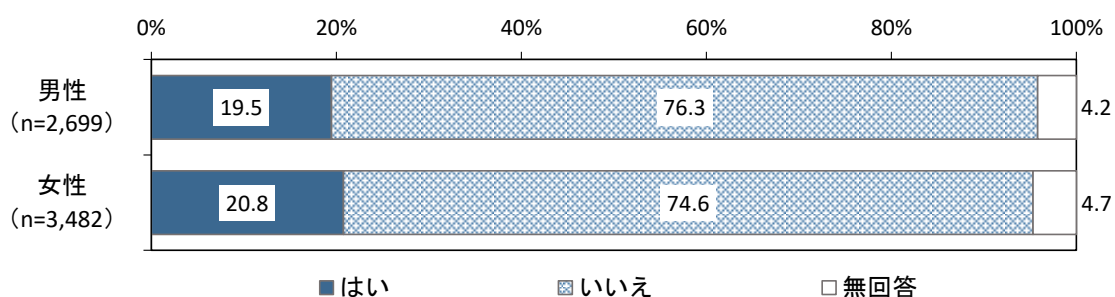
認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が40.7%で、一般高齢者(17.9%)よりも22.8ポイント高くなっています。

図表 3-9-29 (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない



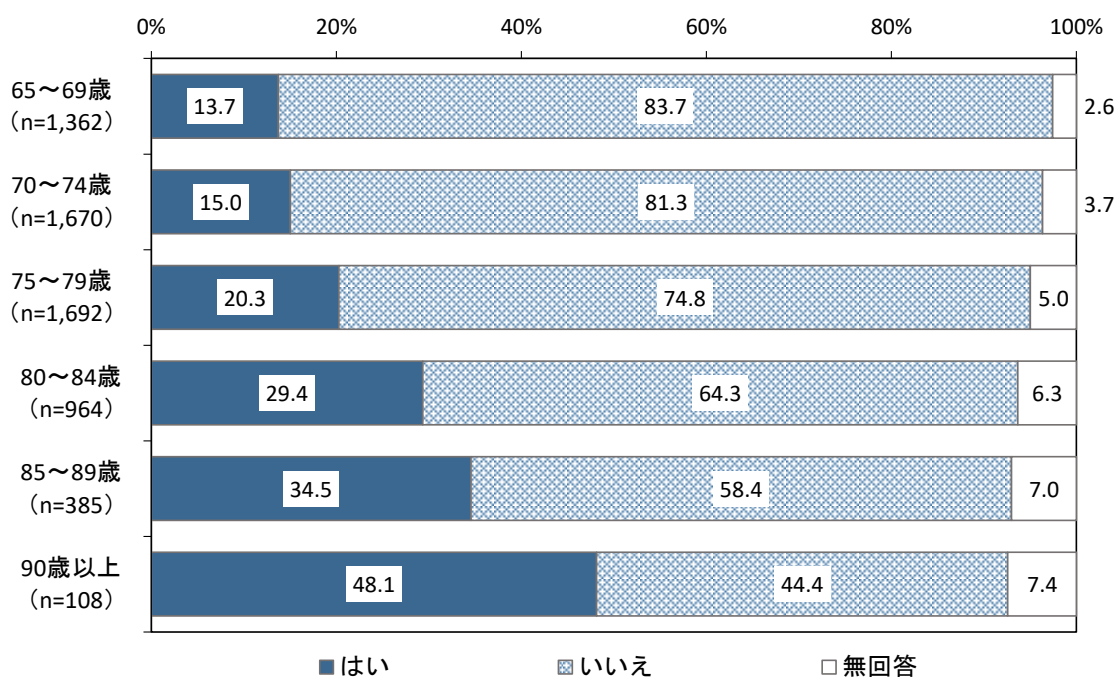
性別でみると、大きな差はみられません。

図表 3-9-30 (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない 性別



年齢別でみると、「はい」では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が48.1%で最も高くなっています。

図表 3-9-31 (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない 年齢別

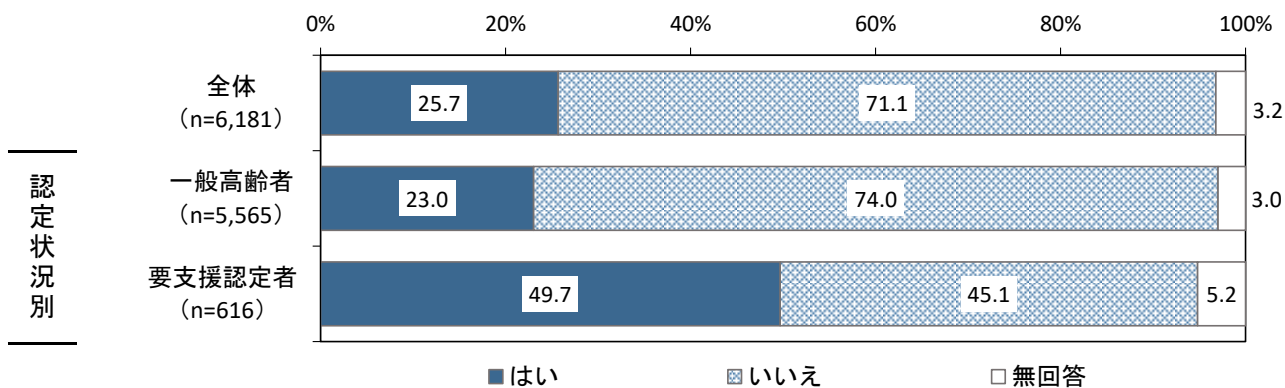


問 8 (10) (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする (〇はひとつ)

(ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがするについては、「はい」が25.7%、「いいえ」が71.1%となっています。

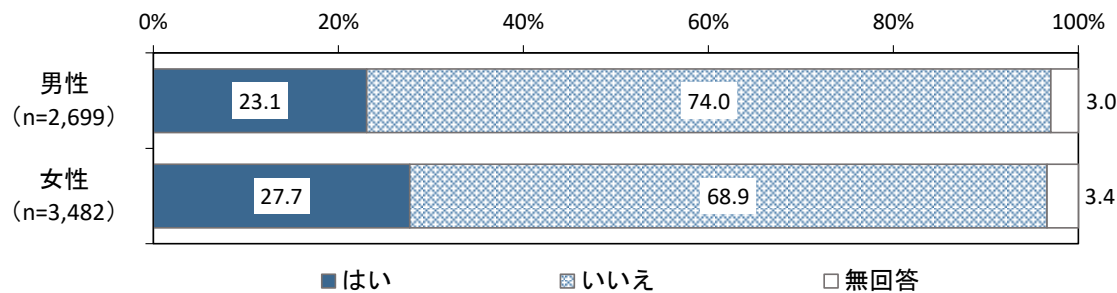
認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が49.7%で、一般高齢者(23.0%)よりも26.7ポイント高くなっています。

図表 3-9-32 (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする



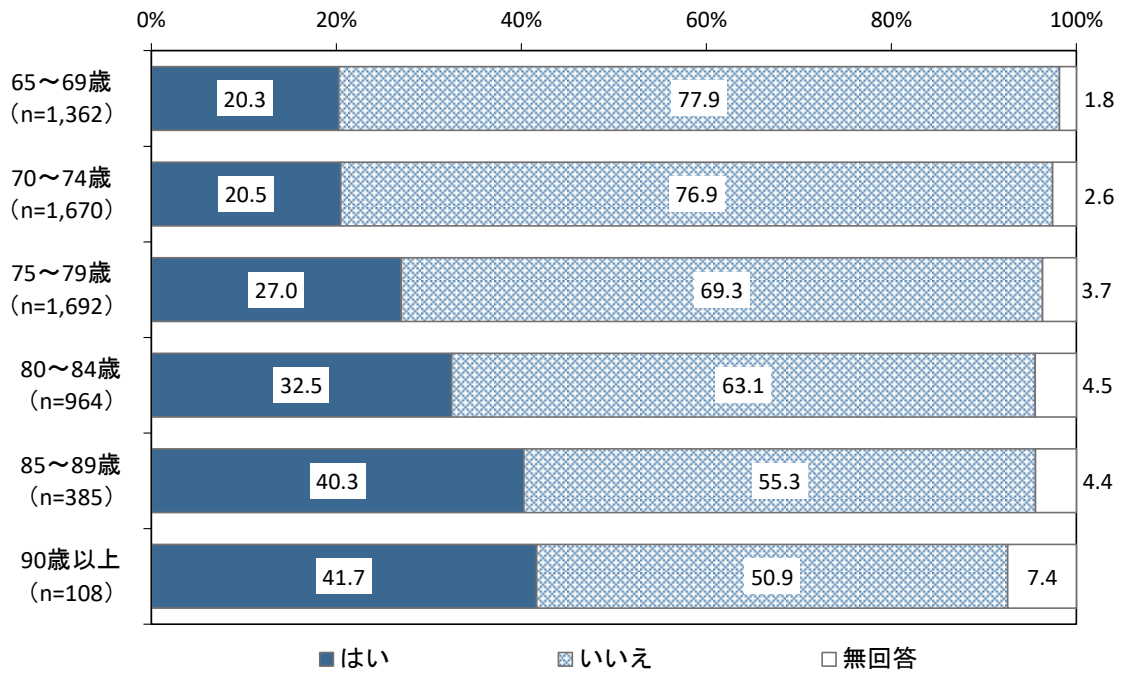
性別でみると、「はい」では、女性が27.7%で、男性(23.1%)よりも4.6ポイント高くなっています。

図表 3-9-33 (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする 性別



年齢別でみると、「はい」では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が41.7%で最も高くなっています。

図表 3-9-34 (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする 年齢別

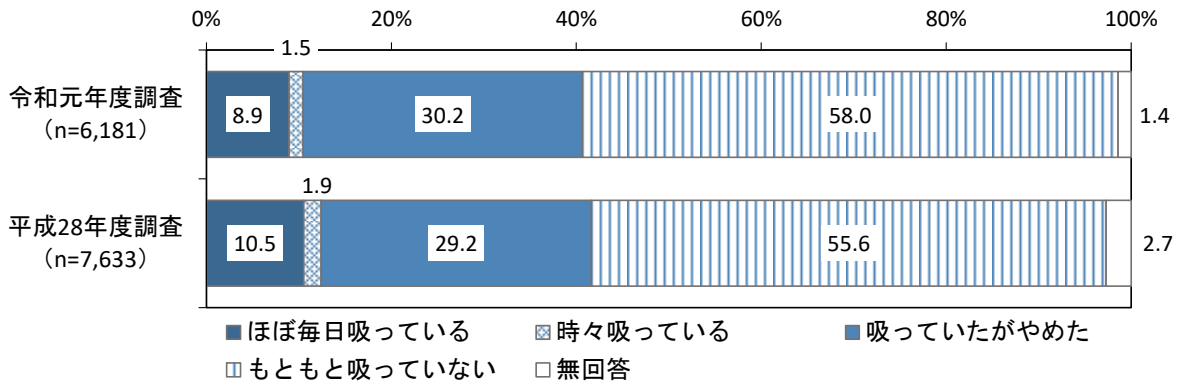


問8(11) タバコは吸っていますか(〇はひとつ)

タバコは吸っているかについては、「もともと吸っていない」が58.0%で最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が30.2%、「ほぼ毎日吸っている」が8.9%と続いており、『吸っている』(「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」の合計)は10.4%となっています。

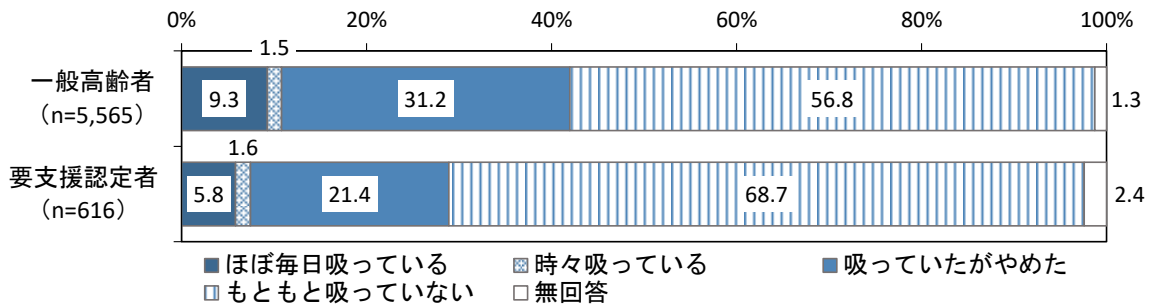
平成28年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-9-35 タバコは吸っているか



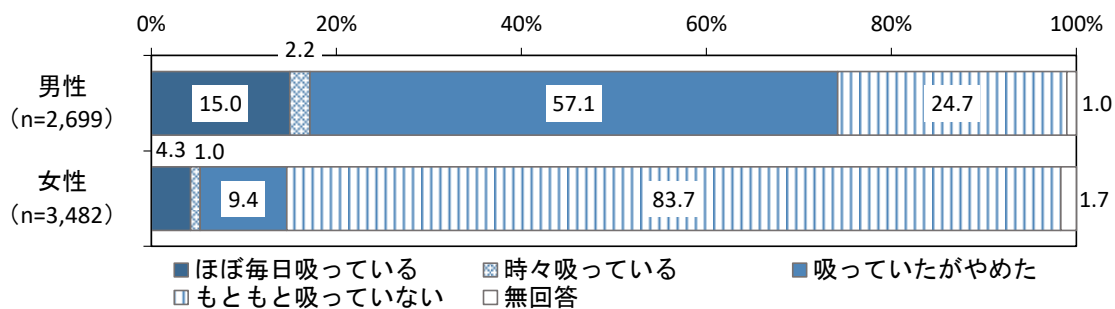
認定状況別でみると、『吸っている』では、一般高齢者が10.8%、要支援認定者が7.4%となっています。

図表 3-9-36 タバコは吸っているか 認定状況別



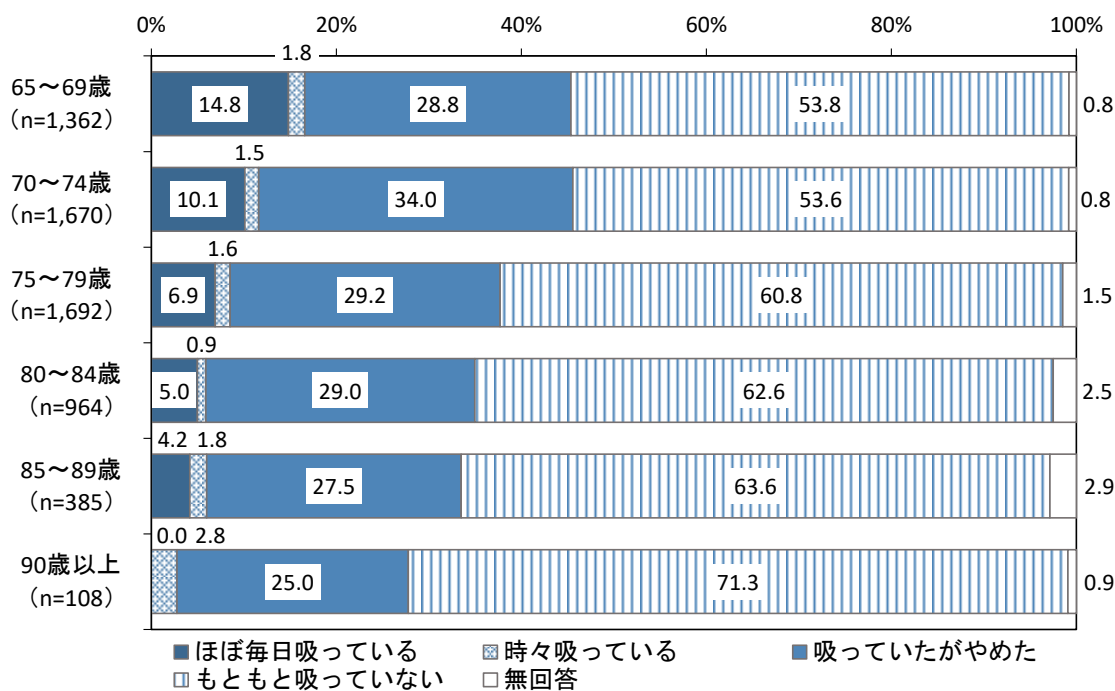
性別でみると、『吸っている』では、男性が17.2%、女性が5.3%となっています。

図表 3-9-37 タバコは吸っているか 性別



年齢別でみると、『吸っている』では、年齢が上がるにつれて割合が低くなっており、65～69歳が16.6%で最も高くなっています。

図表 3-9-38 タバコは吸っているか 年齢別

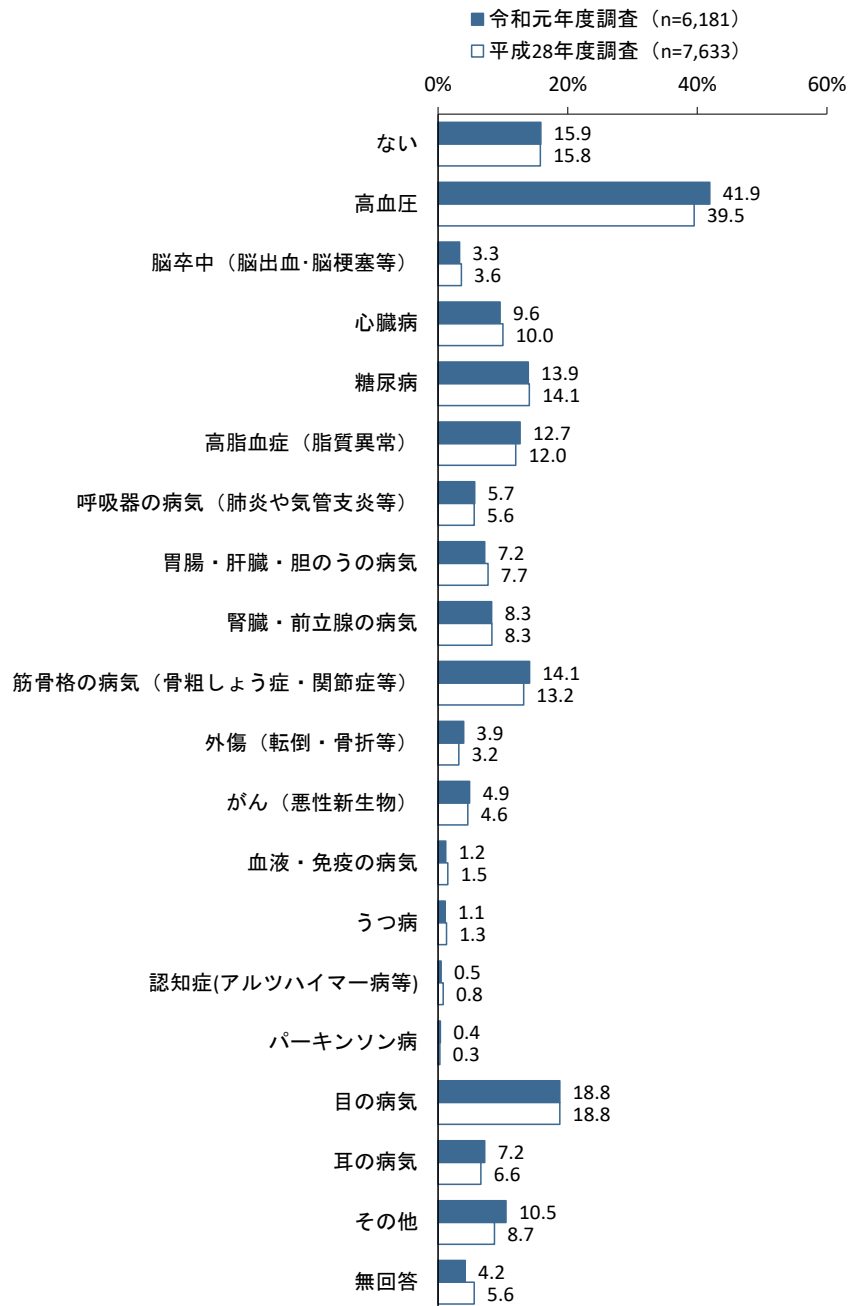


問 8 (12) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (〇はいくつでも)

現在治療中または後遺症のある病気はあるかについては、「高血圧」が 41.9%で最も高く、次いで「目の病気」が 18.8%、「ない」が 15.9%と続いています。

平成 28 年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-9-39 現在治療中または後遺症のある病気はあるか



認定状況別でみると、「ない」「高脂血症 (脂質異常)」以外のすべての項目で要支援認定者の割合が一般高齢者よりも高くなっています。

性別でみると、「筋骨格の病気 (骨粗しょう症・関節症等)」では、女性が 21.5%で、男性 (4.6%) よりも 16.9 ポイント高く、差が最も大きい項目となっています。



年齢別でみると、「高血圧」「胃腸・肝臓・胆のうの病気」「腎臓・前立腺の病気」「外傷（転倒・骨折等）」では、年齢が上がるにつれて概ね割合が高くなっています。

図表 3-9-40 現在治療中または後遺症のある病気はあるか

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	ない	高血圧	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	糖尿病	高脂血症（脂質異常）	呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気（骨粗しょう症・関節症等）	
												合計
全体	6,181	15.9	41.9	3.3	9.6	13.9	12.7	5.7	7.2	8.3	14.1	
別認定	一般高齢者	5,565	17.1	40.9	3.2	8.8	13.6	12.9	5.2	6.7	7.9	12.3
	要支援認定者	616	4.4	50.8	4.4	16.4	17.0	10.1	10.4	11.4	30.7	
性別	男性	2,699	16.1	43.2	5.0	11.9	18.6	10.6	6.4	8.1	16.5	4.6
	女性	3,482	15.7	41.0	2.0	7.8	10.3	14.2	5.1	6.5	1.9	21.5
年齢別	65～69歳	1,362	25.5	32.5	2.3	5.7	12.9	14.8	4.1	5.5	5.3	8.5
	70～74歳	1,670	16.8	42.8	3.4	9.1	15.2	13.7	5.6	6.8	7.2	10.5
	75～79歳	1,692	13.0	42.7	4.0	9.6	15.1	12.5	5.6	7.4	8.8	16.8
	80～84歳	964	9.8	46.7	3.5	13.2	12.7	9.5	7.1	8.1	11.2	19.2
	85～89歳	385	7.8	51.2	3.1	15.3	11.2	11.7	8.1	10.1	11.9	24.2
	90歳以上	108	8.3	58.3	3.7	13.9	9.3	2.8	6.5	12.0	14.8	15.7
区域別	堺区	883	15.2	41.9	3.2	10.6	13.6	13.8	6.0	7.5	7.8	12.9
	中区	840	14.2	46.9	2.9	9.4	14.4	12.9	6.2	6.4	8.2	14.3
	東区	876	15.2	38.1	3.0	8.0	11.5	11.0	5.9	6.3	9.1	14.4
	西区	891	18.7	41.2	4.0	9.8	13.8	11.7	4.9	5.9	7.9	11.4
	南区	929	17.3	42.6	3.0	12.1	14.6	14.3	5.5	7.8	8.8	13.3
	北区	903	15.5	39.6	3.8	8.2	14.2	12.4	4.7	7.8	8.3	15.2
	美原区	859	14.8	43.3	3.4	9.0	15.4	12.5	6.6	8.7	7.8	17.3
全体	6,181	3.9	4.9	1.2	1.1	0.5	0.4	18.8	7.2	10.5	4.2	
別認定	一般高齢者	5,565	2.8	4.8	1.0	1.0	0.3	0.3	17.6	6.7	10.2	4.2
	要支援認定者	616	14.0	5.5	2.9	1.8	1.8	0.8	29.5	11.7	13.5	4.1
性別	男性	2,699	2.4	5.6	1.0	0.8	0.4	0.4	17.2	7.6	8.9	3.9
	女性	3,482	5.2	4.3	1.3	1.3	0.5	0.3	20.0	6.9	11.8	4.5
年齢別	65～69歳	1,362	2.1	4.0	0.9	1.7	0.1	0.2	11.9	4.8	10.6	4.7
	70～74歳	1,670	2.5	6.0	0.8	1.1	0.4	0.3	17.3	5.3	9.5	3.3
	75～79歳	1,692	4.2	4.8	1.8	0.5	0.4	0.5	20.1	7.2	11.6	4.4
	80～84歳	964	6.0	5.3	0.9	1.3	1.0	0.5	25.9	9.9	10.5	4.1
	85～89歳	385	8.3	2.6	2.3	0.5	1.0	0.3	24.2	15.8	10.1	4.4
	90歳以上	108	11.1	3.7	0.0	1.9	0.9	0.0	25.0	13.0	9.3	8.3
区域別	堺区	883	4.8	4.9	1.0	1.5	0.5	0.3	20.7	9.1	10.6	4.3
	中区	840	5.0	4.3	0.7	1.1	0.5	0.4	19.4	6.5	8.9	3.5
	東区	876	2.9	4.9	1.6	0.7	0.2	0.3	18.0	5.6	10.6	5.5
	西区	891	3.8	3.7	1.0	1.0	0.7	0.6	19.2	7.9	11.6	4.4
	南区	929	3.8	5.8	1.4	0.8	0.2	0.4	17.7	7.2	12.3	3.9
	北区	903	3.1	5.6	1.3	1.7	0.7	0.2	19.6	6.6	10.7	3.9
	美原区	859	4.4	4.9	1.3	1.0	0.6	0.3	16.9	7.6	8.5	4.1

※網掛け■は最も割合が高いもの

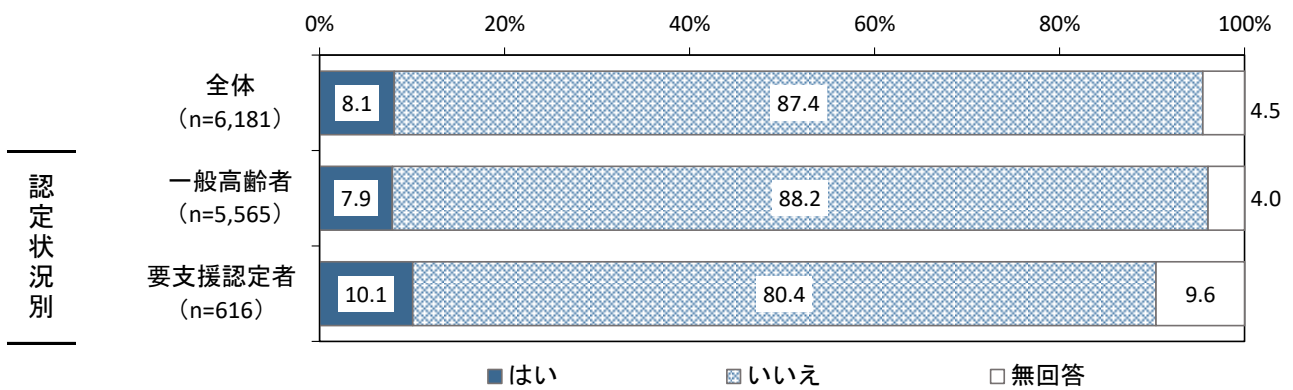
## 10. 認知症にかかる相談窓口の把握について

問9(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか (〇はひとつ)

認知症の症状があるか／家族に認知症の症状がある人がいるかについては、「はい」が8.1%、「いいえ」が87.4%となっています。

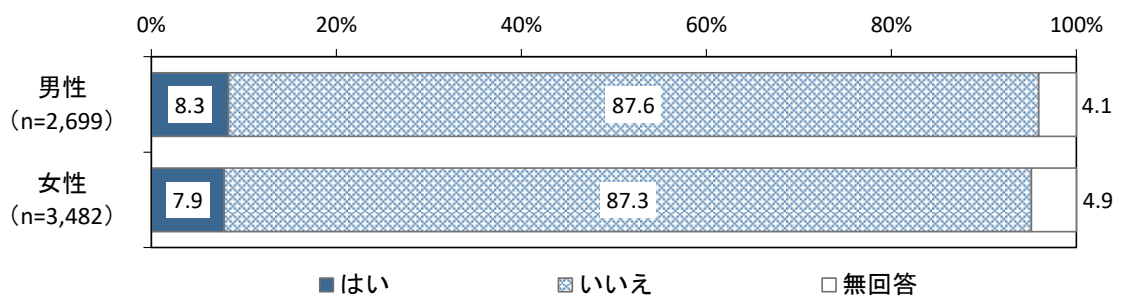
認定状況別でみると、「いいえ」では、一般高齢者が88.2%で、要支援認定者(80.4%)よりも7.8ポイント高くなっています。

図表 3-10-1 認知症の症状があるか／家族に認知症の症状がある人がいるか



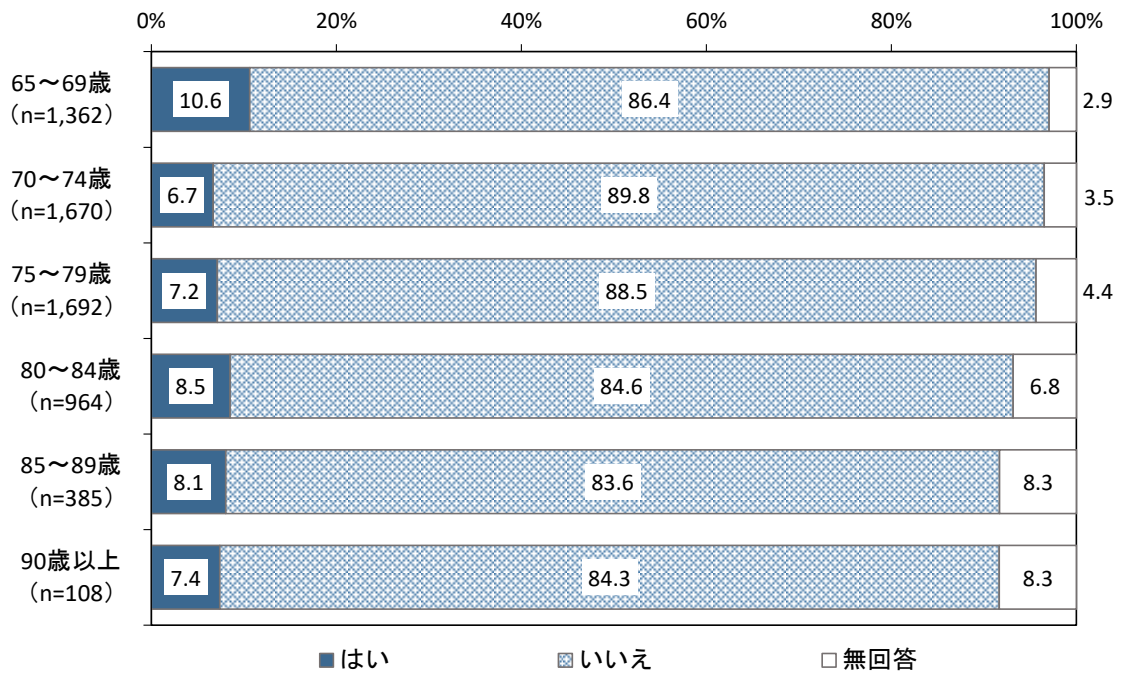
性別でみると、大きな差はみられません。

図表 3-10-2 認知症の症状があるか／家族に認知症の症状がある人がいるか 性別



年齢別でみると、「はい」では、65～69歳が10.6%で最も高くなっています。

図表 3-10-3 認知症の症状があるか／家族に認知症の症状がある人がいるか 年齢別

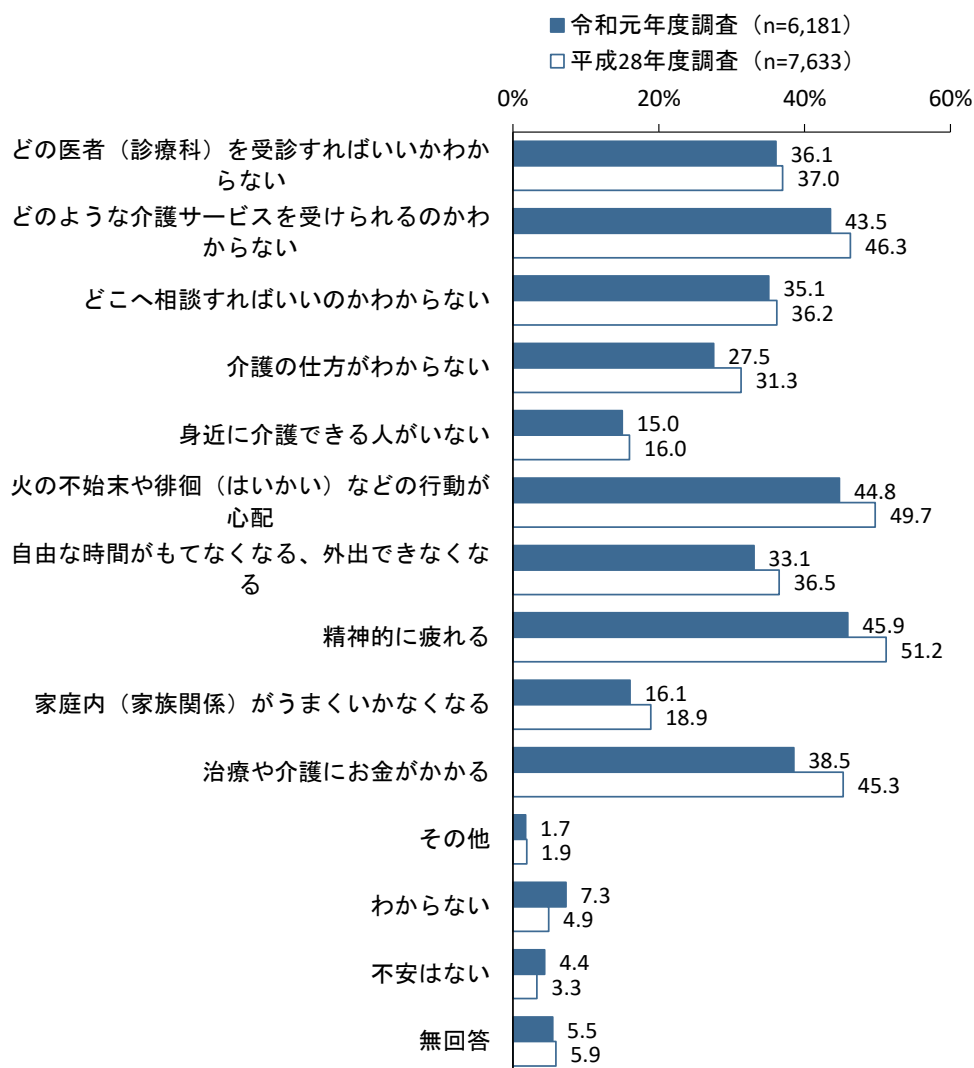


問9(2)	あなた、もしくはあなたの家族が認知症になったら、不安に思うことはありますか(〇はいくつでも)
-------	--

あなたや家族が認知症になったら不安に思うことにはあるかについては、「精神的に疲れる」が45.9%で最も高く、次いで「火の不始末や徘徊(はいかい)などの行動が心配」が44.8%、「どのような介護サービスを受けられるのかわからない」が43.5%と続いています。

平成28年度調査と比較すると、「わからない」「不安はない」以外のすべての項目で令和元年度調査の割合が平成28年度調査よりも低くなっています。

図表3-10-4 あなたや家族が認知症になったら不安に思うことはあるか



認定状況別でみると、一般高齢者では「精神的に疲れる」が46.7%で最も高く、要支援認定者では「火の不始末や徘徊（はいかい）などの行動が心配」が42.4%で最も高くなっています。

性別でみると、男性では「どのような介護サービスを受けられるのかわからない」「精神的に疲れる」がいずれも45.2%で最も高く、女性では「精神的に疲れる」が46.4%で最も高くなっています。

年齢別でみると、74歳以下では「精神的に疲れる」の割合が最も高く、75～79歳では「火の不始末や徘徊（はいかい）などの行動が心配」の割合が最も高く、80歳以上では「どのような介護サービスを受けられるのかわからない」の割合が最も高くなっています。

区域別でみると、「どこへ相談すればいいのかわからない」では、中区が39.2%で最も高くなっています。

図表 3-10-5 あなたや家族が認知症になったら不安に思うことはあるか

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	す だ の 医 者 （ 診 療 科 ） を 受 診 す れ ば い い か わ か ら な い	ど の よ う な 介 護 サ ー ビ ス を 受 け ら れ る の か わ か ら な い	ど こ へ 相 談 す れ ば い い の か わ か ら な い	介 護 の 仕 方 が わ か ら な い	身 近 に 介 護 で き る 人 が い な い	火 の 不 始 末 や 徘徊 （ は い か い ） な ど の 行 動 が 心 配	自 由 な 時 間 が も て な く な る 、 外 出 で き な く な る	精 神 的 に 疲 れ る	家 庭 内 （ 家 族 関 係 ） が う ま い か な く な る	治 療 や 介 護 に お 金 が か か る
全体		6,181	36.1	43.5	35.1	27.5	15.0	44.8	33.1	45.9	16.1	38.5
別 認 定	一般高齢者	5,565	36.1	44.3	35.4	27.6	14.5	45.0	34.1	46.7	15.9	39.0
	要支援認定者	616	36.0	37.0	32.1	26.8	19.5	42.4	24.0	39.0	17.7	33.9
性 別	男性	2,699	37.2	45.2	37.1	33.7	14.8	44.0	33.3	45.2	16.7	38.3
	女性	3,482	35.2	42.2	33.5	22.7	15.2	45.3	32.9	46.4	15.6	38.7
年 齢 別	65～69歳	1,362	35.1	39.5	34.4	25.0	12.3	45.5	36.0	52.6	17.6	42.5
	70～74歳	1,670	36.8	46.0	35.0	29.6	12.9	45.6	35.5	47.9	15.9	39.3
	75～79歳	1,692	37.9	46.9	37.6	29.3	17.1	47.7	33.4	45.7	16.4	40.5
	80～84歳	964	36.0	42.7	34.8	26.9	18.9	42.0	29.3	41.8	15.0	34.9
	85～89歳	385	29.4	36.9	28.1	24.4	16.1	36.6	23.9	30.9	12.5	26.5
	90歳以上	108	33.3	34.3	33.3	15.7	10.2	29.6	18.5	23.1	17.6	19.4
区 域 別	堺区	883	34.4	41.0	33.9	26.2	15.5	44.7	30.4	44.8	13.6	37.9
	中区	840	37.6	48.1	39.2	29.9	15.0	44.6	33.1	47.1	15.2	43.7
	東区	876	35.0	42.7	34.0	27.3	14.5	45.9	34.6	47.5	18.2	38.9
	西区	891	34.9	41.3	34.8	27.5	15.5	44.4	32.9	44.8	17.4	38.0
	南区	929	34.7	42.3	34.2	26.9	15.1	46.7	36.1	46.3	15.8	36.9
	北区	903	37.7	46.2	34.6	28.0	14.7	43.1	31.1	44.0	15.6	38.0
	美原区	859	38.5	43.4	35.2	27.0	14.7	43.8	33.2	47.0	16.8	36.4
		合計	その他	わ か ら な い	不 安 は な い	無 回 答						
全体		6,181	1.7	7.3	4.4	5.5						
別 認 定	一般高齢者	5,565	1.6	7.2	4.5	4.9						
	要支援認定者	616	2.9	8.1	3.2	10.4						
性 別	男性	2,699	1.3	7.6	4.7	5.1						
	女性	3,482	2.1	7.0	4.1	5.7						
年 齢 別	65～69歳	1,362	1.2	8.9	4.8	3.0						
	70～74歳	1,670	1.8	6.4	4.5	3.8						
	75～79歳	1,692	2.0	5.3	4.3	5.7						
	80～84歳	964	1.7	8.2	3.0	7.9						
	85～89歳	385	2.3	10.1	6.0	11.9						
	90歳以上	108	2.8	13.0	5.6	13.0						
区 域 別	堺区	883	2.2	8.2	5.7	5.0						
	中区	840	2.0	5.7	2.7	6.4						
	東区	876	1.5	7.5	5.0	5.8						
	西区	891	1.7	7.1	4.4	6.4						
	南区	929	1.8	8.2	5.3	4.6						
	北区	903	1.4	8.0	4.1	4.4						
	美原区	859	1.6	6.1	3.3	5.6						

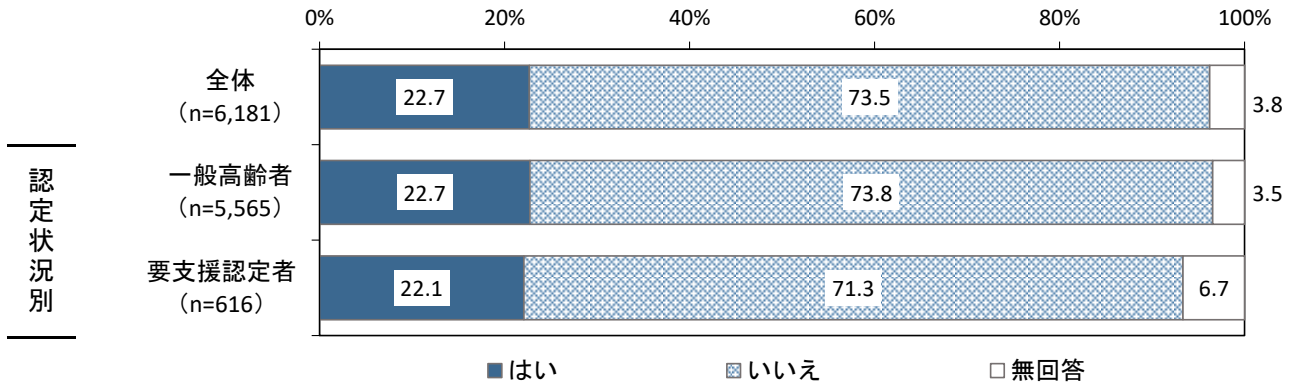
※網掛け■は最も割合が高いもの

問 9 (3) 認知症に関する相談窓口を知っていますか (〇はひとつ)

認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「はい」が 22.7%、「いいえ」が 73.5% となっています。

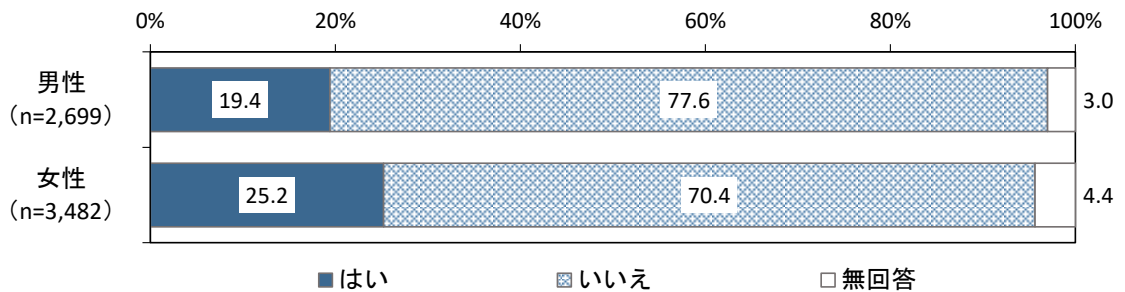
認定状況別でみると、大きな差はみられません。

図表 3-10-6 認知症に関する相談窓口を知っているか



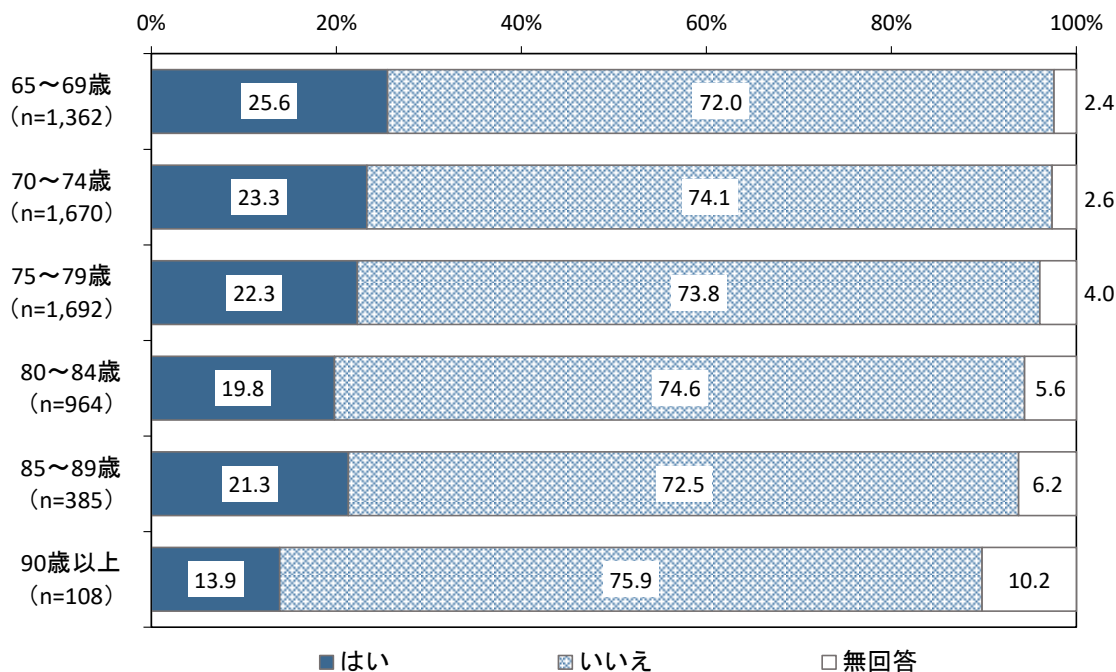
性別でみると、「はい」では、女性が 25.2%で、男性 (19.4%) よりも 5.8 ポイント高くなっています。

図表 3-10-7 認知症に関する相談窓口を知っているか 性別



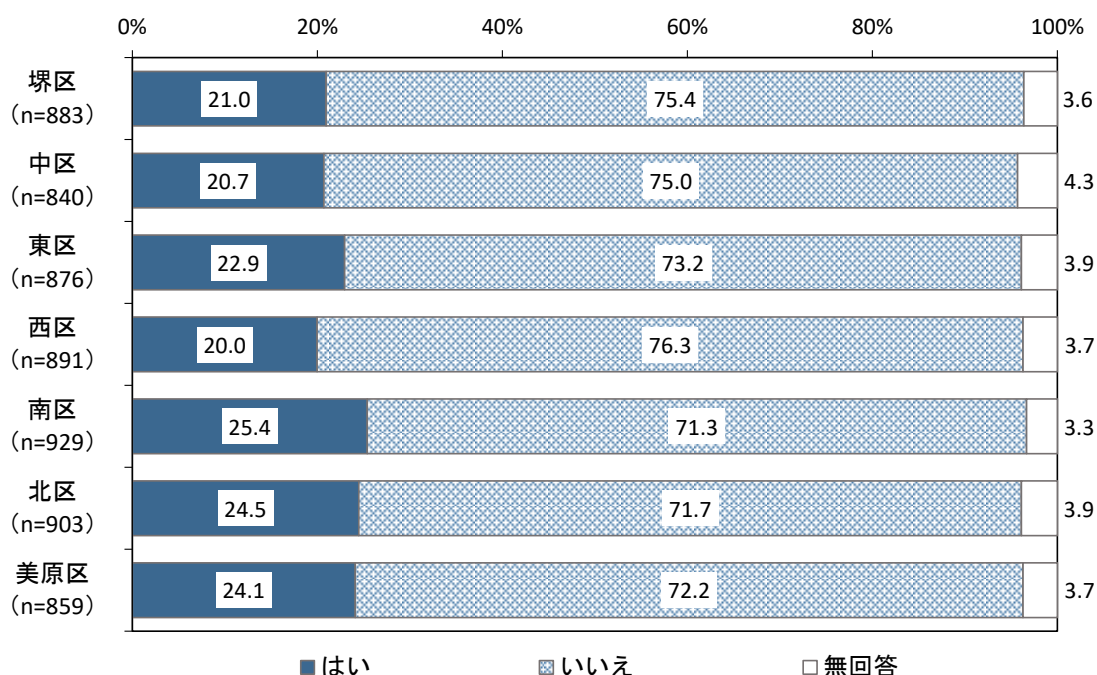
年齢別でみると、「はい」では、65～69歳が25.6%で最も高く、「いいえ」では、90歳以上が75.9%で最も高くなっています。

図表 3-10-8 認知症に関する相談窓口を知っているか 年齢別



区域別でみると、「はい」では、南区が25.4%で最も高く、「いいえ」では、西区が76.3%で最も高くなっています。

図表 3-10-9 認知症に関する相談窓口を知っているか 区域別



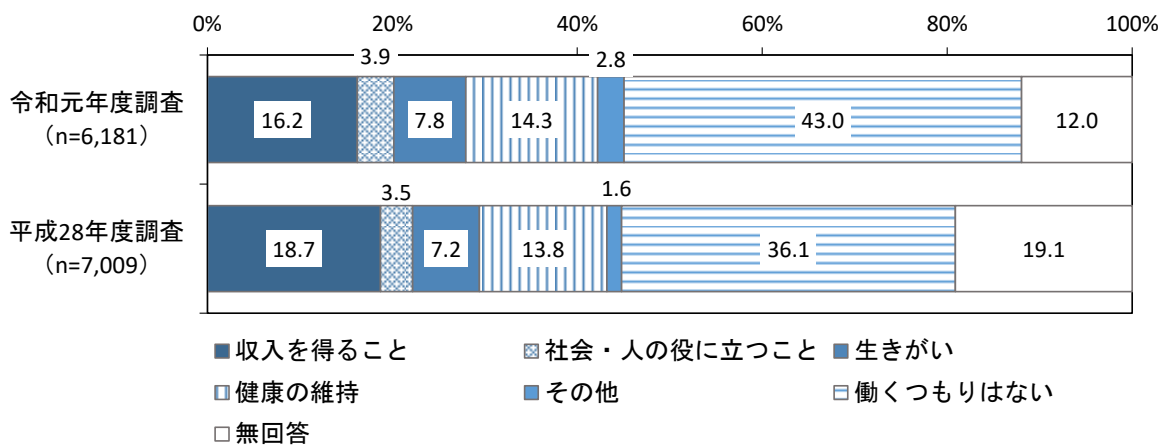


## 11. 仕事について

問 10 (1)	これから働き始めようとする（または引き続き働き続ける）場合に、あなたが仕事に一番求めるものは何ですか（〇はひとつ）
----------	---

これから働き始めようとする（働き続ける）場合仕事に一番求めるものは何かについては、「働くつもりはない」が43.0%で最も高く、次いで「収入を得ること」が16.2%、「健康の維持」が14.3%と続いています。

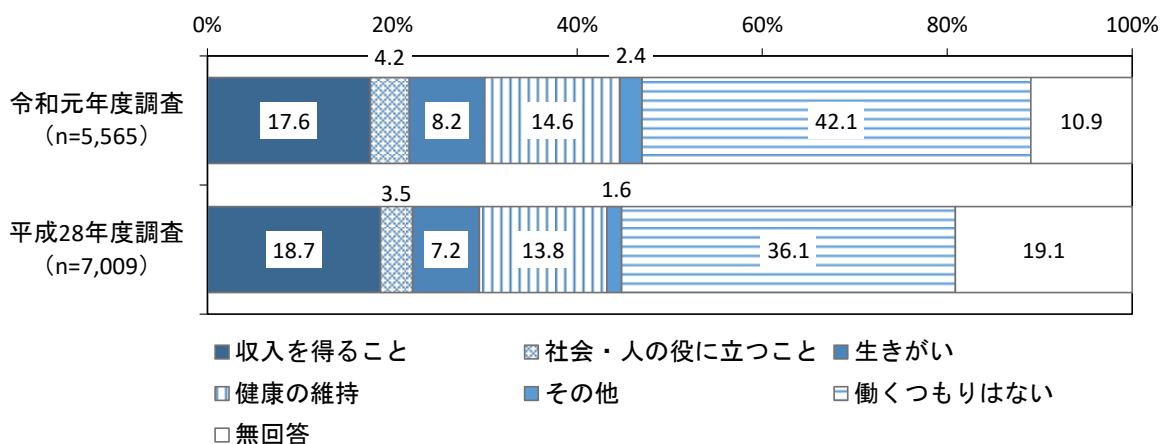
図表 3-11-1 これから働き始めようとする（働き続ける）場合仕事に一番求めるものは何か



※平成 28 年度調査は一般高齢者のみの設問となっています。

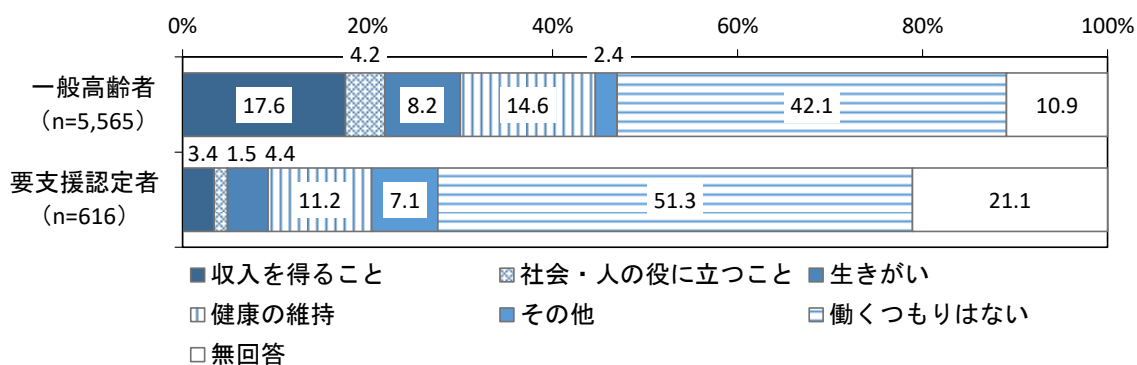
一般高齢者のみで平成 28 年度調査と比較すると、「働くつもりはない」（42.1%）では、平成 28 年度調査（36.1%）よりも 6.0 ポイント高くなっています。

図表 3-11-2 これから働き始めようとする（働き続ける）場合仕事に一番求めるものは何か  
一般高齢者のみ 平成 28 年度調査との比較



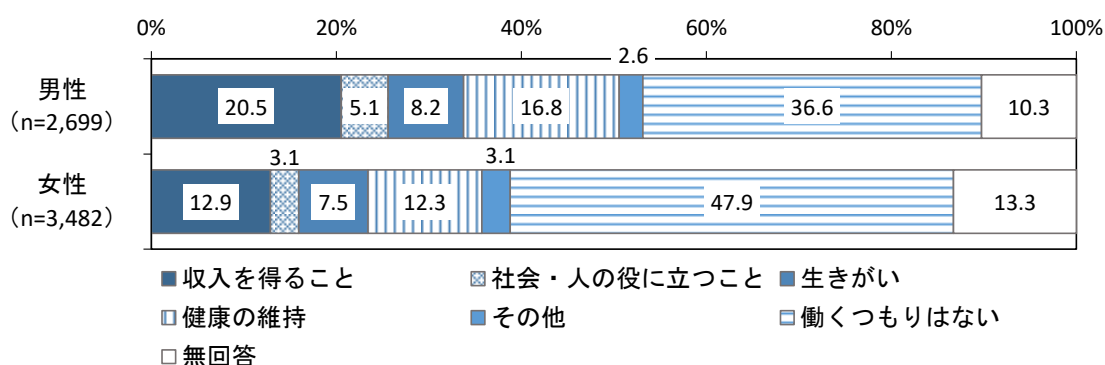
認定状況別でみると、一般高齢者・要支援認定者いずれも「働くつもりはない」（一般高齢者42.1%、要支援認定者51.3%）の割合が最も高く、一般高齢者では次いで「収入を得ること」（17.6%）の割合が高く、要支援認定者では次いで「健康の維持」（11.2%）の割合が高くなっています。

図表 3-11-3 これから働き始めようとする（働き続ける）場合仕事に一番求めるものは何か  
認定状況別



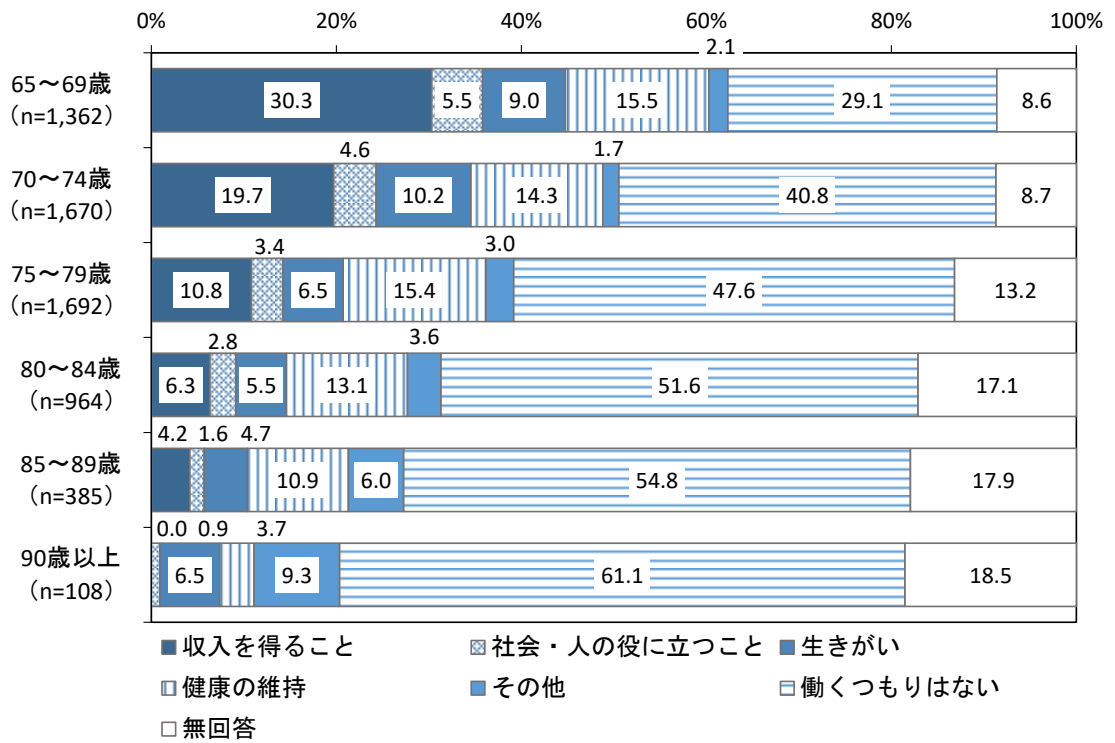
性別でみると、「働くつもりはない」では、女性が47.9%で、男性（36.6%）よりも11.3ポイント高くなっています。

図表 3-11-4 これから働き始めようとする（働き続ける）場合仕事に一番求めるものは何か  
性別



年齢別でみると、「働くつもりはない」では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が61.1%で最も高く、「収入を得ること」では、年齢が上がるにつれて割合が低くなっており、65～69歳が30.3%で最も高くなっています。

図表 3-11-5 これから働き始めようとする（働き続ける）場合仕事に一番求めるものは何か  
年齢別



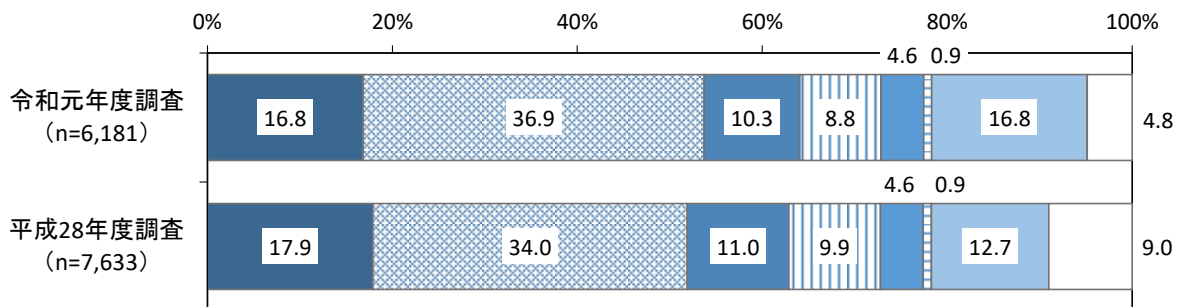
## 12. 介護について

問 11 (1)	介護が必要になった場合、どのような介護を受けたいと思いますか (〇はひとつ)
----------	---

介護が必要になった場合どのような介護を受けたいかについては、「介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護を受けたい」が36.9%で最も高く、次いで「なるべく家族のみで、自宅で介護を受けたい」「わからない」がいずれも16.8%と続いており、『自宅で介護を受けたい』（「なるべく家族のみで、自宅で介護を受けたい」と「介護保険サービスや保健福祉サービスを使いながら自宅で介護を受けたい」の合計）は53.7%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「わからない」（16.8%）では、平成28年度調査（12.7%）よりも4.1ポイント高くなっています。

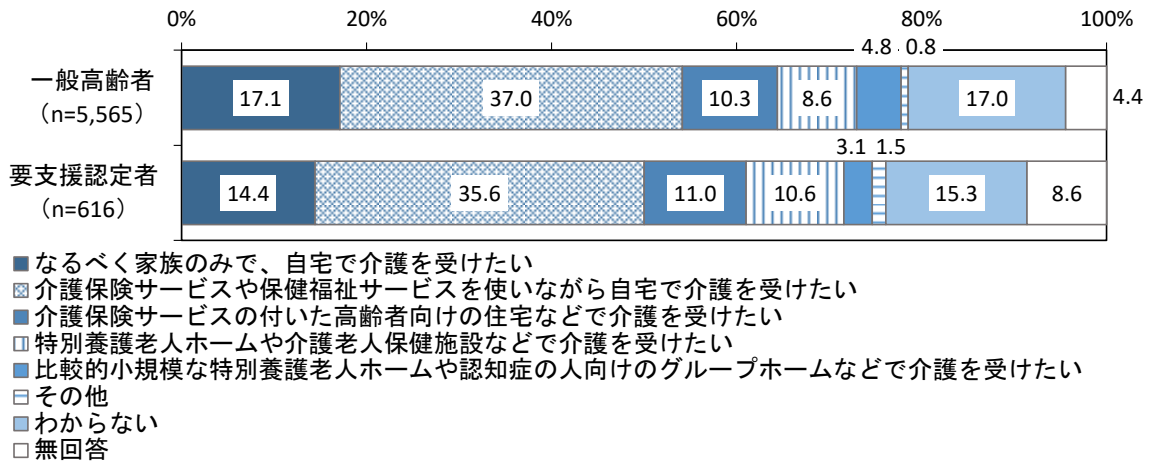
図表 3-12-1 介護が必要になった場合どのような介護を受けたいか



- なるべく家族のみで、自宅で介護を受けたい
- ▨ 介護保険サービスや保健福祉サービスを使いながら自宅で介護を受けたい
- 介護保険サービスの付いた高齢者向けの住宅などで介護を受けたい
- 特別養護老人ホームや介護老人保健施設などで介護を受けたい
- 比較的小規模な特別養護老人ホームや認知症の人向けのグループホームなどで介護を受けたい
- その他
- わからない
- 無回答

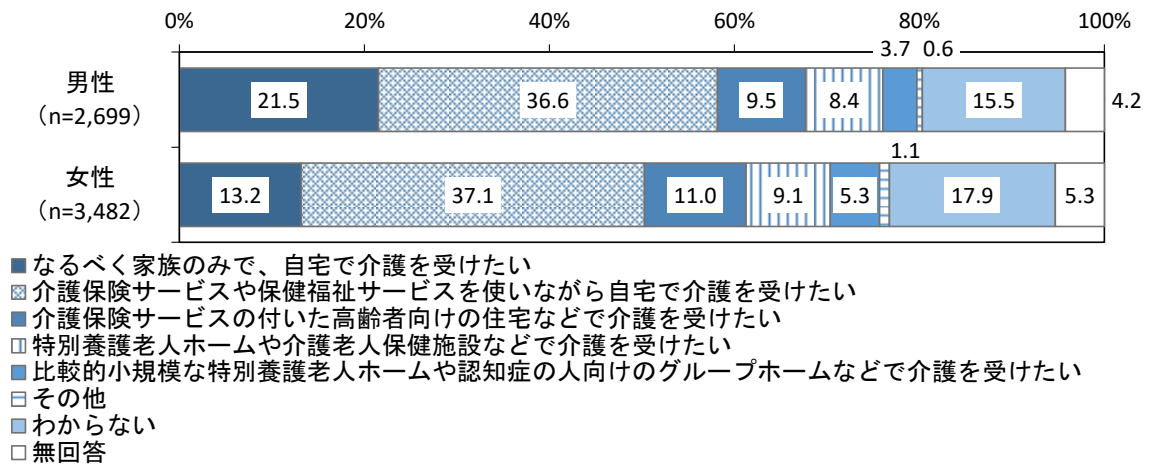
認定状況別でみると、『自宅で介護を受けたい』では、一般高齢者が 54.1%で、要支援認定者 (50.0%) よりも 4.1 ポイント高くなっています。

図表 3-12-2 介護が必要になった場合どのような介護を受けたいか 認定状況別



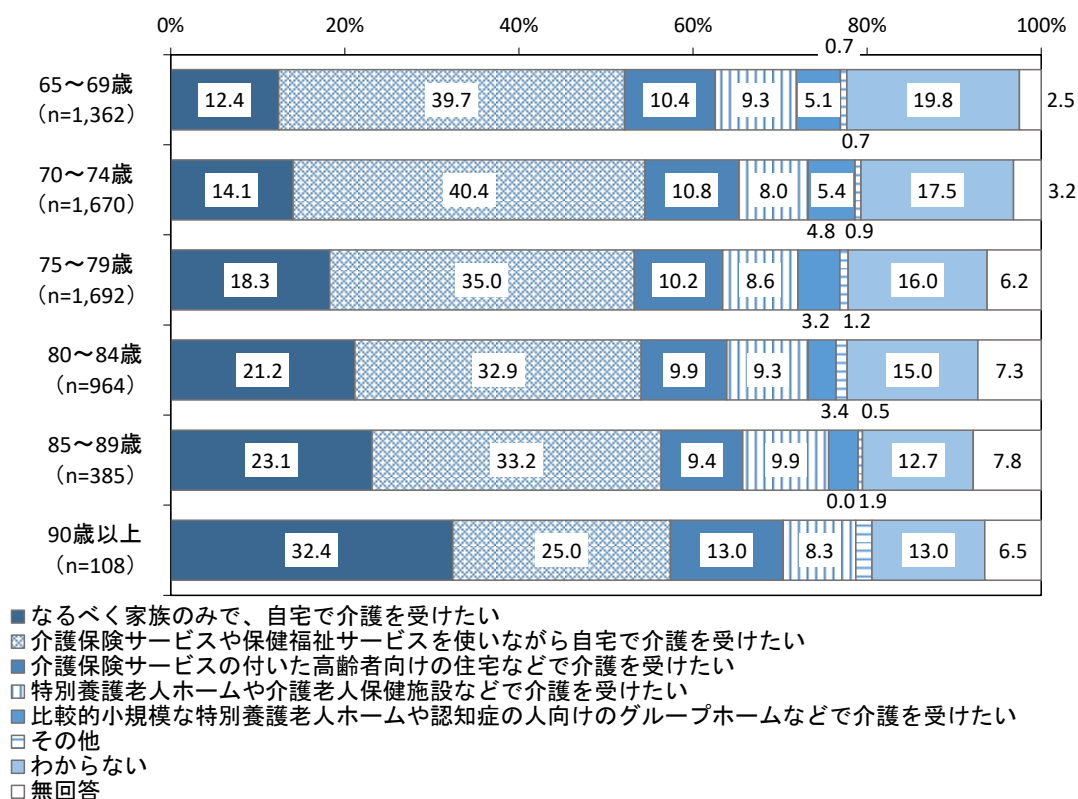
性別でみると、『自宅で介護を受けたい』では、男性が 58.1%で、女性 (50.3%) よりも 7.8 ポイント高くなっています。

図表 3-12-3 介護が必要になった場合どのような介護を受けたいか 性別



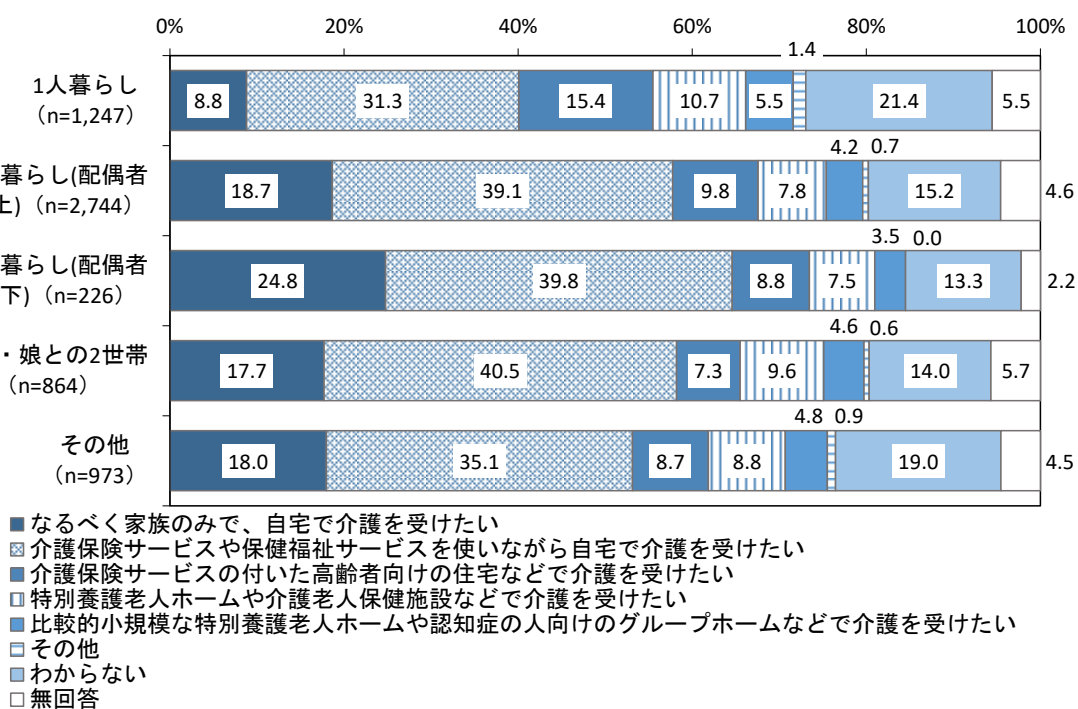
年齢別でみると、「なるべく家族のみで、自宅で介護を受けたい」では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が32.4%で最も高くなっています。

図表 3-12-4 介護が必要になった場合どのような介護を受けたいか 年齢別



家族構成別でみると、『自宅で介護を受けたい』では、「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」が64.6%で最も高く、「わからない」では、「1人暮らし」が21.4%で最も高くなっています。

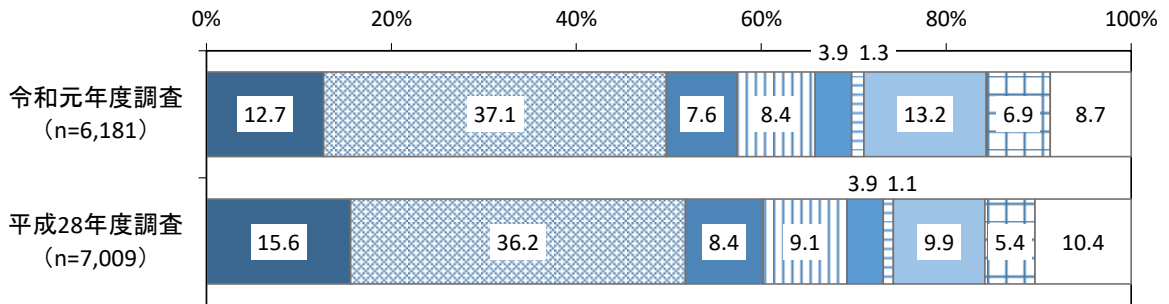
図表 3-12-5 介護が必要になった場合どのような介護を受けたいか 家族構成別



問 11 (2)	家族に介護が必要になったら、どのように介護したいと思いますか (〇はひとつ)
----------	---

家族に介護が必要になったらどのように介護したいかについては、「介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護したい」が 37.1%で最も高く、次いで「わからない」が 13.2%、「なるべく家族のみで、自宅で介護したい」が 12.7%と続いており、『自宅で介護したい』（「なるべく家族のみで、自宅で介護したい」と「介護保険サービスや保健福祉サービスを使いながら自宅で介護したい」の合計）は 49.8%となっています。

図表 3-12-6 家族に介護が必要になったらどのように介護したいか

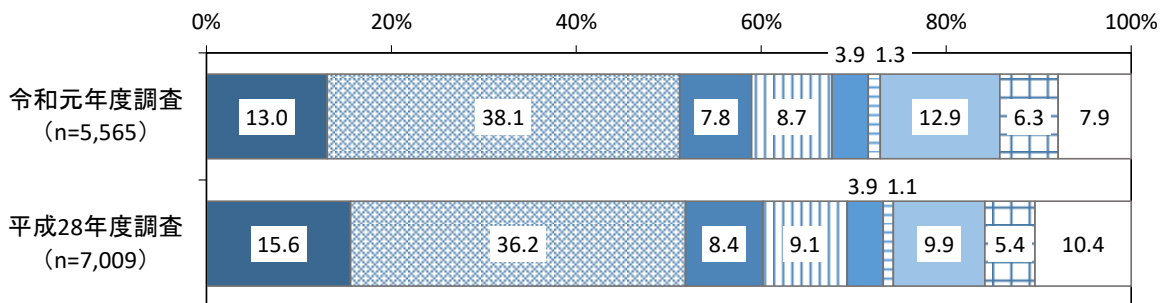


- なるべく家族のみで、自宅で介護したい
- ▨ 介護保険サービスや保健福祉サービスを使いながら自宅で介護したい
- 介護保険サービスの付いた高齢者向けの住宅などに入居させたい
- ▨ 特別養護老人ホームや介護老人保健施設などに入所させたい
- ▨ 比較的小規模な特別養護老人ホームや認知症の人向けのグループホームなどに入所させたい
- その他
- わからない
- 家族はいない
- 無回答

※平成 28 年度調査は一般高齢者のみの設問となっています。

一般高齢者のみで平成 28 年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

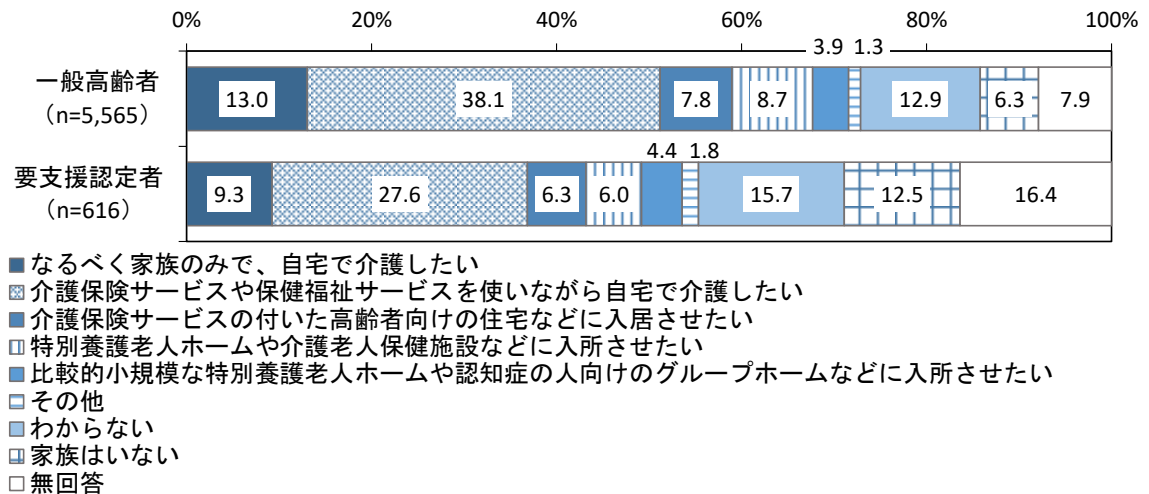
図表 3-12-7 家族に介護が必要になったらどのように介護したいか 一般高齢者  
平成 28 年度調査との比較



- なるべく家族のみで、自宅で介護したい
- ▨ 介護保険サービスや保健福祉サービスを使いながら自宅で介護したい
- 介護保険サービスの付いた高齢者向けの住宅などに入居させたい
- ▨ 特別養護老人ホームや介護老人保健施設などに入所させたい
- ▨ 比較的小規模な特別養護老人ホームや認知症の人向けのグループホームなどに入所させたい
- その他
- わからない
- 家族はいない
- 無回答

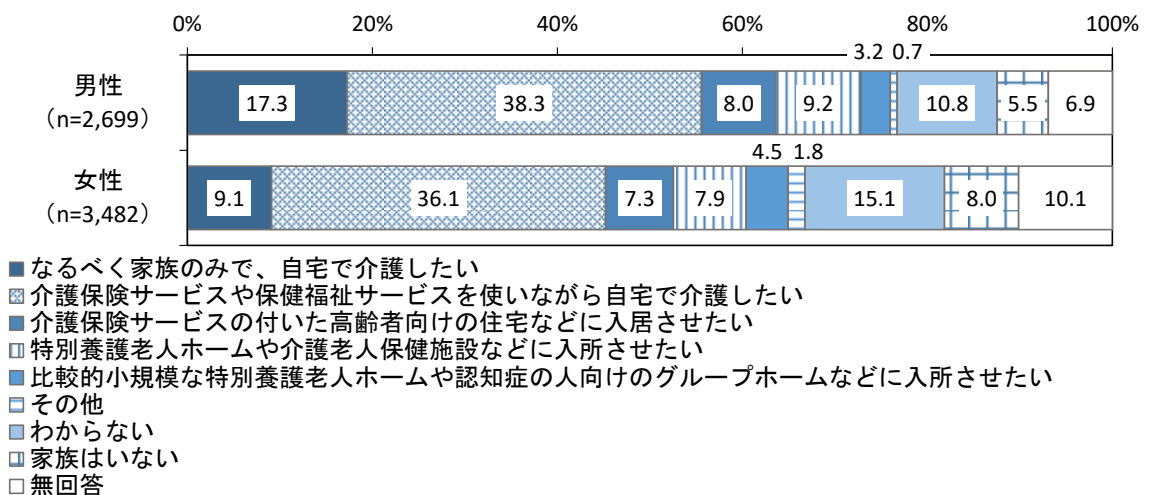
認定状況別でみると、『自宅で介護したい』では、一般高齢者が 51.1%で、要支援認定者(36.9%)よりも 14.2 ポイント高くなっています。

図表 3-12-8 家族に介護が必要になったらどのように介護したいか 認定状況別



性別でみると、『自宅で介護したい』では、男性が 55.6%で、女性 (45.2%) よりも 10.4 ポイント高くなっており、「わからない」では、女性が 15.1%で、男性 (10.8%) よりも 4.3 ポイント高くなっています。

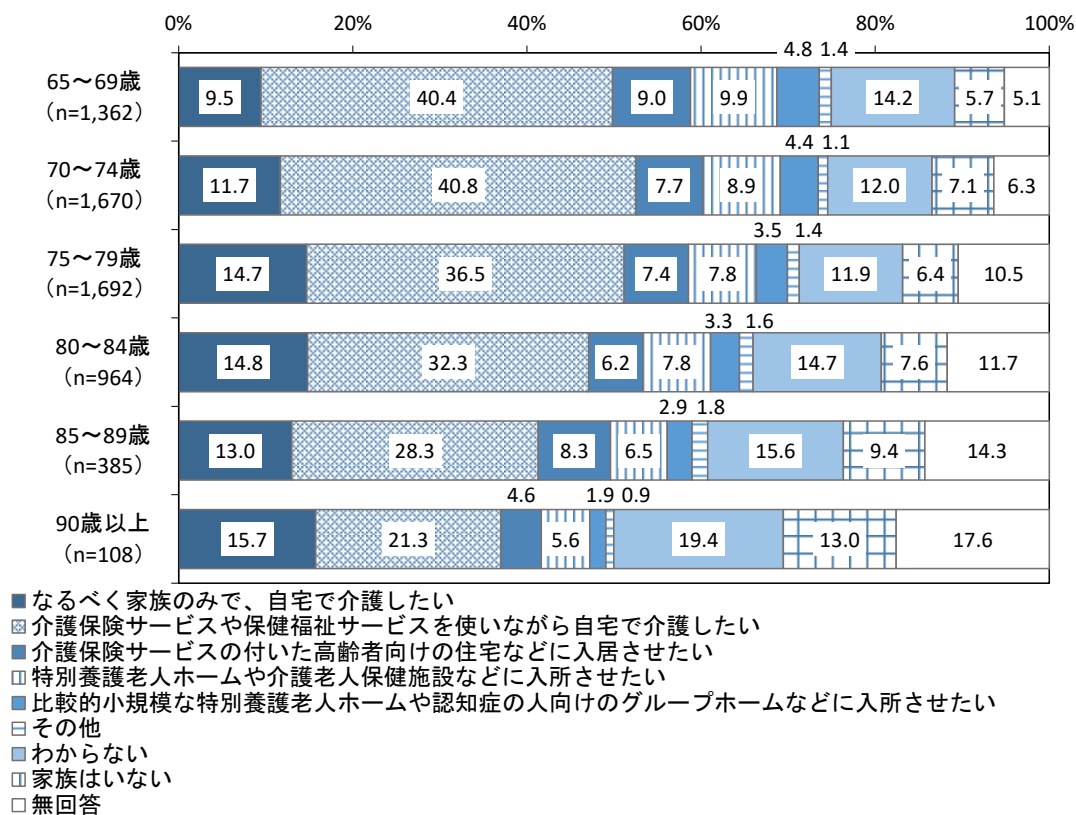
図表 3-12-9 家族に介護が必要になったらどのように介護したいか 性別





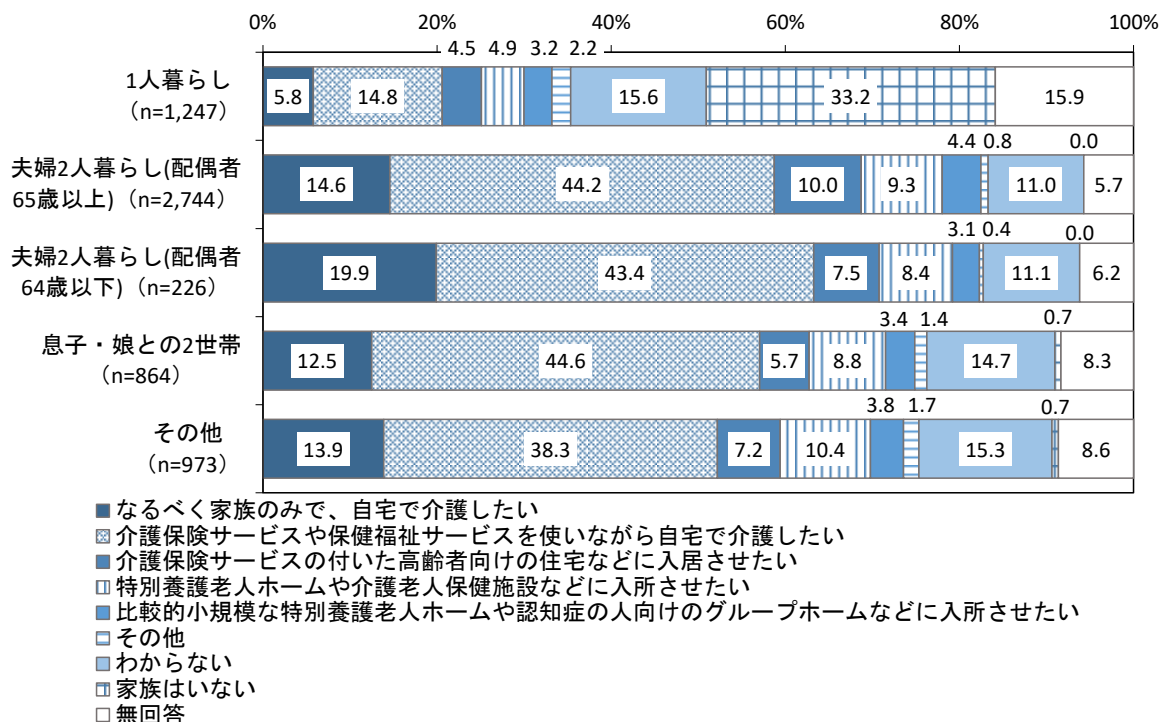
年齢別でみると、『自宅で介護したい』では、70歳以上で年齢が上がるにつれて割合が低くなっており、70～74歳が52.5%で最も高くなっています。

図表 3-12-10 家族に介護が必要になったらどのように介護したいか 年齢別



家族構成別でみると、『自宅で介護したい』では、「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」が63.3%で最も高くなっています。

図表 3-12-11 家族に介護が必要になったらどのように介護したいか 家族構成別

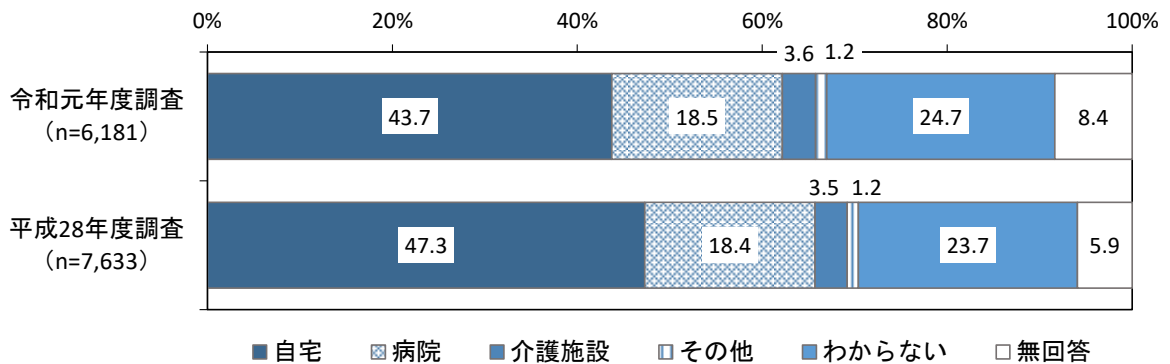


問 11 (3) 人生の最期をどこで迎えたいと思いますか (〇はひとつ)

人生の最期をどこで迎えたいかについては、「自宅」が 43.7%で最も高く、次いで「わからない」が 24.7%、「病院」が 18.5%と続いています。

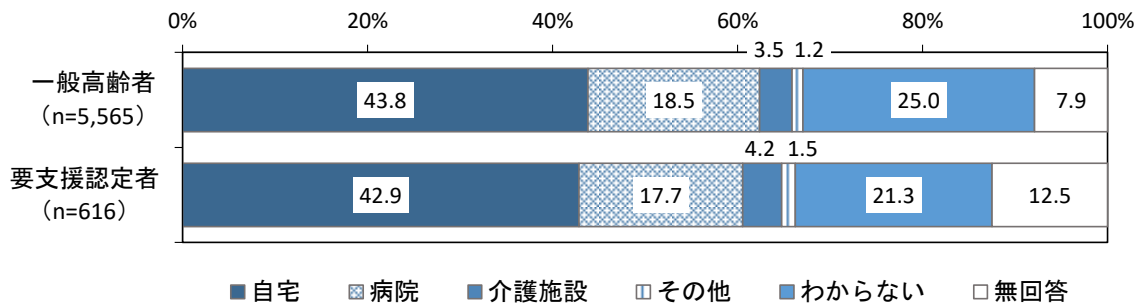
平成 28 年度調査と比較すると、「自宅」(43.7%)では、平成 28 年度調査 (47.3%) よりも 3.6 ポイント低くなっています。

図表 3-12-12 人生の最期をどこで迎えたいか



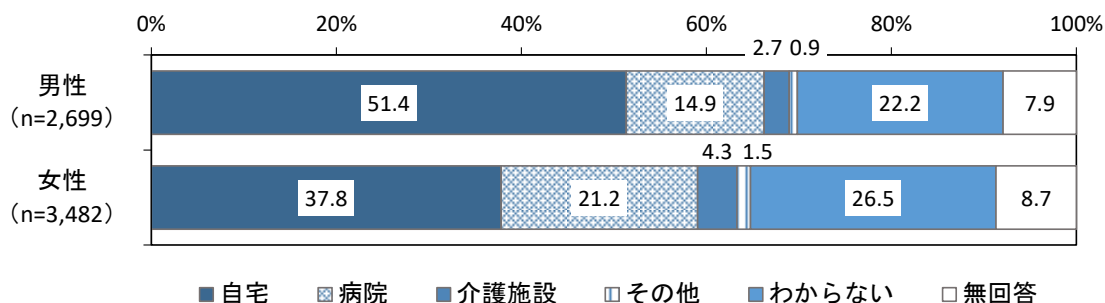
認定状況別でみると、「わからない」では、一般高齢者が 25.0%で、要支援認定者 (21.3%) よりも 3.7 ポイント高くなっています。

図表 3-12-13 人生の最期をどこで迎えたいか 認定状況別



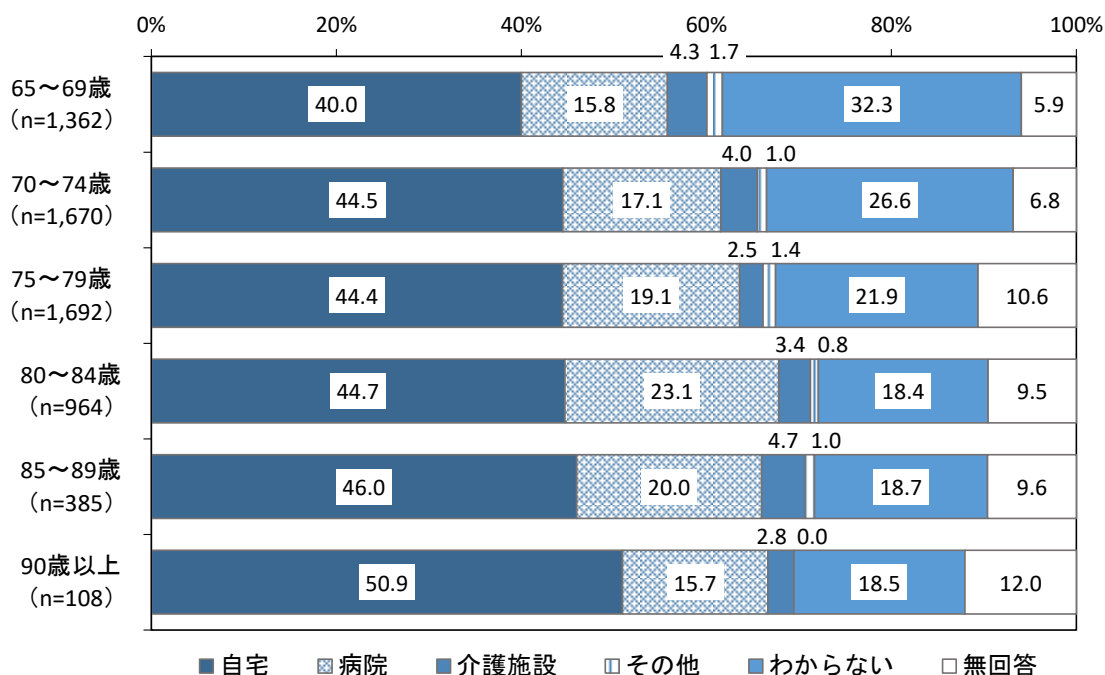
性別でみると、「自宅」では、男性が51.4%で、女性（37.8%）よりも13.6ポイント高く、「わからない」では、女性が26.5%で、男性（22.2%）よりも4.3ポイント高くなっています。

図表 3-12-14 人生の最期をどこで迎えたいか 性別



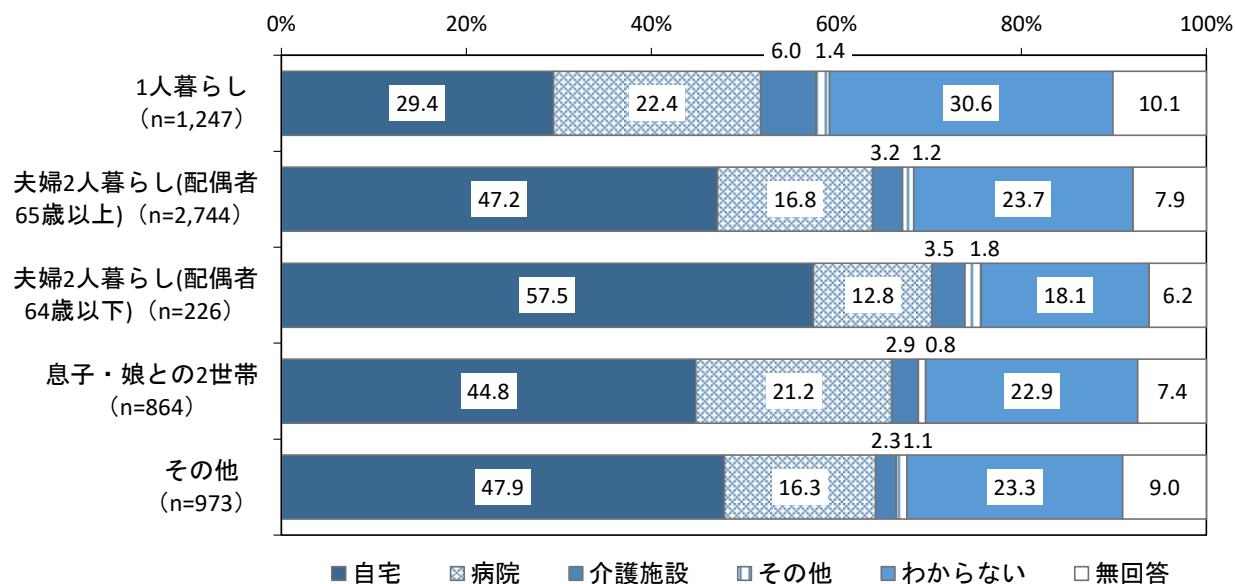
年齢別でみると、「自宅」では、90歳以上が50.9%で最も高く、「わからない」では、65～69歳が32.3%で最も高くなっています。

図表 3-12-15 人生の最期をどこで迎えたいか 年齢別



家族構成別でみると、「自宅」では、「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」が57.5%で最も高く、「わからない」では、「1人暮らし」が30.6%で最も高くなっています。

図表 3-12-16 人生の最期をどこで迎えたいか 家族構成別

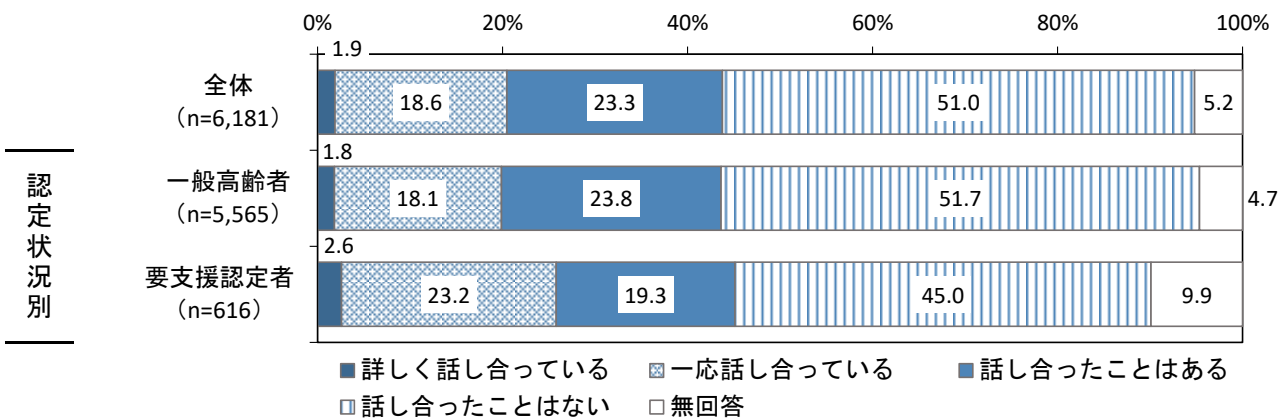


問 11 (4) 人生の最終段階における医療・療養について、あなた自身の希望を、家族等や医療介護関係者と話し合っていますか (〇はひとつ)

人生の最終段階における医療・療養について話し合っているかについては、「話し合ったことはない」が51.0%で最も高く、次いで「話し合ったことはある」が23.3%、「一応話し合っている」が18.6%と続いており、『話し合った』(「詳しく話し合っている」「一応話し合っている」「話し合ったことはある」の合計)は43.8%となっています。

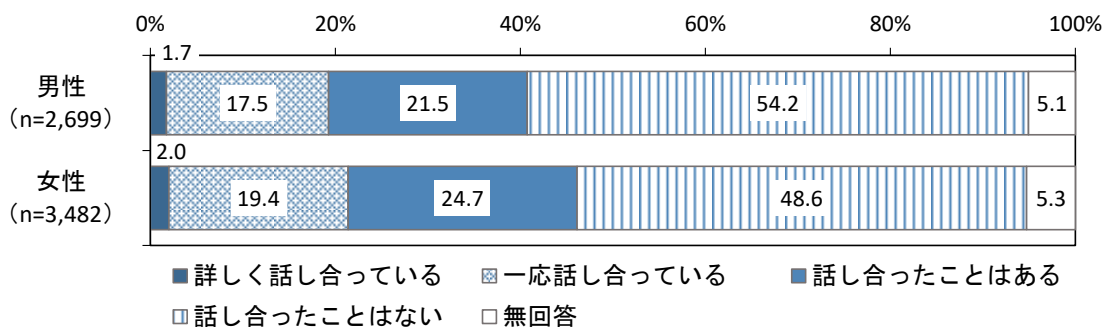
認定状況別でみると、『話し合った』では、一般高齢者が43.7%、要支援認定者が45.1%となっています。

図表 3-12-17 人生の最終段階における医療・療養について話し合っているか



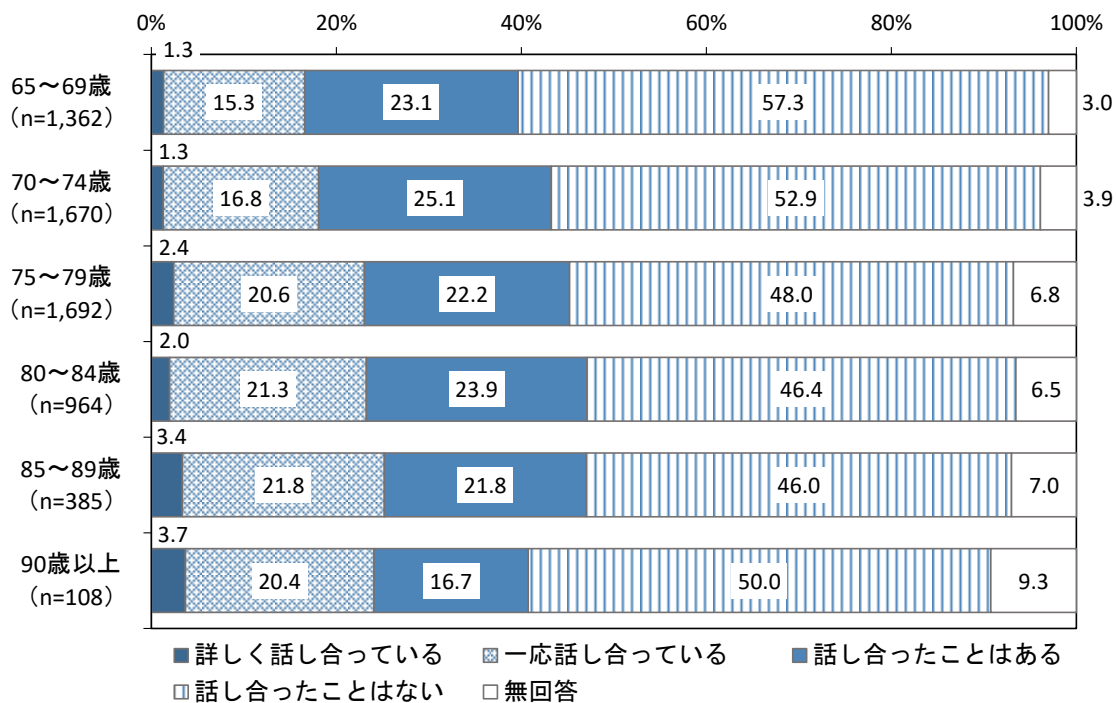
性別でみると、『話し合った』では、女性が46.1%で、男性(40.7%)よりも5.4ポイント高くなっています。

図表 3-12-18 人生の最終段階における医療・療養について話し合っているか 性別



年齢別でみると、『話し合った』では、80～84歳が47.2%で最も高く、「話し合ったことはない」では、65～69歳が57.3%で最も高くなっています。

図表 3-12-19 人生の最終段階における医療・療養について話し合っているか 年齢別

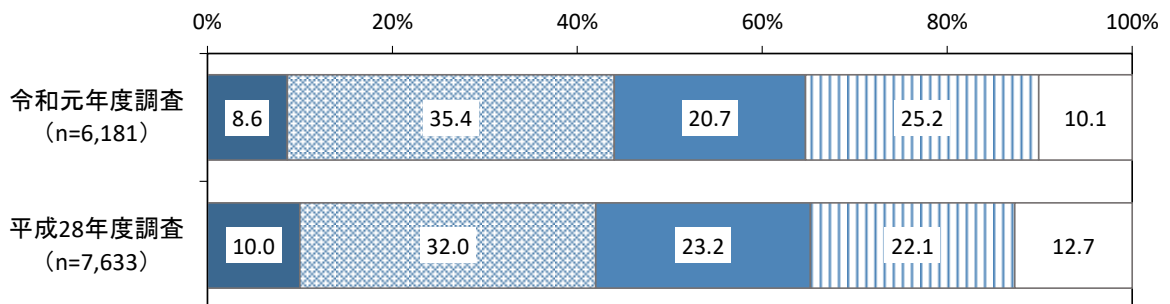


問 11 (5)	<p>現行の介護保険制度は、サービスを利用する人が増えたり、一人ひとりの利用するサービスの量が増えることによって介護保険料が上昇する仕組みとなっています。堺市の今後の介護保険料について、あなたのお考えに近いのは次のどれですか（〇はひとつ）</p>
----------	---

堺市の今後の介護保険料について近い考えはどれかについては、「介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない」が 35.4%で最も高く、次いで「わからない」が 25.2%、「現状以上に介護保険料が上昇するのは避けるべきであり、そのためには介護保険サービスが必要な人であっても、ある程度介護保険サービスの利用が制限されても仕方がない」が 20.7%と続いています。

平成 28 年度調査と比較すると、「介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない」(35.4%) では、平成 28 年度調査 (32.0%) よりも 3.4 ポイント高くなっています。

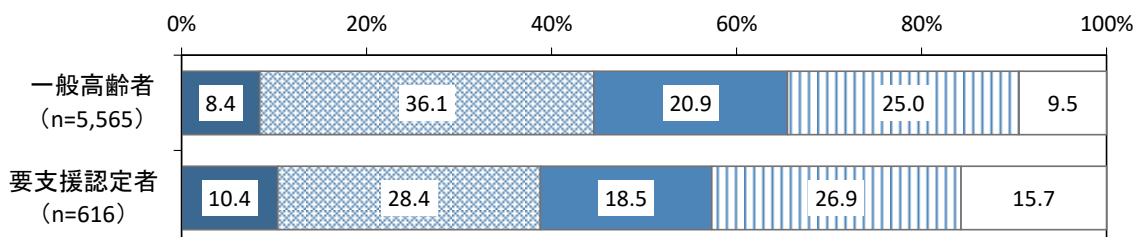
図表 3-12-20 堺市の今後の介護保険料について近い考えはどれか



- 高齢化が進み、介護保険サービスを利用する人や利用量は増えていこうから、介護保険料が上昇するのは仕方がない
- ▣ 介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない
- 現状以上に介護保険料が上昇するのは避けるべきであり、そのためには介護保険サービスが必要な人であっても、ある程度介護保険サービスの利用が制限されても仕方がない
- ▣ わからない
- 無回答

認定状況別でみると、「介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない」では、一般高齢者が 36.1%で、要支援認定者（28.4%）よりも 7.7 ポイント高くなっています。

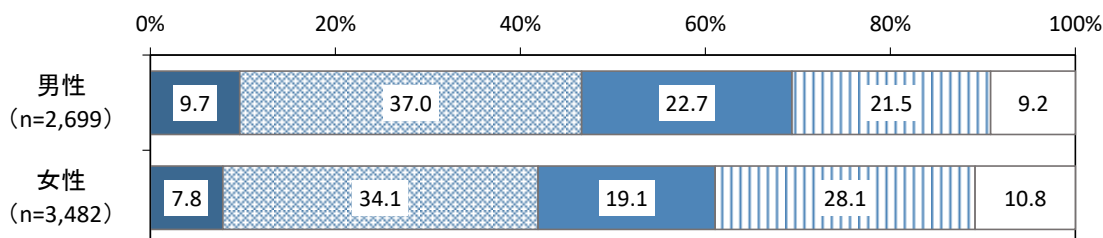
図表 3-12-21 堺市の今後の介護保険料について近い考えはどれか 認定状況別



- 高齡化が進み、介護保険サービスを利用する人や利用量は増えていこうから、介護保険料が上昇するのは仕方がない
- ▨ 介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない
- 現状以上に介護保険料が上昇するのは避けるべきであり、そのためには介護保険サービスが必要な人であっても、ある程度介護保険サービスの利用が制限されても仕方がない
- ▨ わからない
- 無回答

性別でみると、「わからない」では、女性が 28.1%で、男性（21.5%）よりも 6.6 ポイント高くなっています。

図表 3-12-22 堺市の今後の介護保険料について近い考えはどれか 性別

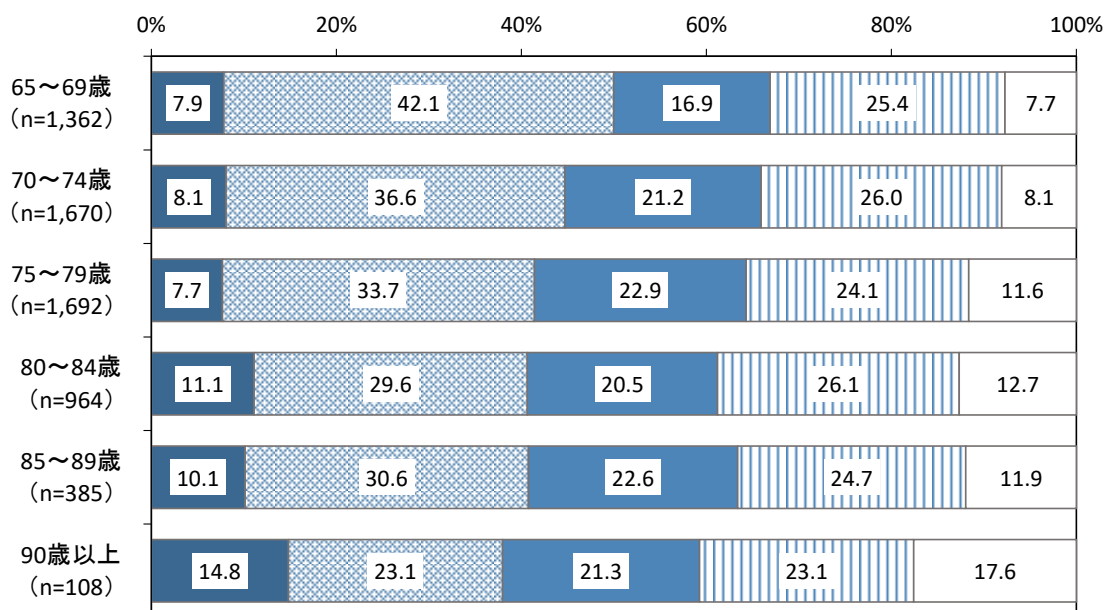


- 高齡化が進み、介護保険サービスを利用する人や利用量は増えていこうから、介護保険料が上昇するのは仕方がない
- ▨ 介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない
- 現状以上に介護保険料が上昇するのは避けるべきであり、そのためには介護保険サービスが必要な人であっても、ある程度介護保険サービスの利用が制限されても仕方がない
- ▨ わからない
- 無回答



年齢別でみると、89歳以下では「介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない」の割合が最も高く、90歳以上では「介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない」「わからない」の割合が同率で最も高くなっています。

図表 3-12-23 堺市の今後の介護保険料について近い考えはどれか 年齢別



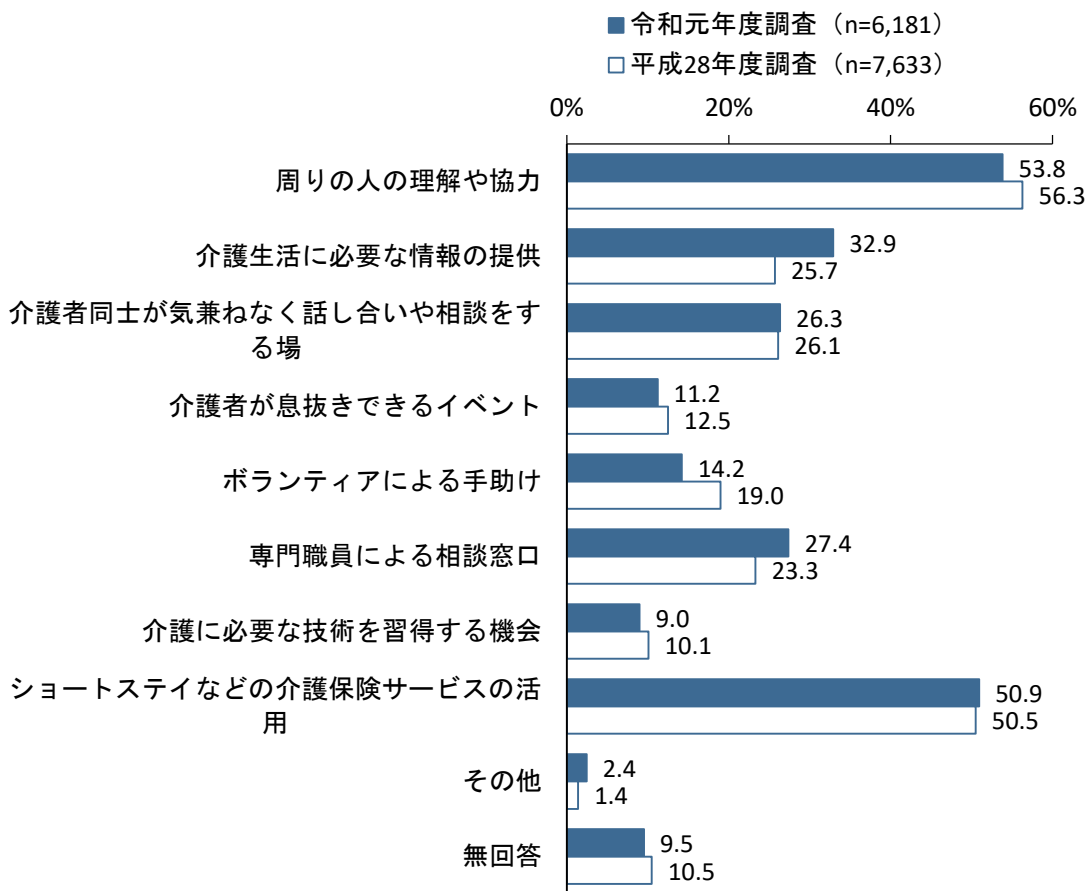
- 高齡化が進み、介護保険サービスを利用する人や利用量は増えていくだろうから、介護保険料が上昇するのは仕方がない
- ▣ 介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない
- 現状以上に介護保険料が上昇するのは避けるべきであり、そのためには介護保険サービスが必要な人であっても、ある程度介護保険サービスの利用が制限されても仕方がない
- わからない
- 無回答

問 11 (6)	家族を介護する人の介護疲れやストレスのケアをするためには、何が必要だと思いますか (〇は3つまで)
----------	---

介護する人の介護疲れやストレスケアのためには何が必要かについては、「周りの人の理解や協力」が53.8%で最も高く、次いで「ショートステイなどの介護保険サービスの活用」が50.9%、「介護生活に必要な情報の提供」が32.9%と続いています。

平成28年度調査と比較すると、「介護生活に必要な情報の提供」(32.9%)では、平成28年度調査(25.7%)よりも7.2ポイント高く、最も増加した項目となっています。

図表 3-12-24 介護する人の介護疲れやストレスケアのためには何が必要か



認定状況別でみると、一般高齢者・要支援認定者いずれも「周りの人の理解や協力」（一般高齢者 54.4%、要支援認定者 49.2%）の割合が最も高くなっています。

性別でみると、男性では「周りの人の理解や協力」が 53.2% で最も高く、女性では「ショートステイなどの介護保険サービスの活用」が 57.0% で最も高くなっています。

年齢別でみると、74歳以下では「ショートステイなどの介護保険サービスの活用」の割合が最も高く、75歳以上では「周りの人の理解や協力」の割合が最も高くなっています。

区域別でみると、「専門職員による相談窓口」では、北区が 30.5% で最も高く、「介護者同士が気兼ねなく話し合いや相談をする場」では、中区が 28.5% で最も高くなっています。

図表 3-12-25 介護する人の介護疲れやストレスケアのためには何が必要か 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	周りの人の理解や協力	介護生活に必要な情報の提供	介護者同士が気兼ねなく話し合いや相談をする場	介護者が息抜きできるイベント	ボランティアによる手助け	専門職員による相談窓口	介護に必要な技術を習得する機会	ショートステイなどの介護保険サービスの活用	その他	無回答
全体		6,181	53.8	32.9	26.3	11.2	14.2	27.4	9.0	50.9	2.4	9.5
別認定	一般高齢者	5,565	54.4	33.5	26.4	11.4	14.3	27.8	9.3	52.0	2.4	8.7
	要支援認定者	616	49.2	27.6	25.8	9.3	13.5	23.7	6.7	41.1	2.4	16.7
性別	男性	2,699	53.2	35.4	24.5	11.6	14.9	29.2	10.6	43.1	2.9	9.2
	女性	3,482	54.3	31.0	27.8	11.0	13.7	26.0	7.7	57.0	2.1	9.8
年齢別	65～69歳	1,362	56.2	34.4	25.7	12.8	15.3	27.2	9.3	60.5	2.6	5.4
	70～74歳	1,670	55.1	35.4	26.0	12.0	14.1	28.1	9.6	56.0	2.3	7.2
	75～79歳	1,692	52.3	32.6	27.4	9.6	13.7	28.3	9.8	48.0	2.6	11.2
	80～84歳	964	52.5	29.0	27.9	11.7	14.1	25.5	7.1	40.0	2.3	13.3
	85～89歳	385	51.7	29.9	23.4	9.1	13.8	28.6	8.1	40.5	1.6	14.0
	90歳以上	108	48.1	25.9	19.4	6.5	13.9	17.6	3.7	31.5	3.7	23.1
区域別	堺区	883	53.3	28.8	26.2	9.3	14.0	26.5	9.4	49.3	3.5	11.9
	中区	840	56.1	34.9	28.5	12.3	14.0	26.2	9.2	48.8	1.7	9.2
	東区	876	54.6	33.6	24.7	12.1	13.5	26.5	7.9	51.5	2.6	9.2
	西区	891	51.3	32.4	25.4	10.9	16.4	25.1	9.0	49.8	2.8	11.4
	南区	929	52.3	33.6	26.0	10.5	13.1	30.1	9.3	53.3	2.6	9.4
	北区	903	54.2	34.9	27.0	11.0	14.2	30.5	10.3	50.1	2.1	7.8
	美原区	859	55.4	32.2	26.8	12.7	14.3	26.5	7.9	53.7	1.7	7.8

※網掛け■は最も割合が高いもの

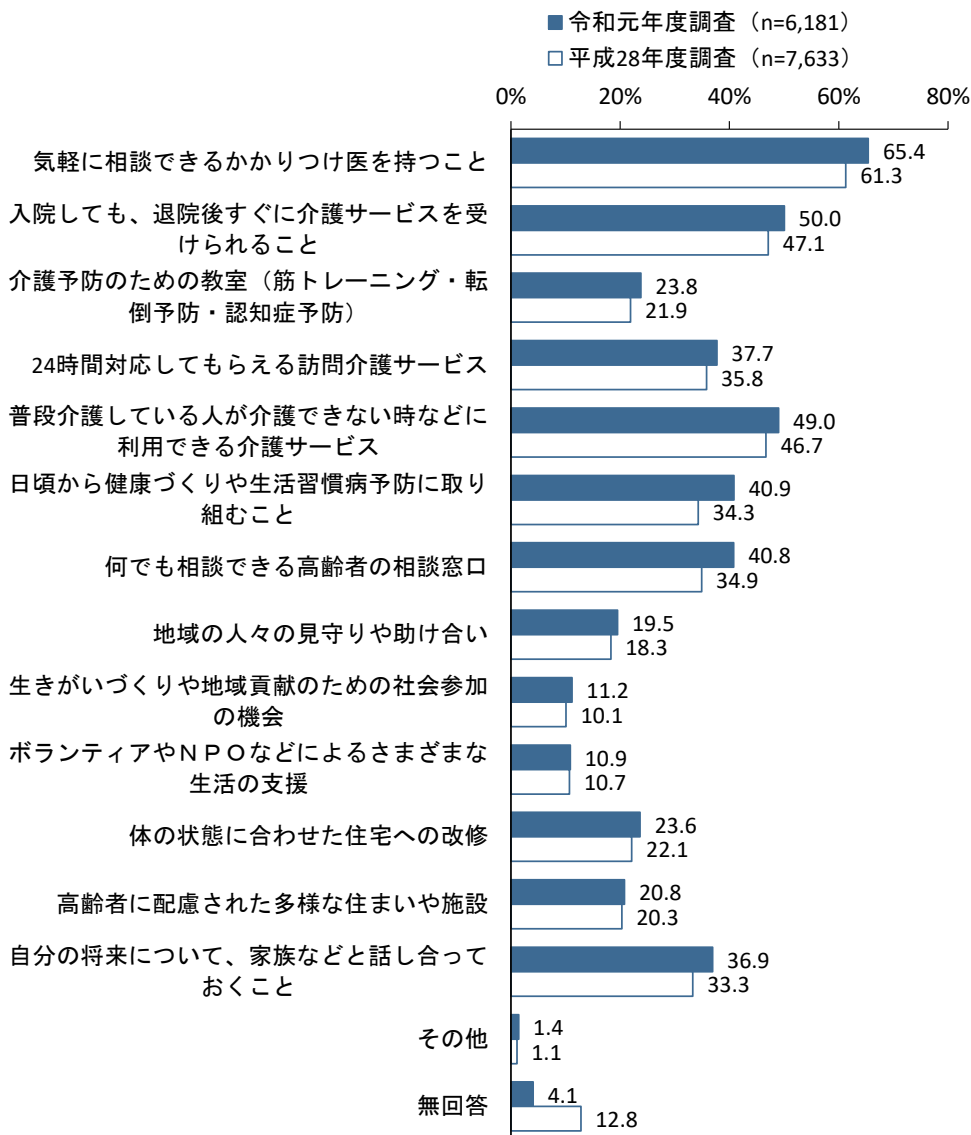
### 13. 住み慣れた地域で暮らし続けることについて

問 12 (1)	高齢者ができる限り自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、どのようなことが必要だと思いますか（〇はいくつでも）
----------	--

住み慣れた地域で暮らし続けるためにどのようなことが必要かについては、「気軽に相談できるかかりつけ医を持つこと」が65.4%で最も高く、次いで「入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること」が50.0%、「普段介護している人が介護できない時などに利用できる介護サービス」が49.0%と続いています。

平成 28 年度調査と比較すると、「日頃から健康づくりや生活習慣病予防に取り組むこと」（40.9%）では、平成 28 年度調査（34.3%）より 6.6 ポイント高く、最も増加した項目となっています。

図表 3-13-1 住み慣れた地域で暮らし続けるためにどのようなことが必要か



認定状況別でみると、一般高齢者・要支援認定者いずれも「気軽に相談できるかかりつけ医を持つこと」（一般高齢者 65.2%、要支援認定者 67.5%）の割合が最も高く、一般高齢者では次いで「普段介護している人が介護できない時などに利用できる介護サービス」（50.0%）の割合が高く、要支援認定者では次いで「入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること」（54.5%）の割合が高くなっています。

性別でみると、男性・女性いずれも「気軽に相談できるかかりつけ医を持つこと」（男性 63.6%、女性 66.8%）の割合が最も高く、次いで「入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること」（男性 45.6%、女性 53.5%）の割合が最も高くなっています。

年齢別でみると、すべての年齢で「気軽に相談できるかかりつけ医を持つこと」の割合が最も高く、74歳以下では次いで「普段介護している人が介護できない時などに利用できる介護サービス」の割合が高く、75歳以上では次いで「入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること」の割合が高くなっています。

区域別でみると、「何でも相談できる高齢者の相談窓口」では、堺区が 43.3%で最も高く、「地域の人々の見守りや助け合い」では、堺区が 21.5%で最も高くなっています。

図表 3-13-2 住み慣れた地域で暮らし続けるためにどのようなことが必要か 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	軽気持に相談できるかかりつけ医を持つこと	入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること	介護予防のための教室（筋トレ・転倒予防・認知症予防）	24時間対応してもらえる訪問介護サービス	普段介護している人が介護できない時などに利用できる介護サービス	習慣病予防に取り組むことや生活	相談窓口	地域の人の見守りや助け合い	生きがいをづくりや地域参加の機会	ボランティアやNPOなどによるさまざまな生活の支援
全体		6,181	65.4	50.0	23.8	37.7	49.0	40.9	40.8	19.5	11.2	10.9
別	一般高齢者	5,565	65.2	49.5	23.6	38.0	50.0	41.7	40.4	19.3	11.5	10.8
	要支援認定者	616	67.5	54.5	25.5	35.2	40.3	33.6	44.6	21.1	8.0	11.2
性別	男性	2,699	63.6	45.6	21.9	38.2	44.8	41.1	39.2	18.3	10.8	10.5
	女性	3,482	66.8	53.5	25.2	37.3	52.3	40.6	42.0	20.4	11.5	11.1
年齢別	65～69歳	1,362	57.9	48.8	26.6	42.3	56.9	42.6	40.4	19.9	13.8	13.8
	70～74歳	1,670	64.7	49.6	25.0	40.1	50.6	43.1	38.6	19.1	13.2	11.5
	75～79歳	1,692	67.8	51.2	23.2	36.0	49.2	41.2	41.4	20.2	10.2	10.0
	80～84歳	964	71.2	52.0	22.0	32.1	42.5	37.9	42.6	19.3	8.4	9.5
	85～89歳	385	70.1	47.3	19.7	33.8	33.5	34.5	45.7	17.1	6.0	6.5
	90歳以上	108	65.7	46.3	11.1	34.3	34.3	27.8	35.2	21.3	5.6	4.6
区域別	堺区	883	65.3	51.0	24.7	36.1	43.1	39.4	43.3	21.5	10.1	13.0
	中区	840	67.6	51.5	23.1	35.4	50.8	43.2	39.6	19.2	11.9	9.5
	東区	876	65.8	51.7	22.4	37.4	47.6	40.2	42.2	19.3	9.8	9.7
	西区	891	66.8	46.8	24.8	37.3	50.8	41.3	40.2	20.0	12.7	9.9
	南区	929	65.3	47.9	25.5	40.7	50.2	43.4	41.4	18.6	11.0	11.5
	北区	903	65.8	51.1	23.5	38.3	48.3	39.3	42.2	18.3	11.4	11.6
	美原区	859	61.4	50.5	22.5	38.5	52.3	39.1	36.3	19.8	11.3	10.6
		合計	体の状態に合わせた住宅への改修	高齢者に配慮された多様な住まいや施設	自分の将来について、家族などと話し合っておくこと	その他	無回答					
全体		6,181	23.6	20.8	36.9	1.4	4.1					
別	一般高齢者	5,565	24.1	20.9	37.3	1.3	3.7					
	要支援認定者	616	19.3	20.0	33.6	2.1	7.8					
性別	男性	2,699	21.9	19.8	33.5	1.8	3.8					
	女性	3,482	25.0	21.6	39.6	1.1	4.3					
年齢別	65～69歳	1,362	28.0	25.6	34.2	1.5	2.6					
	70～74歳	1,670	25.7	22.0	36.9	1.1	3.1					
	75～79歳	1,692	22.9	19.3	38.6	1.7	4.5					
	80～84歳	964	18.7	17.1	39.3	1.1	5.4					
	85～89歳	385	17.9	16.4	35.8	2.1	6.5					
	90歳以上	108	12.0	13.9	26.9	0.9	10.2					
区域別	堺区	883	22.1	21.3	35.7	1.7	4.5					
	中区	840	27.0	19.2	36.5	1.5	3.3					
	東区	876	21.1	18.2	37.7	1.5	4.2					
	西区	891	23.1	20.2	36.1	1.7	3.7					
	南区	929	23.1	24.8	37.9	1.5	3.9					
	北区	903	23.9	23.6	34.7	0.7	4.7					
	美原区	859	25.3	17.9	39.8	1.4	4.2					

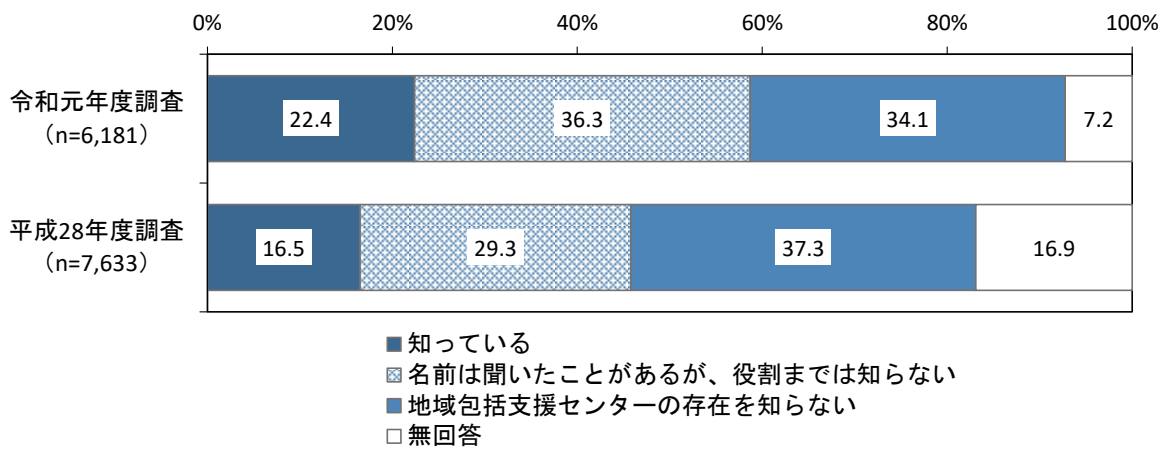
※網掛け■は最も割合が高いもの

問 12 (2)	地域包括支援センターは、高齢者の方々が住みなれた地域で安心して暮らしていけるよう、介護・福祉・健康などさまざまな面から総合的に相談や支援を行う機関です。地域包括支援センターの役割を知っていますか (〇はひとつ)
----------	---

地域包括支援センターの役割を知っているかについては、「名前は聞いたことがあるが、役割までは知らない」が 36.3%で最も高く、次いで「地域包括支援センターの存在を知らない」が 34.1%、「知っている」が 22.4%となっています。

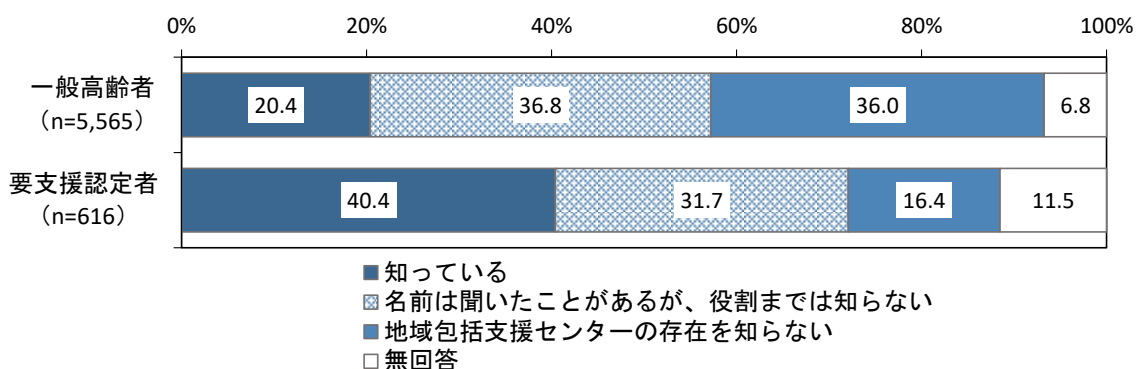
平成 28 年度調査と比較すると、「知っている」(22.4%)では、平成 28 年度調査(16.5%)よりも 5.9 ポイント高くなっています。

図表 3-13-3 地域包括支援センターの役割を知っているか



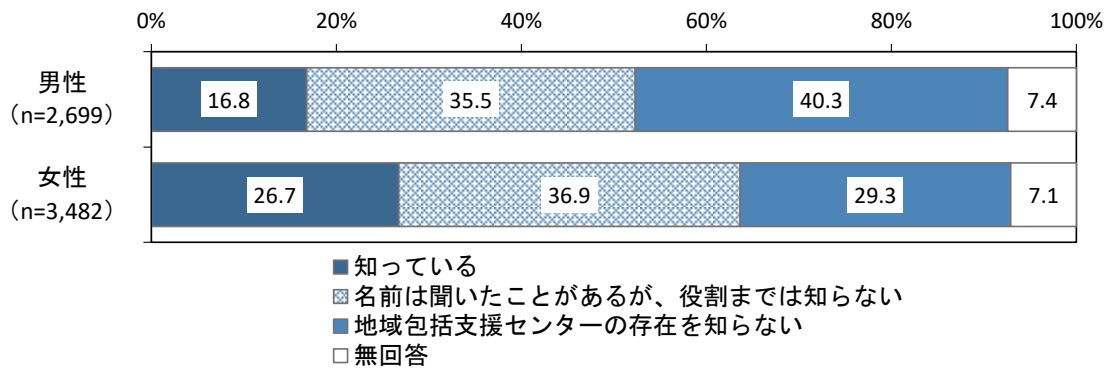
認定状況別で見ると、「知っている」では、一般高齢者が 20.4%、要支援認定者が 40.4%となっています。

図表 3-13-4 地域包括支援センターの役割を知っているか 認定状況別



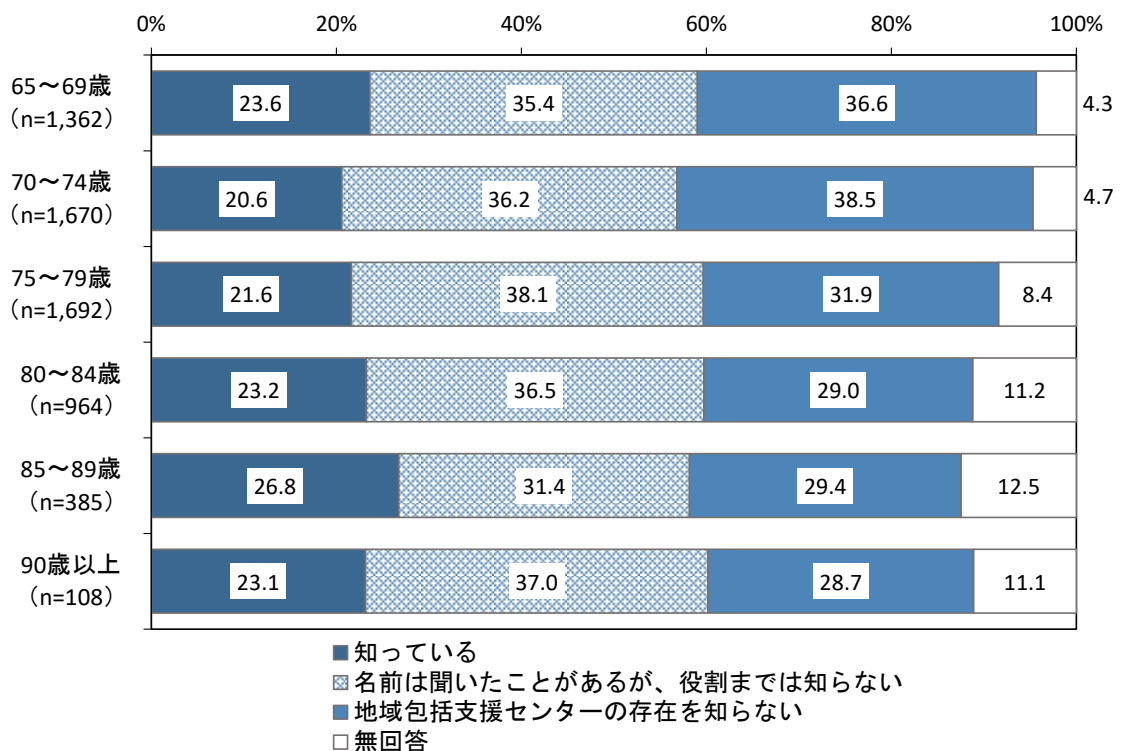
性別でみると、「知っている」では、女性が26.7%で、男性（16.8%）よりも9.9ポイント高くなっています。

図表 3-13-5 地域包括支援センターの役割を知っているか 性別



年齢別でみると、「知っている」では、85～89歳が26.8%で最も高く、「地域包括支援センターの存在を知らない」では、70～74歳が38.5%で最も高くなっています。

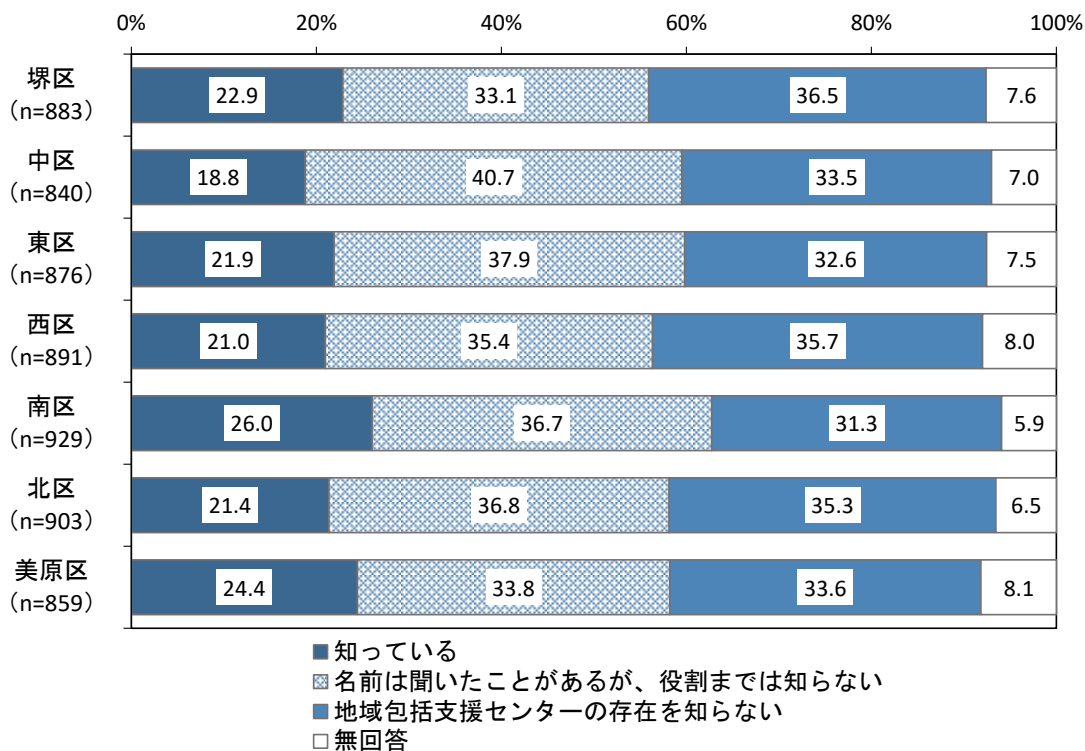
図表 3-13-6 地域包括支援センターの役割を知っているか 年齢別





区域別でみると、「知っている」では、南区が26.0%で最も高く、「地域包括支援センターの存在を知らない」では、堺区が36.5%で最も高くなっています。

図表 3-13-7 地域包括支援センターの役割を知っているか 区域別



## 14. リスク判定

一般高齢者・要支援認定者調査では、地域の課題や必要なサービス等を把握するため、調査項目を使用し、各リスクの判定をしています。

### (1) 運動器機能の低下

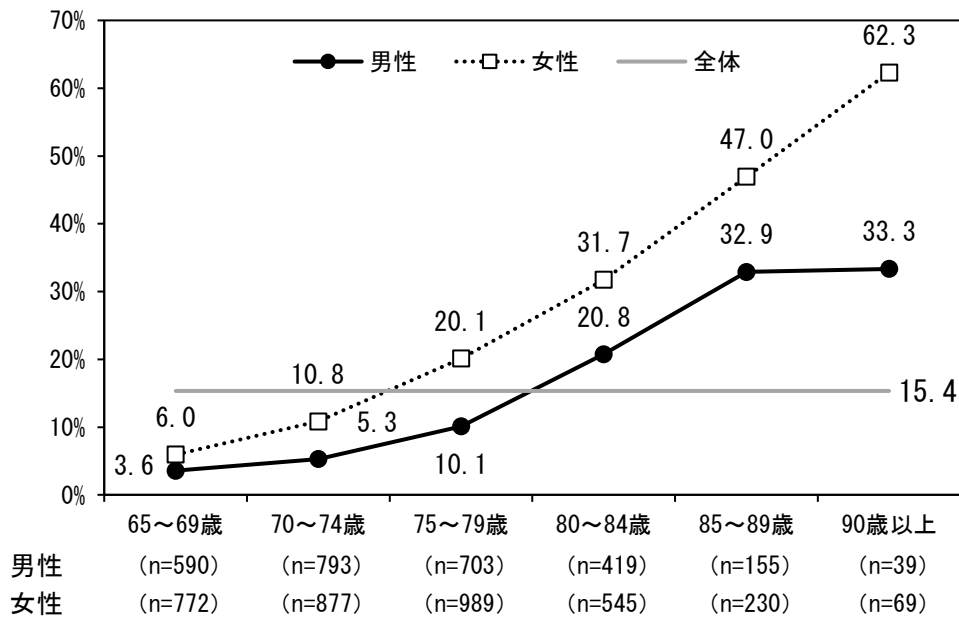
図表 3-14-1 運動器機能の低下 判定方法

判定方法		
下記の5設問について、3問以上該当する選択肢が回答された場合、運動器機能の低下している高齢者として判定しました。		
設問番号	設問	該当する選択肢
問3(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」
問3(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」
問3(3)	15分位続けて歩いていますか	「3. できない」
問3(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 「2. 1度ある」
問3(5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 「2. やや不安である」

運動器機能の低下している高齢者の割合は、全体で15.4%となっています。

性別・年齢別で見ると、すべての年齢で女性の割合が男性より高く、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上（男性33.3%、女性62.3%）の割合が最も高くなっています。

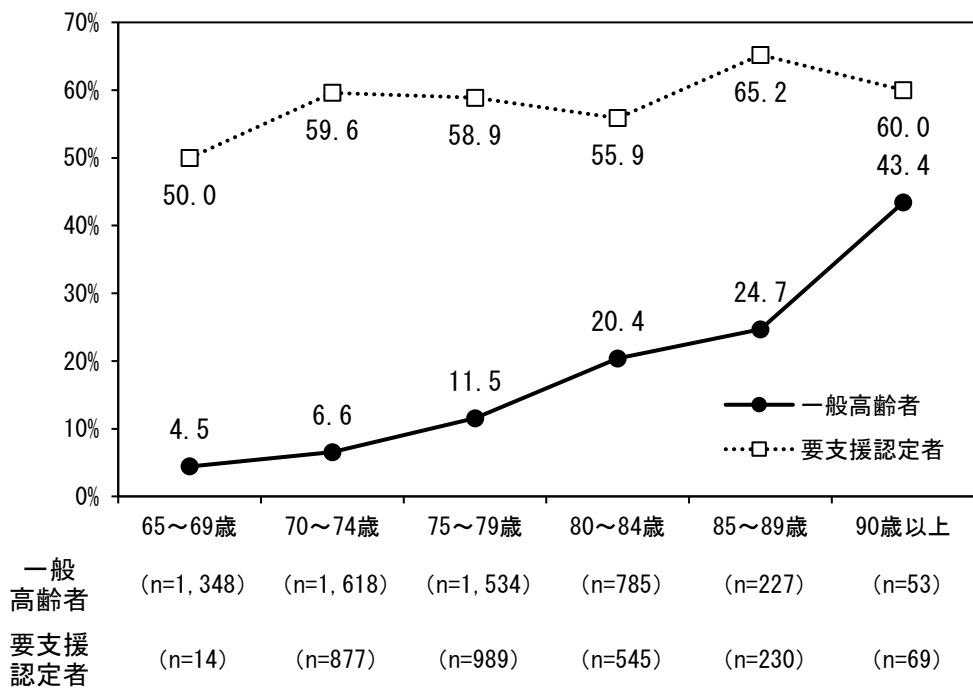
図表 3-14-2 運動器機能の低下 性別・年齢別



認定状況別・年齢別で見ると、一般高齢者では年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、特に85~89歳（24.7%）から90歳以上（43.4%）で18.7ポイント高くなっています。

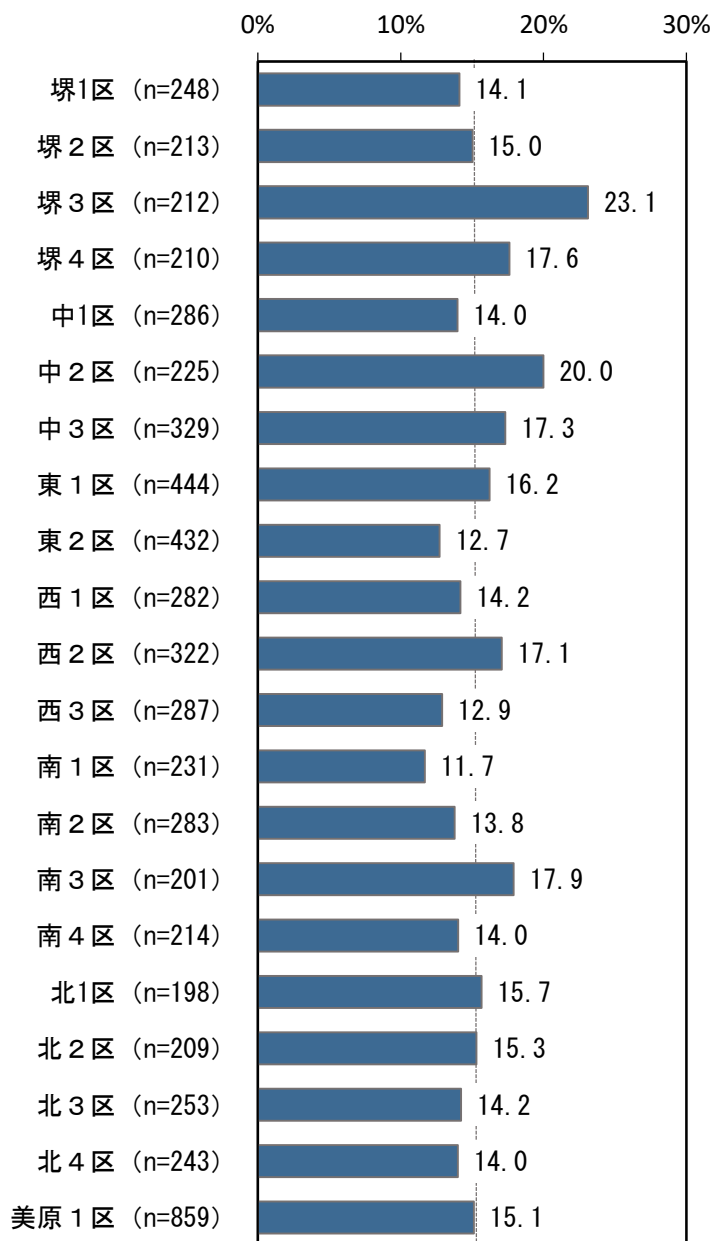
要支援認定者ではすべての年齢で5割以上となっており、85~89歳が65.2%で最も高くなっています。

図表 3-14-3 運動器機能の低下 認定状況別・年齢別



圏域別にみると、「堺3区」が23.1%で最も高く、次いで「中2区」が20.0%、「南3区」が17.9%と続いています。

図表 3-14-4 運動器機能の低下 圏域別



## (2) 転倒リスク

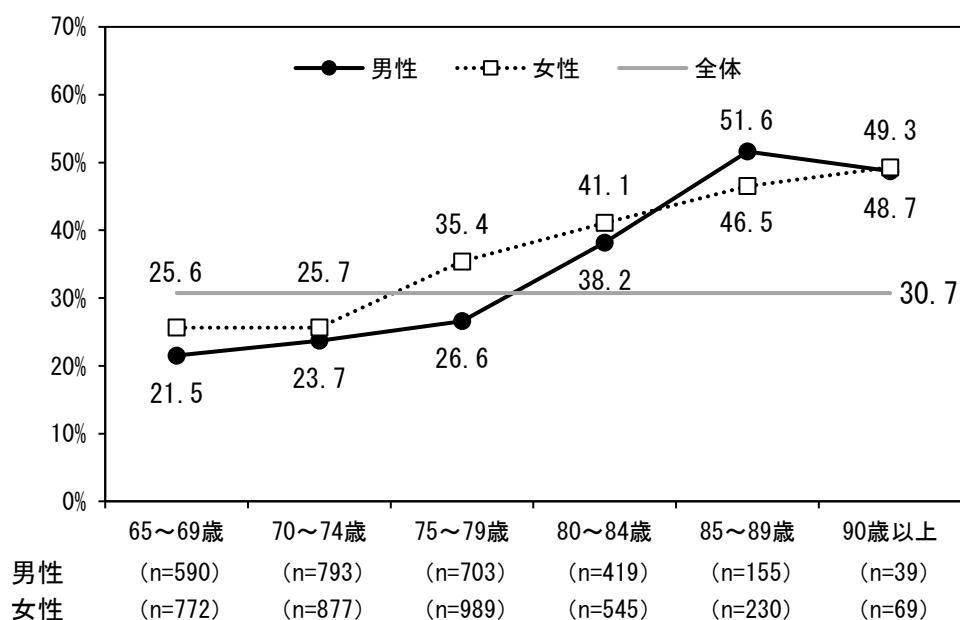
図表 3-14-5 転倒リスク 判定方法

判定方法		
下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、転倒リスクのある高齢者として判定しました。		
設問番号	設問	該当する選択肢
問3(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 「2. 1度ある」

転倒リスクのある高齢者の割合は、全体で30.7%となっています。

性別・年齢別でみると、85～89歳以外の年齢で女性の割合が男性よりも高くなっており、男性では89歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、85～89歳が51.6%で最も高く、女性では年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が49.3%で最も高くなっていきます。

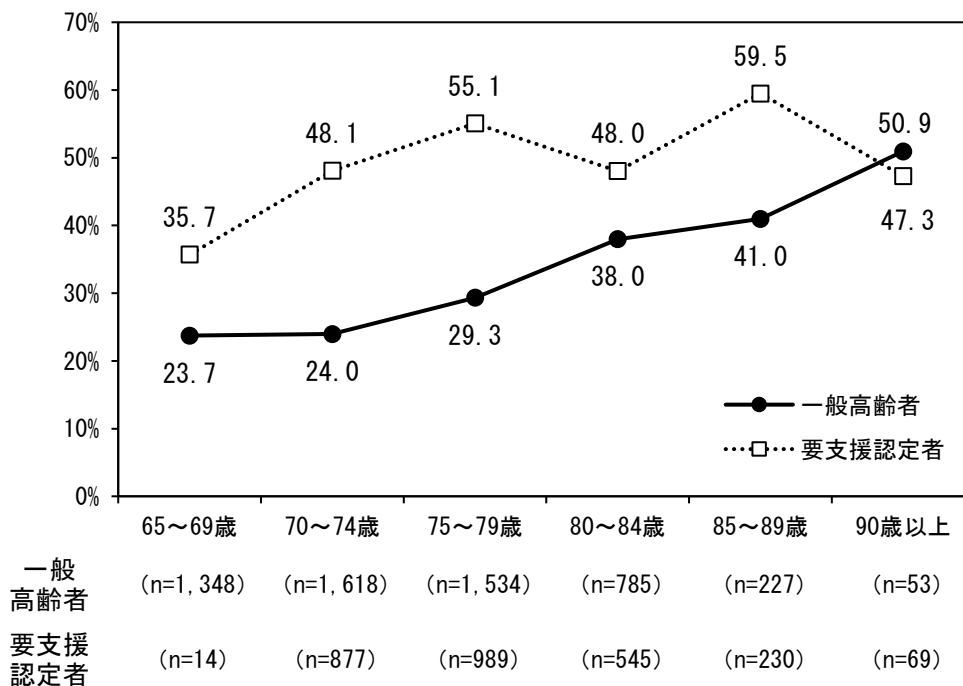
図表 3-14-6 転倒リスク 性別・年齢別



認定状況別・年齢別で見ると、一般高齢者では年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、特に85～89歳（41.0%）から90歳以上（50.9%）で9.9ポイント高くなっています。

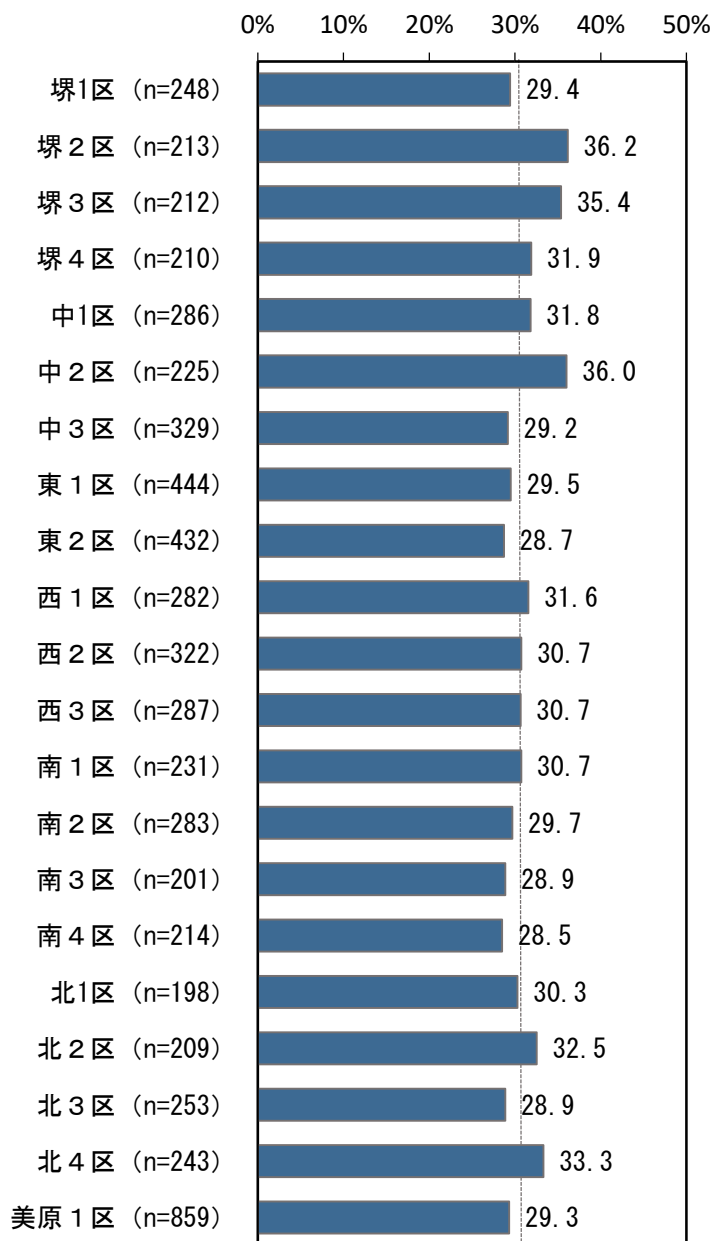
要支援認定者では、79歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、85～89歳が59.5%で最も高くなっています。

図表 3-14-7 転倒リスク 認定状況別・年齢別



圏域別にみると、「堺2区」が36.2%で最も高く、次いで「中2区」が36.0%、「堺3区」が35.4%と続いています。

図表 3-14-8 転倒リスク 圏域別



### (3) 閉じこもり傾向

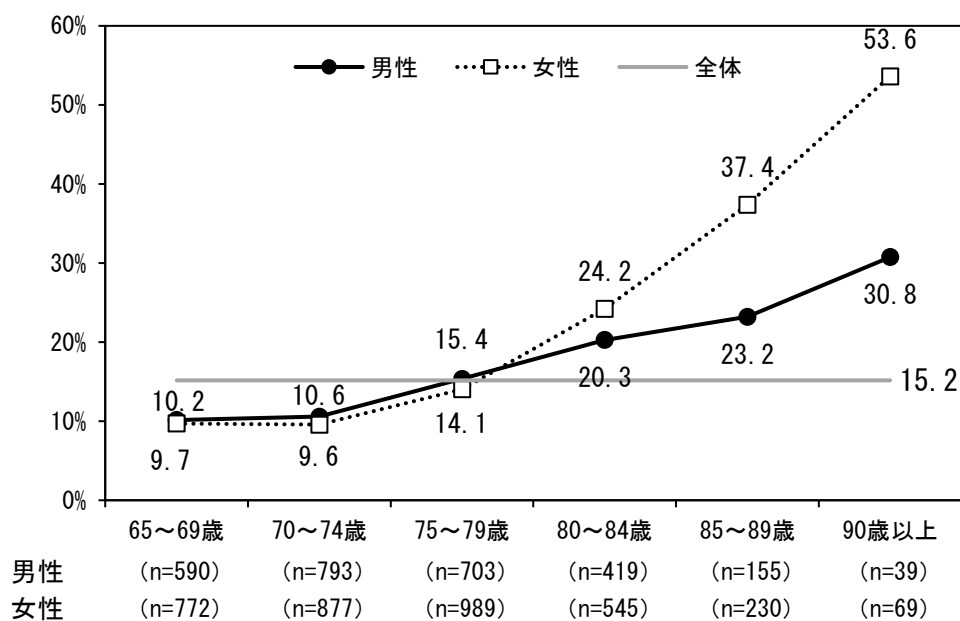
図表 3-14-9 閉じこもり傾向 判定方法

判定方法		
下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、閉じこもり傾向の高齢者として判定しました。		
設問番号	設問	該当する選択肢
問3(6)	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」 「2. 週1回」

閉じこもり傾向の高齢者の割合は、全体で15.2%となっています。

性別・年齢別で見ると、79歳以下では男性の割合が女性より高く、80歳以上では女性の割合が男性よりも高くなっており、90歳以上では、女性が53.6%で、男性(30.8%)よりも22.8ポイント高く、最も差が大きい年齢となっています。

図表 3-14-10 閉じこもり傾向 性別・年齢別

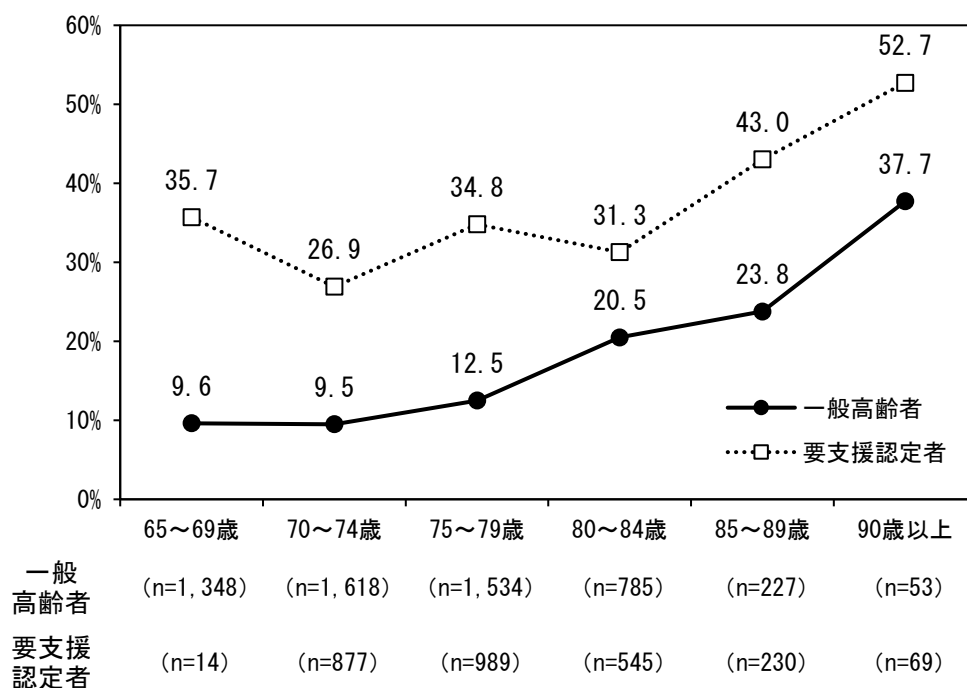




認定状況別・年齢別で見ると、一般高齢者では70歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、特に85～89歳（23.8%）から90歳以上（37.7%）で13.9ポイント高くなっています。

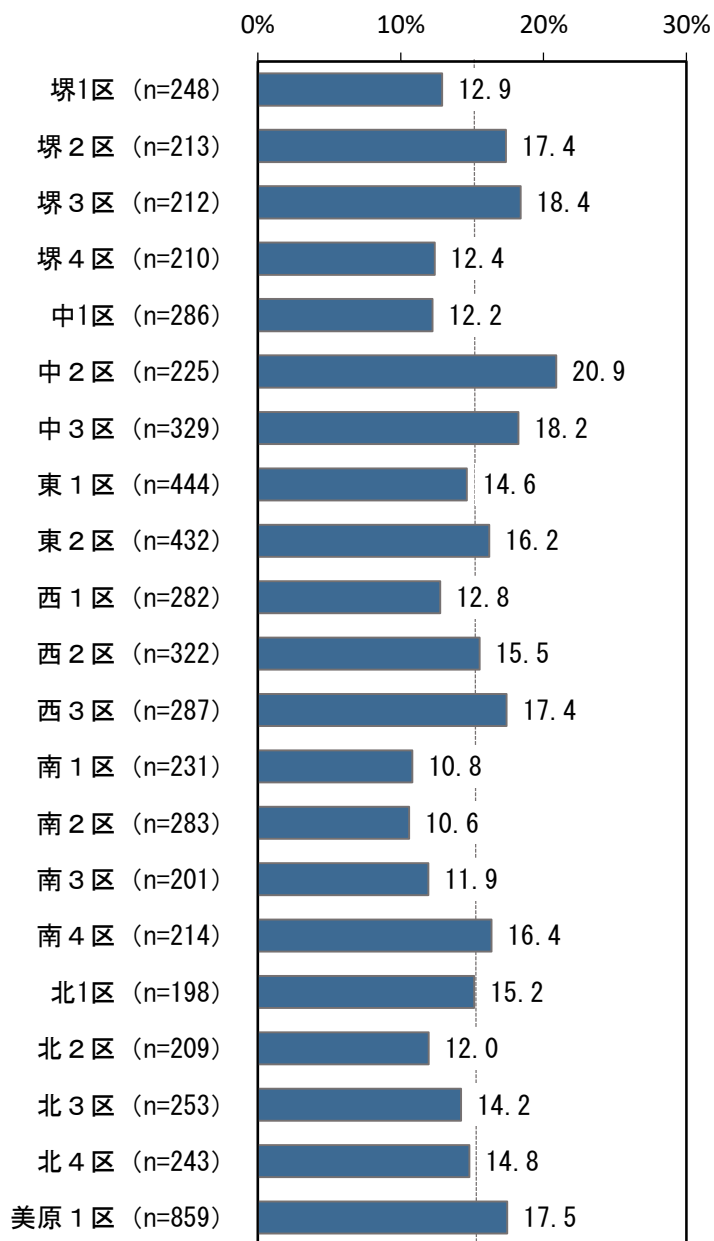
要支援認定者では、80歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が52.7%で最も高くなっています。

図表 3-14-11 閉じこもり傾向 認定状況別・年齢別



圏域別にみると、「中2区」が20.9%で最も高く、次いで「堺3区」が18.4%、「中3区」が18.2%と続いています。

図表 3-14-12 閉じこもり傾向 圏域別



#### (4) 低栄養の傾向

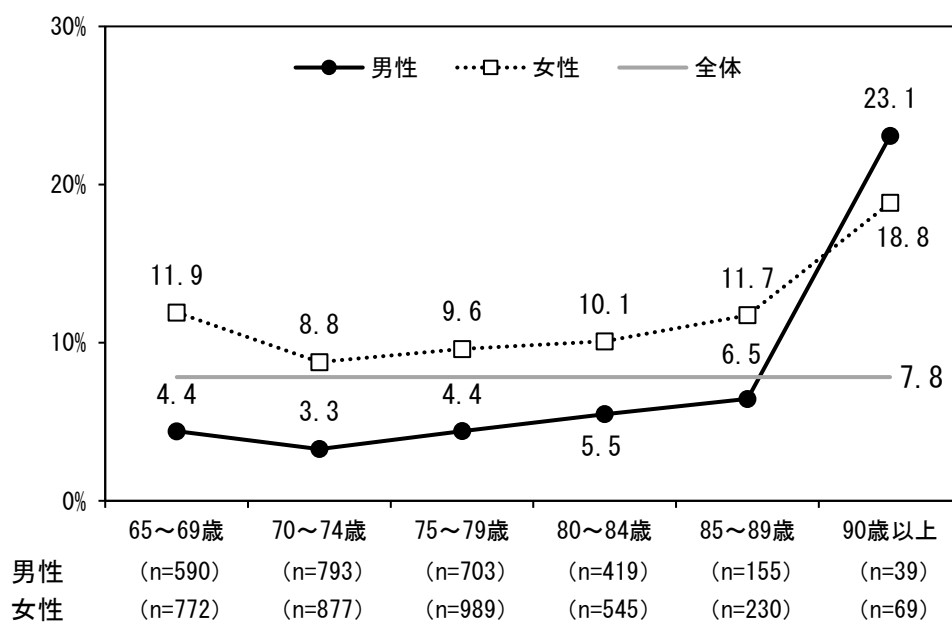
図表 3-14-13 低栄養の傾向 判定方法

判定方法		
下記の設問について、該当する場合、低栄養が疑われる高齢者として判定しました。		
設問番号	設問	該当する選択肢
問4(1)	身長・体重	身長・体重から算出されるBMI (体重 (kg) ÷ {身長 (m) × 身長 (m)}) が 18.5 以下

低栄養が疑われる高齢者の割合は、全体で 7.8% となっています。

性別・年齢別で見ると、男性・女性いずれも 70 歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90 歳以上（男性 23.1%、女性 18.8%）の割合が最も高く、89 歳以下で女性の割合が男性よりも高くなっています。

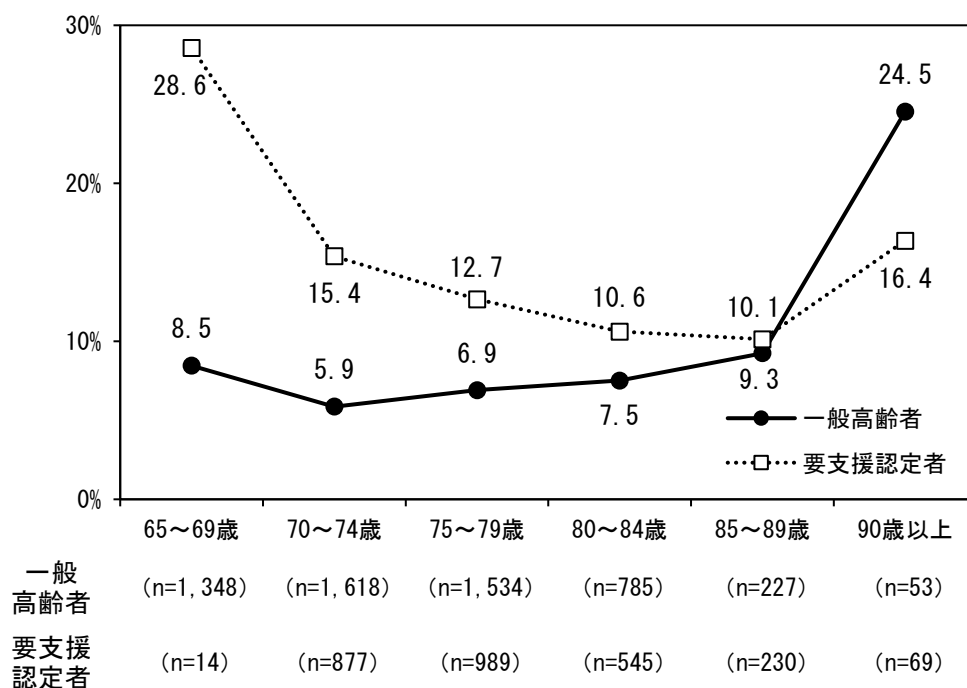
図表 3-14-14 低栄養の傾向 性別・年齢別



認定状況別・年齢別で見ると、一般高齢者では70歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、特に85～89歳（9.3%）から90歳以上（24.5%）で15.2ポイント高くなっています。

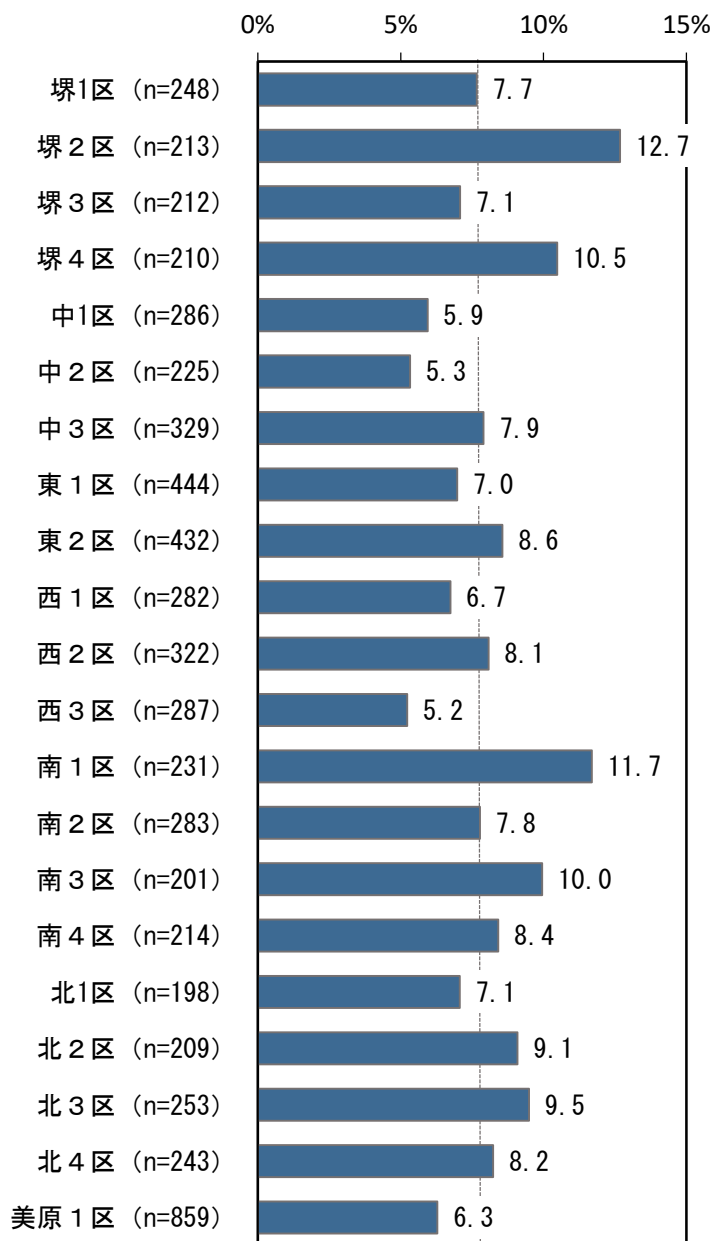
要支援認定者では、89歳以下で年齢が上がるにつれて割合が低くなっており、65～69歳が28.6で最も高くなっています。

図表 3-14-15 低栄養の傾向 認定状況別・年齢別



圏域別にみると、「堺2区」が12.7%で最も高く、次いで「南1区」が11.7%、「堺4区」が10.5%と続いています。

図表 3-14-16 低栄養の傾向 圏域別



## (5) 咀嚼機能の低下

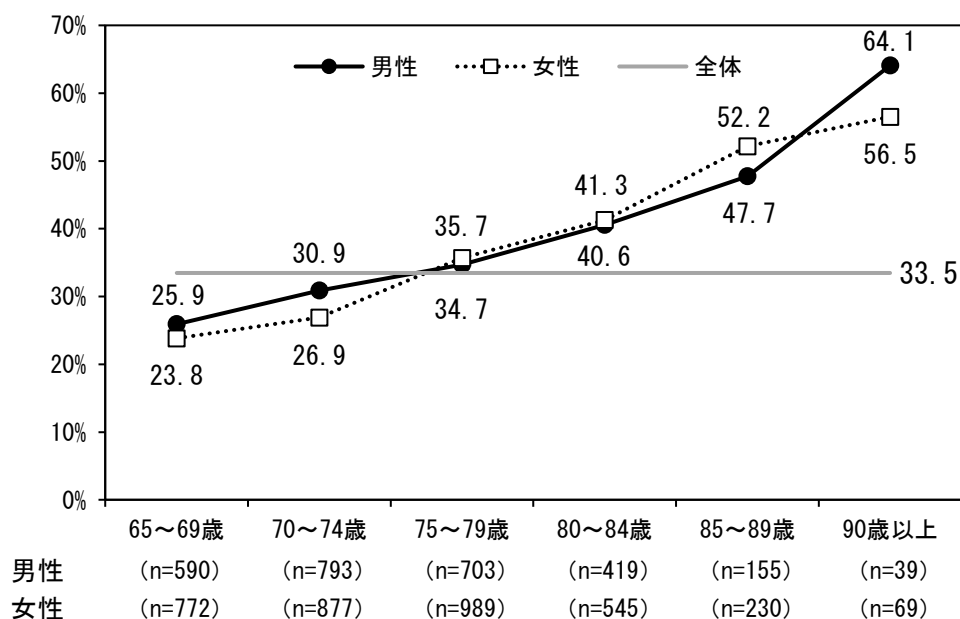
図表 3-14-17 咀嚼機能の低下 判定方法

判定方法		
下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者として判定しました。		
設問番号	設問	該当する選択肢
問 4 (2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」

咀嚼機能の低下が疑われる高齢者の割合は、全体で 33.5% となっています。

性別・年齢別で見ると、男性・女性いずれも年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上（男性 64.1%、女性 56.5%）の割合が最も高くなっています。

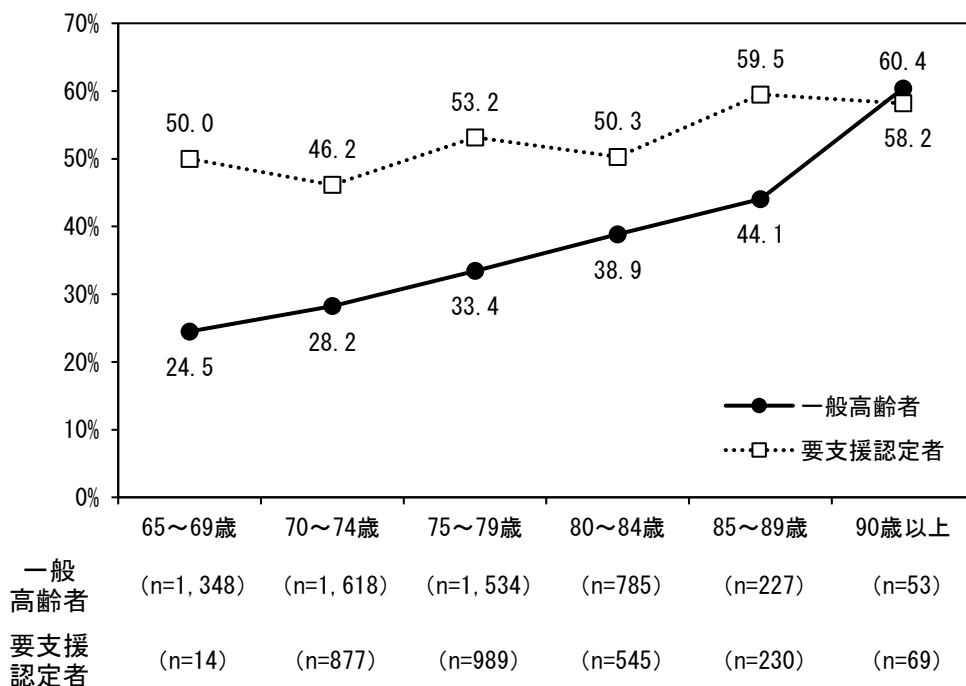
図表 3-14-18 咀嚼機能の低下 性別・年齢別



認定状況別・年齢別で見ると、一般高齢者では年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が60.4%で最も高く、特に85～89歳（44.1%）から90歳以上（60.4%）で16.3ポイント高くなっています。

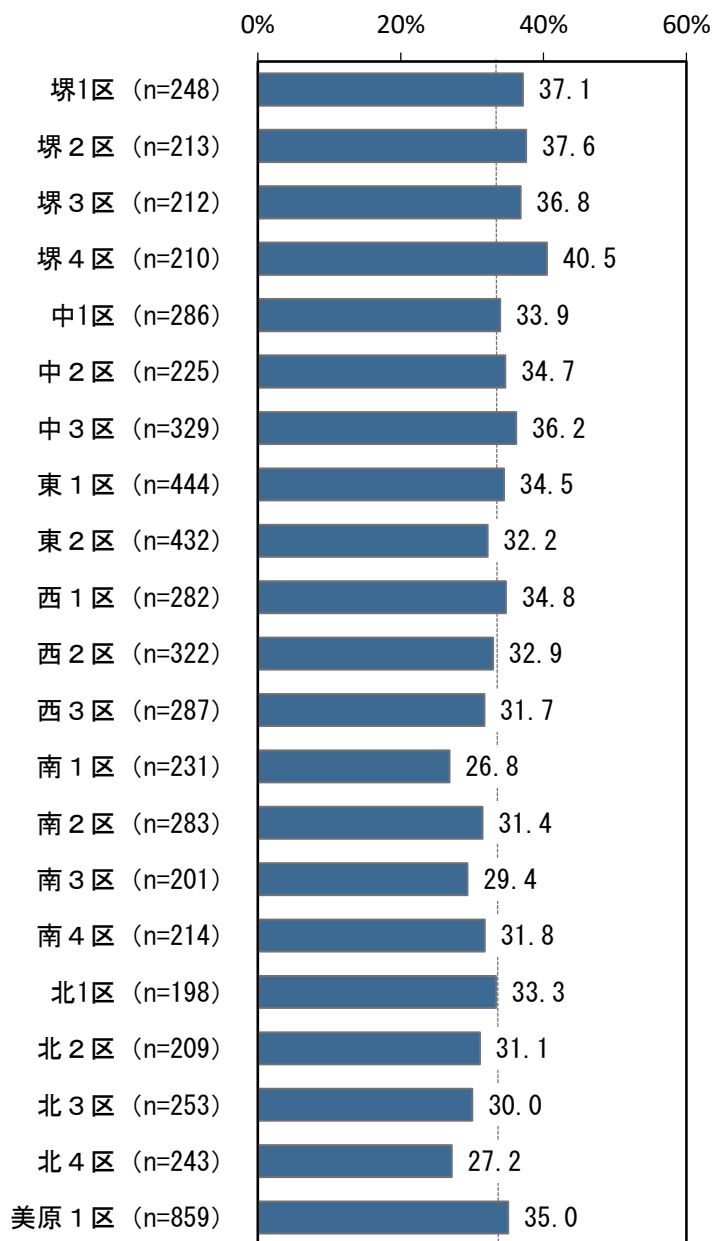
要支援認定者では、すべての年齢で4～5割台となっており、85～89歳が59.5%で最も高くなっています。

図表 3-14-19 咀嚼機能の低下 認定状況別・年齢別



圏域別にみると、「堺4区」が40.5%で最も高く、次いで「堺2区」が37.6%、「堺1区」が37.1%と続いています。

図表 3-14-20 咀嚼機能の低下 圏域別





## (6) 認知機能の低下

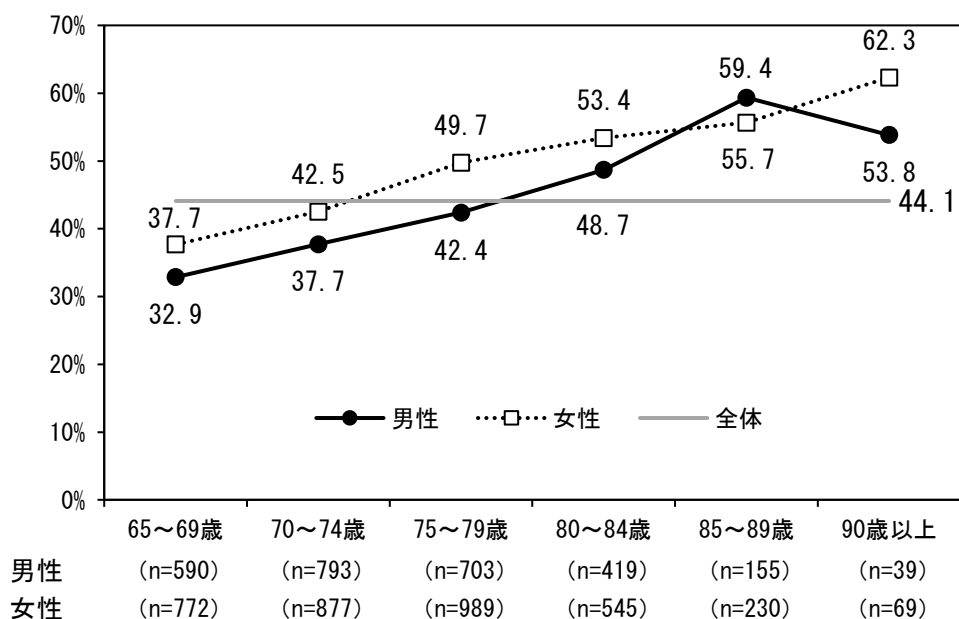
図表 3-14-21 認知機能の低下 判定方法

判定方法		
下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、認知機能の低下がみられる高齢者として判定しました。		
設問番号	設問	該当する選択肢
問5(1)	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」

認知機能の低下がみられる高齢者の割合は、全体で44.1%となっています。

性別・年齢別でみると、85～89歳以外の年齢で女性の割合が男性よりも高くなっており、男性では89歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、85～89歳が59.4%で最も高く、女性では年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が62.3%で最も高くなっています。

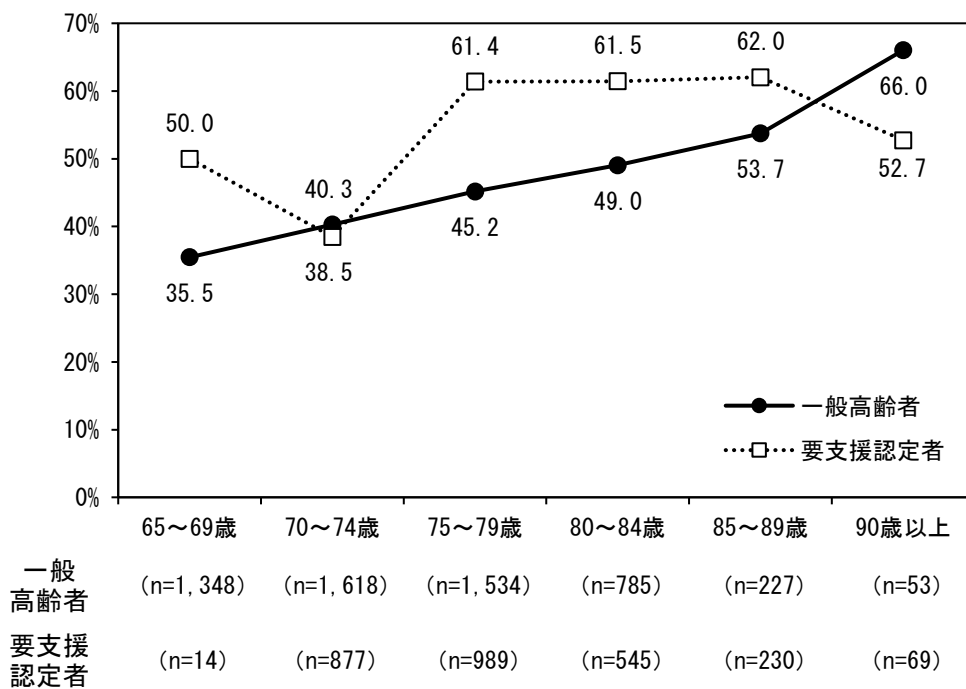
図表 3-14-22 認知機能の低下 性別・年齢別



認定状況別・年齢別で見ると、一般高齢者では年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が66.0%で最も高く、特に85～89歳（53.7%）から90歳以上（66.0%）で12.3ポイント高くなっています。

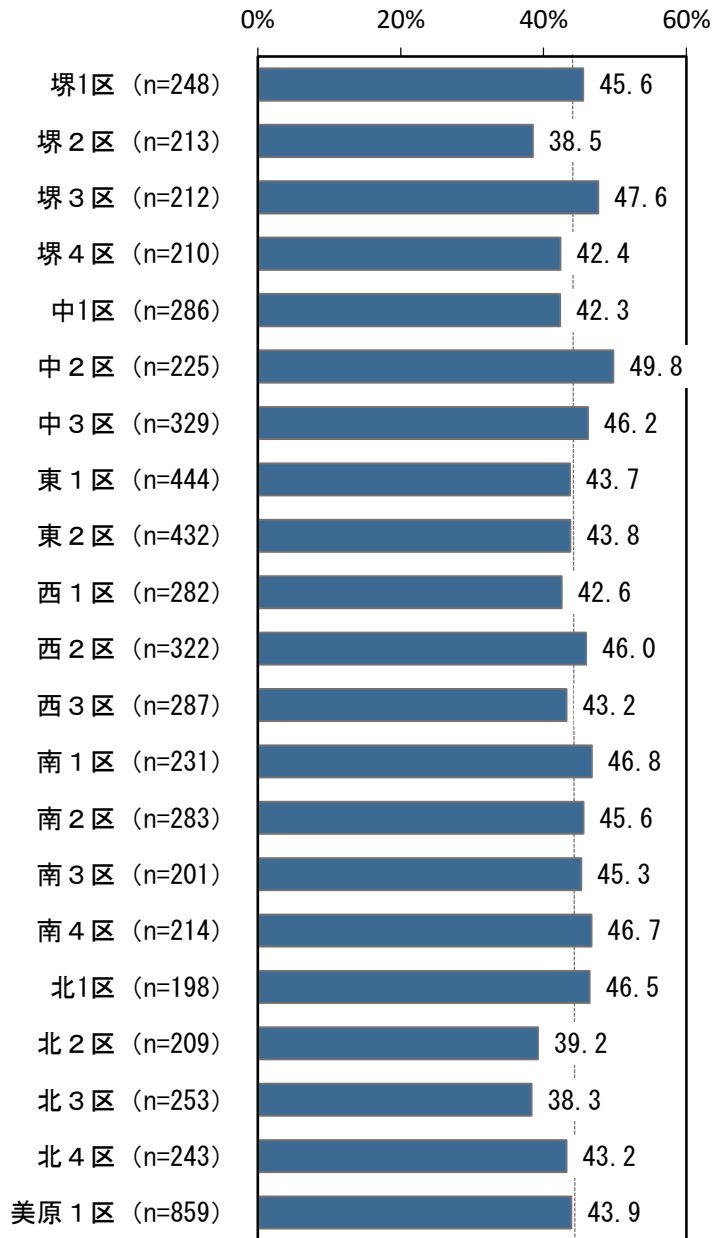
要支援認定者では、75～89歳で6割台で推移しており、85～89歳が62.0%で最も高くなっています。

図表 3-14-23 認知機能の低下 認定状況別・年齢別



圏域別にみると、「中2区」が49.8%で最も高く、次いで「堺3区」が47.6%、「南1区」が46.8%と続いています。

図表 3-14-24 認知機能の低下 圏域別



## (7) IADL (手段的自立度) の低下

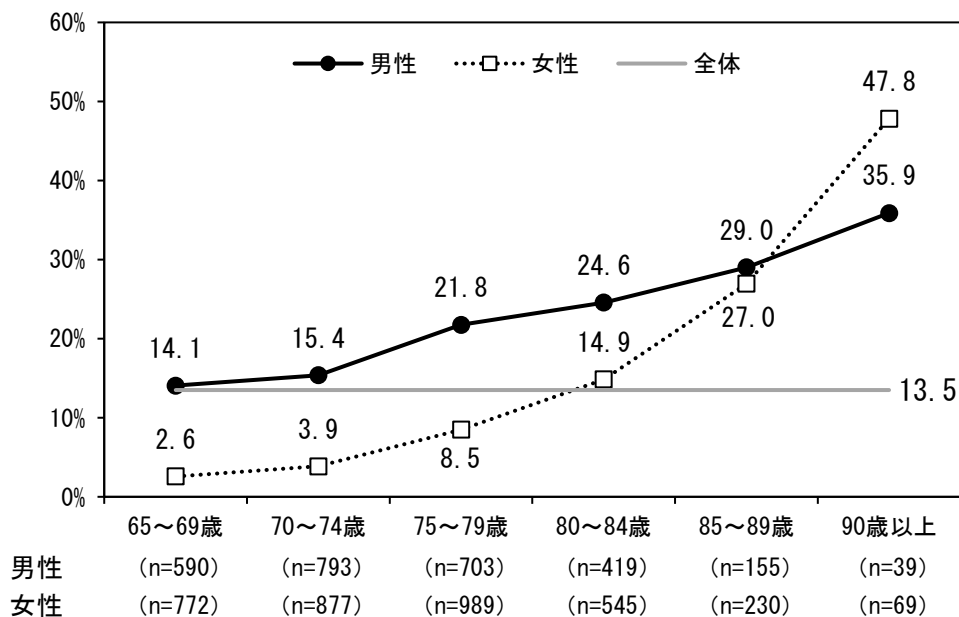
図表 3-14-25 IADLの低下 判定方法

判定方法		
老研式活動能力指標に基づき、下記の5設問について、各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、4点以下の場合、IADLが低下している高齢者として判定しました。		
設問番号	設問	該当する選択肢
問5 (2)	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問5 (3)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問5 (4)	自分で食事の用意をしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問5 (5)	自分で請求書の支払いをしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問5 (6)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」

IADLが低下している高齢者の割合は、全体で13.5%となっています。

性別・年齢別でみると、男性・女性いずれも年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上(男性35.9%、女性47.8%)の割合が最も高く、89歳以下で男性の割合が女性よりも高くなっています。

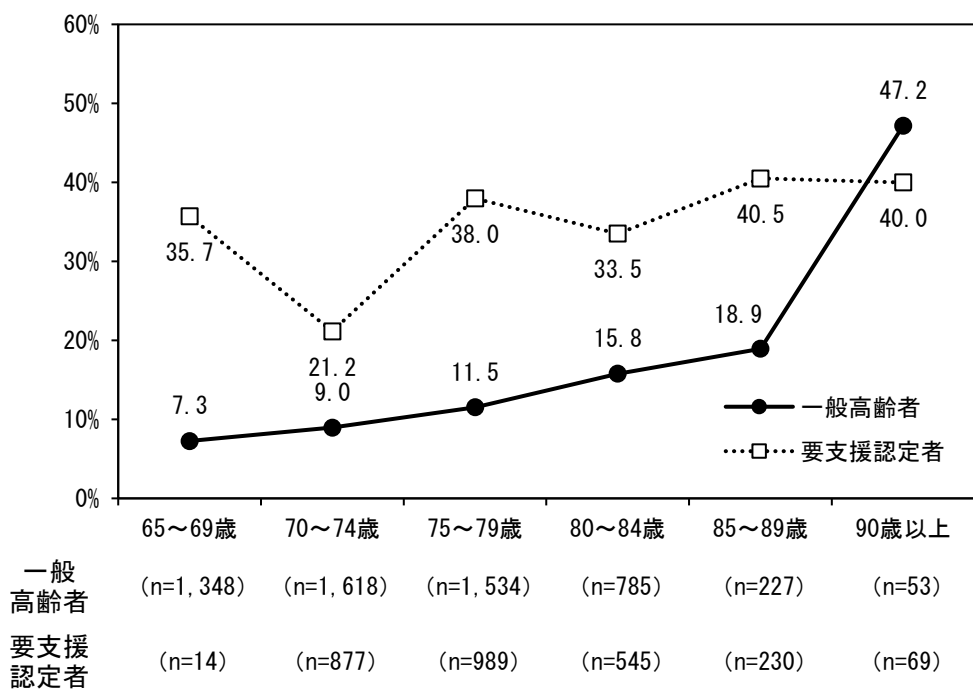
図表 3-14-26 IADLの低下 性別・年齢別



認定状況別・年齢別で見ると、一般高齢者では年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、特に85~89歳（18.9%）から90歳以上（47.2%）で28.3ポイント高くなっています。

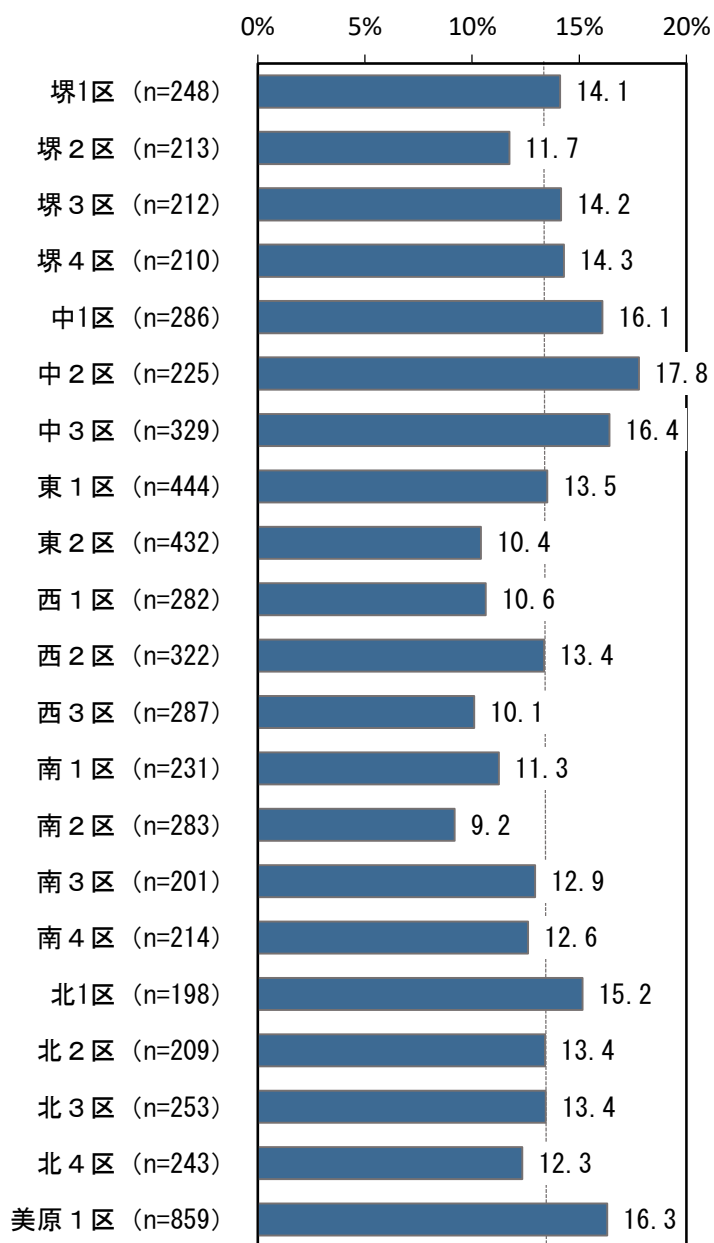
要支援認定者では、2~4割台で推移しており、85~89歳が40.5%で最も高くなっています。

図表 3-14-27 IADLの低下 認定状況別・年齢別



圏域別にみると、「中2区」が17.8%で最も高く、次いで「中3区」が16.4%、「美原1区」が16.3%と続いています。

図表 3-14-28 IADLの低下 圏域別



## (8) うつ傾向

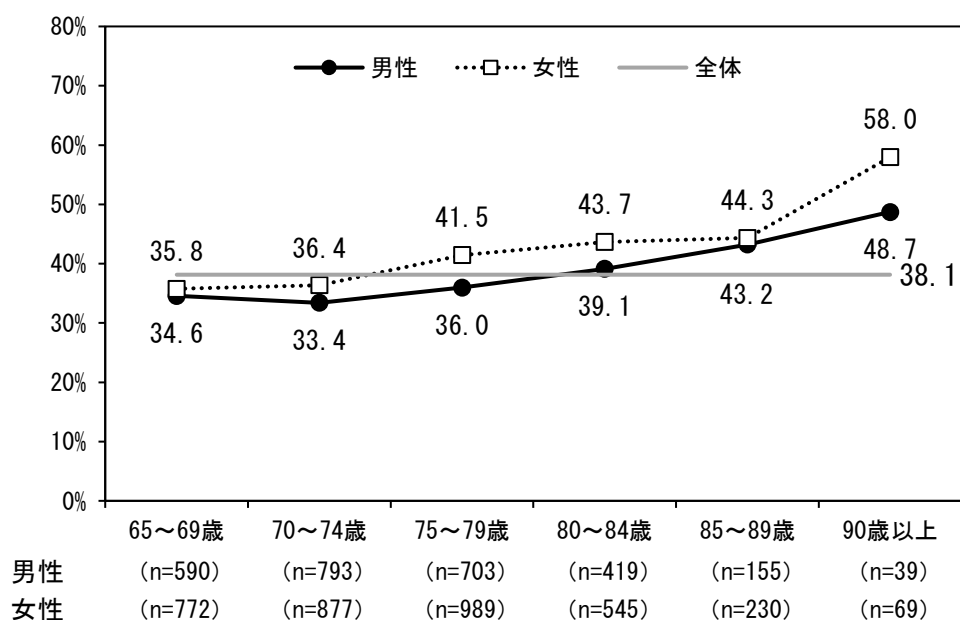
図表 3-14-29 うつ傾向 判定方法

判定方法		
下記の2設問について、いずれか1つでも該当する選択肢が回答された場合、うつ傾向の高齢者として判定しました。		
設問番号	設問	該当する選択肢
問8(4)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
問8(5)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

うつ傾向の高齢者の割合は、全体で38.1%となっています。

性別・年齢別で見ると、すべての年齢で女性の割合が男性より高く、男性では70歳以上で、女性では65歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上（男性48.7%、女性58.0%）の割合が最も高くなっています。

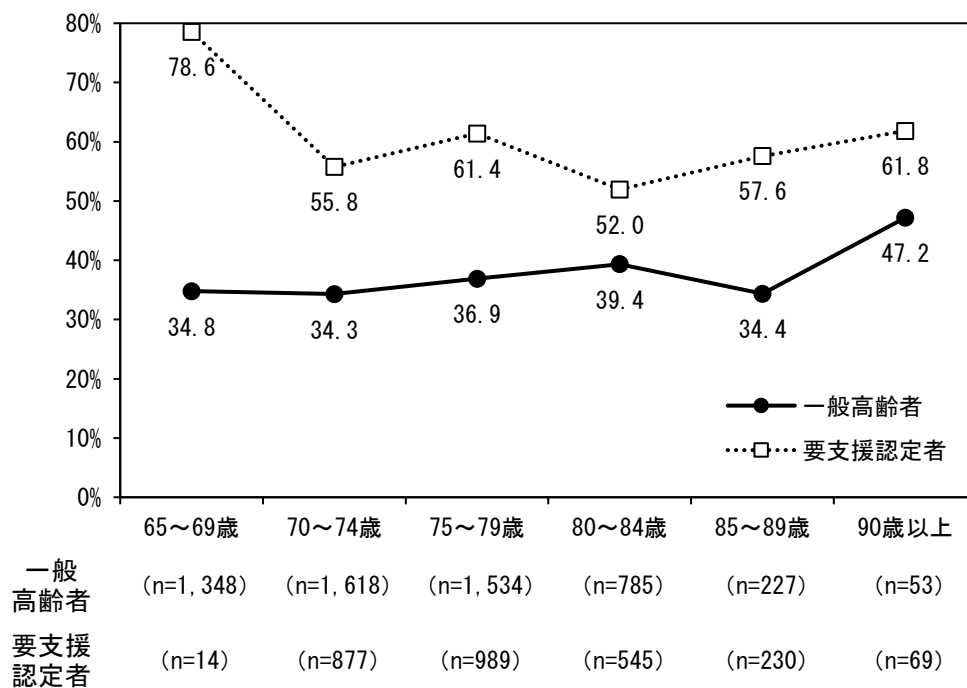
図表 3-14-30 うつ傾向 性別・年齢別



認定状況別・年齢別でみると、一般高齢者では 84 歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90 歳以上が 47.2%で最も高くなっています。

要支援認定者では、5～7 割台で推移しており、65～69 歳が 78.6%で最も高くなっています。

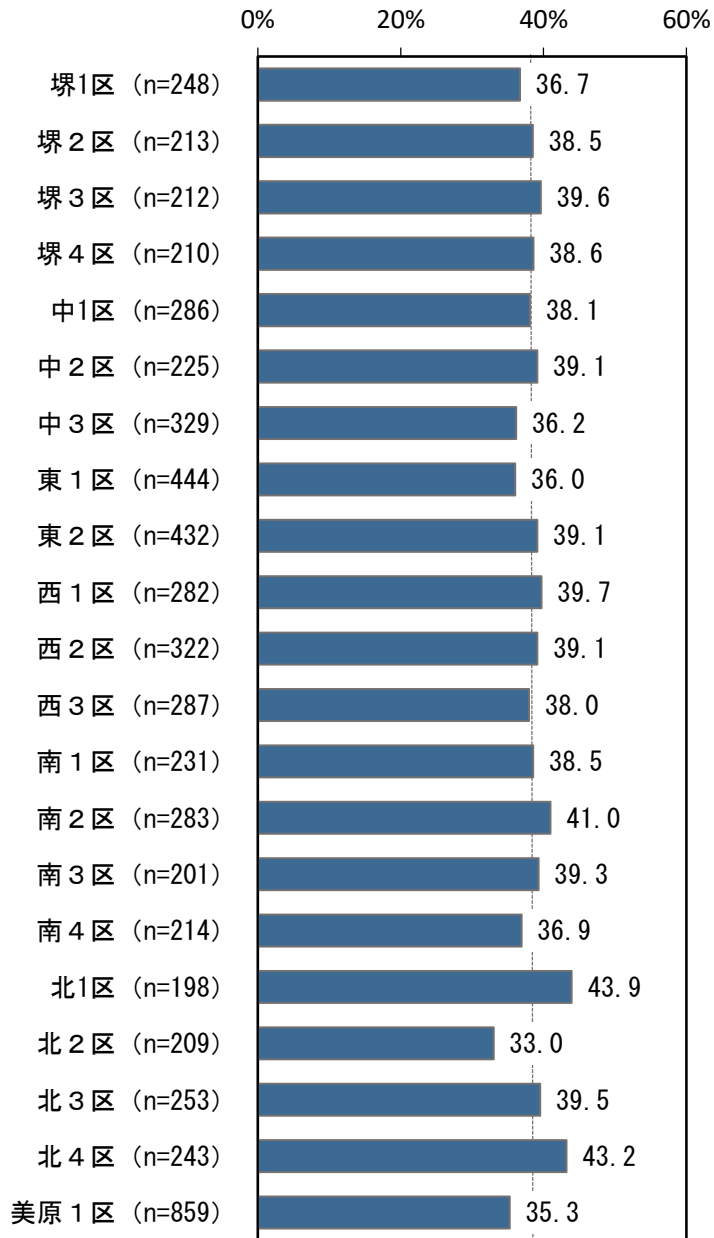
図表 3-14-31 うつ傾向 認定状況別・年齢別





圏域別にみると、「北1区」が43.9%で最も高く、次いで「北4区」が43.2%、「南2区」が41.0%と続いています。

図表 3-14-32 うつ傾向 圏域別



## (9) うつの可能性

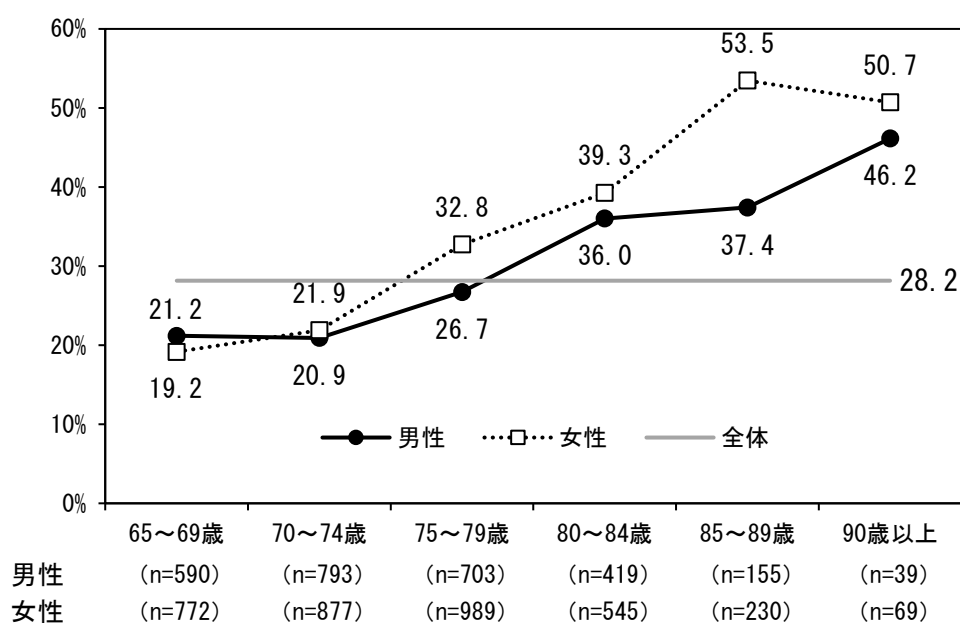
図表 3-14-33 うつの可能性 判定方法

判定方法		
下記の5設問について、2問以上該当する選択肢が回答された場合、うつの可能性がある高齢者として判定しました。		
設問番号	設問	該当する選択肢
問8(6)	(ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	「1. はい」
問8(7)	(ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	「1. はい」
問8(8)	(ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	「1. はい」
問8(9)	(ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	「1. はい」
問8(10)	(ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	「1. はい」

うつの可能性がある高齢者の割合は、全体で28.2%となっています。

性別・年齢別で見ると、65～69歳で男性の割合が女性より高く、70歳以上で女性の割合が男性よりも高くなっており、男性では70歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が46.2%で最も高く、女性では89歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、85～89歳が53.5%で最も高くなっていきます。

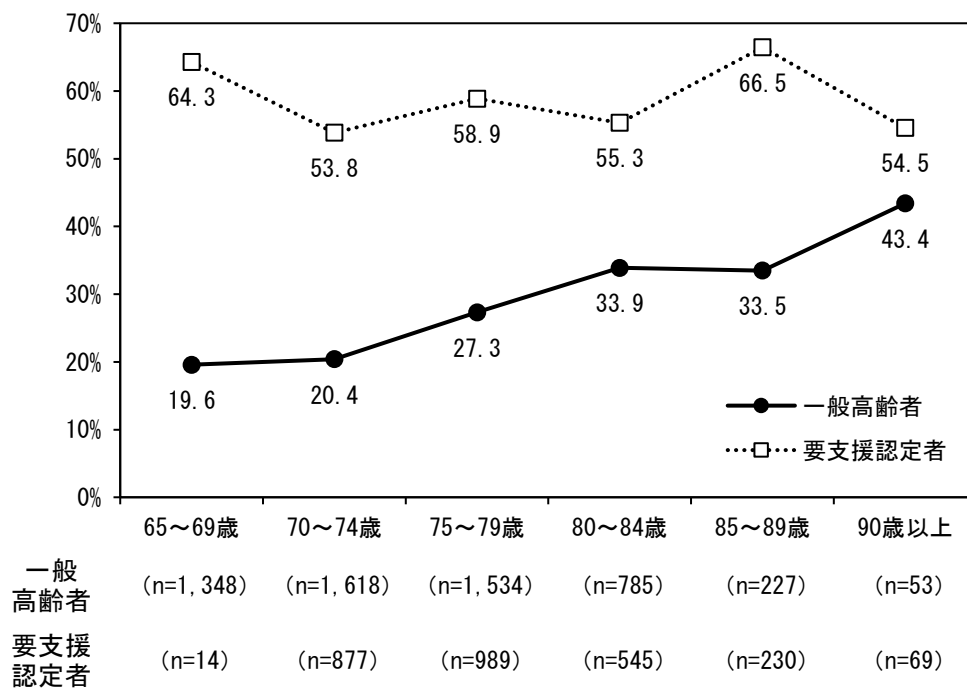
図表 3-14-34 うつの可能性 性別・年齢別



認定状況別・年齢別で見ると、一般高齢者では 84 歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90 歳以上が 43.4%で最も高くなっています。

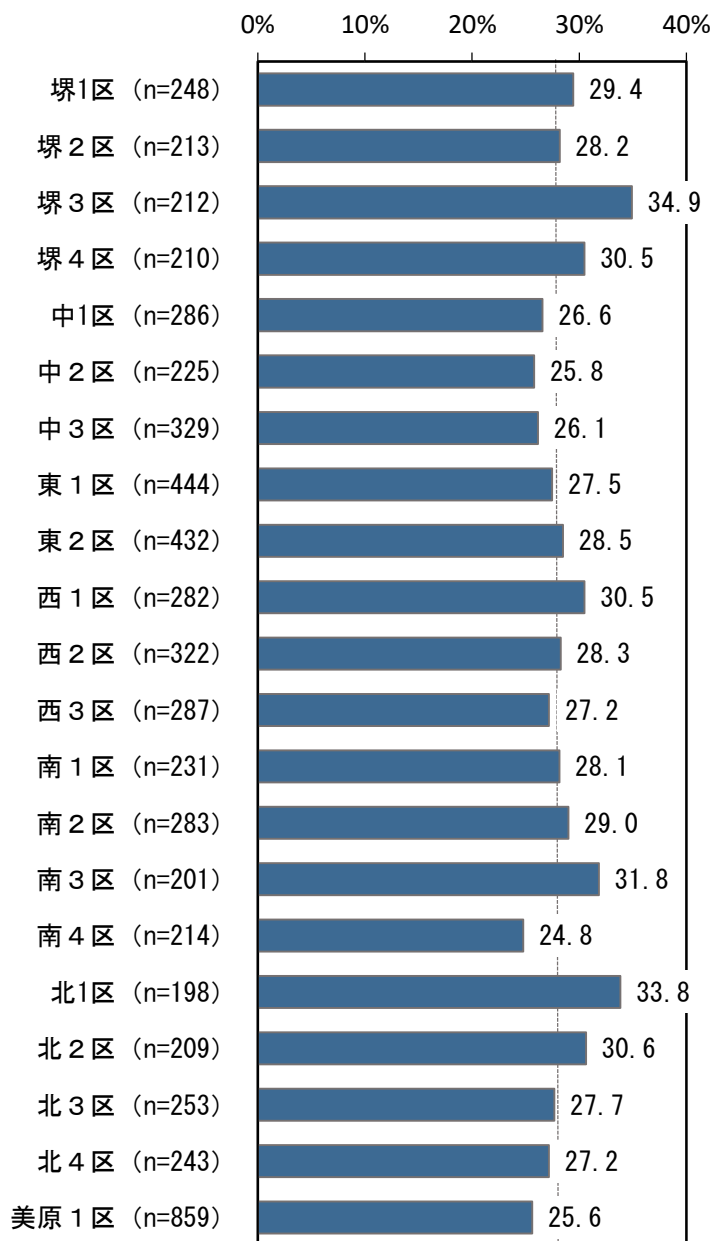
要支援認定者では、5～6 割台で推移しており、85～89 歳が 66.5%で最も高くなっています。

図表 3-14-35 うつの可能性 認定状況別・年齢別



圏域別にみると、「堺3区」が34.9%で最も高く、次いで「北1区」が33.8%、「南3区」が31.8%と続いています。

図表 3-14-36 うつの可能性 圏域別



## (10) フレイル

図表 3-14-37 フレイル 判定方法

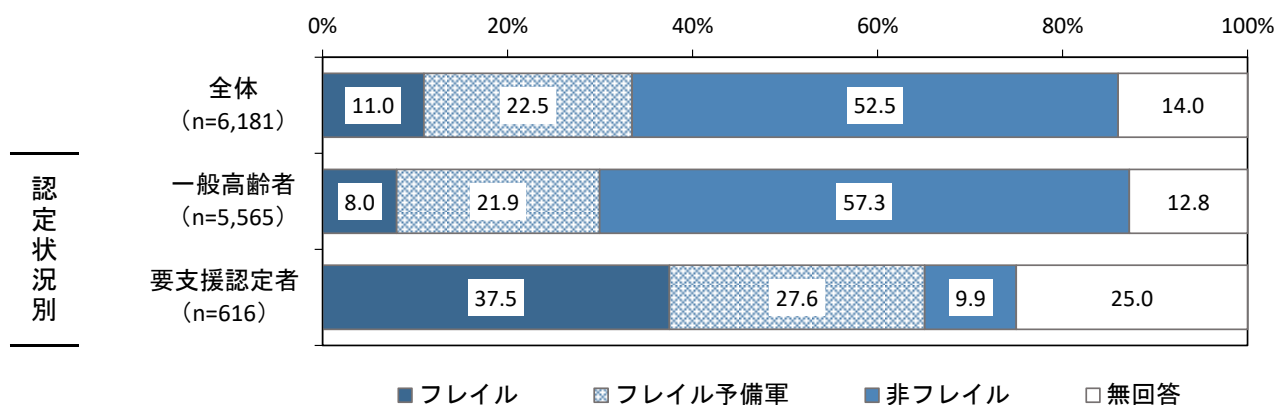
判定方法		
2006年に厚生労働省が示したフレイル基本チェックリスト25項目のうち、下記の16設問について該当する選択肢が回答された場合を1点として16点満点で評価し、3点以下を非フレイル、4～7点をフレイル予備軍、8点以上をフレイルとして判定しました。なお、回答に1問でも無回答があった場合は無回答として集計しています。		
設問番号	設問	該当する選択肢
問5(2)	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	「2. できるけどしていない」 「3. できない」
問5(3)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「2. できるけどしていない」 「3. できない」
問5(6)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「2. できるけどしていない」 「3. できない」
問3(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「2. できるけどしていない」 「3. できない」
問3(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「2. できるけどしていない」 「3. できない」
問3(3)	15分位続けて歩いていますか	「2. できるけどしていない」 「3. できない」
問3(4)	この1年間に転んだことがありますか	「1. 何度もある」 「2. 1度ある」
問3(5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 「2. やや不安である」
問4(1)	身長・体重	BMI(体重(kg)÷{身長(m)×身長(m)})が18.5未満
問3(6)	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」
問3(7)	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」 「2. 減っている」
問8(6)	(ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	「1. はい」
問8(7)	(ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	「1. はい」
問8(8)	(ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	「1. はい」

設問番号	設問	該当する選択肢
問8(9)	(ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない	「1. はい」
問8(10)	(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする	「1. はい」

フレイルと判定された高齢者の割合は、全体で11.0%となっています。

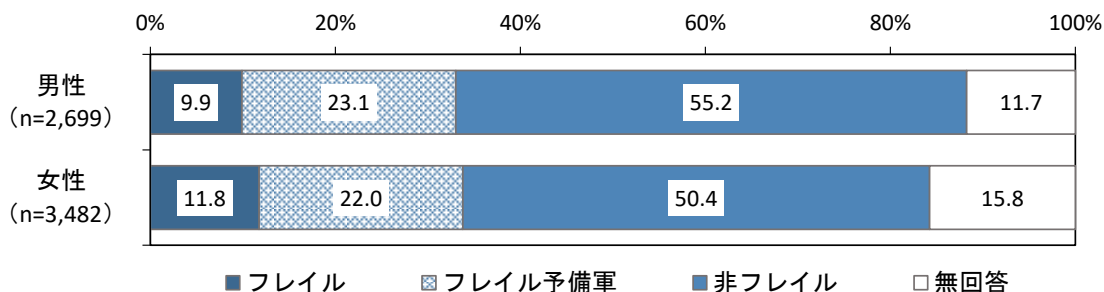
認定状況別でみると、フレイルと判定された高齢者の割合は、一般高齢者で8.0%、要支援認定者で37.5%となっています。

図表 3-14-38 フレイル



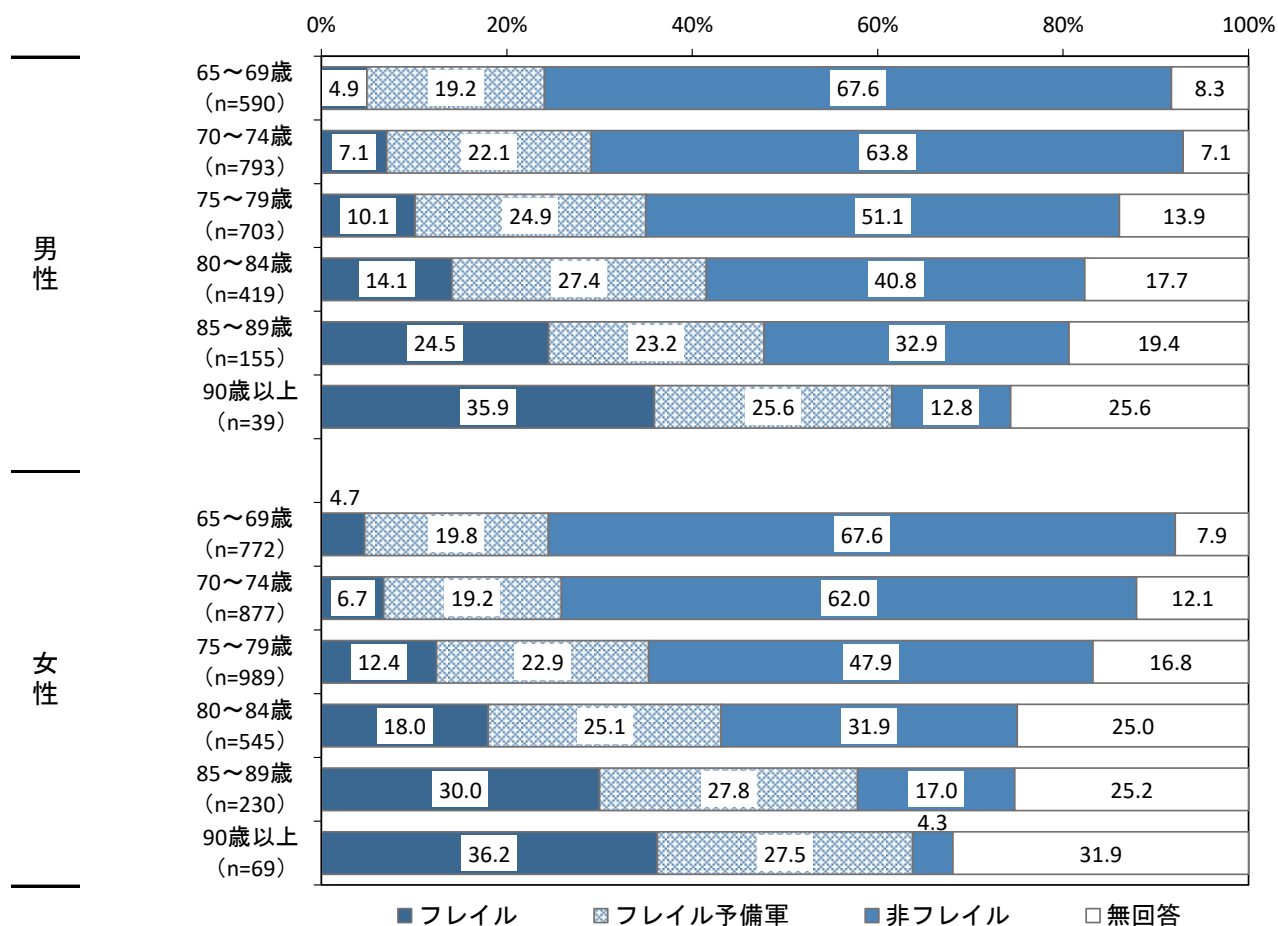
性別でみると、フレイルと判定された高齢者の割合は、男性で9.9%、女性で11.8%となっています。

図表 3-14-39 フレイル 性別



性別・年齢別でみると、フレイルと判定された高齢者の割合は、男性・女性いずれも年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上（男性 35.9%、女性 36.2%）の割合が最も高くなっています。

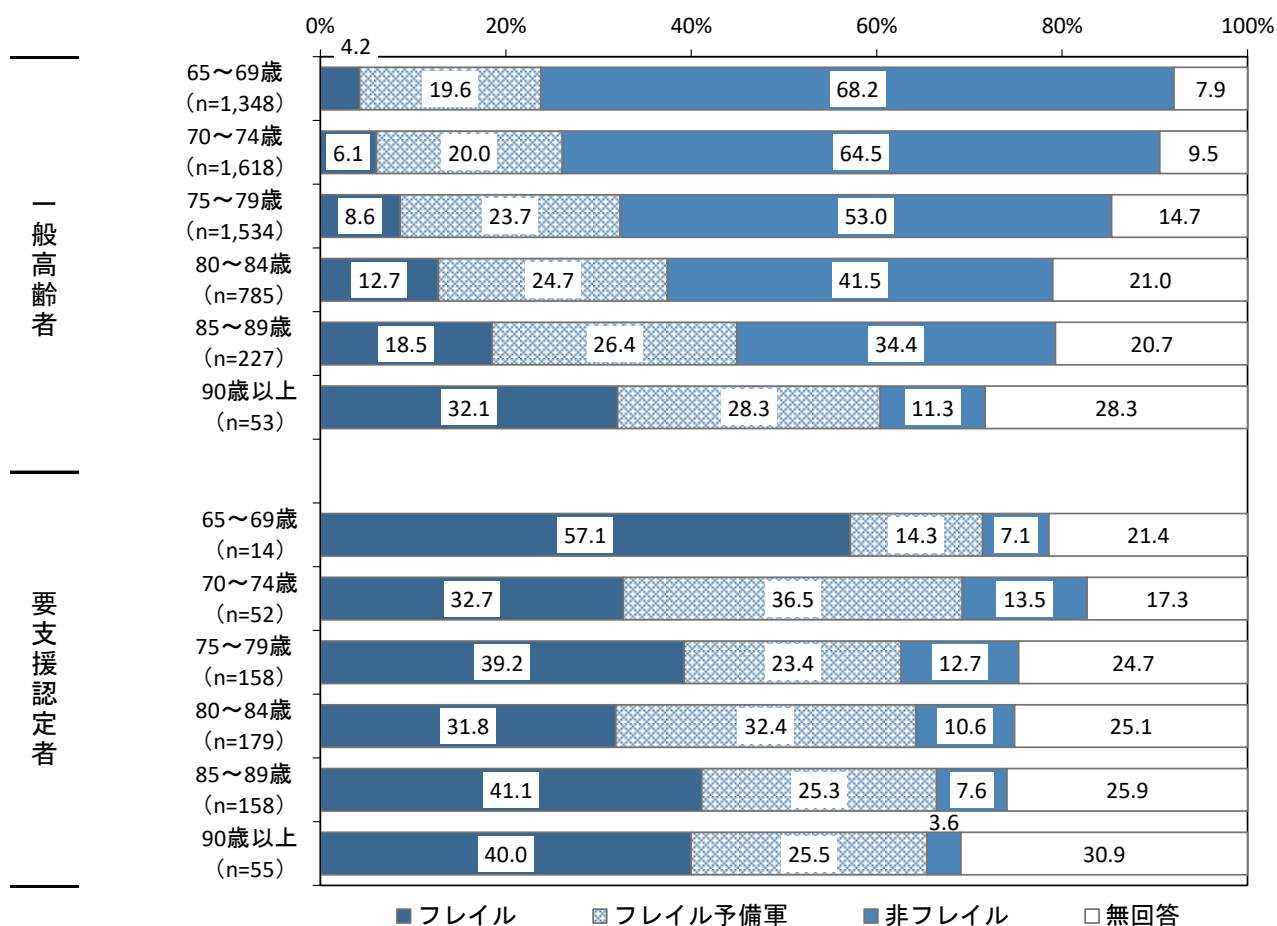
図表 3-14-40 フレイル 性別・年齢別



認定状況別・年齢別で見ると、フレイルと判定された高齢者の割合は、一般高齢者では年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が32.1%で最も高くなっています。

要支援認定者では、フレイルと判定された高齢者の割合は3～5割台で推移しており、65～69歳が57.1%で最も高くなっています。

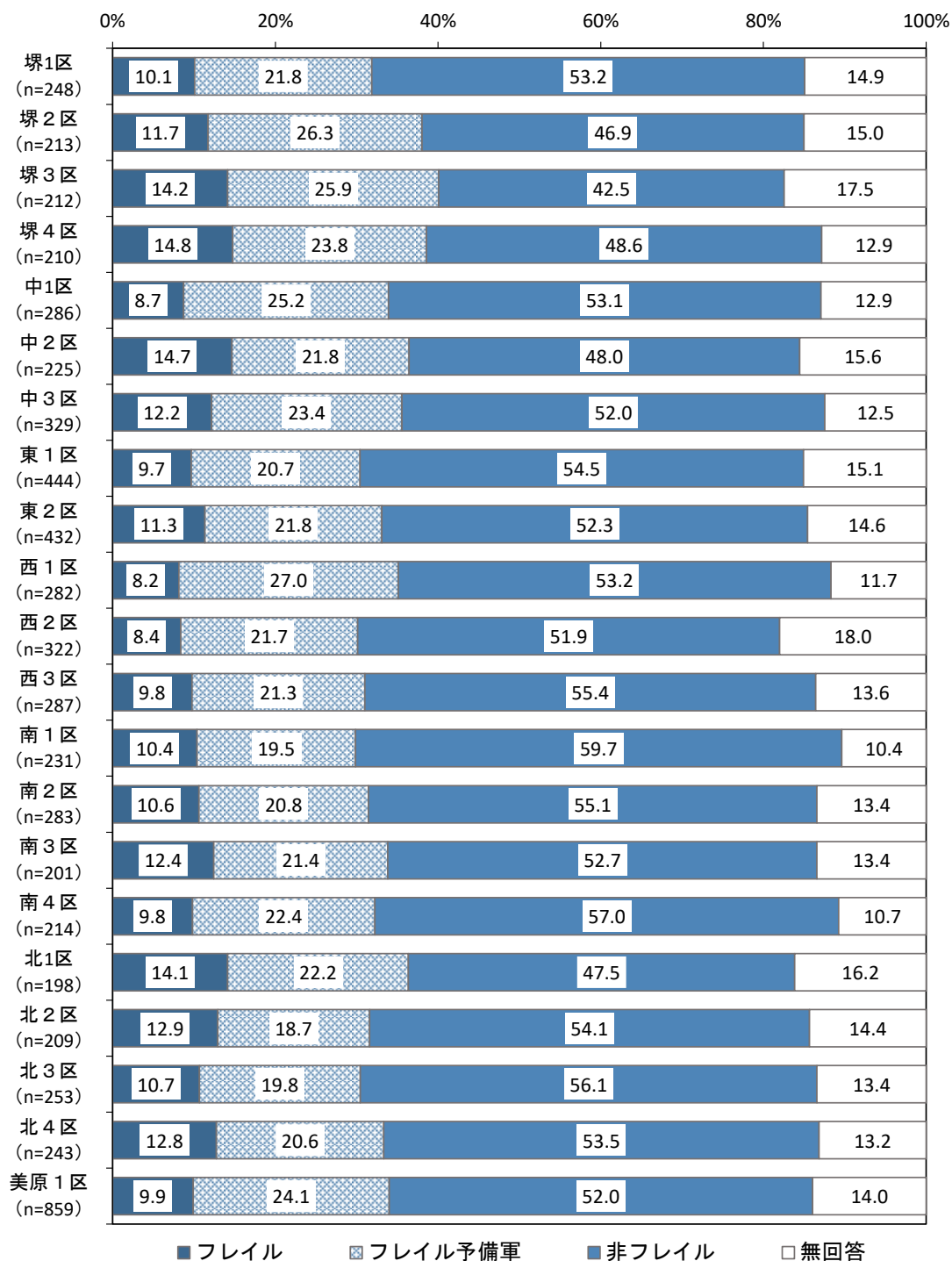
図表 3-14-41 フレイル 認定状況別・年齢別





圏域別にみると、フレイルと判定された高齢者の割合は、「堺4区」が14.8%で最も高く、次いで「中2区」が14.7%、「堺3区」が14.2%と続いています。

図表 3-14-42 フレイル 圏域別



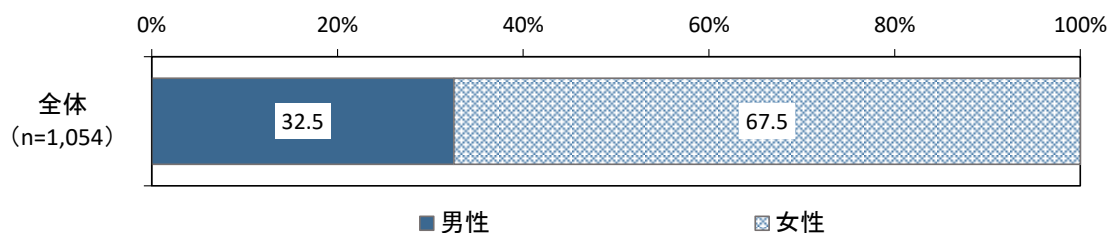
## IV. 在宅介護実態調査 調査結果

### 1. 調査対象者の属性

#### 性別

性別については、「男性」が32.5%、「女性」が67.5%となっています。

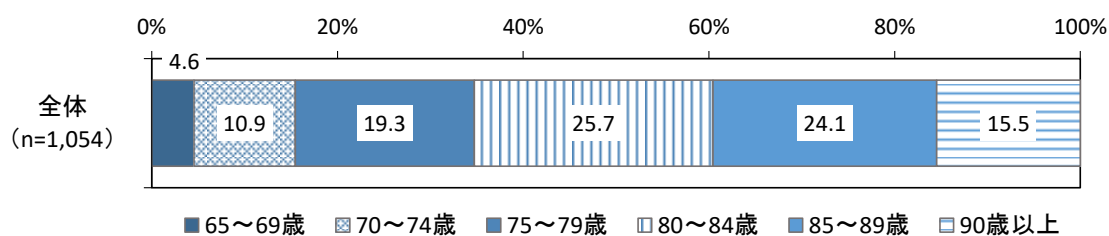
図表 4-1-1 性別



#### 年齢

年齢については、「80～84歳」が25.7%で最も高く、次いで「85～89歳」が24.1%、「75～79歳」が19.3%と続いています。

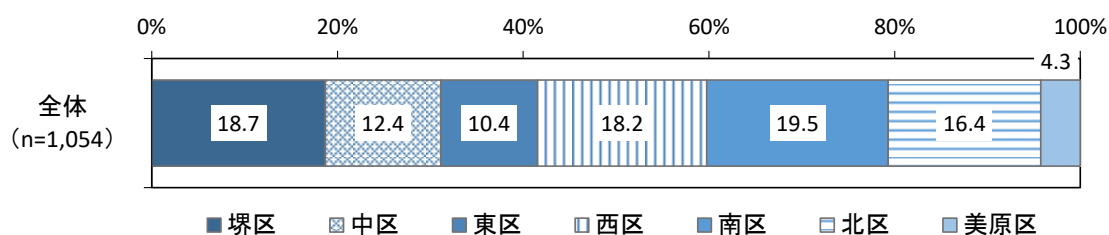
図表 4-1-2 年齢



#### 居住地

居住地については、「南区」が19.5%で最も高く、次いで「堺区」が18.7%、「西区」が18.2%と続いています。

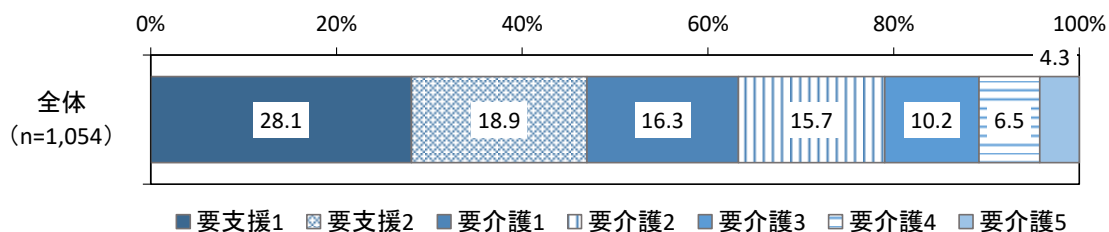
図表 4-1-3 居住地



## 認定状況

認定状況については、「要支援1」が28.1%で最も高く、次いで「要支援2」が18.9%、「要介護1」が16.3%と続いています。

図表 4-1-4 認定状況

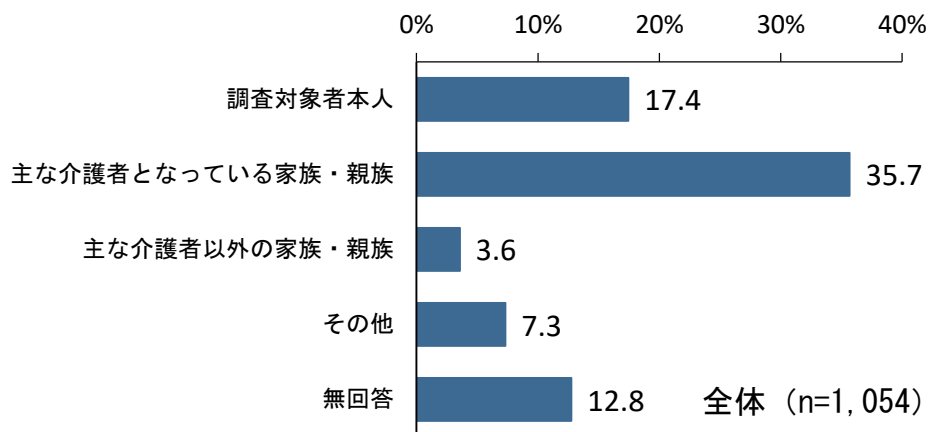


## 2. 調査対象者について

問 1 現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか。(〇はいくつでも)

調査回答者については、「主な介護者となっている家族・親族」が35.7%で最も高く、次いで「調査対象者本人」が17.4%、「その他」が7.3%と続いています。

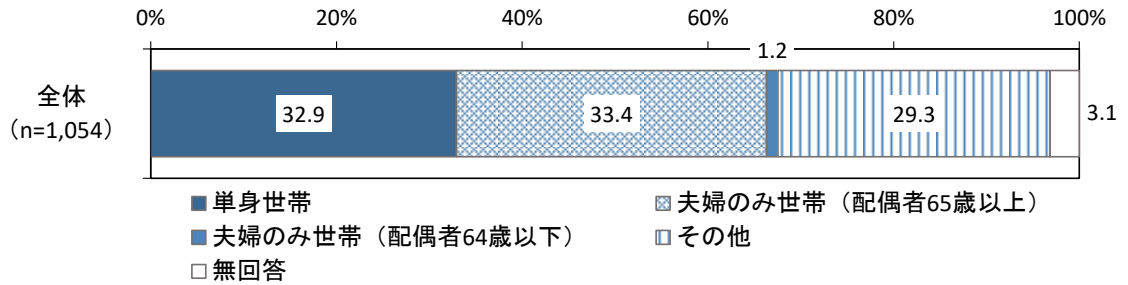
図表 4-2-1 調査回答者



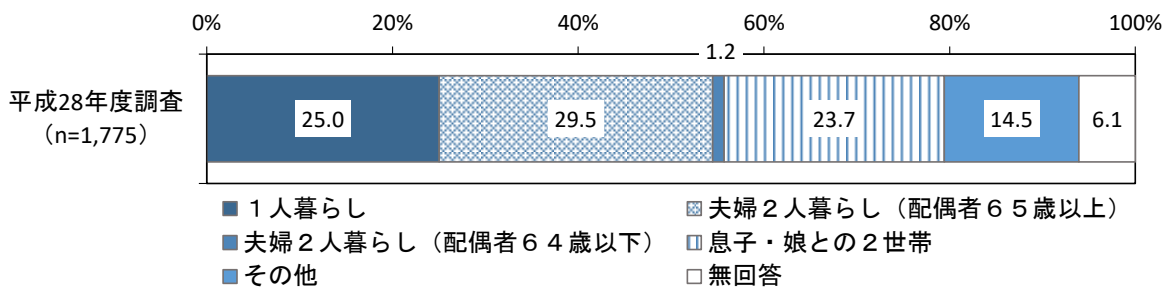
問 2 (1) ご本人の世帯類型について、お教えてください。(〇はひとつ)

世帯類型については、「夫婦のみ世帯（配偶者 65 歳以上）」が 33.4%で最も高く、次いで「単身世帯」が 32.9%、「その他」が 29.3%と続いています。

図表 4-2-2 世帯類型



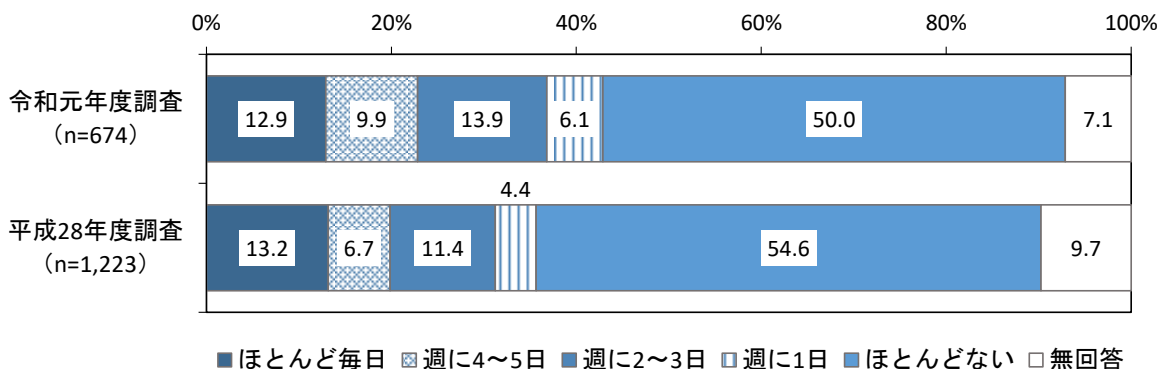
図表 4-2-3 家族構成 平成 28 年度調査



問 2 (2) 【問 2 (1) で「夫婦のみ世帯（配偶者 65 歳以上）」「夫婦のみ世帯（配偶者 64 歳以下）」「その他」を回答した方】  
日中、ご本人は一人になることがありますか。(〇はひとつ)

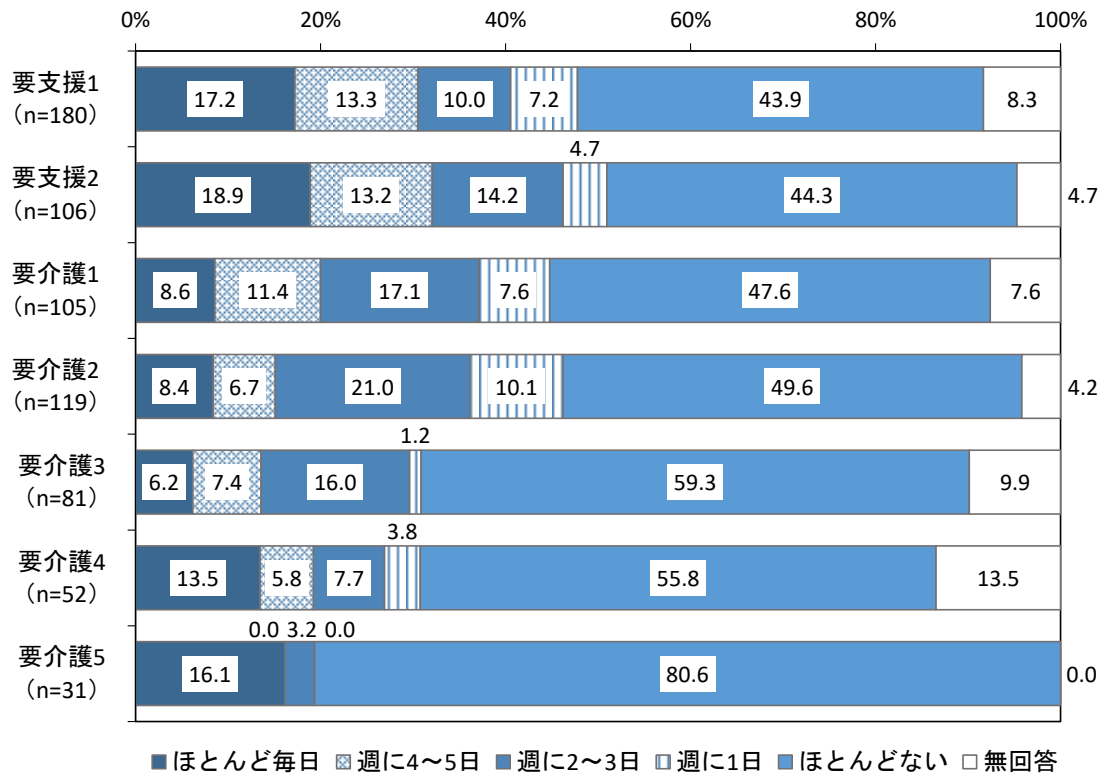
日中に一人になることがあるかについては、「ほとんどない」が 50.0%で最も高く、次いで「週に 2~3 日」が 13.9%、「ほとんど毎日」が 12.9%と続いています。

図表 4-2-4 日中に一人になることがありますか



認定状況別でみると、「ほとんどない」では介護度の重度化に伴い概ね割合が高くなっており、要介護5が80.6%で最も高く、「ほとんど毎日」では、要支援2が18.9%で最も高くなっています。

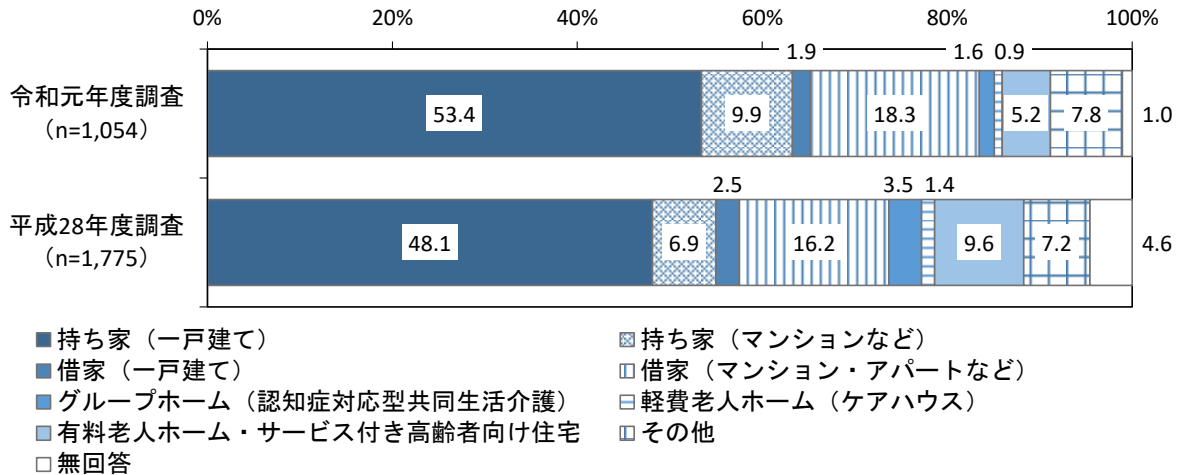
図表 4-2-5 日中に一人になることがあるか 認定状況別



問3 ご本人の現在のお住まいをお教えてください。(〇はひとつ)

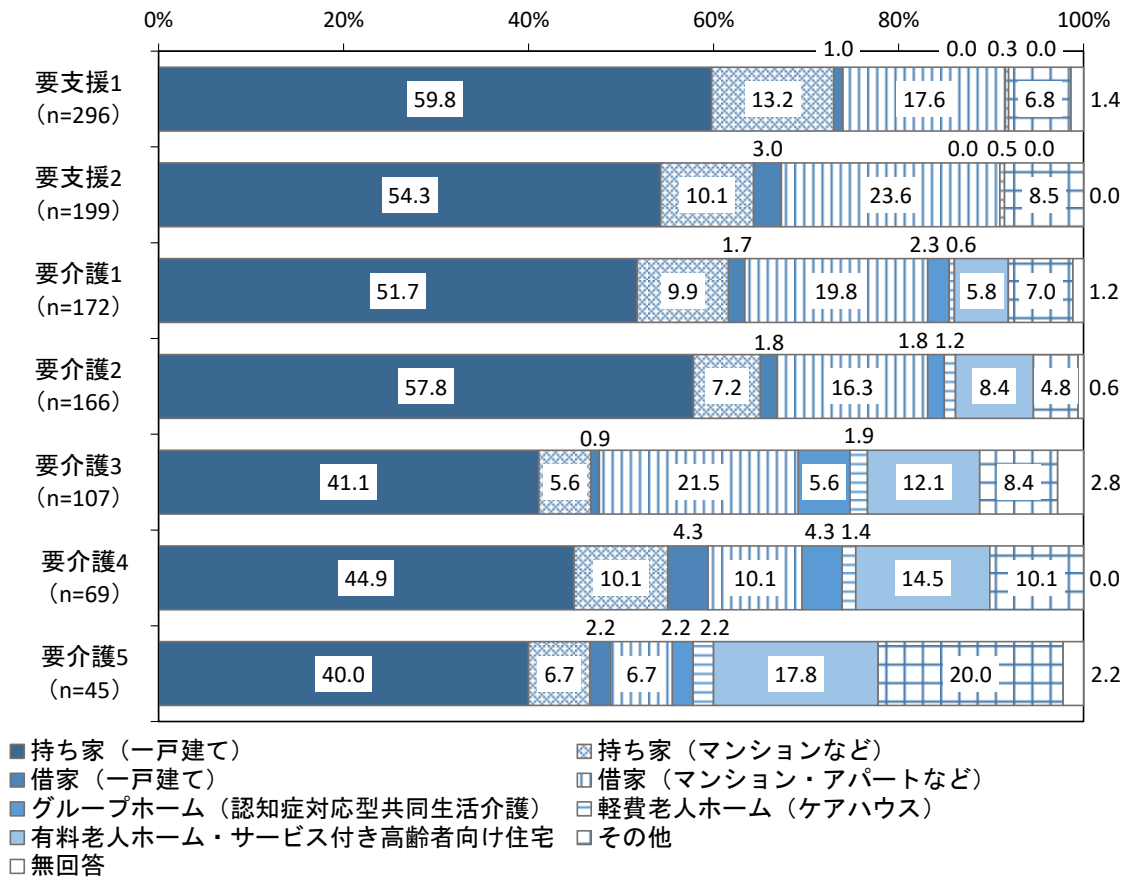
現在の住まいについては、「持ち家（一戸建て）」が53.4%で最も高く、次いで「借家（マンション・アパートなど）」が18.3%、「持ち家（マンションなど）」が9.9%と続いています。

図表 4-2-6 現在の住まい



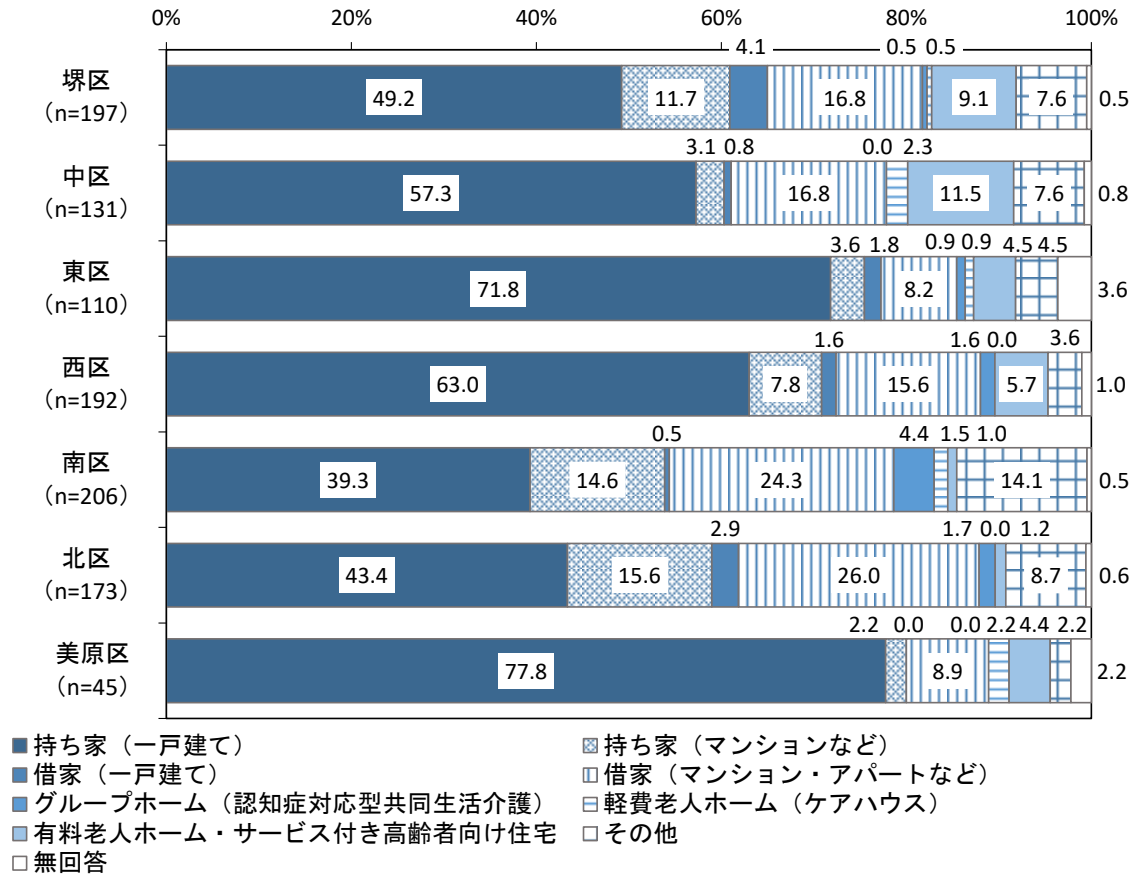
認定状況別でみると、「持ち家（一戸建て）」では、要支援1が59.8%で最も高く、「有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅」では、介護の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護5が17.8%で最も高くなっています。

図表 4-2-7 現在の住まい 認定状況別



区域別でみると、「持ち家（一戸建て）」では、美原区が77.8%で最も高く、「借家（マンション・アパートなど）」では、北区が26.0%で最も高くなっています。

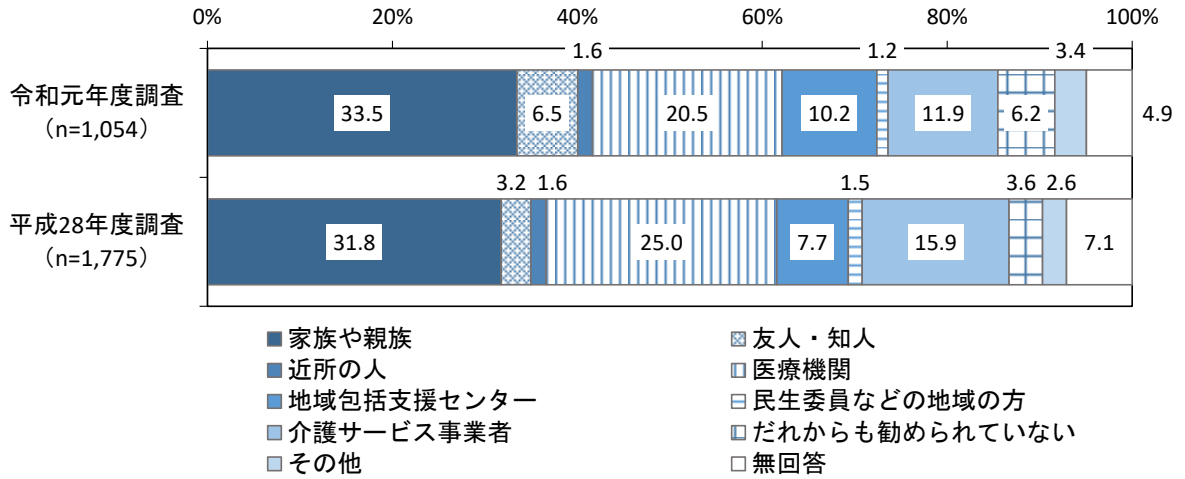
図表 4-2-8 現在の住まい 区域別



問 4	初めてご本人の要介護認定を申請した際、どなたから申請を勧められましたか。 (〇はひとつ)
-----	---

初めての認定申請の際、誰から申請を勧められたかについては、「家族や親族」が33.5%で最も高く、次いで「医療機関」が20.5%、「介護サービス事業者」が11.9%と続いています。

図表 4-2-9 初めての認定申請の際、誰から申請を勧められたか



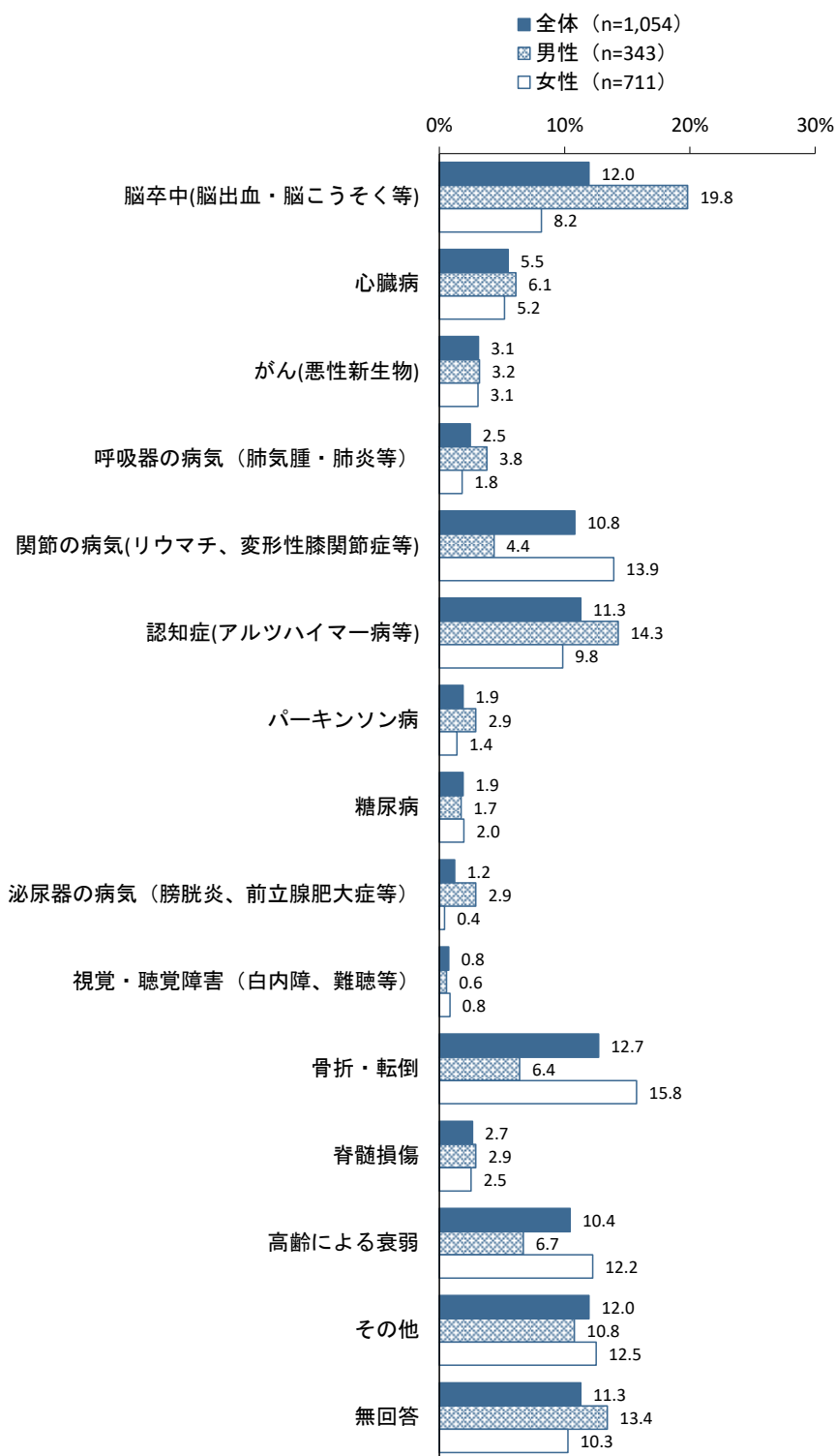


問5 ご本人が初めて要介護認定が必要になった主な原因は何ですか。(〇はひとつ)

初めて要介護認定が必要になった主な原因については、「骨折・転倒」が12.7%で最も高く、次いで「脳卒中(脳出血・脳こうそく等)」「その他」がいずれも12.0%と続いています。

性別でみると、男性では「脳卒中(脳出血・脳こうそく等)」が19.8%で最も高く、女性では「骨折・転倒」が15.8%で最も高くなっています。

図表 4-2-10 初めて要介護認定が必要になった主な原因

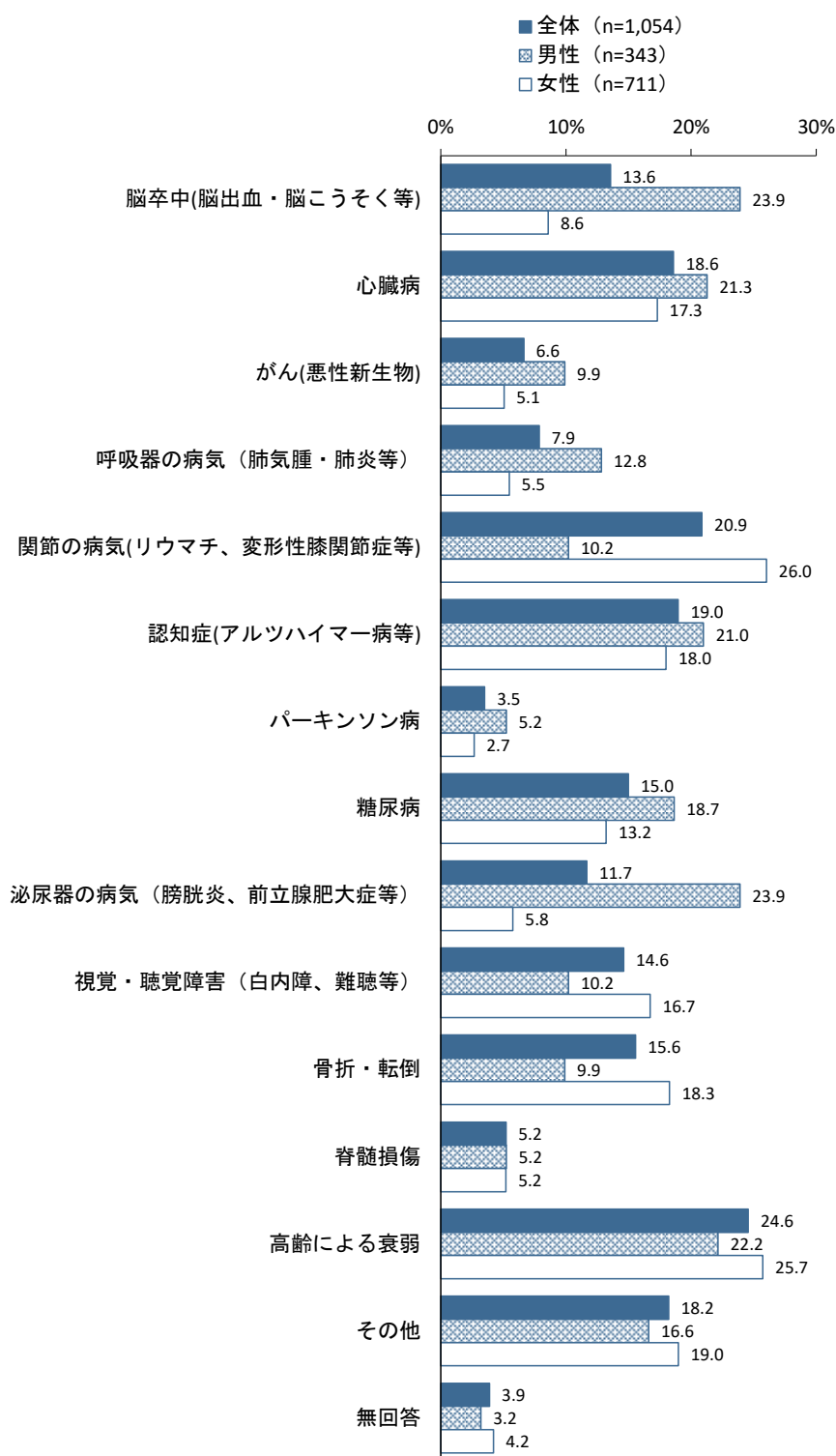


問6 ご本人が、現在抱えている傷病について、お教えてください。(〇はいくつでも)

現在抱えている疾病については、「高齢による衰弱」が24.6%で最も高く、次いで「関節の病気(リウマチ、変形性膝関節症等)」が20.9%、「認知症(アルツハイマー病等)」が19.0%と続いています。

性別でみると、男性では「脳卒中(脳出血・脳こうそく等)」「泌尿器の病気(膀胱炎、前立腺肥大症等)」がいずれも23.9%で最も高く、女性では「関節の病気(リウマチ、変形性膝関節症等)」が26.0%で最も高くなっています。

図表 4-2-11 現在抱えている疾病



認定状況別でみると、要支援1、要支援2では「関節の病気(リウマチ、変形性膝関節症等)」の割合が最も高く、要介護1、要介護3、要介護4では「認知症(アルツハイマー病等)」の割合が最も高く、要介護2では「高齢による衰弱」の割合が最も高く、要介護5では「脳卒中(脳出血・脳こうそく等)」の割合が最も高くなっています。

図表 4-2-12 現在抱えている疾病 認定状況別

単位：実数（人）、構成比（％）

認定状況別	合計	脳卒中（脳出血・脳こうそく等）	心臓病	がん（悪性新生物）	呼吸器の病気（肺炎腫・肺炎等）	関節の病気（リウマチ、変形性膝関節症等）	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	糖尿病	泌尿器の病気（膀胱炎、前立腺肥大症等）	視覚・聴覚障害（白内障、難聴等）	
		全体	1,054	13.6	18.6	6.6	7.9	20.9	19.0	3.5	15.0	11.7
認定状況別	要支援1	296	5.7	15.5	6.1	7.1	28.7	4.1	1.4	15.9	10.5	15.5
	要支援2	199	8.5	19.1	5.5	8.5	28.1	2.5	1.0	10.1	11.1	18.6
	要介護1	172	13.4	18.0	7.6	6.4	12.8	32.0	1.2	18.0	12.8	14.5
	要介護2	166	16.3	24.1	10.2	10.2	18.1	25.3	6.6	16.3	14.5	11.4
	要介護3	107	22.4	16.8	3.7	7.5	14.0	36.4	8.4	15.0	13.1	9.3
	要介護4	69	21.7	21.7	10.1	5.8	13.0	43.5	5.8	20.3	11.6	15.9
要介護5	45	44.4	17.8	0.0	11.1	6.7	37.8	11.1	6.7	4.4	13.3	
認定状況別	合計	骨折・転倒	脊髄損傷	高齢による衰弱	その他	無回答						
全体	1,054	15.6	5.2	24.6	18.2	3.9						
認定状況別	要支援1	296	11.5	5.1	22.3	21.6	5.1					
	要支援2	199	19.6	7.5	24.6	16.1	6.0					
	要介護1	172	12.8	3.5	26.7	16.9	4.1					
	要介護2	166	22.9	6.0	25.9	17.5	2.4					
	要介護3	107	16.8	2.8	24.3	18.7	1.9					
	要介護4	69	14.5	5.8	26.1	17.4	1.4					
要介護5	45	6.7	4.4	24.4	13.3	0.0						

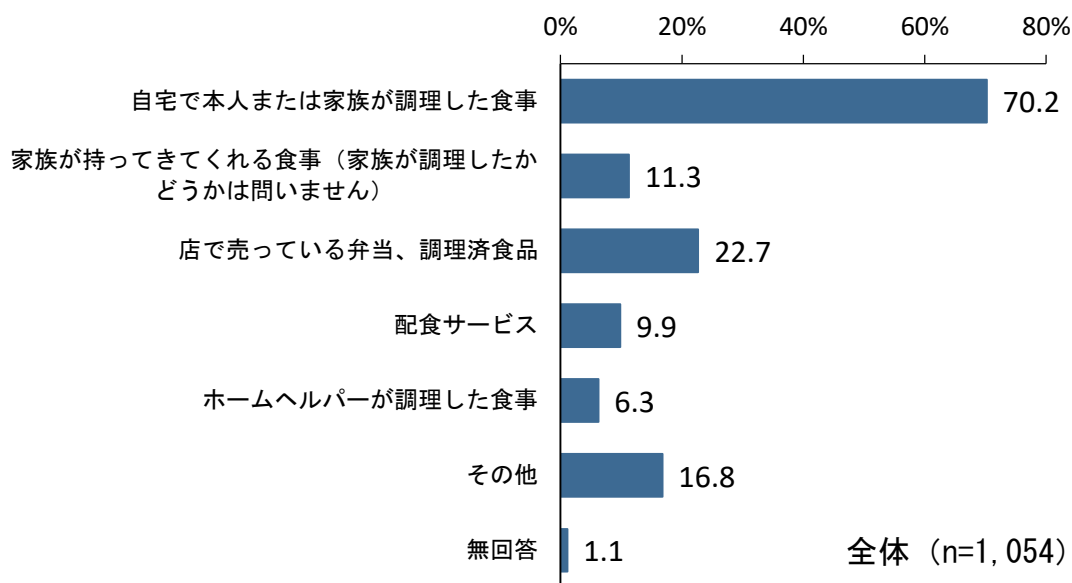
※網掛け■は最も割合が高いもの

### 3. 生活状況や健康について

問7	ご本人は普段どのような食事をとっていますか。(〇はいくつでも)
----	---------------------------------

普段どのような食事をとっているかについては、「自宅で本人または家族が調理した食事」が70.2%で最も高く、次いで「店で売っている弁当、調理済食品」が22.7%、「その他」が16.8%と続いています。

図表 4-3-1 普段どのような食事をとっているか



認定状況別でみると、「自宅で本人または家族が調理した食事」では、要介護度の重度化に伴い割合が低くなっており、要介護度5が31.1%で最も低くなっています。

世帯類型別でみると、「店で売っている弁当、調理済食品」では、「夫婦のみ世帯 (配偶者65歳以上)」が27.6%で最も高く、「配食サービス」では、「単身世帯」が14.1%で最も高くなっています。

現在の住まい別でみると、「グループホーム (認知症対応型共同生活介護)」「軽費老人ホーム (ケアハウス)」「有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅」では「その他」の割合が最も高く、それ以外の住まいでは「自宅で本人または家族が調理した食事」の割合が最も高くなっています。

図表 4-3-2 普段どのような食事をとっているか 認定状況別・世帯類型別・現在の住まい別

単位：実数（人）、構成比（％）

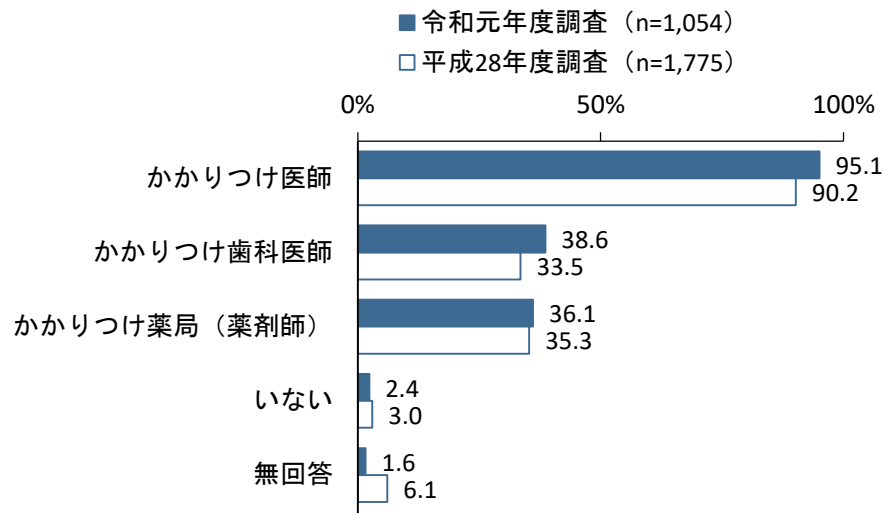
		合計	自宅 で本人 または 家族が 調理 した食 事	家族 が持 つて きて くれ る食 事（ 家族 が調 理し たか どう か）	店 で売 って いる 弁当 、調 理 食 品	配 食 サ ー ビ ス	ホ ー ム ヘル パー が調 理し た 食 事	そ の 他	無 回 答
全体		1,054	70.2	11.3	22.7	9.9	6.3	16.8	1.1
認定 状 況 別	要支援1	296	82.1	5.7	26.4	10.1	2.4	10.1	1.0
	要支援2	199	78.4	11.1	27.1	10.6	4.5	8.0	1.0
	要介護1	172	72.1	13.4	21.5	15.7	11.0	12.2	0.0
	要介護2	166	66.9	15.1	22.9	4.8	9.0	19.9	0.6
	要介護3	107	58.9	15.0	18.7	7.5	7.5	27.1	2.8
	要介護4	69	42.0	17.4	14.5	7.2	10.1	37.7	1.4
	要介護5	45	31.1	8.9	4.4	11.1	2.2	48.9	4.4
世帯 類 型 別	単身世帯	347	56.8	11.8	26.2	14.1	9.8	23.9	0.3
	夫婦のみ世帯（配偶者65歳以上）	352	82.4	9.4	27.6	9.1	4.0	9.7	1.4
	夫婦のみ世帯（配偶者64歳以下）	13	53.8	7.7	0.0	0.0	0.0	38.5	15.4
	その他	309	73.5	14.2	14.2	6.8	5.2	16.2	0.0
現 在 の 住 ま い 別	持ち家（一戸建て）	563	84.5	12.6	21.7	8.3	5.2	8.7	0.7
	持ち家（マンションなど）	104	72.1	12.5	21.2	11.5	4.8	15.4	1.9
	借家（一戸建て）	20	70.0	15.0	25.0	5.0	5.0	10.0	0.0
	借家（マンション・アパートなど）	193	65.8	13.5	33.2	10.9	10.4	8.3	1.6
	グループホーム（認知症対応型共同生活介護）	17	0.0	0.0	0.0	5.9	11.8	88.2	0.0
	軽費老人ホーム（ケアハウス）	9	11.1	0.0	0.0	22.2	33.3	55.6	0.0
	有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅	55	0.0	1.8	3.6	20.0	5.5	74.5	1.8
	その他	82	53.7	4.9	22.0	8.5	3.7	36.6	1.2

※網掛け■は最も割合が高いもの

問 8	ご本人のことで日頃から診療や相談ができるかかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいますか。(〇はいくつでも)
-----	--

かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいるかについては、「かかりつけ医師」が95.1%で最も高く、次いで「かかりつけ歯科医師」が38.6%、「かかりつけ薬局(薬剤師)」が36.1%と続いています。

図表 4-3-3 かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいるか



認定状況別でみると、「かかりつけ医師」では、要介護2が98.8%で最も高くなっています。

区域別でみると、「かかりつけ歯科医師」では、西区が42.2%で最も高く、「かかりつけ薬局(薬剤師)」では、東区が40.9%で最も高くなっています。

図表 4-3-4 かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいるか 属性別

単位：実数(人)、構成比(%)

	合計	かかりつけ医師	かかりつけ歯科医師	かかりつけ薬局(薬剤師)	いない	無回答	
全体	1,054	95.1	38.6	36.1	2.4	1.6	
認定状況別	要支援1	296	94.6	47.3	37.2	1.0	2.7
	要支援2	199	96.5	43.7	31.2	3.0	0.0
	要介護1	172	93.6	30.8	34.3	3.5	1.7
	要介護2	166	98.8	36.7	39.2	0.6	0.0
	要介護3	107	94.4	27.1	33.6	2.8	1.9
	要介護4	69	89.9	31.9	37.7	5.8	4.3
	要介護5	45	93.3	33.3	48.9	4.4	2.2
区域別	堺区	197	92.9	40.6	36.0	3.6	2.0
	中区	131	97.7	32.8	37.4	1.5	0.0
	東区	110	96.4	39.1	40.9	0.0	2.7
	西区	192	95.8	42.2	40.1	3.1	0.5
	南区	206	93.2	39.8	29.6	3.4	2.4
	北区	173	96.5	38.7	38.2	0.6	1.7
	美原区	45	93.3	24.4	24.4	4.4	2.2

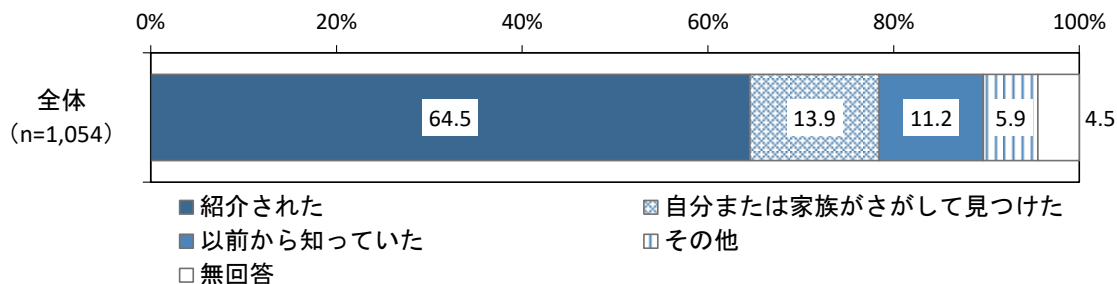
※網掛け■は最も割合が高いもの

## 4. ケアマネジャーについて

問9(1) 担当のケアマネジャーの事業所を知ったきっかけは何ですか。(〇はひとつ)

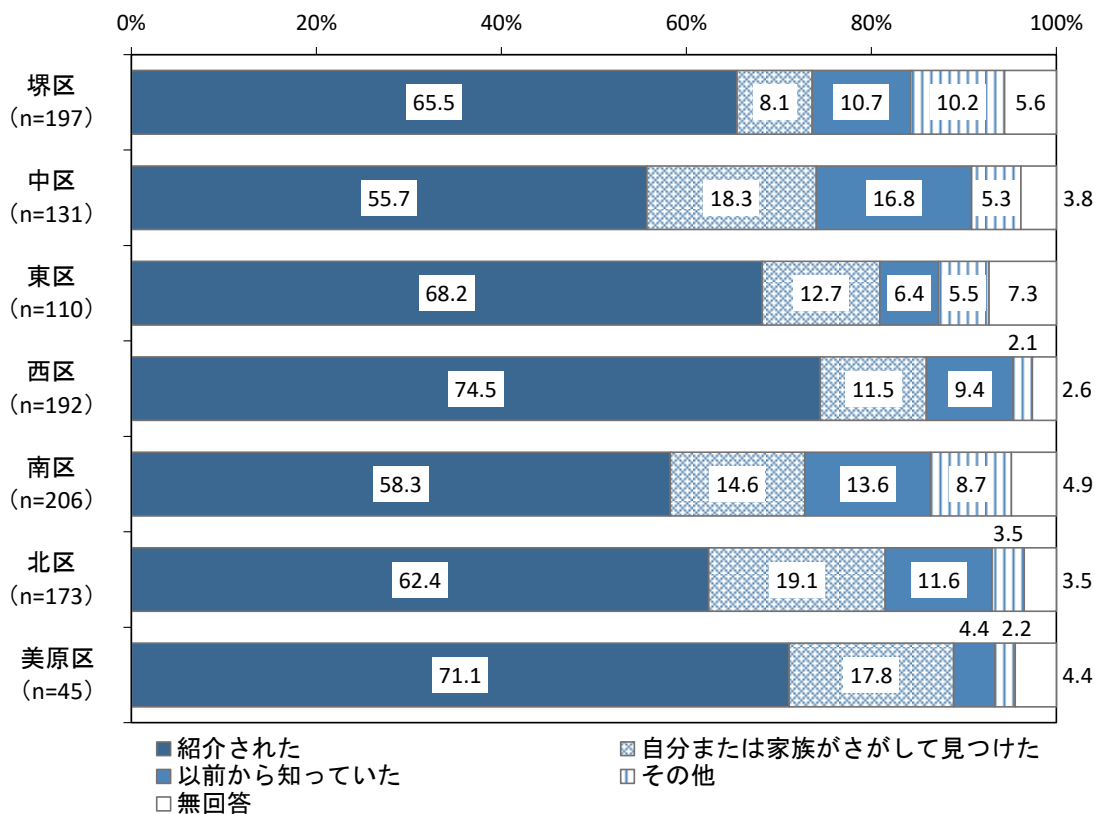
担当のケアマネジャーの事業所を知ったきっかけについては、「紹介された」が64.5%で最も高く、次いで「自分または家族がさがして見つけた」が13.9%、「以前から知っていた」が11.2%と続いています。

図表 4-4-1 担当のケアマネジャーの事業所を知ったきっかけ



区域別でみると、「紹介された」では、西区が74.5%で最も高くなっています。

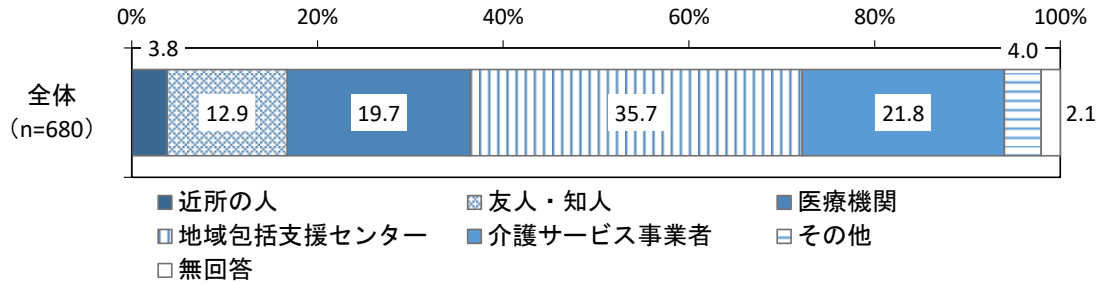
図表 4-4-2 担当のケアマネジャーの事業所を知ったきっかけ 区域別



問9(2) 【問9(1)で「紹介された」を回答した方】  
だれに紹介されましたか。(〇はひとつ)

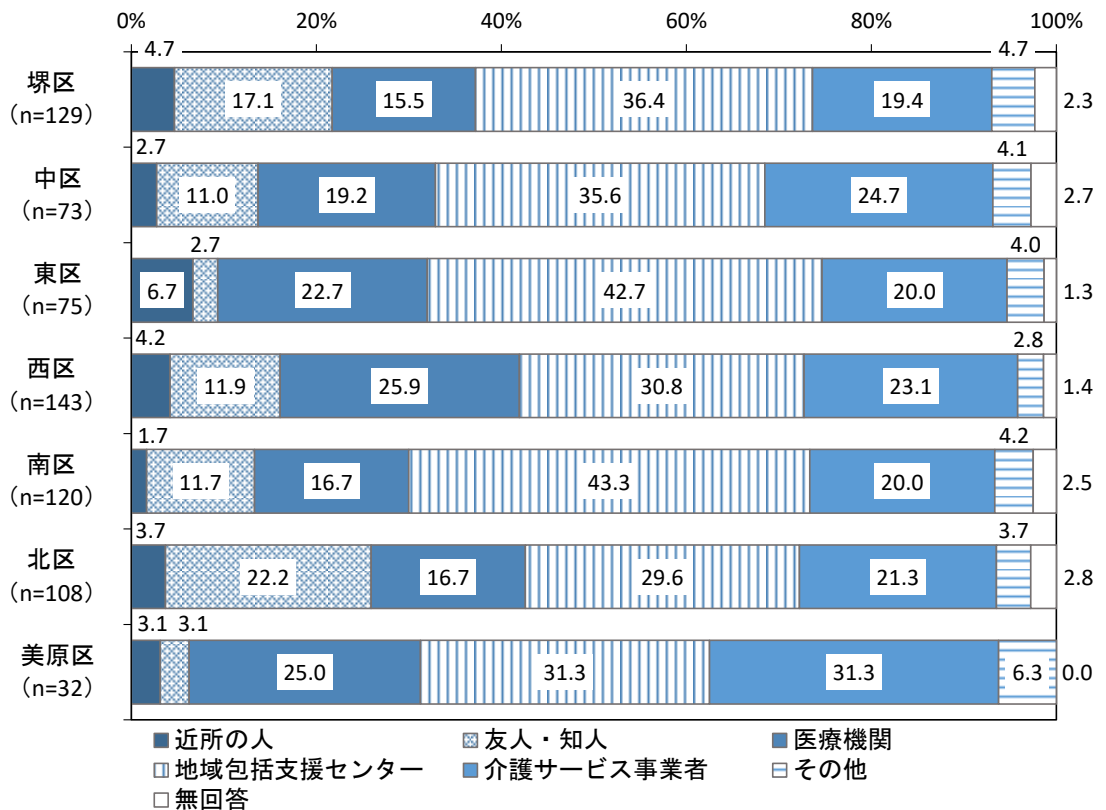
担当のケアマネジャーをだれに紹介されたかについては、「地域包括支援センター」が35.7%で最も高く、次いで「介護サービス事業者」が21.8%、「医療機関」が19.7%と続いています。

図表 4-4-3 担当のケアマネジャーをだれに紹介されたか



区域別でみると、「地域包括支援センター」では、南区が43.3%で最も高く、「介護サービス事業者」では、美原区が31.3%で最も高くなっています。

図表 4-4-4 担当のケアマネジャーをだれに紹介されたか 区域別

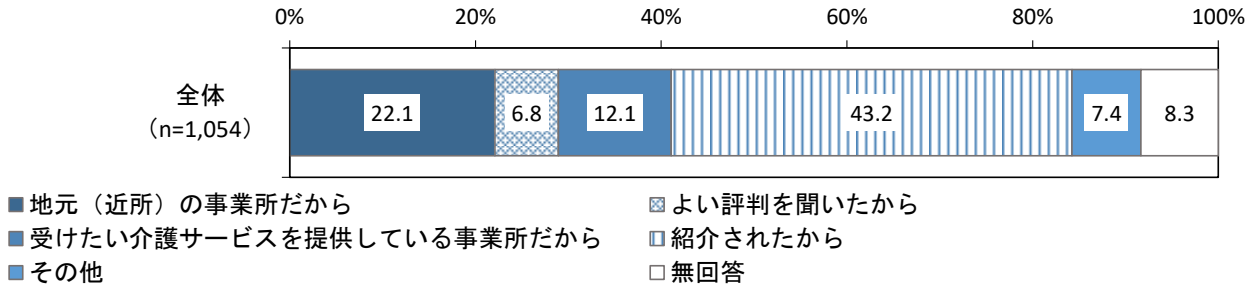




問 10 担当のケアマネジャーの事業所を選んだ理由は何ですか。(〇はひとつ)

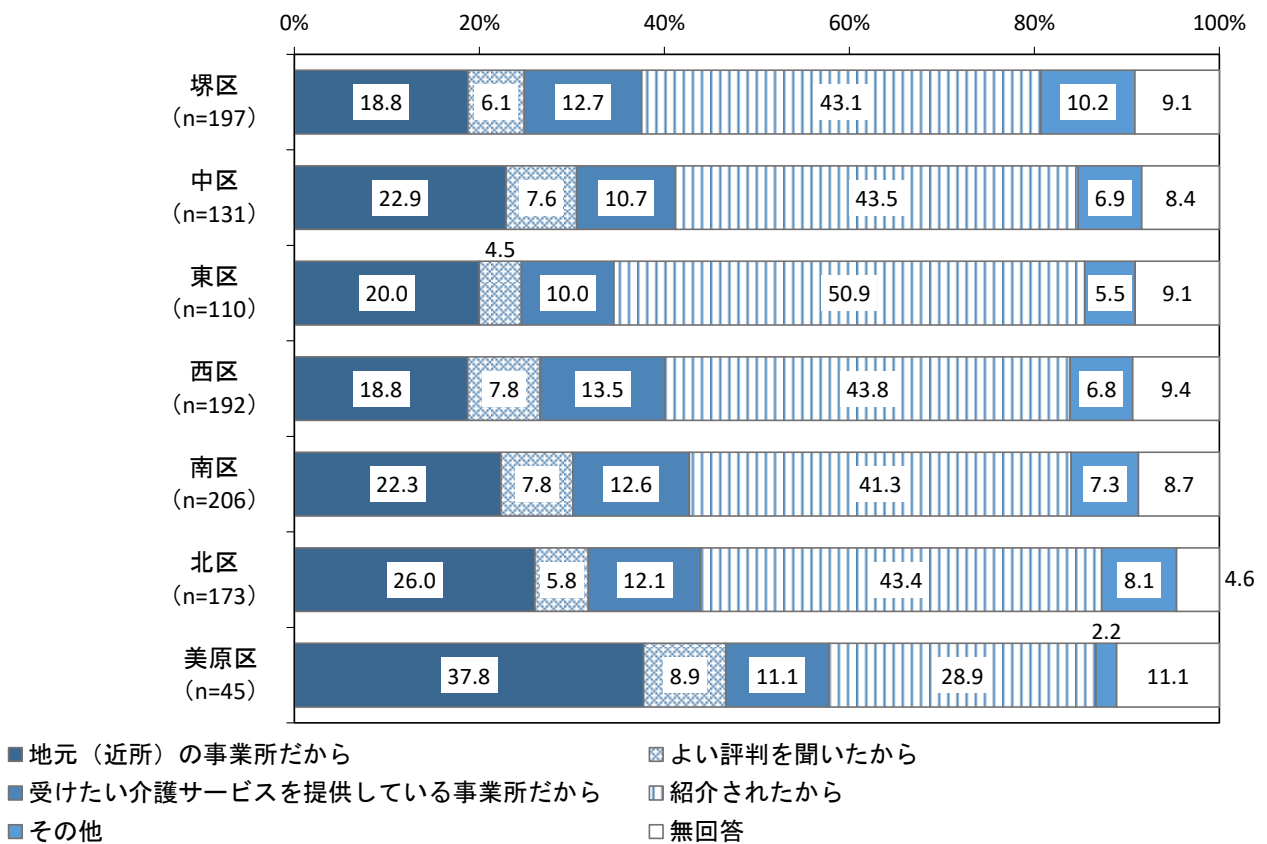
担当のケアマネジャーの事業所を選んだ理由については、「紹介されたから」が43.2%で最も高く、次いで「地元（近所）の事業所だから」が22.1%、「受けたい介護サービスを提供している事業所だから」が12.1%と続いています。

図表 4-4-5 担当のケアマネジャーの事業所を選んだ理由



区域別でみると、「紹介されたから」では、東区が50.9%で最も高く、「地元（近所）の事業所だから」では、美原区が37.8%で最も高くなっています。

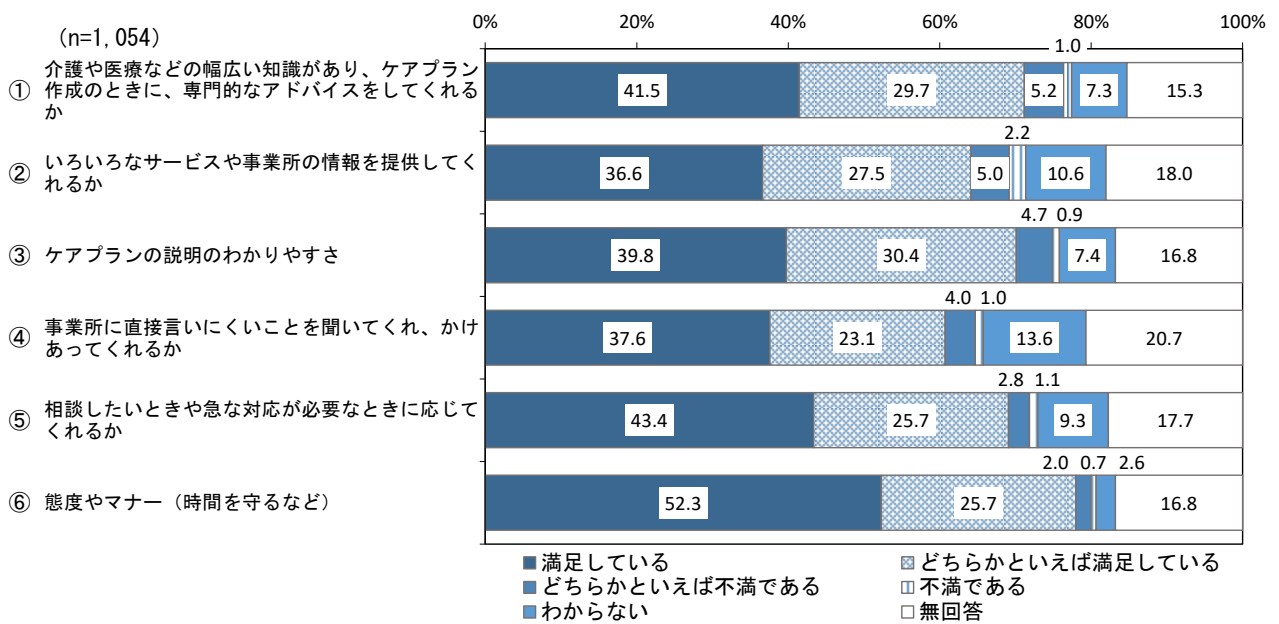
図表 4-4-6 担当のケアマネジャーの事業所を選んだ理由 区域別



問 11	担当のケアマネジャーにどのくらい満足していますか。 (①～⑥の項目について、それぞれ〇はひとつ)
------	---

担当のケアマネジャーの満足度について、『満足している』（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）では、「⑥態度やマナー（時間を守るなど）」が78.0%で最も高く、次いで「①介護や医療などの幅広い知識があり、ケアプラン作成のときに、専門的なアドバイスをしてくれるか」が71.2%、「③ケアプランの説明のわかりやすさ」が70.2%と続いており、『不満である』（「どちらかといえば不満である」と「不満である」の合計）では「②いろいろなサービスや事業所の情報を提供してくれるか」が7.2%で最も高くなっています。

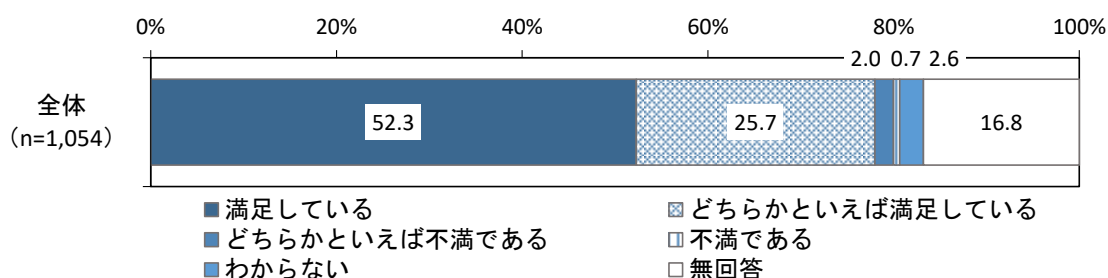
図表 4-4-7 担当のケアマネジャーの満足度



### (1) 介護や医療などの幅広い知識があり、ケアプラン作成のときに、専門的なアドバイスをしてくれるか

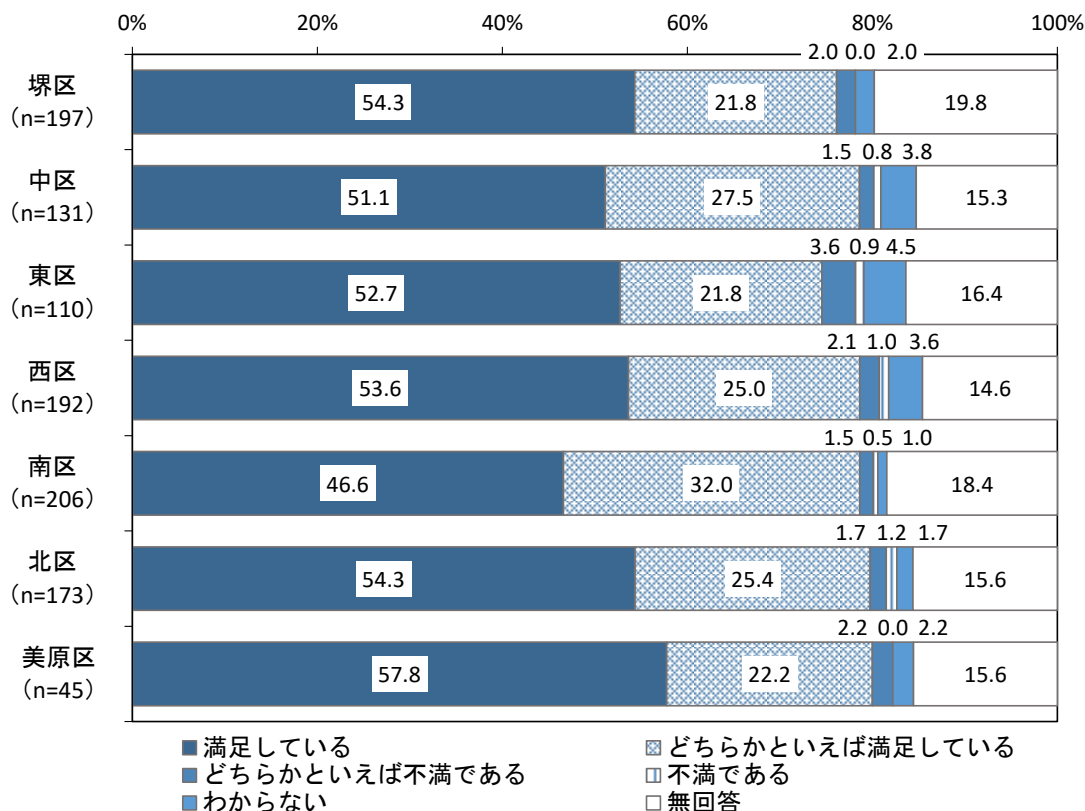
担当のケアマネジャーの満足度について、「介護や医療などの幅広い知識があり、ケアプラン作成のときに、専門的なアドバイスをしてくれるか」では、「満足している」が52.3%で最も高く、次いで「どちらかといえば満足している」が25.7%、「わからない」が2.6%と続いています。

図表 4-4-8 担当のケアマネジャーの満足度 介護や医療などの幅広い知識があり、ケアプラン作成のときに、専門的なアドバイスをしてくれるか



区域別でみると、『満足している』では、美原区が80.0%で最も高く、『不満である』では、東区が4.5%で最も高くなっています。

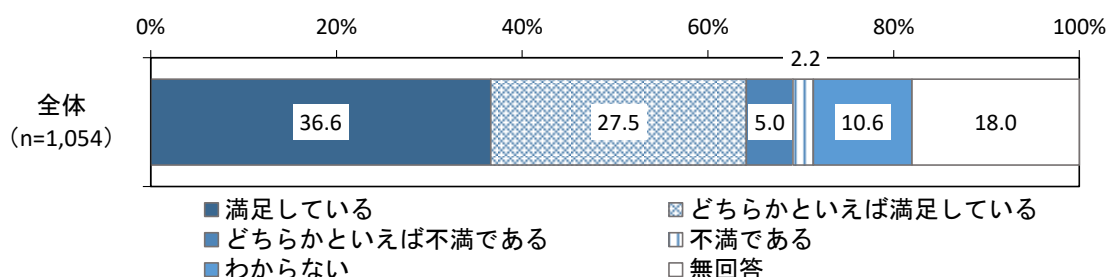
図表 4-4-9 担当のケアマネジャーの満足度 介護や医療などの幅広い知識があり、ケアプラン作成のときに、専門的なアドバイスをしてくれるか 区域別



## (2) いろいろなサービスや事業所の情報を提供してくれるか

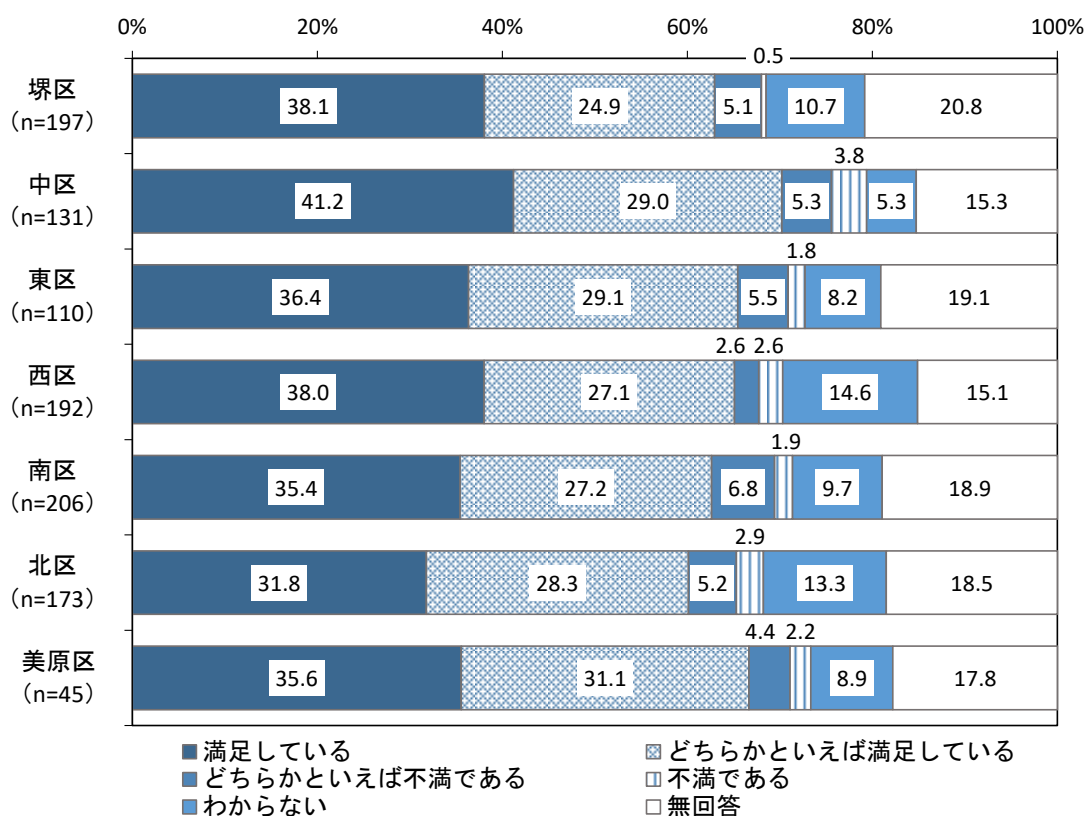
担当のケアマネジャーの満足度について、「いろいろなサービスや事業所の情報を提供してくれるか」では、「満足している」が36.6%で最も高く、次いで「どちらかといえば満足している」が27.5%、「わからない」が10.6%と続いています。

図表 4-4-10 担当のケアマネジャーの満足度 いろいろなサービスや事業所の情報を提供してくれるか



区域別でみると、『満足している』では、中区が70.2%で最も高く、『不満である』では、中区が9.1%で最も高くなっています。

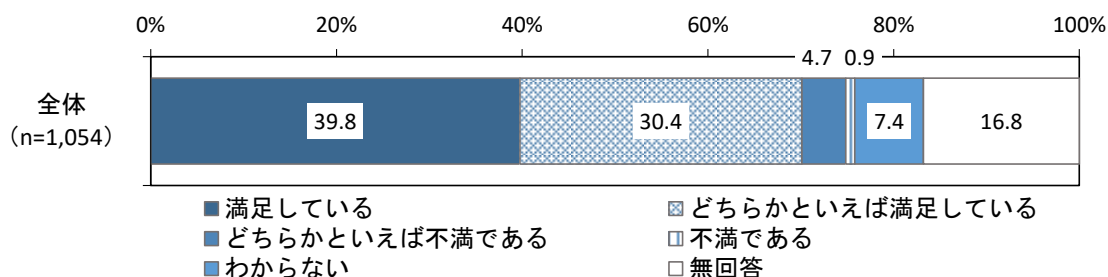
図表 4-4-11 担当のケアマネジャーの満足度 いろいろなサービスや事業所の情報を提供してくれるか 区域別



### (3) ケアプランの説明のわかりやすさ

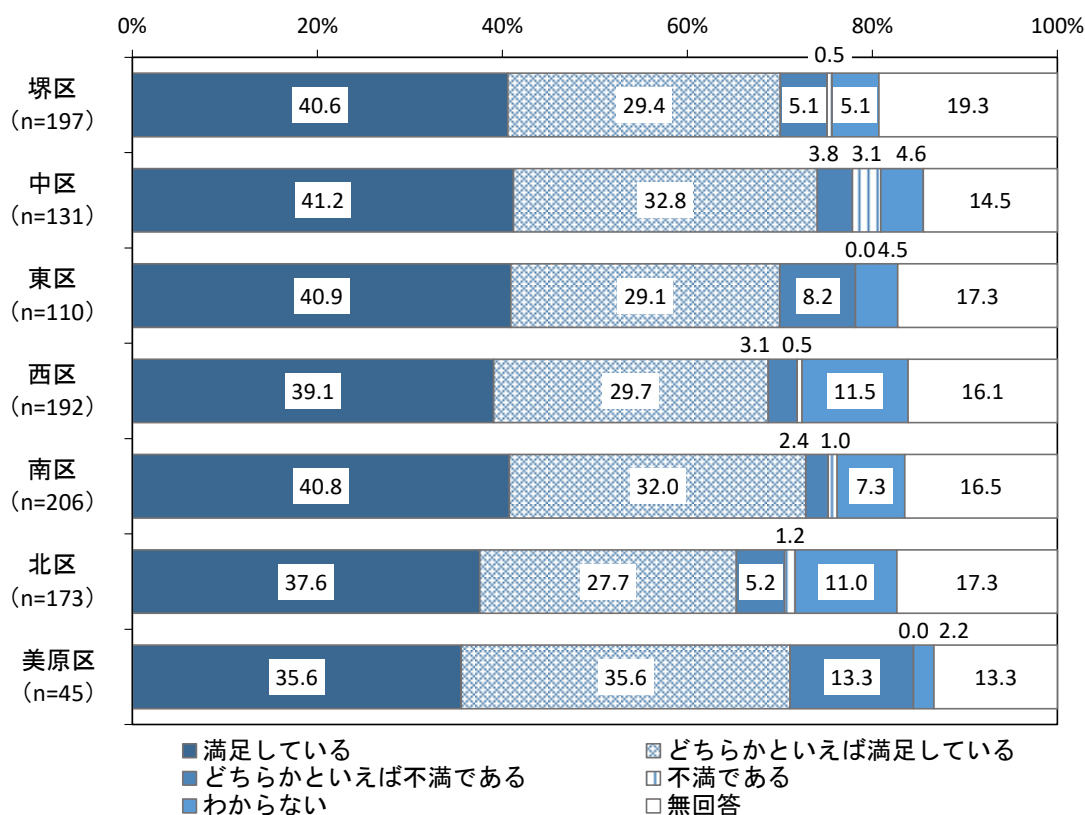
担当のケアマネジャーの満足度について、「ケアプランの説明のわかりやすさ」では、「満足している」が39.8%で最も高く、次いで「どちらかといえば満足している」が30.4%、「わからない」が7.4%と続いています。

図表 4-4-12 担当のケアマネジャーの満足度 ケアプランの説明のわかりやすさ



区域別でみると、『満足している』では、中区が74.0%で最も高く、『不満である』では、美原区が13.3%で最も高くなっています。

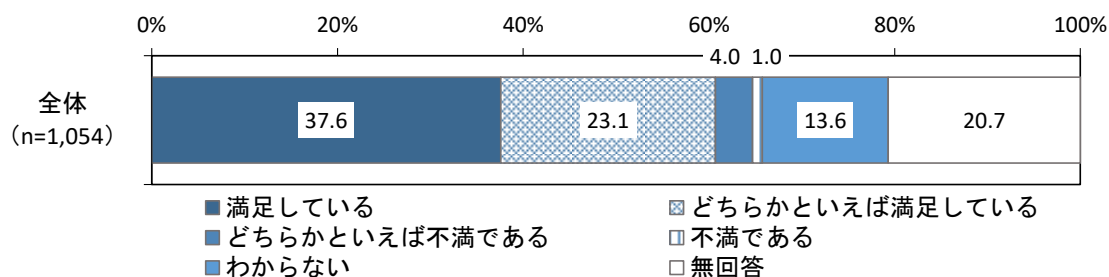
図表 4-4-13 担当のケアマネジャーの満足度 ケアプランの説明のわかりやすさ 区域別



#### (4) 事業所に直接言いにくいことを聞いてくれ、かけあってくれるか

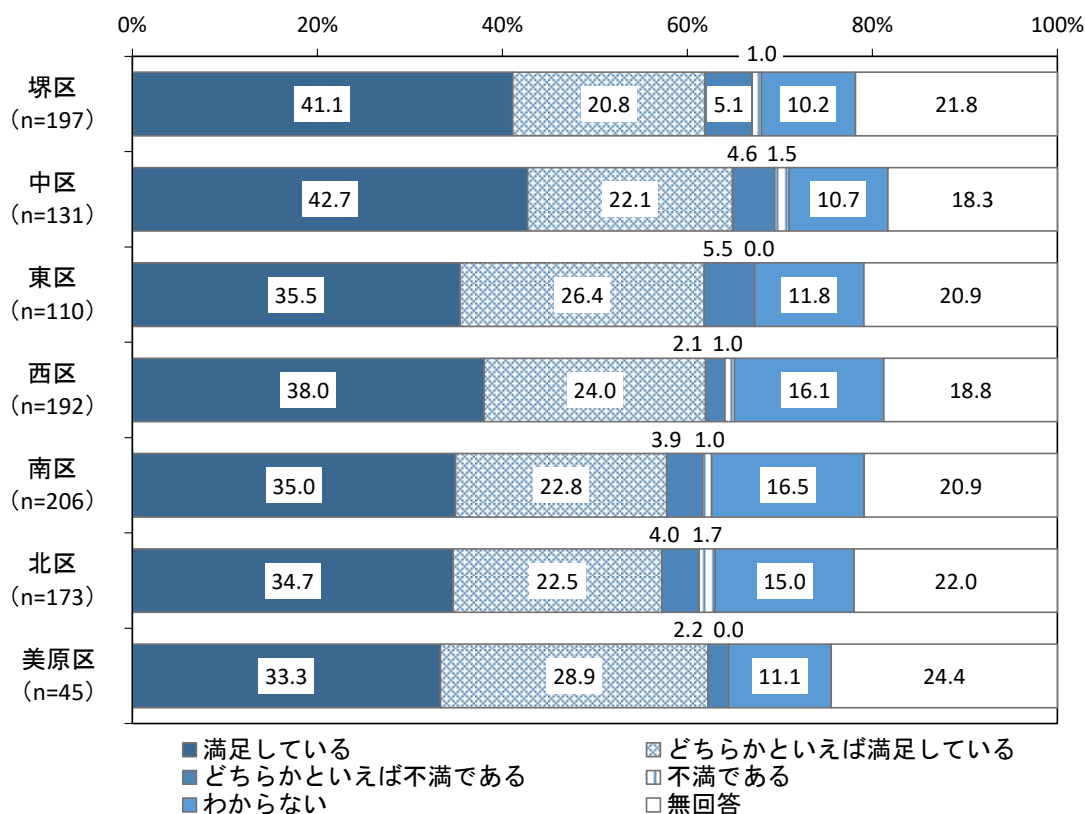
担当のケアマネジャーの満足度について、「事業所に直接言いにくいことを聞いてくれ、かけあってくれるか」では、「満足している」が37.6%で最も高く、次いで「どちらかといえば満足している」が23.1%、「わからない」が13.6%と続いています。

図表 4-4-14 担当のケアマネジャーの満足度 事業所に直接言いにくいことを聞いてくれ、かけあってくれるか



区域別でみると、『満足している』では、中区が64.8%で最も高く、『不満である』では、堺区、中区がいずれも6.1%で最も高くなっています。

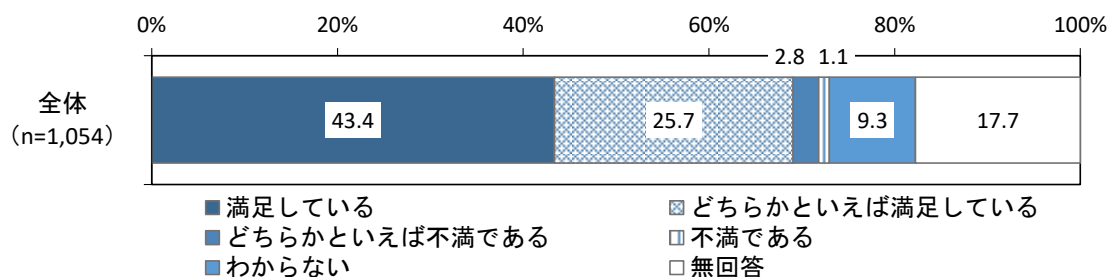
図表 4-4-15 担当のケアマネジャーの満足度 事業所に直接言いにくいことを聞いてくれ、かけあってくれるか 区域別



### (5) 相談したいときや急な対応が必要なときに応じてくれるか

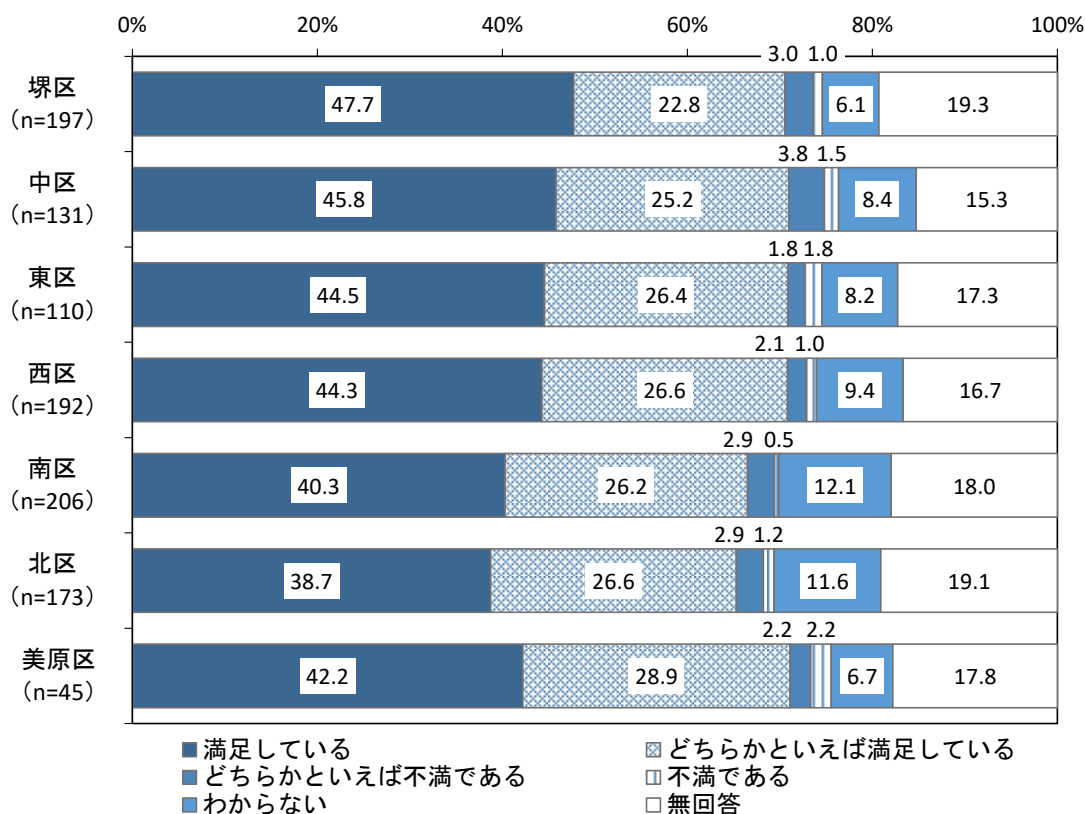
担当のケアマネジャーの満足度について、「相談したいときや急な対応が必要なときに応じてくれるか」では、「満足している」が43.4%で最も高く、次いで「どちらかといえば満足している」が25.7%、「わからない」が9.3%と続いています。

図表 4-4-16 担当のケアマネジャーの満足度 相談したいときや急な対応が必要なときに  
応じてくれるか



区域別でみると、『満足している』では、美原区が71.1%で最も高く、『不満である』では、中区が5.3%で最も高くなっています。

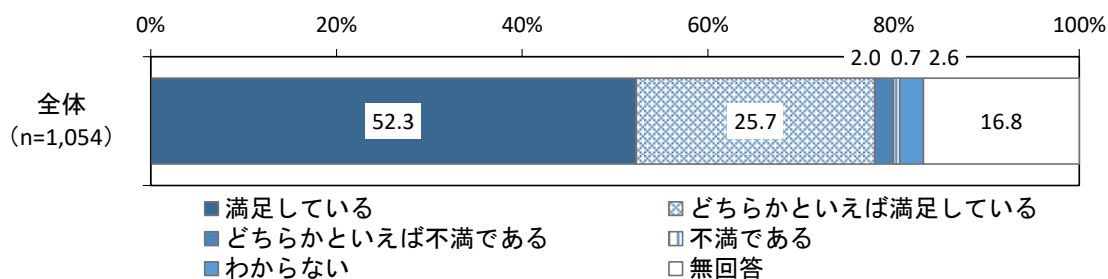
図表 4-4-17 担当のケアマネジャーの満足度 相談したいときや急な対応が必要なときに  
応じてくれるか 区域別



## (6) 態度やマナー（時間を守るなど）

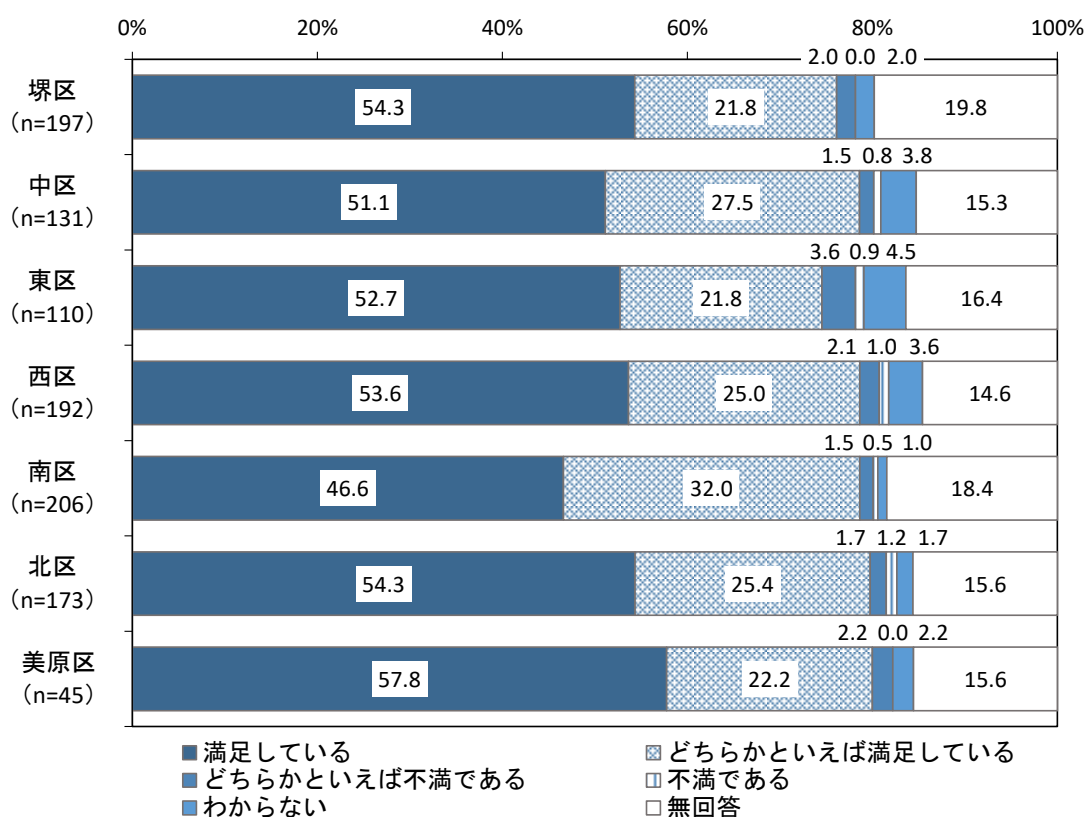
担当のケアマネジャーの満足度について、「態度やマナー（時間を守るなど）」では、「満足している」が52.3%で最も高く、次いで「どちらかといえば満足している」が25.7%、「わからない」が2.6%と続いています。

図表 4-4-18 担当のケアマネジャーの満足度 態度やマナー



区域別でみると、『満足している』では、美原区が80.0%で最も高く、『不満である』では、東区が4.5%で最も高くなっています。

図表 4-4-19 担当のケアマネジャーの満足度 態度やマナー 区域別

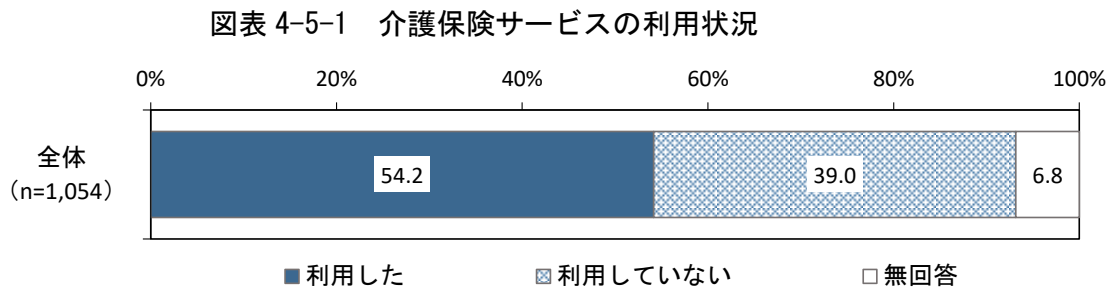




## 5. サービスの利用状況について

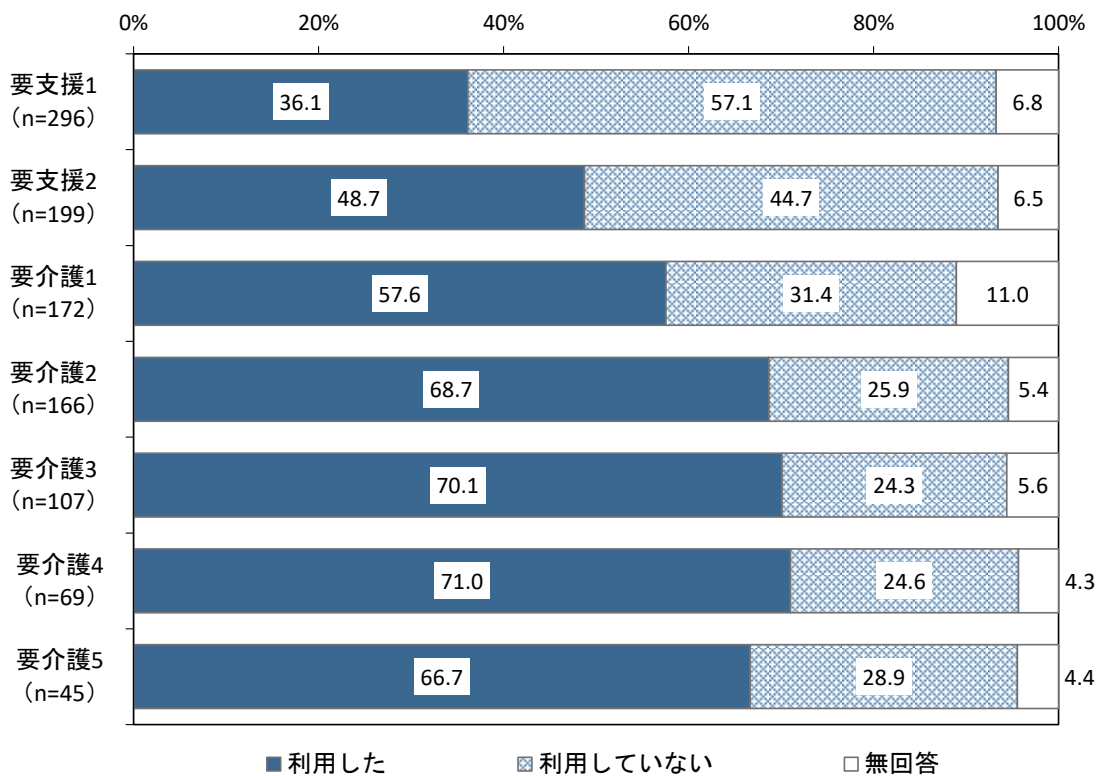
問 12	令和元年11月の1か月の間に、ご本人は（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用しましたか。（〇はひとつ）
------	--

介護保険サービスの利用状況については、「利用した」が54.2%、「利用していない」が39.0%となっています。



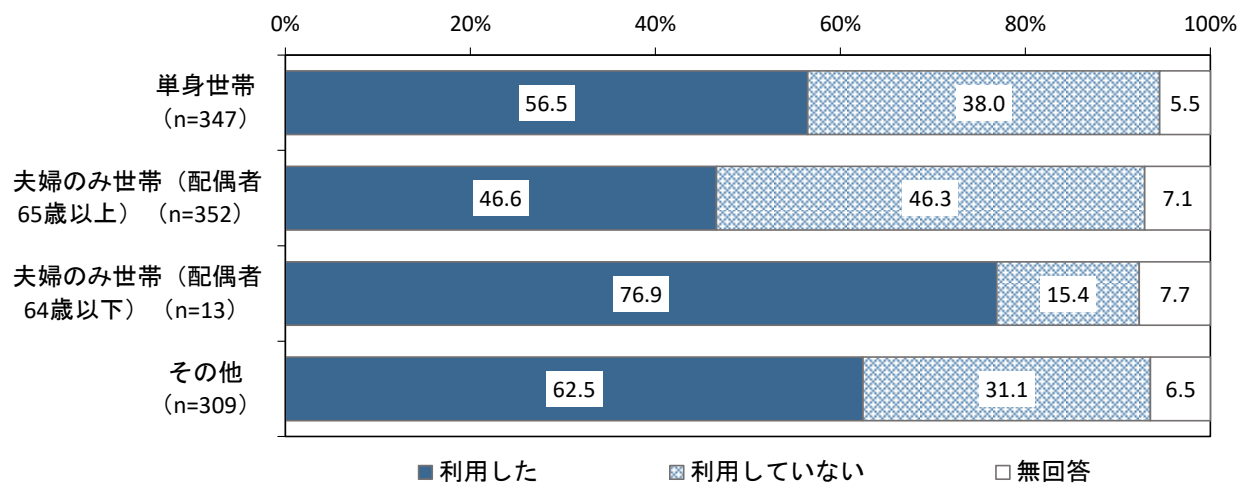
認定状況別でみると、「利用した」では、要介護4以下で要介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護4が71.0%で最も高くなっています。

図表 4-5-2 介護保険サービスの利用状況 認定状況別



世帯類型別でみると、「利用した」では、夫婦のみ世帯（配偶者 64 歳以下）が 76.9%で最も高く、「利用していない」では、夫婦のみ世帯（配偶者 65 歳以上）が 46.3%で最も高くなっています。

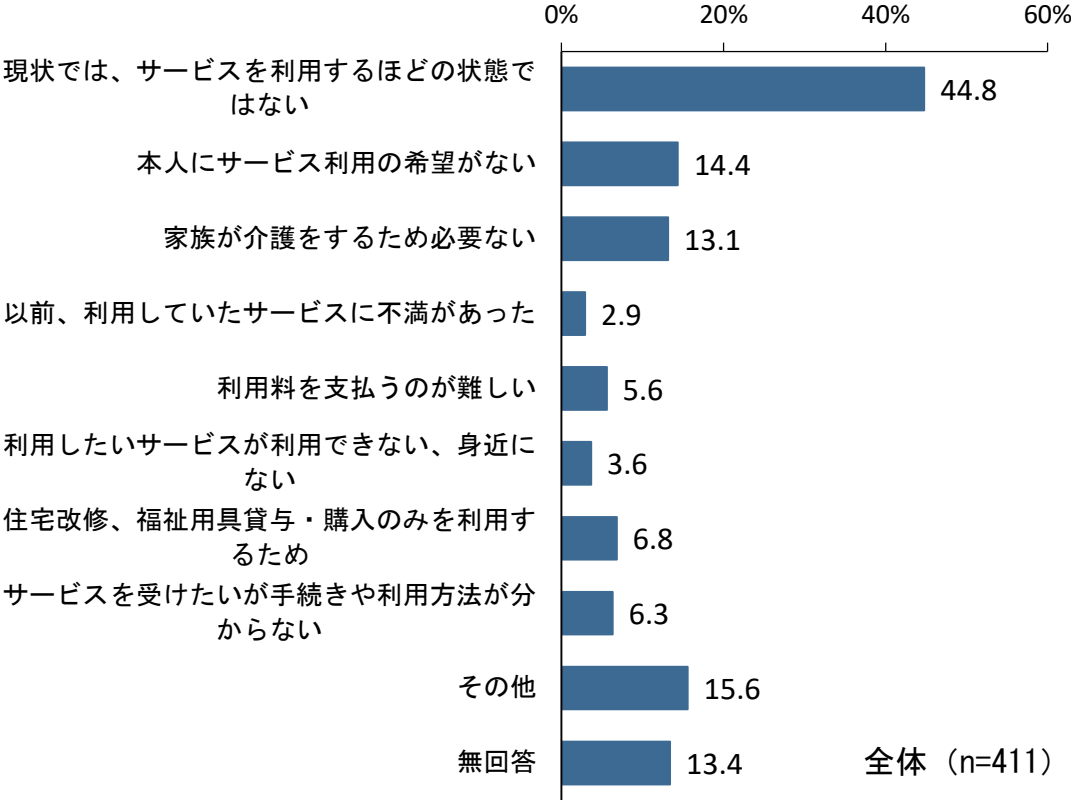
図表 4-5-3 介護保険サービスの利用状況 世帯類型別



問 13	【問 12 で「利用していない」を回答した方】 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)
------	--

介護保険サービスを利用していない理由については、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 44.8%で最も高く、次いで「その他」が 15.6%、「本人にサービス利用の希望がない」が 14.4%と続いています。

図表 4-5-4 介護保険サービスを利用していない理由



認定状況別でみると、要支援1から要介護3では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高く、要介護4以上では「その他」の割合が最も高くなっています。

区域別でみると、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」では、西区が6.6%で最も高くなっています。

世帯類型別でみると、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」では、単身世帯が47.7%で最も高くなっています。

図表 4-5-5 介護保険サービスを利用していない理由 属性別・世帯類型別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	本人にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があった	利用料を支払うのが難しい	利用したいサービスが利用できない、身近にない	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	サービスを受けたいが手続きが分からない	その他	無回答
全体		411	44.8	14.4	13.1	2.9	5.6	3.6	6.8	6.3	15.6	13.4
認定状況別	要支援1	169	60.9	14.2	10.1	3.0	5.3	4.1	4.7	5.9	9.5	10.7
	要支援2	89	33.7	14.6	9.0	6.7	6.7	4.5	12.4	10.1	16.9	16.9
	要介護1	54	35.2	20.4	16.7	1.9	7.4	3.7	5.6	9.3	13.0	13.0
	要介護2	43	37.2	18.6	20.9	0.0	4.7	4.7	9.3	2.3	14.0	14.0
	要介護3	26	42.3	11.5	19.2	0.0	7.7	0.0	0.0	3.8	19.2	19.2
	要介護4	17	23.5	0.0	23.5	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	47.1	11.8
	要介護5	13	7.7	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	53.8	15.4
区域別	堺区	88	51.1	14.8	5.7	2.3	3.4	2.3	9.1	5.7	10.2	14.8
	中区	54	42.6	13.0	20.4	1.9	9.3	1.9	9.3	5.6	13.0	9.3
	東区	48	43.8	14.6	18.8	2.1	0.0	6.3	8.3	6.3	18.8	10.4
	西区	61	45.9	18.0	13.1	6.6	8.2	6.6	9.8	9.8	14.8	8.2
	南区	78	47.4	6.4	11.5	1.3	2.6	2.6	5.1	3.8	23.1	16.7
	北区	69	36.2	21.7	14.5	2.9	8.7	4.3	1.4	7.2	15.9	15.9
	美原区	13	38.5	7.7	15.4	7.7	15.4	0.0	0.0	7.7	7.7	23.1
世帯類型別	単身世帯	132	47.7	15.2	4.5	3.0	7.6	8.3	4.5	7.6	18.9	15.2
	夫婦のみ世帯（配偶者65歳以上）	163	46.6	12.3	19.0	3.1	4.3	1.8	8.0	3.7	11.0	15.3
	夫婦のみ世帯（配偶者64歳以下）	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	その他	96	41.7	19.8	14.6	3.1	6.3	0.0	7.3	7.3	16.7	6.3

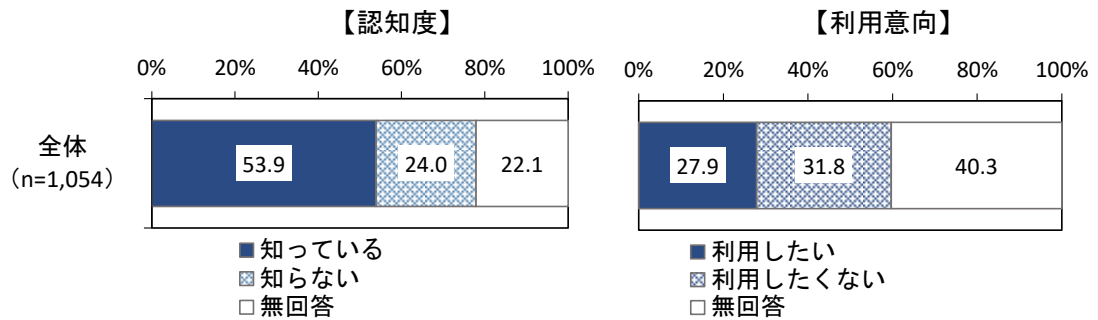
※網掛け■は最も割合が高いもの

問 14	次の介護保険サービスを知っていますか。また、利用したいと思いませんか。 (①～③の項目について、それぞれ〇はひとつ)
------	---

(1) 小規模多機能型居宅介護

小規模多機能型居宅介護の認知度については、「知っている」が53.9%、「知らない」が24.0%で、利用意向については、「利用したい」が27.9%、「利用したくない」が31.8%となっています。

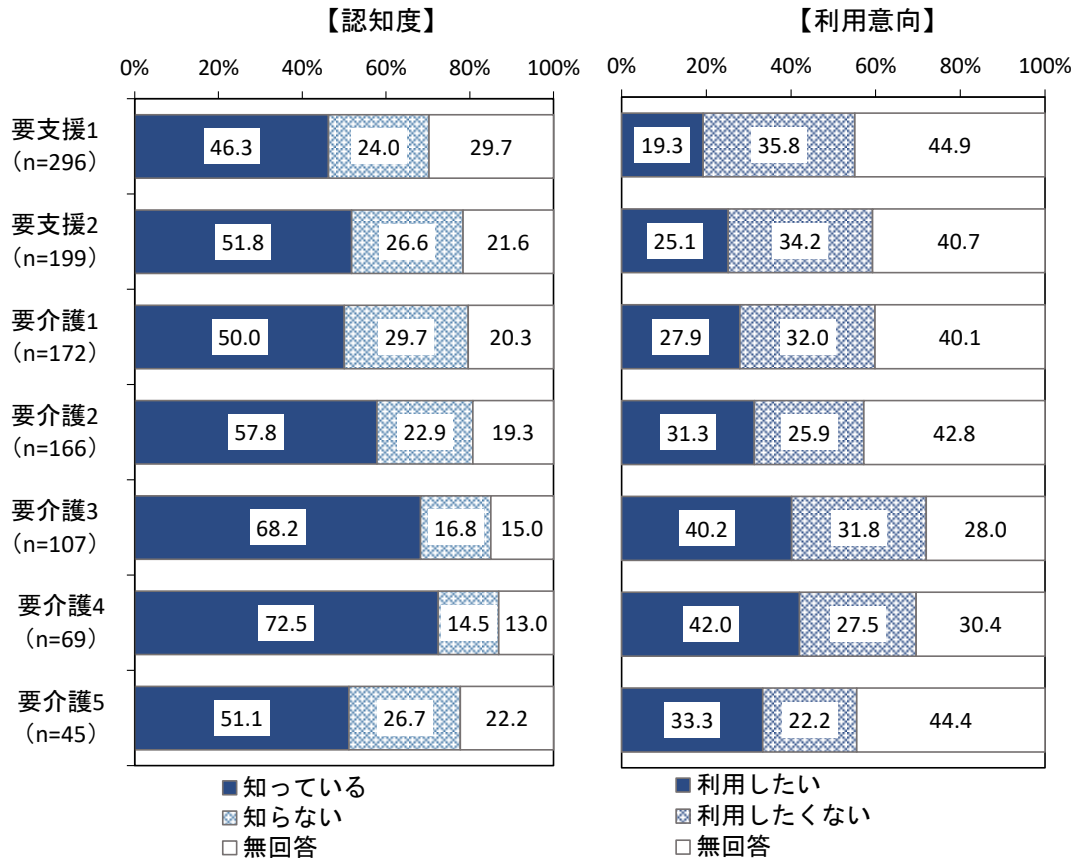
図表 4-5-6 小規模多機能型居宅介護の認知度と利用意向



認定状況別でみると、認知度について、「知っている」では、要介護1から要介護4で要介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護4が72.5%で最も高くなっています。

利用意向について、「利用したい」では、要介護4以下で要介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護4が42.0%で最も高くなっています。

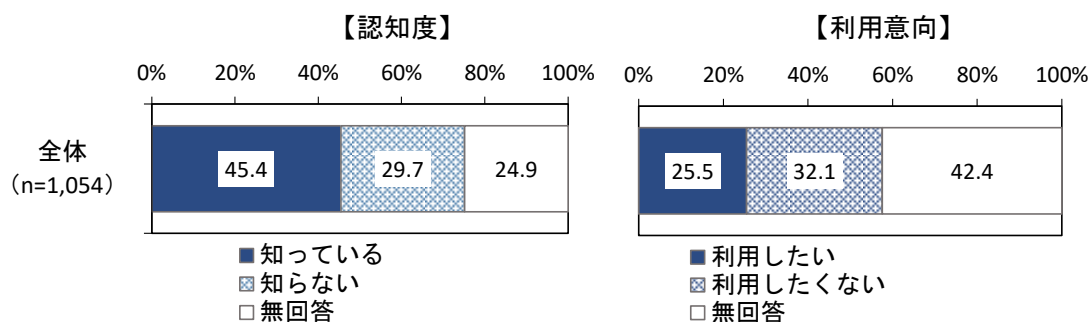
図表 4-5-7 小規模多機能型居宅介護の認知度と利用意向 認定状況別



## (2) 看護小規模多機能型居宅介護（複合型サービス）

看護小規模多機能型居宅介護（複合型サービス）の認知度については、「知っている」が45.4%、「知らない」が29.7%で、利用意向については、「利用したい」が25.5%、「利用したくない」が32.1%となっています。

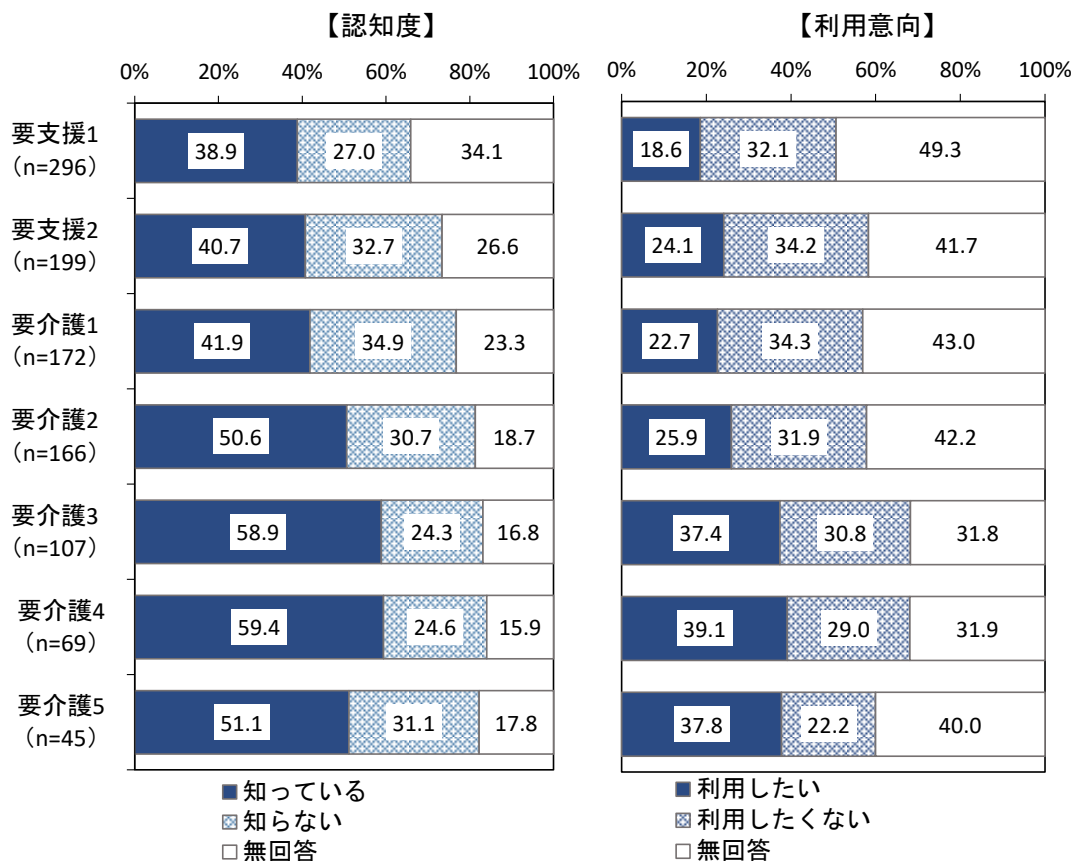
図表 4-5-8 看護小規模多機能型居宅介護（複合型サービス）の認知度と利用意向



認定状況別でみると、認知度について、「知っている」では、要介護4以下で要介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護4が59.4%で最も高くなっています。

利用意向について、「利用したい」では、要介護1から要介護4で要介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護4が39.1%で最も高くなっています。

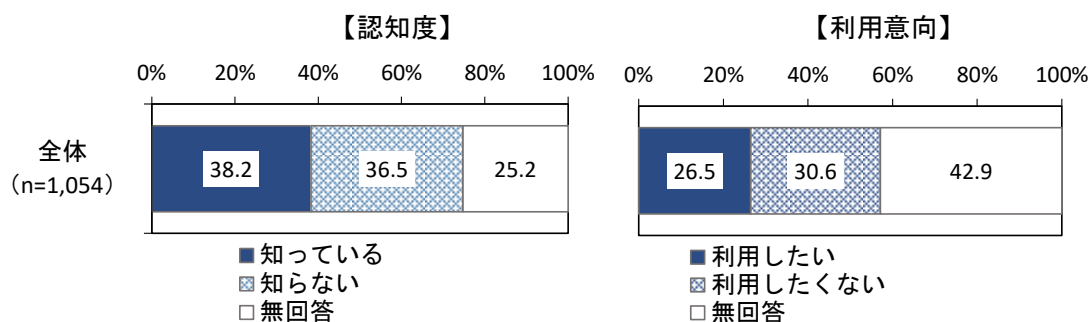
図表 4-5-9 看護小規模多機能型居宅介護（複合型サービス）の認知度と利用意向 認定状況別



### (3) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

定期巡回・随時対応型訪問介護看護の認知度については、「知っている」が38.2%、「知らない」が36.5%で、利用意向については、「利用したい」が26.5%、「利用したくない」が30.6%となっています。

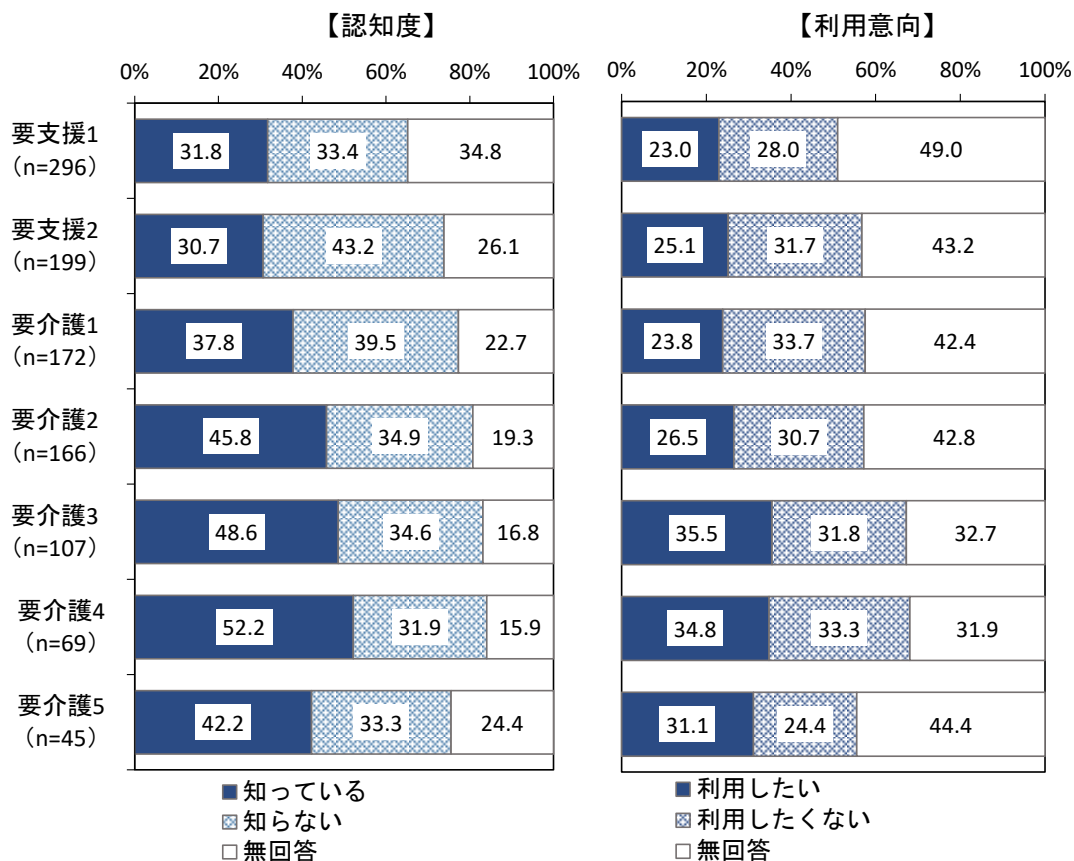
図表 4-5-10 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の認知度と利用意向



認定状況別でみると、認知度について、「知っている」では、要支援2から要介護4で要介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護4が52.2%で最も高くなっています。

利用意向について、「利用したい」では、要介護1から要介護3で要介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護3が35.5%で最も高くなっています。

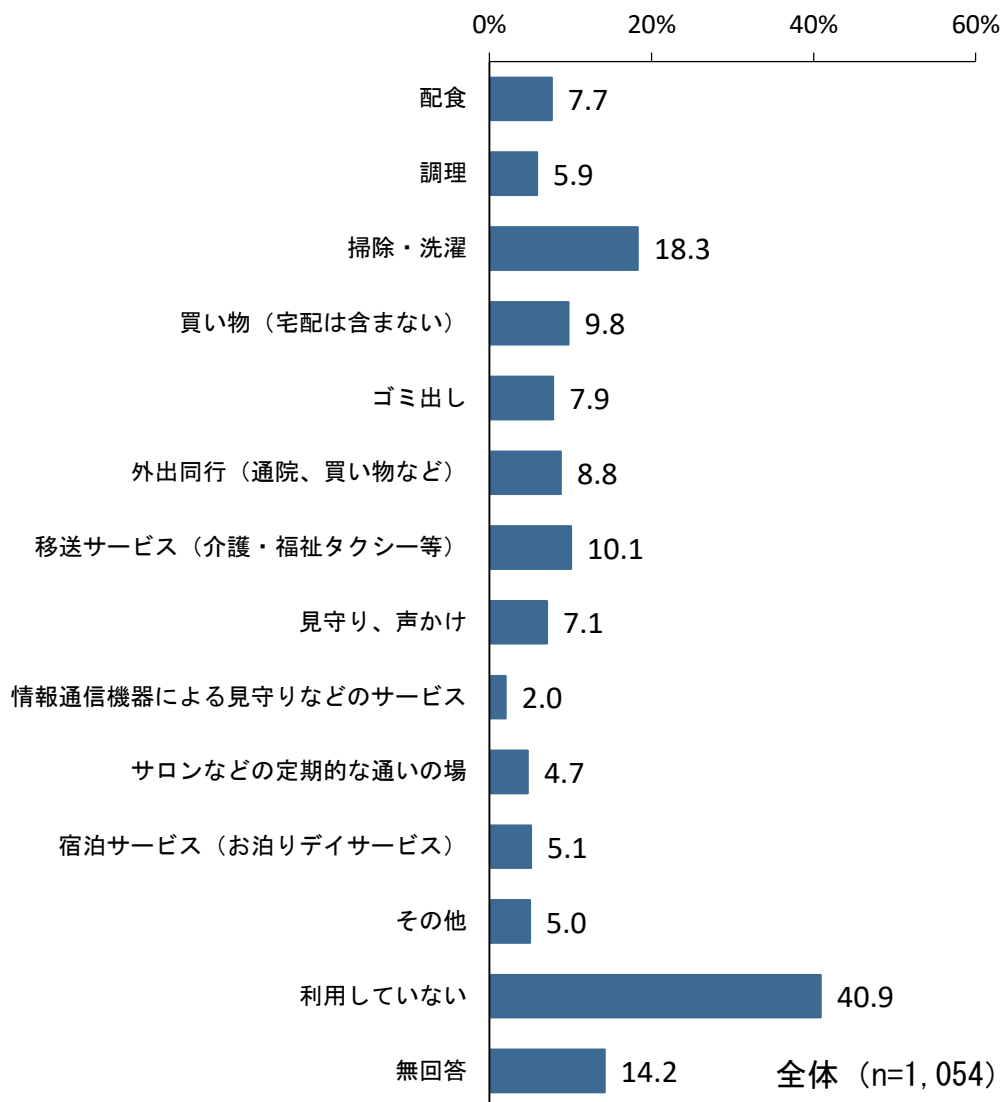
図表 4-5-11 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の認知度と利用意向 認定状況別



問 15	現在、ご本人が利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、お教えてください。(〇はいくつでも)
------	---

現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービスについては、「利用していない」が40.9%で最も高く、次いで「掃除・洗濯」が18.3%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が10.1%と続いています。

図表 4-5-12 現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス





認定状況別でみると、「利用していない」では、要介護4が43.5%で最も高く、「掃除・洗濯」では、要支援2が23.1%で最も高くなっています。

区域別でみると、「利用していない」では、東区が43.6%で最も高く、「サロンなどの定期的な通いの場」では、美原区が6.7%で最も高くなっています。

図表 4-5-13 現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス 属性別

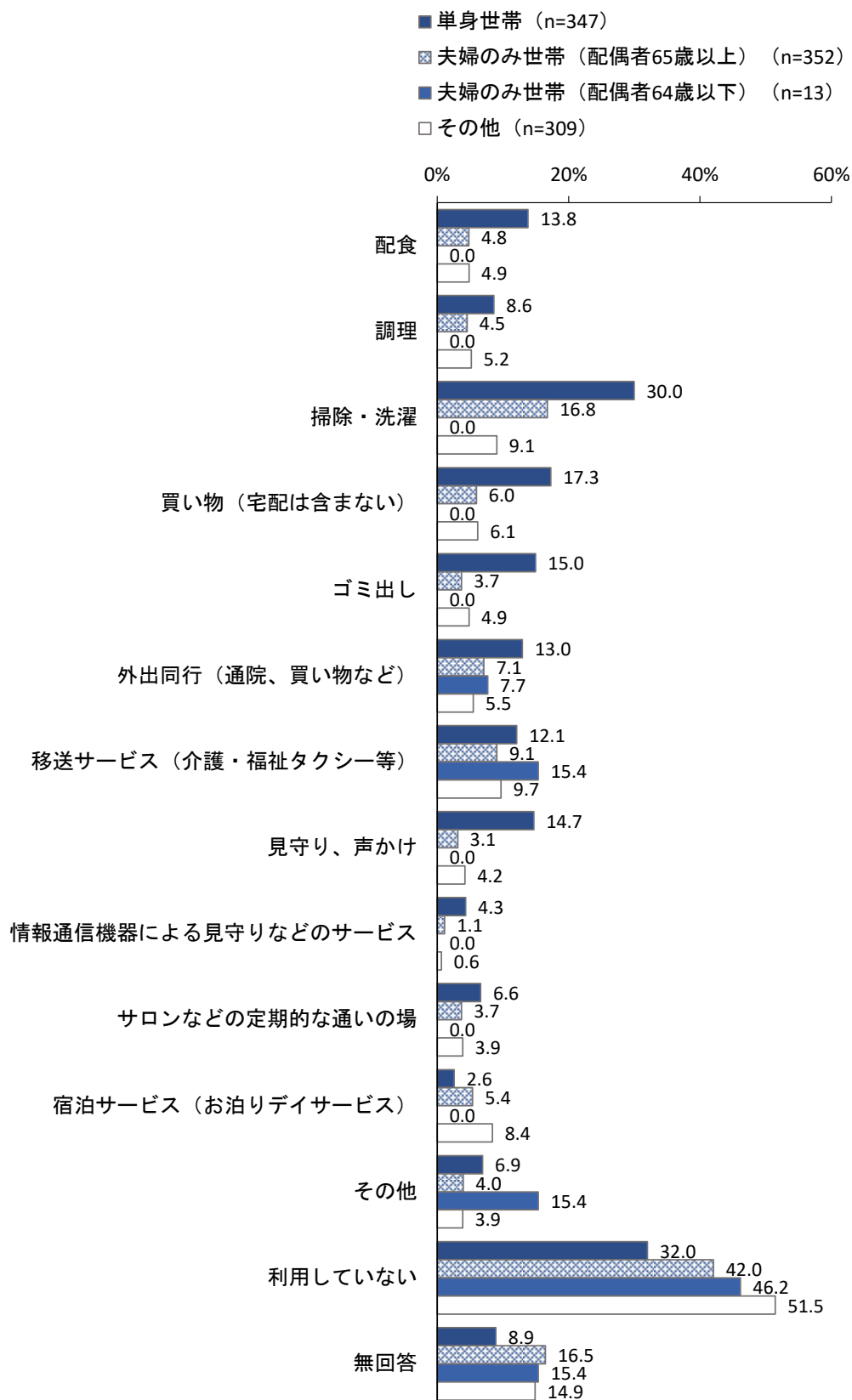
単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	情報通信機器による見守り	のサロンなどの定期的な通いの場		
												合計	利用していない
全体	1,054	7.7	5.9	18.3	9.8	7.9	8.8	10.1	7.1	2.0	4.7	40.9	14.2
認定状況別	要支援1	296	4.7	2.0	19.3	8.1	6.1	4.1	3.7	2.7	0.7	41.9	18.6
	要支援2	199	6.5	3.5	23.1	14.6	7.0	9.5	10.1	4.0	3.5	38.7	13.6
	要介護1	172	11.6	9.9	16.3	11.6	8.1	13.4	7.6	7.6	1.2	41.9	9.3
	要介護2	166	7.2	7.8	18.7	9.0	9.0	11.4	11.4	10.2	3.6	42.2	14.5
	要介護3	107	9.3	9.3	14.0	7.5	12.1	11.2	15.0	10.3	0.9	39.3	11.2
	要介護4	69	8.7	7.2	14.5	5.8	8.7	5.8	21.7	13.0	4.3	43.5	8.7
	要介護5	45	13.3	8.9	13.3	6.7	6.7	8.9	26.7	20.0	0.0	35.6	22.2
区域別	堺区	197	7.6	8.1	20.3	10.7	7.6	7.6	8.1	8.6	1.0	34.0	18.8
	中区	131	9.2	4.6	17.6	9.9	9.2	7.6	9.9	10.7	0.8	43.5	16.0
	東区	110	7.3	2.7	14.5	10.9	4.5	10.0	9.1	7.3	3.6	43.6	12.7
	西区	192	7.3	6.8	17.2	10.9	7.3	10.9	16.7	7.8	2.6	40.6	10.4
	南区	206	8.3	4.9	18.9	5.8	8.3	7.8	8.3	4.9	3.4	43.2	12.1
	北区	173	6.9	6.4	19.1	11.6	8.1	8.7	7.5	5.8	0.6	42.2	13.9
	美原区	45	6.7	6.7	20.0	8.9	13.3	11.1	11.1	2.2	2.2	42.2	20.0
全体	1,054	5.1	5.0	40.9	14.2								
認定状況別	要支援1	296	1.0	5.7	41.9	18.6							
	要支援2	199	2.0	4.5	38.7	13.6							
	要介護1	172	4.1	5.2	41.9	9.3							
	要介護2	166	8.4	1.8	42.2	14.5							
	要介護3	107	10.3	7.5	39.3	11.2							
	要介護4	69	17.4	8.7	43.5	8.7							
	要介護5	45	6.7	2.2	35.6	22.2							
区域別	堺区	197	4.1	3.6	34.0	18.8							
	中区	131	3.8	4.6	43.5	16.0							
	東区	110	8.2	5.5	43.6	12.7							
	西区	192	6.3	4.7	40.6	10.4							
	南区	206	4.9	7.8	43.2	12.1							
	北区	173	5.2	4.0	42.2	13.9							
	美原区	45	2.2	4.4	42.2	20.0							

※網掛け■は最も割合が高いもの

世帯類型別でみると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「宿泊サービス（お泊りデイサービス）」「その他」「利用していない」以外のすべての項目で単身世帯の割合が最も高くなっています。

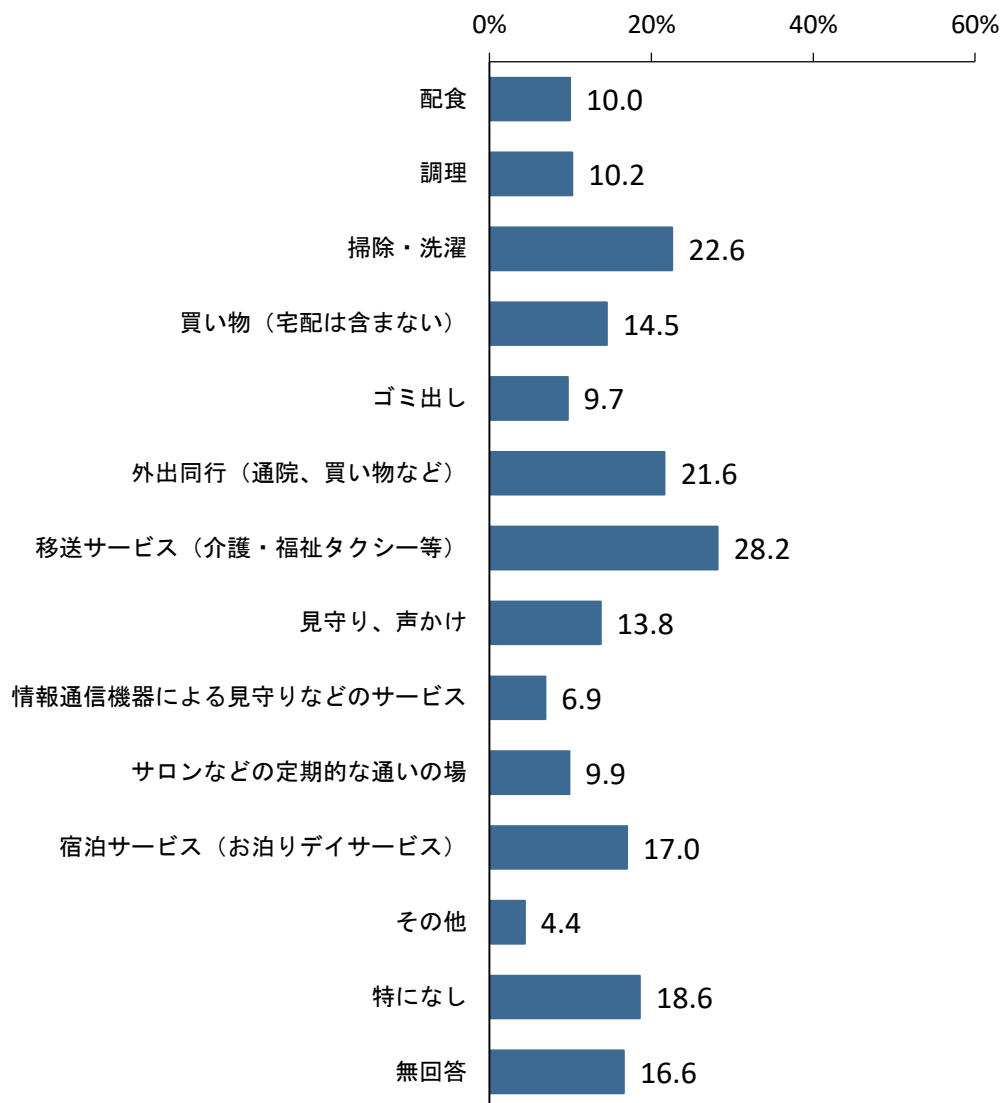
図表 4-5-14 現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス 世帯類型別



問 16	今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、お教えてください。（〇はいくつでも）
------	--

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が28.2%で最も高く、次いで「掃除・洗濯」が22.6%、「外出同行（通院、買い物など）」が21.6%と続いています。

図表 4-5-15 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



全体 (n=1,054)

認定状況別でみると、要支援1、要支援2では「掃除・洗濯」の割合が最も高く、要介護1、要介護3では「宿泊サービス（お泊りデイサービス）」の割合が最も高く、要介護2、要介護4、要介護5では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が最も高くなっています。

区域別でみると、「サロンなどの定期的な通いの場」では、北区が12.1%で最も高くなっています。

図表 4-5-16 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス 属性別

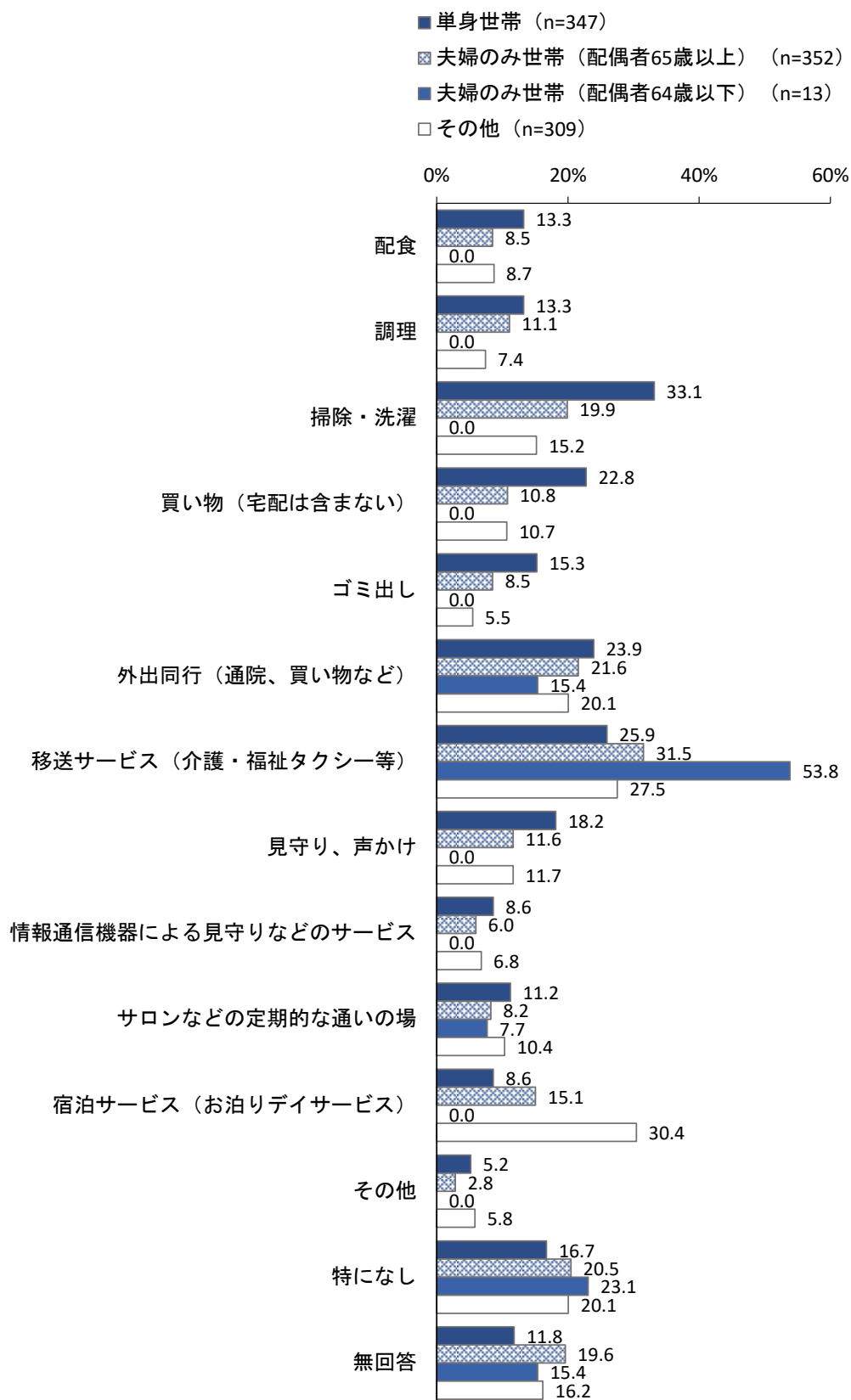
単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	見守り、声かけ	情報通信機器による見守り	のサロンなどの定期的な通い
全体		1,054	10.0	10.2	22.6	14.5	9.7	21.6	28.2	13.8	6.9	9.9
認定状況別	要支援1	296	8.4	6.1	25.3	14.5	7.8	17.9	24.7	9.1	5.4	8.8
	要支援2	199	8.0	11.6	32.7	17.1	11.1	23.6	31.7	14.6	5.5	10.1
	要介護1	172	12.8	15.1	16.9	18.0	10.5	22.1	23.8	16.9	7.6	14.5
	要介護2	166	9.0	11.4	21.7	15.7	9.0	25.9	31.9	13.9	9.0	10.8
	要介護3	107	11.2	12.1	18.7	11.2	12.1	20.6	27.1	14.0	7.5	6.5
	要介護4	69	8.7	7.2	5.8	2.9	5.8	15.9	31.9	15.9	7.2	8.7
要介護5	45	20.0	8.9	20.0	11.1	15.6	31.1	35.6	24.4	11.1	4.4	
区域別	堺区	197	9.1	13.2	28.4	20.3	10.2	24.4	24.4	16.8	8.1	11.7
	中区	131	10.7	6.9	17.6	12.2	6.9	22.1	28.2	14.5	4.6	9.2
	東区	110	8.2	9.1	21.8	16.4	8.2	23.6	30.9	12.7	8.2	10.9
	西区	192	7.8	10.4	17.7	13.5	7.3	26.0	32.3	11.5	6.3	8.9
	南区	206	14.6	9.7	24.8	11.2	13.6	18.0	22.8	13.1	8.3	7.8
	北区	173	8.7	11.0	23.1	14.5	9.8	18.5	31.8	14.5	5.8	12.1
	美原区	45	8.9	8.9	22.2	11.1	11.1	13.3	31.1	11.1	6.7	6.7
		合計	宿泊サービス（お泊りデイサービス）	その他	特になし	無回答						
全体		1,054	17.0	4.4	18.6	16.6						
認定状況別	要支援1	296	3.4	5.1	23.3	17.6						
	要支援2	199	11.6	3.5	17.1	16.1						
	要介護1	172	25.0	4.1	19.2	14.0						
	要介護2	166	23.5	2.4	13.9	15.1						
	要介護3	107	31.8	5.6	15.0	18.7						
	要介護4	69	29.0	7.2	21.7	14.5						
要介護5	45	22.2	4.4	13.3	26.7							
区域別	堺区	197	16.2	7.1	16.8	16.2						
	中区	131	13.7	3.8	20.6	16.8						
	東区	110	16.4	2.7	18.2	20.0						
	西区	192	17.2	2.6	21.4	13.0						
	南区	206	18.0	7.8	17.5	15.5						
	北区	173	19.7	1.2	18.5	17.3						
	美原区	45	15.6	2.2	15.6	26.7						

※網掛け■は最も割合が高いもの

世帯類型別でみると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「宿泊サービス（お泊りデイサービス）」「その他」「特になし」以外のすべての項目で単身世帯の割合が最も高くなっています。

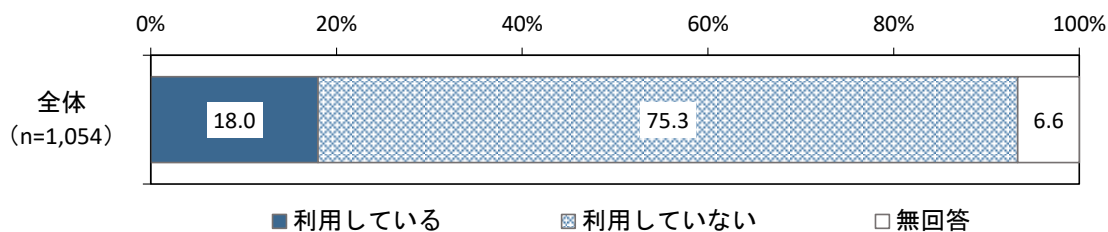
図表 4-5-17 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス 世帯類型別



問 17 | ご本人は、現在、訪問診療（往診を含む）を利用していますか。（○はひとつ）

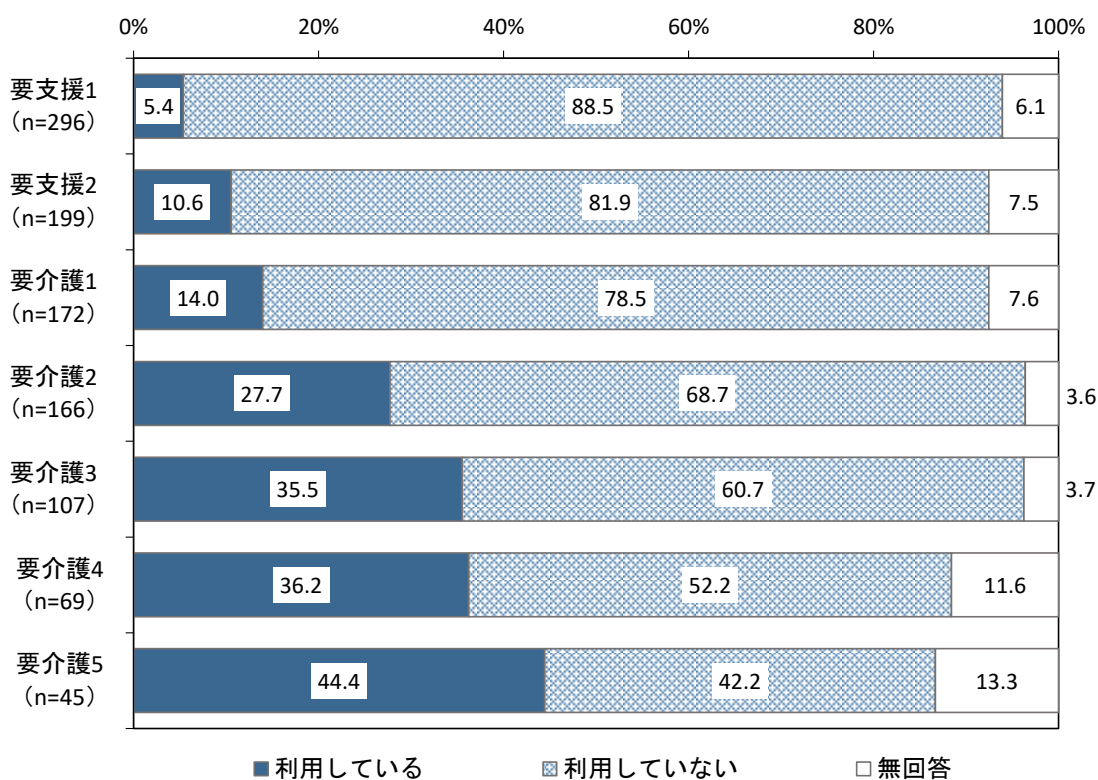
訪問診療の利用状況については、「利用している」が 18.0%、「利用していない」が 75.3%となっています。

図表 4-5-18 訪問診療の利用状況



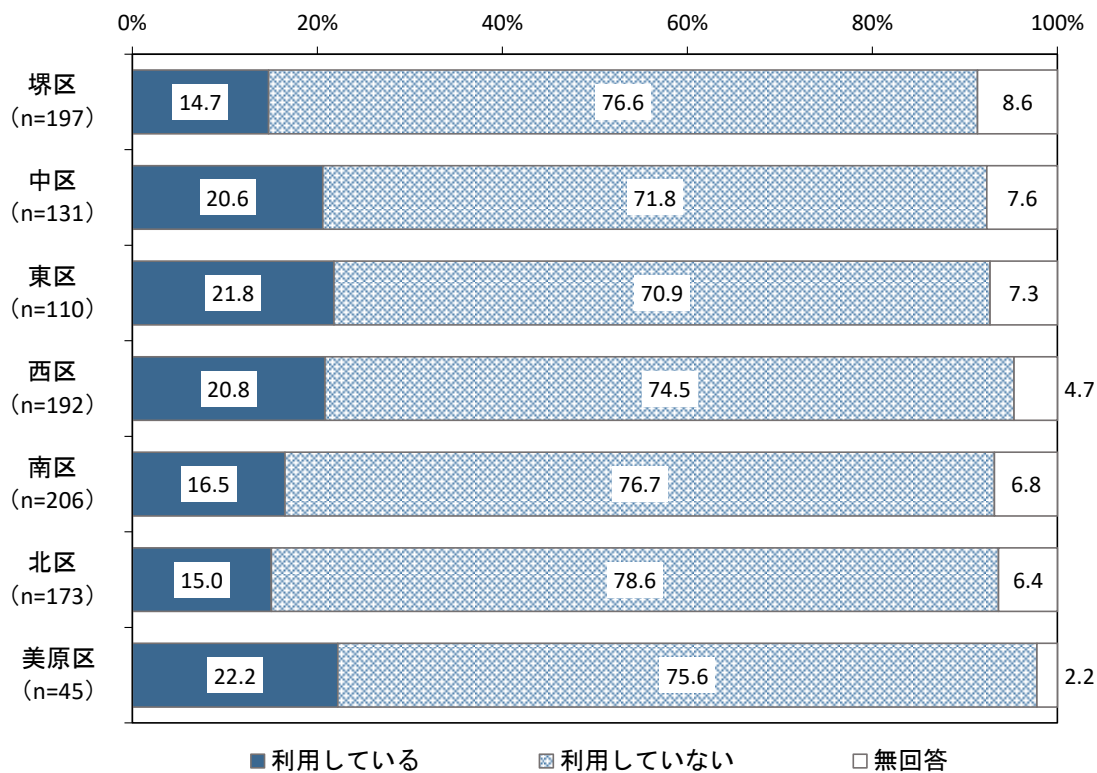
認定状況別でみると、「利用している」では、介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護5が44.4%で最も高くなっています。

図表 4-5-19 訪問診療の利用状況 認定状況別



区域別でみると、「利用している」では、美原区が22.2%で最も高く、「利用していない」では、北区が78.6%で最も高くなっています。

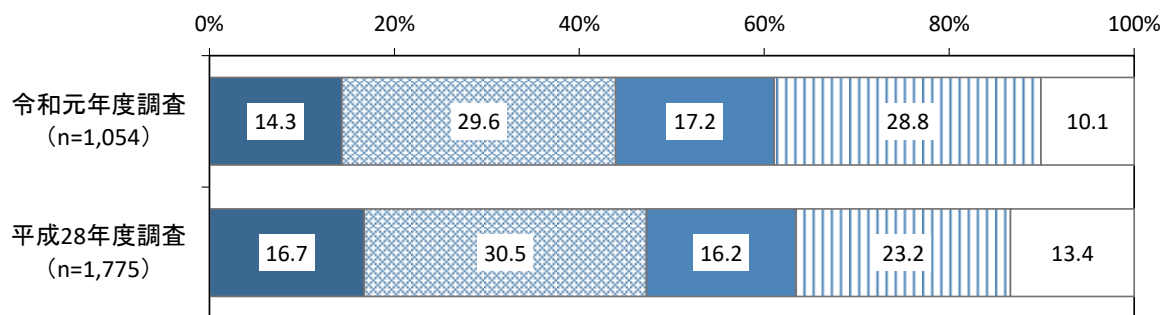
図表 4-5-20 訪問診療の利用状況 区域別



問 18	<p>現行の介護保険制度は、サービスを利用する人が増えたり、一人ひとりの利用するサービスの量が増えることによって介護保険料が上昇する仕組みとなっています。堺市の今後の介護保険料について、あなたのお考えに近いのは次のどれですか。(〇はひとつ)</p>
------	--

堺市の今後の介護保険料について、近い考えはどれかについては、「介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない」が29.6%で最も高く、次いで「わからない」が28.8%、「現状以上に介護保険料が上昇するのは避けるべきであり、そのためには介護保険サービスが必要な人であっても、ある程度、介護保険サービスの利用が制限されても仕方がない」が17.2%と続いています。

図表 4-5-21 堺市の今後の介護保険料について近い考えはどれか

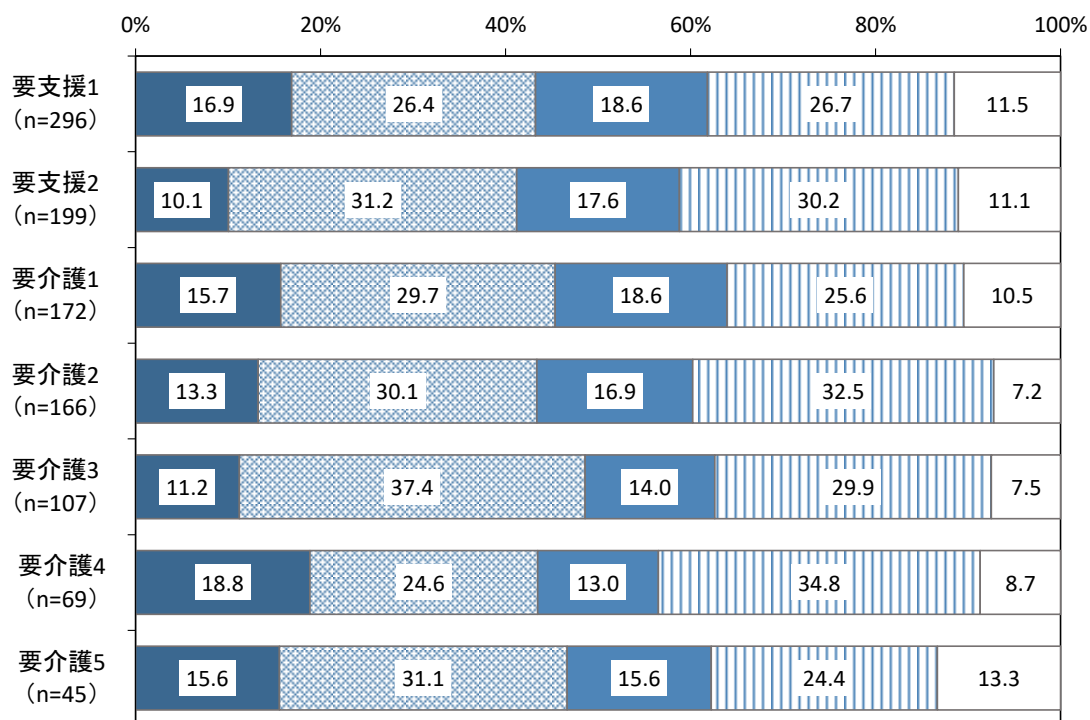


- 高齢化が進み、介護保険サービスを利用する人や利用量は増えていくだろうから、介護保険料が上昇するのは仕方がない
- ▣ 介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない
- 現状以上に介護保険料が上昇するのは避けるべきであり、そのためには介護保険サービスが必要な人であっても、ある程度、介護保険サービスの利用が制限されても仕方がない
- ▣ わからない
- 無回答



認定状況別でみると、要支援1、要介護2、要介護4では「わからない」の割合が最も高く、要支援2、要介護1、要介護3、要介護5では「介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない」の割合が最も高くなっています。

図表 4-5-22 堺市の今後の介護保険料について近い考えはどれか 認定状況別



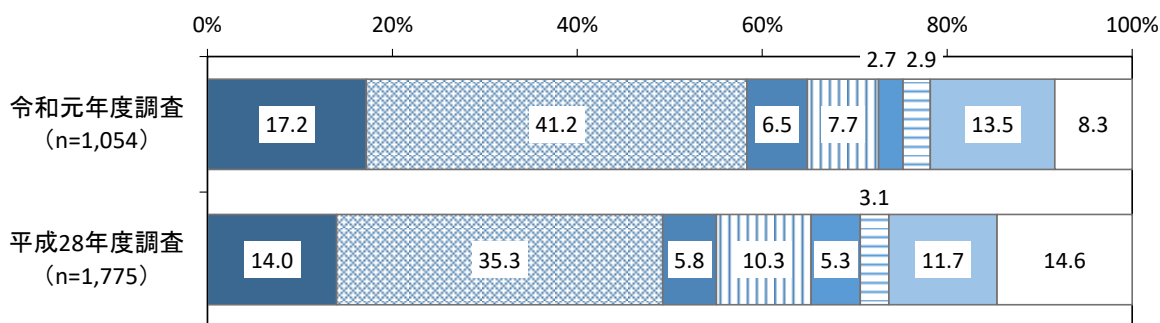
- 高齢化が進み、介護保険サービスを利用する人や利用量は増えていくだろうから、介護保険料が上昇するのは仕方がない
- ▨ 介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない
- 現状以上に介護保険料が上昇するのは避けるべきであり、そのためには介護保険サービスが必要な人であっても、ある程度、介護保険サービスの利用が制限されても仕方がない
- ▨ わからない
- 無回答

問 19

(ご本人は) 今後、どのような介護を望んでいますか。(〇はひとつ)

今後、どのような介護を望んでいるかについては、「介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護を受けたい」が 41.2%で最も高く、次いで「なるべく家族のみで、自宅で介護を受けたい」が 17.2%、「わからない」が 13.5%と続いています。

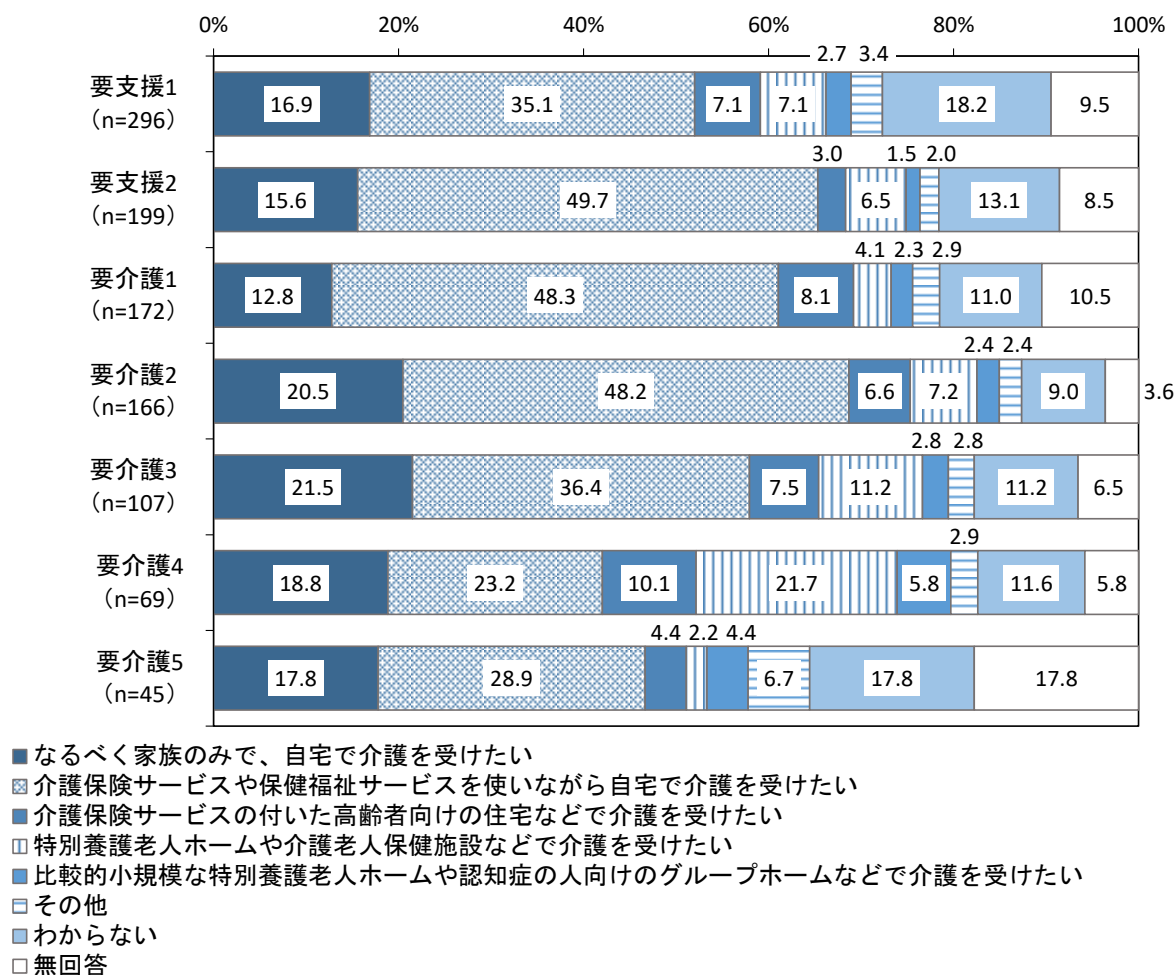
図表 4-5-23 今後、どのような介護を望んでいるか



- なるべく家族のみで、自宅で介護を受けたい
- ▣ 介護保険サービスや保健福祉サービスを使いながら自宅で介護を受けたい
- 介護保険サービスの付いた高齢者向けの住宅などで介護を受けたい
- ▣ 特別養護老人ホームや介護老人保健施設などで介護を受けたい
- 比較的小規模な特別養護老人ホームや認知症の人向けのグループホームなどで介護を受けたい
- その他
- わからない
- 無回答

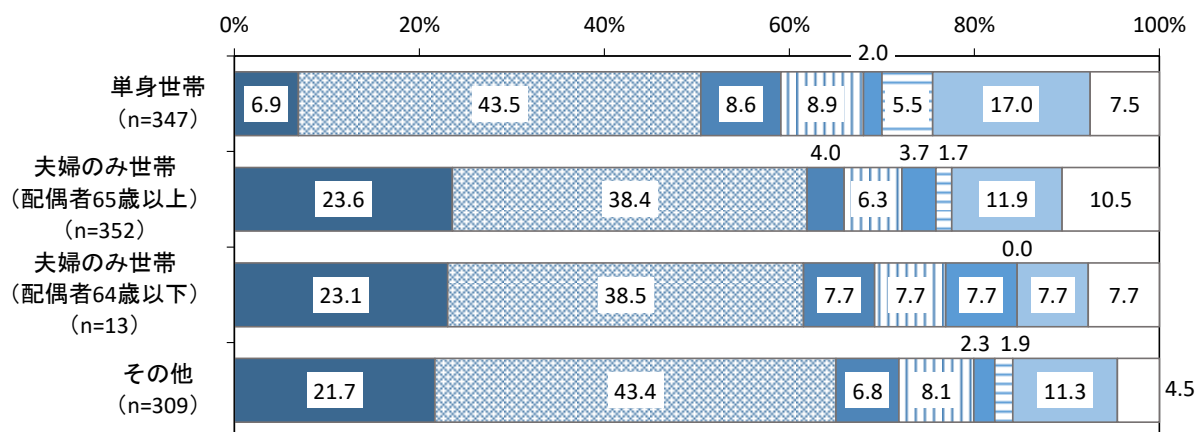
認定状況別でみると、すべての介護度で「介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護を受けたい」の割合が最も高く、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などで介護を受けたい」では、要介護4が21.7%で最も高くなっています。

図表 4-5-24 今後、どのような介護を望んでいるか 認定状況別



世帯類型別でみると、すべての世帯類型で「介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護を受けたい」の割合が最も高く、単身世帯では次いで「わからない」の割合が高く、それ以外の世帯では次いで「なるべく家族のみで、自宅で介護を受けたい」の割合が高くなっています。

図表 4-5-25 今後、どのような介護を望んでいるか 世帯類型別

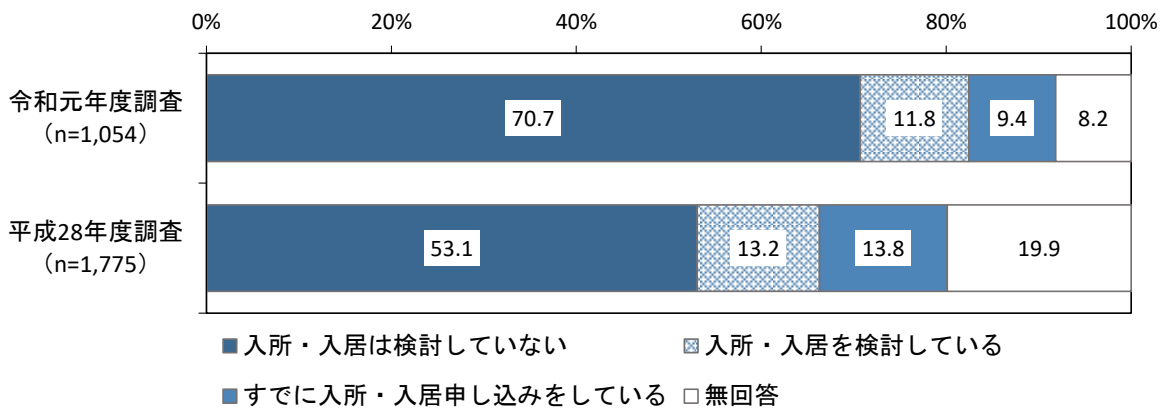


- なるべく家族のみで、自宅で介護を受けたい
- ▨ 介護保険サービスや保健福祉サービスを使いながら自宅で介護を受けたい
- 介護保険サービスの付いた高齢者向けの住宅などで介護を受けたい
- ▨ 特別養護老人ホームや介護老人保健施設などで介護を受けたい
- 比較的小規模な特別養護老人ホームや認知症の人向けのグループホームなどで介護を受けたい
- その他
- わからない
- 無回答

問 20 現時点での、ご本人の施設等への入所・入居の検討状況について、お教えてください。(〇はひとつ)

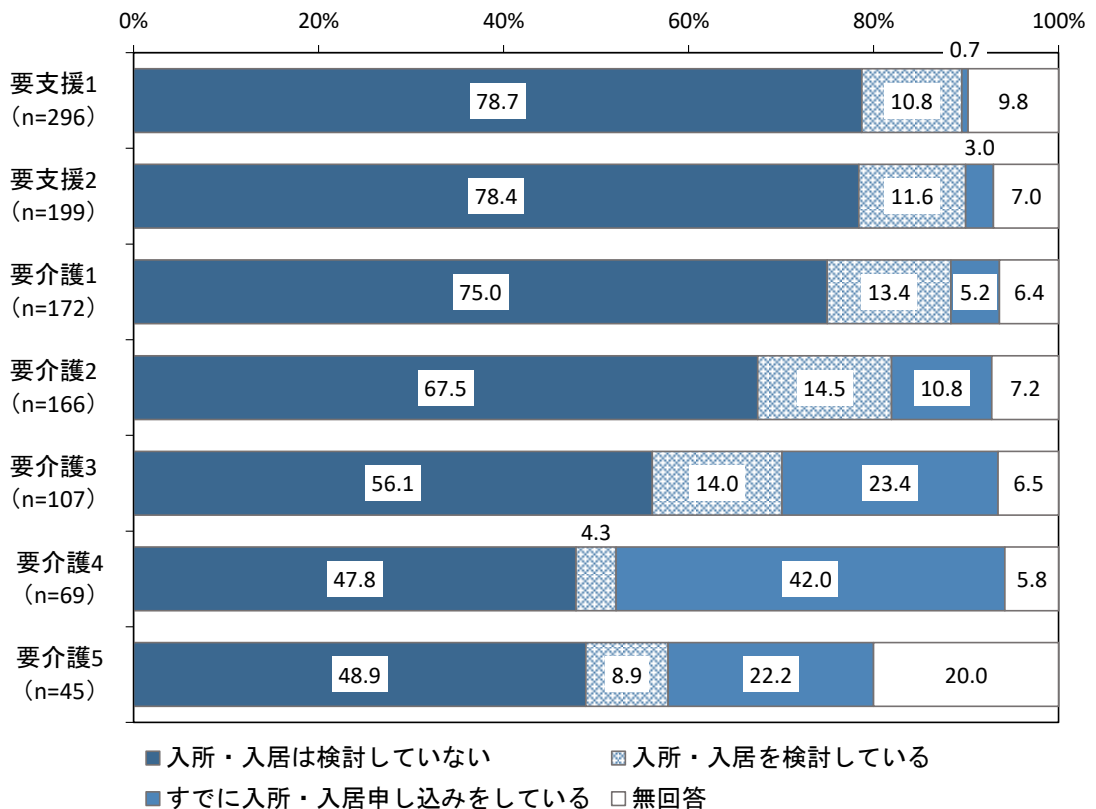
施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が70.7%で最も高く、次いで「入所・入居を検討している」が11.8%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が9.4%となっています。

図表 4-5-26 施設等への入所・入居の検討状況



認定状況別でみると、「入所・入居を検討している」では、要介護2が14.5%で最も高く、「すでに入所・入居申し込みをしている」では、要介護4が42.0%で最も高くなっています。

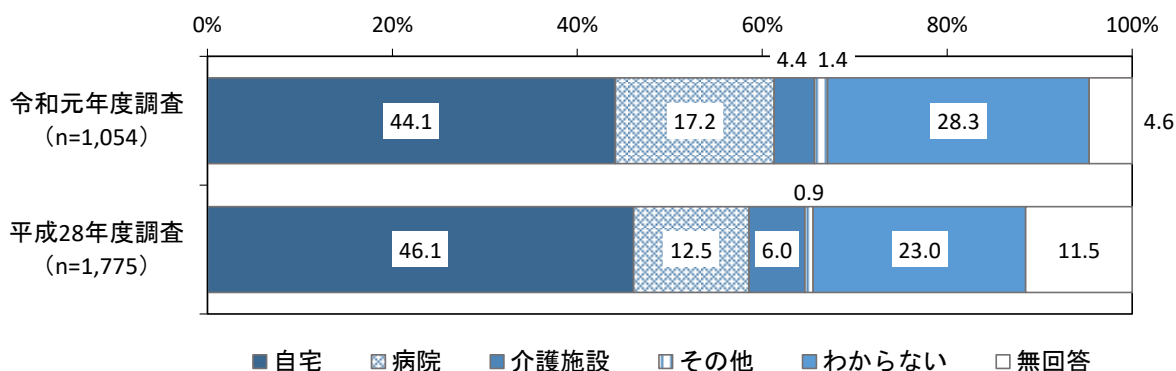
図表 4-5-27 施設等への入所・入居の検討状況 認定状況別



問 21 (ご本人は) 人生の最期をどこで迎えたいと思いますか。(〇はひとつ)

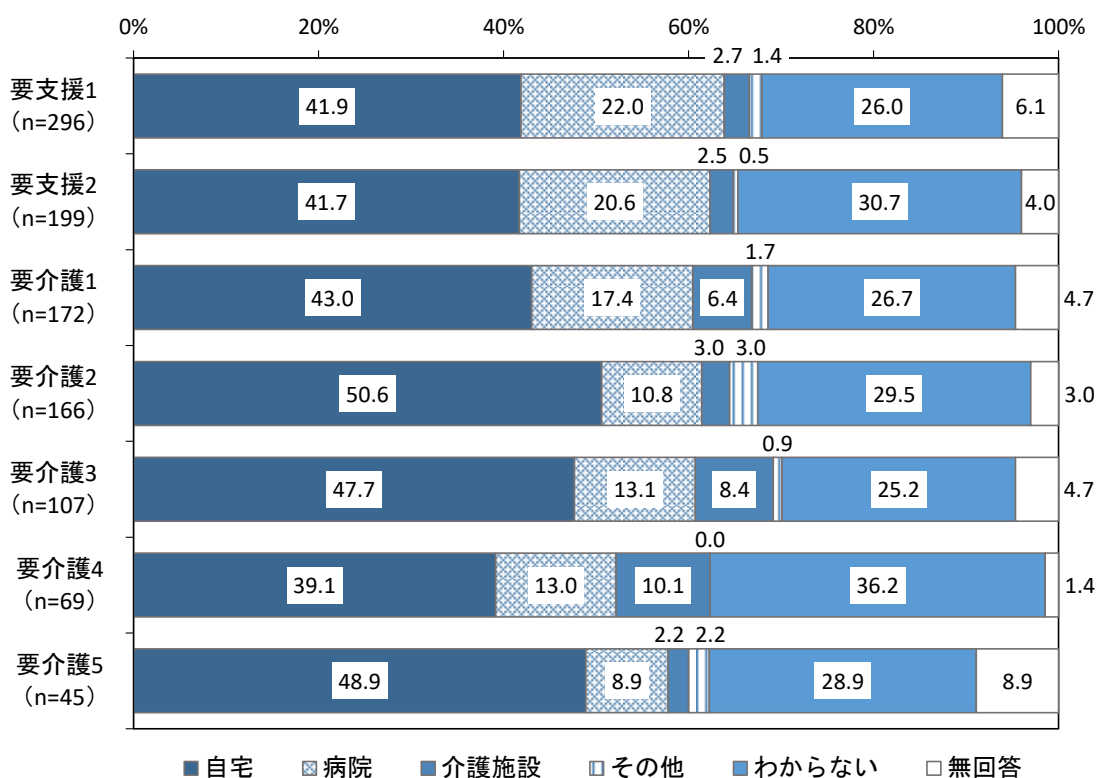
人生の最期をどこで迎えたいかについては、「自宅」が44.1%で最も高く、次いで「わからない」が28.3%、「病院」が17.2%と続いています。

図表 4-5-28 人生の最期をどこで迎えたいか



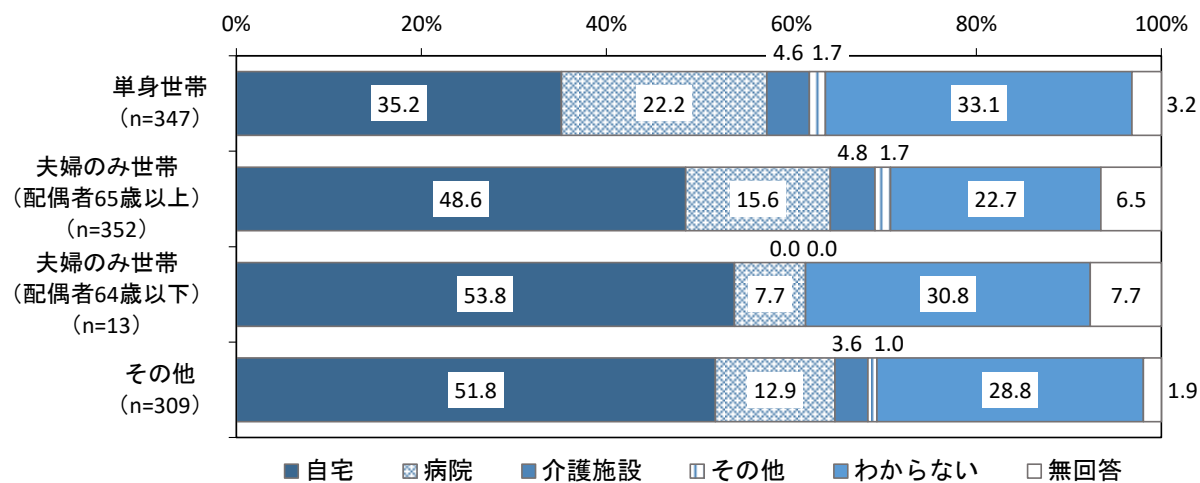
認定状況別でみると、すべての介護度で「自宅」の割合が最も高くなっています。

図表 4-5-29 人生の最期をどこで迎えたいか 認定状況別



世帯類型別でみると、すべての世帯類型で「自宅」の割合が最も高くなっており、「わからない」では、単身世帯が33.1%で最も高くなっています。

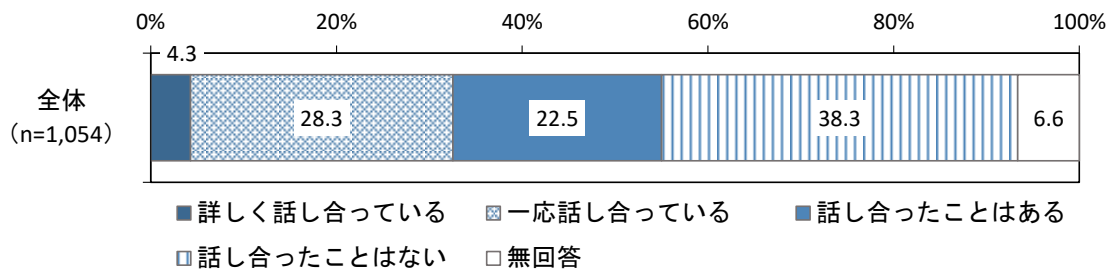
図表 4-5-30 人生の最期をどこで迎えたいか 世帯類型別



問 22	人生の最終段階における医療・療養について、あなた（ご本人）自身の希望を、家族等や医療介護関係者と話し合っていますか。（〇はひとつ）
------	---

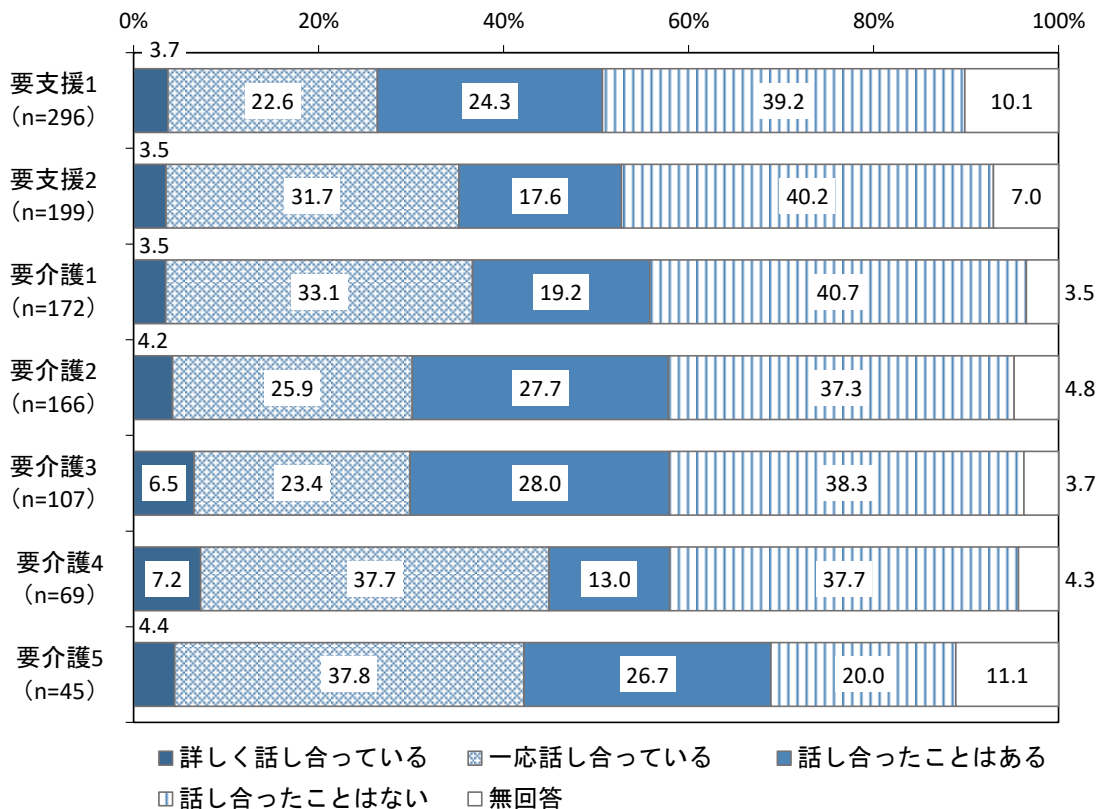
人生の最終段階における医療・療養について、自身の希望を家族等と話し合っているかについては、「話し合ったことはない」が38.3%で最も高く、次いで「一応話し合っている」が28.3%、「話し合ったことはある」が22.5%と続いており、『話し合った』（「詳しく話し合っている」「一応話し合っている」「話し合ったことはある」の合計）は55.1%となっています。

図表 4-5-31 人生の最終段階における医療・療養について、自身の希望を家族等と話し合っているか



認定状況別でみると、『話し合った』では、介護度の重度化に伴い概ね割合が高くなっており、要介護5が68.9%で最も高くなっています。

図表 4-5-32 人生の最終段階における医療・療養について、自身の希望を家族等と話し合っているか 認定状況別



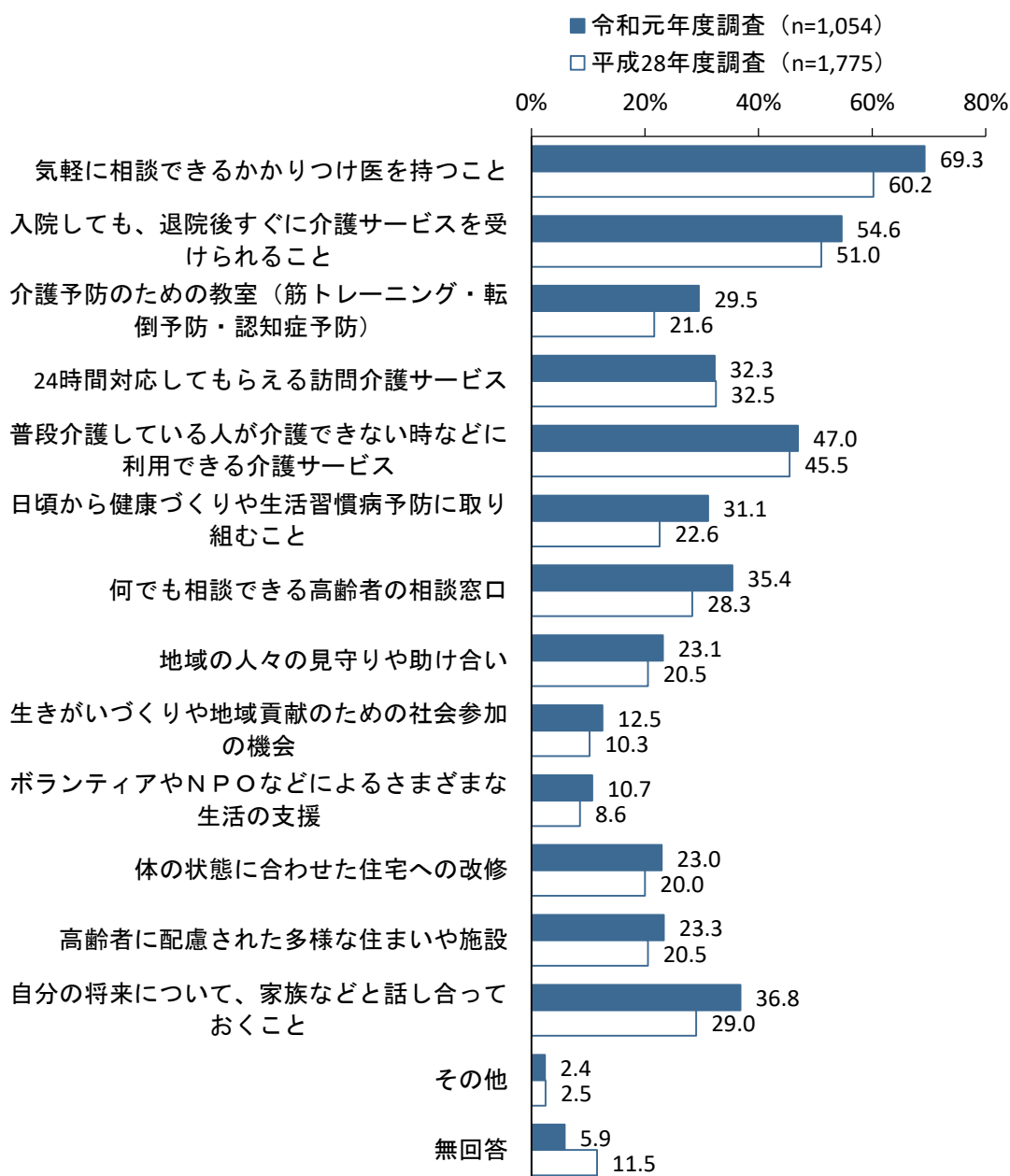


## 6. 住み慣れた地域で暮らし続けることについて

問 23	高齢者ができる限り自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)
------	---

住み慣れた地域で暮らし続けるために、どのようなことが必要かについては、「気軽に相談できるかかりつけ医を持つこと」が69.3%で最も高く、次いで「入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること」が54.6%、「普段介護している人が介護できない時などに利用できる介護サービス」が47.0%と続いています。

図表 4-6-1 住み慣れた地域で暮らし続けるために、どのようなことが必要か



認定状況別でみると、すべての介護度で「気軽に相談できるかかりつけ医を持つこと」の割合が最も高く、要介護1、要介護3では次いで「普段介護している人が介護できない時などに利用できる介護サービス」の割合が高く、その他の介護度では次いで「入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること」の割合が高くなっています。

区域別でみると、「何でも相談できる高齢者の相談窓口」では、中区が40.5%で最も高く、「地域の人々の見守りや助け合い」では、中区が29.0%で最も高くなっています。

図表 4-6-2 住み慣れた地域で暮らし続けるために、どのようなことが必要か 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

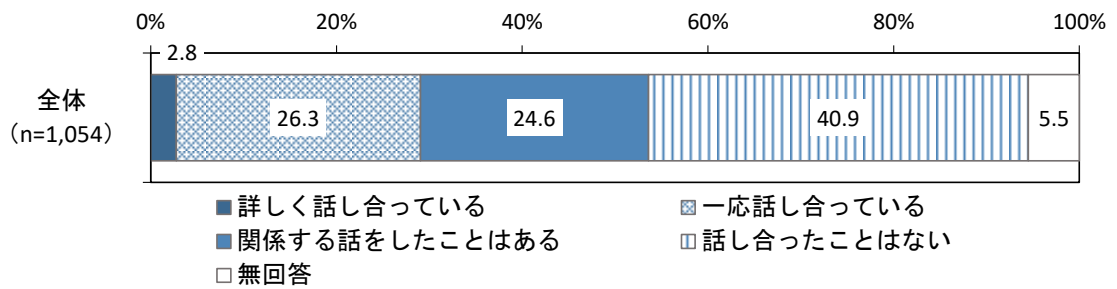
	合計	気軽に相談できるかかりつけ医を持つこと	入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること	介護予防のための教室・筋トレ・予防・転倒予防・認知症予防	24時間対応してもらえる訪問介護サービス	普段介護している人が介護できない時に利用できる介護サービス	普段介護している人が介護できない時に利用できる介護サービス	日頃から健康づくりや生活習慣病予防に取り組むこと	何でも相談できる高齢者の相談窓口	地域の人々の見守りや助け合い	生きがいの社会参加の機会	ボランティアやNPOなどによるさまざまな生活の支援
		合計	69.3	54.6	29.5	32.3	47.0	31.1	35.4	23.1	12.5	10.7
全体	1,054	69.3	54.6	29.5	32.3	47.0	31.1	35.4	23.1	12.5	10.7	
認定状況別	要支援1	296	68.2	48.0	31.4	22.0	30.1	40.2	40.5	22.3	13.9	10.8
	要支援2	199	71.9	56.8	28.6	29.6	42.7	31.7	36.7	22.6	12.6	12.1
	要介護1	172	65.1	54.1	36.0	33.1	55.2	27.9	32.6	22.1	12.2	8.7
	要介護2	166	69.9	60.8	28.3	38.0	57.8	28.9	31.3	25.9	12.7	13.3
	要介護3	107	65.4	52.3	27.1	40.2	59.8	19.6	29.9	22.4	13.1	11.2
	要介護4	69	75.4	59.4	15.9	42.0	56.5	20.3	36.2	20.3	1.4	4.3
要介護5	45	77.8	66.7	26.7	53.3	60.0	33.3	33.3	31.1	20.0	11.1	
区域別	堺区	197	72.6	51.3	36.0	32.5	41.6	32.0	40.1	24.9	13.7	14.7
	中区	131	70.2	64.9	29.8	38.9	55.0	34.4	40.5	29.0	16.0	13.7
	東区	110	70.0	42.7	31.8	39.1	47.3	40.0	36.4	24.5	11.8	9.1
	西区	192	67.7	56.3	30.7	33.3	44.8	27.6	28.1	17.2	9.9	8.3
	南区	206	68.0	57.3	24.3	29.1	46.6	32.0	34.5	25.2	10.2	9.2
	北区	173	67.1	52.0	23.7	25.4	50.3	24.9	39.3	22.0	14.5	11.0
	美原区	45	71.1	60.0	35.6	31.1	44.4	31.1	17.8	15.6	13.3	4.4
	合計		体の状態に合わせた住宅への改修	高齢者に配慮された多様な住まいや施設	自分の将来について、家族などとの話し合っておくこと	その他	無回答					
全体	1,054	23.0	23.3	36.8	2.4	5.9						
認定状況別	要支援1	296	17.6	16.2	41.9	3.0	6.4					
	要支援2	199	23.1	19.1	30.7	3.0	5.0					
	要介護1	172	19.2	23.8	34.3	1.2	4.7					
	要介護2	166	30.1	28.3	37.3	2.4	5.4					
	要介護3	107	26.2	26.2	35.5	1.9	9.3					
	要介護4	69	23.2	40.6	44.9	2.9	1.4					
要介護5	45	37.8	35.6	28.9	0.0	11.1						
区域別	堺区	197	19.3	20.3	38.6	3.6	6.6					
	中区	131	35.1	23.7	33.6	0.8	4.6					
	東区	110	21.8	20.9	35.5	0.0	7.3					
	西区	192	21.9	26.6	35.9	3.6	5.2					
	南区	206	24.3	26.7	38.8	2.9	5.8					
	北区	173	16.2	17.9	33.5	2.3	5.8					
	美原区	45	31.1	33.3	48.9	0.0	6.7					

※網掛け■は最も割合が高いもの

問 24	災害発生時に、誰かの助けを借りたりしながら避難できるよう、普段から話し合っていますか。(〇はひとつ)
------	--

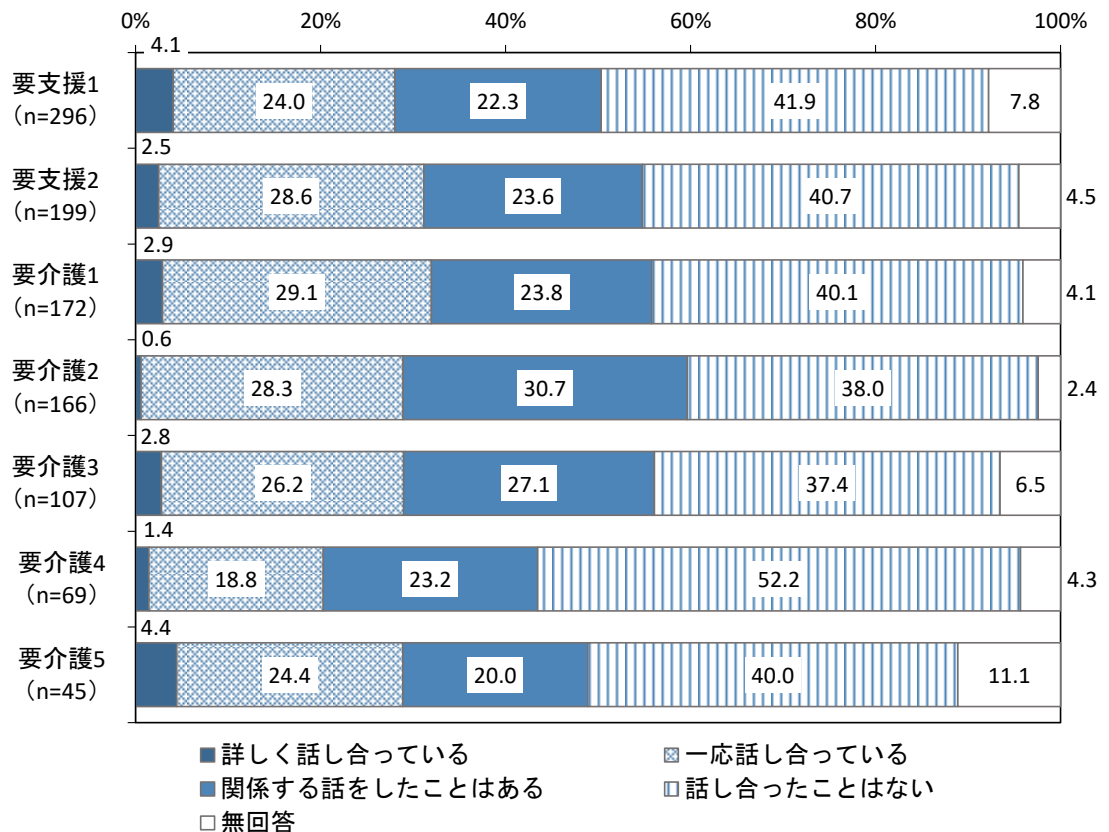
災害発生時に、誰かの助けを借りながら避難できるよう、ふだんから話し合っているかについては、「話し合ったことはない」が40.9%で最も高く、次いで「一応話し合っている」が26.3%、「関係する話をしたことはある」が24.6%と続いており、『話し合った』（「詳しく話し合っている」「一応話し合っている」「関係する話をしたことはある」の合計）は53.7%となっています。

図表 4-6-3 災害発生時に、誰かの助けを借りながら避難できるよう、ふだんから話し合っているか



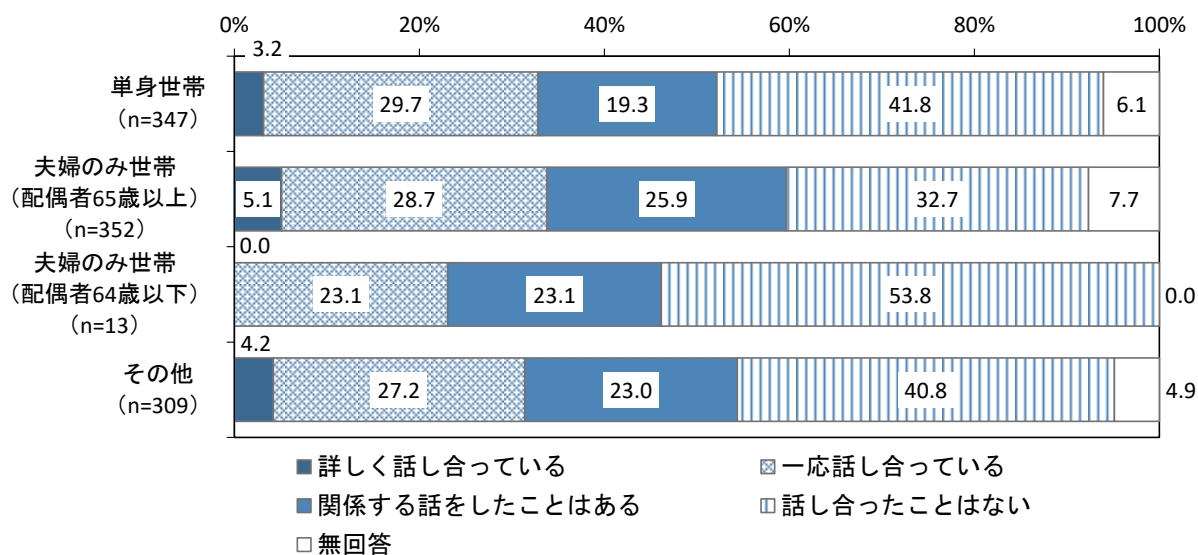
認定状況別でみると、『話し合った』では、要支援1から要介護2で介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護2が59.6%で最も高くなっています。

図表 4-6-4 災害発生時に、誰かの助けを借りながら避難できるよう、ふだんから話し合っているか 認定状況別



世帯類型別でみると、『話し合った』では、夫婦のみ世帯（配偶者 65 歳以上）が 59.7%で最も高くなっています。

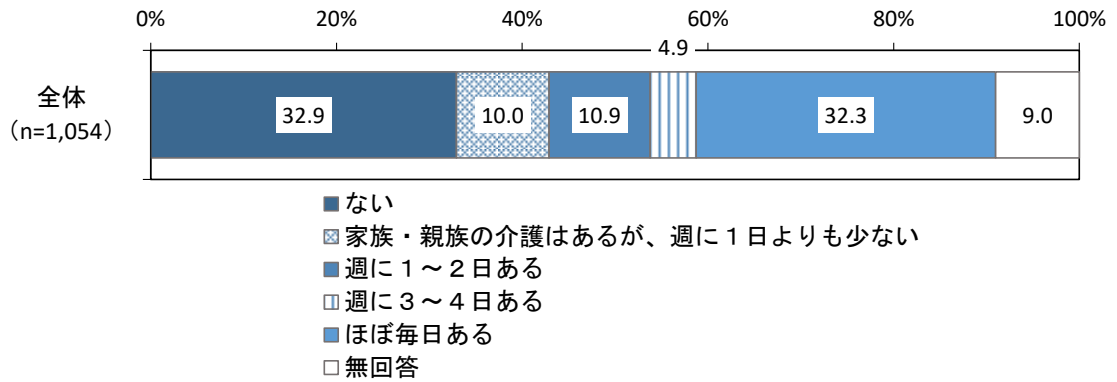
図表 4-6-5 災害発生時に、誰かの助けを借りながら避難できるよう、  
ふだんから話し合っているか 世帯類型別



問 25      ご家族やご親族の方からご本人への介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）。（〇はひとつ）

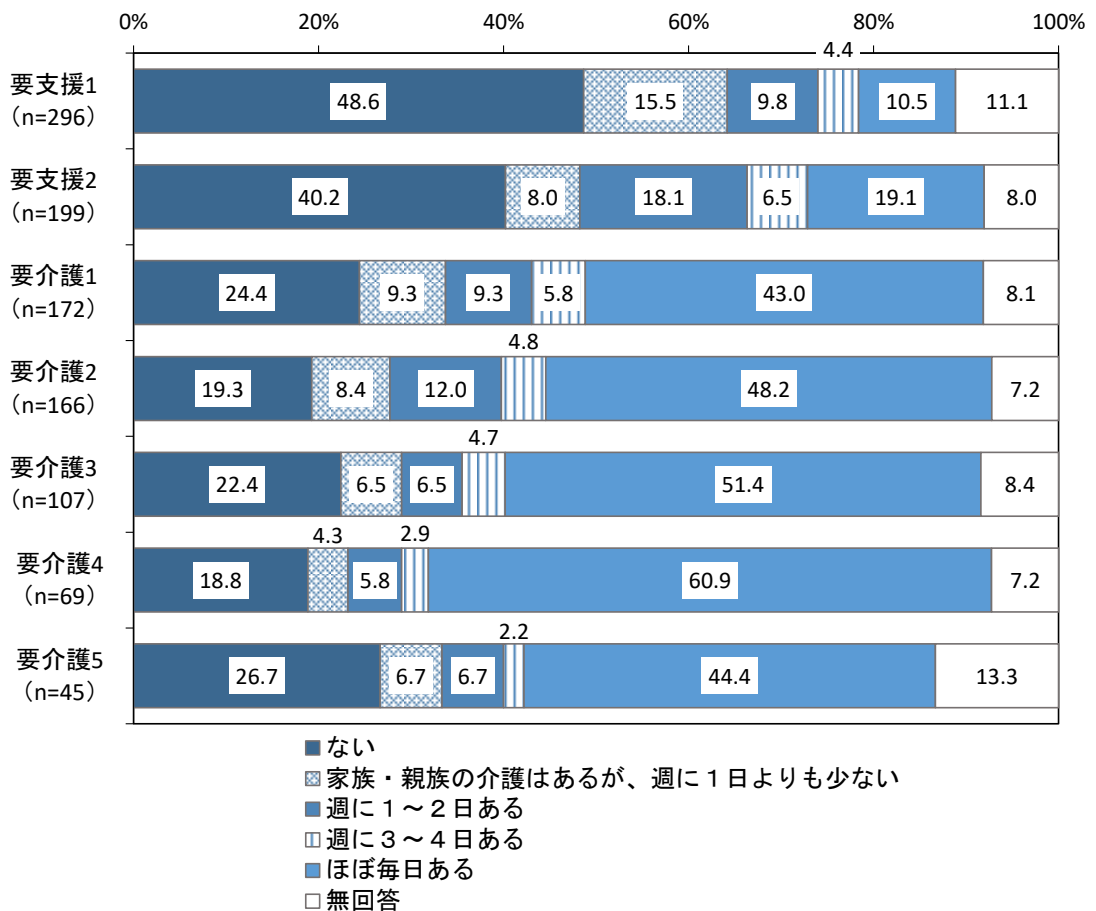
家族や親族からの介護は週にどのくらいあるかについては、「ない」が 32.9%で最も高く、次いで「ほぼ毎日ある」が 32.3%、「週に1～2日ある」が 10.9%と続いています。

図表 4-6-6 家族や親族からの介護は週にどのくらいあるか



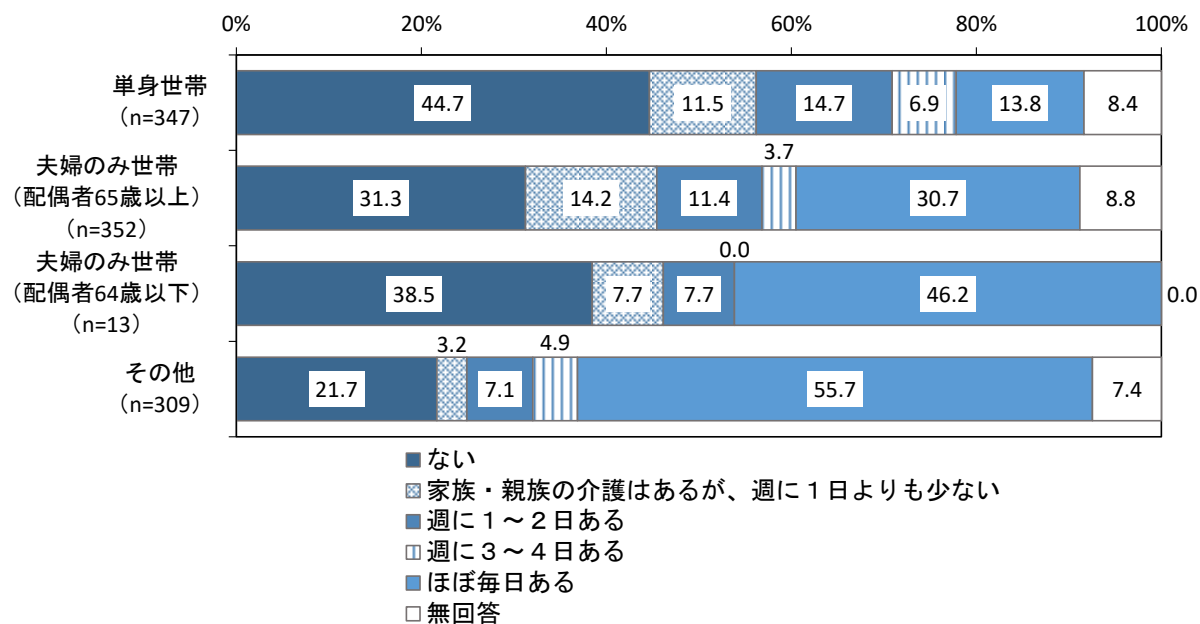
認定状況別でみると、「ない」では、要支援1が 48.6%で最も高く、「ほぼ毎日ある」では、要介護4が 60.9%で最も高くなっています。

図表 4-6-7 家族や親族からの介護は週にどのくらいあるか 認定状況別



世帯類型別でみると、「ない」では、単身世帯が44.7%で最も高く、「ほぼ毎日ある」では、その他が55.7%で最も高くなっています。

図表 4-6-8 家族や親族からの介護は週にどのくらいあるか 世帯類型別

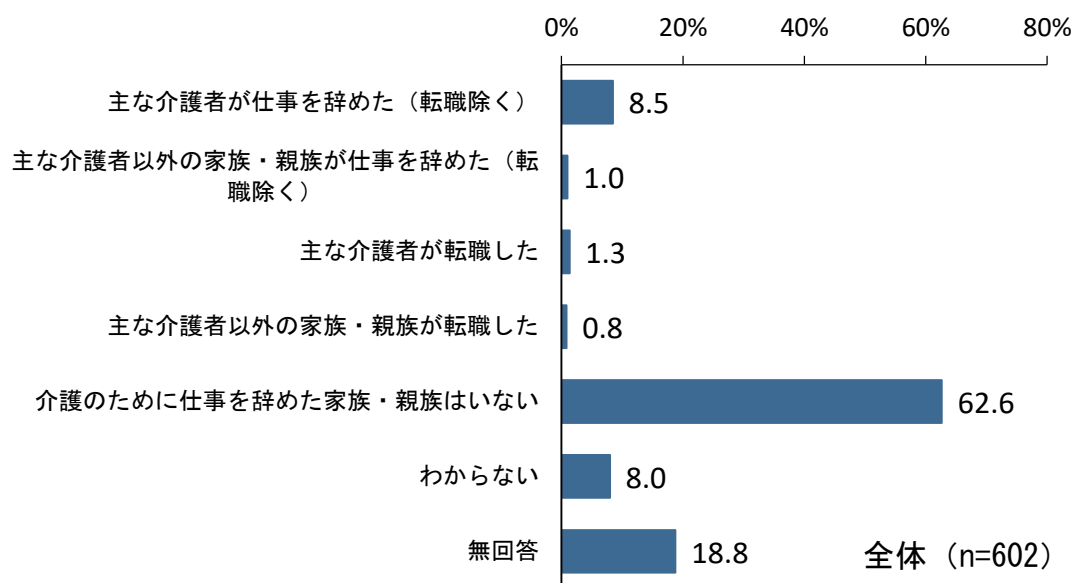


## 7. 主な介護者の方について

問 26	ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)。(〇はいくつでも)
------	---

家族や親族で、本人の介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた人はいるかについては、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 62.6%で最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が 8.5%、「わからない」が 8.0%と続いています。

図表 4-7-1 家族や親族で、本人の介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた人はいるか



認定状況別でみると、すべての介護度で「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」では、要支援2以上で介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護5が18.5%で最も高くなっています。

図表 4-7-2 家族や親族で、本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた人はいるか 認定状況別

単位：実数（人）、構成比（%）

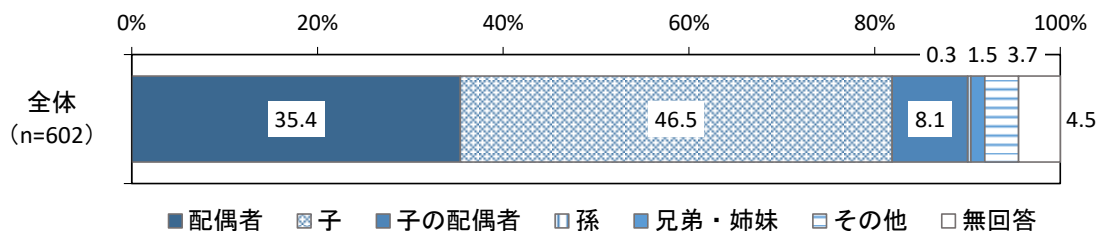
	合計	主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者が仕事を辞めた以外の家族・親族	主な介護者が転職した	主な介護者以外の家族・親族が転職した	介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	わからない	無回答	
全体	602	8.5	1.0	1.3	0.8	62.6	8.0	18.8	
認定状況別	要支援1	116	4.3	0.9	0.0	0.9	62.1	12.1	20.7
	要支援2	99	3.0	2.0	3.0	2.0	59.6	6.1	26.3
	要介護1	116	7.8	0.9	0.0	0.0	67.2	8.6	15.5
	要介護2	119	9.2	0.8	1.7	1.7	62.2	5.9	19.3
	要介護3	74	12.2	0.0	0.0	0.0	68.9	8.1	10.8
	要介護4	51	17.6	2.0	2.0	0.0	52.9	7.8	17.6
	要介護5	27	18.5	0.0	7.4	0.0	59.3	3.7	18.5

※網掛け■は最も割合が高いもの

問 27 主な介護者の方は、どなたですか。（○はひとつ）

主な介護者は誰かについては、「子」が46.5%で最も高く、次いで「配偶者」が35.4%、「子の配偶者」が8.1%と続いています。

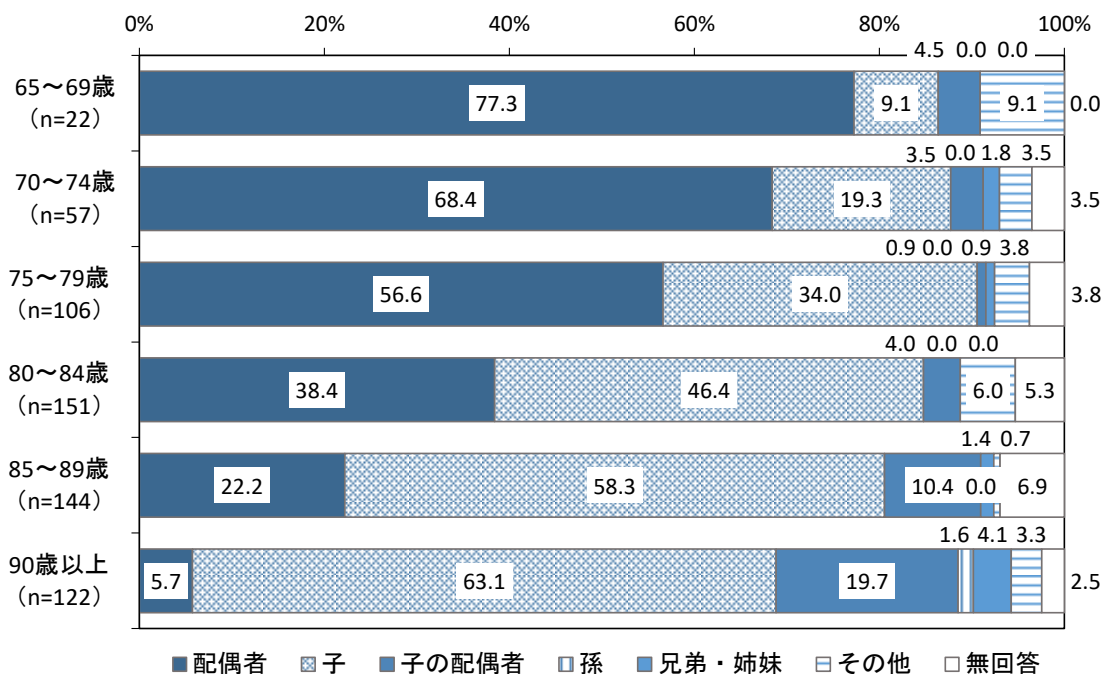
図表 4-7-3 主な介護者は誰か





年齢別でみると、「配偶者」では、介護度の重度化に伴い割合が低くなっており、65～69歳が77.3%で最も高く、「子」では、介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、90歳以上が63.1%で最も高くなっています。

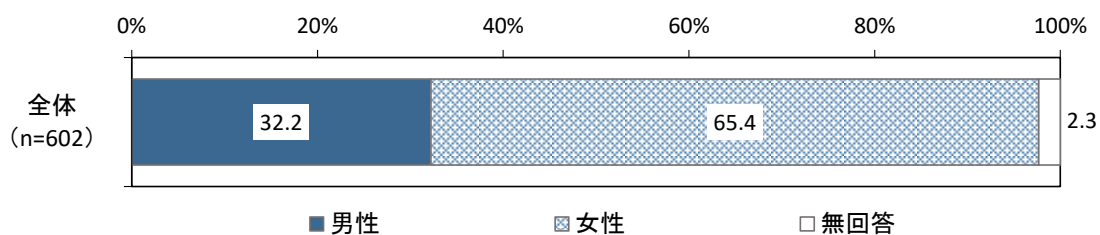
図表 4-7-4 主な介護者は誰か 年齢別



問 28 主な介護者の方の性別について、教えてください。(〇はひとつ)

主な介護者の性別については、「男性」が32.2%、「女性」が65.4%となっています。

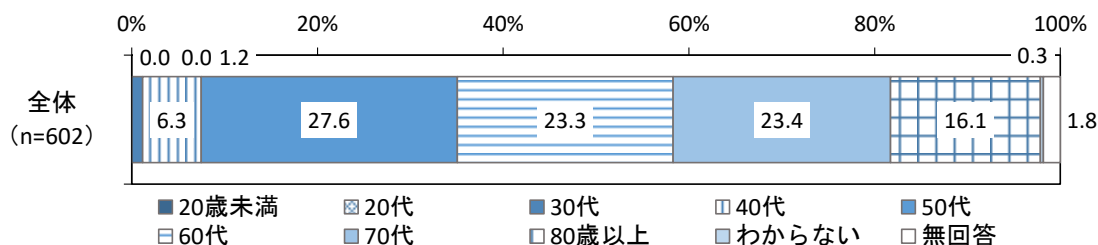
図表 4-7-5 主な介護者の性別



問 29 主な介護者の方の年齢について、お教えてください。(〇はひとつ)

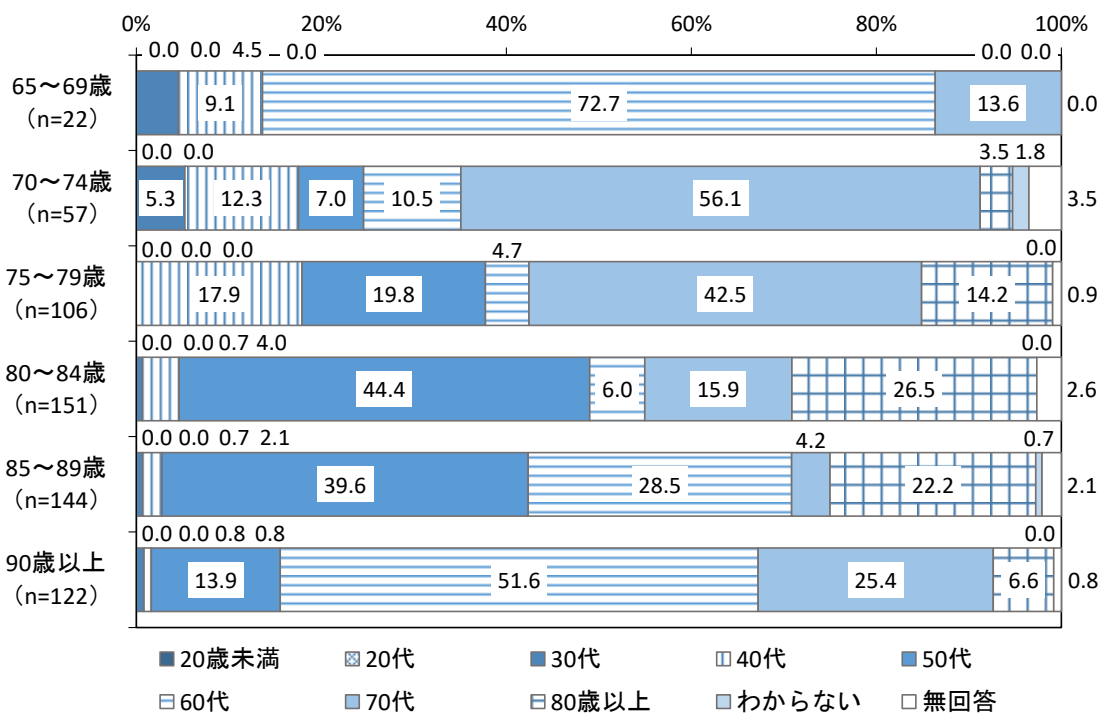
主な介護者の年齢については、「50代」が27.6%で最も高く、次いで「70代」が23.4%、「60代」が23.3%と続いています。

図表 4-7-6 主な介護者の年齢



年齢別でみると、65～69歳、90歳以上では「60代」の割合が最も高く、70歳から79歳では「70代」の割合が最も高く、80歳から89歳では「50代」の割合が最も高くなっています。

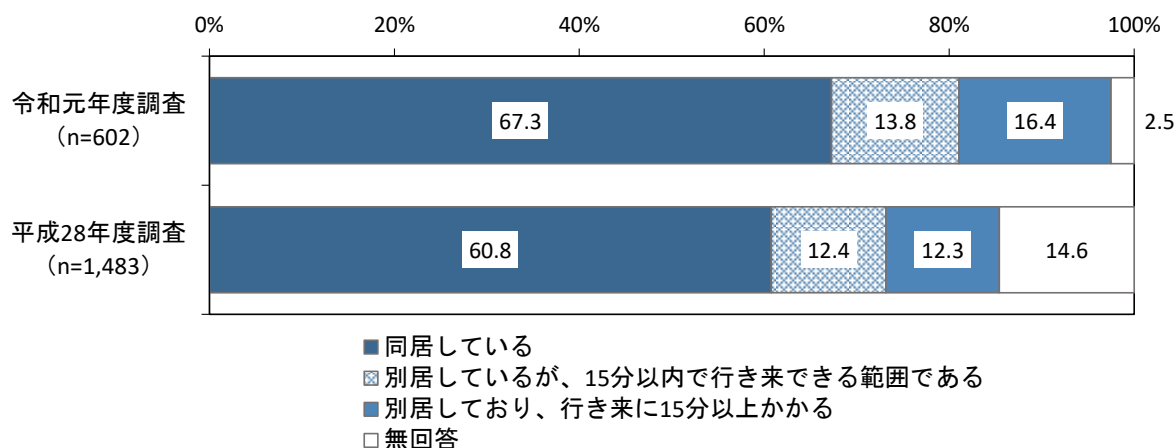
図表 4-7-7 主な介護者の年齢 年齢別



問 30 主な介護者の方と要介護者との同居状況について、お教えてください。(〇はひとつ)

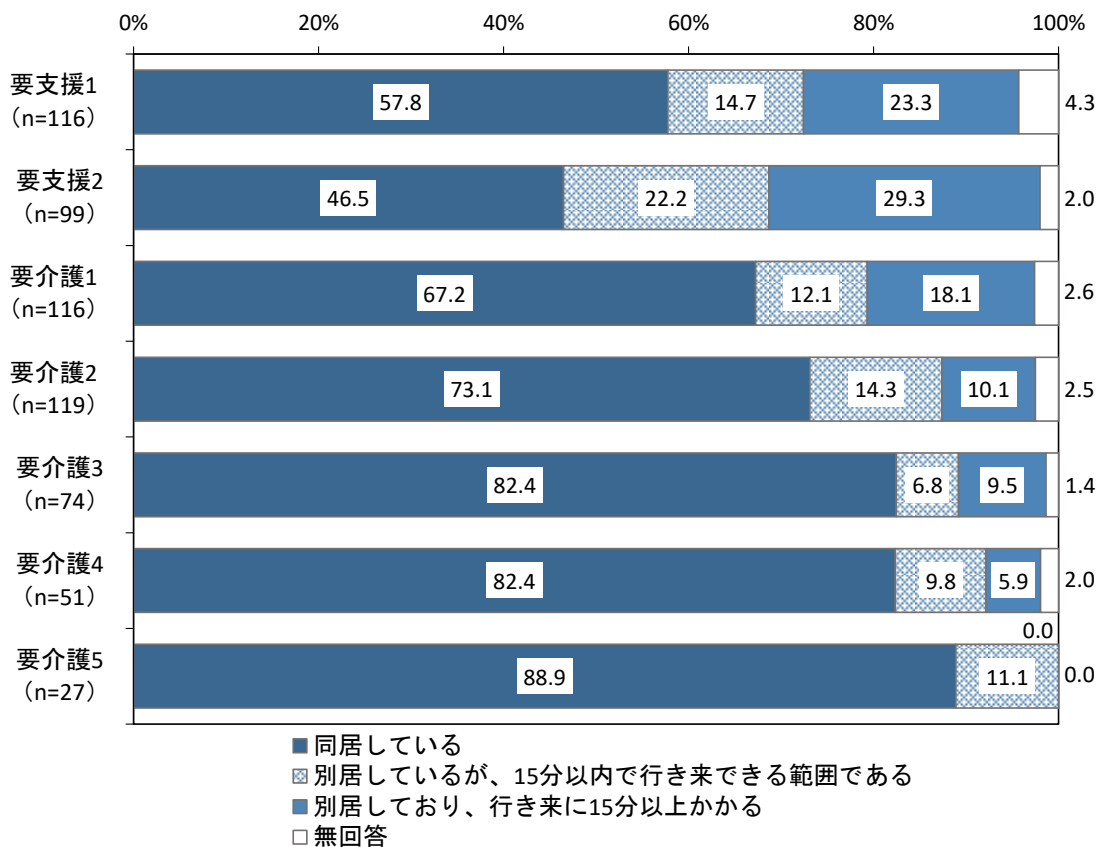
要介護者との同居状況については、「同居している」が 67.3%で最も高く、次いで「別居しており、行き来に 15 分以上かかる」が 16.4%、「別居しているが、15 分以内で行き来できる範囲である」が 13.8%となっています。

図表 4-7-8 要介護者との同居状況



認定状況別でみると、「同居している」では、要支援 2 以上で介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護 5 が 88.9%で最も高くなっています。

図表 4-7-9 要介護者との同居状況 認定状況別

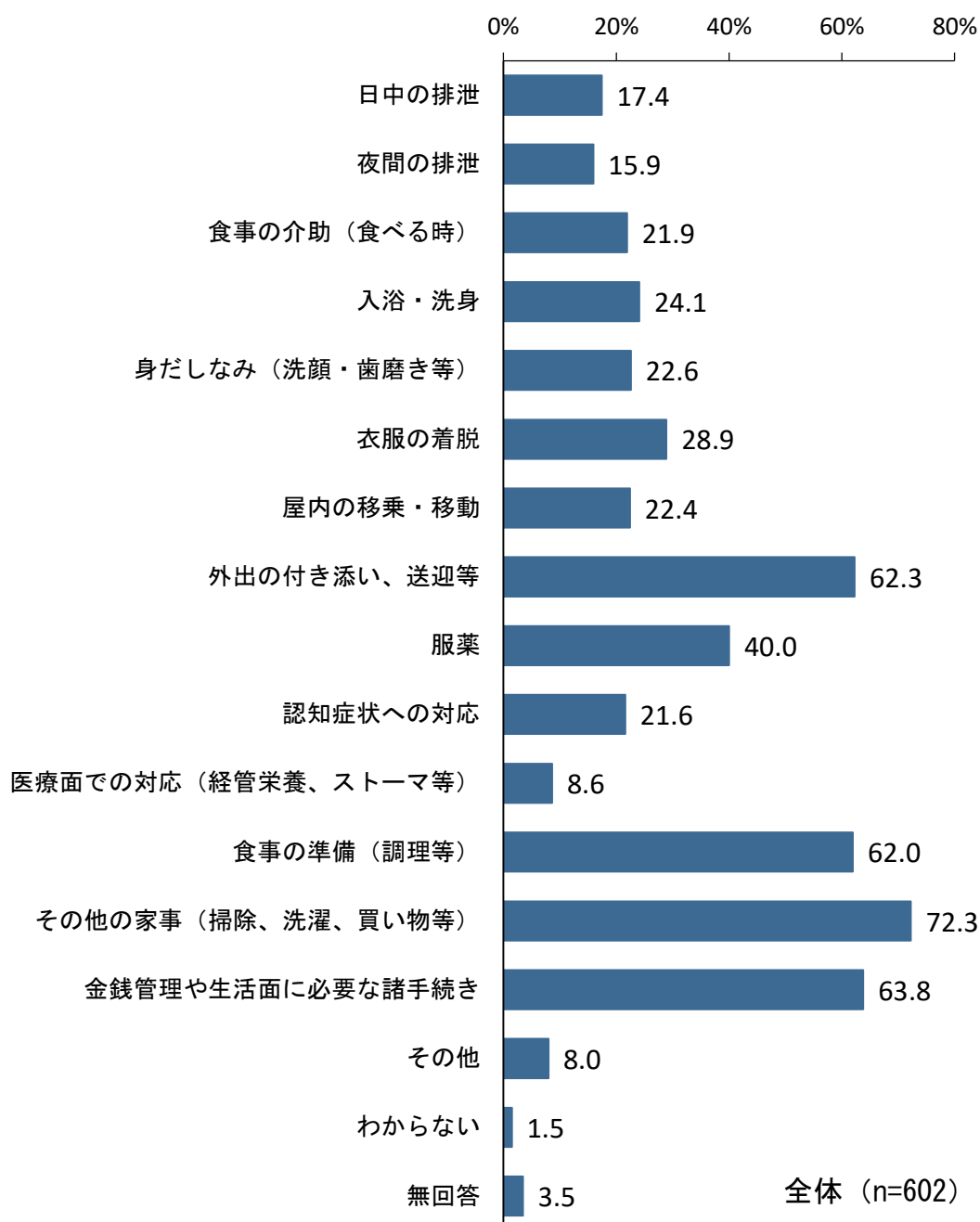


問31

現在、主な介護者の方が行っている介護等について、教えてください。  
(〇はいくつでも)

現在行っている介護については、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が72.3%で最も高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が63.8%、「外出の付き添い、送迎等」が62.3%と続いています。

図表 4-7-10 現在行っている介護



認定状況別でみると、「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の介助（食べる時）」「入浴・洗身」「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」「衣服の着脱」「屋内の移乗・移動」では、要介護1以上で介護度の重度化に伴い概ね割合が高くなっており、要介護5の割合が最も高くなっています。

図表 4-7-11 現在行っている介護 認定状況別

単位：実数（人）、構成比（％）

認定状況別	合計	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬	認知症状への対応	
		全体	602	17.4	15.9	21.9	24.1	22.6	28.9	22.4	62.3	40.0
認定状況別	要支援1	116	4.3	2.6	6.9	11.2	6.9	6.9	9.5	49.1	14.7	12.1
	要支援2	99	3.0	2.0	7.1	9.1	6.1	4.0	8.1	57.6	9.1	4.0
	要介護1	116	3.4	2.6	21.6	15.5	11.2	18.1	6.9	66.4	43.1	32.8
	要介護2	119	17.6	18.5	21.0	39.5	21.8	40.3	31.1	68.9	49.6	21.8
	要介護3	74	40.5	37.8	35.1	43.2	48.6	59.5	39.2	75.7	66.2	28.4
	要介護4	51	52.9	49.0	49.0	29.4	54.9	60.8	47.1	62.7	74.5	33.3
要介護5	27	55.6	48.1	59.3	40.7	70.4	66.7	66.7	51.9	70.4	37.0	
	合計	養医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	濯その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	わからない	無回答				
全体	602	8.6	62.0	72.3	63.8	8.0	1.5	3.5				
認定状況別	要支援1	116	2.6	44.0	58.6	41.4	6.0	6.9				
	要支援2	99	4.0	42.4	64.6	44.4	10.1	8.1				
	要介護1	116	9.5	69.8	73.3	73.3	6.9	0.9				
	要介護2	119	5.9	71.4	80.7	79.8	5.9	0.8				
	要介護3	74	17.6	79.7	85.1	78.4	6.8	1.4				
	要介護4	51	13.7	76.5	80.4	68.6	11.8	2.0				
要介護5	27	25.9	59.3	66.7	70.4	18.5	3.7					

※網掛け■は最も割合が高いもの

就労状況別でみると、「外出の付き添い、送迎等」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」「その他」「わからない」以外のすべての項目で、「働いていない」の割合が「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」よりも高くなっています。

就労継続見込み別でみると、「日中の排泄」「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」「その他」で、就労を続けていくのが難しいという考えが強くなるにつれて割合が高くなっています。

図表 4-7-12 現在行っている介護 就労状況別・就労継続見込み別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬	認知症状への対応
全体		602	17.4	15.9	21.9	24.1	22.6	28.9	22.4	62.3	40.0	21.6
就労状況別	フルタイムで働いている	104	6.7	7.7	10.6	16.3	9.6	14.4	9.6	60.6	26.9	13.5
	パートタイムで働いている	122	12.3	10.7	19.7	19.7	18.9	23.8	18.9	68.0	33.6	22.1
	働いていない	306	24.8	22.5	27.8	29.4	30.1	37.9	29.1	64.4	50.0	25.5
	主な介護者に確認しないと、わからない	10	30.0	10.0	30.0	30.0	20.0	30.0	30.0	40.0	30.0	30.0
就労継続見込み別	問題なく、続けていける	54	7.4	11.1	11.1	18.5	11.1	5.6	9.3	51.9	31.5	11.1
	問題はあるが、何とか続けていける	118	10.2	6.8	16.1	18.6	12.7	21.2	15.3	71.2	26.3	19.5
	続けていくのは、やや難しい	19	10.5	10.5	36.8	26.3	36.8	52.6	31.6	78.9	57.9	36.8
	続けていくのは、かなり難しい	10	30.0	20.0	30.0	0.0	30.0	30.0	20.0	60.0	40.0	30.0
	主な介護者に確認しないと、わからない	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	60.0	20.0	40.0
		合計	養、医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	濯、その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	諸金銭管理や生活面に必要な手続き	その他	わからない	無回答			
全体		602	8.6	62.0	72.3	63.8	8.0	1.5	3.5			
就労状況別	フルタイムで働いている	104	6.7	41.3	61.5	53.8	13.5	1.9	4.8			
	パートタイムで働いている	122	7.4	60.7	77.0	69.7	8.2	0.8	0.8			
	働いていない	306	9.8	74.2	78.4	69.6	6.5	0.3	1.0			
	主な介護者に確認しないと、わからない	10	20.0	40.0	50.0	60.0	0.0	10.0	0.0			
就労継続見込み別	問題なく、続けていける	54	3.7	38.9	57.4	57.4	3.7	0.0	7.4			
	問題はあるが、何とか続けていける	118	6.8	56.8	71.2	66.9	10.2	0.8	1.7			
	続けていくのは、やや難しい	19	10.5	78.9	89.5	78.9	15.8	0.0	0.0			
	続けていくのは、かなり難しい	10	20.0	50.0	90.0	70.0	20.0	0.0	0.0			
	主な介護者に確認しないと、わからない	5	0.0	40.0	60.0	40.0	20.0	0.0	0.0			

※網掛け■は最も割合が高いもの

※就労状況別は問 35、就労継続見込み別は問 38 参照

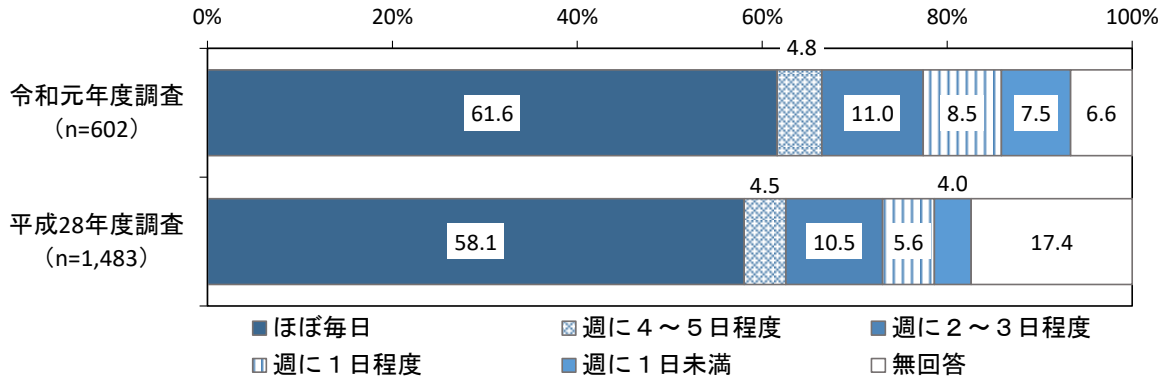
問 32

主な介護者の方の介護に要する時間について、お教えてください。

(1) 介護の日数

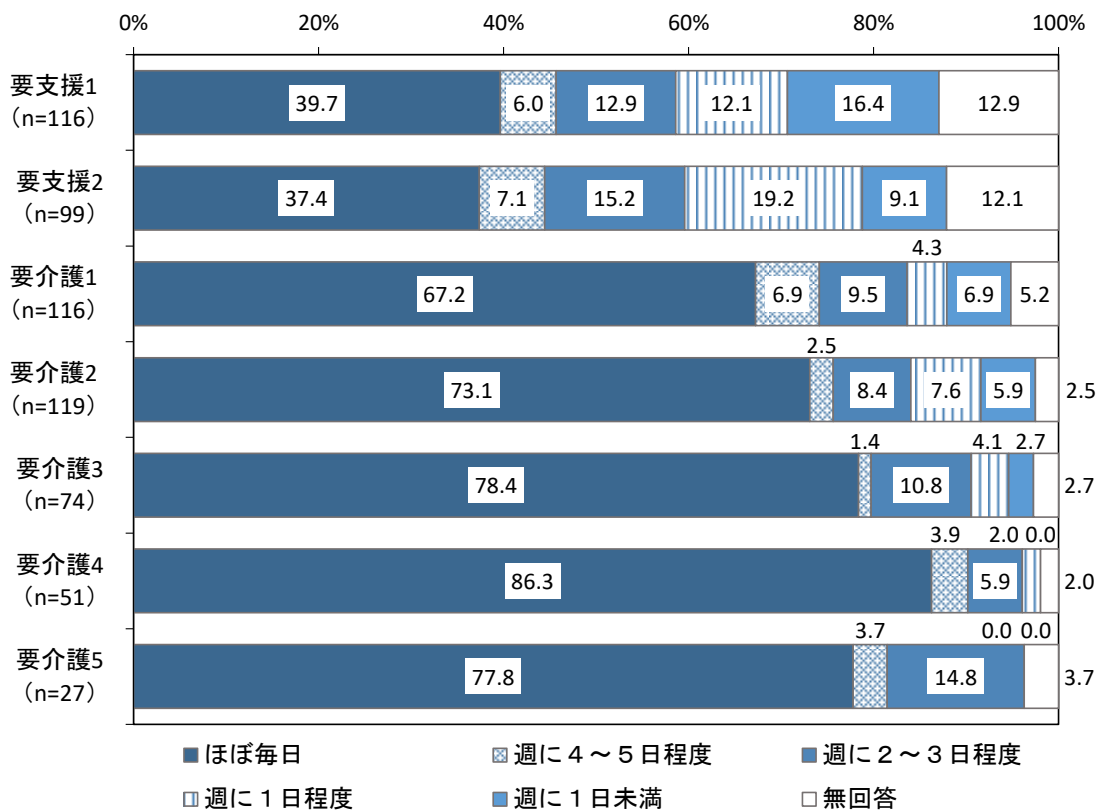
介護の日数については、「ほぼ毎日」が61.6%で最も高く、次いで「週に2～3日程度」が11.0%、「週に1日程度」が8.5%と続いています。

図表 4-7-13 介護の日数



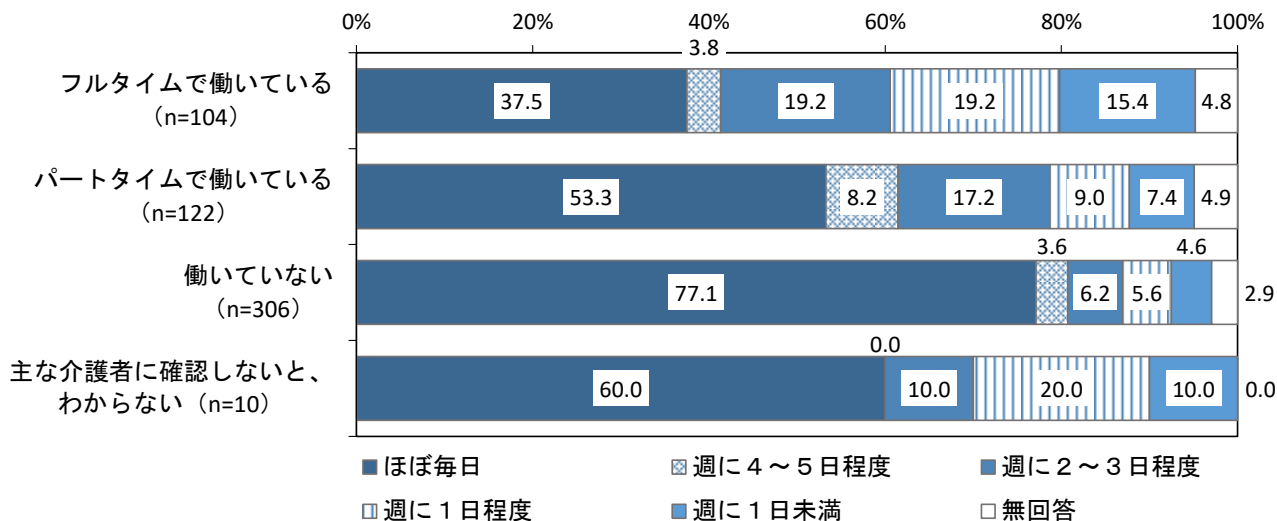
認定状況別でみると、「ほぼ毎日」では、要支援2から要介護4で介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護4が86.3%で最も高くなっています。

図表 4-7-14 介護の日数 認定状況別



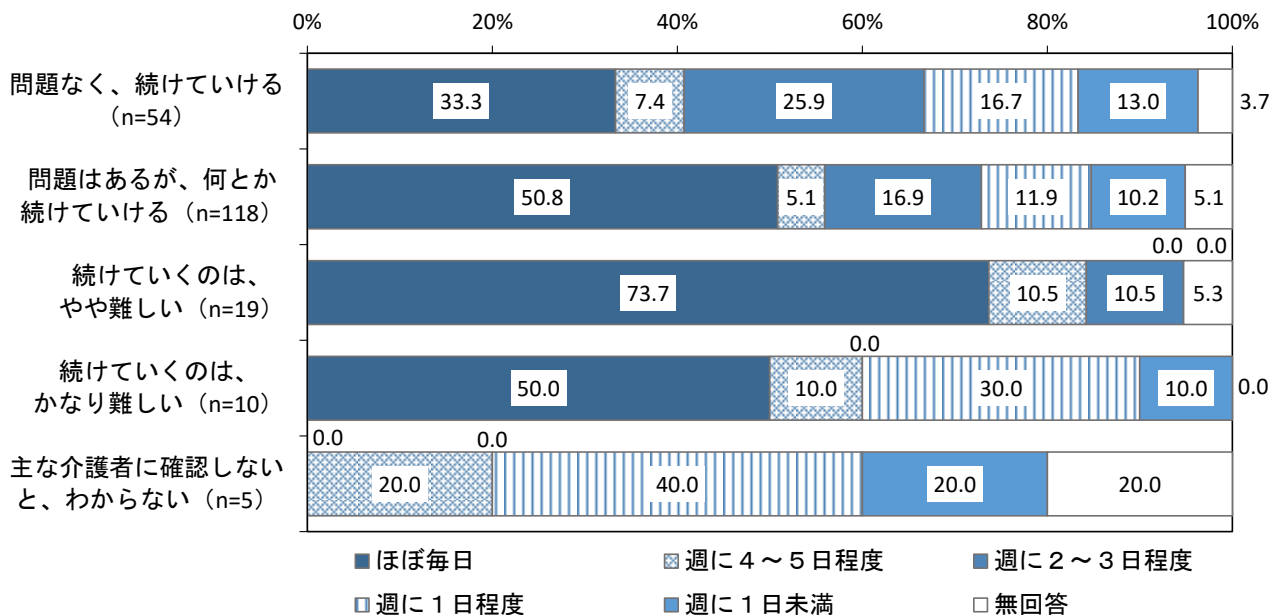
就労状況別でみると、「ほぼ毎日」では、「働いていない」が77.1%で最も高く、「フルタイムで働いている」は37.5%、「パートタイムで働いている」は53.3%となっています。

図表 4-7-15 介護の日数 就労状況別



就労継続見込み別でみると、「ほぼ毎日」では、「続けていくのは、やや難しい」が73.7%で最も高くなっています。

図表 4-7-16 介護の日数 就労継続見込み別

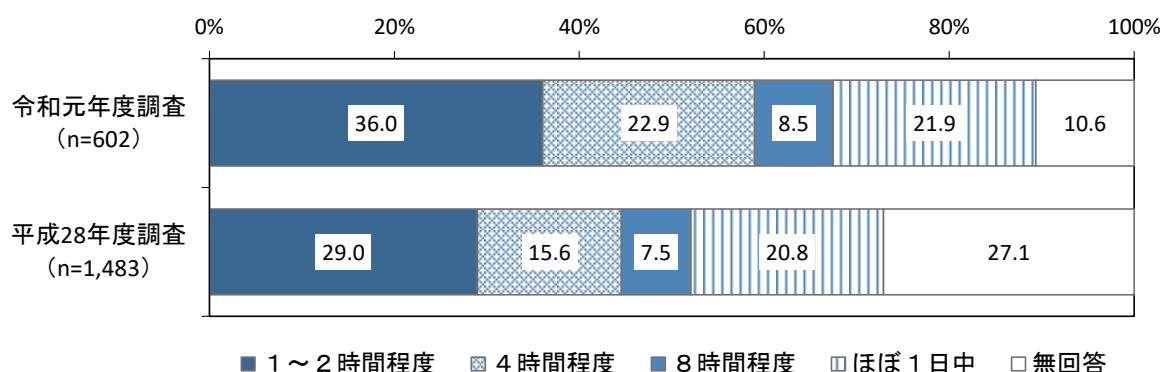




## (2) 1日あたりの介護の時間

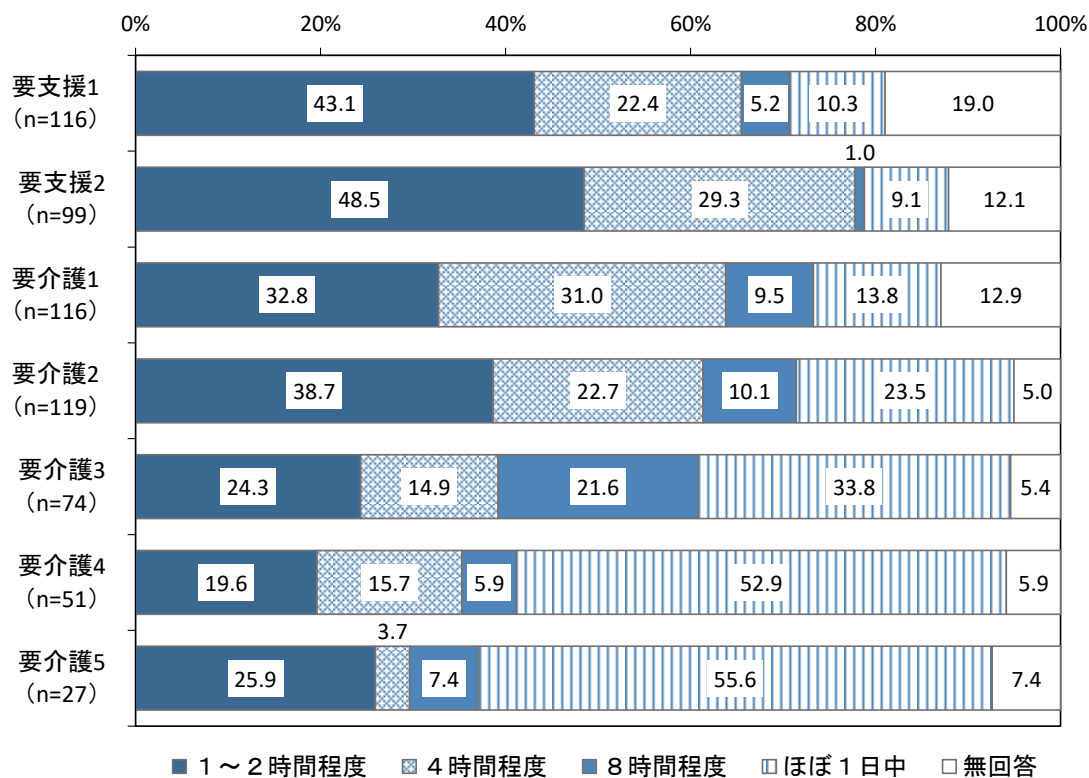
1日あたりの介護の時間については、「1～2時間程度」が36.0%で最も高く、次いで「4時間程度」が22.9%、「ほぼ1日中」が21.9%と続いています。

図表 4-7-17 1日あたりの介護の時間



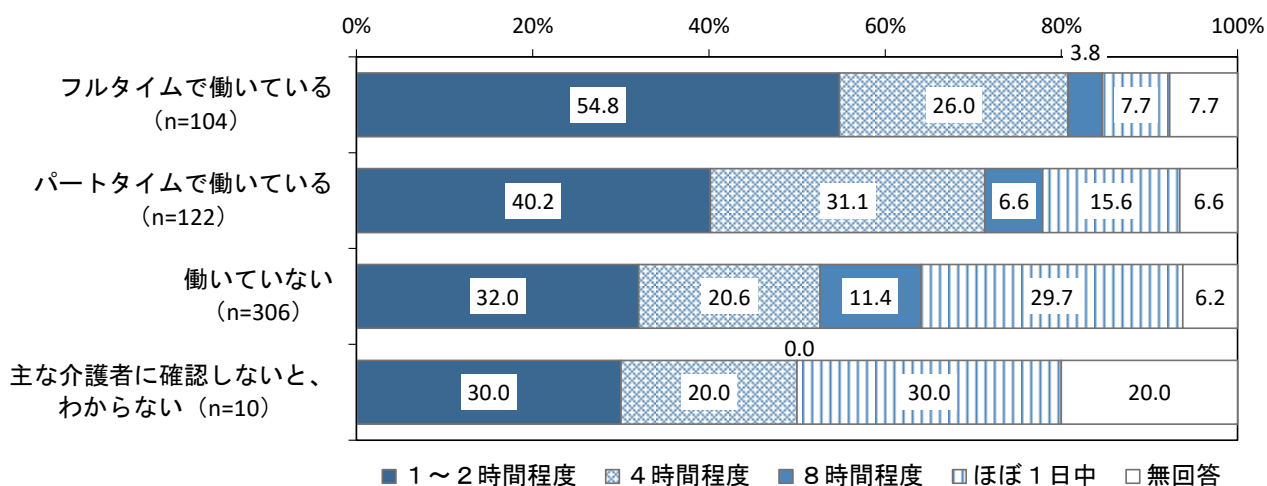
認定状況別でみると、「ほぼ1日中」では、要支援2以上で介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護5が55.6%で最も高くなっています。

図表 4-7-18 1日あたりの介護の時間 認定状況別



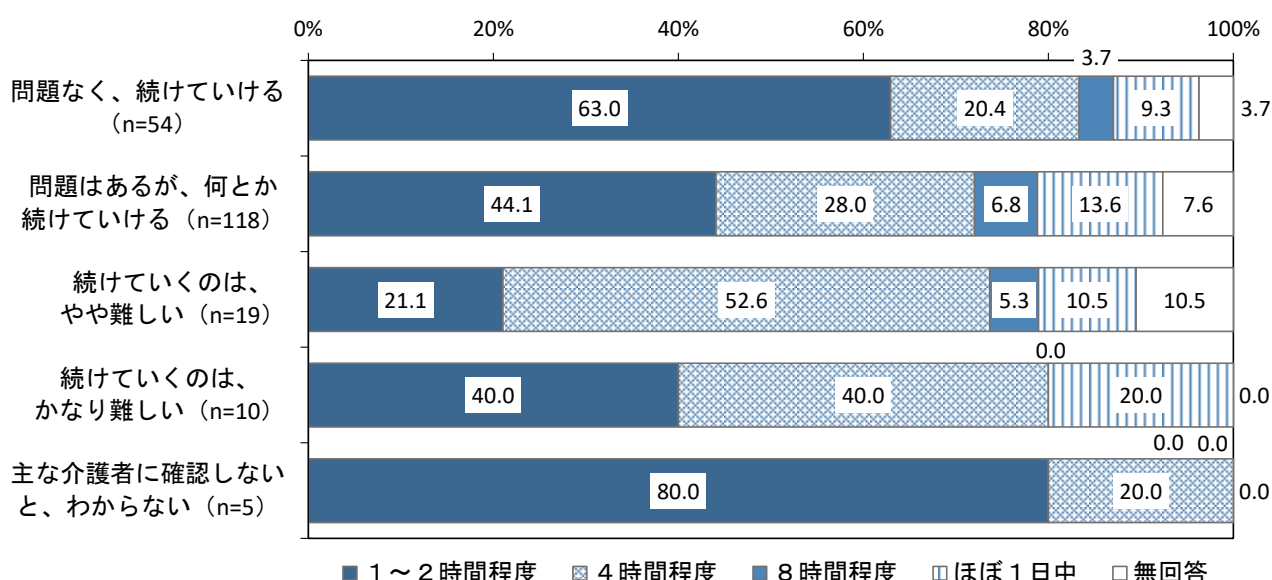
就労状況別でみると、「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」「働いていない」いずれも「1～2時間程度」の割合が最も高くなっています。

図表 4-7-19 1日あたりの介護の時間 就労状況別



就労継続見込み別でみると、「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」ではいずれも「1～2時間程度」の割合が最も高く、「続けていくのは、やや難しい」では「4時間程度」の割合が最も高く、「続けていくのは、かなり難しい」では「1～2時間程度」「4時間程度」が同率で最も高くなっています。

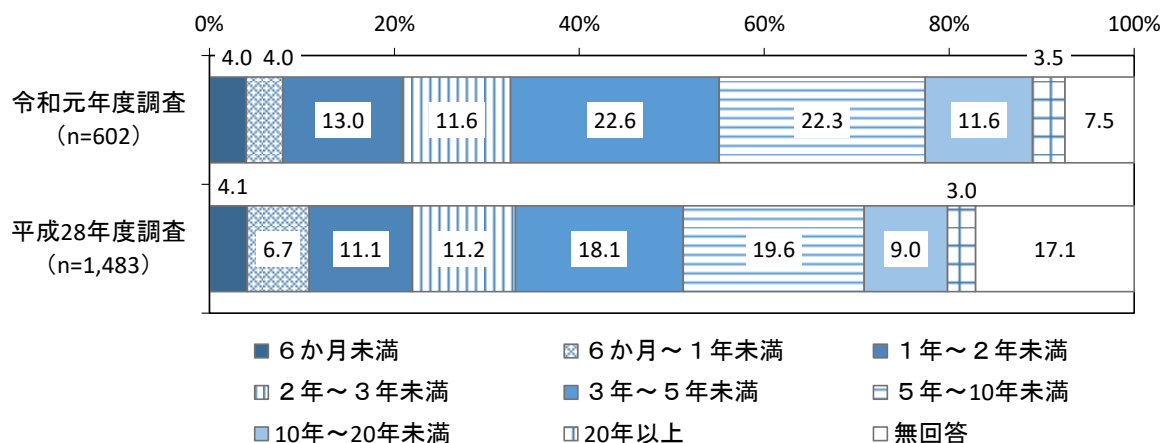
図表 4-7-20 1日あたりの介護の時間 就労継続見込み別



問 33 主な介護者の方の介護期間について、お教えてください。(〇はひとつ)

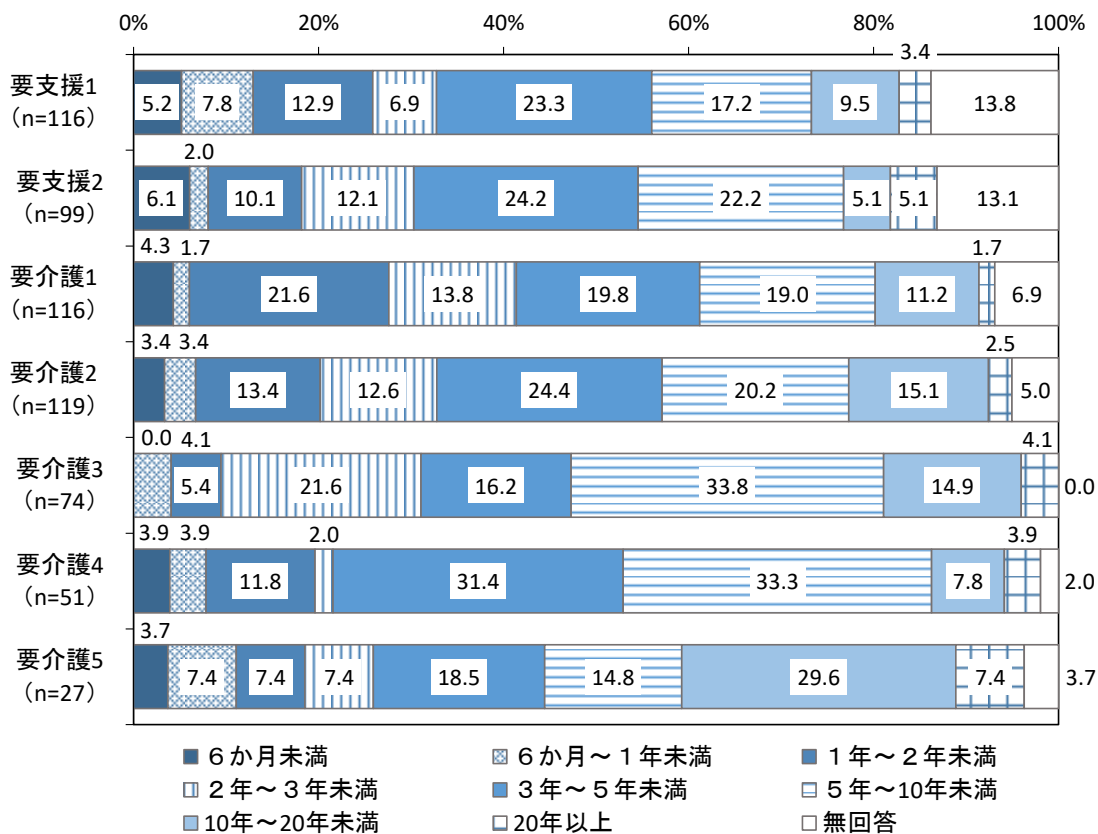
介護期間については、「3年～5年未満」が22.6%で最も高く、次いで「5年～10年未満」が22.3%、「1年～2年未満」が13.0%と続いています。

図表 4-7-21 介護期間



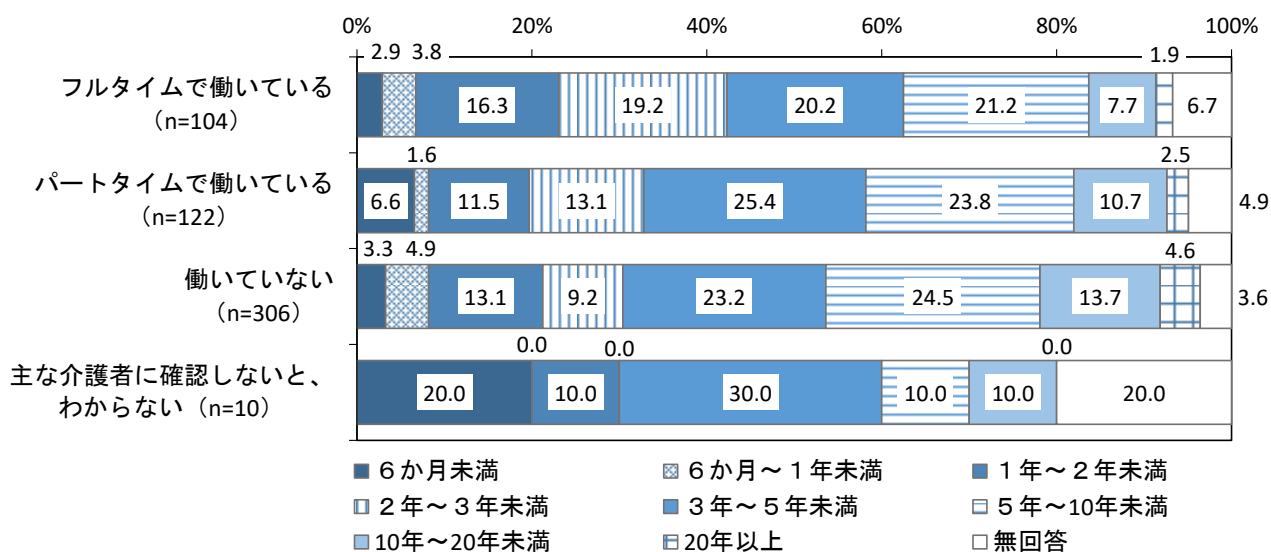
認定状況別でみると、『5年以上』では、要介護3が52.8%で最も高くなっています。

図表 4-7-22 介護期間 認定状況別



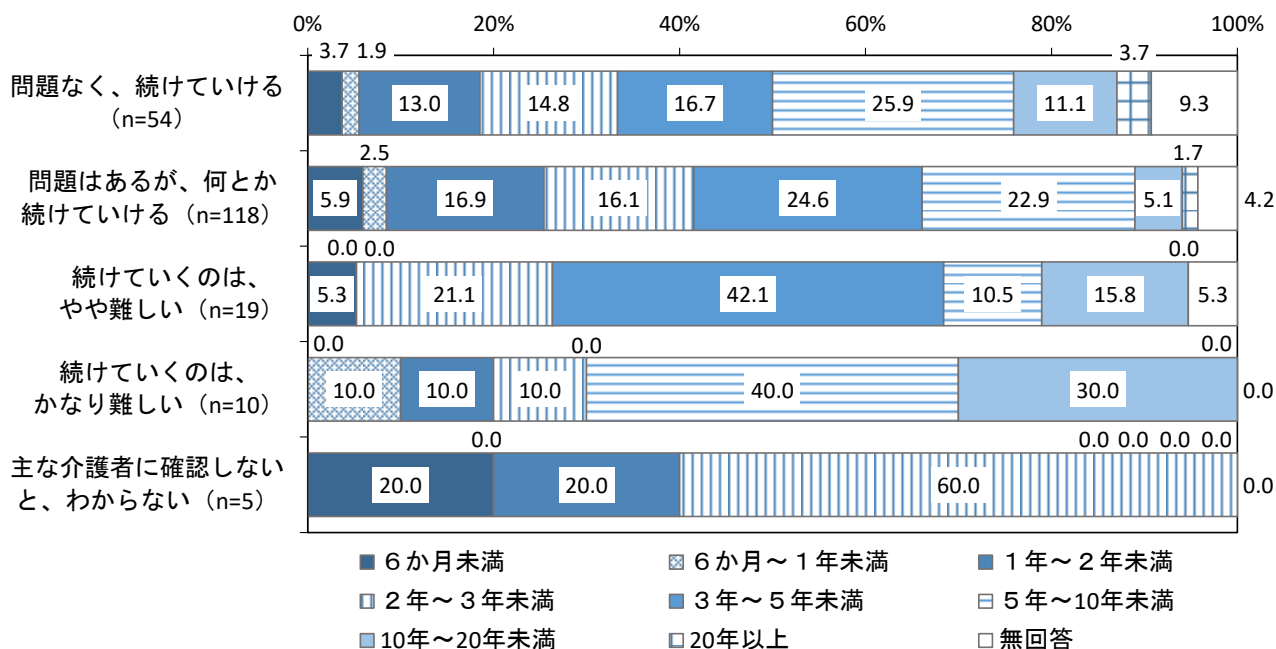
就労状況別でみると、『5年以上』では、「働いていない」が42.8%で最も高くなっています。

図表 4-7-23 介護期間 就労状況別



就労継続見込み別でみると、『5年以上』では、「続けていくのは、かなり難しい」が70.0%で最も高くなっています。

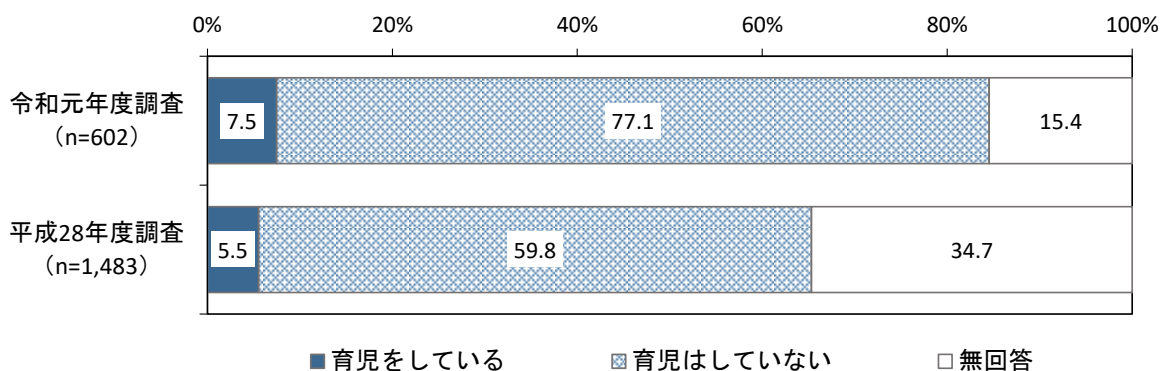
図表 4-7-24 介護期間 就労継続見込み別



問 34 主な介護者の方の育児状況について、お教えてください。(〇はひとつ)

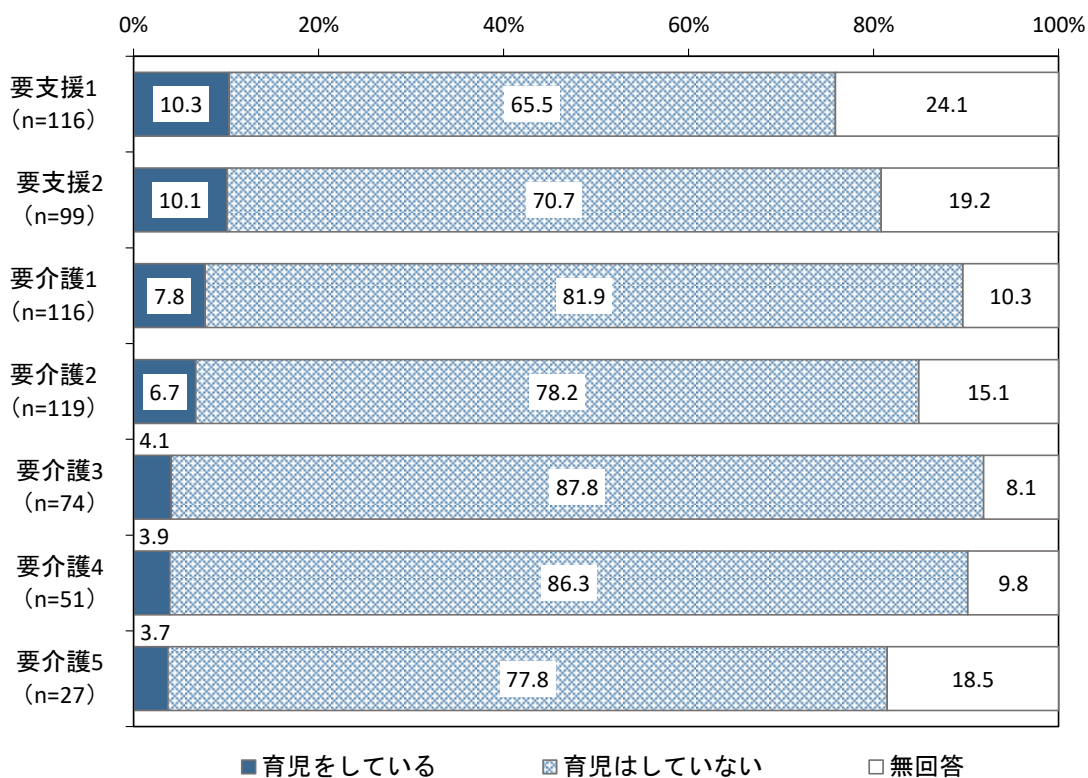
主な介護者の育児状況については、「育児をしている」が7.5%、「育児はしていない」が77.1%となっています。

図表 4-7-25 主な介護者の育児状況



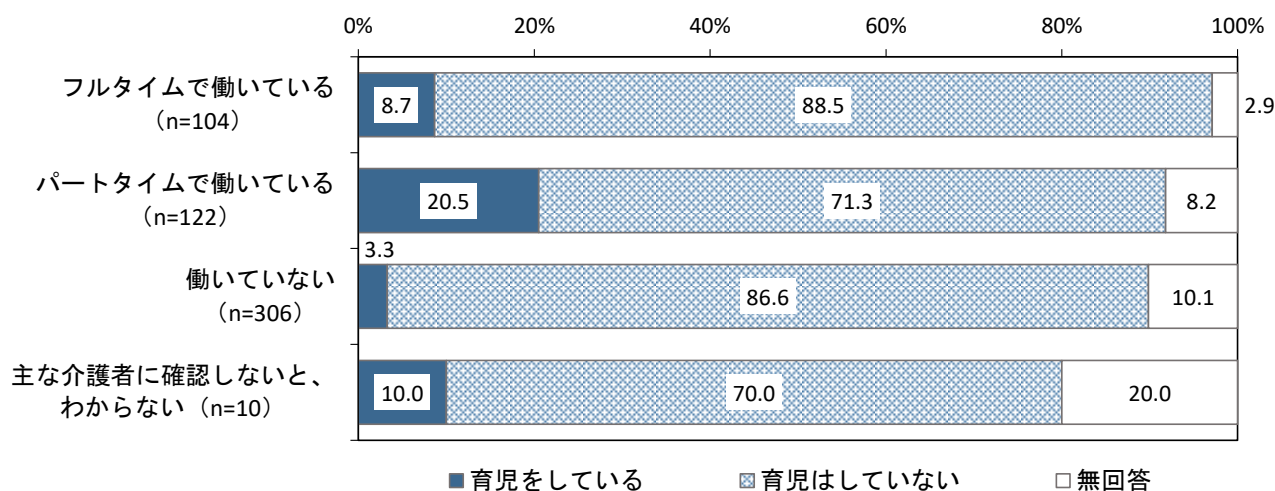
認定状況別でみると、「育児をしている」では、介護度の重度化に伴い割合が低くなっており、要支援1が10.3%で最も高くなっています。

図表 4-7-26 主な介護者の育児状況 認定状況別



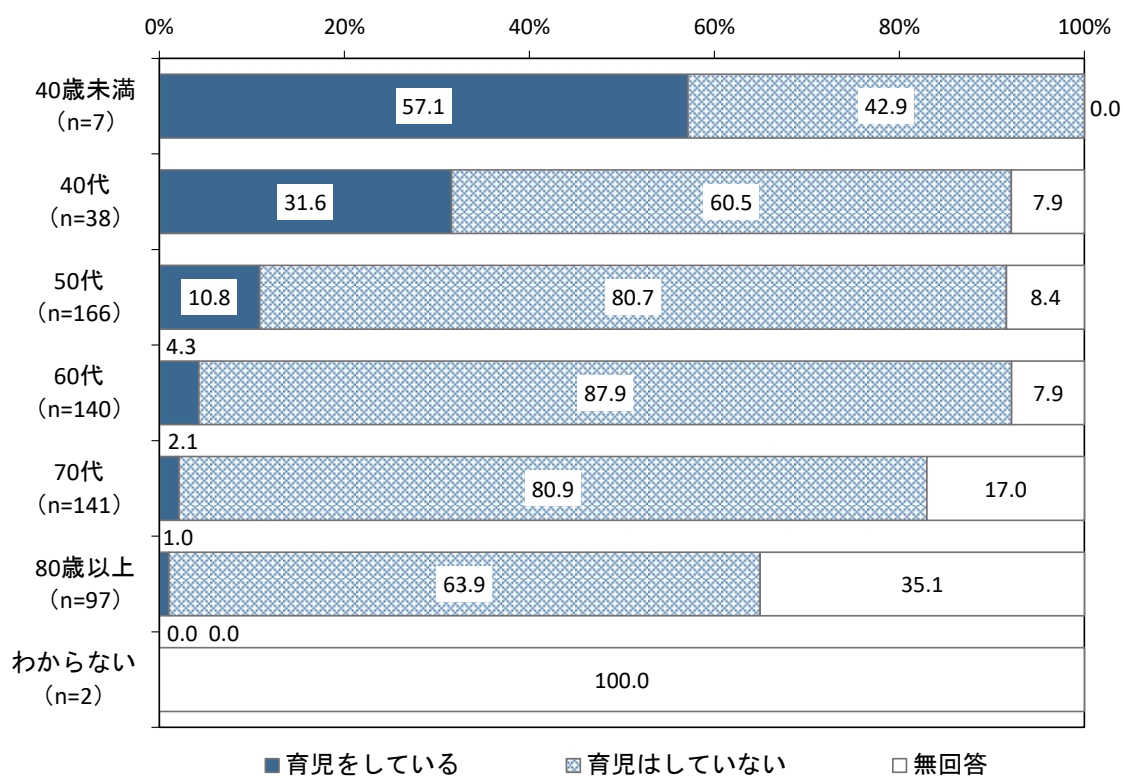
就労状況別でみると、「育児をしている」では、「パートタイムで働いている」が20.5%で最も高くなっています。

図表 4-7-27 主な介護者の育児状況 就労状況別

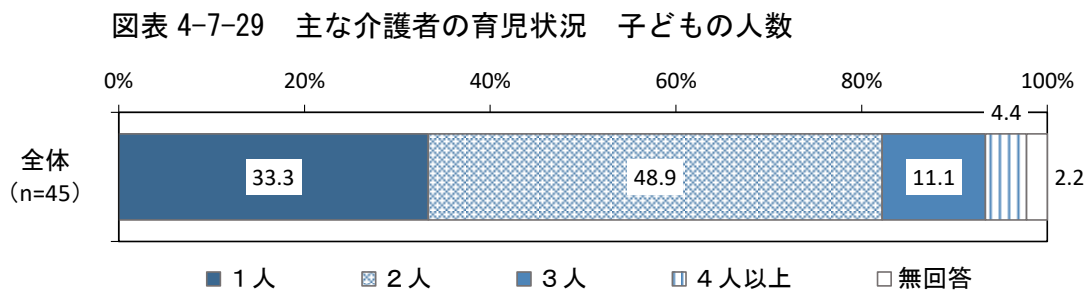


介護者の年齢別でみると、「育児をしている」では、40歳未満が57.1%で最も高くなっています。

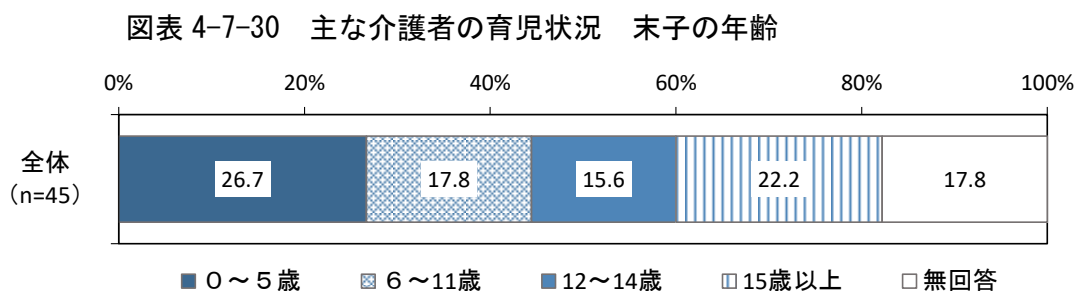
図表 4-7-28 主な介護者の育児状況 介護者の年齢別



子どもの人数については、「2人」が48.9%で最も高く、次いで「1人」が33.3%、「3人」が11.1%と続いています。



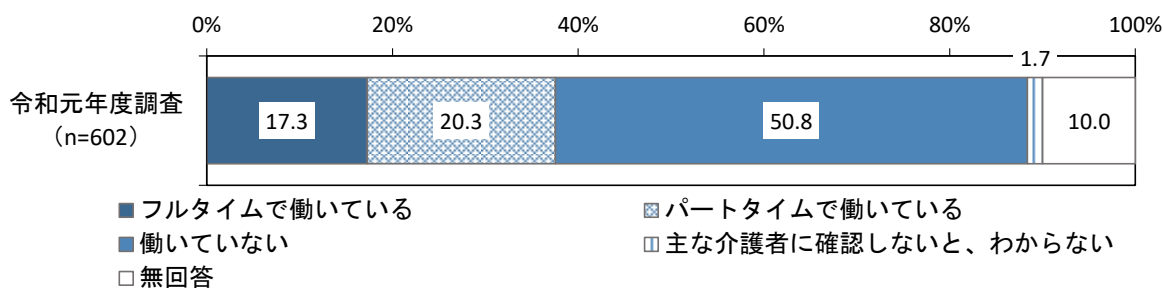
末子の年齢については、「0～5歳」が26.7%で最も高く、次いで「15歳以上」が22.2%、「6～11歳」が17.8%と続いています。



問 35 主な介護者の方の現在の勤務形態について、お教えてください。(〇はひとつ)

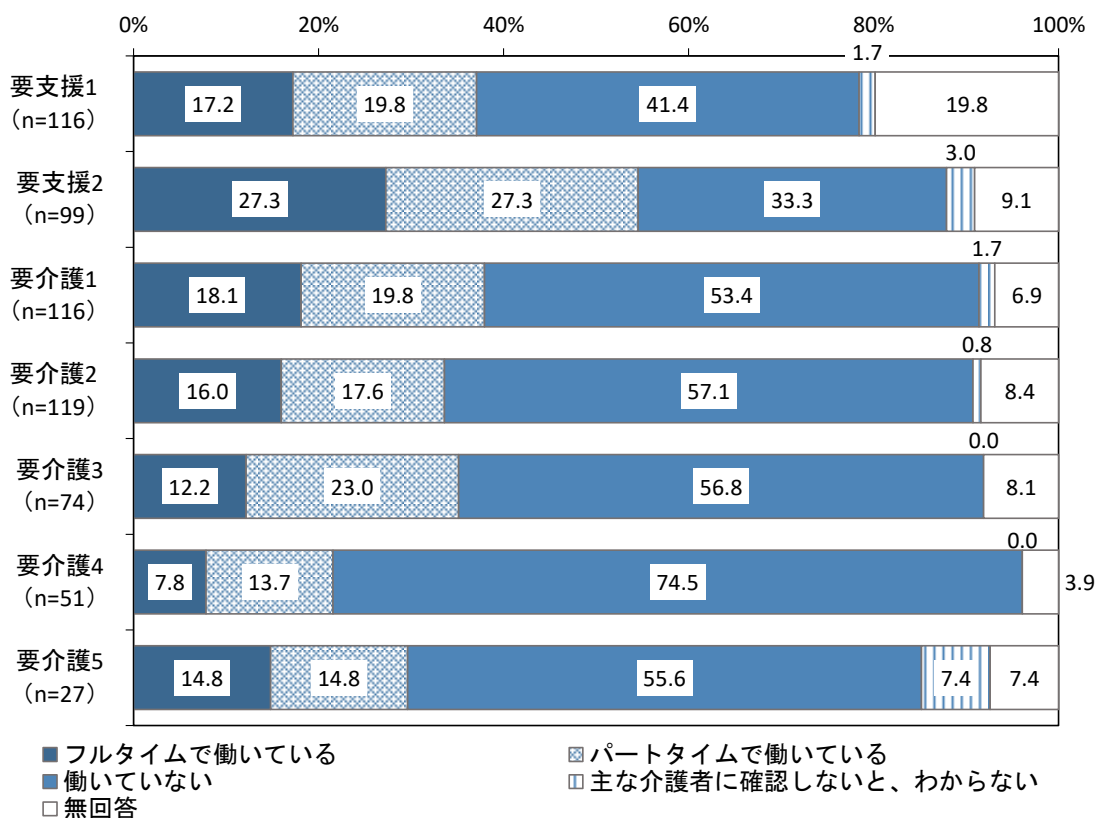
主な介護者の勤務形態については、「働いていない」が50.8%で最も高く、次いで「パートタイムで働いている」が20.3%、「フルタイムで働いている」が17.3%と続いています。

図表 4-7-31 主な介護者の勤務形態



認定状況別でみると、「働いていない」では、要介護4が74.5%で最も高く、「フルタイムで働いている」では、要支援2が27.3%で最も高くなっています。

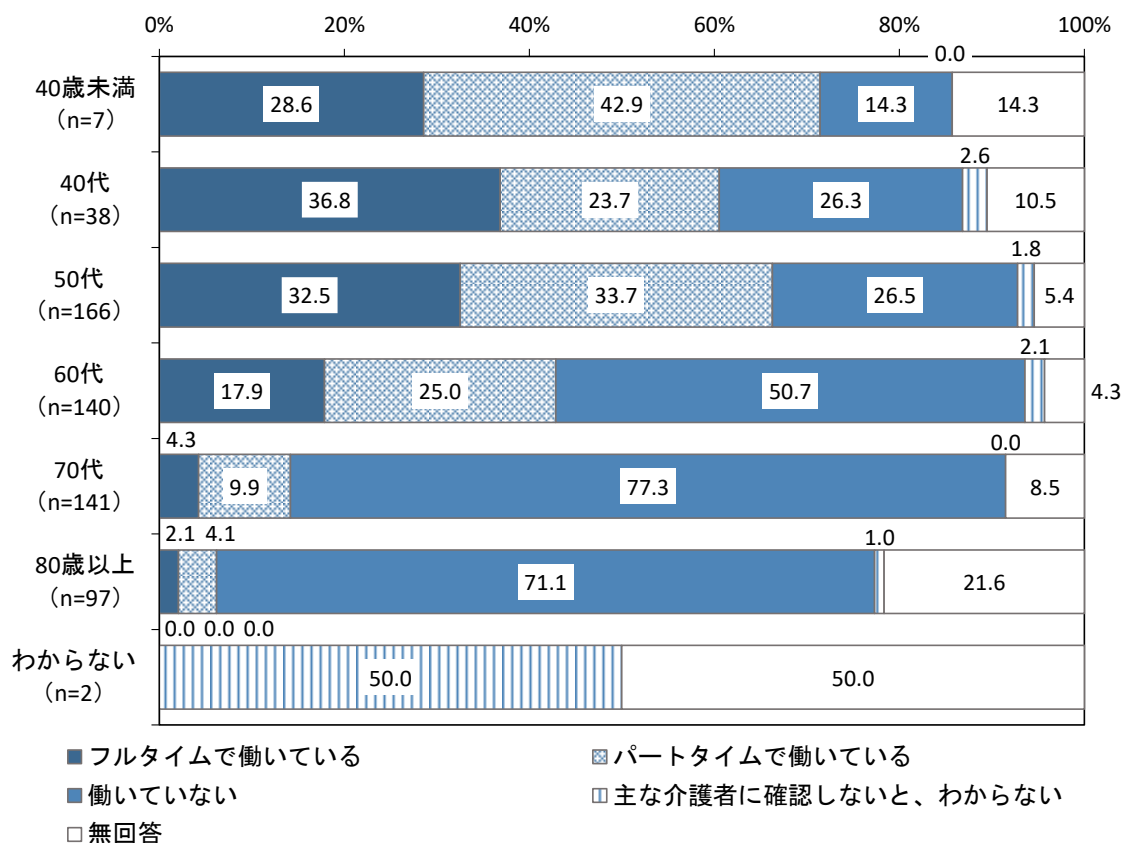
図表 4-7-32 主な介護者の勤務形態 認定状況別





介護者の年齢別でみると、「働いていない」では、80歳未満で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、70代が77.3%で最も高く、「フルタイムで働いている」では、40代が36.8%で最も高くなっています。

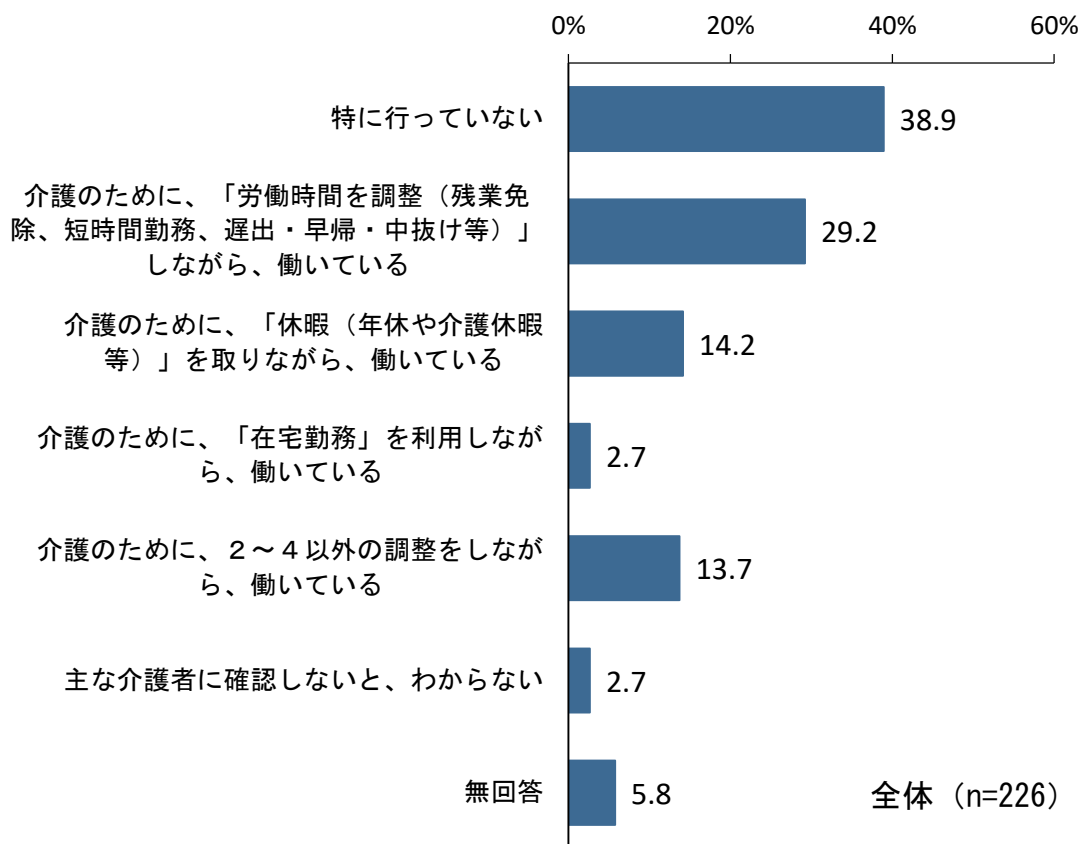
図表 4-7-33 主な介護者の勤務形態 介護者の年齢別



問 36	<p>【問 35 で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」を回答した方】</p> <p>主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。（〇はいくつでも）</p>
------	--

介護をするにあたって働き方の調整等をしているかについては、「特に行っていない」が 38.9%で最も高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 29.2%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が 14.2%と続いています。

図表 4-7-34 介護をするにあたって働き方の調整等をしているか



認定状況別でみると、要支援1から要介護2では「特に行っていない」の割合が最も高く、要介護3、要介護4では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が最も高く、要介護5では「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」の割合が最も高くなっています。

就労状況別でみると、「フルタイムで働いている」では「特に行っていない」が 50.0%で最も高く、「パートタイムで働いている」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 36.1%で最も高くなっています。

就労継続見込み別でみると、「特に行っていない」では、「問題なく、続けていける」が 68.5%で最も高くなっています。

図表 4-7-35 介護をするにあたって働き方の調整等をしているか  
認定状況別・就労状況別・就労継続見込み別

単位：実数（人）、構成比（％）

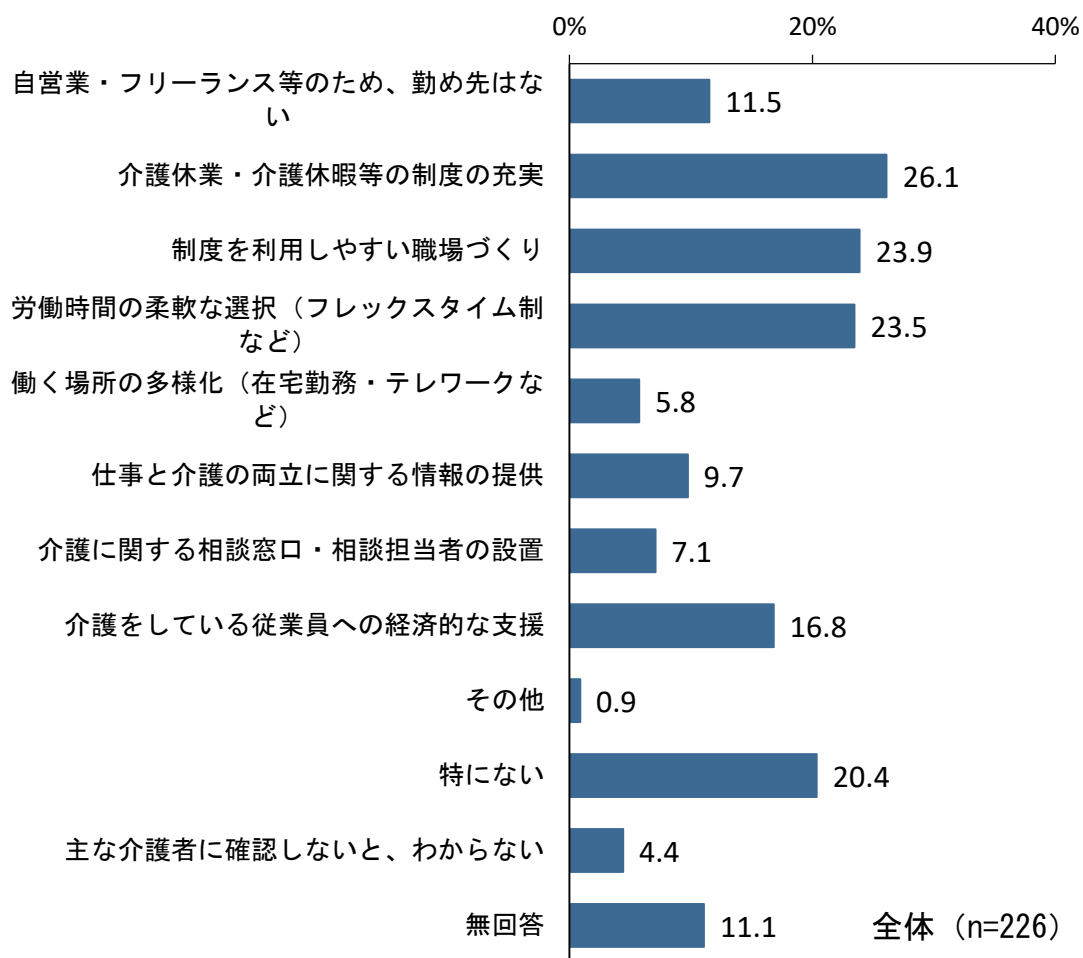
		合計	特に行っていない	介護の「等）」を除く、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）しながら働いている	介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら働いている	介護のために、「在宅勤務」を利用しながら働いている	介護のために、「2〜4以外の調整をしながら働いている	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全体		226	38.9	29.2	14.2	2.7	13.7	2.7	5.8
認定状況別	要支援1	43	53.5	25.6	7.0	2.3	7.0	2.3	7.0
	要支援2	54	35.2	24.1	14.8	3.7	11.1	3.7	11.1
	要介護1	44	36.4	31.8	20.5	0.0	18.2	2.3	6.8
	要介護2	40	45.0	22.5	12.5	5.0	12.5	2.5	2.5
	要介護3	26	30.8	42.3	3.8	3.8	19.2	3.8	0.0
	要介護4	11	18.2	54.5	45.5	0.0	9.1	0.0	0.0
	要介護5	8	25.0	25.0	12.5	0.0	37.5	0.0	0.0
就労状況別	フルタイムで働いている	104	50.0	21.2	18.3	1.9	5.8	1.9	5.8
	パートタイムで働いている	122	29.5	36.1	10.7	3.3	20.5	3.3	5.7
就労継続見込み別	問題なく、続けていける	54	68.5	9.3	9.3	0.0	5.6	0.0	7.4
	問題はあるが、何とか続けていける	118	31.4	37.3	15.3	2.5	16.9	2.5	2.5
	続けていくのは、やや難しい	19	21.1	52.6	15.8	5.3	15.8	0.0	0.0
	続けていくのは、かなり難しい	10	10.0	40.0	40.0	20.0	10.0	0.0	0.0
	主な介護者に確認しないと、わからない	5	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

問 37	<p>【問 35 で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」を回答した方】</p> <p>主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。（〇は3つまで）</p>
------	---

勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うかについては、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 26.1%で最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が 23.9%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 23.5%と続いています。

図表 4-7-36 勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うか



認定状況別でみると、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「制度を利用しやすい職場づくり」「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」「仕事と介護の両立に関する情報の提供」「介護をしている従業員への経済的な支援」では、要介護4の割合が最も高くなっています。

図表 4-7-37 勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うか  
認定状況別

単位：実数（人）、構成比（％）

認定状況別	合計	ため、勤め先はない	介護休業・介護休暇等の制度の充実	く制度を利用しやすい職場づくり	労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）	働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）	仕事と介護の両立に関する情報の提供	介護に関する相談窓口・相談担当者	介護をしながらの経済的な支援	その他	特にな	
		自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	介護休業・介護休暇等の制度の充実	く制度を利用しやすい職場づくり	労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）	働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）	仕事と介護の両立に関する情報の提供	介護に関する相談窓口・相談担当者	介護をしながらの経済的な支援	その他	特にな	
全体	226	11.5	26.1	23.9	23.5	5.8	9.7	7.1	16.8	0.9	20.4	
認定状況別	要支援1	43	7.0	25.6	25.6	20.9	2.3	11.6	4.7	9.3	2.3	23.3
	要支援2	54	9.3	33.3	24.1	24.1	3.7	5.6	3.7	22.2	1.9	25.9
	要介護1	44	4.5	25.0	27.3	25.0	11.4	11.4	9.1	20.5	0.0	15.9
	要介護2	40	17.5	27.5	22.5	22.5	10.0	5.0	10.0	17.5	0.0	12.5
	要介護3	26	15.4	7.7	15.4	23.1	3.8	11.5	11.5	11.5	0.0	23.1
	要介護4	11	18.2	45.5	36.4	36.4	0.0	27.3	9.1	27.3	0.0	18.2
	要介護5	8	37.5	12.5	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0
	合計		と、主な介護者に確認しない	無回答								
全体	226		4.4	11.1								
認定状況別	要支援1	43	9.3	9.3								
	要支援2	54	1.9	11.1								
	要介護1	44	2.3	18.2								
	要介護2	40	5.0	5.0								
	要介護3	26	7.7	15.4								
	要介護4	11	0.0	0.0								
	要介護5	8	0.0	12.5								

※網掛け■は最も割合が高いもの

就労状況別でみると、「フルタイムで働いている」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が31.7%で最も高く、「パートタイムで働いている」では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」の割合が26.2%で最も高くなっています。

就労継続見込み別でみると、「問題なく、続けていける」では「特にな」が29.6%で最も高く、「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が31.4%で最も高く、「続けていくのは、やや難しい」では「制度を利用しやすい職場づくり」が36.8%で最も高く、「続けていくのは、かなり難しい」では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」「介護をしている従業員への経済的な支援」がいずれも40.0%で最も高くなっています。

図表 4-7-38 勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うか  
就労状況別・就労継続見込み別

単位：実数（人）、構成比（％）

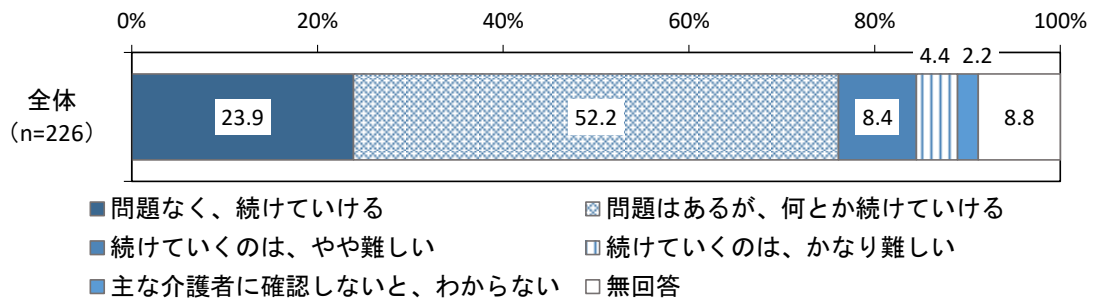
		合計	自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	介護休業・介護休暇等の制度の充実	制度を利用しやすい職場づくり	労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）	働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）	仕事と介護の両立に関する情報の提供	介護に関する相談窓口・相談担当者	介護をしながらの従業者への経済的な支援	その他	特になし
全体		226	11.5	26.1	23.9	23.5	5.8	9.7	7.1	16.8	0.9	20.4
就労状況別	フルタイムで働いている	104	10.6	31.7	25.0	20.2	7.7	9.6	7.7	19.2	1.0	19.2
	パートタイムで働いている	122	12.3	21.3	23.0	26.2	4.1	9.8	6.6	14.8	0.8	21.3
就労継続見込み別	問題なく、続けていける	54	11.1	27.8	24.1	14.8	9.3	5.6	5.6	9.3	0.0	29.6
	問題はあるが、何とか続けていける	118	14.4	31.4	26.3	29.7	5.9	14.4	6.8	20.3	0.8	18.6
	続けていくのは、やや難しい	19	0.0	26.3	36.8	31.6	5.3	5.3	15.8	21.1	0.0	10.5
	続けていくのは、かなり難しい	10	20.0	20.0	20.0	40.0	0.0	10.0	10.0	40.0	10.0	0.0
	主な介護者に確認しないと、わからない	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		合計										
全体		226										
就労状況別	フルタイムで働いている	104										
	パートタイムで働いている	122										
就労継続見込み別	問題なく、続けていける	54										
	問題はあるが、何とか続けていける	118										
	続けていくのは、やや難しい	19										
	続けていくのは、かなり難しい	10										
	主な介護者に確認しないと、わからない	5									80.0	20.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

問 38	<p>【問 35 で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」を回答した方】</p> <p>主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(〇はひとつ)</p>
------	--

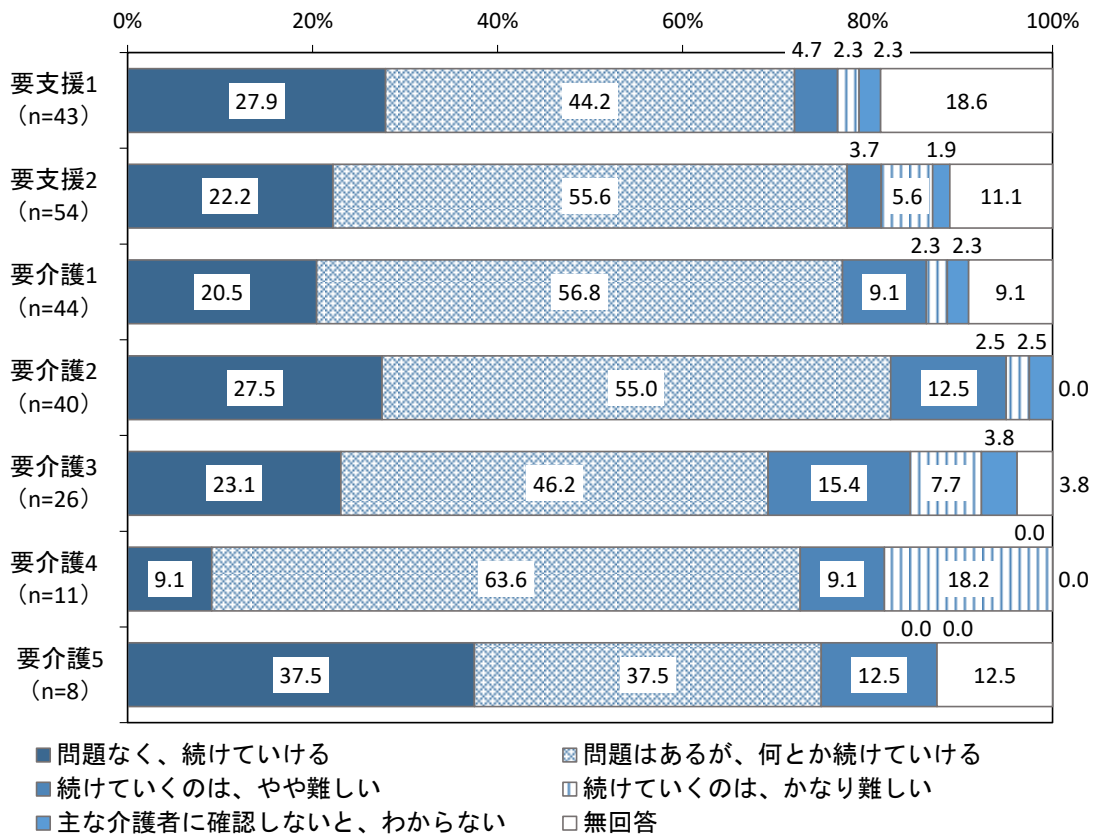
今後も働きながら介護を続けていけそうかについては、「問題はあるが、何とか続けていける」が 52.2%で最も高く、次いで「問題なく、続けていける」が 23.9%、「続けていくのは、やや難しい」が 8.4%と続いており、『続けていける』（「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」の合計）は 76.1%、『難しい』（「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」の合計）は 12.8%となっています。

図表 4-7-39 今後も働きながら介護を続けていけそうか



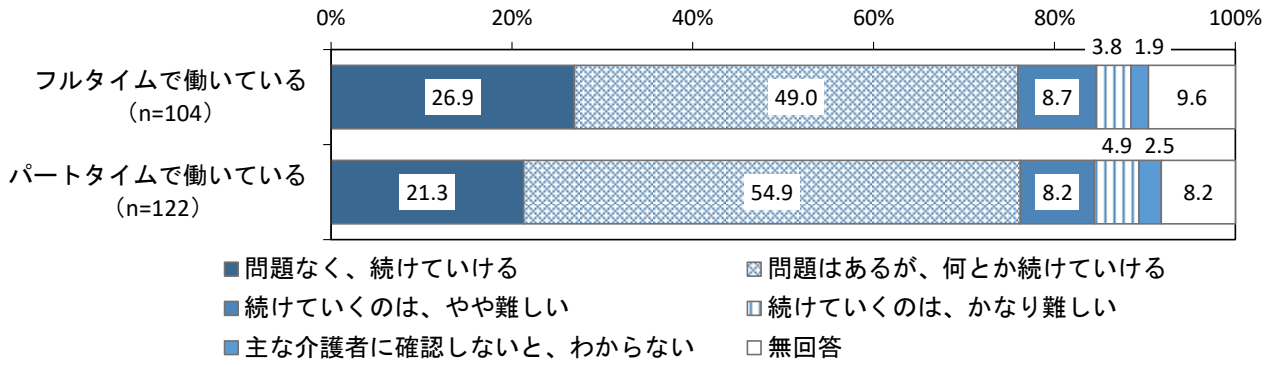
認定状況別でみると、『難しい』では、要介護4以下で介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護4が 27.3%で最も高くなっています。

図表 4-7-40 今後も働きながら介護を続けていけそうか 認定状況別



就労状況別でみると、「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」いずれも「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高くなっています。

図表 4-7-41 今後も働きながら介護を続けていけそうか 就労状況別

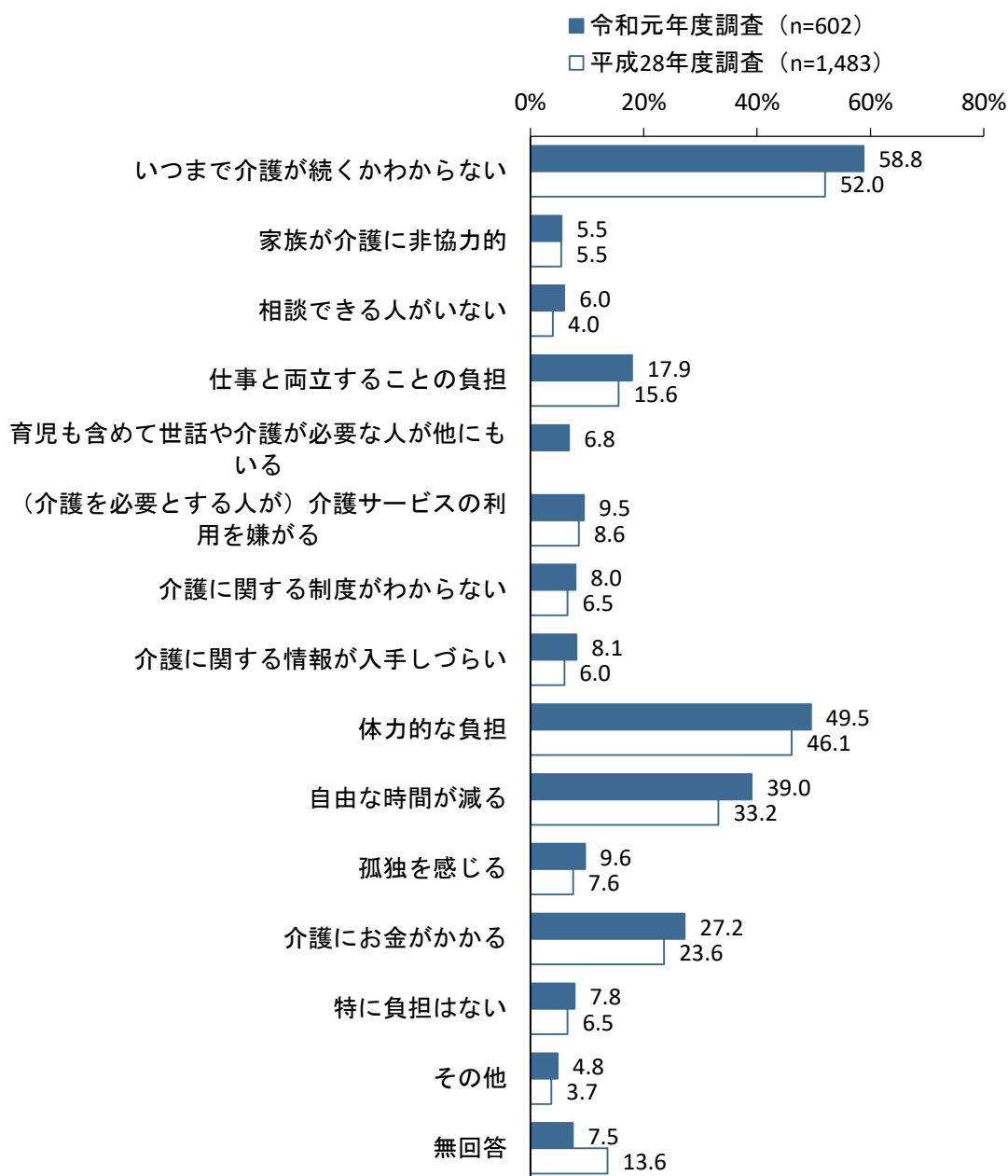




問 39 介護に対して負担に感じることは何ですか。(〇はいくつでも)

介護に対して負担に感じることは何かについては、「いつまで介護が続くかわからない」が58.8%で最も高く、次いで「体力的な負担」が49.5%、「自由な時間が減る」が39.0%と続いています。

図表 4-7-42 介護に対して負担に感じることは何か



※令和元年度調査より「育児も含めて世話や介護が必要な人が他にもいる」の選択肢を追加

認定状況別でみると、すべての介護度で「いつまで介護が続くかわからない」の割合が最も高く、次いで「体力的な負担」の割合が高くなっています。

図表 4-7-43 介護に対して負担に感じることは何か 認定状況別

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	いつまで介護が続くかわからない	家族が介護に非協力的	相談できる人がいない	仕事と両立することの負担	育児も含めて世話や介護が必要な人が他にもいる	介護サービス（介護を必要とする人が）の利用を嫌がる	介護に関する制度がわからない	介護に関する情報が入手しづらい	体力的な負担	自由な時間が減る					
												合計	孤独を感じる	介護にお金がかかる	特に負担はない	その他
全体	602	58.8	5.5	6.0	17.9	6.8	9.5	8.0	8.1	49.5	39.0					
認定状況別	要支援1	116	49.1	4.3	6.9	12.9	3.4	6.0	8.6	6.9	36.2	25.0				
	要支援2	99	46.5	4.0	6.1	22.2	6.1	6.1	13.1	12.1	34.3	31.3				
	要介護1	116	56.9	5.2	6.0	18.1	8.6	11.2	4.3	7.8	52.6	41.4				
	要介護2	119	61.3	6.7	4.2	20.2	8.4	10.9	5.0	7.6	51.3	42.9				
	要介護3	74	71.6	2.7	5.4	24.3	8.1	6.8	8.1	8.1	68.9	51.4				
	要介護4	51	76.5	11.8	9.8	11.8	7.8	21.6	13.7	9.8	64.7	51.0				
	要介護5	27	74.1	7.4	3.7	7.4	3.7	7.4	3.7	0.0	59.3	44.4				
全体	602	9.6	27.2	7.8	4.8	7.5										
認定状況別	要支援1	116	7.8	20.7	10.3	5.2	17.2									
	要支援2	99	7.1	17.2	15.2	7.1	10.1									
	要介護1	116	9.5	23.3	4.3	4.3	5.2									
	要介護2	119	9.2	32.8	4.2	3.4	5.9									
	要介護3	74	13.5	33.8	8.1	5.4	2.7									
	要介護4	51	17.6	41.2	5.9	3.9	0.0									
	要介護5	27	3.7	40.7	3.7	3.7	0.0									

※網掛け■は最も割合が高いもの

介護者の年齢別でみると、「いつまで介護が続くかわからない」では、80歳未満で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、70代が73.8%で最も高く、「体力的な負担」では、80歳未満で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、70代が70.2%で最も高くなっています。

図表 4-7-44 介護に対して負担に感じることは何か 介護者の年齢別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	いつまで介護が続くかわからない	家族が介護に非協力的	相談できる人がいない	仕事と両立することの負担	育児も含めて世話や介護が必要な人が他にもいる	（介護を必要とする人が）介護サービス利用を嫌がる	介護に関する制度がわからない	介護に関する情報が入手しづらい	体力的な負担	自由な時間が減る
全体		602	58.8	5.5	6.0	17.9	6.8	9.5	8.0	8.1	49.5	39.0
介護者の年齢別	40歳未満	7	42.9	0.0	0.0	42.9	28.6	0.0	0.0	14.3	28.6	42.9
	40代	38	50.0	5.3	5.3	26.3	10.5	10.5	7.9	10.5	28.9	42.1
	50代	166	53.0	11.4	7.2	34.9	10.8	12.0	9.0	9.0	40.4	42.8
	60代	140	53.6	2.9	4.3	14.3	11.4	7.1	4.3	8.6	43.6	40.0
	70代	141	73.8	3.5	8.5	9.2	0.7	12.8	10.6	8.5	70.2	41.8
	80歳以上	97	62.9	3.1	4.1	4.1	0.0	5.2	9.3	5.2	58.8	29.9
	わからない	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		合計	孤独を感じる	介護にお金がかかる	特に負担はない	その他	無回答					
全体		602	9.6	27.2	7.8	4.8	7.5					
介護者の年齢別	40歳未満	7	0.0	28.6	14.3	0.0	14.3					
	40代	38	5.3	31.6	7.9	13.2	10.5					
	50代	166	9.6	26.5	10.8	3.6	7.8					
	60代	140	9.3	30.0	8.6	7.1	4.3					
	70代	141	13.5	28.4	6.4	2.1	4.3					
	80歳以上	97	8.2	22.7	2.1	5.2	9.3					
	わからない	2	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0					

※網掛け■は最も割合が高いもの

就労状況別でみると、「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」「働いていない」いずれも「いつまで介護が続くかわからない」の割合が最も高く、「フルタイムで働いている」では次いで「仕事と両立することの負担」の割合が高く、「パートタイムで働いている」では次いで「自由な時間が減る」の割合が高く、「働いていない」では次いで「体力的な負担」の割合が高くなっています。

就労継続見込み別でみると、「問題なく、続けていける」では「特に負担はない」が38.9%で最も高く、「問題はあるが、何とか続けていける」では「いつまで介護が続くかわからない」が63.6%で最も高く、「続けていくのは、やや難しい」では「仕事と両立することの負担」が84.2%で最も高く、「続けていくのは、かなり難しい」では「いつまで介護が続くかわからない」「仕事と両立することの負担」がいずれも80.0%で最も高くなっています。

図表 4-7-45 介護に対して負担に感じることは何か 就労状況別・就労継続見込み別

単位：実数（人）、構成比（％）

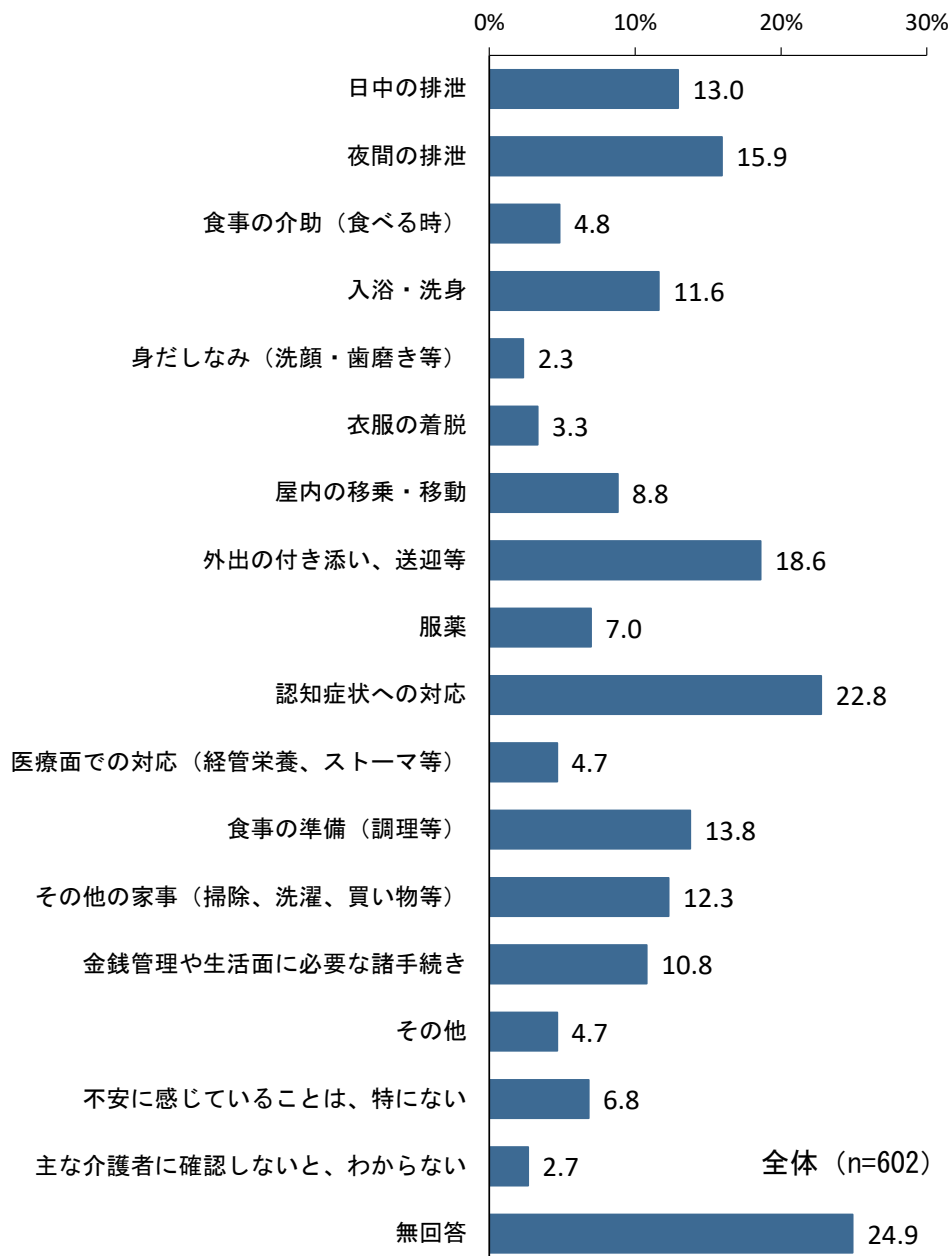
		合計	らい つまで 介護が 続わか かわか	家族 が介護 に非協 力的	相談 できる 人がい ない	仕事 と両立 すること の負担	育児 も含め て世話 や介護 が必要 な人が 他にも いる	介護 （介護 サービ スの利 用を嫌 がる人 が）	介護 に関す る制度 がわか らな い	介護 に関す る情報 が入手 しづら い	体的 な負担	自由 な時間 が減る
全体		602	58.8	5.5	6.0	17.9	6.8	9.5	8.0	8.1	49.5	39.0
就労 状況 別	フルタイムで働いている	104	49.0	4.8	4.8	38.5	4.8	12.5	7.7	11.5	30.8	30.8
	パートタイムで働いている	122	56.6	8.2	4.1	40.2	13.1	10.7	9.8	9.8	41.0	42.6
	働いていない	306	67.6	5.6	6.9	4.9	6.2	8.2	7.5	7.2	64.1	45.1
	主な介護者に確認しないと、わからない	10	10.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	20.0	0.0	10.0	10.0
就労 継続 見込 み別	問題なく、続けていける	54	29.6	3.7	0.0	11.1	3.7	7.4	0.0	1.9	20.4	13.0
	問題はあるが、何とか続けていける	118	63.6	8.5	5.1	49.2	12.7	10.2	11.9	11.9	43.2	47.5
	続けていくのは、やや難しい	19	63.2	5.3	10.5	84.2	10.5	31.6	10.5	15.8	63.2	57.9
	続けていくのは、かなり難しい	10	80.0	20.0	20.0	80.0	10.0	20.0	30.0	20.0	50.0	70.0
	主な介護者に確認しないと、わからない	5	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
		合計	孤独 を感じる	介護 にお金 がかか る	特に 負担は ない	その 他	無回 答					
全体		602	9.6	27.2	7.8	4.8	7.5					
就労 状況 別	フルタイムで働いている	104	4.8	20.2	16.3	4.8	4.8					
	パートタイムで働いている	122	10.7	31.1	9.0	4.9	5.7					
	働いていない	306	12.1	30.1	4.6	4.2	2.6					
	主な介護者に確認しないと、わからない	10	0.0	10.0	30.0	20.0	10.0					
就労 継続 見込 み別	問題なく、続けていける	54	0.0	14.8	38.9	1.9	1.9					
	問題はあるが、何とか続けていける	118	7.6	28.8	3.4	3.4	5.1					
	続けていくのは、やや難しい	19	15.8	36.8	0.0	0.0	0.0					
	続けていくのは、かなり難しい	10	30.0	40.0	0.0	0.0	10.0					
	主な介護者に確認しないと、わからない	5	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0					

※網掛け■は最も割合が高いもの

問 40	現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、教えてください（現状で行っているか否かは問いません）。 （〇は3つまで）
------	---

現在の生活を継続するにあたり介護者が不安を感じる介護については、「認知症状への対応」が22.8%で最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が18.6%、「夜間の排泄」が15.9%と続いています。

図表 4-7-46 現在の生活を継続するにあたり介護者が不安を感じる介護



認定状況別でみると、要支援1、要支援2では「外出の付き添い、送迎等」の割合が最も高く、要介護1から要介護3では「認知症状への対応」の割合が最も高く、要介護4では「日中の排泄」「認知症状への対応」が同率で最も高く、要介護5では「夜間の排泄」の割合が最も高くなっています。

図表 4-7-47 現在の生活を継続するにあたり介護者が不安に感じる介護 認定状況別

単位：実数（人）、構成比（%）

認定状況別	合計	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬	認知症状への対応	養医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	濯、その他の家事（掃除、洗、買入物等）	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	特にな不安に感じていることは、	と、主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全体	602	13.0	15.9	4.8	11.6	2.3	3.3	8.8	18.6	7.0	22.8	4.7	13.8	12.3	10.8	4.7	6.8	2.7	24.9
認定状況別	要支援1	116	6.9	7.8	4.3	8.6	1.7	2.6	6.0	4.3	8.6	2.6	18.1	18.1	9.5	1.7	6.0	5.2	33.6
	要支援2	99	8.1	8.1	1.0	11.1	2.0	0.0	7.1	5.1	15.2	4.0	11.1	21.2	9.1	4.0	12.1	5.1	23.2
	要介護1	116	13.8	12.9	5.2	12.9	1.7	1.7	2.6	19.8	11.2	22.4	3.4	15.5	12.9	4.3	5.2	0.9	22.4
	要介護2	119	16.0	22.7	4.2	14.3	2.5	5.9	13.4	20.2	10.9	23.5	7.6	16.0	12.6	3.4	4.2	1.7	24.4
	要介護3	74	17.6	25.7	5.4	13.5	2.7	6.8	12.2	14.9	1.4	32.4	2.7	13.5	9.5	4.1	8.1	1.4	24.3
	要介護4	51	23.5	21.6	7.8	11.8	5.9	5.9	15.7	13.7	7.8	23.5	2.0	7.8	7.8	11.8	5.9	2.0	19.6
	要介護5	27	7.4	25.9	14.8	3.7	0.0	0.0	11.1	11.1	3.7	22.2	18.5	0.0	14.8	14.8	7.4	0.0	18.5

※網掛け■は最も割合が高いもの

就労状況別でみると、「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」「働いていない」いずれも「認知症状への対応」の割合が最も高くなっています。

就労継続見込み別でみると、「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」では「認知症状への対応」の割合が最も高く、「続けていくのは、やや難しい」では「外出の付き添い、送迎等」「認知症状への対応」が同率で最も高く、「続けていくのは、かなり難しい」では「外出の付き添い、送迎等」の割合が最も高くなっています。

図表 4-7-48 現在の生活を継続するにあたり介護者が不安に感じる介護

就労状況別・就労継続見込み別

単位：実数（人）、構成比（％）

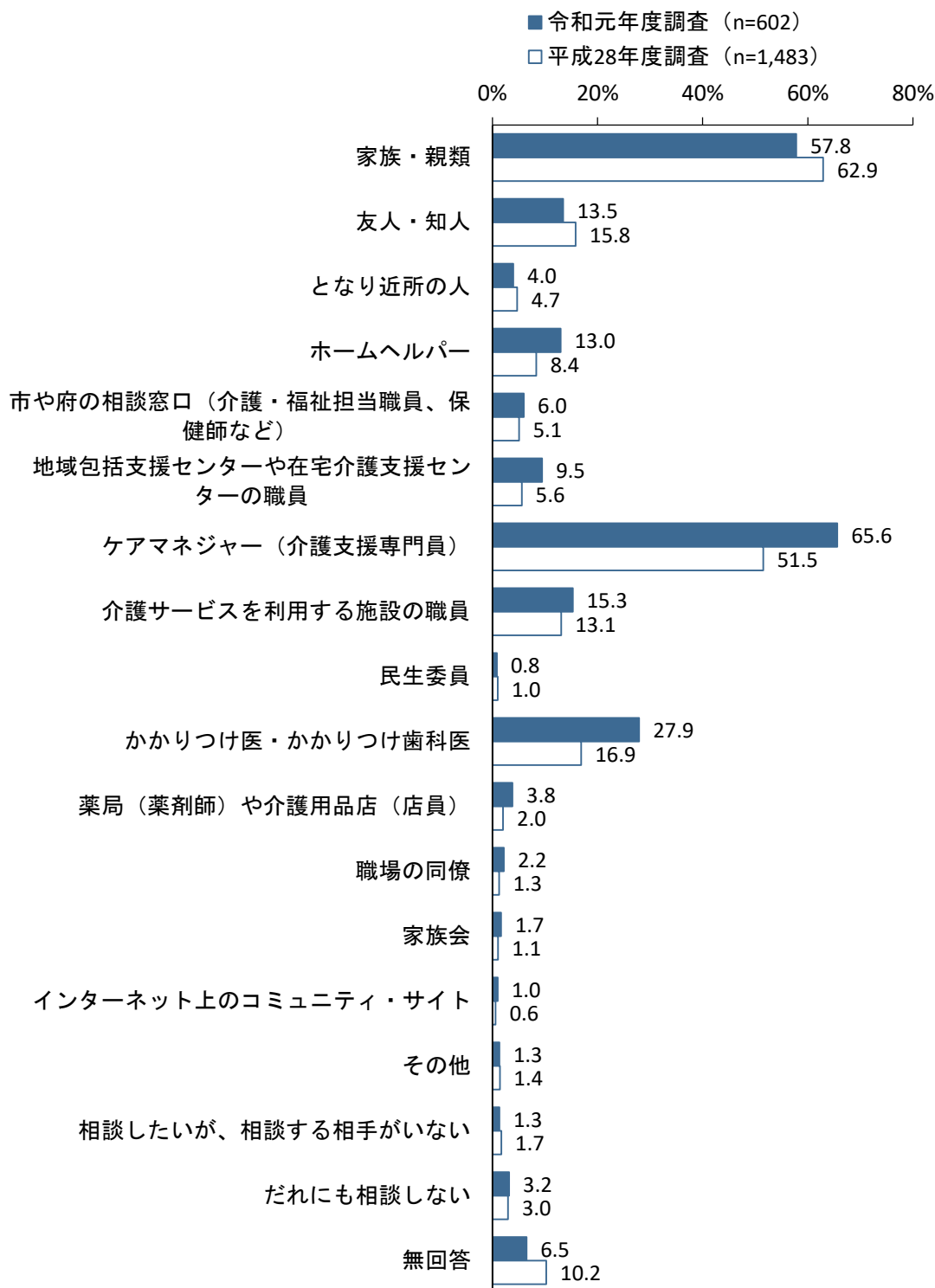
		合計	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬	認知症状への対応
全体		602	13.0	15.9	4.8	11.6	2.3	3.3	8.8	18.6	7.0	22.8
就労状況別	フルタイムで働いている	104	7.7	11.5	1.0	8.7	1.0	1.0	2.9	23.1	7.7	25.0
	パートタイムで働いている	122	21.3	18.9	7.4	13.1	3.3	1.6	13.1	17.2	6.6	28.7
	働いていない	306	14.1	18.6	4.9	12.7	2.3	4.6	9.5	18.6	6.9	21.2
	主な介護者に確認しないと、わからない	10	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0
就労継続見込み別	問題なく、続けていける	54	9.3	9.3	7.4	7.4	3.7	0.0	11.1	18.5	9.3	29.6
	問題はあるが、何とか続けていける	118	20.3	20.3	3.4	14.4	0.0	1.7	8.5	20.3	6.8	29.7
	続けていくのは、やや難しい	19	15.8	26.3	5.3	15.8	10.5	5.3	10.5	36.8	10.5	36.8
	続けていくのは、かなり難しい	10	10.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	30.0	10.0	20.0
	主な介護者に確認しないと、わからない	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		合計	養、医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	食事の準備（調理等）	その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	金銭管理や生活面に必要な手続き	その他	特になし	不安に感じていることは、	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答	
全体		602	4.7	13.8	12.3	10.8	4.7	6.8	2.7	24.9		
就労状況別	フルタイムで働いている	104	6.7	8.7	20.2	8.7	5.8	10.6	6.7	19.2		
	パートタイムで働いている	122	3.3	12.3	9.0	10.7	1.6	4.9	2.5	23.0		
	働いていない	306	5.2	17.6	10.1	12.4	5.9	7.5	1.6	22.5		
	主な介護者に確認しないと、わからない	10	10.0	10.0	30.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0		
就労継続見込み別	問題なく、続けていける	54	5.6	9.3	11.1	5.6	3.7	18.5	3.7	9.3		
	問題はあるが、何とか続けていける	118	4.2	11.9	15.3	11.0	4.2	5.1	0.8	21.2		
	続けていくのは、やや難しい	19	5.3	15.8	5.3	15.8	0.0	5.3	0.0	15.8		
	続けていくのは、かなり難しい	10	0.0	10.0	20.0	20.0	0.0	0.0	10.0	40.0		
	主な介護者に確認しないと、わからない	5	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	80.0	0.0		

※網掛け■は最も割合が高いもの

問 41 介護に困ったときだれに相談していますか。(〇はいくつでも)

介護に困ったとき誰に相談しているかについては、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」が65.6%で最も高く、次いで「家族・親類」が57.8%、「かかりつけ医・かかりつけ歯科医」が27.9%と続いています。

図表 4-7-49 介護に困ったとき誰に相談しているか





認定状況別でみると、要支援1、要支援2、要介護4では「家族・親類」「ケアマネジャー（介護支援専門員）」がいずれも同率で最も高く、要介護1から要介護3では「ケアマネジャー（介護支援専門員）」の割合が最も高く、要介護5では「家族・親類」の割合が最も高くなっています。

図表 4-7-50 介護に困ったとき誰に相談しているか 認定状況別

単位：実数（人）、構成比（%）

認定状況別	合計	家族・親類	友人・知人	となり近所の人	ホームヘルパー	福祉担当職員（保健師など）	市や府の相談窓口（介護・福祉担当職員、保健師など）	地域包括支援センターや在宅介護支援センターの職員	ケアマネジャー（介護支援専門員）	介護サービスを利用する施設の職員	民生委員	かかりつけ医・かかりつけ歯科医
		全体	602	57.8	13.5	4.0	13.0	6.0	9.5	65.6	15.3	0.8
認定状況別	要支援1	116	53.4	12.1	5.2	11.2	8.6	13.8	53.4	12.9	0.9	29.3
	要支援2	99	56.6	14.1	6.1	10.1	6.1	12.1	56.6	7.1	1.0	17.2
	要介護1	116	60.3	13.8	1.7	15.5	7.8	13.8	62.9	9.5	0.0	27.6
	要介護2	119	52.9	14.3	2.5	16.8	0.8	3.4	74.8	20.2	0.0	29.4
	要介護3	74	60.8	16.2	5.4	10.8	4.1	6.8	86.5	18.9	1.4	33.8
	要介護4	51	70.6	9.8	3.9	9.8	7.8	5.9	70.6	29.4	3.9	31.4
要介護5	27	59.3	11.1	3.7	14.8	11.1	3.7	55.6	22.2	0.0	33.3	
合計	602	3.8	2.2	1.7	1.0	1.3	1.3	3.2	6.5			
認定状況別	要支援1	116	5.2	1.7	2.6	0.9	0.9	1.7	5.2	14.7		
	要支援2	99	4.0	2.0	3.0	1.0	1.0	1.0	4.0	7.1		
	要介護1	116	3.4	3.4	0.9	0.9	0.9	2.6	4.3	3.4		
	要介護2	119	1.7	0.8	0.8	1.7	0.0	0.8	2.5	5.9		
	要介護3	74	5.4	4.1	0.0	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4		
	要介護4	51	5.9	0.0	2.0	0.0	3.9	0.0	0.0	2.0		
要介護5	27	0.0	3.7	3.7	0.0	7.4	0.0	0.0	7.4			

※網掛け■は最も割合が高いもの

就労状況別でみると、「フルタイムで働いている」では「家族・親類」の割合が最も高く、「パートタイムで働いている」「働いていない」では「ケアマネジャー（介護支援専門員）」の割合がいずれも最も高くなっています。

就労継続見込み別でみると、「市や府の相談窓口（介護・福祉担当職員、保健師など）」「地域包括支援センターや在宅介護支援センターの職員」「介護サービスを利用する施設の職員」では、「続けていくのは、かなり難しい」の割合が最も高くなっています。

図表 4-7-51 介護に困ったとき誰に相談しているか 就労状況別・就労継続見込み別

単位：実数（人）、構成比（％）

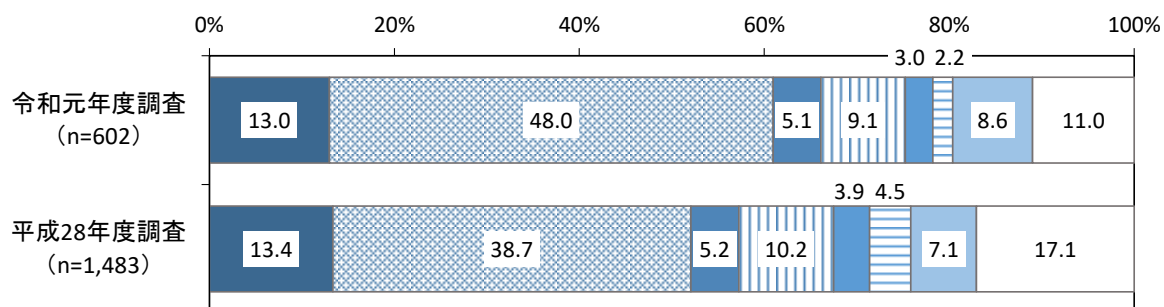
		合計	家族・親類	友人・知人	となり近所の人	ホームヘルパー	福祉 市や府の相談窓口（介護・保健師など） 担当職員	地域包括支援センターの職員や在宅介護支援センターの職員	ケアマネジャー（介護支援専門員）	介護サービスを利用する施設 の職員	民生委員	かかりつけ医・かかりつけ歯科医
全体		602	57.8	13.5	4.0	13.0	6.0	9.5	65.6	15.3	0.8	27.9
就労状況別	フルタイムで働いている	104	60.6	21.2	3.8	17.3	7.7	8.7	59.6	9.6	0.0	19.2
	パートタイムで働いている	122	58.2	18.0	0.8	10.7	4.1	9.0	73.8	18.9	0.0	28.7
	働いていない	306	59.8	10.8	5.2	13.4	6.2	10.5	70.9	16.7	1.6	32.7
	主な介護者に確認しないと、わからない	10	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	20.0	0.0	10.0
就労継続見込み別	問題なく、続けていける	54	59.3	16.7	0.0	16.7	3.7	9.3	68.5	11.1	0.0	14.8
	問題はあるが、何とか続けていける	118	60.2	22.9	3.4	12.7	5.1	6.8	67.8	15.3	0.0	24.6
	続けていくのは、やや難しい	19	68.4	26.3	0.0	5.3	10.5	15.8	84.2	5.3	0.0	42.1
	続けていくのは、かなり難しい	10	60.0	10.0	0.0	20.0	20.0	30.0	70.0	50.0	0.0	20.0
	主な介護者に確認しないと、わからない	5	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	0.0	40.0
		合計	店薬局（薬剤師）や介護用品	職場の同僚	家族会	インターネット上のコミュニティ	その他	相談したいが、相談する相手がいない	だれにも相談しない	無回答		
全体		602	3.8	2.2	1.7	1.0	1.3	1.3	3.2	6.5		
就労状況別	フルタイムで働いている	104	2.9	6.7	1.0	1.9	0.0	0.0	6.7	3.8		
	パートタイムで働いている	122	2.5	4.1	0.0	1.6	0.0	3.3	1.6	4.9		
	働いていない	306	5.2	0.0	2.3	0.7	2.6	1.0	3.3	2.3		
	主な介護者に確認しないと、わからない	10	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0		
就労継続見込み別	問題なく、続けていける	54	1.9	1.9	0.0	1.9	0.0	0.0	3.7	1.9		
	問題はあるが、何とか続けていける	118	1.7	8.5	0.8	1.7	0.0	2.5	4.2	2.5		
	続けていくのは、やや難しい	19	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0		
	続けていくのは、かなり難しい	10	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0		
	主な介護者に確認しないと、わからない	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

※網掛け■は最も割合が高いもの

問 42 今後ご本人に対してどのように介護したいと思いますか。(〇はひとつ)

今後どのように介護したいかについては、「介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護したい」が48.0%で最も高く、次いで「なるべく家族のみで、自宅で介護したい」が13.0%、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などに入所させたい」が9.1%と続いています。

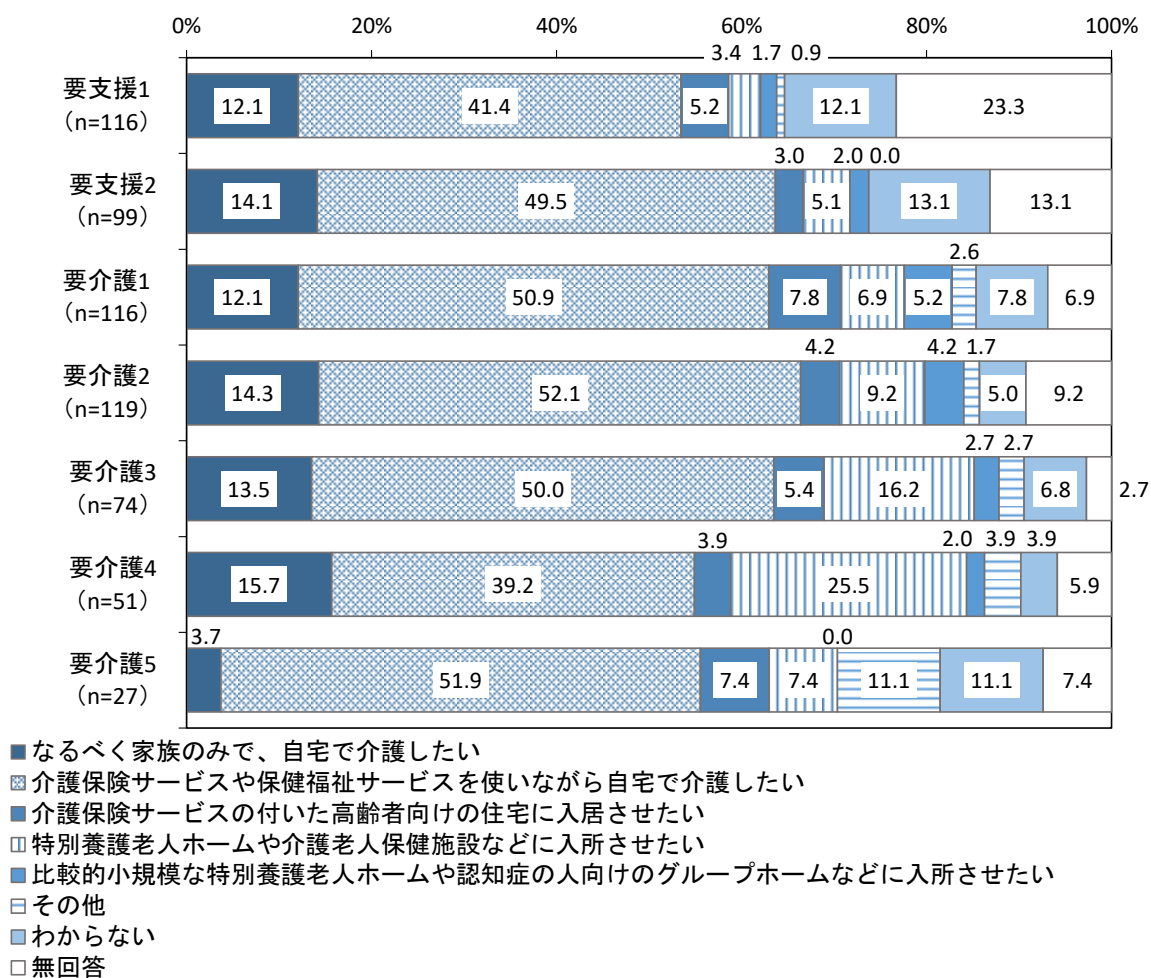
図表 4-7-52 今後どのように介護したいか



- なるべく家族のみで、自宅で介護したい
- ▣ 介護保険サービスや保健福祉サービスを使いながら自宅で介護したい
- 介護保険サービスの付いた高齢者向けの住宅に入居させたい
- ▣ 特別養護老人ホームや介護老人保健施設などに入所させたい
- 比較的小規模な特別養護老人ホームや認知症の人向けのグループホームなどに入所させたい
- ▣ その他
- わからない
- 無回答

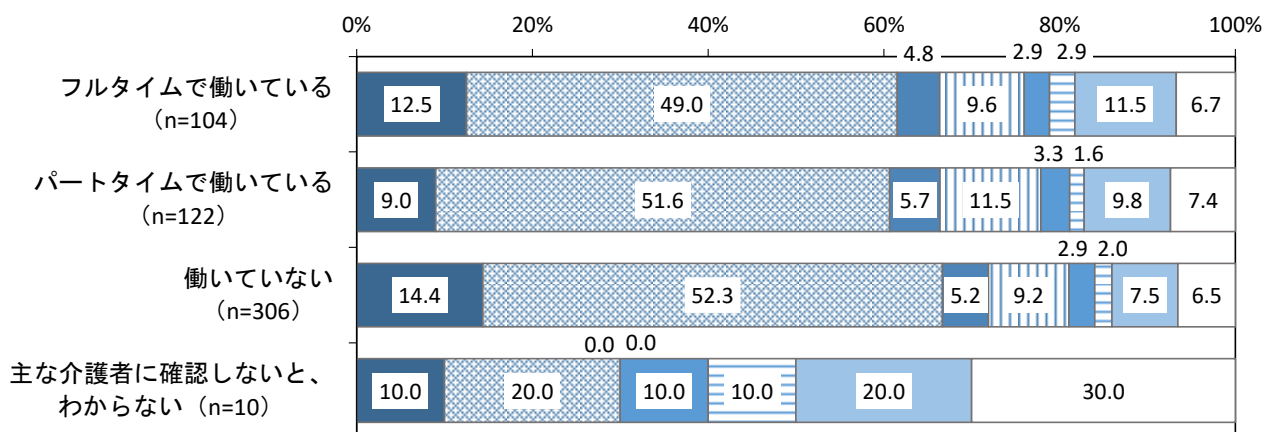
認定状況別でみると、「介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護したい」では、要介護2が52.1%で最も高く、「なるべく家族のみで、自宅で介護したい」では、要介護4が15.7%で最も高く、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などに入所させたい」では、要介護4以下で介護度の重度化に伴い割合が高くなっており、要介護4が25.5%で最も高くなっています。

図表 4-7-53 今後どのように介護したいか 認定状況別



就労状況別でみると、「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」「働いていない」いずれも「介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護したい」の割合が最も高く、「フルタイムで働いている」「働いていない」では次いで「なるべく家族のみで、自宅で介護したい」の割合が高く、「パートタイムで働いている」では次いで「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などに入所させたい」の割合が高くなっています。

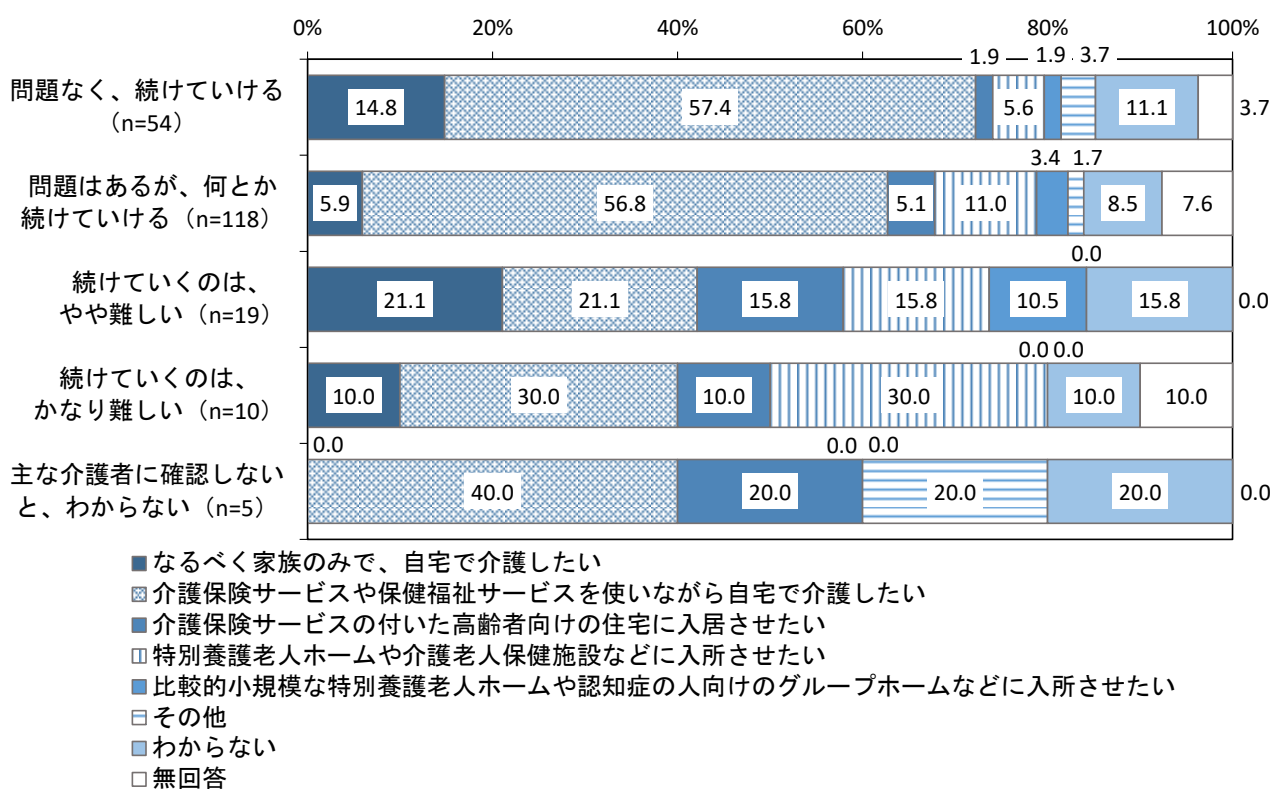
図表 4-7-54 今後どのように介護したいか 就労状況別



- なるべく家族のみで、自宅で介護したい
- ▨ 介護保険サービスや保健福祉サービスを使いながら自宅で介護したい
- 介護保険サービスの付いた高齢者向けの住宅に入居させたい
- ▨ 特別養護老人ホームや介護老人保健施設などに入所させたい
- 比較的小規模な特別養護老人ホームや認知症の人向けのグループホームなどに入所させたい
- ▨ その他
- わからない
- 無回答

就労継続見込み別でみると、「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」ではいずれも「介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護したい」の割合が最も高く、「続けていくのは、やや難しい」では「なるべく家族のみで、自宅で介護したい」「介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護したい」が同率で最も高く、「続けていくのは、かなり難しい」では「介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護したい」「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などに入所させたい」が同率で最も高くなっており、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などに入所させたい」では、就労を続けていくのが難しいという考えが強くなるにつれて割合が高くなっています。

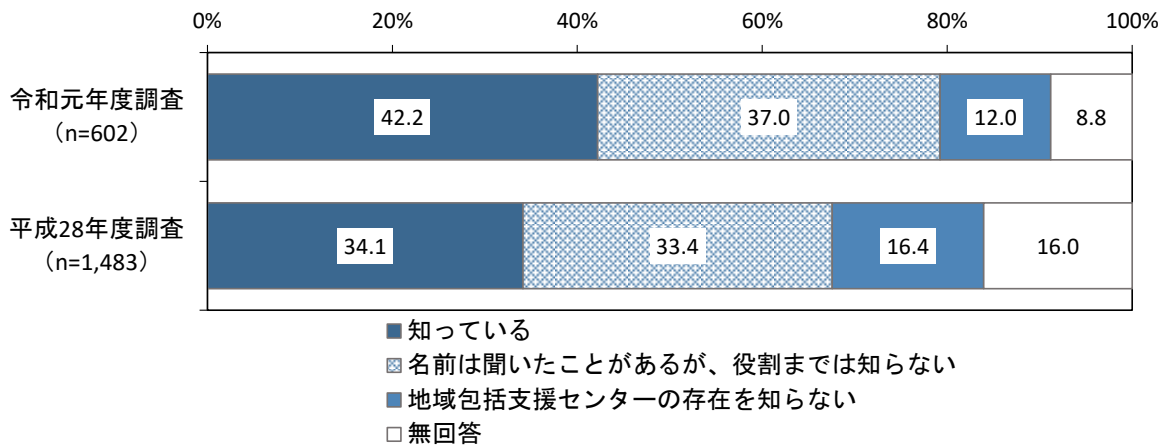
図表 4-7-55 今後どのように介護したいか 就労継続見込み別



問 43 地域包括支援センターは、高齢者の方々が住みなれた地域で安心して暮らしていけるよう、介護・福祉・健康など、さまざまな面から総合的に相談や支援を行う機関です。地域包括支援センターの役割を知っていますか。(〇はひとつ)

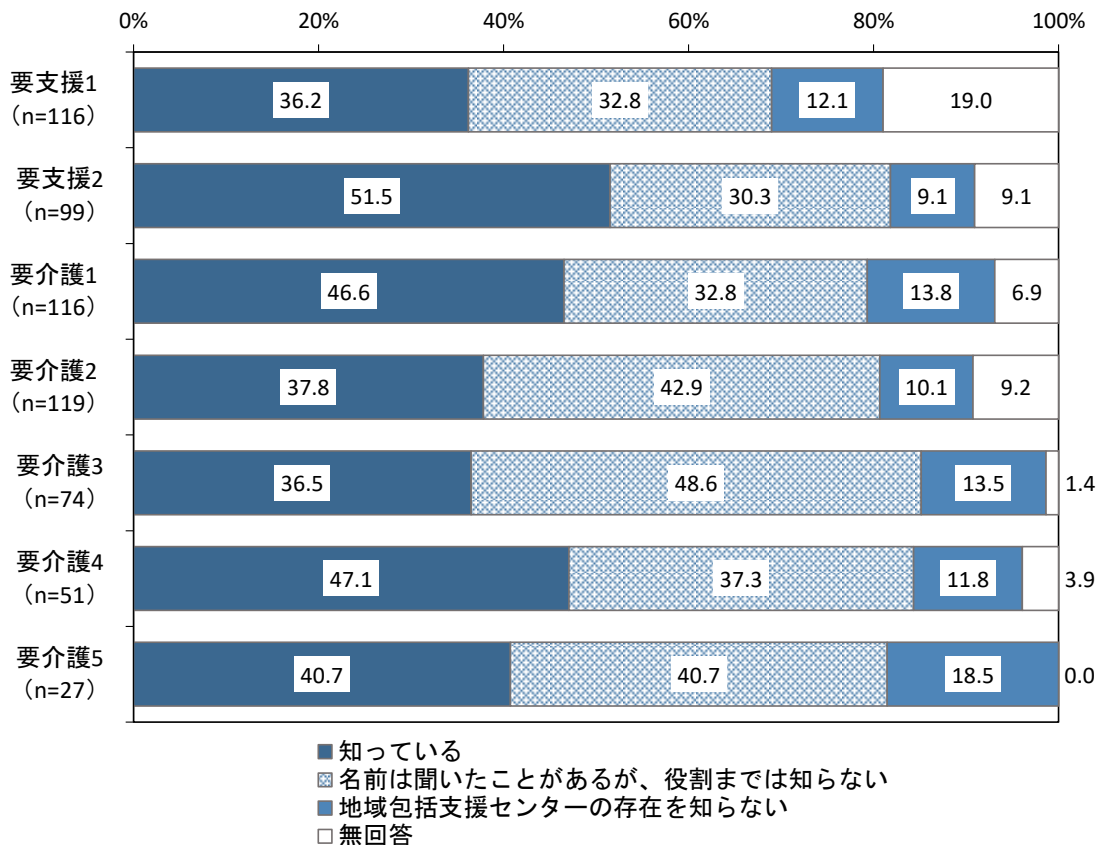
地域包括支援センターの役割を知っているかについては、「知っている」が42.2%で最も高く、次いで「名前は聞いたことがあるが、役割までは知らない」が37.0%、「地域包括支援センターの存在を知らない」が12.0%となっています。

図表 4-7-56 地域包括支援センターの役割を知っているか



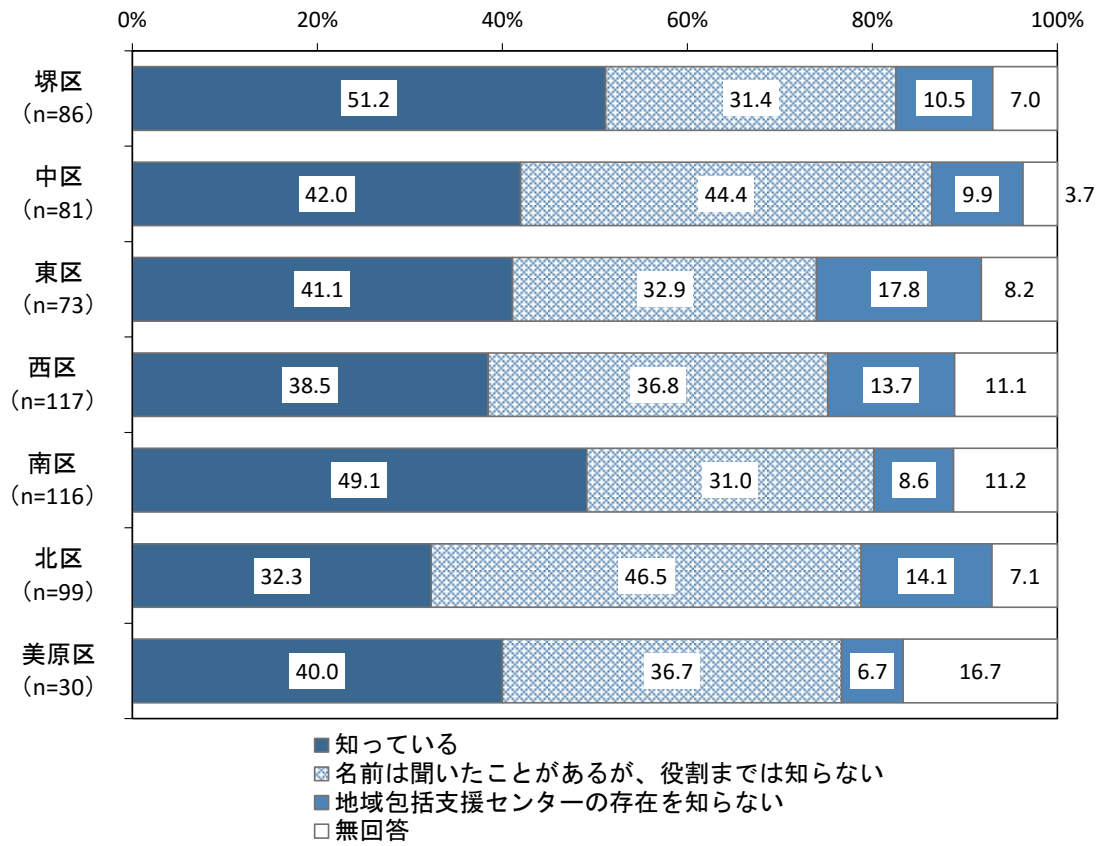
認定状況別でみると、「知っている」では、要支援2が51.5%で最も高くなっています。

図表 4-7-57 地域包括支援センターの役割を知っているか 認定状況別



区域別でみると、「知っている」では、堺区が51.2%で最も高くなっています。

図表 4-7-58 地域包括支援センターの役割を知っているか 区域別

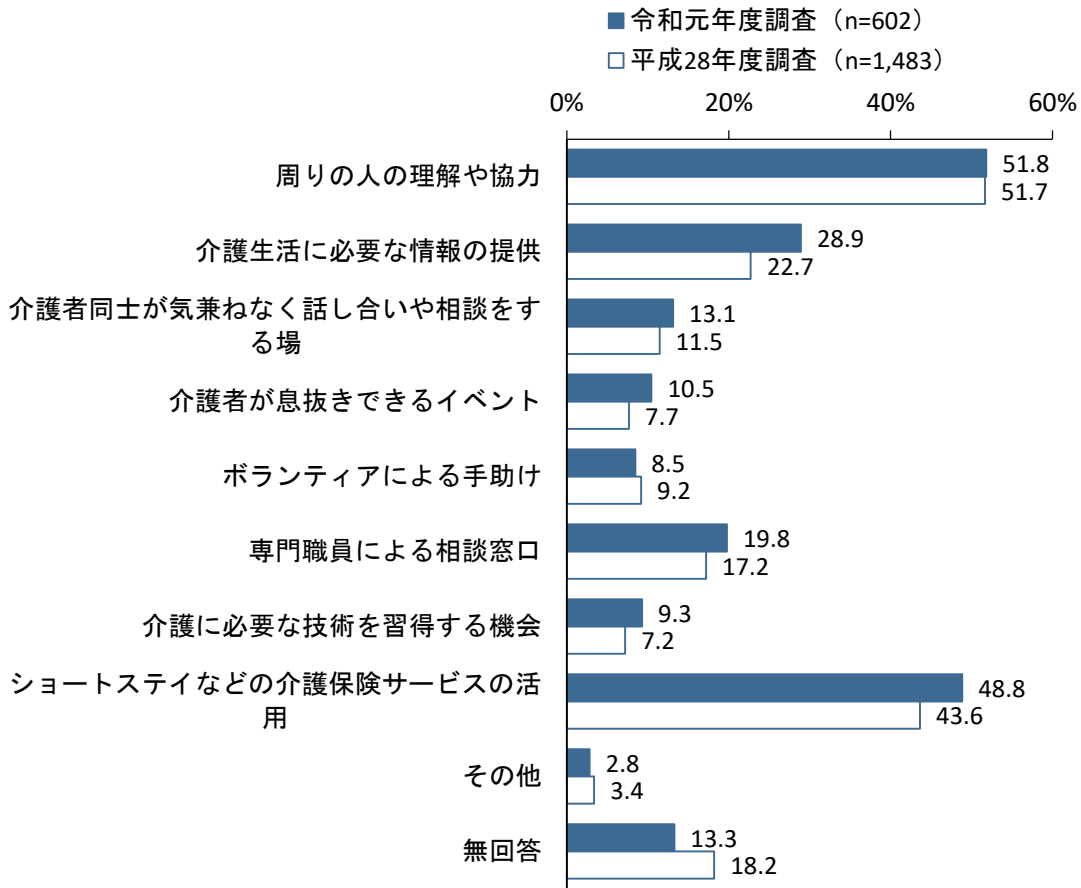




問 44	家族を介護する人の介護疲れやストレスのケアをするためには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)
------	---

介護する人の介護疲れやストレスケアのためには、何が必要かについては、「周りの人の理解や協力」が51.8%で最も高く、次いで「ショートステイなどの介護保険サービスの活用」が48.8%、「介護生活に必要な情報の提供」が28.9%と続いています。

図表 4-7-59 介護する人の介護疲れやストレスケアのためには、何が必要か



認定状況別でみると、要支援1、要支援2、要介護2では「周りの人の理解や協力」の割合が最も高く、要介護1、要介護3以上では「ショートステイなどの介護保険サービスの活用」の割合が最も高くなっています。

図表 4-7-60 介護する人の介護疲れやストレスケアのためには、何が必要か 認定状況別

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	周りの人の理解や協力	介護生活に必要な情報の提供	介護者同士が気兼ねなく話し合いや相談をする場	介護者が息抜きできるイベント	ボランティアによる手助け	専門職員による相談窓口	介護に必要な技術を習得する機会	ショートステイなどの介護保険サービスの活用	その他	無回答	
全体	602	51.8	28.9	13.1	10.5	8.5	19.8	9.3	48.8	2.8	13.3	
認定状況別	要支援1	116	45.7	25.9	17.2	9.5	14.7	21.6	7.8	38.8	0.9	19.8
	要支援2	99	45.5	35.4	9.1	8.1	9.1	19.2	10.1	37.4	1.0	21.2
	要介護1	116	52.6	26.7	14.7	14.7	6.0	17.2	12.1	54.3	0.9	9.5
	要介護2	119	62.2	33.6	10.1	13.4	8.4	17.6	3.4	44.5	2.5	12.6
	要介護3	74	55.4	27.0	17.6	6.8	6.8	27.0	12.2	67.6	5.4	5.4
	要介護4	51	51.0	23.5	7.8	11.8	2.0	15.7	13.7	60.8	7.8	5.9
	要介護5	27	44.4	22.2	14.8	0.0	7.4	22.2	11.1	55.6	11.1	11.1

※網掛け■は最も割合が高いもの

就労状況別でみると、「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」ではいずれも「周りの人の理解や協力」の割合が最も高く、「働いていない」では「ショートステイなどの介護保険サービスの活用」の割合が最も高くなっています。

就労継続見込み別でみると、「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」ではいずれも「周りの人の理解や協力」の割合が最も高く、「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」ではいずれも「ショートステイなどの介護保険サービスの活用」の割合が最も高くなっています。

図表 4-7-61 介護する人の介護疲れやストレスケアのためには、何が必要か  
就労状況別・就労継続見込み別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	周りの人の理解や協力	介護生活に必要な情報の提供	介護者同士が気兼ねなく話し合いや相談をする場	介護者が息抜きできるイベント	ボランティアによる手助け	専門職員による相談窓口	介護に必要な技術を習得する機会	ショートステイなどの介護保険サービスの活用	その他	無回答
全体		602	51.8	28.9	13.1	10.5	8.5	19.8	9.3	48.8	2.8	13.3
就労状況別	フルタイムで働いている	104	54.8	26.9	9.6	4.8	7.7	14.4	9.6	43.3	2.9	14.4
	パートタイムで働いている	122	60.7	31.1	13.1	6.6	9.8	19.7	9.0	55.7	1.6	7.4
	働いていない	306	51.0	32.0	13.7	13.1	8.5	22.9	9.8	53.6	2.9	9.5
	主な介護者に確認しないと、わからない	10	40.0	30.0	40.0	20.0	30.0	10.0	10.0	10.0	0.0	20.0
就労継続見込み別	問題なく、続けていける	54	55.6	27.8	14.8	3.7	5.6	11.1	7.4	37.0	0.0	16.7
	問題はあるが、何とか続けていける	118	60.2	31.4	11.0	9.3	9.3	19.5	8.5	52.5	3.4	5.9
	続けていくのは、やや難しい	19	63.2	36.8	0.0	0.0	10.5	5.3	21.1	73.7	0.0	5.3
	続けていくのは、かなり難しい	10	40.0	20.0	0.0	0.0	30.0	10.0	20.0	70.0	0.0	20.0
	主な介護者に確認しないと、わからない	5	100.0	0.0	60.0	0.0	0.0	40.0	0.0	40.0	0.0	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

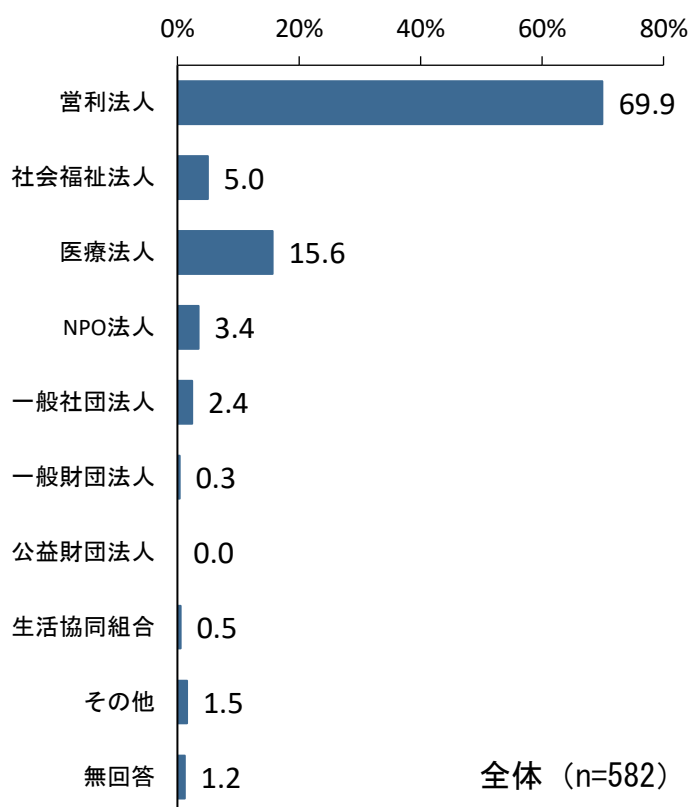
## V. 介護事業者調査 調査結果

### 1. 法人や実施事業について

問1 法人の種類をお教えてください。(〇はひとつ)

法人の種類については、「営利法人」が69.9%で最も高く、次いで「医療法人」が15.6%、「社会福祉法人」が5.0%と続いています。

図表 5-1-1 法人の種類



問2

貴法人の事業運営体制について、サービス種別ごとに記入してください。

## (1) 現在堺市内で運営している事業所

現在堺市内で運営している事業所については、「訪問介護」が232法人で最も多く、次いで「居宅介護支援」が203法人、「訪問看護」が67法人と続いています。

図表 5-1-2 現在堺市内で運営している事業所

単位：実数（法人）、実数（事業所）

	合計	堺1区	堺2区	堺3区	堺4区	中1区	中2区	中3区	東1区	東2区	西1区	西2区
居宅介護支援	203	10	7	11	6	6	6	13	8	6	4	15
訪問介護	232	7	8	12	7	11	8	13	7	7	7	14
訪問入浴介護	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
訪問看護	67	2	1	4	2	5	1	3	4	1	3	5
訪問リハビリテーション	9	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
居宅療養管理指導	52	2	3	1	2	1	3	3	2	3	2	0
通所介護	60	2	4	1	3	5	2	10	1	1	1	5
通所リハビリテーション	13	0	3	1	1	0	0	0	0	0	1	1
短期入所生活介護	24	1	0	2	1	1	0	3	1	2	0	3
短期入所療養介護	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
特定施設入居者生活介護	11	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0
福祉用具貸与	58	2	3	6	2	2	5	2	3	2	4	2
特定福祉用具販売	55	2	3	6	2	2	5	2	3	3	4	2
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
夜間対応型訪問介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症対応型通所介護	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
小規模多機能型居宅介護	6	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	2
地域密着型通所介護	60	2	3	1	2	3	1	4	0	2	1	7
認知症対応型共同生活介護	26	0	0	1	3	1	0	5	3	1	0	4
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	5	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
看護小規模多機能型居宅介護	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
介護老人福祉施設	20	1	0	1	2	1	0	2	1	2	0	4
介護老人保健施設	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1
介護医療院（介護療養型医療施設）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	西3区	南1区	南2区	南3区	南4区	北1区	北2区	北3区	北4区	美原1区	無回答
居宅介護支援	203	6	4	2	15	3	7	4	8	12	6	79
訪問介護	232	3	3	1	12	4	7	4	3	5	1	106
訪問入浴介護	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
訪問看護	67	1	1	0	2	1	2	1	1	3	5	25
訪問リハビリテーション	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
居宅療養管理指導	52	3	0	2	3	1	3	5	2	3	3	9
通所介護	60	2	1	1	1	0	3	1	2	0	5	21
通所リハビリテーション	13	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4
短期入所生活介護	24	1	0	0	2	0	1	0	3	0	0	6
短期入所療養介護	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
特定施設入居者生活介護	11	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0	1
福祉用具貸与	58	2	1	1	2	1	1	1	4	4	2	26
特定福祉用具販売	55	2	1	2	2	1	1	1	4	3	2	22
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
夜間対応型訪問介護	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症対応型通所介護	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
小規模多機能型居宅介護	6	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
地域密着型通所介護	60	3	1	1	2	1	0	2	2	4	4	17
認知症対応型共同生活介護	26	1	2	1	0	0	2	1	1	1	2	6
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	5	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0
看護小規模多機能型居宅介護	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
介護老人福祉施設	20	1	0	1	1	0	0	0	2	0	0	4
介護老人保健施設	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
介護医療院（介護療養型医療施設）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## (2) 過去に堺市内で運営していた事業所

過去に堺市内で運営していた事業所については、「訪問介護」が43法人で最も多く、次いで「居宅介護支援」が38法人、「訪問看護」「通所介護」「福祉用具貸与」がいずれも10法人と続いています。

図表 5-1-3 過去に堺市内で運営していた事業所

単位：実数（法人）、実数（事業所）

	合計	堺市内											
		堺1区	堺2区	堺3区	堺4区	中1区	中2区	中3区	東1区	東2区	西1区	西2区	
居宅介護支援	38	2	1	2	2	1	1	0	1	2	1	2	
訪問介護	43	2	1	1	2	0	2	0	1	3	0	3	
訪問入浴介護	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
訪問看護	10	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	
訪問リハビリテーション	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
居宅療養管理指導	8	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	
通所介護	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
通所リハビリテーション	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
短期入所生活介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
短期入所療養介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特定施設入居者生活介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
福祉用具貸与	10	1	1	1	1	2	1	1	1	3	1	1	
特定福祉用具販売	5	1	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
認知症対応型通所介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小規模多機能型居宅介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
地域密着型通所介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
認知症対応型共同生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
看護小規模多機能型居宅介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
介護老人福祉施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
介護老人保健施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
介護医療院（介護療養型医療施設）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	堺市外											
		西3区	南1区	南2区	南3区	南4区	北1区	北2区	北3区	北4区	美原1区	無回答	
居宅介護支援	38	0	1	1	3	1	1	2	0	3	1	15	
訪問介護	43	1	2	2	1	0	1	0	0	3	0	22	
訪問入浴介護	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
訪問看護	10	0	0	0	2	0	0	1	0	0	1	4	
訪問リハビリテーション	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
居宅療養管理指導	8	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	
通所介護	10	0	0	2	0	0	0	1	0	1	1	5	
通所リハビリテーション	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
短期入所生活介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
短期入所療養介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特定施設入居者生活介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
福祉用具貸与	10	1	1	1	1	1	1	2	1	2	1	4	
特定福祉用具販売	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
認知症対応型通所介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小規模多機能型居宅介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
地域密着型通所介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
認知症対応型共同生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
看護小規模多機能型居宅介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
介護老人福祉施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
介護老人保健施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
介護医療院（介護療養型医療施設）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

問3 今後、堺市内で事業運営を行いたいサービスはありますか、また現在は事業運営しているが今後廃止を予定しているサービスはありますか。  
 ある場合はその理由について、それぞれサービス種別ごとに下欄の理由表から該当するものを選び、その番号を記入してください（理由は各サービス種別につき3つまで）。また、それぞれ予定する地域が分かっていたら前頁の日常生活圏域表から該当する地域の番号を記入し、予定時期についても分かっていたら記入してください。

(1) 今後堺市で事業運営を行いたいサービス

今後堺市で事業運営を行いたいサービスについては、「訪問介護」が16法人で最も多く、次いで「居宅介護支援」が10法人、「訪問看護」が6法人と続いています。

また、理由については「訪問介護」では「特になし」が50.0%で最も高く、「居宅介護支援」では「特になし」が40.0%で最も高く、「訪問看護」では「土地・建物の確保ができた（できる）ため」「利用者確保の見込みがあった（ある）ため」「その他」がいずれも33.3%で最も高くなっています。

図表 5-1-4 今後堺市で事業運営を行いたいサービス 理由

単位：実数（法人）、構成比（%）

	合計	土地・建物の確保ができた（できる）ため	建築等の整備にあたり資金の確保ができた（できる）ため	利用者確保の見込みがあった（ある）ため	事業経営に見合った介護報酬が得られるため	市で既に他の介護サービスを行っているため	職員確保の見込みがあった（ある）ため	事業経営が安定しており余力があるため	利用者があつたため	特になし	その他	無回答
居宅介護支援	10	20.0	0.0	20.0	10.0	0.0	10.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0
訪問介護	16	6.3	6.3	18.8	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	50.0	12.5	0.0
訪問入浴介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
訪問看護	6	33.3	0.0	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0
訪問リハビリテーション	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
居宅療養管理指導	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
通所介護	5	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0
通所リハビリテーション	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
短期入所生活介護	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
短期入所療養介護	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
特定施設入居者生活介護	4	25.0	0.0	50.0	0.0	25.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0
福祉用具貸与	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
特定福祉用具販売	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
夜間対応型訪問介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
認知症対応型通所介護	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
小規模多機能型居宅介護	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地域密着型通所介護	3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
認知症対応型共同生活介護	5	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
看護小規模多機能型居宅介護	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人福祉施設	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護医療院（介護療養型医療施設）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 5-1-5 今後堺市で事業運営を行いたいサービス 予定地域

単位：実数（法人）、実数（件）

	合計	堺1区	堺2区	堺3区	堺4区	中1区	中2区	中3区	東1区	東2区	西1区	西2区
居宅介護支援	10	0	0	0	0	2	1	2	0	1	0	0
訪問介護	16	0	0	0	1	0	0	2	0	1	0	1
訪問入浴介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問看護	6	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0
訪問リハビリテーション	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
居宅療養管理指導	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通所介護	5	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
通所リハビリテーション	2	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
短期入所生活介護	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
短期入所療養介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定施設入居者生活介護	4	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0
福祉用具貸与	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定福祉用具販売	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症対応型通所介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小規模多機能型居宅介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域密着型通所介護	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
認知症対応型共同生活介護	5	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護小規模多機能型居宅介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護老人福祉施設	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
介護老人保健施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護医療院（介護療養型医療施設）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	西3区	南1区	南2区	南3区	南4区	北1区	北2区	北3区	北4区	美原1区	無回答
居宅介護支援	10	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5
訪問介護	16	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	9
訪問入浴介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問看護	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
訪問リハビリテーション	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
居宅療養管理指導	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通所介護	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
通所リハビリテーション	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
短期入所生活介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
短期入所療養介護	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定施設入居者生活介護	4	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
福祉用具貸与	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
特定福祉用具販売	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症対応型通所介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
小規模多機能型居宅介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
地域密着型通所介護	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
認知症対応型共同生活介護	5	0	0	1	0	0	1	1	1	1	0	2
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護小規模多機能型居宅介護	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護老人福祉施設	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護老人保健施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護医療院（介護療養型医療施設）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



## (2) 現在は事業運営しているが、今後廃止を予定しているサービス

現在は事業運営しているが、今後廃止を予定しているサービスについては、「訪問介護」が12法人で最も多く、次いで「居宅介護支援」が9法人、「地域密着型通所介護」が4法人と続いています。

また、理由については「訪問介護」では「職員確保ができなくなった（できなくなる）ため」が50.0%で最も高く、「居宅介護支援」では「特になし」「その他」がいずれも33.3%で最も高く、「地域密着型通所介護」では「利用者確保ができなくなった（できなくなる）ため」「職員確保ができなくなった（できなくなる）ため」がいずれも50.0%で最も高くなっています。

図表 5-1-6 現在は事業運営しているが、今後廃止を予定しているサービス 理由

単位：実数（法人）、構成比（%）

	合計	土地・建物の維持ができなくなった（できなくなる）ため	改修等の必要があり費用がかさむため	利用者確保ができなくなった（できなくなる）ため	介護報酬が低く採算が合わないため	職員確保ができなくなった（できなくなる）ため	経営が悪化してきているため	特になし	その他	無回答
居宅介護支援	9	0.0	0.0	0.0	11.1	22.2	0.0	33.3	33.3	0.0
訪問介護	12	0.0	0.0	8.3	8.3	50.0	8.3	41.7	16.7	0.0
訪問入浴介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
訪問看護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
訪問リハビリテーション	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
居宅療養管理指導	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
通所介護	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
通所リハビリテーション	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
短期入所生活介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
短期入所療養介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特定施設入居者生活介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
福祉用具貸与	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
特定福祉用具販売	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
夜間対応型訪問介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
認知症対応型通所介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小規模多機能型居宅介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地域密着型通所介護	4	0.0	25.0	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0
認知症対応型共同生活介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
看護小規模多機能型居宅介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人福祉施設	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護医療院（介護療養型医療施設）	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

図表 5-1-7 現在は事業運営しているが、今後廃止を予定しているサービス 予定地域

単位：実数（法人）、実数（件）

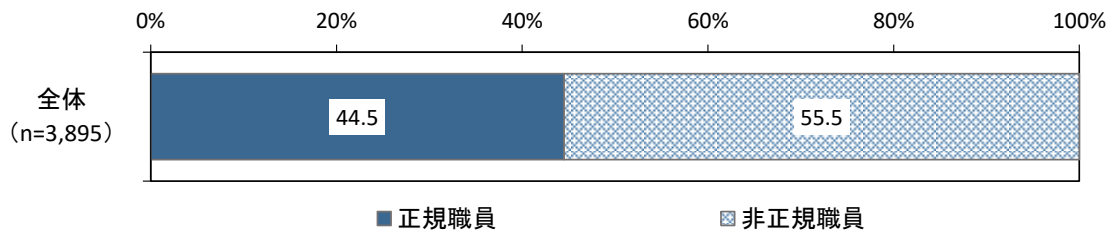
	合計	堺1区	堺2区	堺3区	堺4区	中1区	中2区	中3区	東1区	東2区	西1区	西2区
居宅介護支援	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
訪問介護	12	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
訪問入浴介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問看護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問リハビリテーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
居宅療養管理指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通所介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通所リハビリテーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
短期入所生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
短期入所療養介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定施設入居者生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福祉用具貸与	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
特定福祉用具販売	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症対応型通所介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小規模多機能型居宅介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域密着型通所介護	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
認知症対応型共同生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護小規模多機能型居宅介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護老人福祉施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護老人保健施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護医療院（介護療養型医療施設）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	西3区	南1区	南2区	南3区	南4区	北1区	北2区	北3区	北4区	美原1区	無回答
居宅介護支援	9	1	0	1	0	1	0	0	0	0	1	4
訪問介護	12	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	10
訪問入浴介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問看護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問リハビリテーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
居宅療養管理指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通所介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
通所リハビリテーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
短期入所生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
短期入所療養介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定施設入居者生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福祉用具貸与	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
特定福祉用具販売	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症対応型通所介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小規模多機能型居宅介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域密着型通所介護	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
認知症対応型共同生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護小規模多機能型居宅介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護老人福祉施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護老人保健施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護医療院（介護療養型医療施設）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

問4	貴法人の職員状況について、サービス種別ごとにそれぞれ該当する職員数を記入してください。
----	---

**(1) 前年度採用者数（正規職員／非正規職員）**

前年度採用者数（正規職員／非正規職員）については、「正規職員」が44.5%、「非正規職員」が55.5%となっています。

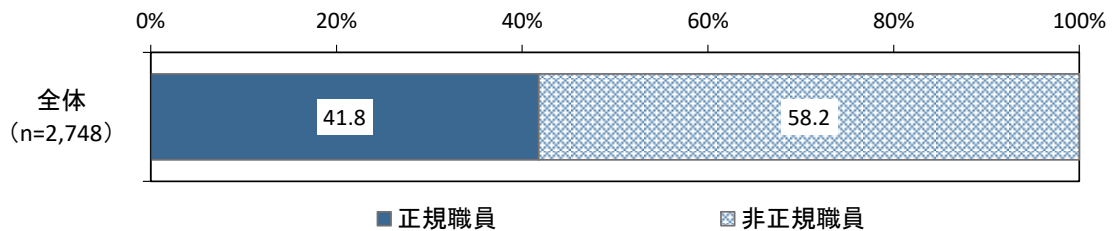
図表 5-1-8 前年度採用者数（正規職員／非正規職員）



**(2) 前年度退職者数（正規職員／非正規職員）**

前年度退職者数（正規職員／非正規職員）については、「正規職員」が41.8%、「非正規職員」が58.2%となっています。

図表 5-1-9 前年度退職者数（正規職員／非正規職員）

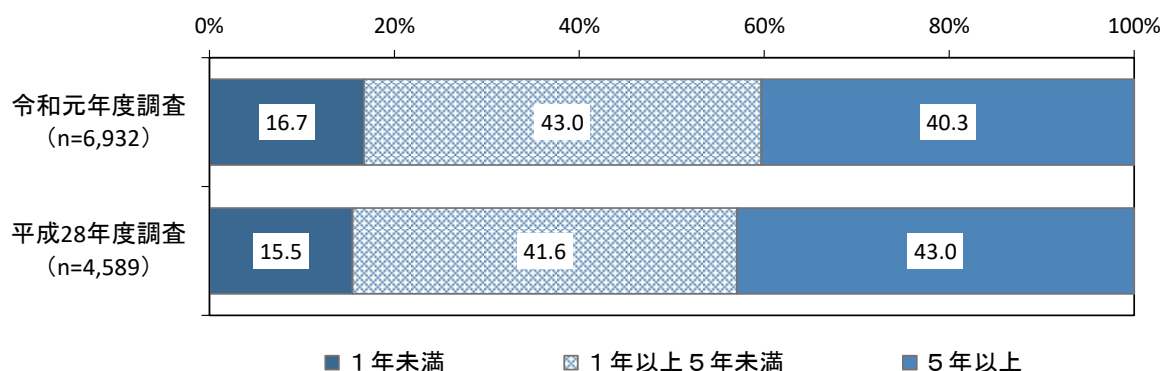


### (3) 勤続年数別職員数（正規職員）

勤続年数別職員数（正規職員）については、「1年以上5年未満」が43.0%で最も高く、次いで「5年以上」が40.3%、「1年未満」が16.7%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「5年以上」（40.3%）では、平成28年度調査（43.0%）より2.7ポイント低くなっています。

図表 5-1-10 勤続年数別職員数（正規職員）

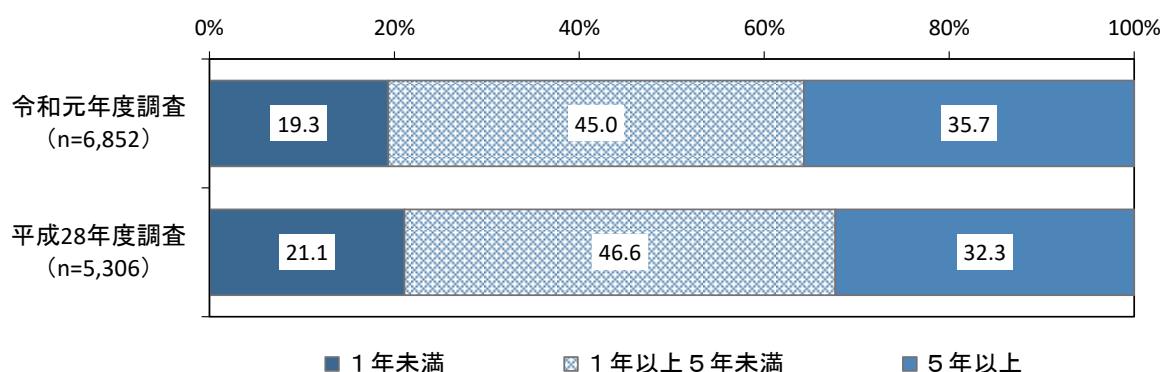


### (4) 勤続年数別職員数（非正規職員）

勤続年数別職員数（非正規職員）については、「1年以上5年未満」が45.0%で最も高く、次いで「5年以上」が35.7%、「1年未満」が19.3%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「5年以上」（35.7%）では、平成28年度調査（32.3%）より3.4ポイント高くなっています。

図表 5-1-11 勤続年数別職員数（非正規職員）

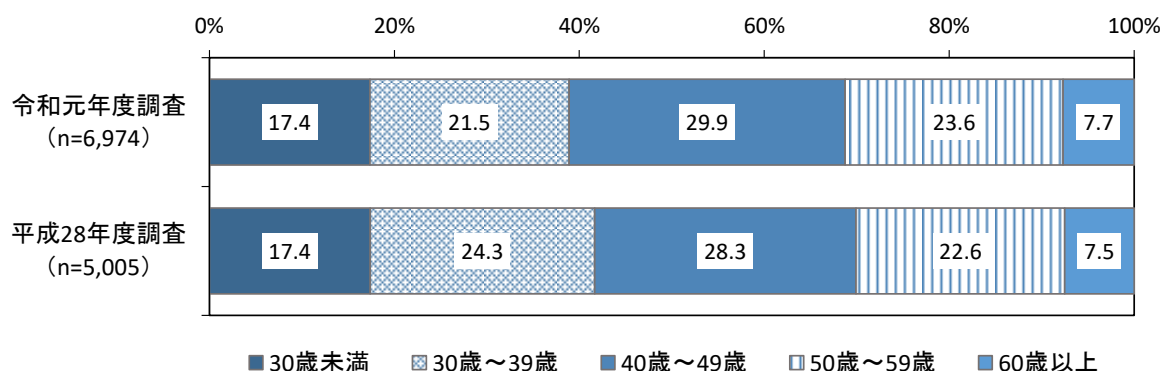


## (5) 年齢別職員数（正規職員）

年齢別職員数（正規職員）については、「40歳～49歳」が29.9%で最も高く、次いで「50歳～59歳」が23.6%、「30歳～39歳」が21.5%と続いています。

平成28年度調査と比較すると、『40歳以上』（61.2%）では、平成28年度調査（58.4%）より2.8ポイント高くなっています。

図表 5-1-12 年齢別職員数（正規職員）

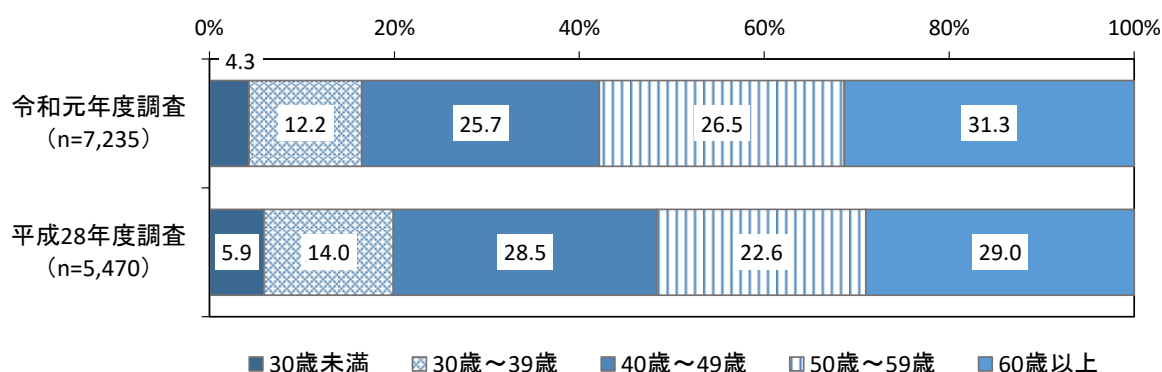


## (6) 年齢別職員数（非正規職員）

年齢別職員数（非正規職員）については、「60歳以上」が31.3%で最も高く、次いで「50歳～59歳」が26.5%、「40歳～49歳」が25.7%と続いています。

平成28年度調査と比較すると、『50歳以上』（57.8%）では、平成28年度調査（51.6%）より6.2ポイント高くなっています。

図表 5-1-13 年齢別職員数（非正規職員）

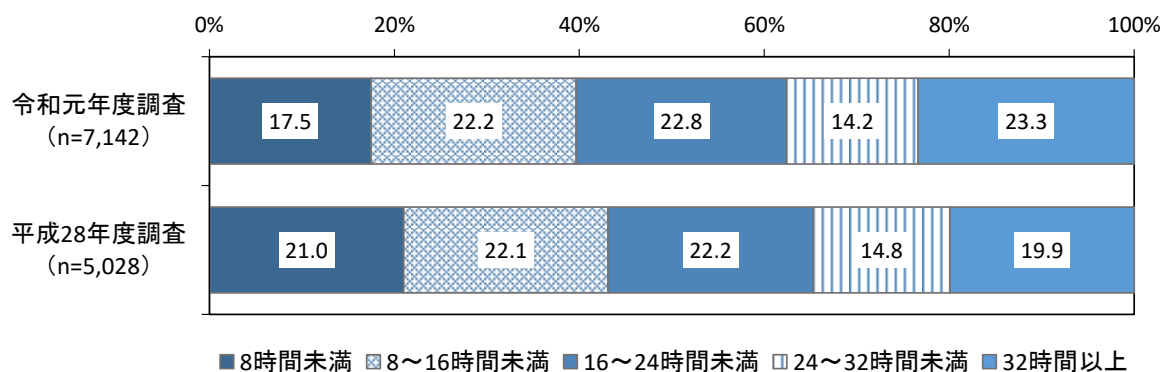


## (7) 週勤務時間別職員数（非正規職員）

週勤務時間別職員数（非正規職員）については、「32時間以上」が23.3%で最も高く、次いで「16～24時間未満」が22.8%、「8～16時間未満」が22.2%と続いています。

平成28年度調査と比較すると、「32時間以上」（23.3%）では、平成28年度調査（19.9%）より3.4ポイント高く、「8時間未満」（17.5%）では、平成28年度調査（21.0%）より3.5ポイント低くなっています。

図表 5-1-14 週勤務時間別職員数（非正規職員）



## (8) 資格別職員数（正規職員）

資格別職員数（正規職員）については、「介護福祉士」が3,629人で最も多く、次いで「ヘルパー2級」が1,640人、「介護支援専門員」が1,004人と続いています。

図表 5-1-15 資格別職員数（正規職員）

単位：実数（法人）、実数（人）

	合計	介護福祉士	介護職員基礎研修課程修了	ヘルパー1級	ヘルパー2級	看護師・准看護師	介護支援専門員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	その他
合計	518	3,629	348	116	1,640	774	1,004	136	45	8	774
居宅介護支援	208	280	6	14	106	21	488	0	0	0	67
訪問介護	248	683	181	47	411	28	40	0	0	0	49
訪問入浴介護	11	95	3	1	50	26	12	3	1	0	4
訪問看護	72	1	0	0	1	294	7	50	12	5	7
訪問リハビリテーション	12	0	0	0	0	0	1	31	3	1	2
居宅療養管理指導	56	17	0	0	1	9	31	0	0	0	82
通所介護	63	469	42	11	226	65	66	6	5	0	67
通所リハビリテーション	14	14	0	0	7	6	2	25	2	0	4
短期入所生活介護	25	272	13	6	104	34	33	0	0	1	21
短期入所療養介護	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定施設入居者生活介護	11	111	12	1	74	44	16	1	0	0	10
福祉用具貸与	61	17	7	2	32	0	15	1	1	0	108
特定福祉用具販売	59	10	6	1	14	0	2	1	0	0	70
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	4	10	0	0	4	4	0	0	0	0	0
夜間対応型訪問介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症対応型通所介護	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0	1
小規模多機能型居宅介護	7	304	11	13	191	21	94	0	0	0	0
地域密着型通所介護	70	243	21	7	44	35	6	10	0	0	67
認知症対応型共同生活介護	29	224	14	7	173	24	86	0	0	0	16
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	7	48	2	2	30	6	7	0	0	0	4
看護小規模多機能型居宅介護	3	8	1	1	8	2	2	0	0	0	2
介護老人福祉施設	22	680	29	3	145	92	78	1	4	1	110
介護老人保健施設	5	136	0	0	19	63	18	7	17	0	83
介護医療院（介護療養型医療施設）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## (9) 資格別職員数（非正規職員）

資格別職員数（非正規職員）については、「ヘルパー2級」が2,828人で最も多く、次いで「介護福祉士」が1,921人、「看護師・准看護師」が991人と続いています。

図表 5-1-16 資格別職員数（非正規職員）

単位：実数（法人）、実数（人）

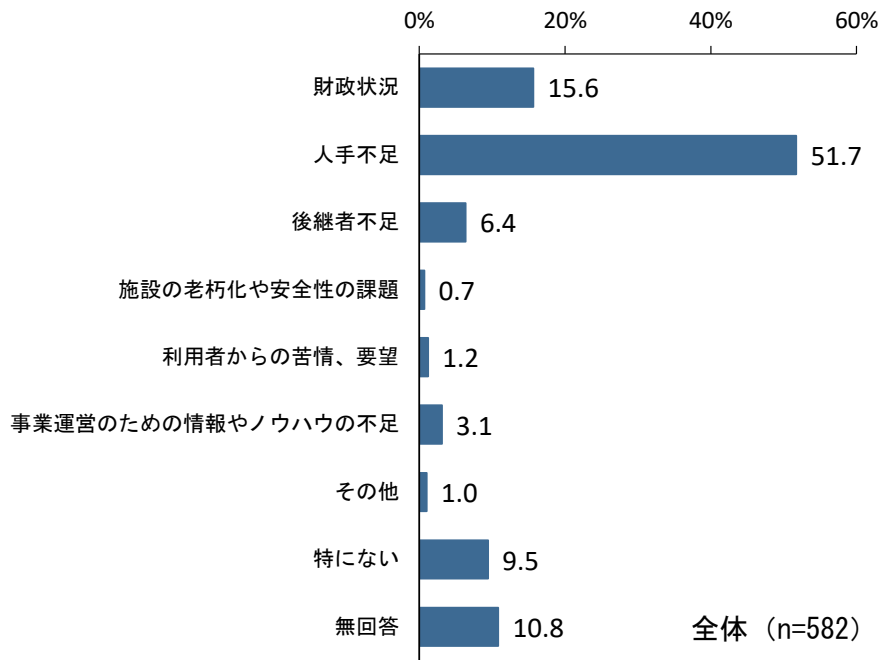
	合計	介護福祉士	介護職員基礎研修課程修了	ヘルパー1級	ヘルパー2級	看護師・准看護師	介護支援専門員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	その他
合計	518	1,921	326	91	2,828	991	207	60	25	11	369
居宅介護支援	208	65	2	7	89	3	91	1	0	0	14
訪問介護	248	735	176	42	1,665	45	18	0	0	1	41
訪問入浴介護	11	65	2	1	64	50	3	0	0	0	0
訪問看護	72	0	0	0	0	277	1	30	10	6	5
訪問リハビリテーション	12	0	0	0	0	0	0	10	3	2	2
居宅療養管理指導	56	0	0	0	2	15	2	0	0	0	54
通所介護	63	352	51	15	319	238	38	15	6	2	50
通所リハビリテーション	14	5	3	0	3	5	0	0	1	0	1
短期入所生活介護	25	61	4	2	61	27	1	0	0	0	9
短期入所療養介護	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定施設入居者生活介護	11	26	0	0	48	10	1	0	0	0	5
福祉用具貸与	61	6	5	1	9	2	1	0	0	0	34
特定福祉用具販売	59	3	1	0	3	2	0	0	0	0	24
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	4	4	1	1	7	6	0	0	0	0	0
夜間対応型訪問介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症対応型通所介護	3	4	4	0	2	2	0	0	0	0	0
小規模多機能型居宅介護	7	171	4	9	162	53	18	0	0	0	0
地域密着型通所介護	70	133	40	3	86	156	4	1	2	0	71
認知症対応型共同生活介護	29	130	17	5	180	21	18	0	0	0	22
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	7	18	2	0	19	4	1	0	0	0	1
看護小規模多機能型居宅介護	3	5	0	1	10	2	0	0	0	0	0
介護老人福祉施設	22	125	14	4	94	51	10	3	2	0	31
介護老人保健施設	5	13	0	0	5	22	0	0	1	0	5
介護医療院（介護療養型医療施設）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



問5	現在、事業運営している中で、最も不安に感じていることは何ですか。 (〇はひとつ)
----	---

事業運営している中で最も不安に感じていることについては、「人手不足」が51.7%で最も高く、次いで「財政状況」が15.6%、「特にない」が9.5%と続いています。

図表 5-1-17 事業運営している中で最も不安に感じていること

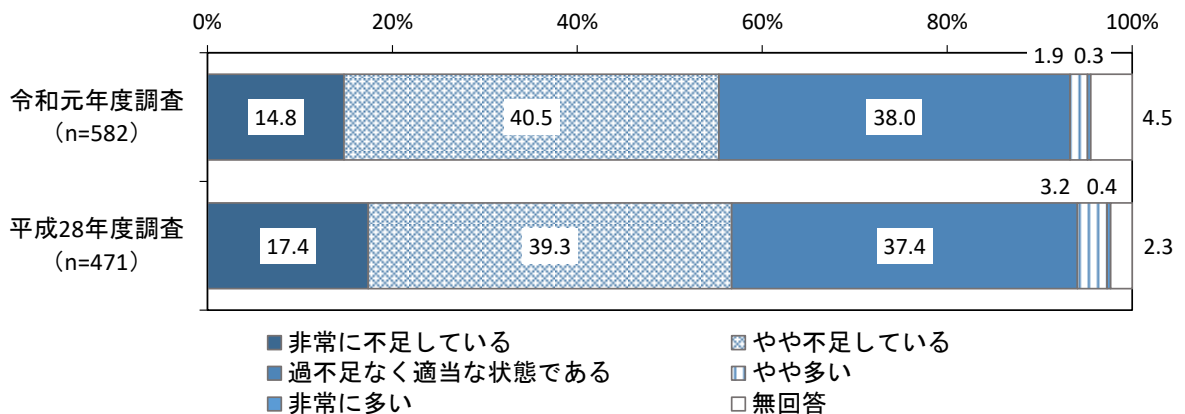


問6	現在のサービス提供状況からみて、職員数の過不足はありますか。(〇はひとつ)
----	---------------------------------------

サービス提供状況からみて職員数の過不足はあるかについては、「やや不足している」が40.5%で最も高く、次いで「過不足なく適切な状態である」が38.0%、「非常に不足している」が14.8%と続いており、『不足している』(「非常に不足している」と「やや不足している」の合計)は55.3%、『多い』(「やや多い」と「非常に多い」の合計)は2.2%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「非常に不足している」(14.8%)では、平成28年度調査(17.4%)より2.6ポイント低くなっています。

図表 5-1-18 サービス提供状況からみて職員数の過不足はあるか

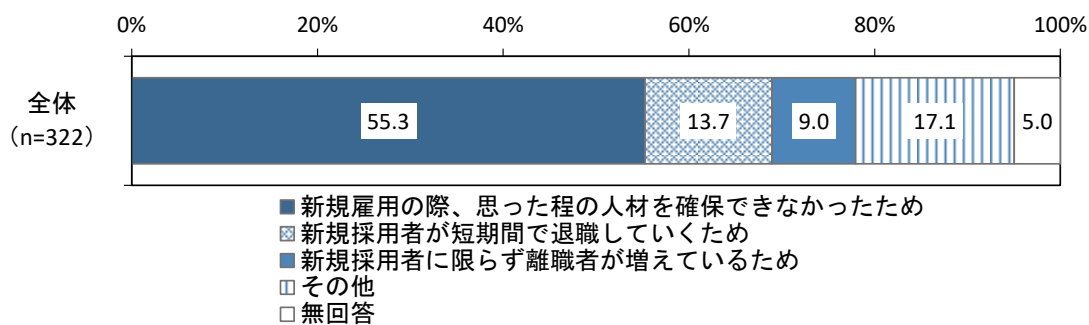


問6-1

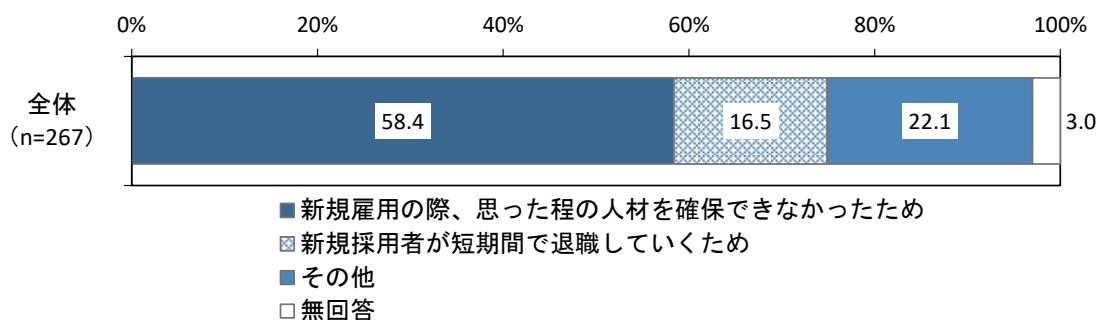
【問6で「非常に不足している」「やや不足している」を回答した法人】  
職員数が不足している主な理由は何ですか。(〇はひとつ)

職員が不足している理由については、「新規雇用の際、思った程の人材を確保できなかったため」が55.3%で最も高く、次いで「その他」が17.1%、「新規採用者が短期間で退職していくため」が13.7%と続いています。

図表 5-1-19 職員が不足している理由



図表 5-1-20 職員が不足している理由 平成 28 年度調査

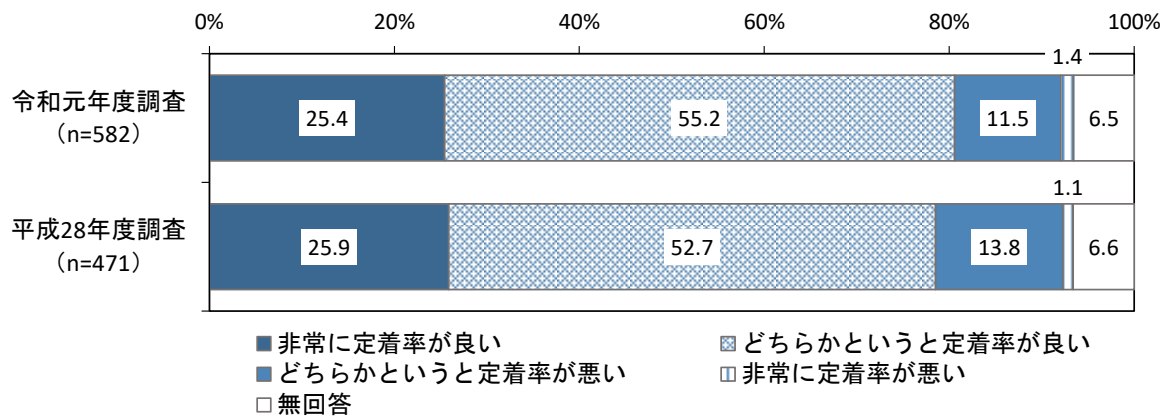


問7 貴法人の職員の定着率をどう感じていますか。(〇はひとつ)

職員の定着率をどう感じているかについては、「どちらかという而定着率が良い」が55.2%で最も高く、次いで「非常に定着率が良い」が25.4%、「どちらかという而定着率が悪い」が11.5%と続いており、『定着率が良い』（「非常に定着率が良い」と「どちらかという而定着率が良い」の合計）は80.6%となっています。

平成28年度調査と比較すると、『定着率が良い』（80.6%）では、平成28年度調査（78.6%）より2.0ポイント高くなっています。

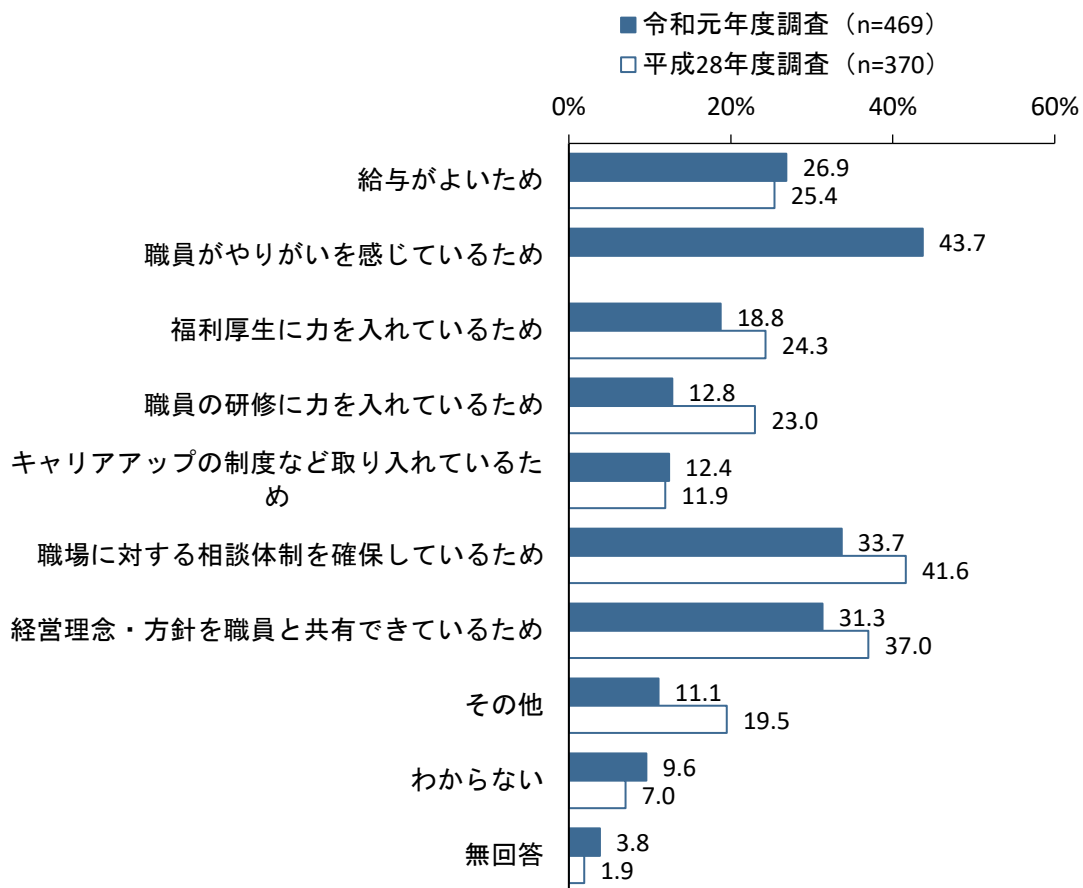
図表 5-1-21 職員の定着率をどう感じているか



問7-1	【問7で「非常に定着率が良い」「どちらかという而定着率が良い」を回答した法人】 職員の定着率が良い主な理由は何だと思えますか。(〇は3つまで)
------	--

職員の定着率が良い理由については、「職員がやりがいを感じているため」が43.7%で最も高く、次いで「職場に対する相談体制を確保しているため」が33.7%、「経営理念・方針を職員と共有できているため」が31.3%と続いています。

図表 5-1-22 職員の定着率が良い理由

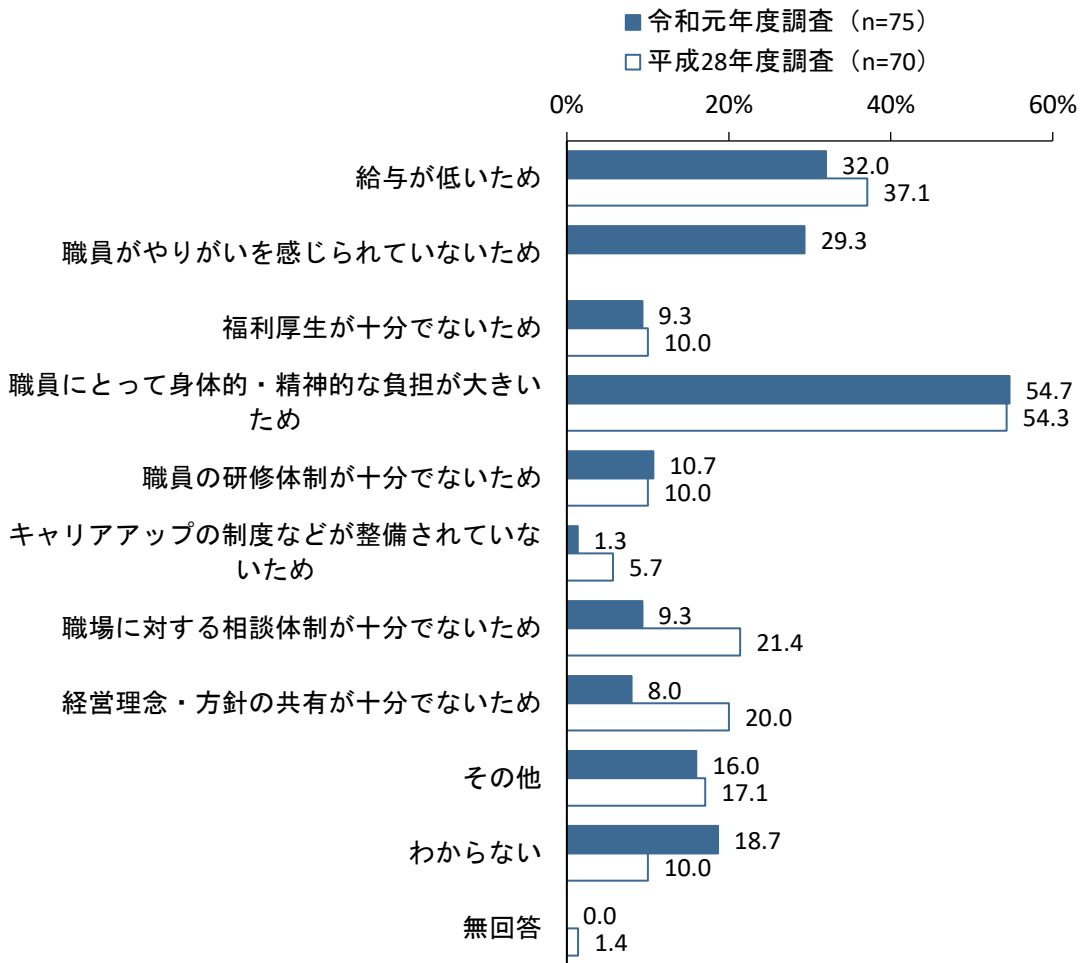


※令和元年度調査より「職員がやりがいを感じているため」の選択肢を追加

問7-2	【問7で「どちらか」というと定着率が悪い」「非常に定着率が悪い」を回答した法人】 職員の定着率が悪い主な理由は何だと思いますか。(〇は3つまで)
------	---

職員の定着率が悪い理由については、「職員にとって身体的・精神的な負担が大きいため」が54.7%で最も高く、次いで「給与が低いため」が32.0%、「職員がやりがいを感じられていないため」が29.3%と続いています。

図表 5-1-23 職員の定着率が悪い理由



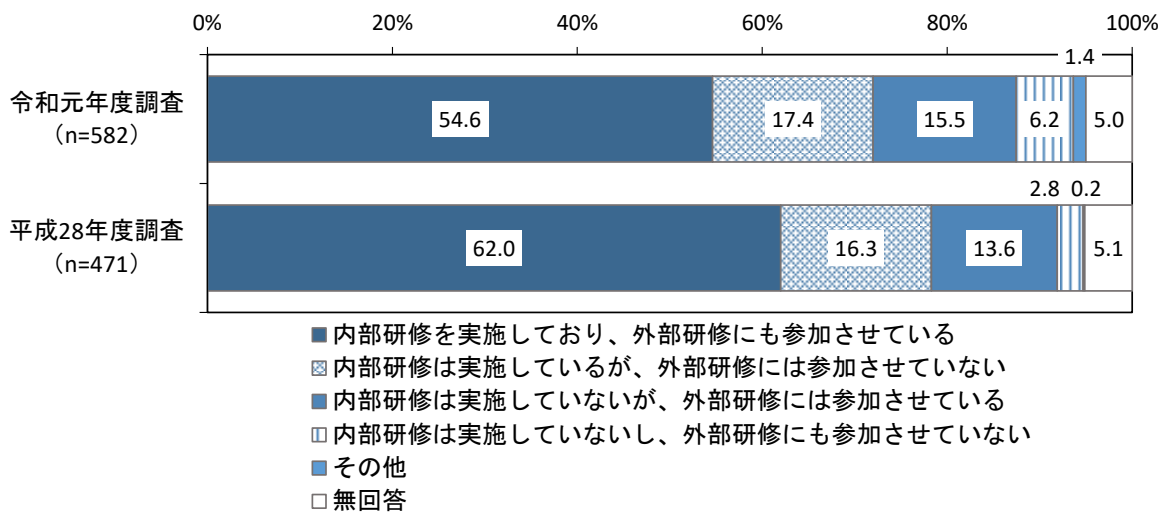
※令和元年度調査より「職員がやりがいを感じられていないため」の選択肢を追加

問8	職員に対する社内・社外研修について、あてはまるものに○をつけてください。 (○はひとつ)
----	---

職員に対する社内・社外研修の状況については、「内部研修を実施しており、外部研修にも参加させている」が54.6%で最も高く、次いで「内部研修は実施しているが、外部研修には参加させていない」が17.4%、「内部研修は実施していないが、外部研修には参加させている」が15.5%と続いています。

平成28年度調査と比較すると、「内部研修は実施していないし、外部研修にも参加させていない」(6.2%)では、平成28年度調査(2.8%)より3.4ポイント高くなっています。

図表 5-1-24 職員に対する社内・社外研修の状況

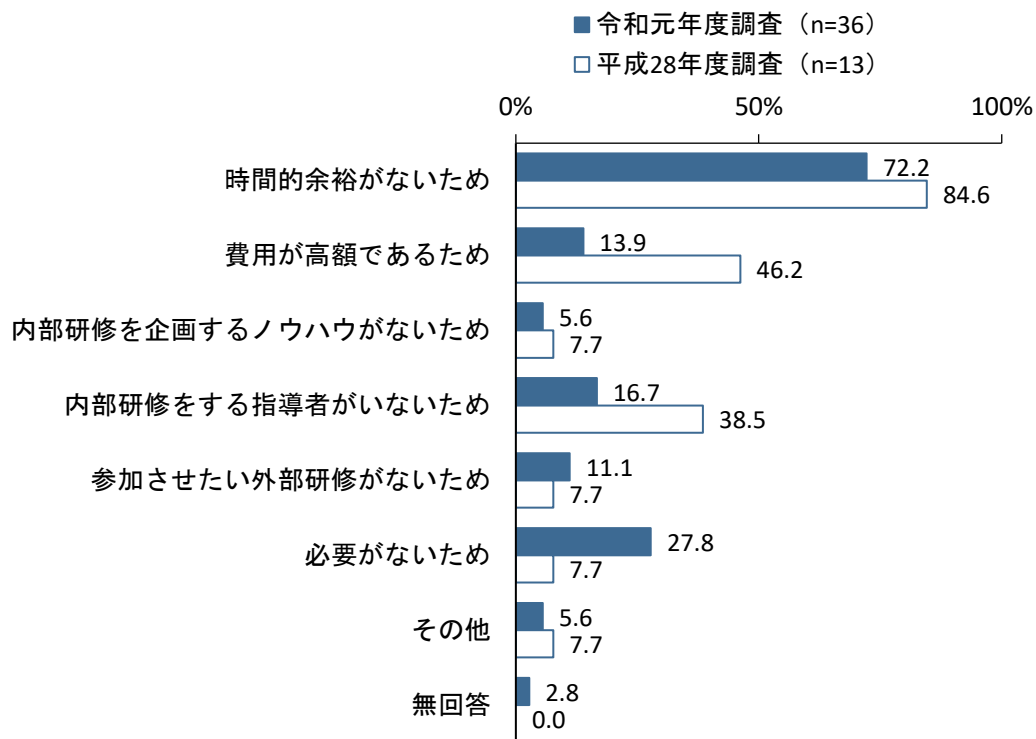


問8-2	【問8で「内部研修は実施していないし、外部研修にも参加させていない」を回答した法人】 研修等を実施していない理由は何ですか。(〇は3つまで)
------	---

研修等を実施していない理由については、「時間的余裕がないため」が72.2%で最も高く、次いで「必要がないため」が27.8%、「内部研修をする指導者がいないため」が16.7%と続いています。

平成28年度調査と比較すると、「必要がないため」(27.8%)では、平成28年度調査(7.7%)よりも20.1ポイント高く、最も増加した項目となっています。

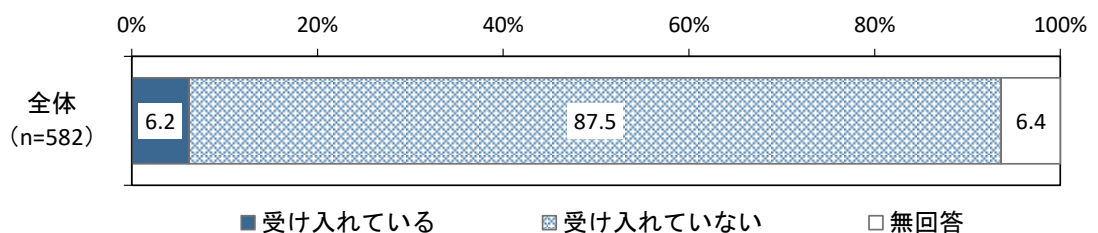
図表 5-1-25 研修等を実施していない理由



問9	介護の仕事に携わる外国人労働者を受け入れていますか。(〇はひとつ)
----	-----------------------------------

介護の仕事に携わる外国人労働者を受け入れているかについては、「受け入れている」が6.2%、「受け入っていない」が87.5%となっています。

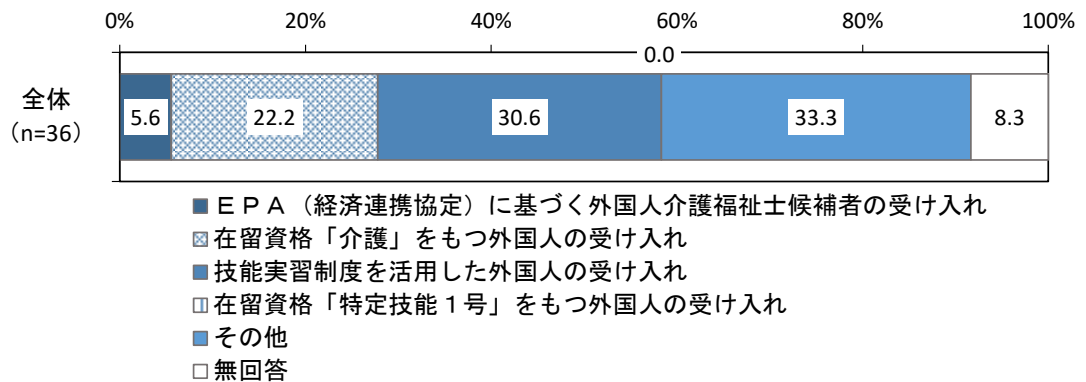
図表 5-1-26 介護の仕事に携わる外国人労働者を受け入れているか



問9-1	【問9で「受け入れている」を回答した法人】 どの制度に基づいて外国人労働者を受け入れたのか教えてください。 (〇はひとつ)
------	---

どの制度に基づいて外国人労働者を受け入れたかについては、「その他」が 33.3%で最も高く、次いで「技能実習制度を活用した外国人の受け入れ」が 30.6%、「在留資格「介護」をもつ外国人の受け入れ」が 22.2%と続いています。

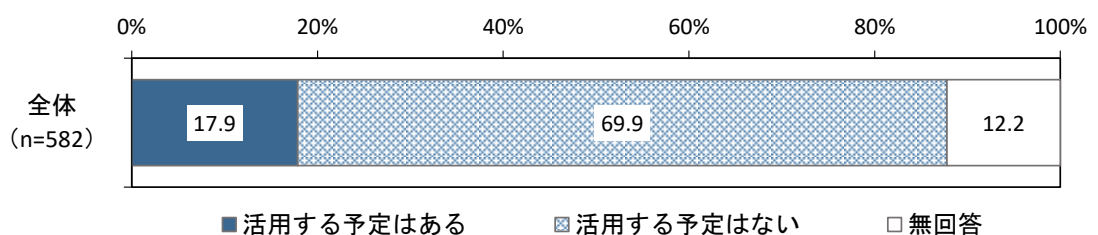
図表 5-1-27 どの制度に基づいて外国人労働者を受け入れたか



問 10	今後（または引き続き）、外国人労働者を活用する予定はありますか。 (〇はひとつ)
------	---

今後の外国人労働者の活用予定については、「活用する予定はある」が 17.9%、「活用する予定はない」が 69.9%となっています。

図表 5-1-28 今後の外国人労働者の活用予定

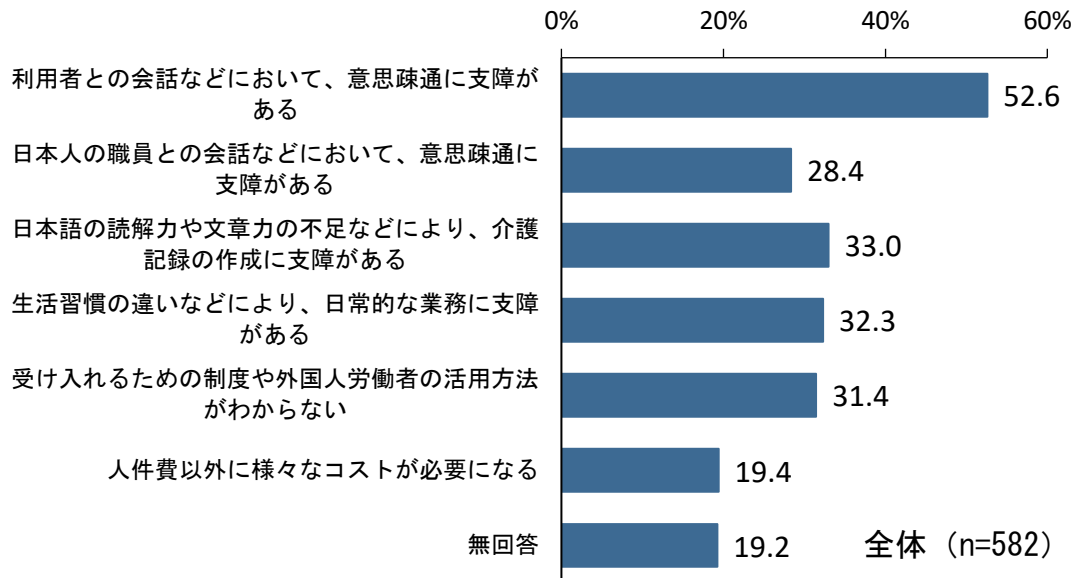




問 11	今後（または引き続き）、外国人労働者を活用するうえでの課題は何ですか。 （〇はいくつでも）
------	--

今後、外国人労働者を活用するうえでの課題については、「利用者との会話などにおいて、意思疎通に支障がある」が 52.6%で最も高く、次いで「日本語の読解力や文章力の不足などにより、介護記録の作成に支障がある」が 33.0%、「生活習慣の違いなどにより、日常的な業務に支障がある」が 32.3%と続いています。

図表 5-1-29 今後、外国人労働者を活用するうえでの課題

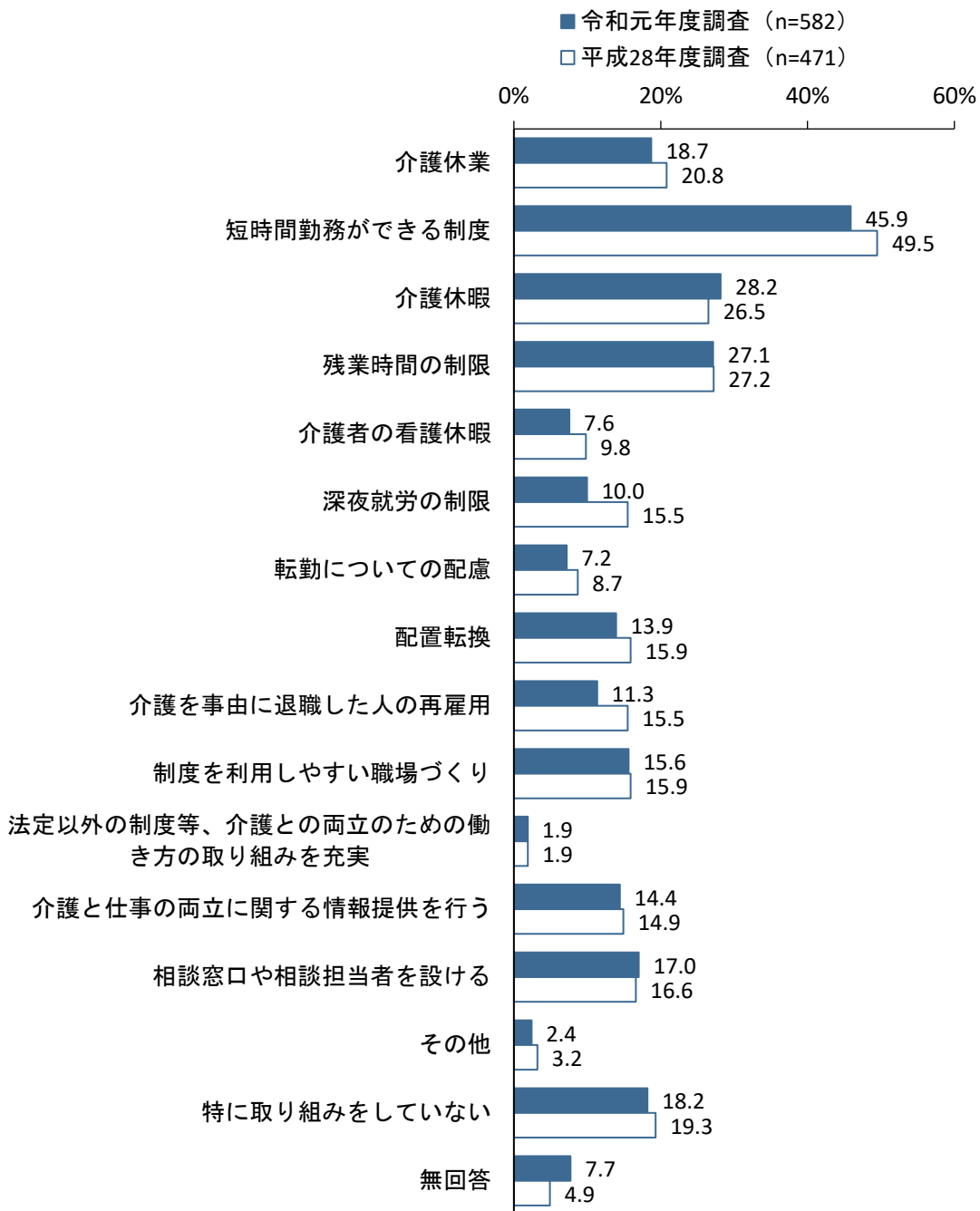


問 12	職員自身のご家族の介護と仕事の両立支援として、どのような取り組みをされているか教えてください。(〇はいくつでも)
------	--

職員自身の家族の介護と仕事の両立支援の取組については、「短時間勤務ができる制度」が45.9%で最も高く、次いで「介護休暇」が28.2%、「残業時間の制限」が27.1%と続いています。

平成28年度調査と比較すると、「介護休暇」「法定以外の制度等、介護との両立のための働き方の取り組みを充実」「相談窓口や相談担当者を設ける」以外のすべての項目で平成28年度調査よりも割合が低くなっており、「深夜就労の制限」(10.0%)では、平成28年度調査(15.5%)より5.5ポイント低く、最も減少した項目となっています。

図表 5-1-30 職員自身の家族の介護と仕事の両立支援の取組



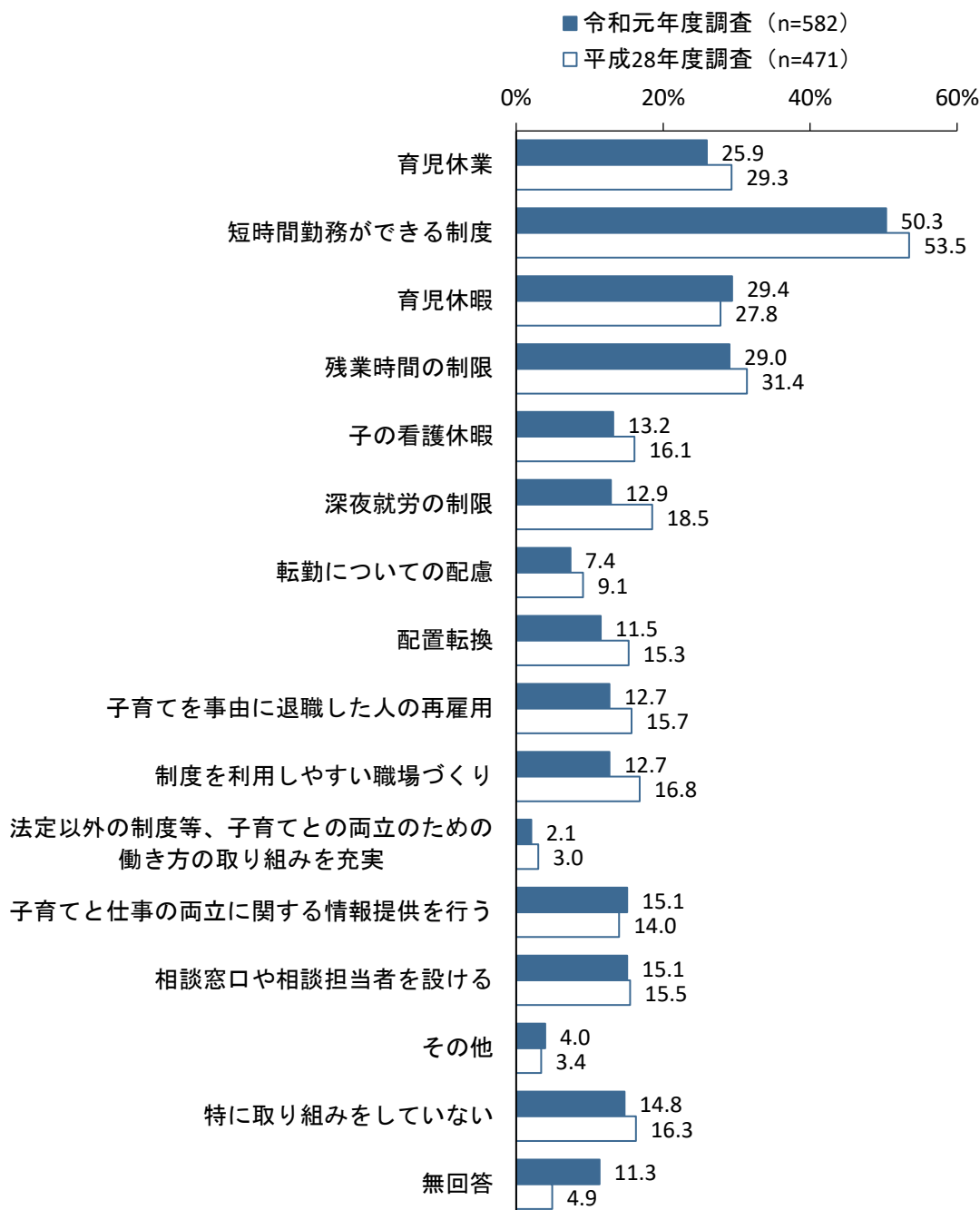
問 13

職員自身の子育てと仕事の両立支援として、どのような取り組みをされているか教えて下さい。(〇はいくつでも)

子育てと仕事の両立支援の取組については、「短時間勤務ができる制度」が 50.3%で最も高く、次いで「育児休業」が 29.4%、「残業時間の制限」が 29.0%と続いています。

平成 28 年度調査と比較すると、「育児休暇」「子育てと仕事の両立に関する情報提供を行う」「その他」以外のすべての項目で平成 28 年度調査よりも割合が低くなっており、「深夜就労の制限」(12.9%)では、平成 28 年度調査 (18.5%) より 5.6 ポイント低く、最も減少した項目となっています。

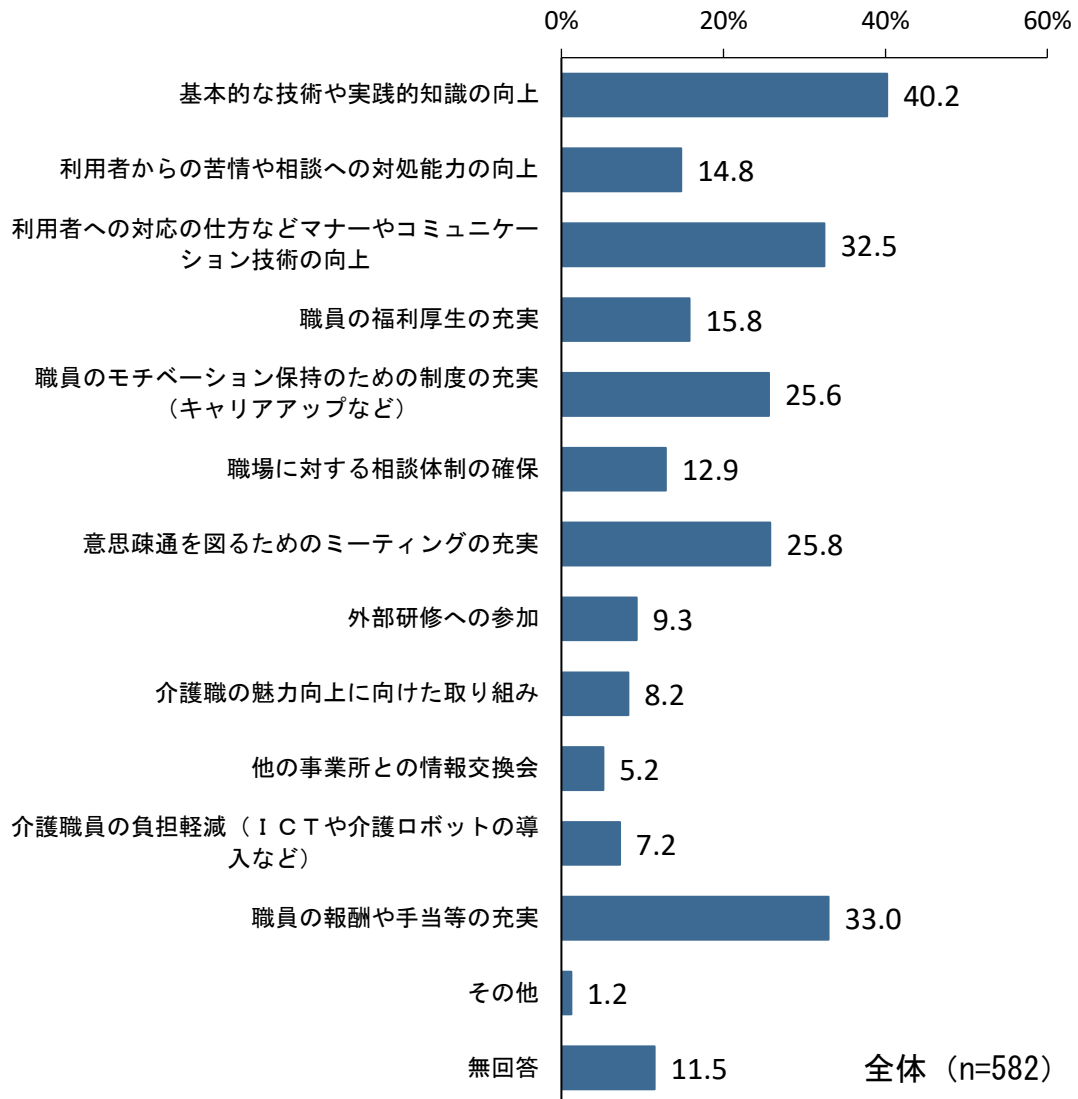
図表 5-1-31 子育てと仕事の両立支援の取組



問 14	職員の確保や質の向上を図るために、今後どのような視点を重視した取り組みが必要だと思いますか。（〇は3つまで）
------	--

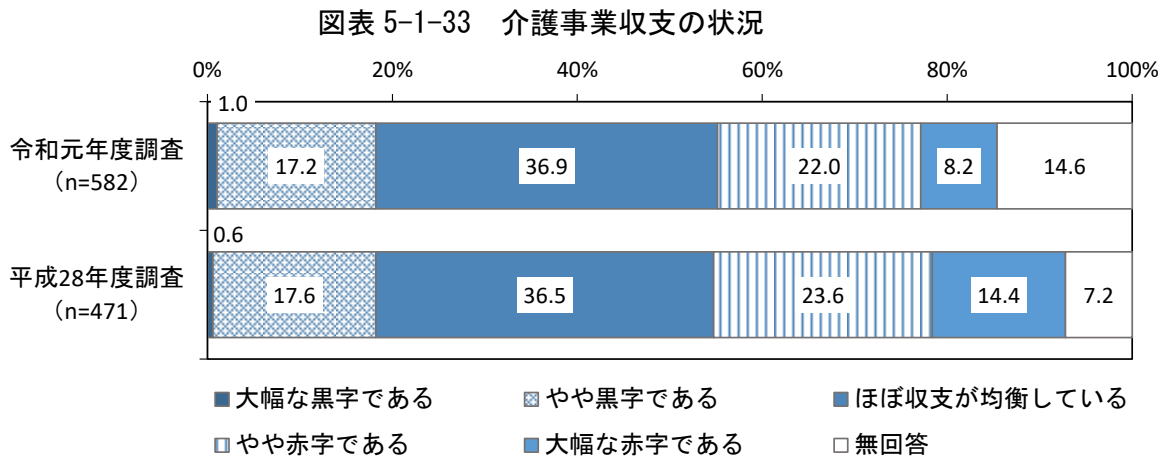
職員の確保や質の向上のために、今後どのような視点を重視すべきかについては、「基本的な技術や実践的知識の向上」が40.2%で最も高く、次いで「職員の報酬や手当等の充実」が33.0%、「利用者への対応の仕方などマナーやコミュニケーション技術の向上」が32.5%と続いています。

図表 5-1-32 職員の確保や質の向上のために、今後どのような視点を重視すべきか



問 15	平成 30 年度の貴法人の介護事業会計についてお伺いします。介護事業収支は、どのような状況ですか。(〇はひとつ)
------	--

介護事業収支の状況については、「ほぼ収支が均衡している」が 36.9%で最も高く、次いで「やや赤字である」が 22.0%、「やや黒字である」が 17.2%と続いており、『黒字である』（「大幅な黒字である」と「やや黒字である」の合計）は 18.2%、『赤字である』（「やや赤字である」と「大幅な赤字である」の合計）は 30.2%となっています。

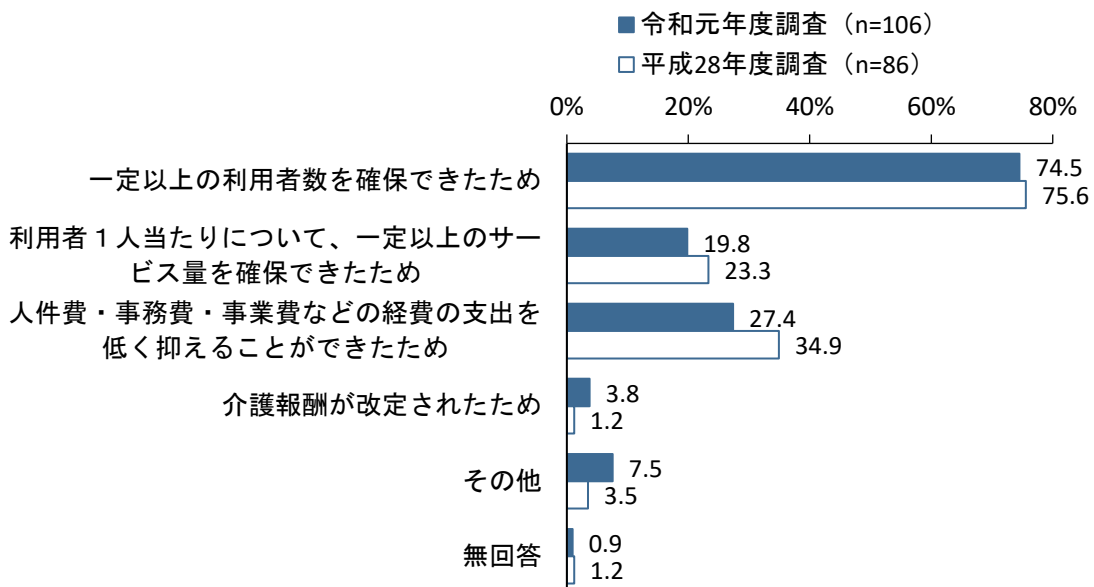


問 15-1	【問 15 で「大幅な黒字である」「やや黒字である」を選んだ法人】 その主な理由は何だと思えますか。(〇は2つまで)
--------	---

黒字の主な理由については、「一定以上の利用者数を確保できたため」が 74.5%で最も高く、次いで「人件費・事務費・事業費などの経費の支出を低く抑えることができたため」が 27.4%、「利用者 1 人当たりについて、一定以上のサービス量を確保できたため」が 19.8%と続いています。

平成 28 年度調査と比較すると、「人件費・事務費・事業費などの経費の支出を低く抑えることができたため」(27.4%)では、平成 28 年度調査 (34.9%) より 7.5 ポイント低くなっています。

**図表 5-1-34 黒字の主な理由**

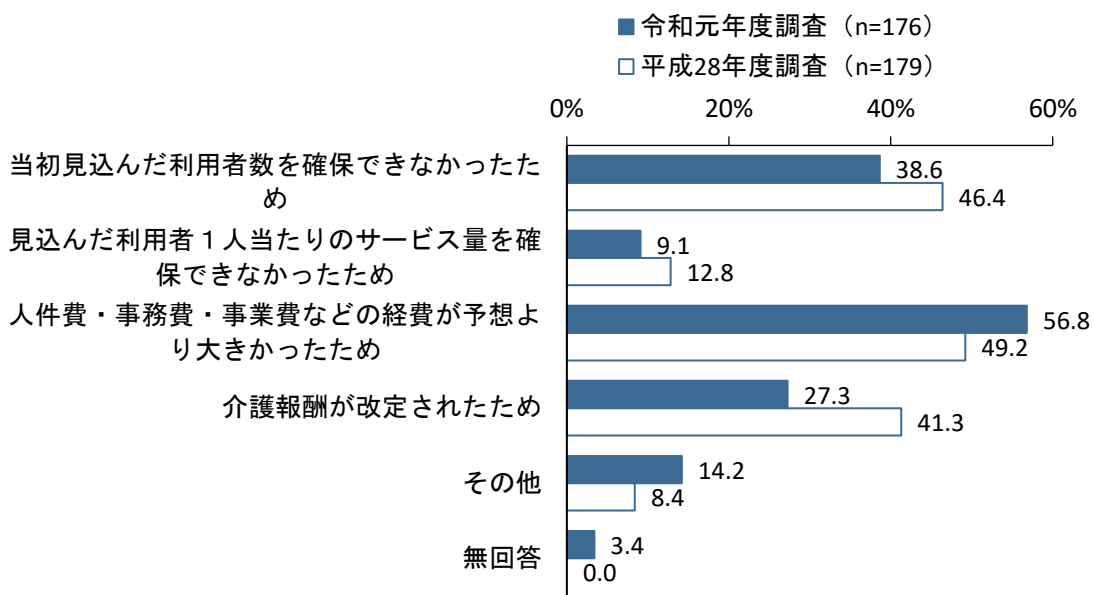


問 15-2	【問 15 で「やや赤字である」「大幅な赤字である」を選んだ法人】 その主な理由は何だと思えますか。(〇は2つまで)
--------	---

赤字の主な理由については、「人件費・事務費・事業費などの経費が予想より大きかったため」が 56.8%で最も高く、次いで「当初見込んだ利用者数を確保できなかったため」が 38.6%、「介護報酬が改定されたため」が 27.3%と続いています。

平成 28 年度調査と比較すると、「人件費・事務費・事業費などの経費が予想より大きかったため」(56.8%)では、平成 28 年度調査 (49.2%) より 7.6 ポイント高くなっています。

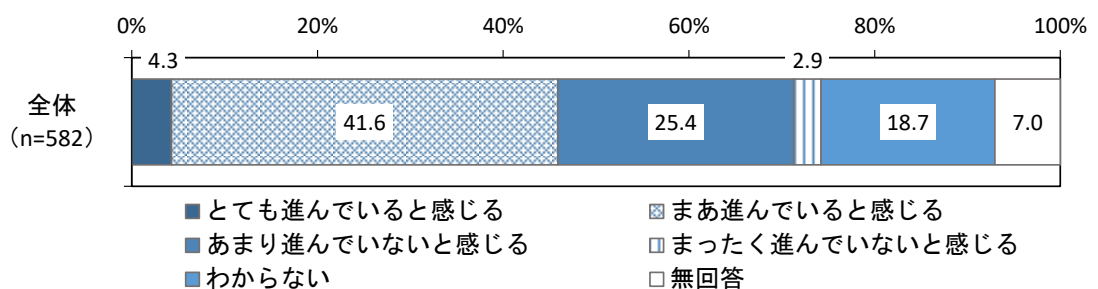
図表 5-1-35 赤字の主な理由



問 16	貴法人から見て、堺市では以前と比べて、多職種での連携が進んでいると感じますか。(〇はひとつ)
------	--

堺市では以前と比べて、多職種での連携が進んでいると感じるかについては、「まあ進んでいると感じる」が 41.6%で最も高く、次いで「あまり進んでいないと感じる」が 25.4%、「わからない」が 18.7%と続いており、『進んでいると感じる』（「とても進んでいると感じる」と「まあ進んでいると感じる」の合計）は 45.9%、『進んでいないと感じる』（「あまり進んでいないと感じる」と「まったく進んでいないと感じる」の合計）は 28.3%となっています。

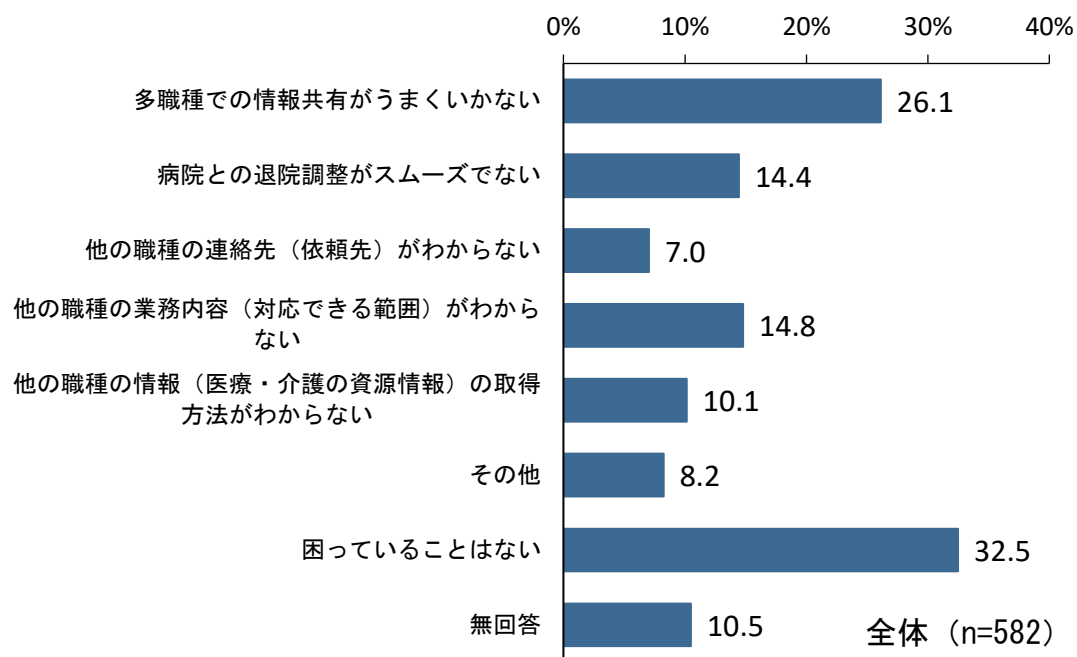
図表 5-1-36 堺市では以前と比べて、多職種での連携が進んでいると感じるか



問 17 多職種での連携において、業務上困っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

多職種での連携において、業務上困っていることについては、「困っていることはない」が 32.5%で最も高く、次いで「多職種での情報共有がうまくいかない」が 26.1%、「他の職種の業務内容（対応できる範囲）がわからない」が 14.8%と続いています。

図表 5-1-37 多職種での連携において、業務上困っていること



## 2. 災害時の対策について

問 18	貴法人の災害に対する対策の実施状況について、それぞれサービス種別ごとに下欄の表から該当するものをすべて選び、その番号を記入してください。
------	--

災害対策の実施状況について、各サービスの合計をみると、(1)地震・津波対策では、「災害時の具体的な対応マニュアルの作成・職員への周知」が43.3%で最も高く、次いで「避難計画の策定」が33.7%、「食料等の備蓄」が28.4%と続いています。

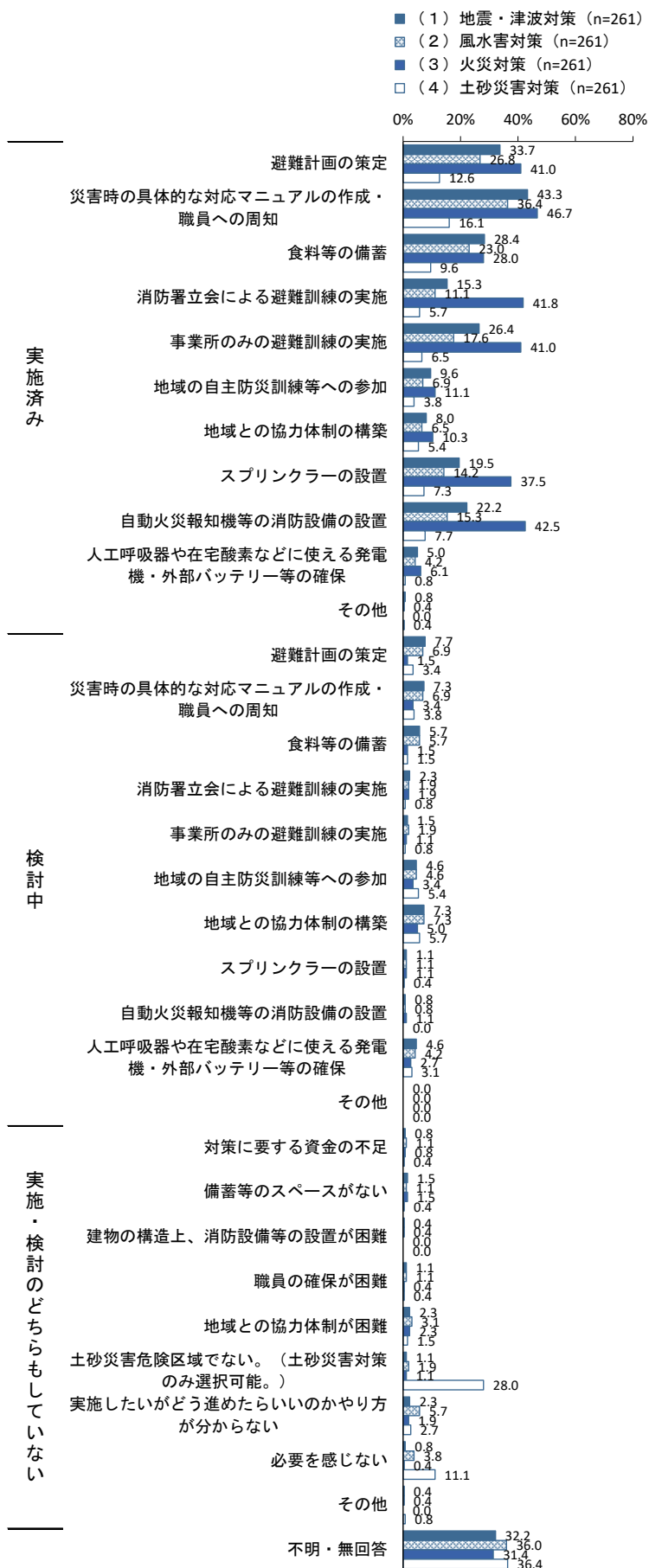
(2)風水害対策では、「災害時の具体的な対応マニュアルの作成・職員への周知」が36.4%で最も高く、次いで「避難計画の策定」が26.8%、「食料等の備蓄」が23.0%と続いています。

(3)火災対策では、「災害時の具体的な対応マニュアルの作成・職員への周知」が46.7%で最も高く、次いで「自動火災報知機等の消防設備の設置」が42.5%、「消防署立会による避難訓練の実施」が41.8%と続いています。

(4)土砂災害対策では、「土砂災害危険区域でない。(土砂災害対策のみ選択可能。)」が28.0%で最も高く、次いで「災害時の具体的な対応マニュアルの作成・職員への周知」が16.1%、「避難計画の策定」が12.6%と続いています。

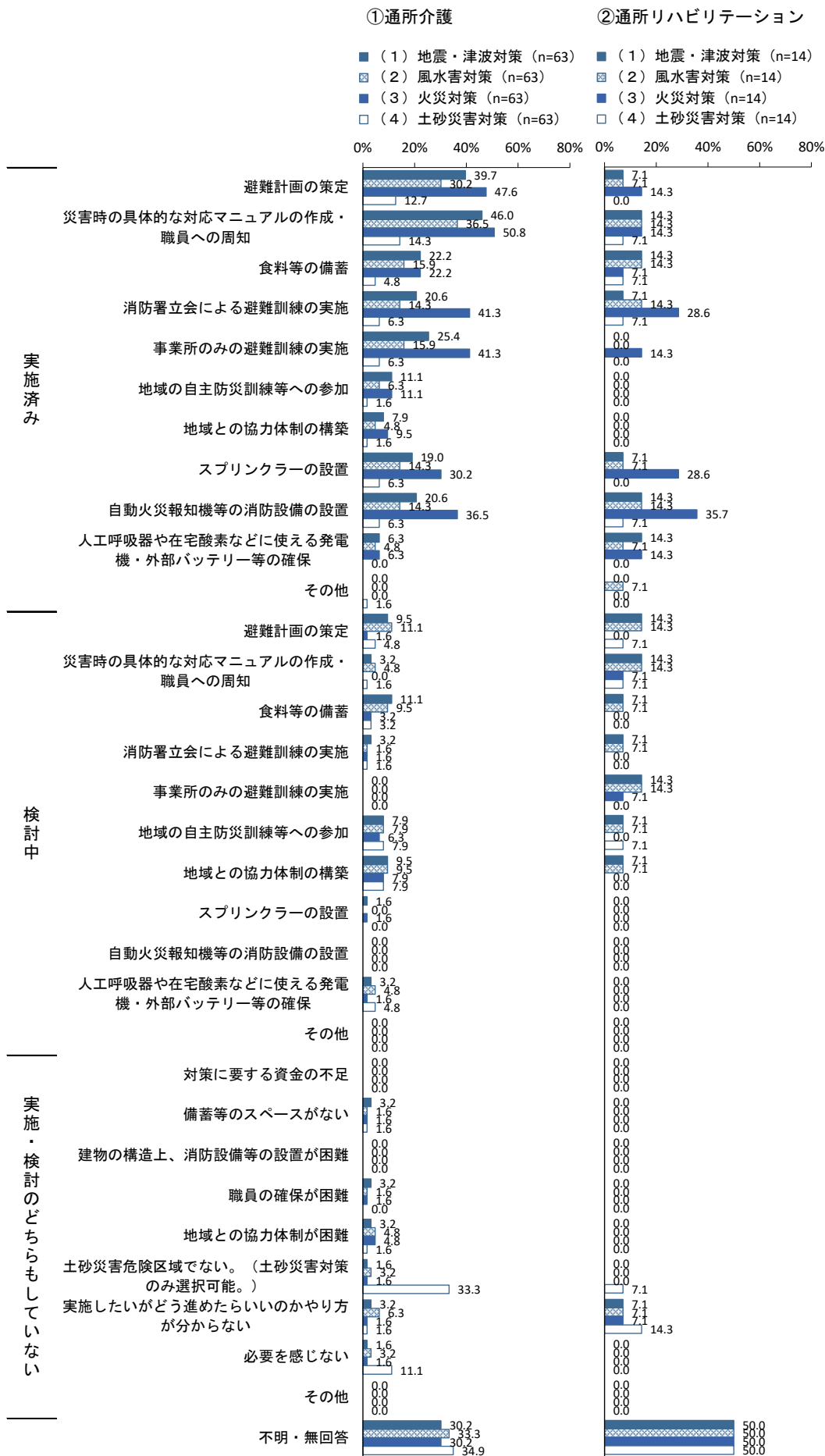


図表 5-2-1 災害対策の実施状況 各サービス合計

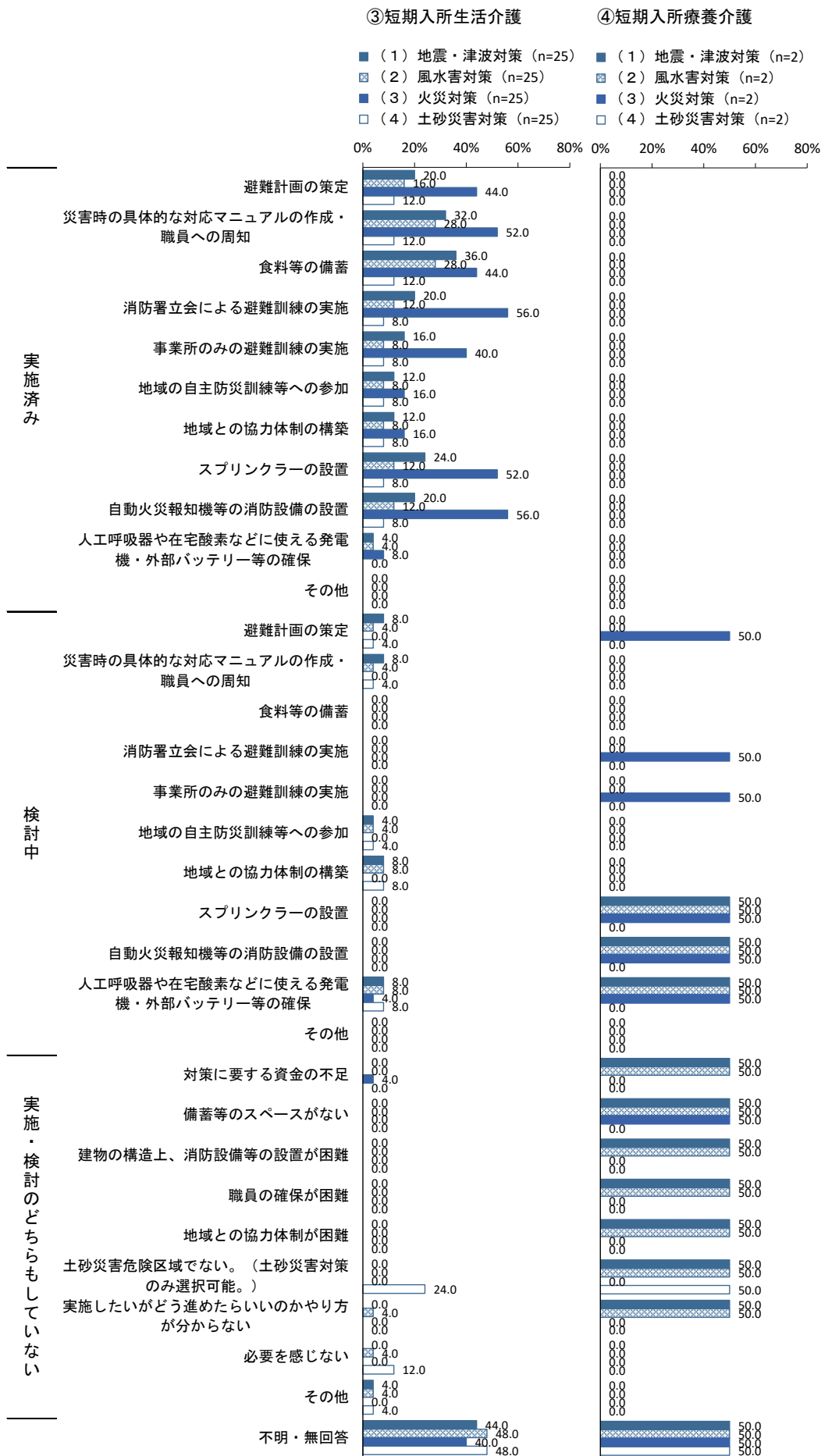


※同法人であっても各サービス種別で合計しています

図表 5-2-2 災害対策の実施状況 居宅サービス①

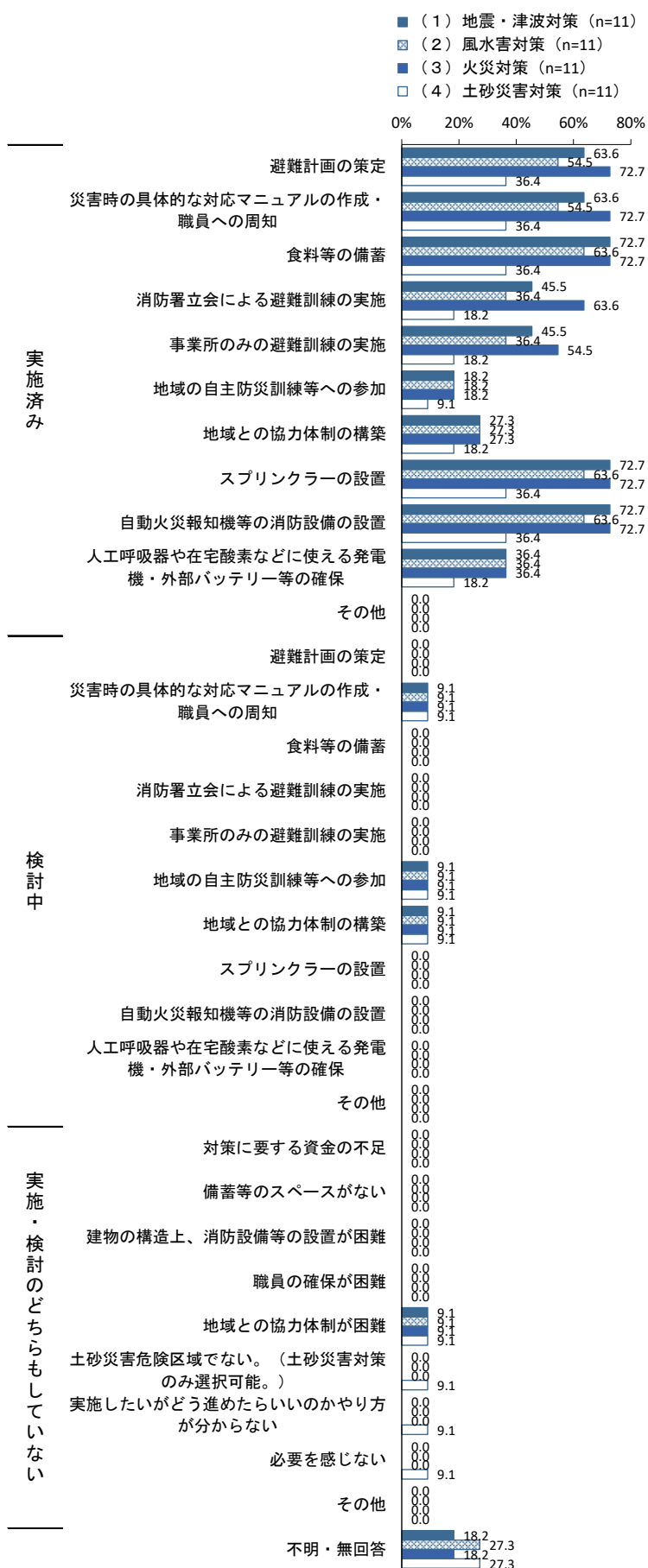


図表 5-2-3 災害対策の実施状況 居宅サービス②

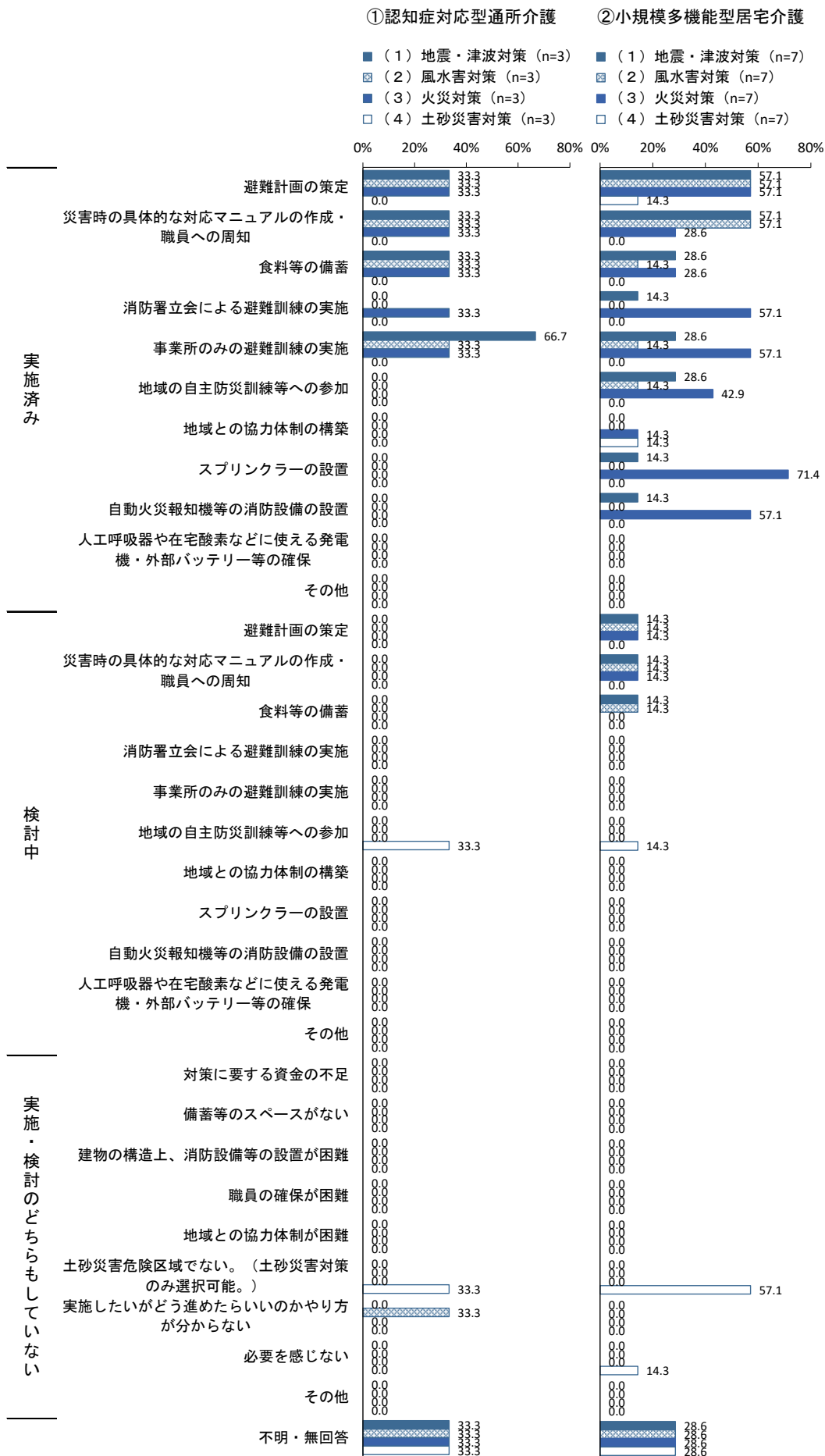


図表 5-2-4 災害対策の実施状況 居宅サービス③

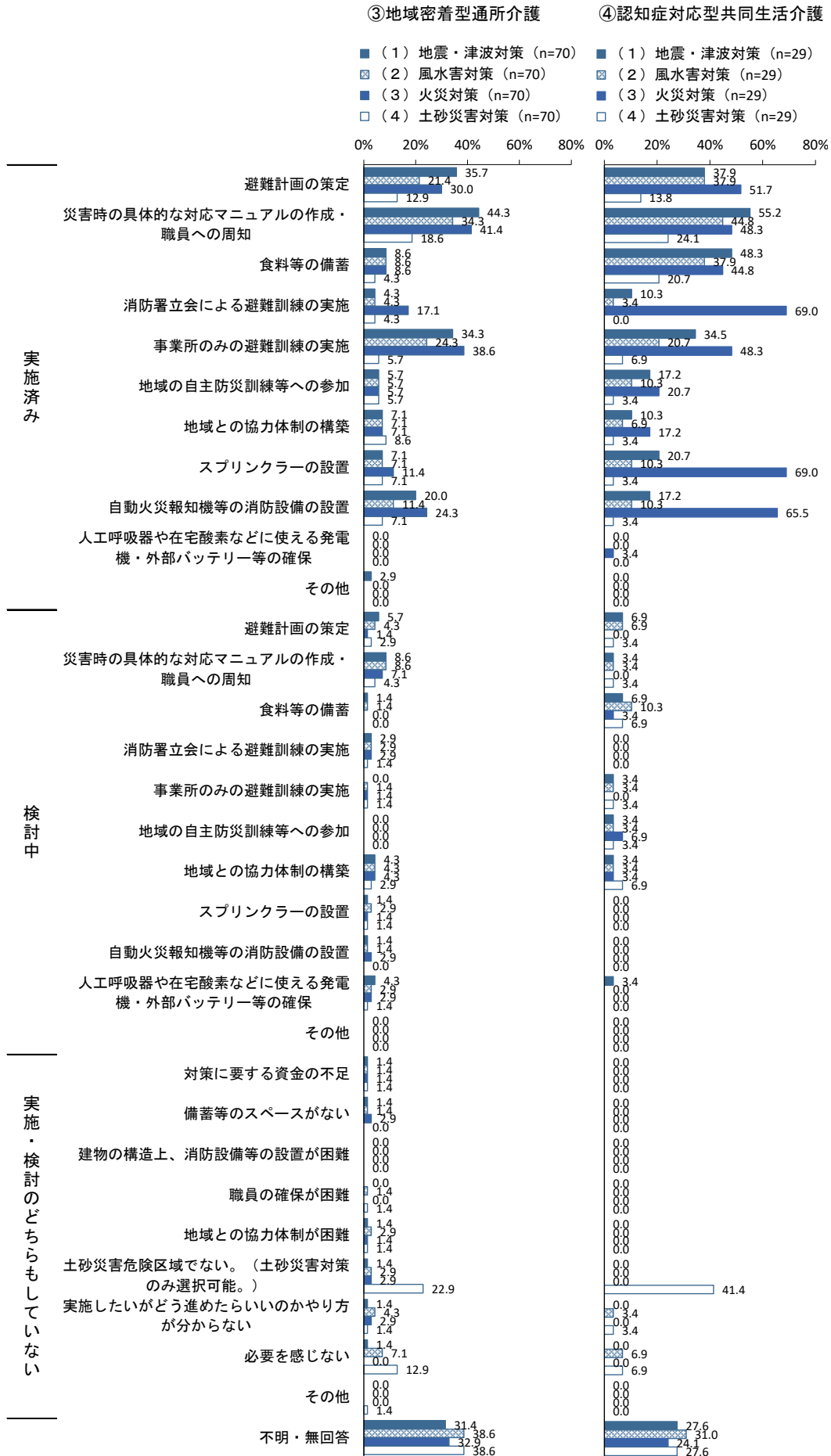
⑤特定施設入居者生活介護



図表 5-2-5 災害対策の実施状況 地域密着型サービス①



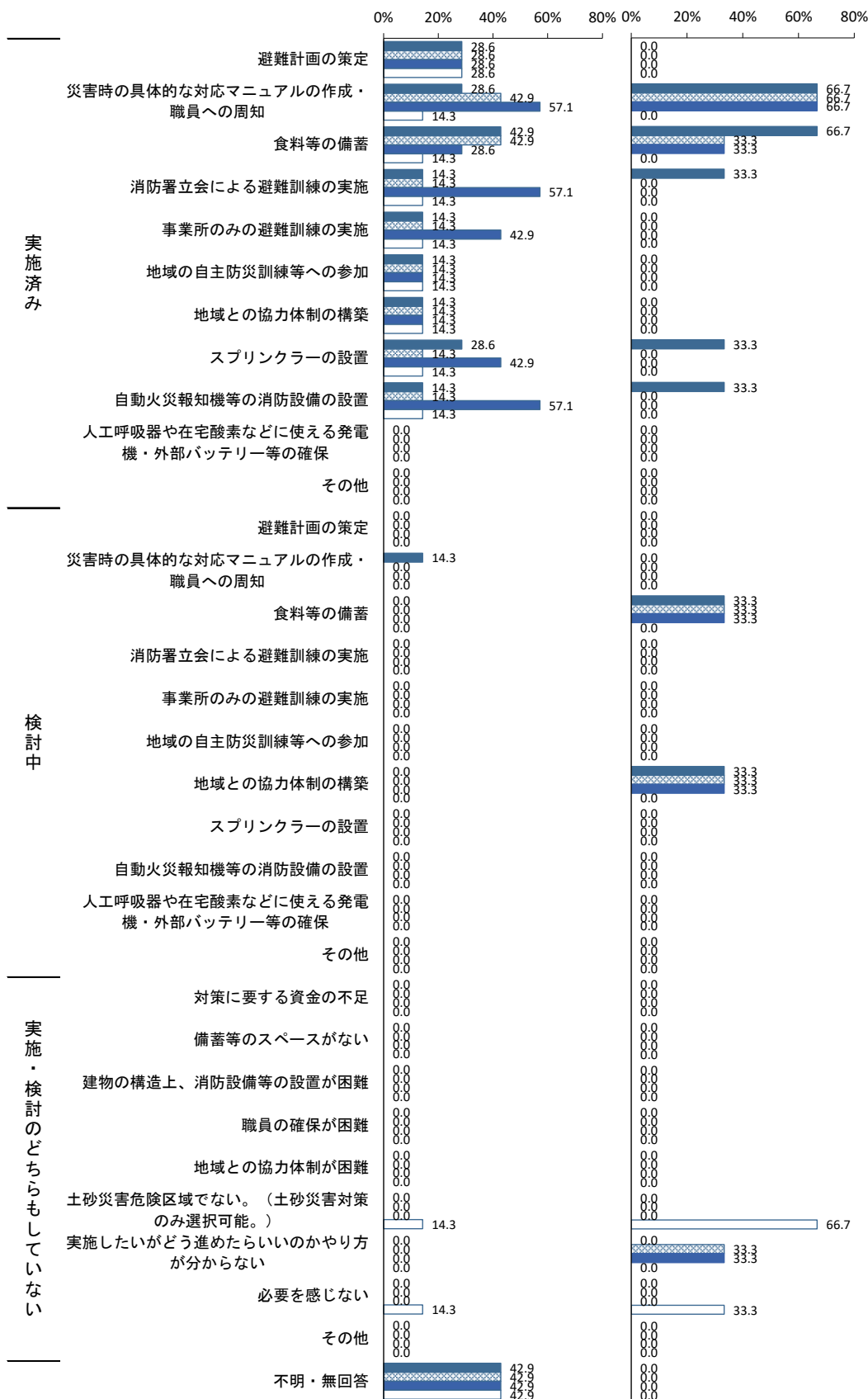
図表 5-2-6 災害対策の実施状況 地域密着型サービス②



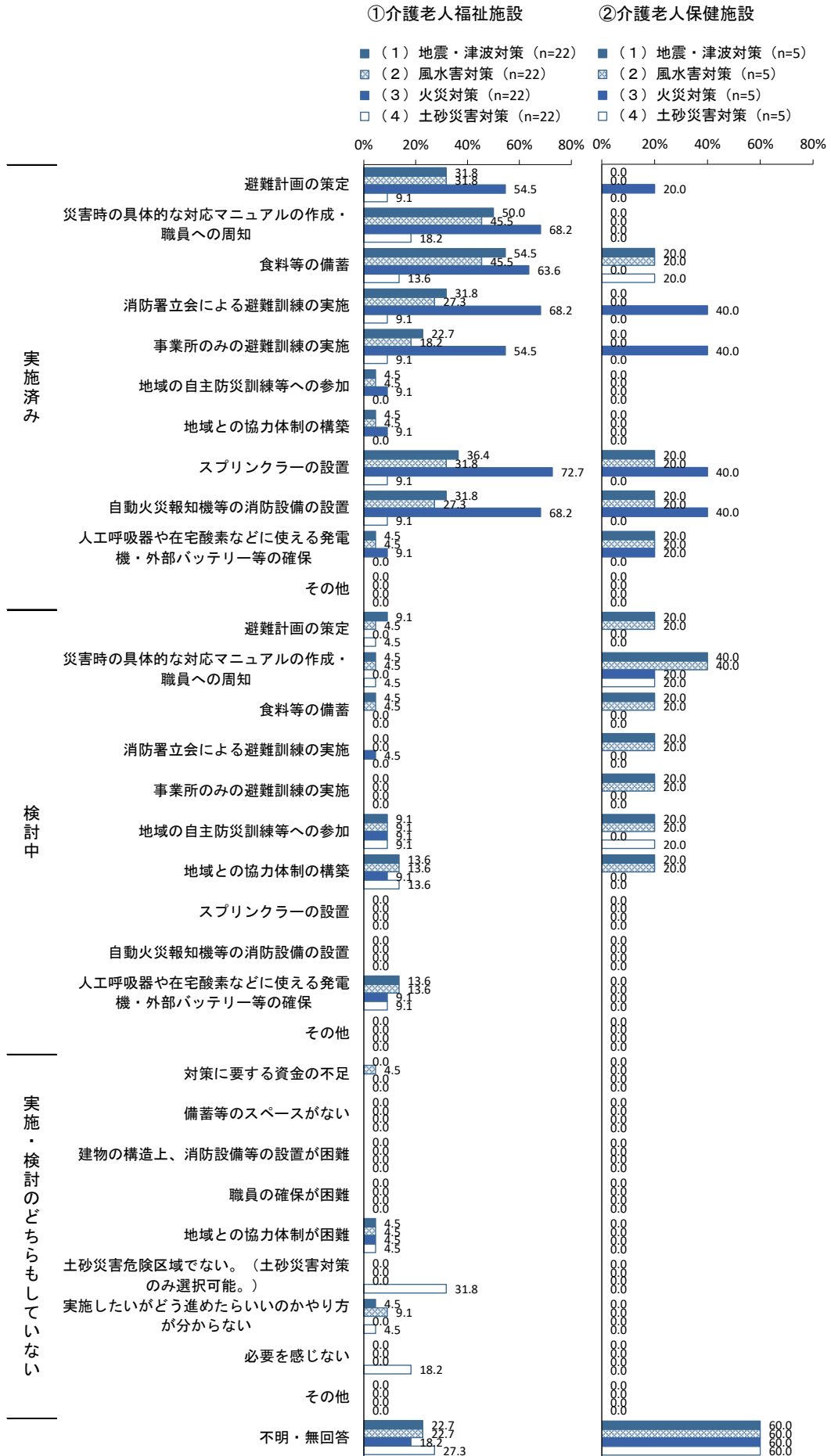
図表 5-2-7 災害対策の実施状況 地域密着型サービス③

⑤地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 ⑥看護小規模多機能型居宅介護

■ (1) 地震・津波対策 (n=7) ■ (1) 地震・津波対策 (n=3)  
 □ (2) 風水害対策 (n=7) □ (2) 風水害対策 (n=3)  
 ■ (3) 火災対策 (n=7) ■ (3) 火災対策 (n=3)  
 □ (4) 土砂災害対策 (n=7) □ (4) 土砂災害対策 (n=3)

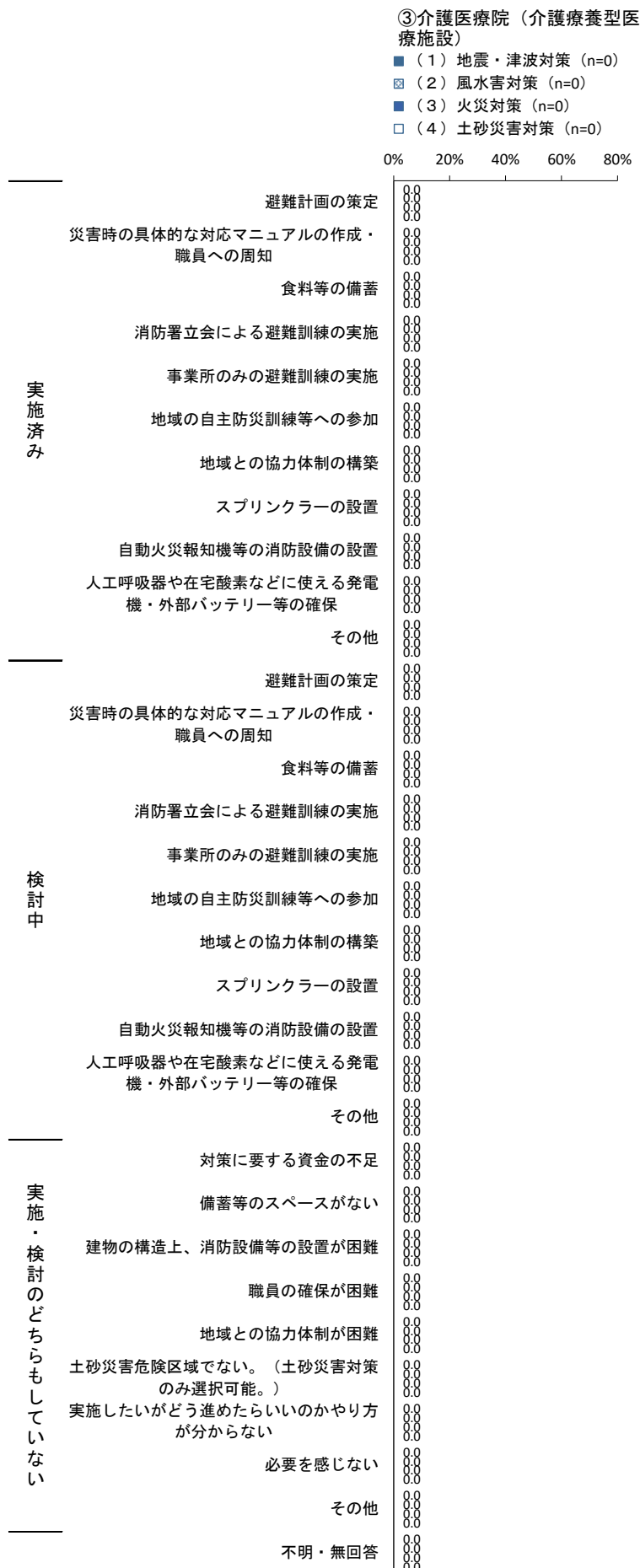


図表 5-2-8 災害対策の実施状況 施設サービス①





図表 5-2-9 災害対策の実施状況 施設サービス②

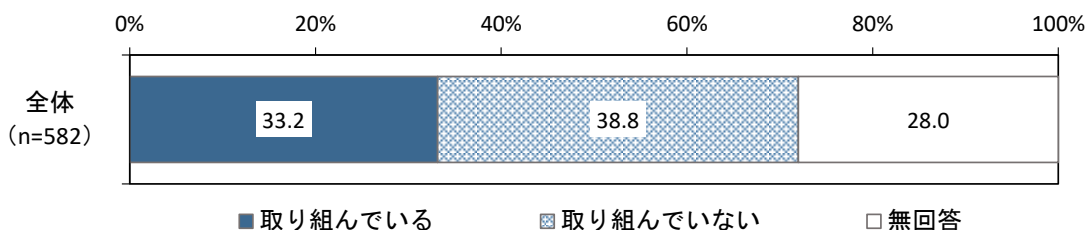


### 3. 介護者支援について

問 19 介護者支援について何か取り組んでいますか。(〇はひとつ)

介護者支援について取り組んでいるかについては、「取り組んでいる」が33.2%、「取り組んでいない」が38.8%となっています。

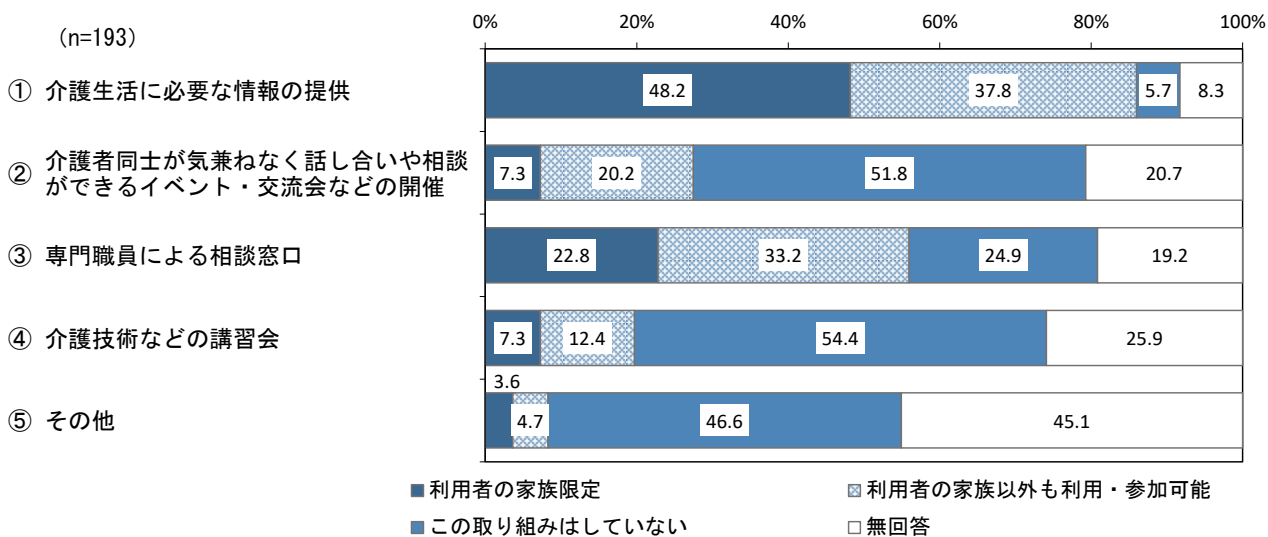
図表 5-3-1 介護者支援について取り組んでいるか



問 19-1 【問 19 で「取り組んでいる」を回答した法人】  
 介護者支援の内容と対象者について下記の①～⑤の項目ごとに、あてはまるものに〇をつけてください。(それぞれ〇はひとつ)

介護者支援の取組状況について、「①介護生活に必要な情報の提供」では、「利用者の家族限定」が48.2%で最も高く、「②介護者同士が気兼ねなく話し合いや相談ができるイベント・交流会などの開催」では、「この取り組みはしていない」が51.8%で最も高く、「③専門職員による相談窓口」では、「利用者の家族以外も利用・参加可能」が33.2%で最も高く、「④介護技術などの講習会」では、「この取り組みはしていない」が54.4%で最も高くなっています。

図表 5-3-2 介護者支援の取組状況



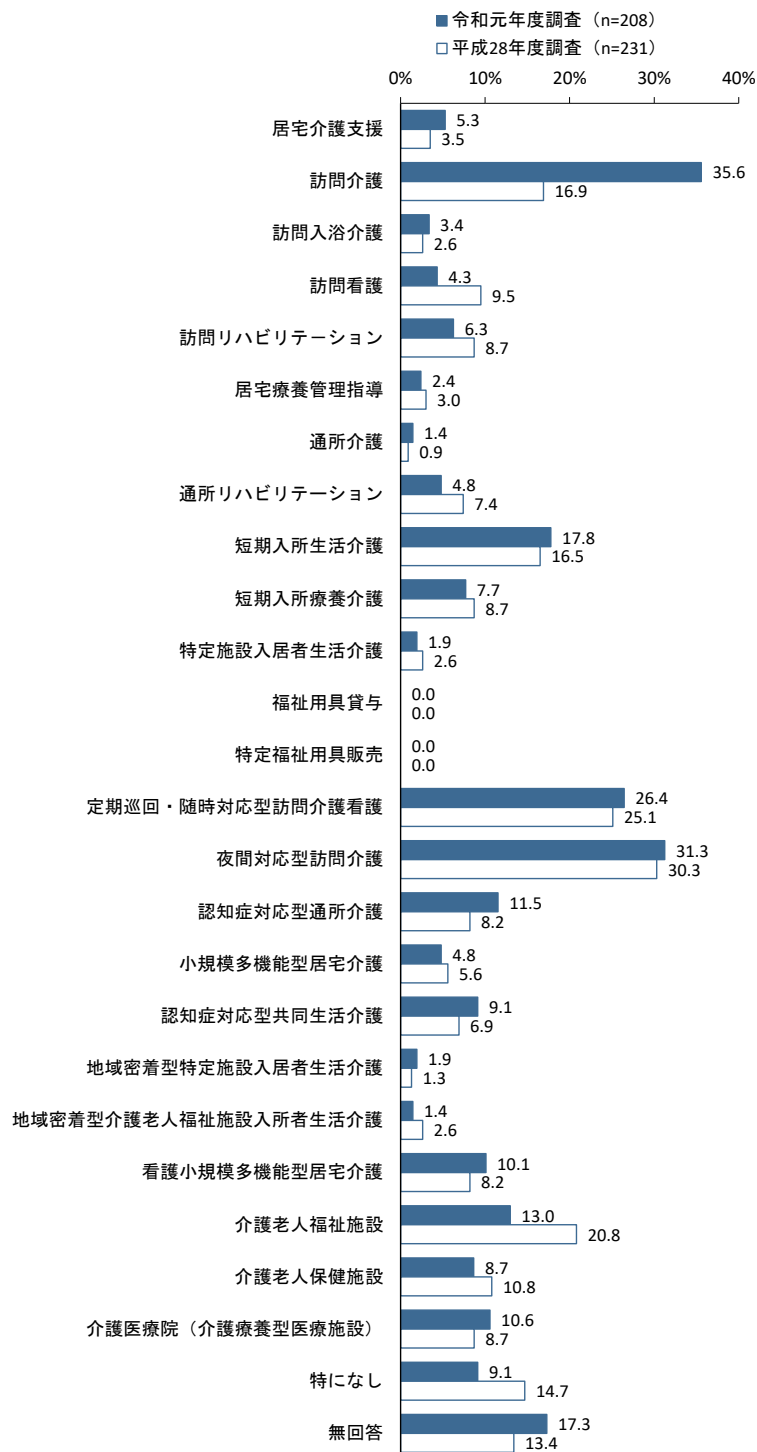
#### 4. 居宅介護支援事業所

問 20	貴法人から見て、堺市の要介護者（要介護1～5）にとって不足していると感じるサービスは何ですか。（〇はいくつでも）
------	--

堺市の要介護者にとって不足していると感じるサービスについては、「訪問介護」が 35.6%で最も高く、次いで「夜間対応型訪問介護」が 31.3%、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が 26.4%と続いています。

平成 28 年度調査と比較すると、「訪問介護」(35.6%) では、平成 28 年度調査 (16.9%) より 18.7 ポイント高く、最も増加した項目となっています。

図表 5-4-1 堺市の要介護者にとって不足していると感じるサービス

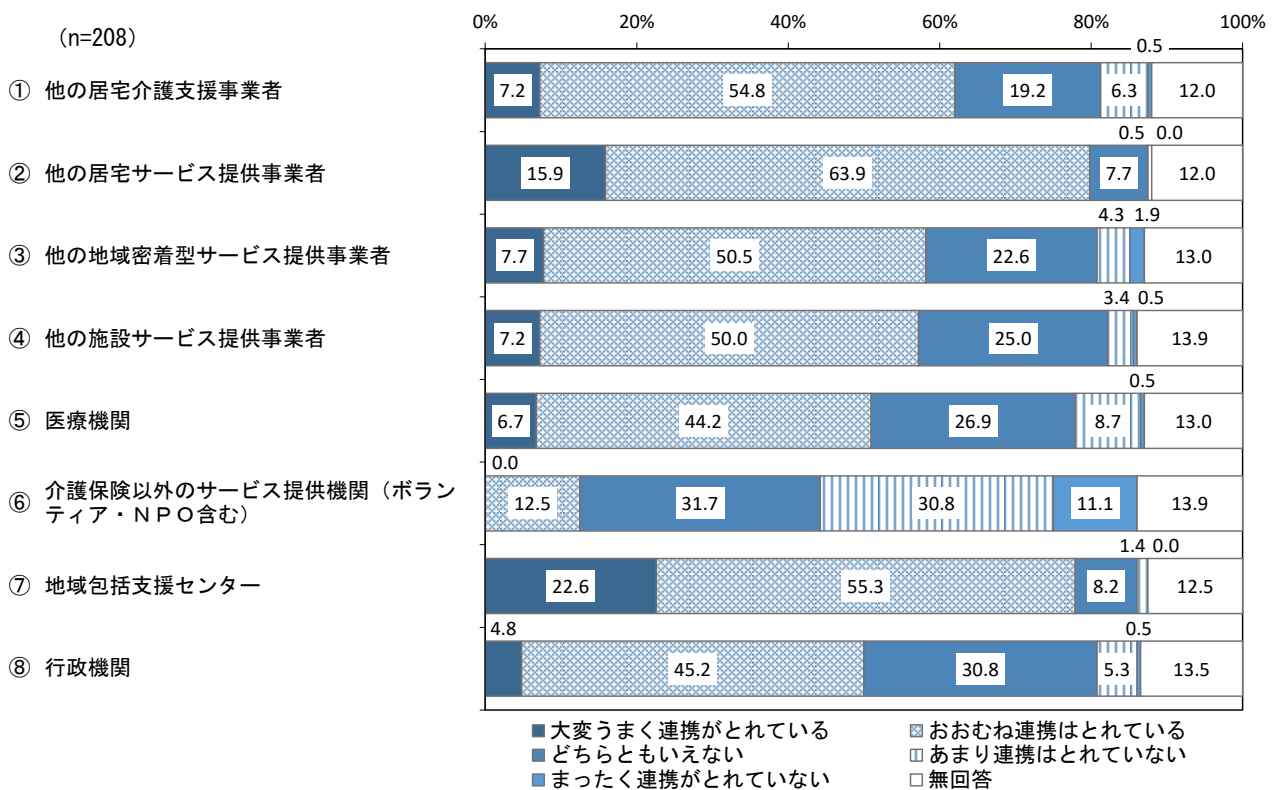


問 21	サービスを実施するにあたって、外部の諸機関との連携はどの程度とれていますか。下記の①～⑧の項目ごとに、あてはまるものに○をつけてください。 (それぞれ○はひとつ)
------	--

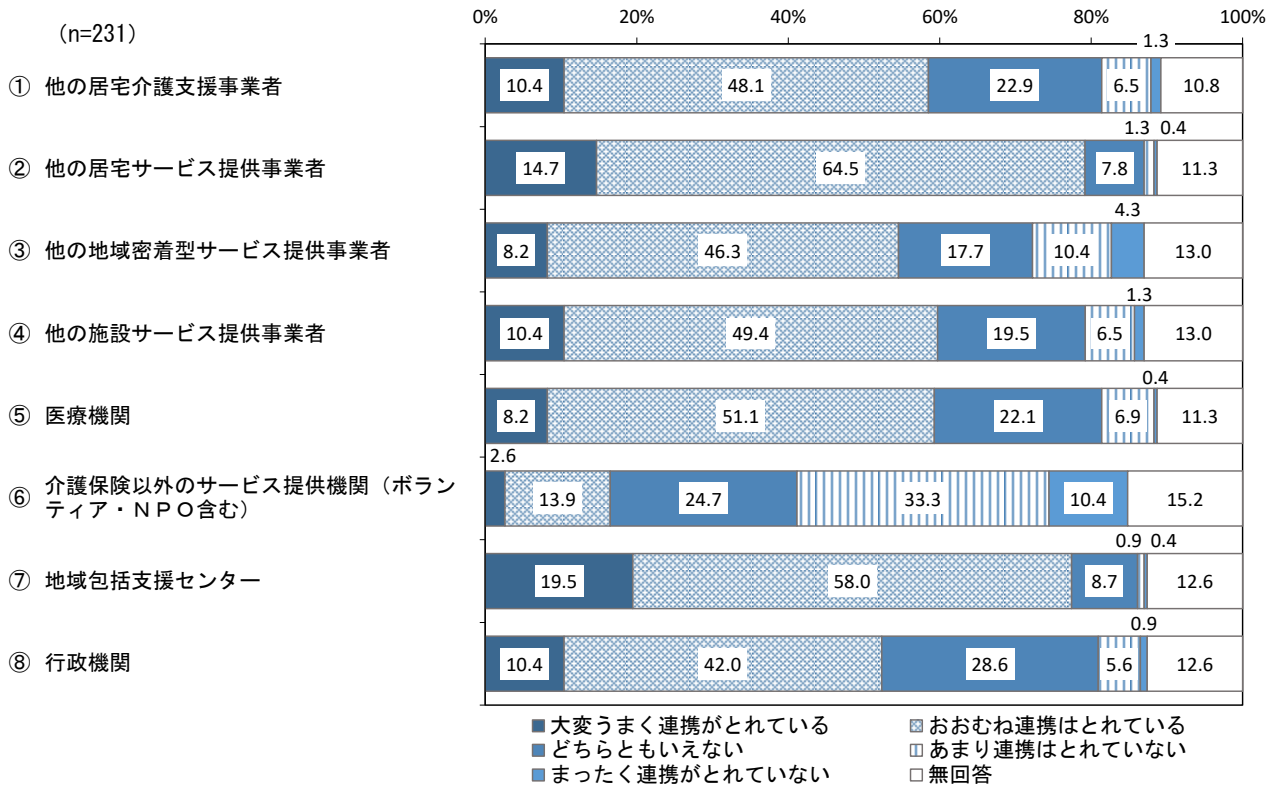
外部の諸機関との連携状況について、『連携はとれている』（「大変うまく連携がとれている」と「おおむね連携はとれている」の合計）では、「⑦地域包括支援センター」が77.9%で最も高く、次いで「②他の居宅サービス提供事業者」が79.8%、「①他の居宅介護支援事業者」が62.0%と続いており、『連携はとれていない』（「あまり連携はとれていない」と「まったく連携がとれていない」の合計）では、「⑥介護保険以外のサービス提供機関（ボランティア・NPO含む）」が41.9%で最も高くなっています。

平成28年度調査と比較すると、『連携はとれている』では、「③他の地域密着型サービス提供事業者」が58.2%で、平成28年度調査（54.5%）より3.7ポイント高く、最も増加した項目となっており、『連携はとれていない』では、「医療機関」が9.2%で、平成28年度調査（7.3%）より1.9ポイント高く、最も増加した項目となっています。

図表 5-4-2 外部の諸機関との連携状況



図表 5-4-3 外部の諸機関との連携状況 平成 28 年度調査

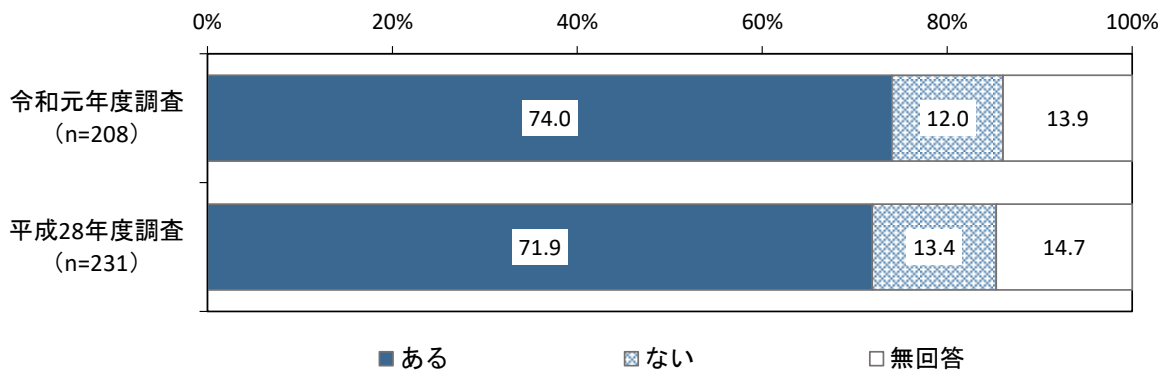


問 22 困難ケースなどについて地域包括支援センターへ相談したことはありますか。  
(〇はひとつ)

困難ケース等で地域包括支援センターへ相談したことはあるかについては、「ある」が 74.0%、「ない」が 12.0%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「ある」(74.0%)では、平成 28 年度調査(71.9%)より 2.1 ポイント高くなっています。

図表 5-4-4 困難ケース等で地域包括支援センターへ相談したことはあるか

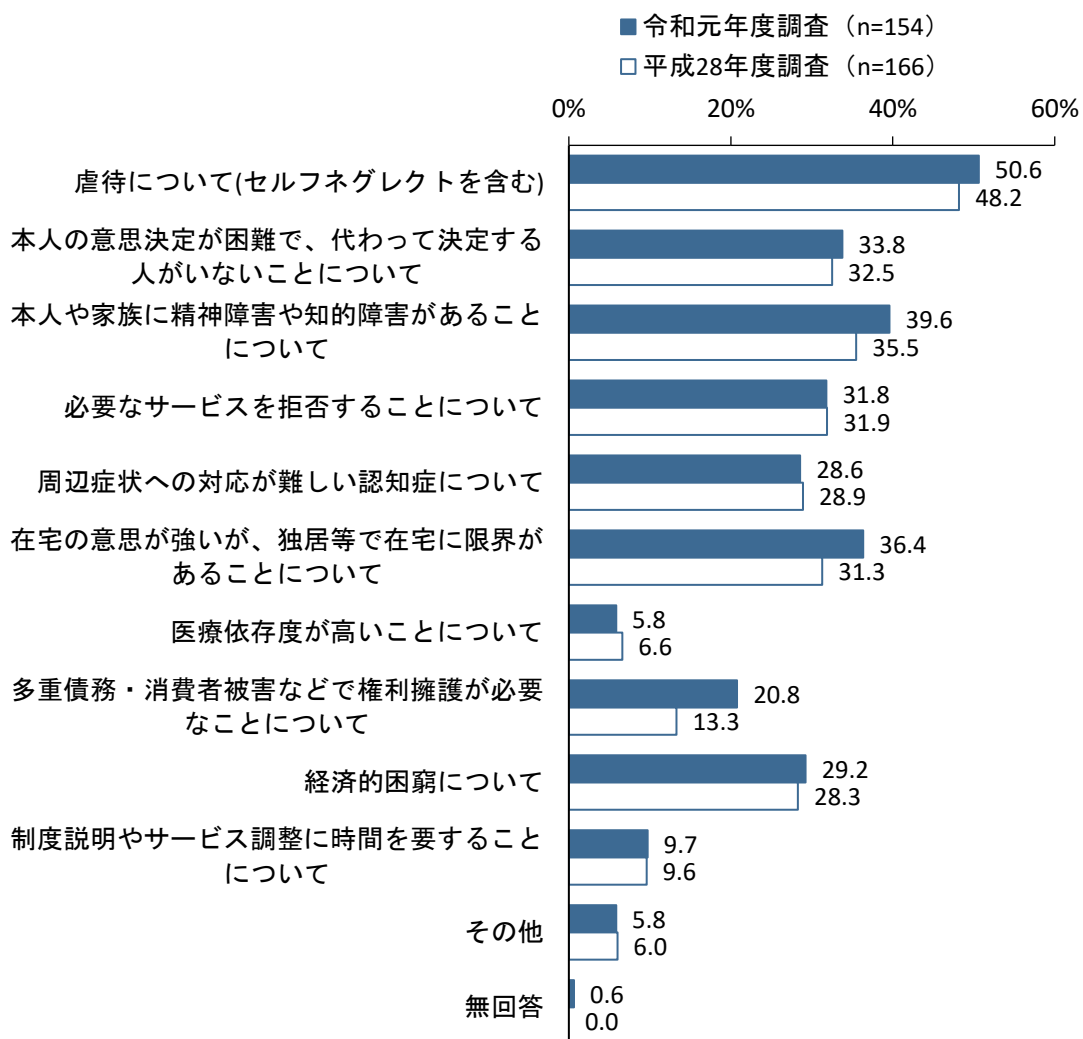


問 22-1	【問 22 で「ある」を回答した法人】 地域包括支援センターに相談した内容について、あてはまるものに○を付けてください。(○はいくつでも)
--------	--

地域包括支援センターに相談した内容については、「虐待について(セルフネグレクトを含む)」が50.6%で最も高く、次いで「本人や家族に精神障害や知的障害があることについて」が39.6%、「在宅の意思が強いが、独居等で在宅に限界があることについて」が36.4%と続いています。

平成28年度調査と比較すると、「多重債務・消費者被害などで権利擁護が必要なことについて」(20.8%)では、平成28年度調査(13.3%)より7.5ポイント高く、最も増加した項目となっています。

図表 5-4-5 地域包括支援センターに相談した内容

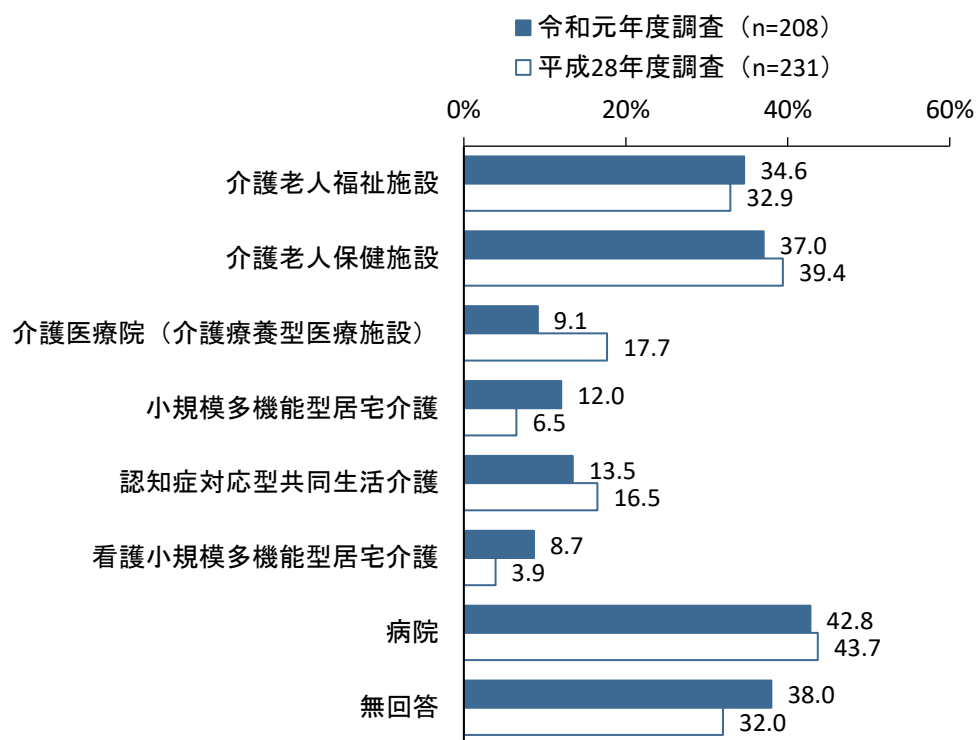


問 23	居宅介護支援事業所の利用者に対し、下記のサービスに引き継いだ事例はありますか。ある場合は、( ) 内に平成31年4月1日から現在(令和2年1月1日)までの件数を記入してください。
------	---

居宅介護支援事業所の利用者に対し、他のサービスに引き継いだ事例については、「病院」が42.8%で最も高く、次いで「介護老人保健施設」が37.0%、「介護老人福祉施設」が32.9%と続いています。

平成28年度調査と比較すると、「小規模多機能型居宅介護」(12.0%)では、平成28年度調査(6.5%)よりも5.5ポイント高く、最も増加した項目となっています。

図表 5-4-6 居宅介護支援事業所の利用者に対し、他のサービスに引き継いだ事例

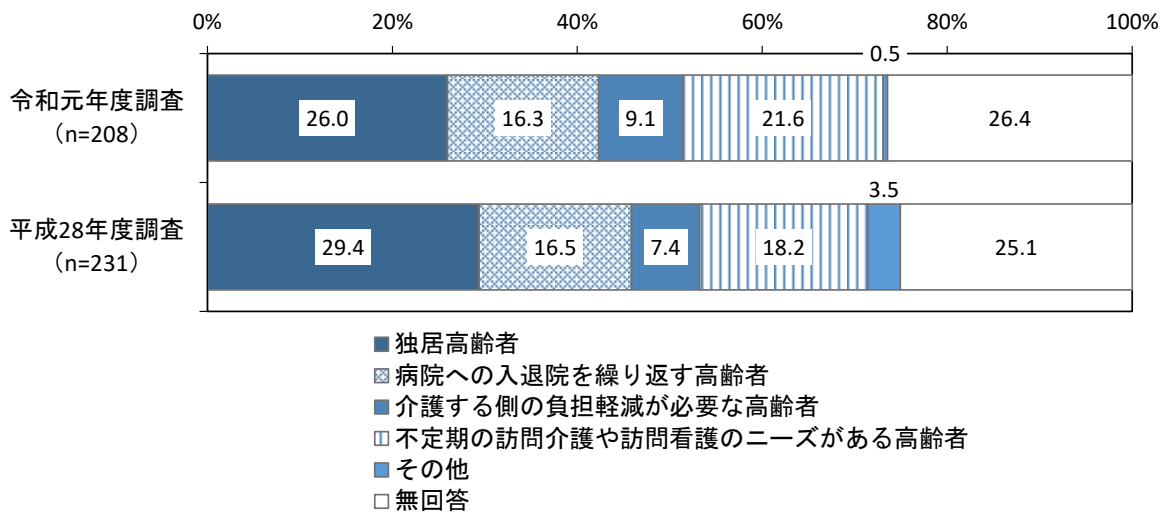


問 24	定期巡回・随時対応型訪問介護看護のサービスが最も有効な方はどのような方だと思いますか。(〇はひとつ)
------	--

定期巡回・随時対応型訪問介護看護が最も有効な人とはどのような人かについては、「独居高齢者」が26.0%で最も高く、次いで「不定期の訪問介護や訪問看護のニーズがある高齢者」が21.6%、「病院への入退院を繰り返す高齢者」が16.3%と続いています。

平成28年度調査と比較すると、「不定期の訪問介護や訪問看護のニーズがある高齢者」(21.6%)では、平成28年度調査(18.2%)より3.4ポイント高く、最も増加した項目となっています。

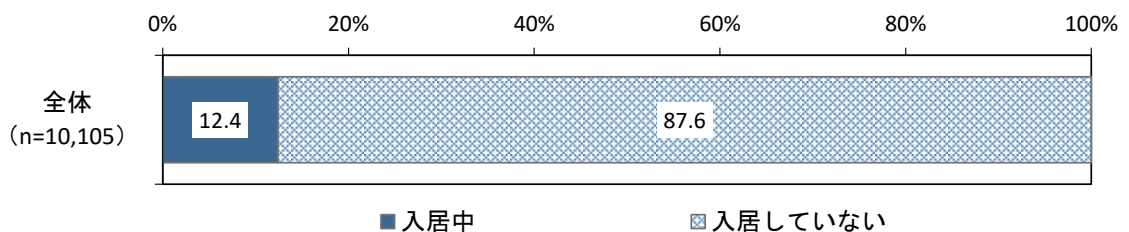
図表 5-4-7 定期巡回・随時対応型訪問介護看護が最も有効な人とはどのような人か



問 25	現在(令和2年1月1日)の居宅介護支援事業所の担当件数を記入してください。そのうち、有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅に入居されている方の件数を記入してください。
------	--

居宅介護支援事業所の担当件数のうち、有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅に入居されている人の割合については、12.4%となっています。

図表 5-4-8 居宅介護支援事業所の担当件数のうち、有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅に入居されている人の割合

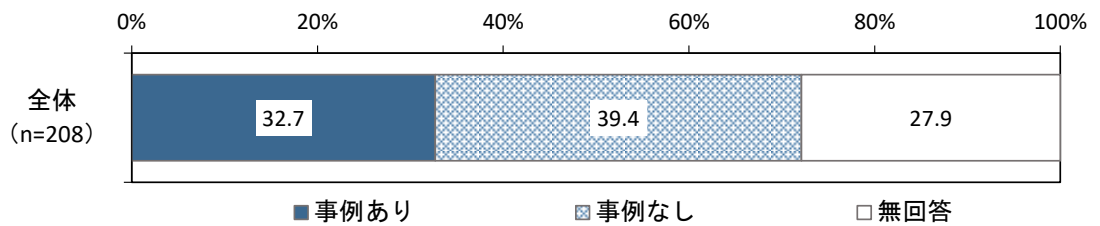




問 26	担当していた利用者が有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅への入居にあたり、自事業所のサービス提供地域内にも関わらず、他の居宅介護支援事業所に引き継いだ事例はありますか。ある場合は、( )内に平成31年4月1日から現在(令和2年1月1日)までの件数を記入してください。
------	---

有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅への入居にあたり、自事業所のサービス提供地域内にも関わらず、他の居宅介護支援事業所に引き継いだ事例がある事業所の割合については、32.7%となっています。

図表 5-4-9 有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅への入居にあたり、自事業所のサービス提供地域内にも関わらず、他の居宅介護支援事業所に引き継いだ事例がある事業所の割合

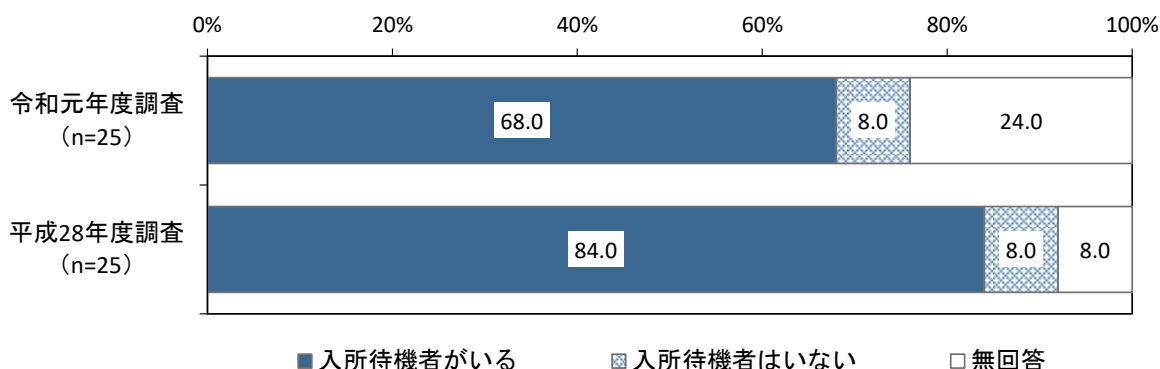


## 5. 施設サービス

問 27	施設に入所待機者はいますか。(〇はひとつ)
------	-----------------------

入所待機者はいるかについては、「入所待機者がいる」が 68.0%、「入所待機者はいない」が 8.0%となっています。

図表 5-5-1 入所待機者はいるか

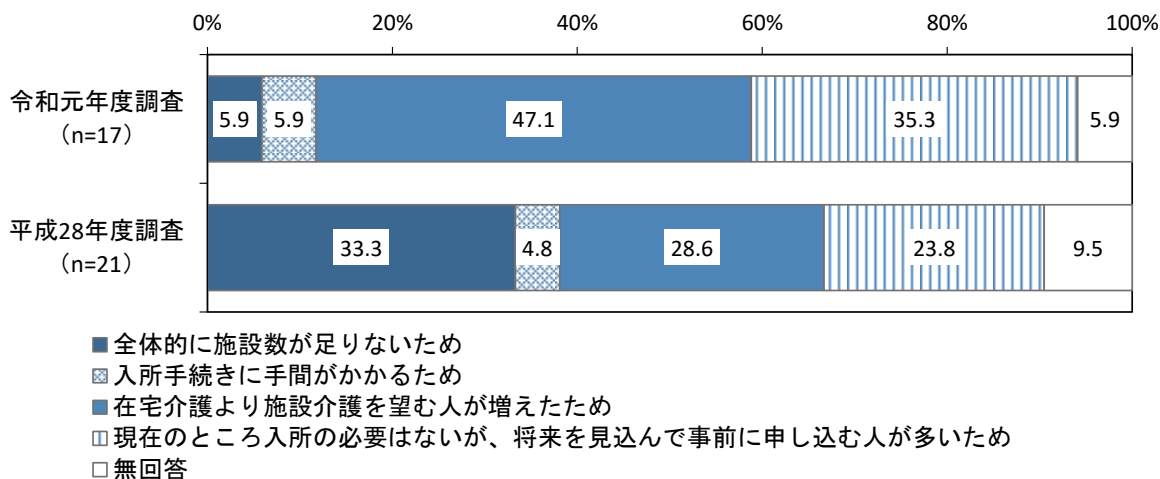


問 27-1	【問 27 で「入所待機者がいる」と回答した法人】 施設に入所待機者がいる状況について、考えられる主な要因は何だと思えますか。(〇はひとつ)
--------	---

入所待機者がいる状況の主な要因については、「在宅介護より施設介護を望む人が増えたため」が 47.1%で最も高く、次いで「現在のところ入所の必要はないが、将来を見込んで事前に申し込む人が多いため」が 35.3%、「全体的に施設数が足りないため」「入所手続きに手間がかかるため」がいずれも 5.9%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「在宅介護より施設介護を望む人が増えたため」(47.1%)では、平成 28 年度調査 (28.6%) よりも 18.5 ポイント高く、最も増加した項目となっています。

図表 5-5-2 入所待機者がいる状況の主な要因

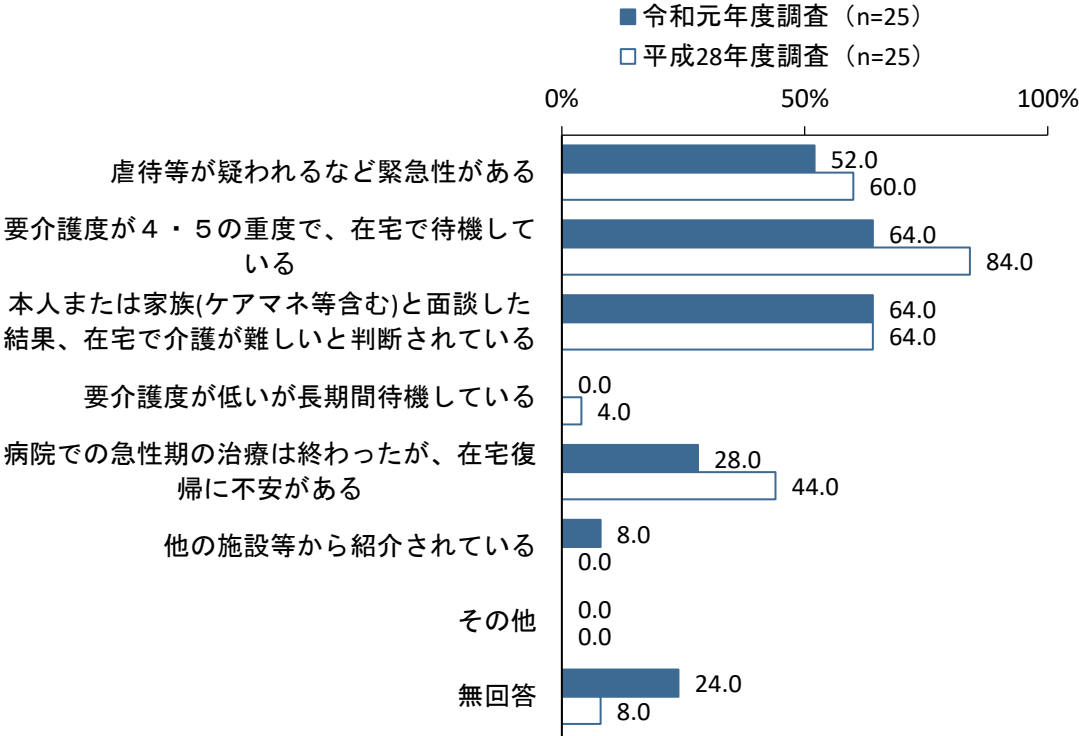


問 28	施設への入所を決定するにあたり、特に入所判定委員会等で重点をおいていることは何ですか。(〇は3つまで)
------	---

入所決定にあたり、入所判定委員会等で重点をおいていることについては、「要介護度が4・5の重度で、在宅で待機している」「本人または家族(ケアマネ等含む)と面談した結果、在宅で介護が難しいと判断されている」がいずれも64.0%で最も高く、次いで「虐待等が疑われるなど緊急性がある」が52.0%と続いています。

平成28年度調査と比較すると、「他の施設等から紹介されている」(8.0%)では、平成28年度調査(0.0%)より8.0ポイント高く、最も増加した項目となっています。

図表 5-5-3 入所決定にあたり、入所判定委員会等で重点をおいていること



## VI. 調査票

### 1. 一般高齢者・要支援認定者調査

番号記載場所

#### 堺市高齢者等実態調査 ご協力をお願い

日頃から、堺市の福祉施策の推進にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。  
このたび、市内在住の介護保険の認定を受けていない65歳以上の方及び要支援1、要支援2の認定を受けている65歳以上の方9,400名を無作為に抽出させていただき、「実態調査」を実施することになりました。

この調査は、高齢者の方々の生活状況や保健・福祉に関する率直なご意見、ご要望などをおうかがいして、今後の高齢者保健福祉行政のより一層の計画的かつ効果的な推進と次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のために役立たせていただくものです。また、必要に応じて、追加の調査をお願いすることがあります。

ご多忙の折、誠に恐縮でございますが、調査の趣旨をご理解いただきまして、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

#### 回答に当たってのお願い

- 1 このアンケートは、ご本人が記入してください。もし、ご本人が記入できない場合は、ご家族等が本人の立場に立って記入していただいても構いません。
- 2 アンケートに記入する際は、各項目で該当する数字に○をつけてください。設問によって、「○はひとつ」「○は3つまで」「○はいくつでも」など、○をつける数が異なりますので、ご注意ください。  
なお、「その他」を選択された場合は、( )内に具体的な内容を記入してください。
- 3 ご回答は、令和元年12月1日現在の状況を記入してください。
- 4 アンケートの記入はお答えできる範囲で結構です。途中まででも結構ですので、ご返送くださいますようお願い申し上げます。
- 5 ご回答いただきましたアンケートは、**12月27日(金)**までに同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに無記名でご投函ください。封筒のあて先へ直接お持ちいただいても結構です。
- 6 アンケートの記入等にあたって、ご支援が必要であったり、お困りごとがあったりする場合は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

#### 【アンケートについてのお問い合わせ先】

堺市 健康福祉局 長寿社会部 長寿支援課

電話072-228-8347

※お問い合わせ時間：平日の午前9時から午後5時30分まで

**■まずはじめに、記入日や調査対象者の方などについてお教えてください。**

記 入 日	令和 年 月 日
調査対象となる方（あて名に記載されている方）の氏名をご記入ください。	
対 象 者 氏 名	
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。	
1. ご本人が記入 2. ご家族が記入 （ご本人からみた続柄 ） 3. その他	

**※ 個人情報の取り扱いについて**

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

**【個人情報の保護および活用目的について】**

- この調査は、次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のため、また、効果的な介護予防等の政策立案と効果評価のために行うものです。
- この調査で得られた統計データについては、必要に応じて、個人情報が特定できない形で厚生労働省等に提供することがあります。
- 当該調査により得られた個人情報については、堺市個人情報保護条例に基づき、適切に利用、保存、廃棄いたします。

問1 あなたのご家族や生活状況について		
(1) 家族構成をお教えてください (○はひとつ)		
1. 1人暮らし	2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	
3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	4. 息子・娘との2世帯	
5. その他		
(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか (○はひとつ)		
1. 介護・介助は必要ない    2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない		
3. 現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)		
(3) 日頃から診療や相談ができるかかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいますか (○はいくつでも)		
1. かかりつけ医師	2. かかりつけ歯科医師	
3. かかりつけ薬局(薬剤師)	4. いない	
(4) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (○はひとつ)		
1. 大変苦しい	2. やや苦しい	3. ふつう
4. ややゆとりがある	5. 大変ゆとりがある	

## 問2 住まいについて

### (1) 現在のお住まいをお教えてください (〇はひとつ)

1. 持ち家 (一戸建て)
2. 持ち家 (マンションなど)
3. 借家 (一戸建て)
4. 借家 (マンション・アパートなど)
5. 軽費老人ホーム (ケアハウス) ※1・養護老人ホーム※2
6. 有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅※3
7. その他 ( )

※1 軽費老人ホーム (ケアハウス) : 家庭環境、住宅事情などの理由で、自宅において生活することが困難であったり、身体機能の低下等により自立して生活するのに不安があったりする高齢者が、所得に応じた負担で入居できる施設

※2 養護老人ホーム : 環境上の問題があり、かつ経済的に困窮している高齢者で、自宅において生活することが困難な方が入所できる施設

※3 有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅 : 危険や不便が少ない構造で、食事などの日常生活に必要なサービスを受けることができる入居施設

### (2) 将来どのような住宅 (施設) で暮らしたいですか (〇はひとつ)

1. 現在の住宅に住み続けたい
2. 近隣でなくてもいいので、特別養護老人ホームなど、要介護認定者向けの介護保険施設に入所したい
3. 近隣の住み慣れた地域で、比較的小規模な特別養護老人ホームや認知症の人向けのグループホーム※1などに入所したい
4. 軽費老人ホーム (ケアハウス) ※2や養護老人ホーム※3など、低所得者向けの老人福祉施設に入所したい
5. 高齢者に配慮された有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅※4に住みたい
6. その他 ( )

※1 グループホーム : 認知症で介護を必要とする方が共同生活をする住居で、日常生活の世話や機能訓練などを行う、介護保険のサービス

※2 軽費老人ホーム (ケアハウス) : 家庭環境、住宅事情などの理由で、自宅において生活することが困難であったり、身体機能の低下等により自立して生活するのに不安があったりする高齢者が、所得に応じた負担で入居できる施設

※3 養護老人ホーム : 環境上の問題があり、かつ経済的に困窮している高齢者で、自宅において生活することが困難な方が入所できる施設

※4 有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅 : 危険や不便が少ない構造で、食事などの日常生活に必要なサービスを受けることができる入居施設

(3) 高齢者向けの住宅などに住み替えたり、介護保険施設に入所することになったら、希望する場所はどこですか (○はひとつ)	
1. 自宅の近く	2. だいたい小学校区の範囲
3. だいたい中学校区の範囲	4. 各区内 (堺区、中区など)
5. 市内	6. 他の市町
7. 場所は問わない	

<b>問3</b> からだを動かすことについて
(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか (○はひとつ)
1. できるし、している      2. できるけどしていない      3. できない
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (○はひとつ)
1. できるし、している      2. できるけどしていない      3. できない
(3) 15分位続けて歩いていますか (○はひとつ)
1. できるし、している      2. できるけどしていない      3. できない
(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか (○はひとつ)
1. 何度もある                  2. 1度ある                  3. ない
(5) 転倒に対する不安は大きいですか (○はひとつ)
1. とても不安である      2. やや不安である      3. あまり不安でない      4. 不安でない
(6) 週に1回以上は外出していますか (○はひとつ)
1. ほとんど外出しない      2. 週1回                  3. 週2~4回                  4. 週5回以上



(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか (○はひとつ)	
1. とても減っている	2. 減っている
3. あまり減っていない	4. 減っていない

<b>問4</b> 食べることについて
(1) 身長・体重 (数字を記入) ※おおよその数値で結構です。
身長 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> cm                      体重 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> kg
(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (○はひとつ)
1. はい    2. いいえ
(3) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください (○はひとつ) (成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です)
1. 自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用      2. 自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし
3. 自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用      4. 自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし
(4) どなたかと食事をとにもする機会がありますか (○はひとつ)
1. 毎日ある                      2. 週に何度かある                      3. 月に何度かある
4. 年に何度かある                      5. ほとんどない
(5) 主食・主菜・副菜をそろえた食事を毎日していますか (○はひとつ)
1. ほぼ毎日 3 食そろえている                      2. ほぼ毎日 2 食はそろえている
3. ほぼ毎日 1 食はそろえている                      4. 週の半分ぐらいはそろえている
5. ほとんどできていない

(6) 口や顔の体操に毎日取り組んでいますか (○はひとつ)	
1. ほぼ毎日3回以上取り組んでいる	2. ほぼ毎日2回は取り組んでいる
3. ほぼ毎日1回は取り組んでいる	4. 週の半分ぐらいは取り組んでいる
5. ほとんど取り組んでいない	

<b>問5</b>	<b>毎日の生活について</b>	
(1) 物忘れが多いと感じますか (○はひとつ)		
1. はい	2. いいえ	
(2) バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可) (○はひとつ)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(3) 自分で食品・日用品の買物をしていますか (○はひとつ)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(4) 自分で食事の用意をしていますか (○はひとつ)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(5) 自分で請求書の支払いをしていますか (○はひとつ)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(6) 自分で預貯金の出し入れをしていますか (○はひとつ)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(7) 年金などの書類 (役所や病院などに出す書類) が書けますか (○はひとつ)		
1. はい	2. いいえ	

<b>(8) ほかの人より物忘れが多いと思いますか (○はひとつ)</b>		
1. はい	2. いいえ	
<b>(9) 日常生活に関する情報をどこから得ていますか (○はいくつでも)</b>		
1. インターネット・携帯電話	2. 家族	3. 雑誌
4. 新聞 (タウン紙を含む)	5. チラシ・折込・ダイレクトメール等	
6. テレビ	7. 友人・隣人	8. ラジオ
9. 市の広報	10. その他の広報や回覧板	
11. その他 ( )	12. 特にない	
<b>(10) 将来、自動車などの運転免許を自主返納するつもりはありますか (○はひとつ)</b>		
1. 近いうちに自主返納するつもり	2. 将来的には自主返納するつもり	
3. 自主返納するつもりはない	4. 既に自主返納した	
5. もともと運転免許を持っていない	6. わからない	
<b>【(10) において「3. 自主返納するつもりはない」を回答した方のみ】</b>		
<b>(11) 自主返納しようとは思わない理由は何ですか (○はいくつでも)</b>		
1. 公共交通機関 (鉄道、バス) が使いにくい地域に住んでいるから		
2. 送迎などで協力を得ることができる家族や友人がいないから		
3. 車などを運転する楽しみが失われるから		
4. 事故を起こさない自信があるから		
5. その他 ( )		

## 問6 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか（老人クラブ・町内会・自治会の活動をのぞきます）※① - ⑧それぞれに回答してください（○はそれぞれひとつずつ）

	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない
① ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
② スポーツ関係のグループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③ 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④ 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤ いきいきサロンや体操など介護予防のための通いの場	1	2	3	4	5	6
⑥ 老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦ 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧ 収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか（○はひとつ）

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1. 是非参加したい | 2. 参加してもよい  |
| 3. 参加したくない | 4. 既に参加している |

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（○はひとつ）

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1. 是非参加したい | 2. 参加してもよい  |
| 3. 参加したくない | 4. 既に参加している |

<b>問7 たすけあいについて</b> あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします		
<b>(1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（〇はいくつでも）</b>		
1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人
7. その他（            ）	8. そのような人はいない	
<b>(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（〇はいくつでも）</b>		
1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人
7. その他（            ）	8. そのような人はいない	
<b>(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（〇はいくつでも）</b>		
1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人
7. その他（            ）	8. そのような人はいない	
<b>(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人（〇はいくつでも）</b>		
1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人
7. その他（            ）	8. そのような人はいない	

<b>(5) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか (〇はいくつでも)</b>	
1. 近所・同じ地域の人	2. 幼なじみ
3. 学生時代の友人	4. 仕事での同僚・元同僚
5. 趣味・関心が同じ友人	6. ボランティア等の活動での友人
7. その他	8. いない
<b>(6) ふだん、近所の人とどの程度のつきあいをしていますか (〇はひとつ)</b>	
1. 親しくつきあっている	
2. あいさつ以外にも多少のつきあいがある (相手の名前や家族構成を知っていたり、物の貸し借りや趣味を共有しているなど)	
3. あいさつをする程度	
4. つきあいはほとんどない	
5. わからない	
<b>(7) 孤立死 (誰にも看取られることなく、亡くなった後に発見される死) について、身近に感じますか (〇はひとつ)</b>	
1. とても感じる	2. まあ感じる
3. あまり感じない	4. まったく感じない
5. わからない	
<b>(8) 災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができますか (〇はひとつ)</b>	
1. できる	
2. 普段から近所づきあいがあまりないため、できない	
3. 近所の人を全く知らないため、できない	
4. その他 (            )	5. わからない



(4) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか (○はひとつ)		
1. はい	2. いいえ	
(5) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか (○はひとつ)		
1. はい	2. いいえ	
(6) (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない (○はひとつ)		
1. はい	2. いいえ	
(7) (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった (○はひとつ)		
1. はい	2. いいえ	
(8) (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる (○はひとつ)		
1. はい	2. いいえ	
(9) (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない (○はひとつ)		
1. はい	2. いいえ	
(10) (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする (○はひとつ)		
1. はい	2. いいえ	
(11) タバコは吸っていますか (○はひとつ)		
1. ほぼ毎日吸っている	2. 時々吸っている	3. 吸っていたがやめた
4. もともと吸っていない		



(12) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (○はいくつでも)

- |                      |                          |                   |
|----------------------|--------------------------|-------------------|
| 1. ない                | 2. 高血圧                   | 3. 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等) |
| 4. 心臓病               | 5. 糖尿病                   | 6. 高脂血症 (脂質異常)    |
| 7. 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等) | 8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気          |                   |
| 9. 腎臓・前立腺の病気         | 10. 筋骨格の病気 (骨粗しょう症・関節症等) |                   |
| 11. 外傷 (転倒・骨折等)      | 12. がん (悪性新生物)           | 13. 血液・免疫の病気      |
| 14. うつ病              | 15. 認知症 (アルツハイマー病等)      | 16. パーキンソン病       |
| 17. 目の病気             | 18. 耳の病気                 | 19. その他 ( )       |

問9 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか (○はひとつ)

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

(2) あなた、もしくはあなたの家族が認知症になったら、不安に思うことはありますか (○はいくつでも)

- |                              |                         |
|------------------------------|-------------------------|
| 1. どの医者 (診療科) を受診すればいいかわからない |                         |
| 2. どのような介護サービスを受けられるのかわからない  |                         |
| 3. どこへ相談すればいいのかわからない         |                         |
| 4. 介護の仕方がわからない               | 5. 身近に介護できる人がいない        |
| 6. 火の不始末や徘徊 (はいかい) などの行動が心配  |                         |
| 7. 自由な時間がもてなくなる、外出できなくなる     |                         |
| 8. 精神的に疲れる                   | 9. 家庭内 (家族関係) がうまくいなくなる |
| 10. 治療や介護にお金がかかる             | 11. その他 ( )             |
| 12. わからない                    | 13. 不安はない               |

(3) 認知症に関する相談窓口を知っていますか (○はひとつ)

1. はい

2. いいえ

#### 問10 仕事について

(1) これから働き始めようとする (または引き続き働き続ける) 場合に、あなたが仕事に一番求めるものは何ですか (○はひとつ)

1. 収入を得ること

2. 社会・人の役に立つこと

3. 生きがい

4. 健康の維持

5. その他 (

)

6. 働くつもりはない

#### 問11 介護について

(1) 介護が必要になった場合、どのような介護を受けたいと思いますか (○はひとつ)

1. なるべく家族のみで、自宅で介護を受けたい

2. 介護保険サービス (ホームヘルパーやデイサービスなど) や保健福祉サービス (緊急通報サービスなど) を使いながら自宅で介護を受けたい

3. 介護保険サービスの付いた高齢者向けの住宅などで介護を受けたい

4. 特別養護老人ホームや介護老人保健施設などで介護を受けたい

5. 比較的小規模な特別養護老人ホームや認知症の人向けのグループホーム※などで介護を受けたい

6. その他 (

)

7. わからない

※ グループホーム：認知症で介護を必要とする方が共同生活をする住居で、日常生活の世話や機能訓練などを行う、介護保険のサービス



(5) 現行の介護保険制度は、サービスを利用する人が増えたり、一人ひとりの利用するサービスの量が増えることによって介護保険料が上昇する仕組みとなっています。堺市の今後の介護保険料について、あなたのお考えに近いのは次のどれですか (〇はひとつ)

1. 高齢化が進み、介護保険サービスを利用する人や利用量は増えていくだろうから、介護保険料が上昇するのは仕方がない
2. 介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない
3. 現状以上に介護保険料が上昇するのは避けるべきであり、そのためには介護保険サービスが必要な人であっても、ある程度介護保険サービスの利用が制限されても仕方がない
4. わからない

(6) 家族を介護する人の介護疲れやストレスのケアをするためには、何が必要だと思いますか (〇は3つまで)

1. 周りの人の理解や協力
2. 介護生活に必要な情報の提供
3. 介護者同士が気兼ねなく話し合いや相談をする場
4. 介護者が息抜きできるイベント
5. ボランティアによる手助け
6. 専門職員による相談窓口
7. 介護に必要な技術を習得する機会
8. ショートステイ※などの介護保険サービスの活用
9. その他

※ ショートステイ：介護を必要とする方が介護老人福祉施設などに短期間入所して、日常生活上の世話や機能訓練を受けるサービス

## 問12 住み慣れた地域で暮らし続けることについて

(1) 高齢者ができる限り自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、どのようなことが必要だと思いますか (〇はいくつでも)

1. 気軽に相談できるかかりつけ医を持つこと
2. 入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること
3. 介護予防のための教室 (筋トレーニング・転倒予防・認知症予防)
4. 24時間対応してもらえる訪問介護サービス
5. 普段介護している人が介護できない時などに利用できる介護サービス
6. 日頃から健康づくりや生活習慣病予防に取り組むこと
7. 何でも相談できる高齢者の相談窓口
8. 地域の人々の見守りや助け合い
9. 生きがいつくりや地域貢献のための社会参加の機会
10. ボランティアやNPOなどによるさまざまな生活の支援
11. 体の状態に合わせた住宅への改修
12. 高齢者に配慮された多様な住まいや施設
13. 自分の将来について、家族などと話し合っておくこと
14. その他 ( )

(2) 地域包括支援センターは、高齢者の方々が住みなれた地域で安心して暮らしていけるよう、介護・福祉・健康などさまざまな面から総合的に相談や支援を行う機関です。地域包括支援センターの役割を知っていますか (〇はひとつ)

1. 知っている
2. 名前は聞いたことがあるが、役割までは知らない
3. 地域包括支援センターの存在を知らない



## 2. 在宅介護実態調査

番号記載場所

### 堺市高齢者等実態調査 ご協力をお願い

日頃から、堺市の福祉施策の推進にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。  
このたび、市内在住の要支援1～要介護5の認定を受けている在宅の65歳以上の方2,000名を無作為に抽出させていただき、「実態調査」を実施することになりました。  
この調査は、高齢者の方々の生活状況や保健・福祉に関する率直なご意見、ご要望などをおうかがいして、今後の高齢者保健福祉行政のより一層の計画的かつ効果的な推進と次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画のために役立たせていただくものです。

ご多忙の折、誠に恐縮でございますが、調査の趣旨をご理解いただきまして、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

#### 回答に当たってのお願い

- 1 このアンケートは、**問1から問25**まではご本人が、**問26から問44**までは**主な介護者の方が**記入してください。もし、ご本人が記入できない場合は、ご家族等が本人の立場に立って記入していただいても構いません。
- 2 アンケートに記入する際は、各項目で該当する数字に○をつけてください。設問によって、「○はひとつ」「○は3つまで」「○はいくつでも」など、○をつける数が異なりますので、ご注意ください。
- 3 ご回答は、令和元年12月1日現在の状況を記入してください。
- 4 アンケートの記入は**お答えできる範囲で結構です。途中まででも結構です**ので、**ご返送くださいますようお願い申し上げます**。
- 5 ご回答いただきましたアンケートは、**1月6日(月)**までに同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに無記名でご投函ください。封筒のあて先へ直接お持ちいただいても結構です。
- 6 アンケートの記入等にあたって、ご支援が必要であったり、お困りごとがあったりする場合は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

#### 【アンケートについてのお問い合わせ先】

堺市 健康福祉局 長寿社会部 長寿支援課

電話072-228-8347

※お問い合わせ時間：平日の午前9時から午後5時30分まで

■まずはじめに、記入日と調査対象者の方についてお教えてください。

記 入 日	令和 年 月 日
調査対象となる方（あて名に記載されている方）の氏名をご記入ください。	
対 象 者 氏 名	

※個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

【個人情報の保護および活用目的について】

- この調査は、次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のため、また、効果的な政策立案と効果評価のために行うものです。
- この調査で得られた統計データについては、必要に応じて、個人情報が特定できない形で厚生労働省等に提供することがあります。
- 当該調査により得られた個人情報については、堺市個人情報保護条例に基づき、適切に利用、保存、廃棄いたします。



調査対象者様ご本人について、お伺いします。

問1 現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか。(〇はいくつでも)

- |                  |                     |
|------------------|---------------------|
| 1. 調査対象者本人       | 2. 主な介護者となっている家族・親族 |
| 3. 主な介護者以外の家族・親族 | 4. その他              |

問2 (1) ご本人の世帯類型について、お教えてください。(〇はひとつ)

- |                     |   |          |
|---------------------|---|----------|
| 1. 単身世帯             | } | ※ 問3へ    |
| 2. 夫婦のみ世帯(配偶者65歳以上) |   |          |
| 3. 夫婦のみ世帯(配偶者64歳以下) | } | ※ 問2(2)へ |
| 4. その他              |   |          |

問2(1)で「2.」～「4.」と回答した方(ご家族などと同居されている方)にお伺いします。

問2(2) 日中、ご本人は一人になることがありますか。(〇はひとつ)

- |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 週に4～5日 | 3. 週に2～3日 |
| 4. 週に1日   | 5. ほとんどない |           |

※ここから再び、全員の方にお伺いします。

問3 ご本人の現在のお住まいをお教えてください。(〇はひとつ)

- |                            |
|----------------------------|
| 1. 持ち家(一戸建て)               |
| 2. 持ち家(マンションなど)            |
| 3. 借家(一戸建て)                |
| 4. 借家(マンション・アパートなど)        |
| 5. グループホーム(認知症対応型共同生活介護)※1 |
| 6. 軽費老人ホーム(ケアハウス)※2        |
| 7. 有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅※3 |
| 8. その他( )                  |

※1 グループホーム:認知症で介護を必要とする方が共同生活をする住居で、日常生活の世話や機能訓練などを行う、介護保険のサービス

※2 軽費老人ホーム(ケアハウス):家庭環境、住宅事情などの理由で、自宅において生活することが困難であったり、身体機能の低下等により自立して生活するのに不安があったりする高齢者が、所得に応じた負担で入居できる施設

※3 有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅:危険や不便が少ない構造で、食事などの日常生活に必要なサービスを受けることができる入居施設

問4 初めてご本人の要介護認定を申請した際、どなたから申請を勧められましたか。  
(○はひとつ)

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 1. 家族や親族      | 2. 友人・知人         |
| 3. 近所の人       | 4. 医療機関          |
| 5. 地域包括支援センター | 6. 民生委員などの地域の方   |
| 7. 介護サービス事業者  | 8. だれからも勧められていない |
| 9. その他 ( )    |                  |

問5 ご本人が初めて要介護認定が必要になった主な原因は何ですか。(○はひとつ)

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 脳卒中(脳出血・脳こうそく等)      | 2. 心臓病               |
| 3. がん(悪性新生物)            | 4. 呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)   |
| 5. 関節の病気(リウマチ、変形性膝関節症等) | 6. 認知症(アルツハイマー病等)    |
| 7. パーキンソン病              | 8. 糖尿病               |
| 9. 泌尿器の病気(膀胱炎、前立腺肥大症等)  | 10. 視覚・聴覚障害(白内障、難聴等) |
| 11. 骨折・転倒               | 12. 脊髄(せきずい)損傷       |
| 13. 高齢による衰弱             | 14. その他( )           |

問6 ご本人が、現在抱えている傷病について、お教えてください。(○はいくつでも)

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 脳卒中(脳出血・脳こうそく等)      | 2. 心臓病               |
| 3. がん(悪性新生物)            | 4. 呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)   |
| 5. 関節の病気(リウマチ、変形性膝関節症等) | 6. 認知症(アルツハイマー病等)    |
| 7. パーキンソン病              | 8. 糖尿病               |
| 9. 泌尿器の病気(膀胱炎、前立腺肥大症等)  | 10. 視覚・聴覚障害(白内障、難聴等) |
| 11. 骨折・転倒               | 12. 脊髄(せきずい)損傷       |
| 13. 高齢による衰弱             | 14. その他( )           |

ご本人の生活状況や健康についてお伺いします。

問7 ご本人は普段どのような食事をとっていますか。(○はいくつでも)

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 自宅で本人または家族が調理した食事                |
| 2. 家族が持ってきてくれる食事(家族が調理したかどうかは問いません) |
| 3. 店で売っている弁当、調理済食品                  |
| 4. 配食サービス                           |
| 5. ホームヘルパーが調理した食事                   |
| 6. その他 ( )                          |

問 8 ご本人のことで日頃から診療や相談ができるかかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいますか。(〇はいくつでも)

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 1. かかりつけ医師      | 2. かかりつけ歯科医師 |
| 3. かかりつけ薬局(薬剤師) | 4. いない       |

ケアマネジャーについてお伺いします。

問 9 (1) 担当のケアマネジャーの事業所を知ったきっかけは何ですか。(〇はひとつ)

- |                     |   |            |
|---------------------|---|------------|
| 1. 紹介された            | } | ※ 問9 (2) へ |
| 2. 自分または家族がさがして見つけた |   |            |
| 3. 以前から知っていた        | } | ※ 問10 へ    |
| 4. その他 ( )          |   |            |

問 9 (1) で「1. 紹介された」と回答した方にお伺いします。

問 9 (2) だれに紹介されましたか。(〇はひとつ)

- |               |              |         |
|---------------|--------------|---------|
| 1. 近所の人       | 2. 友人・知人     | 3. 医療機関 |
| 4. 地域包括支援センター | 5. 介護サービス事業者 |         |
| 6. その他 ( )    |              |         |

※ここから再び、全員の方にお伺いします。

問 10 担当のケアマネジャーの事業所を選んだ理由は何ですか。(〇はひとつ)

- |                            |
|----------------------------|
| 1. 地元(近所)の事業所だから           |
| 2. よい評判を聞いたから              |
| 3. 受けたい介護サービスを提供している事業所だから |
| 4. 紹介されたから                 |
| 5. その他 ( )                 |

問 11 担当のケアマネジャーにどのくらい満足していますか。  
 (①～⑥の項目について、それぞれ○はひとつ)

	1	2	3	4	5
	満足して いる	どちらか といえば 満足して いる	どちらか といえば 不満であ る	不満であ る	わからな い
① 介護や医療などの幅広い知識があり、 ケアプラン作成のときに、専門的なアド バイスをしてくれるか →	1	2	3	4	5
② いろいろなサービスや事業所の情報 を提供してくれるか →	1	2	3	4	5
③ ケアプランの説明のわかりやすさ →	1	2	3	4	5
④ 事業所に直接言いにくいことを聞いて くれ、かけあってくれるか →	1	2	3	4	5
⑤ 相談したいときや急な対応が必要な ときに応じてくれるか →	1	2	3	4	5
⑥ 態度やマナー（時間を守るなど） →	1	2	3	4	5
その他ケアマネジャーへの要望はありますか。 ( )					

サービスの利用状況についてお伺いします。

問 12 令和元年11月の1か月の間に、ご本人は（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介  
護保険サービスを利用しましたか。（○はひとつ）

1. 利用した ⇒ ※ 問 14 へ      2. 利用していない ⇒ ※ 問 13 へ

問 12 で「2. 利用していない」と回答した方にお伺いします。

問 13 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。（○はいくつでも）

1. 現状では、サービスを利用するほどの状態ではない
2. 本人にサービス利用の希望がない
3. 家族が介護をするため必要ない
4. 以前、利用していたサービスに不満があった
5. 利用料を支払うのが難しい
6. 利用したいサービスが利用できない、身近にない
7. 住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため
8. サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない
9. その他 ( )

※ここから再び、全員の方にお伺いします。

問 14 次の介護保険サービスを知っていますか。また、利用したいと思いますか。  
(①～③の項目について、それぞれ○はひとつ)

	認知度			利用意向	
	1 知っている	2 知らない		1 利用したい	2 利用したくない
① 小規模多機能型居宅介護 小規模な施設への「通い」を中心に、自宅に来てもらう「訪問」(介護)、施設に「泊まる」サービスが柔軟に受けられます。	1	2	→	1	2
② 看護小規模多機能型居宅介護(複合型サービス) 小規模な施設への「通い」を中心に、自宅に来てもらう「訪問」(介護と看護)、施設に「泊まる」サービスが柔軟に受けられます。	1	2	→	1	2
③ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 日中・夜間を通じて介護職員と看護師の定期的な訪問を受けられます。また、通報や電話をすることで、随時対応も受けられます。	1	2	→	1	2

問 15 現在、ご本人が利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、お教えてください。(○はいくつでも)

1. 配食	2. 調理
3. 掃除・洗濯	4. 買い物(宅配は含まない)
5. ゴミ出し	6. 外出同行(通院、買い物など)
7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等)	8. 見守り、声かけ
9. 情報通信機器による見守りなどのサービス	10. サロンなどの定期的な通いの場
11. 宿泊サービス(お泊りデイサービス)	12. その他( )
13. 利用していない	

問 16 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、お教えてください。  
(○はいくつでも)

1. 配食	2. 調理
3. 掃除・洗濯	4. 買い物(宅配は含まない)
5. ゴミ出し	6. 外出同行(通院、買い物など)
7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等)	8. 見守り、声かけ
9. 情報通信機器による見守りなどのサービス	10. サロンなどの定期的な通いの場
11. 宿泊サービス(お泊りデイサービス)	12. その他( )
13. 特になし	

※ 介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含まれます。

問 17 ご本人は、現在、訪問診療（往診を含む）を利用していますか。（○はひとつ）

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. 利用している | 2. 利用していない |
|-----------|------------|

※ 訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません。

問 18 現行の介護保険制度は、サービスを利用する人が増えたり、一人ひとりの利用するサービスの量が増えることによって介護保険料が上昇する仕組みとなっています。堺市の今後の介護保険料について、あなたのお考えに近いのは次のどれですか。（○はひとつ）

- |  |
|--|
| 1. 高齢化が進み、介護保険サービスを利用する人や利用量は増えていくだろうから、介護保険料が上昇するのは仕方がない                          |
| 2. 介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない    |
| 3. 現状以上に介護保険料が上昇するのは避けるべきであり、そのためには介護保険サービスが必要な人であっても、ある程度、介護保険サービスの利用が制限されても仕方がない |
| 4. わからない   |

問 19 （ご本人は）今後、どのような介護を望んでいますか。（○はひとつ）

- |  |
|--|
| 1. なるべく家族のみで、自宅で介護を受けたい  |
| 2. 介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護を受けたい |
| 3. 介護保険サービスの付いた高齢者向けの住宅などで介護を受けたい                                  |
| 4. 特別養護老人ホームや介護老人保健施設などで介護を受けたい                                    |
| 5. 比較的小規模な特別養護老人ホームや認知症の人向けのグループホーム※などで介護を受けたい                     |
| 6. その他（ )  |
| 7. わからない   |

※ グループホーム：認知症で介護を必要とする方が共同生活をする住居で、日常生活の世話や機能訓練などを行う、介護保険のサービス

問 20 現時点での、ご本人の施設等への入所・入居の検討状況について、お教えてください。（○はひとつ）

- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| 1. 入所・入居は検討していない     | 2. 入所・入居を検討している |
| 3. すでに入所・入居申し込みをしている |                 |

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

問 21 （ご本人は）人生の最期をどこで迎えたいと思いますか。（○はひとつ）

- |           |       |          |
|-----------|-------|----------|
| 1. 自宅     | 2. 病院 | 3. 介護施設  |
| 4. その他（ ) |       | 5. わからない |



※問 25 で「2.」～「5.」を選択された場合は、以下の設問にご回答・ご記入をお願いします。  
※「主な介護者」の方のご回答・ご記入が難しい場合は、ご本人がご回答・ご記入をお願いします（ご本人のご回答・ご記入が難しい場合は、無回答で結構です）。

主な介護者の方について、お伺いします。

問 26 ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）。  
（○はいくつでも）

1. 主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）
2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）
3. 主な介護者が転職した
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない
6. わからない

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

問 27 主な介護者の方は、どなたですか。（○はひとつ）

- |        |          |          |
|--------|----------|----------|
| 1. 配偶者 | 2. 子     | 3. 子の配偶者 |
| 4. 孫   | 5. 兄弟・姉妹 | 6. その他   |

問 28 主な介護者の方の性別について、お教えてください。（○はひとつ）

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問 29 主な介護者の方の年齢について、お教えてください。（○はひとつ）

- |           |           |          |
|-----------|-----------|----------|
| 1. 20 歳未満 | 2. 20 代   | 3. 30 代  |
| 4. 40 代   | 5. 50 代   | 6. 60 代  |
| 7. 70 代   | 8. 80 歳以上 | 9. わからない |

問 30 主な介護者の方と要介護者との同居状況について、お教えてください。（○はひとつ）

- |                               |
|-------------------------------|
| 1. 同居している                     |
| 2. 別居しているが、15 分以内で行き来できる範囲である |
| 3. 別居しており、行き来に 15 分以上かかる      |



問 31 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、お教えてください。  
(○はいくつでも)

【身体介護】

- |                          |                |
|--------------------------|----------------|
| 1. 日中の排泄                 | 2. 夜間の排泄       |
| 3. 食事の介助（食べる時）           | 4. 入浴・洗身       |
| 5. 身だしなみ（洗顔・歯磨き等）        | 6. 衣服の着脱       |
| 7. 屋内の移乗・移動              | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 服薬                    | 10. 認知症状への対応   |
| 11. 医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等） |                |

【生活援助】

12. 食事の準備（調理等）  
13. その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）  
14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き

【その他】

15. その他( )  
16. わからない

問 32 主な介護者の方の介護に要する時間について、お教えてください。

問 32 (1) 介護の日数 (○はひとつ)

- |           |             |             |
|-----------|-------------|-------------|
| 1. ほぼ毎日   | 2. 週に4～5日程度 | 3. 週に2～3日程度 |
| 4. 週に1日程度 | 5. 週に1日未満   |             |

問 32 (2) 1日あたりの介護の時間 (○はひとつ)

- |            |          |
|------------|----------|
| 1. 1～2時間程度 | 2. 4時間程度 |
| 3. 8時間程度   | 4. ほぼ1日中 |

問 33 主な介護者の方の介護期間について、お教えてください。(○はひとつ)

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1. 6か月未満     | 2. 6か月～1年未満 |
| 3. 1年～2年未満   | 4. 2年～3年未満  |
| 5. 3年～5年未満   | 6. 5年～10年未満 |
| 7. 10年～20年未満 | 8. 20年以上    |

問 34 主な介護者の方の育児状況について、お教えてください。(○はひとつ)

※「1. 育児をしている」を選んだ方は子どもの人数・末子の年齢を( )内に数字で記入してください。

1. 育児をしている

…子どもの人数( )人 末子年齢( )歳

2. 育児はしていない

※ 18歳以下の自分の子ども(養子等を含む)および孫を対象とします。なお、育児には見守り、認定こども園・幼稚園等・学校・塾・習い事等の送迎、付き添い、保護者会等への出席なども含みます。また、同居の有無は問いません。

問 35 主な介護者の方の現在の勤務形態について、お教えてください。(○はひとつ)

1. フルタイムで働いている

2. パートタイムで働いている

3. 働いていない

4. 主な介護者に確認しないと、わからない

※ 問 36~38 へ

※ 問 39 へ

※ 「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

**問 35 で「1.」「2.」と回答した方(働いている方)にお伺いします。**

問 36 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。(○はいくつでも)

1. 特に行っていない

2. 介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている

3. 介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている

4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている

5. 介護のために、2~4以外の調整をしながら、働いている

6. 主な介護者に確認しないと、わからない

問 35 で「1.」「2.」と回答した方（働いている方）にお伺いします。

問 37 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。（○は3つまで）

1. 自営業・フリーランス等のため、勤め先はない
2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実
3. 制度を利用しやすい職場づくり
4. 労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）
5. 働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）
6. 仕事と介護の両立に関する情報の提供
7. 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置
8. 介護をしている従業員への経済的な支援
9. その他( )
10. 特になし
11. 主な介護者に確認しないと、わからない

問 35 で「1.」「2.」と回答した方（働いている方）にお伺いします。

問 38 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（○はひとつ）

1. 問題なく、続けていける
2. 問題はあるが、何とか続けていける
3. 続けていくのは、やや難しい
4. 続けていくのは、かなり難しい
5. 主な介護者に確認しないと、わからない

※ここから再び、全員の方にお伺いします。

問 39 介護に対して負担に感じることは何ですか。(〇はいくつでも)

1. いつまで介護が続くかわからない
2. 家族が介護に非協力的
3. 相談できる人がいない
4. 仕事と両立することの負担
5. 育児も含めて世話や介護が必要な人が他にもいる
6. (介護を必要とする人が) 介護サービスの利用を嫌がる
7. 介護に関する制度がわからない
8. 介護に関する情報が入手しづらい
9. 体力的な負担
10. 自由な時間が減る
11. 孤独を感じる
12. 介護にお金がかかる
13. 特に負担はない
14. その他

問 40 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、お教えてください(現状で行っているか否かは問いません)。(〇は3つまで)

【身体介護】

- |                         |                |
|-------------------------|----------------|
| 1. 日中の排泄                | 2. 夜間の排泄       |
| 3. 食事の介助(食べる時)          | 4. 入浴・洗身       |
| 5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等)       | 6. 衣服の着脱       |
| 7. 屋内の移乗・移動             | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 服薬                   | 10. 認知症状への対応   |
| 11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ等) |                |

【生活援助】

12. 食事の準備(調理等)
13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)
14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き

【その他】

15. その他( )
16. 不安に感じていることは、特にない
17. 主な介護者に確認しないと、わからない

問 41 介護に困ったときだれに相談していますか。(○はいくつでも)

1. 家族・親類
2. 友人・知人
3. となり近所の人
4. ホームヘルパー
5. 市や府の相談窓口(介護・福祉担当職員、保健師など)
6. 地域包括支援センターや在宅介護支援センターの職員
7. ケアマネジャー(介護支援専門員)
8. 介護サービスを利用する施設の職員
9. 民生委員
10. かかりつけ医・かかりつけ歯科医
11. 薬局(薬剤師)や介護用品店(店員)
12. 職場の同僚
13. 家族会
14. インターネット上のコミュニティ・サイト
15. その他( )
16. 相談したいが、相談する相手がいない
17. だれにも相談しない

問 42 今後ご本人に対してどのように介護したいと思いますか。(○はひとつ)

1. なるべく家族のみで、自宅で介護したい
2. 介護保険サービス(ホームヘルパーやデイサービスなど)や保健福祉サービス(緊急通報サービスなど)を使いながら自宅で介護したい
3. 介護保険サービスの付いた高齢者向けの住宅に入居させたい
4. 特別養護老人ホームや介護老人保健施設などに入所させたい
5. 比較的小規模な特別養護老人ホームや認知症の人向けのグループホーム※などに入所させたい
6. その他( )
7. わからない

※ グループホーム：認知症で介護を必要とする方が共同生活をする住居で、日常生活の世話や機能訓練などを行う、介護保険のサービス

問 43 地域包括支援センターは、高齢者の方々が住みなれた地域で安心して暮らしていけるよう、介護・福祉・健康など、さまざまな面から総合的に相談や支援を行う機関です。地域包括支援センターの役割を知っていますか。(○はひとつ)

1. 知っている
2. 名前は聞いたことがあるが、役割までは知らない
3. 地域包括支援センターの存在を知らない



## 堺市高齢者等実態調査 ご協力のお願

日頃から、堺市の福祉施策の推進にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。  
 このたび、堺市内をサービス提供区域とする事業所を営む法人を対象に「実態調査」を実施することにいたしました。  
 この調査は、事業の運営体制や新たなサービスへの参入意向などについてお聞きし、今後の高齢者保健福祉行政のより一層の計画的かつ効果的な推進と、次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のために役立たせていただくものです。

なお、ご回答いただきました内容は、すべて統計的に処理し、この調査の目的にのみ使用し、個人情報の保護には万全を期しております。  
 ご多忙の折、誠に恐縮でございますが、調査の趣旨をご理解いただきまして、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

### 回答に当たってのお願い

- 1 このアンケートは、法人単位で作成していただくことを基本とし、設問によってサービス種別ごとにそれぞれ記入をお願いします。
- 2 設問をお読みいただき、あてはまる番号に○または数字を記入してください。設問によって、「○はひとつ」、「○はいくつでも」「○は3つまで」など、○をつける数が異なりますので、ご注意ください。なお、「その他」を選択された場合は、( )内に具体的な内容を記入してください。
- また、サービス種別ごとにお聞きする設問の中には、別表から該当する理由などを選択する形式もありますので、該当するものを選び、その番号を表中の空欄に記入してください。
- 3 ご回答は令和2年1月1日現在の状況を記入いただくことを基本とし、設問によって基準日の指定がある場合はそれに従ってください。
- 4 下記URLからアンケートのダウンロードが可能です。また、ご回答いただきましたアンケートは、**令和2年2月14日(金)**までに、同封の返信用封筒に入れ切手を貼らずに無記名でご投函いただくか、下記メールアドレスまでご送付ください。

URL : [http://www.city.sakai.lg.jp/kenko/fukushikaigo/koreishafukushi/jittaichousa\\_r1.html](http://www.city.sakai.lg.jp/kenko/fukushikaigo/koreishafukushi/jittaichousa_r1.html)  
 堺市 健康福祉局 長寿社会部 長寿支援課 電話 072-228-8347  
 メールアドレス choshi@city.sakai.lg.jp

### 法人や実施事業についてお伺いします。

問1 法人の種類をお教えください。(○はひとつ)

- |           |           |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 営利法人   | 2. 社会福祉法人 | 3. 医療法人   | 4. NPO法人  | 5. 一般社団法人 |
| 6. 一般財団法人 | 7. 公益財団法人 | 8. 生活協同組合 | 9. その他( ) |           |

問2 貴法人の事業運営体制について、サービス種別ごとに記入してください。

※事業を運営している(していた)地域については、下欄の日常生活圏域表から、該当する地域の番号をすべて記入してください。  
 ※事業所数については、サービスごとに堺市内で運営している(していた)事業所の総数を数字で記入してください。

サービス種別 (介護予防サービス含む)	(1) 現在堺市内で運営している事業所		(2) 過去に堺市内で運営していた事業所	
	運営地域	事業所数	運営地域	事業所数
○居宅介護支援				
①訪問介護				
②訪問入浴介護				
③訪問看護				
④訪問リハビリテーション				
⑤居宅療養管理指導				
⑥通所介護				
⑦通所リハビリテーション				
⑧短期入所生活介護				
⑨短期入所療養介護				
⑩特定施設入居者生活介護				
⑪福祉用具貸与				
⑫特定福祉用具販売				

居宅サービス



	サービス種別 (介護予防サービス含む)		(1) 現在堺市内で運営している事業所 運営地域		(2) 過去に堺市内で運営していた事業所 運営地域	
	事業所数	事業所数	事業所数	事業所数	事業所数	事業所数
地域密着型サービス	①定期巡回・随時対応型訪問介護看護					
	②夜間対応型訪問介護					
	③認知症対応型通所介護					
	④小規模多機能型居宅介護					
	⑤地域密着型通所介護					
	⑥認知症対応型共同生活介護					
	⑦地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護					
	⑧看護小規模多機能型居宅介護					
施設サービス	①介護老人福祉施設					
	②介護老人保健施設					
	③介護医療院(介護療養型医療施設)					

日常生活圏域表

選択番号	圏域	圏域を構成する小学校区	選択番号	圏域	圏域を構成する小学校区	選択番号	圏域	圏域を構成する小学校区
1	堺1区	三宝・錦西・市・英彰	8	東1区	南八下・八下西・日置庄・日置庄西・白鷺	15	南3区	上神谷・高山台・竹城台・竹城台東・若松台・茶山台
2	堺2区	錦・錦陵・浅香山・三国丘	9	東2区	登美丘西・登美丘東・登美丘南・野田	16	南4区	三原台・泉北高倉・はるみ・榎塚台
3	堺3区	熊野・少林寺・安井・榎	10	西1区	浜寺・浜寺東・浜寺石津・浜寺昭和	17	北1区	東浅香山・新浅香山・五箇庄・五箇庄東
4	堺4区	神石・新湊・大仙・大仙西	11	西2区	鳳・鳳南・福泉・福泉上・福泉東	18	北2区	東三国丘・光竜寺・新金岡・新金岡東
5	中1区	八田庄・八田庄西・深井・深井西	12	西3区	津久野・向丘・平岡・家原寺・上野芝	19	北3区	大泉・金岡・金岡南・北八下
6	中2区	東百舌鳥・宮園・東深井・土師	13	南1区	美木多・赤坂台・新檜尾台・城山台	20	北4区	中百舌鳥・百舌鳥・西百舌鳥
7	中3区	久世・東陶器・西陶器・福田・深阪	14	南2区	福泉中央・桃山台・原山ひかり・庭代台・御池台	21	美原1区	黒山・平尾・美原北・八上・美原西・さつき野

問3 今後、堺市内で事業運営を行いたいサービスはありますか、また現在は事業運営しているが今後廃止を予定しているサービスはありますか。  
 ある場合はその理由について、それぞれサービス種別ごとに下欄の理由表から該当するものを選び、その番号を記入してください（理由は各サービス種別につき3つまで）。また、それぞれ予定する地域が分かっている場合は前頁の日常生活圏域表から該当する地域の番号を記入し、予定時期についても分かっている場合は記入してください。

サービス種別 (介護予防サービス含む)	(1) 今後堺市で事業運営を行いたいサービス			(2) 現在は事業運営しているが、今後廃止を予定しているサービス		
	理由	予定地域	予定時期	理由	予定地域	予定時期
○居宅介護支援			年 月 頃			年 月 頃
①訪問介護			年 月 頃			年 月 頃
②訪問入浴介護			年 月 頃			年 月 頃
③訪問看護			年 月 頃			年 月 頃
④訪問リハビリテーション			年 月 頃			年 月 頃
⑤居宅療養管理指導			年 月 頃			年 月 頃
⑥通所介護			年 月 頃			年 月 頃
⑦通所リハビリテーション			年 月 頃			年 月 頃
⑧短期入所生活介護			年 月 頃			年 月 頃
⑨短期入所療養介護			年 月 頃			年 月 頃
⑩特定施設入居者生活介護			年 月 頃			年 月 頃
⑪福祉用具貸与			年 月 頃			年 月 頃
⑫特定福祉用具販売			年 月 頃			年 月 頃
①定期巡回・随時対応型訪問介護看護			年 月 頃			年 月 頃
②夜間対応型訪問介護			年 月 頃			年 月 頃
③認知症対応型通所介護			年 月 頃			年 月 頃

サービス種別 (介護予防サービス含む)	(1) 今後堺市で事業運営を行いたいサービス			(2) 現在は事業運営しているが、今後廃止を予定しているサービス		
	理由	予定地域	予定時期 年 月 頃	理由	予定地域	予定時期 年 月 頃
地域密着型サービス	④小規模多機能型居宅介護		年 月 頃			年 月 頃
	⑤地域密着型通所介護		年 月 頃			年 月 頃
	⑥認知症対応型共同生活介護		年 月 頃			年 月 頃
	⑦地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護		年 月 頃			年 月 頃
施設サービス	⑧看護小規模多機能型居宅介護		年 月 頃			年 月 頃
	①介護老人福祉施設		年 月 頃			年 月 頃
	②介護老人保健施設		年 月 頃			年 月 頃
	③介護医療院 (介護療養型医療施設)		年 月 頃			年 月 頃

(1) 今後事業運営を行いたい理由  
(各サービスにつき3つまで)

1. 土地・建物の確保ができた (できる) ため
2. 建築等の整備にあたり資金の確保ができた (できる) ため
3. 利用者確保の見込みがあった (ある) ため
4. 事業経営に見合った介護報酬が得られるため
5. 市で既に他の介護サービスを行っているため
6. 職員確保の見込みがあった (ある) ため
7. 事業経営が安定しており余力があるため
8. 利用者から他の介護サービスの要望があったため
9. 特になし
10. その他

(2) 今後廃止を予定している理由  
(各サービスにつき3つまで)

1. 土地・建物の維持ができなくなった (できなくなる) ため
2. 改修等の必要があり費用がかさむため
3. 利用者確保ができなくなった (できなくなる) ため
4. 介護報酬が低く採算が合わないため
5. 職員確保ができなくなった (できなくなる) ため
6. 経営が悪化してきているため
7. 特になし
8. その他

※予定地域については3ページの日常生活圏域表から該当する番号を選んでください。

問4 貴法人の職員状況について、サービス種別ごとにそれぞれ該当する職員数を記入してください。

※採用者数、退職者数については、平成30年度（平成30年4月～平成31年3月）の実績を記入してください。

※職員数については、平成31年4月1日現在の人数を記入してください。

※1人が複数のサービスを兼務している場合は、主に従事しているサービス種別の一方だけに計上してください。

サービス種別 (介護予防サービス含む)	平成30年度 採用者数(人)				平成30年度 退職者数(人)				勤続年数別職員数(人) ※平成31年4月1日現在							
	正規職員		非正規職員		正規職員		非正規職員		正規職員		非正規職員		正規職員		非正規職員	
	勤続年数 1年以上 未満	勤続年数 5年以上 未満	勤続年数 1年以上 未満	勤続年数 5年以上 未満	勤続年数 1年以上 未満	勤続年数 5年以上 未満	勤続年数 1年以上 未満	勤続年数 5年以上 未満	勤続年数 1年以上 未満	勤続年数 5年以上 未満	勤続年数 1年以上 未満	勤続年数 5年以上 未満	勤続年数 1年以上 未満	勤続年数 5年以上 未満	勤続年数 1年以上 未満	勤続年数 5年以上 未満
〇居宅介護支援																
①訪問介護																
②訪問入浴介護																
③訪問看護																
④訪問リハビリテーション																
⑤居宅療養管理指導																
⑥通所介護																
⑦通所リハビリテーション																
⑧短期入所生活介護																
⑨短期入所療養介護																
⑩特定施設入居者生活介護																
⑪福祉用具貸与																
⑫特定福祉用具販売																
①定期巡回・随時対応型訪問介護看護																
②夜間対応型訪問介護																
③認知症対応型通所介護																
④小規模多機能型居宅介護																
⑤地域密着型通所介護																
⑥認知症対応型共同生活介護																
⑦地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護																
⑧看護小規模多機能型居宅介護																
①介護老人福祉施設																
②介護老人保健施設																
③介護医療院（介護療養型医療施設）																

サービス種別 (介護予防サービス含む)	年齢別職員数(人) ※平成31年4月1日現在				週勤務時間別 非正規職員数(人) ※平成31年4月1日現在					
	正規職員		非正規職員		8時間 未満	8時間 以上 16時間 未満	16時間 以上 24時間 未満	24時間 以上 32時間 未満	32時間 以上	
	30歳 未満	30歳 ～ 39歳	40歳 ～ 49歳	50歳 ～ 59歳						60歳 以上
○居宅介護支援										
①訪問介護										
②訪問入浴介護										
③訪問看護										
④訪問リハビリテーション										
⑤居宅療養管理指導										
⑥通所介護										
⑦通所リハビリテーション										
⑧短期入所生活介護										
⑨短期入所療養介護										
⑩特定施設入居者生活介護										
⑪福祉用具貸与										
⑫特定福祉用具販売										
⑬定期巡回・随時対応型訪問介護看護										
⑭夜間対応型訪問介護										
⑮認知症対応型通所介護										
⑯小規模多機能型居宅介護										
⑰地域密着型通所介護										
⑱認知症対応型共同生活介護										
⑲地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護										
⑳看護小規模多機能型居宅介護										
㉑介護老人福祉施設										
㉒介護老人保健施設										
㉓介護医療院(介護療養型医療施設)										
居宅サービス										
地域密着型サービス										
施設サービス										

サービス種別 (介護予防サービス含む)		資格別職員数(人) ※平成31年4月1日現在 ※1人が複数の資格を有している場合は、別々に計上してください。																			
		介護福祉士	介護職員 研修修了	ヘルパー 1級	ヘルパー 2級	看護師 准看護師	介護支援 専門員	理学療法士	作業療法士	言語 聴覚士	その他										
	○居宅介護支援																				
	①訪問介護																				
	②訪問入浴介護																				
	③訪問看護																				
	④訪問リハビリテーション																				
	⑤居宅療養管理指導																				
	⑥通所介護																				
	⑦通所リハビリテーション																				
	⑧短期入所生活介護																				
	⑨短期入所療養介護																				
	⑩特定施設入居者生活介護																				
	⑪福祉用具貸与																				
	⑫特定福祉用具販売																				
	①定期巡回・随時対応型訪問介護看護																				
	②夜間対応型訪問介護																				
	③認知症対応型通所介護																				
	④小規模多機能型居宅介護																				
	⑤地域密着型通所介護																				
	⑥認知症対応型共同生活介護																				
	⑦地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護																				
	⑧看護小規模多機能型居宅介護																				
	①介護老人福祉施設																				
	②介護老人保健施設																				
	③介護医療院(介護療養型医療施設)																				

サービス種別 (介護予防サービス含む)		資格別職員数(人) ※平成31年4月1日現在 ※1人が複数の資格を有している場合は、別々に計上してください。																		
		介護福祉士	介護職員 研修修了	ヘルパー 1級	ヘルパー 2級	介護士 准看護師	介護士 専門員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	その他									
〇居宅介護支援																				
①訪問介護																				
②訪問入浴介護																				
③訪問看護																				
④訪問リハビリテーション																				
⑤居宅療養管理指導																				
⑥通所介護																				
⑦通所リハビリテーション																				
⑧短期入所生活介護																				
⑨短期入所療養介護																				
⑩特定施設入居者生活介護																				
⑪福祉用具貸与																				
⑫特定福祉用具販売																				
①定期巡回・随時対応型訪問介護看護																				
②夜間対応型訪問介護																				
③認知症対応型通所介護																				
④小規模多機能型居宅介護																				
⑤地域密着型通所介護																				
⑥認知症対応型共同生活介護																				
⑦地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護																				
⑧看護小規模多機能型居宅介護																				
①介護老人福祉施設																				
②介護老人保健施設																				
③介護医療院(介護療養型医療施設)																				

問5 現在、事業運営している中で、最も不安に感じていることは何ですか。  
(○はひとつ)

1. 財政状況
2. 人手不足
3. 後継者不足
4. 施設の老朽化や安全性の課題
5. 利用者からの苦情、要望
6. 事業運営のための情報やノウハウの不足
7. その他 ( )
8. 特にない

問6 現在のサービス提供状況からみて、職員数の過不足はありますか。  
(○はひとつ)

1. 非常に不足している
2. やや不足している
3. 過不足なく適当な状態である
4. やや多い
5. 非常に多い

問6で「1.」「2.」と回答した法人にお伺いします。

問6-1 職員数が不足している主な理由は何ですか。(○はひとつ)

1. 新規雇用の際、思った程の人材を確保できなかったため
2. 新規採用者が短期間で退職していくため
3. 新規採用者に限らず離職者が増えているため
4. その他 ( )

問7 貴法人の職員の定着率をどう感じていますか。(○はひとつ)

- |                   |   |         |
|-------------------|---|---------|
| 1. 非常に定着率が良い      | ↑ | 【問7-1へ】 |
| 2. どちらかというと定着率が良い |   |         |
| 3. どちらかというと定着率が悪い |   |         |
| 4. 非常に定着率が悪い      | ↑ | 【問7-2へ】 |

問7で「1.」「2.」と回答した法人にお伺いします。

問7-1 職員の定着率が良い主な理由は何だと思えますか。

(○は3つまで)

1. 給与がよいため
2. 職員がやりがいを感じているため
3. 福利厚生に力を入れているため
4. 職員の研修に力を入れているため
5. キャリアアップの制度など取り入れているため
6. 職場に対する相談体制を確保しているため
7. 経営理念・方針を職員と共有できているため
8. その他 ( )
9. わからない

問7で「3.」「4.」と回答した法人にお伺いします。

問7-2 職員の定着率が悪い主な理由は何だと思えますか。

(○は3つまで)

1. 給与が低いため
2. 職員がやりがいを感じられていないため
3. 福利厚生が十分でないため
4. 職員にとって身体的・精神的な負担が大きいため
5. 職員の研修体制が十分でないため
6. キャリアアップの制度などが整備されていないため
7. 職場に対する相談体制が十分でないため
8. 経営理念・方針の共有が十分でないため
9. その他 ( )
10. わからない



問8 職員に対する社内・社外研修について、あてはまるものに○をつけてください。(○はひとつ)

1. 内部研修を実施しており、外部研修にも参加させている
2. 内部研修は実施しているが、外部研修には参加させていない  
→【問8-1へ】
3. 内部研修は実施していないが、外部研修には参加させている
4. 内部研修は実施していないし、外部研修にも参加させていない  
→【問8-2へ】
5. その他 ( )

問8で「1.」「2.」と回答した法人にお伺いします。

問8-1 内部研修の具体的な内容について記入してください。

問8で「4.」と回答した法人にお伺いします。

問8-2 研修等を実施していない理由は何ですか。(○は3つまで)

1. 時間的余裕がないため
2. 費用が高額であるため
3. 内部研修を企画するノウハウがないため
4. 内部研修をする指導者がいないため
5. 参加させたい外部研修がないため
6. 必要がないため
7. その他 ( )

問9 介護の仕事に携わる外国人労働者を受け入れていますか。(○はひとつ)

1. 受け入れている
2. 受け入れていない

問9で「1.」と回答した法人にお伺いします。

問9-1 どの制度に基づいて外国人労働者を受け入れたのかお教えください。(○はひとつ)

1. E P A (経済連携協定) に基づく外国人介護福祉士候補者の受け入れ
2. 在留資格「介護」をもつ外国人の受け入れ
3. 技能実習制度を活用した外国人の受け入れ
4. 在留資格「特定技能1号」をもつ外国人の受け入れ
5. その他 ( )

問10 今後(または引き続き)、外国人労働者を活用する予定はありますか。(○はひとつ)

1. 活用する予定はある
2. 活用する予定はない



問 14 職員の確保や質の向上を図るために、今後どのような視点を重視した取り組みが必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 基本的な技術や実践的知識の向上
2. 利用者からの苦情や相談への対処能力の向上
3. 利用者への対応の仕方などマナーやコミュニケーション技術の向上
4. 職員の福利厚生の実施
5. 職員のモチベーション保持のための制度の充実 (キャリアアップなど)
6. 職場に対する相談体制の確保
7. 意思疎通を図るためのミーティングの充実
8. 外部研修への参加
9. 介護職の魅力向上に向けた取り組み
10. 他の事業所との情報交換会
11. 介護職員の負担軽減 (ICTや介護ロボットの導入など)
12. 職員の報酬や手当等の充実
13. その他 ( )

問 15 平成30年度の貴法人の介護事業会計についてお伺いします。介護事業収支は、どのような状況ですか。(○はひとつ)

1. 大幅な黒字である → 【問15-1へ】
2. やや黒字である
3. ほぼ収支が均衡している
4. やや赤字である → 【問15-2へ】
5. 大幅な赤字である

問 15で「1.」「2.」を選んだ法人にお伺いします。

問 15-1 その主な理由は何だと思いますか。(○は2つまで)

1. 一定以上の利用者数を確保できたため
2. 利用者1人当たりについて、一定以上のサービス量を確保できたため
3. 人件費・事務費・事業費などの経費の支出を低く抑えることができたため
4. 介護報酬が改定されたため
5. その他 ( )

問 15で「4.」「5.」を選んだ法人にお伺いします。

問 15-2 その主な理由は何だと思いますか。(○は2つまで)

1. 当初見込んだ利用者数を確保できなかったため
2. 見込んだ利用者1人当たりのサービス量を確保できなかったため
3. 人件費・事務費・事業費などの経費が予想より大きかったため
4. 介護報酬が改定されたため
5. その他 ( )

問 16 貴法人から見ても、堺市では以前と比べて、多職種での連携※が進んでいると感じますか。(○はひとつ)

1. とても進んでいると感じる
2. まあ進んでいると感じる
3. あまり進んでいないと感じる
4. まったく進んでいないと感じる
5. わからない

※連携：日頃から情報共有をしており、連絡や相談などの業務がスムーズに行えている状態

問 17 多職種での連携において、業務上困っていることは何ですか。(○はいくつでも)

1. 多職種での情報共有がうまくいかない
2. 病院との退院調整がスムーズでない
3. 他の職種の連絡先 (依頼先) がわからない
4. 他の職種の業務内容 (対応できる範囲) がわからない
5. 他の職種の情報 (医療・介護の資源情報) の取得方法がわからない
6. その他 ( )
7. 困っていることはない

災害時の対策についてお伺いします。

問 18 貴法人の災害に対する対策の実施状況について、それぞれサービス種別ごとに下欄の表から該当するものをすべて選び、その番号を記入してください。

サービス種別 (介護予防サービス含む)	(1) 地震・津波対策		(2) 風水害対策 (土砂災害は除く)		(3) 火災対策		(4) 土砂災害対策	
	実施済み	検討中	実施済み	検討中	実施済み	検討中	実施済み	検討中
居宅サービス	①通所介護							
	②通所リハビリテーション							
	③短期入所生活介護							
	④短期入所療養介護							
	⑤特定施設入居者生活介護							
地域密着型 サービス	①認知症対応型通所介護							
	②小規模多機能型居宅介護							
	③地域密着型通所介護							
	④認知症対応型共同生活介護							
	⑤地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護							
	⑥看護小規模多機能型居宅介護							

※回答いただく選択肢は次ページにあります。

サービス種別 (介護予防サービス含む)	(1) 地震・津波対策		(2) 風水害対策 (土砂災害は除く)		(3) 火災対策		(4) 土砂災害対策	
	実施済み	検討中	実施済み	検討中	実施済み	検討中	実施済み	検討中
サービス ①介護老人福祉施設 ②介護老人保健施設 ③介護医療院 (介護療養型医療施設)								

「実施」または「検討」をしている内容

1. 避難計画の策定
2. 災害時の具体的な対応マニュアルの作成・職員への周知
3. 食料等の備蓄
4. 消防署立会による避難訓練の実施
5. 事業所のみでの避難訓練の実施
6. 地域の自主防災訓練等への参加
7. 地域との協力体制の構築
8. スプリンクラーの設置
9. 自動火災報知機等の消防設備の設置
10. 人工呼吸器や在宅酸素などに使える発電機・外部バッテリー等の確保
11. その他

「実施」・「検討」のどちらでもない理由

1. 対策に要する資金の不足
2. 備蓄等のスペースがない
3. 建物の構造上、消防設備等の設置が困難
4. 職員の確保が困難
5. 地域との協力体制が困難
6. 土砂災害危険区域でない。(土砂災害対策のみ選択可能。)
7. 実施したいがどう進めたらいいのかやり方が分からない
8. 必要を感じない
9. その他

問 19 介護者支援について何か取り組んでいますか。(○はひとつ)

1. 取り組んでいる

2. 取り組んでいない

問19で「1.」と回答した法人にお伺いします。

問 19-1 介護者支援の内容と対象者について下記の①～⑤の項目ごとに、あてはまるものに○をつけてください。  
(それぞれ○はひとつ)

介護者支援の内容	対象者 (○を記入してください)		
	利用者の 家族限定	利用者の 家族以外 も利用・ 参加可能	この取り 組みはし ていない
①介護生活に必要な情報の提供	1	2	3
②介護者同士が気兼ねなく話し合 いや相談ができるイベント・交 流会などの開催	1	2	3
③専門職員による相談窓口	1	2	3
④介護技術などの講習会	1	2	3
⑤その他 (具体的な取り組みの内容	1	2	3

※17 ページ以降については、居宅介護支援事業所を運営している法人は、問 20 から問 26 にお答えください。また、施設サービス（特養・老健・介護医療院（介護療養型））を運営している法人は、問 27 から問 28 にお答えください。どちらも運営していない法人は、19 ページの最後にあるご意見、ご希望の記入欄までお進みください。

問 20 から問 26 は、居宅介護支援事業所の職員の方に  
お伺いします。

問 20 貴法人から見て、堺市の要介護者（要介護 1～5）にとって不足  
していると感じるサービスは何ですか。（〇はいくつでも）

1. 居宅介護支援
2. 訪問介護
3. 訪問入浴介護
4. 訪問看護
5. 訪問リハビリテーション
6. 居宅療養管理指導
7. 通所介護
8. 通所リハビリテーション
9. 短期入所生活介護
10. 短期入所療養介護
11. 特定施設入居者生活介護
12. 福祉用具貸与
13. 特定福祉用具販売
14. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
15. 夜間対応型訪問介護
16. 認知症対応型通所介護
17. 小規模多機能型居宅介護
18. 認知症対応型共同生活介護
19. 地域密着型特定施設入居者生活介護
20. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
21. 看護小規模多機能型居宅介護
22. 介護老人福祉施設
23. 介護老人保健施設
24. 介護医療院（介護療養型医療施設）
25. 特になし

問 21 サービスを実施するにあたって、外部の諸機関との連携はどの程  
度とれていますか。下記の①～⑧の項目ごとに、あてはまるものに  
〇をつけてください。（それぞれ〇はひとつ）

連携の相手	連携の程度	連携がとれている	おおむねとれている	どちらともいえない	あまり連携していない	まったく連携がない
①他の居宅介護支援事業者		1	2	3	4	5
②他の居宅サービス提供者		1	2	3	4	5
③他の地域密着型サービス提供者		1	2	3	4	5
④他の施設サービス提供者		1	2	3	4	5
⑤医療機関		1	2	3	4	5
⑥介護保険以外のサービス提供機関 （ボランティア・NPO含む）		1	2	3	4	5
⑦地域包括支援センター		1	2	3	4	5
⑧行政機関		1	2	3	4	5

問 22 困難ケースなどについて地域包括支援センターへ相談したことはありますか。(○はひとつ)

1. ある  2. ない

問 22 で「1.」と回答した法人にお伺いします。

問 22-1 地域包括支援センターに相談した内容について、あてはまるものに○を付けてください。(○はいくつでも)

1. 虐待について(セルフネグレクトを含む)
2. 本人の意思決定が困難で、代わって決定する人がいないことについて
3. 本人や家族に精神障害や知的障害があることについて
4. 必要なサービスを拒否することについて
5. 周辺症状への対応が難しい認知症について
6. 在宅の意思が強いが、独居等で在宅に限界があることについて
7. 医療依存度が高いことについて
8. 多重債務・消費者被害などで権利擁護が必要なことについて
9. 経済的困窮について
10. 制度説明やサービス調整に時間を要することについて
11. その他 ( )

問 23 居宅介護支援事業所の利用者に対し、下記のサービスに引き継いだ事例はありますか。ある場合は、( ) 内に平成 31 年 4 月 1 日から現在 (令和 2 年 1 月 1 日) までの件数を記入してください。

1. 介護老人福祉施設 ( ) 件
2. 介護老人保健施設 ( ) 件
3. 介護医療院 (介護療養型医療施設) ( ) 件
4. 小規模多機能型居宅介護 ( ) 件
5. 認知症対応型共同生活介護 ( ) 件
6. 看護小規模多機能型居宅介護 ( ) 件
7. 病院 ( ) 件

問 24 定期巡回・随時対応型訪問介護看護のサービスが最も有効な方はどのような方だと思いますか。(○はひとつ)

1. 独居高齢者
2. 病院への入院を繰り返す高齢者
3. 介護する側の負担軽減が必要な高齢者
4. 不定期の訪問介護や訪問看護のニーズがある高齢者
5. その他 ( )

問 25 現在 (令和 2 年 1 月 1 日) の居宅介護支援事業所の担当件数を記入してください。そのうち、有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅に入居されている方の件数を記入してください。

- ①担当件数 ( ) 件  
②うち、有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅に入居中 ( ) 件

問 26 担当していた利用者が有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅への入居にいたり、自事業所のサービス提供地域内にも関わらず、他の居宅介護支援事業所に引き継いだ事例はありますか。ある場合は、( ) 内に平成 31 年 4 月 1 日から現在 (令和 2 年 1 月 1 日) までの件数を記入してください。

( ) 件



**問 27 から問 28 は、施設サービス（特養・老健・介護医療院（介護療養型））の職員の方にお伺いします。**

問 27 施設に入所待機者はいいますか。（○はひとつ）

1. 入所待機者がいる  
 2. 入所待機者がいない

問 27 で「1.」と回答した法人にお伺いします。

問 27-1 施設に入所待機者がいる状況について、考えられる主な要因は何だと思えますか。（○はひとつ）

1. 全体的に施設数が足りないため  
 2. 入所手続きに手間がかかるため  
 3. 在宅介護より施設介護を望む人が増えたため  
 4. 現在のところ入所の必要はないが、将来を見込んで事前に申し込む人が多いため

問 28 施設への入所を決定するにあたり、特に入所判定委員会等重点をおいていることは何ですか。（○は3つまで）

1. 虐待等が疑われるなど緊急性がある  
 2. 要介護度が4・5の重度で、在宅で待機している  
 3. 本人または家族（ケアマネ等含む）と面談した結果、在宅で介護が難しいと判断されている  
 4. 要介護度が低いが長期間待機している  
 5. 病院での急性期の治療は終わったが、在宅復帰に不安がある  
 6. 他の施設等から紹介されている  
 7. その他（ ）

最後に、本市における高齢者の保健福祉サービス、介護保険サービス等について、ご意見やご要望等がありましたらお聴かせください。

.....  
 .....  
 .....  
 .....  
 .....  
 .....  
 .....

質問は以上でおわりです。

ご協力ありがとうございました。

記入済みの調査票を同封の返信用封筒に入れて、

**令和2年2月14日（金）までに**

郵便ポストに投函してください。

## Ⅶ. 母集団に関する推定

### 1. 母集団に関する推定について

今回実施した一般高齢者・要支援認定者調査（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）では、各区の地域特性を統計的に分析するために区別・前期／後期高齢者別で層化無作為抽出で調査対象者を抽出していますが、各層で母集団の規模が異なるため、各層での抽出率（有効回収数÷対象者数）の逆数で加重平均することで、回答から母集団の平均値を偏りなく適切に推定することができます。

図表 7-1-1 一般高齢者・要支援認定者調査 対象者数・配布数・有効回収数

区別	年齢区分	対象者数		配布数		有効回収数	
		実数 (人)	構成比 (%)	実数 (通)	構成比 (%)	実数 (通)	構成比 (%)
堺区	前期高齢者	19,578	8.4	684	7.3	433	7.0
	後期高齢者	20,849	9.0	689	7.3	450	7.3
中区	前期高齢者	16,252	7.0	673	7.2	419	6.8
	後期高齢者	15,964	6.9	673	7.2	421	6.8
東区	前期高齢者	12,347	5.3	657	7.0	422	6.8
	後期高齢者	13,630	5.9	662	7.0	454	7.3
西区	前期高齢者	17,364	7.5	677	7.2	434	7.0
	後期高齢者	18,588	8.0	681	7.2	457	7.4
南区	前期高齢者	23,812	10.2	700	7.4	458	7.4
	後期高齢者	23,802	10.2	700	7.4	471	7.6
北区	前期高齢者	18,265	7.8	680	7.2	433	7.0
	後期高齢者	20,869	9.0	689	7.3	470	7.6
美原区	前期高齢者	5,828	2.5	619	6.6	433	7.0
	後期高齢者	5,578	2.4	616	6.6	426	6.9
合計		232,726	100.0	9,400	100.0	6,181	100.0

### 2. 母集団の推定方法

層化無作為抽出の場合、母集団の推定方法を一般的な数式で表現すると、以下のようになります。

$$\text{母集団の推定値} = \frac{1}{N} \sum_{h=1}^L \frac{N_h}{n_h} \sum_{i=1}^{n_h} X_{hi}$$

$N$ : 母集団の大きさ  $L$ : 設定した層の数  $N_h$ :  $h$  番目の層における母集団の大きさ  
 $n_h$ :  $h$  番目の層における標本の大きさ  $X_{hi}$ :  $h$  番目の層における  $i$  番目の標本の値

### 3. 一般高齢者・要支援認定者調査 母集団に関する推定値

一般高齢者・要支援認定者調査における母集団に関する推定値は以下の通りです。

なお、回答者数は小数第1位を四捨五入しているため、単一回答の設問であっても回答者数の合計は全体と合わない場合があります。

#### 1. 家族や生活状況について

問1 (1) 家族構成をお教えてください (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	1人暮らし	48,561	20.9
2	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	102,632	44.1
3	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	8,050	3.5
4	息子・娘との2世帯	32,107	13.8
5	その他	36,503	15.7
	無回答	4,872	2.1
	全体	232,726	100.0

問1 (2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	介護・介助は必要ない	190,979	82.1
2	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	20,827	8.9
3	現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)	16,254	7.0
	無回答	4,666	2.0
	全体	232,726	100.0

問1 (3) 日頃から診療や相談ができるかかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいますか (○はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	かかりつけ医師	195,396	84.0
2	かかりつけ歯科医師	134,530	57.8
3	かかりつけ薬局 (薬剤師)	75,746	32.5
4	いない	20,347	8.7
	無回答	1,963	0.8
	全体	232,726	100.0

問1 (4) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	大変苦しい	19,258	8.3
2	やや苦しい	63,146	27.1
3	ふつう	131,207	56.4
4	ややゆとりがある	15,856	6.8
5	大変ゆとりがある	2,088	0.9
	無回答	1,171	0.5
	全体	232,726	100.0

## 2. 住まいについて

問2 (1) 現在のお住まいをお教えてください (〇はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	持ち家 (一戸建て)	144,052	61.9
2	持ち家 (マンションなど)	30,761	13.2
3	借家 (一戸建て)	4,069	1.7
4	借家 (マンション・アパートなど)	39,891	17.1
5	軽費老人ホーム (ケアハウス)・養護老人ホーム	193	0.1
6	有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅	485	0.2
7	その他	11,417	4.9
	無回答	1,857	0.8
	全体	232,726	100.0

問2 (2) 将来どのような住宅 (施設) で暮らしたいですか (〇はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	現在の住宅に住み続けたい	169,839	73.0
2	近隣でなくてもいいので、特別養護老人ホームなど、要介護認定者向けの介護保険施設に入所したい	7,530	3.2
3	近隣の住み慣れた地域で、比較的小規模な特別養護老人ホームや認知症の人向けのグループホームなどに入所したい	8,201	3.5
4	軽費老人ホーム (ケアハウス) や養護老人ホームなど、低所得者向けの老人福祉施設に入所したい	20,996	9.0
5	高齢者に配慮された有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に住みたい	10,923	4.7
6	その他	7,410	3.2
	無回答	7,826	3.4
	全体	232,726	100.0

問2 (3) 高齢者向けの住宅などに住み替えたり、介護保険施設に入所することになったら、希望する場所はどこですか (〇はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	自宅の近く	114,821	49.3
2	だいたい小学校区の範囲	10,918	4.7
3	だいたい中学校区の範囲	7,953	3.4
4	各区内 (堺区、中区など)	23,524	10.1
5	市内	19,359	8.3
6	他の市町	5,292	2.3
7	場所は問わない	35,547	15.3
	無回答	15,313	6.6
	全体	232,726	100.0

### 3. からだを動かすことについて

問3 (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できるし、している	143,529	61.7
2	できるけどしていない	43,524	18.7
3	できない	41,776	18.0
	無回答	3,898	1.7
	全体	232,726	100.0

問3 (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できるし、している	173,479	74.5
2	できるけどしていない	27,224	11.7
3	できない	28,248	12.1
	無回答	3,775	1.6
	全体	232,726	100.0

問3 (3) 15分位続けて歩いていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できるし、している	183,234	78.7
2	できるけどしていない	28,645	12.3
3	できない	18,507	8.0
	無回答	2,340	1.0
	全体	232,726	100.0

問3 (4) 過去1年間に転んだ経験がありますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	何度もある	20,735	8.9
2	1度ある	51,308	22.0
3	ない	158,650	68.2
	無回答	2,034	0.9
	全体	232,726	100.0

問3 (5) 転倒に対する不安は大きいですか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	とても不安である	35,920	15.4
2	やや不安である	83,973	36.1
3	あまり不安でない	67,497	29.0
4	不安でない	43,275	18.6
	無回答	2,061	0.9
	全体	232,726	100.0

問3（6）週に1回以上は外出していますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	ほとんど外出しない	9,983	4.3
2	週1回	24,472	10.5
3	週2~4回	94,184	40.5
4	週5回以上	102,308	44.0
	無回答	1,779	0.8
	全体	232,726	100.0

問3（7）昨年と比べて外出の回数が減っていますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	とても減っている	9,453	4.1
2	減っている	52,691	22.6
3	あまり減っていない	74,602	32.1
4	減っていない	93,335	40.1
	無回答	2,645	1.1
	全体	232,726	100.0

#### 4. 食べることについて

問4（1）身長・体重（数字を記入）（BMI）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	低体重（やせ）（18.5未満）	18,869	8.1
2	普通体重（18.5以上25未満）	156,885	67.4
3	肥満（25以上）	49,186	21.1
	無回答	7,786	3.3
	全体	232,726	100.0

問4（2）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	77,326	33.2
2	いいえ	151,443	65.1
	無回答	3,957	1.7
	全体	232,726	100.0

問4（3）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	36,296	15.6
2	自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし	71,537	30.7
3	自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用	91,793	39.4
4	自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし	23,205	10.0
	無回答	9,895	4.3
	全体	232,726	100.0

問4（4）どなたかと食事をとる機会がありますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	毎日ある	127,066	54.6
2	週に何度かある	21,735	9.3
3	月に何度かある	37,944	16.3
4	年に何度かある	25,870	11.1
	ほとんどない	17,637	7.6
	無回答	2,475	1.1

問4（5）主食・主菜・副菜をそろえた食事を毎日していますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	ほぼ毎日3食そろえている	91,036	39.1
2	ほぼ毎日2食はそろえている	82,376	35.4
3	ほぼ毎日1食はそろえている	37,682	16.2
4	週の半分ぐらいはそろえている	11,454	4.9
5	ほとんどできていない	8,471	3.6
	無回答	1,707	0.7
	全体	232,726	100.0

問4（6）口や顔の体操に毎日取り組んでいますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	ほぼ毎日3回以上取り組んでいる	7,622	3.3
2	ほぼ毎日2回は取り組んでいる	10,227	4.4
3	ほぼ毎日1回は取り組んでいる	30,116	12.9
4	週の半分ぐらいは取り組んでいる	14,691	6.3
5	ほとんど取り組んでいない	162,808	70.0
	無回答	7,263	3.1
	全体	232,726	100.0

## 5. 毎日の生活について

問5（1）物忘れが多いと感じますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	102,846	44.2
2	いいえ	125,061	53.7
	無回答	4,820	2.1
	全体	232,726	100.0

問5（2）バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できるし、している	188,005	80.8
2	できるけどしていない	30,338	13.0
3	できない	12,779	5.5
	無回答	1,604	0.7
	全体	232,726	100.0

問5（3）自分で食品・日用品の買物をしていますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できるし、している	191,214	82.2
2	できるけどしていない	31,634	13.6
3	できない	7,620	3.3
	無回答	2,257	1.0
	全体	232,726	100.0

問5（4）自分で食事の用意をしていますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できるし、している	165,144	71.0
2	できるけどしていない	48,099	20.7
3	できない	17,627	7.6
	無回答	1,856	0.8
	全体	232,726	100.0

問5（5）自分で請求書の支払いをしていますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できるし、している	189,285	81.3
2	できるけどしていない	32,850	14.1
3	できない	7,815	3.4
	無回答	2,776	1.2
	全体	232,726	100.0

問5（6）自分で預貯金の出し入れをしていますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できるし、している	190,374	81.8
2	できるけどしていない	30,972	13.3
3	できない	9,835	4.2
	無回答	1,545	0.7
	全体	232,726	100.0

問5（7）年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	208,275	89.5
2	いいえ	22,203	9.5
	無回答	2,248	1.0
	全体	232,726	100.0

問5（8）ほかの人より物忘れが多いと思いますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	41,462	17.8
2	いいえ	178,869	76.9
	無回答	12,395	5.3
	全体	232,726	100.0



問5（9）日常生活に関する情報をどこから得ていますか（〇はいくつでも）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	インターネット・携帯電話	91,212	39.2
2	家族	115,901	49.8
3	雑誌	35,234	15.1
4	新聞（タウン紙を含む）	163,345	70.2
5	チラシ・折込・ダイレクトメール等	86,218	37.0
6	テレビ	209,632	90.1
7	友人・隣人	98,699	42.4
8	ラジオ	47,432	20.4
9	市の広報	95,852	41.2
10	その他の広報や回覧板	51,427	22.1
11	その他	2,009	0.9
12	特にない	1,365	0.6
	無回答	1,829	0.8
	全体	232,726	100.0

問5（10）将来、自動車などの運転免許を自主返納するつもりはありますか（〇はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	近いうちに自主返納するつもり	9,085	3.9
2	将来的には自主返納するつもり	80,811	34.7
3	自主返納するつもりはない	11,270	4.8
4	既に自主返納した	33,676	14.5
5	もともと運転免許を持っていない	80,286	34.5
6	わからない	6,882	3.0
	無回答	10,716	4.6
	全体	232,726	100.0

【問5（10）において「3. 自主返納するつもりはない」を回答した方のみ】

問5（11）自主返納しようとは思わない理由は何ですか（〇はいくつでも）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	公共交通機関（鉄道、バス）が使いにくい地域に住んでいるから	2,140	19.0
2	送迎などで協力を得ることができる家族や友人がいないから	2,271	20.1
3	車などを運転する楽しみが失われるから	5,517	48.9
4	事故を起こさない自信があるから	2,642	23.4
5	その他	3,412	30.3
	無回答	272	2.4
	全体	11,270	100.0

## 6. 地域での活動について

問6（1）以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか（老人クラブ・町内会・自治会の活動をのぞきます）（○はそれぞれひとつずつ）

### ① ボランティアのグループ

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	週4回以上	1,914	0.8
2	週2～3回	2,847	1.2
3	週1回	3,113	1.3
4	月1～3回	8,690	3.7
5	年に数回	8,547	3.7
6	参加していない	143,445	61.6
	無回答	64,170	27.6
	全体	232,726	100.0

### 問6（1）② スポーツ関係のグループやクラブ

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	週4回以上	10,697	4.6
2	週2～3回	17,869	7.7
3	週1回	9,924	4.3
4	月1～3回	8,569	3.7
5	年に数回	5,116	2.2
6	参加していない	123,093	52.9
	無回答	57,457	24.7
	全体	232,726	100.0

### 問6（1）③ 趣味関係のグループ

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	週4回以上	4,341	1.9
2	週2～3回	10,324	4.4
3	週1回	12,740	5.5
4	月1～3回	25,071	10.8
5	年に数回	10,004	4.3
6	参加していない	115,150	49.5
	無回答	55,095	23.7
	全体	232,726	100.0

### 問6（1）④ 学習・教養サークル

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	週4回以上	827	0.4
2	週2～3回	2,483	1.1
3	週1回	4,210	1.8
4	月1～3回	8,718	3.7
5	年に数回	6,011	2.6
6	参加していない	141,084	60.6
	無回答	69,394	29.8
	全体	232,726	100.0

問6(1)⑤ いきいきサロンや体操など介護予防のための通いの場

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	週4回以上	1,844	0.8
2	週2~3回	4,116	1.8
3	週1回	4,475	1.9
4	月1~3回	5,140	2.2
5	年に数回	3,863	1.7
6	参加していない	147,403	63.3
	無回答	65,886	28.3
	全体	232,726	100.0

問6(1)⑥ 老人クラブ

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	週4回以上	1,557	0.7
2	週2~3回	1,578	0.7
3	週1回	1,370	0.6
4	月1~3回	5,050	2.2
5	年に数回	8,883	3.8
6	参加していない	146,924	63.1
	無回答	67,364	28.9
	全体	232,726	100.0

問6(1)⑦ 町内会・自治会

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	週4回以上	1,023	0.4
2	週2~3回	1,166	0.5
3	週1回	2,159	0.9
4	月1~3回	11,550	5.0
5	年に数回	35,843	15.4
6	参加していない	115,770	49.7
	無回答	65,216	28.0
	全体	232,726	100.0

問6(1)⑧ 収入のある仕事

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	週4回以上	24,483	10.5
2	週2~3回	11,705	5.0
3	週1回	2,927	1.3
4	月1~3回	3,312	1.4
5	年に数回	2,534	1.1
6	参加していない	123,638	53.1
	無回答	64,127	27.6
	全体	232,726	100.0

問6 (2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか  
(○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	是非参加したい	15,105	6.5
2	参加してもよい	116,112	49.9
3	参加したくない	76,213	32.7
4	既に参加している	12,099	5.2
	無回答	13,196	5.7
	全体	232,726	100.0

問6 (3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか(○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	是非参加したい	4,999	2.1
2	参加してもよい	72,820	31.3
3	参加したくない	130,057	55.9
4	既に参加している	8,169	3.5
	無回答	16,682	7.2
	全体	232,726	100.0

## 7. たすけあいについて

問7 (1) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人(○はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	配偶者	127,380	54.7
2	同居の子ども	45,441	19.5
3	別居の子ども	89,698	38.5
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	71,667	30.8
5	近隣	30,854	13.3
6	友人	109,184	46.9
7	その他	5,616	2.4
8	そのような人はいない	9,679	4.2
	無回答	3,695	1.6
	全体	232,726	100.0

問7 (2) 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人(○はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	配偶者	121,767	52.3
2	同居の子ども	39,279	16.9
3	別居の子ども	80,234	34.5
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	74,682	32.1
5	近隣	36,670	15.8
6	友人	109,163	46.9
7	その他	4,395	1.9
8	そのような人はいない	13,345	5.7
	無回答	6,934	3.0
	全体	232,726	100.0

問7 (3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (〇はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	配偶者	137,776	59.2
2	同居の子ども	53,812	23.1
3	別居の子ども	81,402	35.0
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	30,448	13.1
5	近隣	6,147	2.6
6	友人	12,915	5.5
7	その他	4,341	1.9
8	そのような人はいない	16,002	6.9
	無回答	4,271	1.8
	全体	232,726	100.0

問7 (4) 反対に、看病や世話をしてあげる人 (〇はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	配偶者	143,359	61.6
2	同居の子ども	48,759	21.0
3	別居の子ども	65,883	28.3
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	53,123	22.8
5	近隣	10,421	4.5
6	友人	19,226	8.3
7	その他	3,895	1.7
8	そのような人はいない	24,800	10.7
	無回答	9,531	4.1
	全体	232,726	100.0

問7 (5) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか (〇はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	近所・同じ地域の人	112,122	48.2
2	幼なじみ	20,696	8.9
3	学生時代の友人	43,245	18.6
4	仕事での同僚・元同僚	74,844	32.2
5	趣味・関心が同じ友人	84,378	36.3
6	ボランティア等の活動での友人	18,498	7.9
7	その他	12,893	5.5
8	いない	23,418	10.1
	無回答	6,457	2.8
	全体	232,726	100.0

問7 (6) ふだん、近所の人とどの程度のつきあいをしていますか (〇はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	親しくつきあっている	43,323	18.6
2	あいさつ以外にも多少のつきあいがある (相手の名前や家族構成を知っていたり、物の貸し借りや趣味を共有しているなど)	69,743	30.0
3	あいさつをする程度	104,875	45.1
4	つきあいはほとんどない	11,601	5.0
5	わからない	748	0.3
	無回答	2,436	1.0
	全体	232,726	100.0

問7 (7) 孤立死（誰にも看取られることなく、亡くなった後に発見される死）について、身近に感じますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	とても感じる	32,259	13.9
2	まあ感じる	66,735	28.7
3	あまり感じない	75,710	32.5
4	まったく感じない	30,360	13.0
5	わからない	23,199	10.0
	無回答	4,462	1.9
	全体	232,726	100.0

問7 (8) 災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できる	171,162	73.5
2	普段から近所づきあいがあまりないため、できない	23,275	10.0
3	近所の人を全く知らないため、できない	4,502	1.9
4	その他	1,894	0.8
5	わからない	28,640	12.3
	無回答	3,254	1.4
	全体	232,726	100.0

問7 (9) 避難行動要支援者の一覧表を地域の支援者と行政とで情報共有し、災害発生時に助け合って避難を支援する、地域における助け合いの仕組みについて、知っていますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	知っている	69,449	29.8
2	知らない	147,157	63.2
	無回答	16,120	6.9
	全体	232,726	100.0

問7 (10) 災害発生時に、近くの避難行動要支援者の避難を支援することができますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	安否確認や声かけならできる	79,029	34.0
2	近所の人などと協力して避難所に行くまでの手助けができる	60,707	26.1
3	自分や家族の避難で精いっぱいのため、できない	46,219	19.9
4	近所づきあいがいないため、できない	10,356	4.4
5	その他	1,996	0.9
6	わからない	24,265	10.4
	無回答	10,153	4.4
	全体	232,726	100.0

## 8. 健康について

問8 (1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	とてもよい	21,809	9.4
2	まあよい	157,222	67.6
3	あまりよくない	42,680	18.3
4	よくない	7,288	3.1
	無回答	3,726	1.6
	全体	232,726	100.0

問8 (2) ふだんから介護予防のために、自分の健康の維持・増進を意識していますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	強く意識している	46,500	20.0
2	意識している	151,528	65.1
3	あまり意識していない	25,278	10.9
4	ほとんど意識していない	5,225	2.2
	無回答	4,194	1.8
	全体	232,726	100.0

問8 (3) あなたは、現在どの程度幸せですか (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	0点	779	0.3
2	1点	766	0.3
3	2点	1,924	0.8
4	3点	5,464	2.3
5	4点	7,523	3.2
6	5点	40,200	17.3
7	6点	21,710	9.3
8	7点	37,323	16.0
9	8点	53,837	23.1
10	9点	21,572	9.3
11	10点	34,188	14.7
	無回答	7,439	3.2
	全体	232,726	100.0

問8 (4) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	82,189	35.3
2	いいえ	144,860	62.2
	無回答	5,677	2.4
	全体	232,726	100.0

問8（5）この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	50,597	21.7
2	いいえ	174,966	75.2
	無回答	7,163	3.1
	全体	232,726	100.0

問8（6）（ここ2週間）毎日の生活に充実感がない（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	43,796	18.8
2	いいえ	179,095	77.0
	無回答	9,835	4.2
	全体	232,726	100.0

問8（7）（ここ2週間）これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	34,044	14.6
2	いいえ	189,559	81.5
	無回答	9,124	3.9
	全体	232,726	100.0

問8（8）（ここ2週間）以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	63,385	27.2
2	いいえ	162,586	69.9
	無回答	6,755	2.9
	全体	232,726	100.0

問8（9）（ここ2週間）自分が役に立つ人間だと思えない（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	47,675	20.5
2	いいえ	174,669	75.1
	無回答	10,381	4.5
	全体	232,726	100.0

問8（10）（ここ2週間）わけもなく疲れたような感じがする（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	60,639	26.1
2	いいえ	164,683	70.8
	無回答	7,403	3.2
	全体	232,726	100.0



問8（11）タバコは吸っていますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	ほぼ毎日吸っている	21,051	9.0
2	時々吸っている	3,559	1.5
3	吸っていたがやめた	70,169	30.2
4	もともと吸っていない	134,733	57.9
	無回答	3,214	1.4
	全体	232,726	100.0

問8（12）現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（○はいくつでも）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	ない	37,338	16.0
2	高血圧	97,554	41.9
3	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	7,728	3.3
4	心臓病	22,902	9.8
5	糖尿病	32,370	13.9
6	高脂血症（脂質異常）	29,830	12.8
7	呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	12,911	5.5
8	胃腸・肝臓・胆のうの病気	16,554	7.1
9	腎臓・前立腺の病気	19,350	8.3
10	筋骨格の病気（骨粗しょう症・関節症等）	31,996	13.7
11	外傷（転倒・骨折等）	9,160	3.9
12	がん（悪性新生物）	11,469	4.9
13	血液・免疫の病気	2,755	1.2
14	うつ病	2,603	1.1
15	認知症（アルツハイマー病等）	1,071	0.5
16	パーキンソン病	873	0.4
17	目の病気	44,263	19.0
18	耳の病気	16,972	7.3
19	その他	25,110	10.8
	無回答	9,681	4.2
	全体	232,726	100.0

9. 認知症にかかる相談窓口の把握について

問9（1）認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか（○はひとつ）

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	18,890	8.1
2	いいえ	203,212	87.3
	無回答	10,624	4.6
	全体	232,726	100.0

問9 (2) あなた、もしくはあなたの家族が認知症になったとしたら、不安に思うことはありますか (○はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	どの医者(診療科)を受診すればいいかわからない	83,298	35.8
2	どのような介護サービスを受けられるのかわからない	101,161	43.5
3	どこへ相談すればいいのかわからない	81,486	35.0
4	介護の仕方がわからない	64,026	27.5
5	身近に介護できる人がいない	35,069	15.1
6	火の不始末や徘徊(はいかい)などの行動が心配	104,456	44.9
7	自由な時間がもてなくなる、外出できなくなる	76,856	33.0
8	精神的に疲れる	106,325	45.7
9	家庭内(家族関係)がうまくいなくなる	36,926	15.9
10	治療や介護にお金がかかる	89,777	38.6
11	その他	4,139	1.8
12	わからない	17,345	7.5
13	不安はない	10,544	4.5
	無回答	12,489	5.4
	全体	232,726	100.0

問9 (3) 認知症に関する相談窓口を知っていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	52,670	22.6
2	いいえ	171,323	73.6
	無回答	8,733	3.8
	全体	232,726	100.0

## 10. 仕事について

問10 (1) これから働き始めようとする(または引き続き働き続ける)場合に、あなたが仕事に一番求めるものは何ですか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	収入を得ること	38,296	16.5
2	社会・人の役に立つこと	8,984	3.9
3	生きがい	18,080	7.8
4	健康の維持	32,351	13.9
5	その他	6,805	2.9
6	働くつもりはない	100,722	43.3
	無回答	27,489	11.8
	全体	232,726	100.0

## 11. 介護について

問 11 (1) 介護が必要になった場合、どのような介護を受けたいと思いますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	なるべく家族のみで、自宅で介護を受けたい	39,100	16.8
2	介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護を受けたい	85,792	36.9
3	介護保険サービスの付いた高齢者向けの住宅などで介護を受けたい	24,464	10.5
4	特別養護老人ホームや介護老人保健施設などで介護を受けたい	20,186	8.7
5	比較的小規模な特別養護老人ホームや認知症の人向けのグループホームなどで介護を受けたい	10,769	4.6
6	その他	2,046	0.9
7	わからない	39,493	17.0
	無回答	10,876	4.7
	全体	232,726	100.0

問 11 (2) 家族に介護が必要になったとしたら、どのように介護したいと思いますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	なるべく家族のみで、自宅で介護したい	29,559	12.7
2	介護保険サービス（ホームヘルパーやデイサービスなど）や保健福祉サービス（緊急通報サービスなど）を使いながら自宅で介護したい	85,671	36.8
3	介護保険サービスの付いた高齢者向けの住宅などに入居させたい	18,073	7.8
4	特別養護老人ホームや介護老人保健施設などに入所させたい	18,771	8.1
5	比較的小規模な特別養護老人ホームや認知症の人向けのグループホームなどに入所させたい	9,186	3.9
6	その他	3,230	1.4
7	わからない	30,744	13.2
8	家族はいない	16,699	7.2
	無回答	20,792	8.9
	全体	232,726	100.0

問 11 (3) 人生の最期をどこで迎えたいと思いますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	自宅	100,615	43.2
2	病院	43,024	18.5
3	介護施設	8,625	3.7
4	その他	2,932	1.3
5	わからない	57,123	24.5
	無回答	20,407	8.8
	全体	232,726	100.0

問 11 (4) 人生の最終段階における医療・療養について、あなた自身の希望を、家族等や医療介護関係者と話し合っていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	詳しく話し合っている	4,485	1.9
2	一応話し合っている	43,393	18.6
3	話し合ったことはある	54,267	23.3
4	話し合ったことはない	118,314	50.8
	無回答	12,266	5.3
	全体	232,726	100.0

問 11 (5) 現行の介護保険制度は、サービスを利用する人が増えたり、一人ひとりの利用するサービスの量が増えることによって介護保険料が上昇する仕組みとなっています。堺市の今後の介護保険料について、あなたのお考えに近いのは次のどれですか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	高齢化が進み、介護保険サービスを利用する人や利用量は増えていくだろうから、介護保険料が上昇するのは仕方がない	20,188	8.7
2	介護予防対策に力を入れ、介護保険サービスを必要とする人の増加を抑制することが重要であるが、それでも利用量等が増え、介護保険料が上昇するのならば仕方がない	81,944	35.2
3	現状以上に介護保険料が上昇するのは避けるべきであり、そのためには介護保険サービスが必要な人であっても、ある程度介護保険サービスの利用が制限されても仕方がない	47,812	20.5
4	わからない	59,168	25.4
	無回答	23,614	10.1
	全体	232,726	100.0

問 11 (6) 家族を介護する人の介護疲れやストレスのケアをするためには、何が必要だと思いますか (○は3つまで)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	周りの人の理解や協力	124,622	53.5
2	介護生活に必要な情報の提供	76,565	32.9
3	介護者同士が気兼ねなく話し合いや相談をする場	61,277	26.3
4	介護者が息抜きできるイベント	25,518	11.0
5	ボランティアによる手助け	33,027	14.2
6	専門職員による相談窓口	64,341	27.6
7	介護に必要な技術を習得する機会	21,353	9.2
8	ショートステイなどの介護保険サービスの活用	117,960	50.7
9	その他	5,890	2.5
	無回答	22,701	9.8
	全体	232,726	100.0

## 12. 住み慣れた地域で暮らし続けることについて

問 12 (1) 高齢者ができる限り自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、どのようなことが必要だと思いますか (〇はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	気軽に相談できるかかりつけ医を持つこと	153,153	65.8
2	入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること	116,057	49.9
3	介護予防のための教室 (筋トレーニング・転倒予防・認知症予防)	56,023	24.1
4	24時間対応してもらえる訪問介護サービス	87,909	37.8
5	普段介護している人が介護できない時などに利用できる介護サービス	113,170	48.6
6	日頃から健康づくりや生活習慣病予防に取り組むこと	95,600	41.1
7	何でも相談できる高齢者の相談窓口	96,064	41.3
8	地域の人々の見守りや助け合い	45,311	19.5
9	生きがいづくりや地域貢献のための社会参加の機会	25,975	11.2
10	ボランティアやNPOなどによるさまざまな生活の支援	25,634	11.0
11	体の状態に合わせた住宅への改修	54,697	23.5
12	高齢者に配慮された多様な住まいや施設	49,802	21.4
13	自分の将来について、家族などと話し合っておくこと	85,108	36.6
14	その他	3,309	1.4
	無回答	9,496	4.1
	全体	232,726	100.0

問 12(2) 地域包括支援センターは、高齢者の方々が住みなれた地域で安心して暮らしていけるよう、介護・福祉・健康などさまざまな面から総合的に相談や支援を行う機関です。地域包括支援センターの役割を知っていますか (〇はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	知っている	52,095	22.4
2	名前は聞いたことがあるが、役割までは知らない	84,729	36.4
3	地域包括支援センターの存在を知らない	79,414	34.1
	無回答	16,489	7.1
	全体	232,726	100.0

堺 市  
高齡者等実態調査報告書

令和2年3月発行 堺市 健康福祉局 長寿社会部  
長寿支援課

〒590-0078

堺市堺区南瓦町3番1号

電 話 : 072-228-8347

F A X : 072-228-8918

堺市行政資料番号 1-F4-20-0075